楽しく描くデジタルイラスト

CLIP STUDIO PAINT PROからはじめよう!

24 著



イラストを思い通りに描くテクニックがギュッとつまっています!

CLIP STUDIO PAINT PROで楽しく描こう!

SAMPLE DOWNLOAD
サンプルダウンロード
[Windows＆Mac対応]

技術評論社

CLIP STUDIO PAINT PRO

CLIP STUDIO PAINT PRO からはじめよう!

contents







Chapter 4 77

CLIP STUDIO PAINT PRO の便利な機能を活用しよう



Chapter 5 99

さまざまなタッチで描いてみよう



Chapter 6 165

iPad でイラストを描こう



本書の使い方

本書では無料のアプリケーションソフトCLIP STUDIO PAINT PRO（Windows、macOS 版）とサンプルファイルを使いながら、操作方法を解説しています。
あらかじめCLIP STUDIO PAINT PROをインストール、サンプルファイルをパソコンにコピーしてからご利用ください。

◉CLIP STUDIO PAINT PROのインストール ➡ p.8参照
◉サンプルファイルのコピーの仕方 ➡ 次ページ参照

本書の画面はWindows 10で作成していますが、Windows 7、8.1、macOS（※）でもほぼ同じようにお使いいただくことができます。
使用ファイルについては誌面に明記していますので、ご確認の上、ご利用をお願いいたします。
（※）ファイルの保存操作の画面が多少異なります。あらかじめご了承ください。



Before 4-01.clip

【Before】
作成前のファイルです。
下絵ファイルの場合もあります。

After 4-01a.clip

【After】
作成後のファイルです。
お手本として参考にしましょう。

サンプルファイルのダウンロード

●サンプルファイルについて

解説で使用しているファイルを本書サポートサイトからダウンロードすることができます。お使いのパソコンにダウンロードし、圧縮フォルダを展開してから使用してください。なお、ダウンロードには以下に記載しているIDとパスワードを入力する必要があります。

https://gihyo.jp/book/2019/978-4-297-10448-1/support

※各章ごとのフォルダには、各節で使用しているサンプルファイルが入っています。各節の最後の状態のファイルには「a(After)」の文字がファイル名の末尾についています。その他、下絵などの画像ファイルなどが含まれている場合があります。

●サンプルファイルをダウンロードする

お使いのコンピューターを使用して、サンプルファイルをダウンロードしてください。以下は、Windows(Microsoft Edge)でのダウンロード手順です。



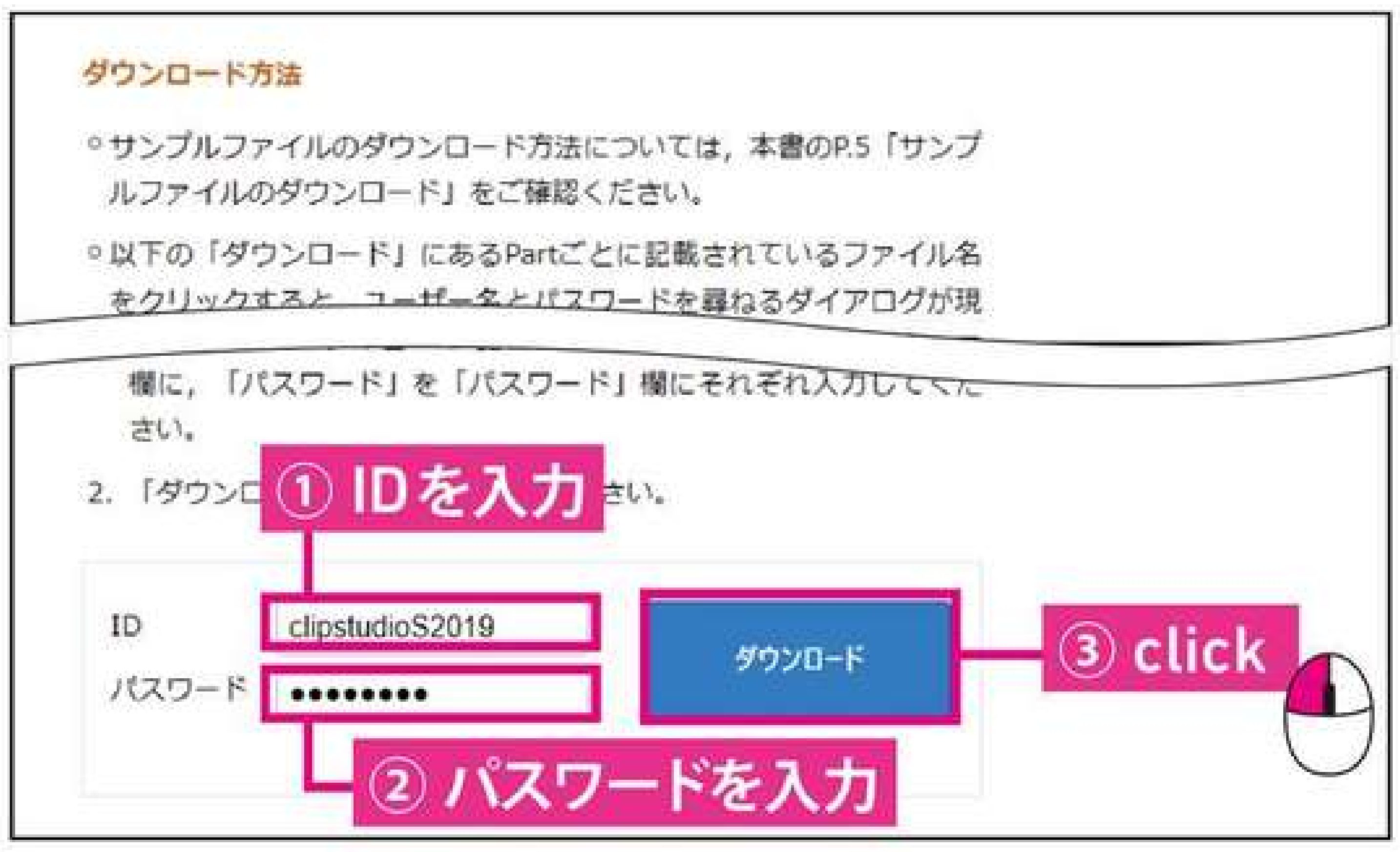
1

Webブラウザを起動し、上記のサポートサイトのURL(https://gihyo.jp/book/2019/978-4-297-10448-1/support)を入力します。



2

本書サポートページが表示されるので、[ダウンロード]をクリックします。



3

ダウンロードに関する部分が表示されるので、下にスクロールします。[ID]に「clipstudioS2019」と入力し、[パスワード]に「CLhajime」と入力して[ダウンロード]をクリックします。



4

図のようなメッセージがブラウザの下部に表示されるので、[保存]をクリックします。ダウンロードがはじまります。サンプルファイルのダウンロードが完了すると、図のようなメッセージが表示されます。[フォルダーを開く]をクリックします。圧縮フォルダが表示されるので、解凍してからお使いください。

※macOSでは、[ダウンロード]フォルダにダウンロードされます。

CLIP STUDIO PAINT PROの動作環境

◉CLIP STUDIO PAINT PROの動作に必要なシステム構成

※2019年2月25日現在の最新バージョン　Ver 1.8.5（2018年12月13日公開）

	Windows	macOS
OS	Windows 7 Service Pack 1以上 Windows 8.1／Windows 10	macOS（10.10〜14）
コンピュータ本体 CPU	SSE2に対応したIntel、AMD製CPU／OpenGL 2.1に対応したGPU ※2GB以上のメモリ必須　8GB以上推奨	Intel製CPU／OpenGL 2.1に対応したGPU ※2GB以上のメモリ必須　8GB以上推奨
ストレージ 空き領域	3GB以上の空き容量のあるストレージ	3GB以上の空き容量のあるストレージ
タブレット	Windows Ink Platformに対応したコンピュータ／筆圧検知機能を有するスタイラスに対応したタブレットおよび液晶タブレット(Wintab互換) ※Wintab互換タブレットはWACOM製推奨	筆圧検知機能を有するスタイラスに対応したタブレットおよび液晶タブレット ※WACOM製推奨
入力対応 フォーマット	BMP、JPEG、TGA、PNG、TIFF、PSD、PSB、IPV（ibisPaint 作品ファイル）	BMP、JPEG、TGA、PNG、TIFF、PSD、PSB、IPV（ibisPaint 作品ファイル）
出力対応 フォーマット	BMP、JPEG、TGA、PNG、TIFF、PSD、PSB	BMP、JPEG、TGA、PNG、TIFF、PSD、PSB

※ソフトウェアの一部の機能や、オンラインによるライセンス認証用にインターネット接続が必要です。

ご購入前に必ずお読みください

本書に記載された内容は、情報の提供のみを目的としています。本書を用いた運用は、必ずお客様ご自身の責任と判断によって行ってください。これらの情報の運用の結果について、技術評論社および著者はいかなる責任も負いません。

本書記載の情報は、2019年2月25日現在のものを掲載していますので、ご利用時には変更されている場合もあります。また、各ソフトウェアはバージョンアップされる場合があり、本書での説明とは機能内容や画面図などが異なることもあります。本書ご購入前に、必ずバージョン番号をご確認ください。

サンプルファイルのダウンロード方法についてはp.5、CLIP STUDIO PAINT PROのインストール方法はP.8をお読みになった上で、ご利用ください。

◉ 素材の著作権

素材の著作権は、以下の著作権者に帰属します。これらのデータは本書の購入者に限り、個人利用の範囲で使用できますが、再転載や二次使用は禁止いたします。

・サンプル …… 24

Chapter 1

CLIP STUDIO PAINT PROを はじめる準備をしよう

Chapter1では、CLIP STUDIO PAINT PROでイラストを描く前に
準備することについて解説します。
ソフトのインストールや起動と終了、ファイルの保存方法などの
基本から、画面の見方やあらかじめ知っておくと便利な操作も
覚えておきましょう。



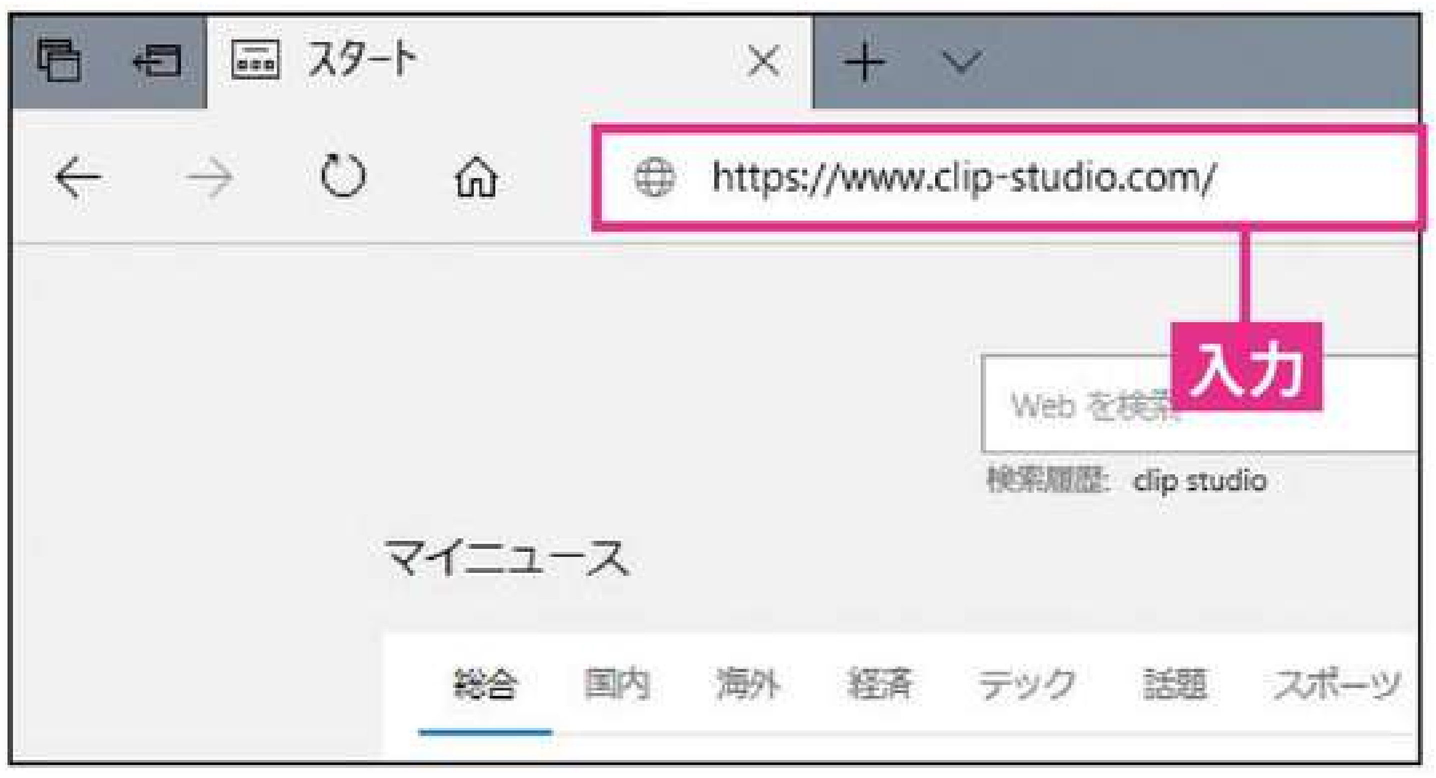
Chapter 1 - 01

CLIP STUDIO PAINT PROをインストールしよう

CLIP STUDIO PAINT PROをはじめるには、お使いのPCにソフトをインストールする必要があります。ここでは30日間無料で試せる体験版のダウンロードとインストール方法を解説します(インターネット接続が必要です)。

Before no file　After no file

Step 01 ダウンロードしてインストール：Windows



1

Webブラウザ(ここではMicrosoft Edge)を起動して「https://www.clip-studio.com/」と入力します。



2

CLIP STUDIOのWebページが表示されます。図のように[無料体験版]をクリックします。



3

さらに図のような画面が開くので、[無料体験版のダウンロードWindows]をクリックします。



4

さらに図のような画面が開き、下部にメッセージが表示されるので、[保存]をクリックします。ダウンロードが開始されます。

※保存先を変更しない限り、「ダウンロード」フォルダに保存されます。



5

ダウンロードが終わったら、[実行]をクリックします。



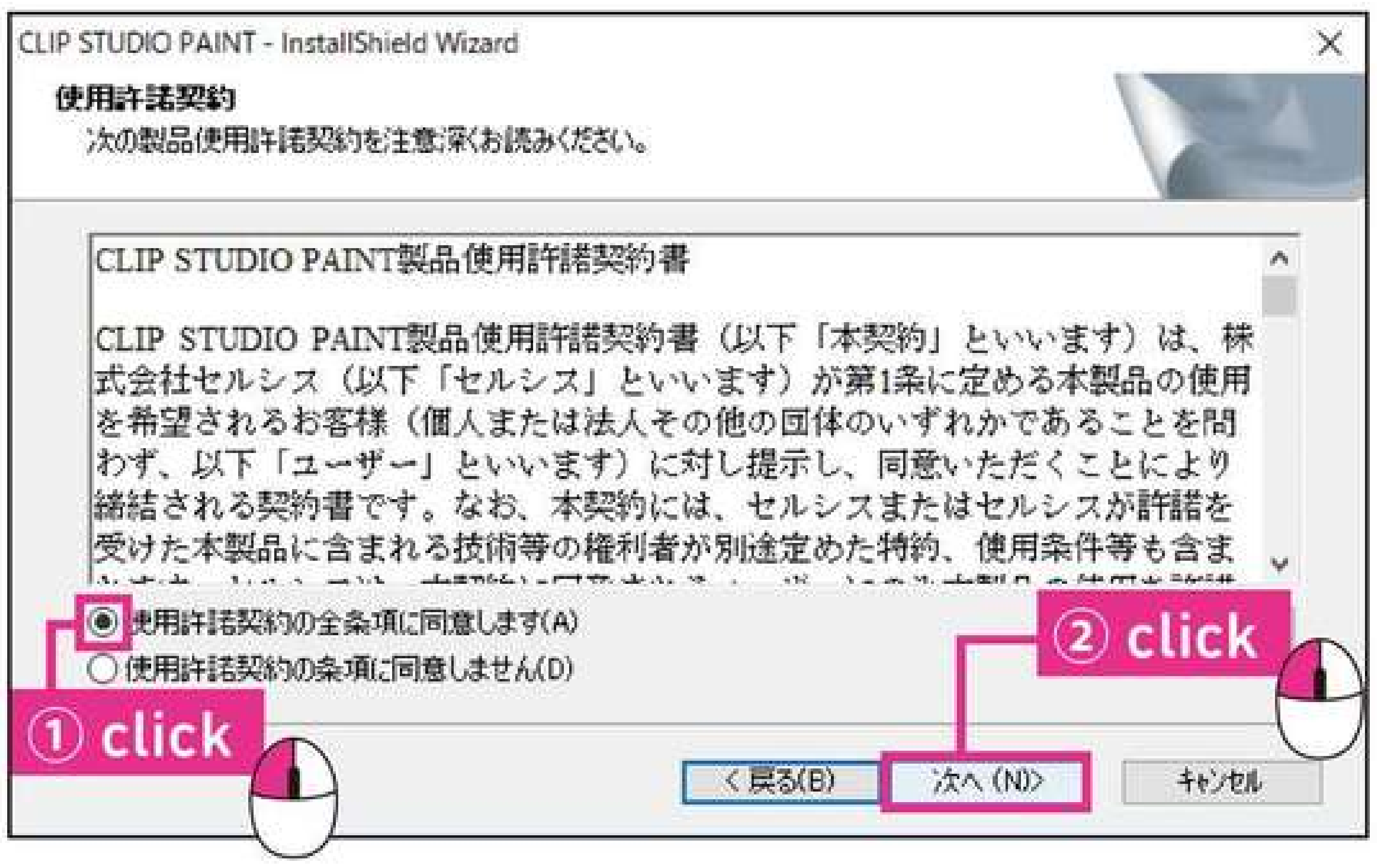
6

図のような画面が表示されたら、[はい]をクリックします。



7

インストールウィザードが表示されます。[次へ]をクリックします。



8

使用許諾契約の画面が表示されます。文章を読み、問題がなければ「使用許諾契約の全条項に同意します」にチェックをし、[次へ]をクリックします。



9

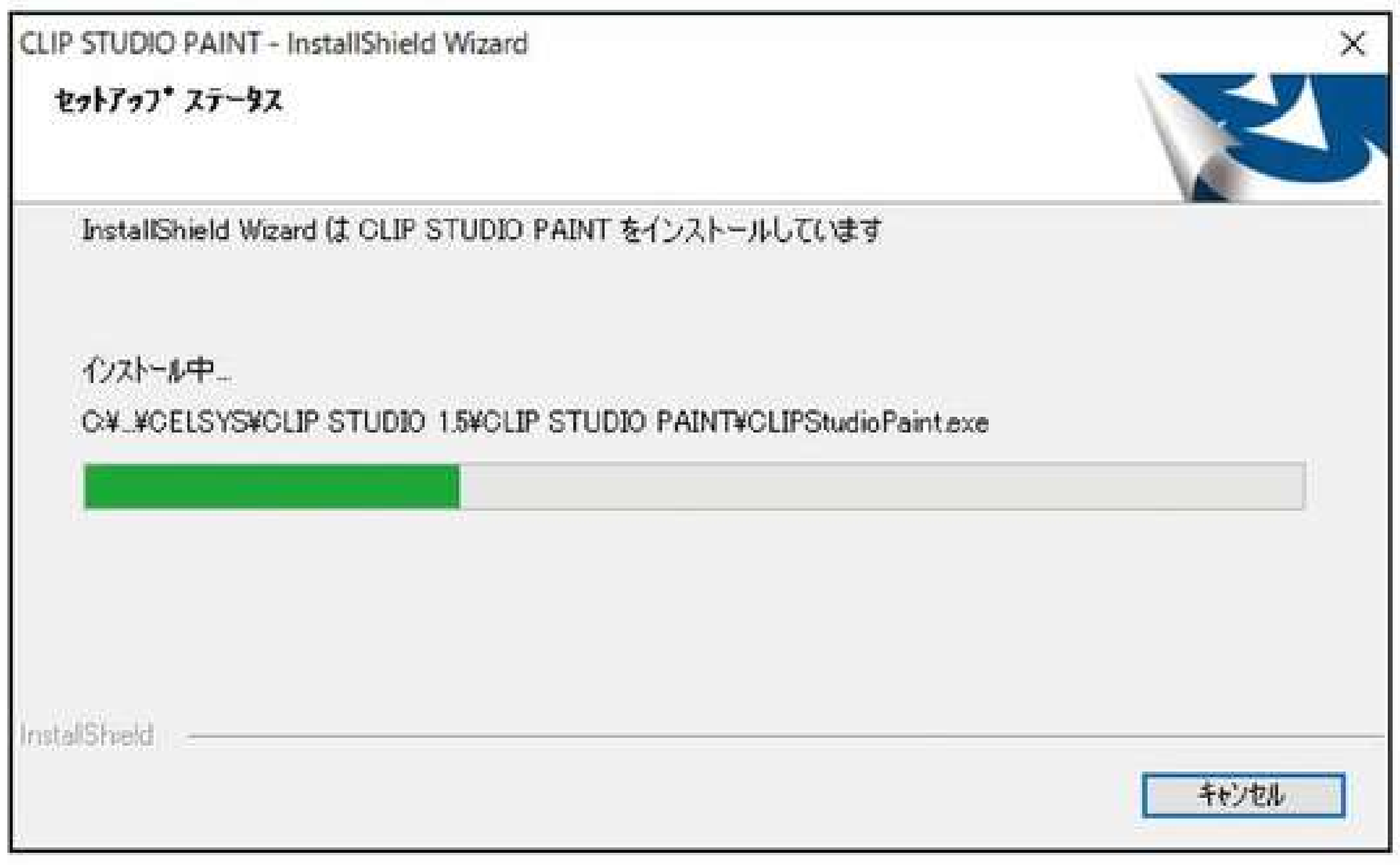
インストール先を選択する画面が表示されます。変更しないで[次へ]をクリックします。



10

言語を選択する画面が表示されるので、「日本語」になっていることを確認し、[次へ]をクリックします。





11

インストールの設定ができたので、[インストール]をクリックします。

12

インストールがはじまります。
インストールが終わるまで、しばらく待ちます。





13

インストールが終わると、図のような画面が表示されます。[完了]をクリックします。

14

デスクトップにショートカットが作成されます。

Step 02 ダウンロードしてインストール：macOS





1

Webブラウザ(ここではSafari)を起動して「https://www.clip-studio.com/」と入力します。

2

CLIP STUDIOのWebページが表示されます。図のように[無料体験版]をクリックします。



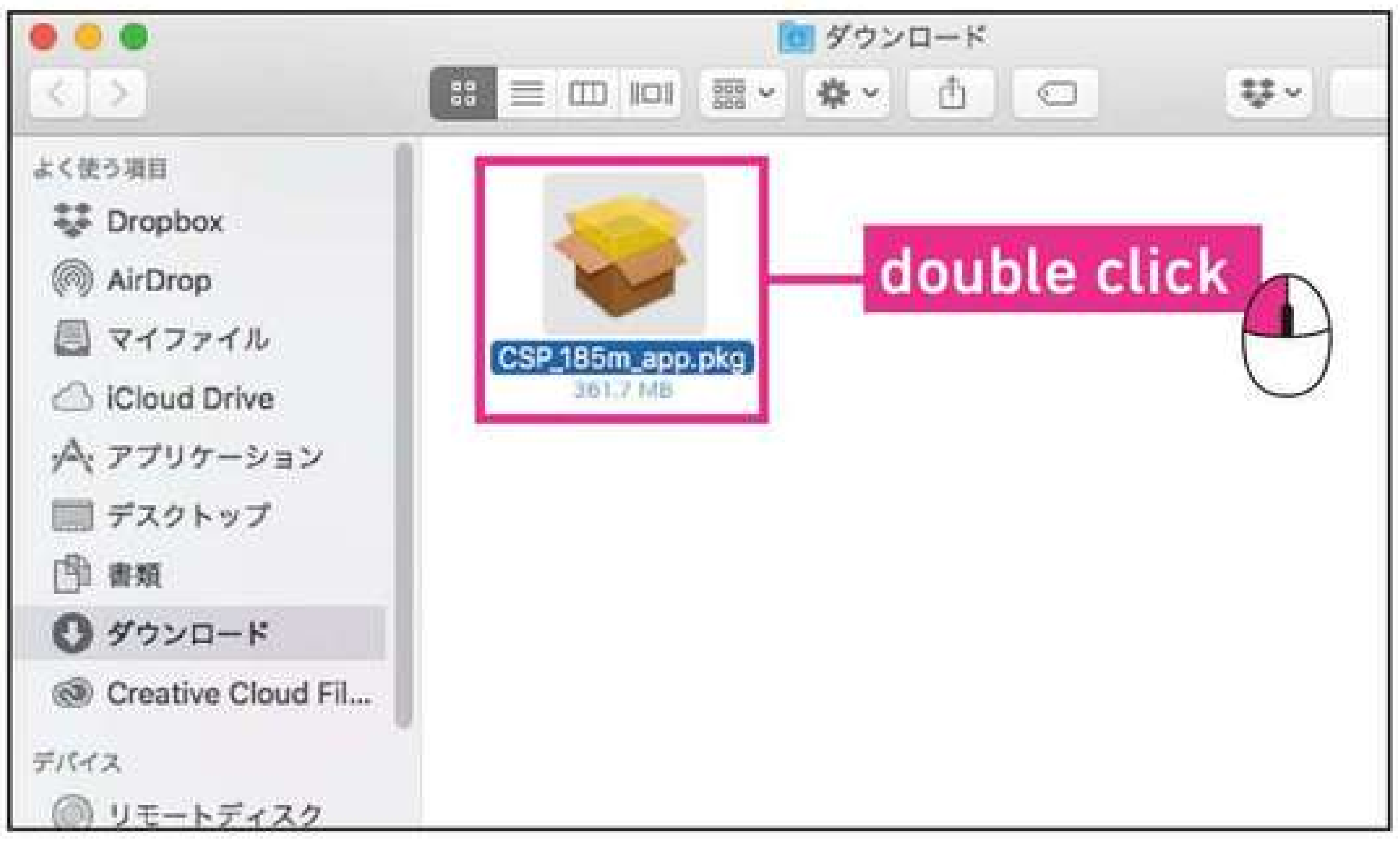
3

さらに図のような画面が開くので、[無料体験版のダウンロード macOS]をクリックします。



4

図のような画面が表示され、ダウンロードが開始されます。「ダウンロード」フォルダにダウンロードされます。



5

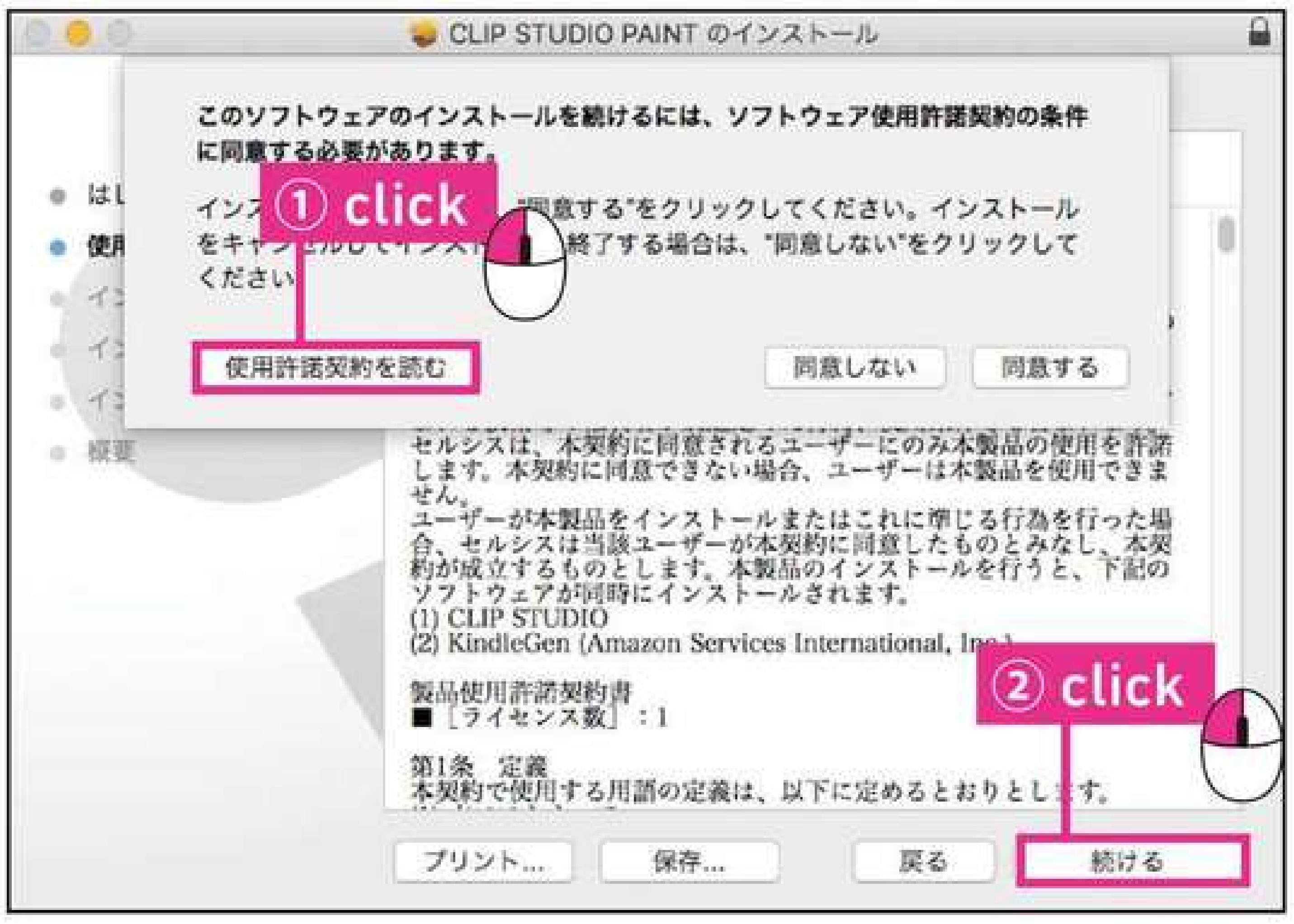
ダウンロードしたファイルをダブルクリックします。

※「ダウンロード」フォルダが表示されない場合は、[移動]メニュー→[ダウンロード]の順にクリックすると表示されます。



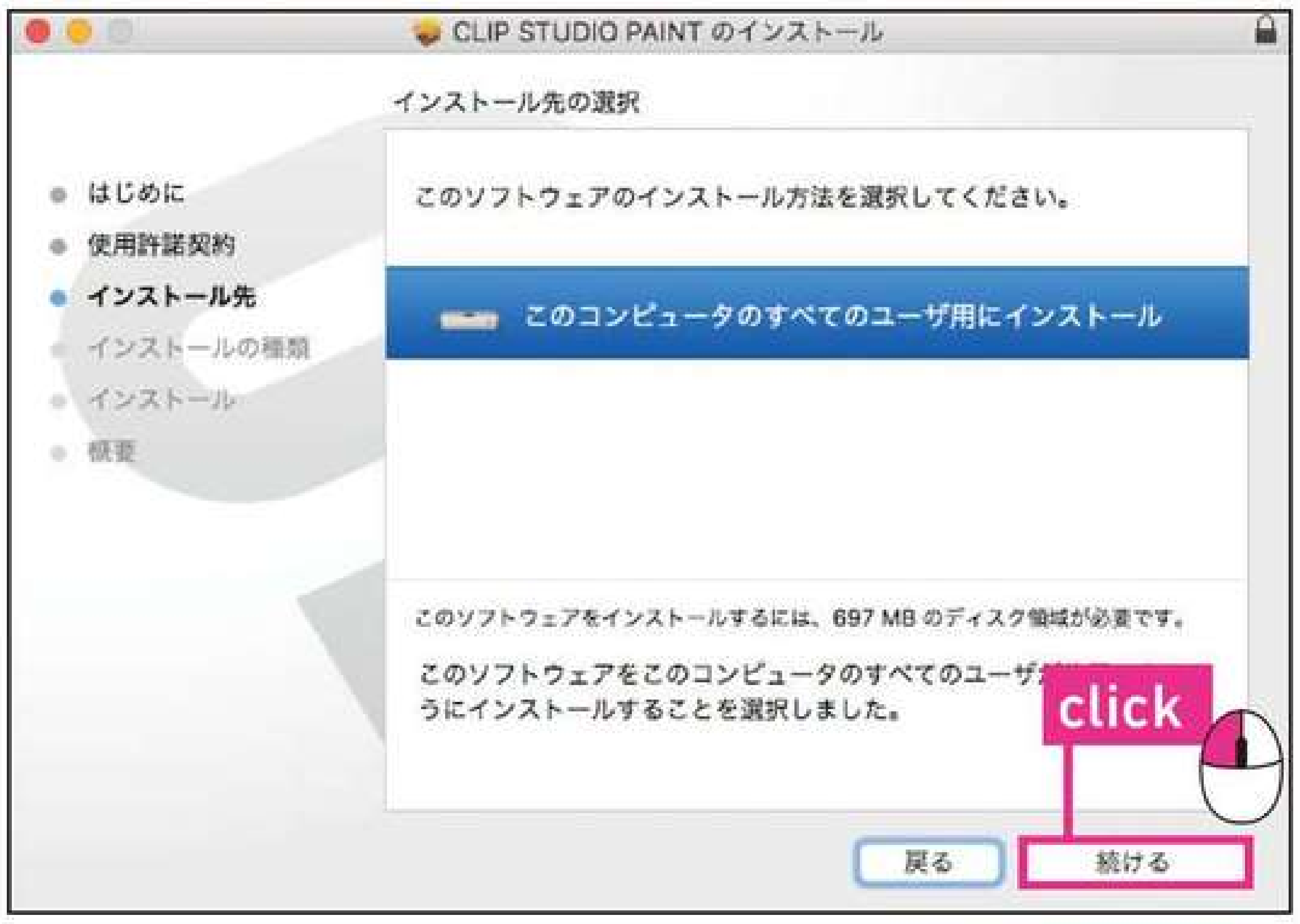
6

インストーラーが起動します。[続ける]をクリックします。



7

使用許諾契約の画面が表示されます。[使用許諾契約を読む]で文章を読み、問題がなければ[同意する]をクリックし、[続ける]をクリックします。



8

ユーザーを指定する画面が表示されます。変更しないで[続ける]をクリックします。

Chapter 1

CLIP STUDIO PAINT PRO をはじめる準備をしよう



9

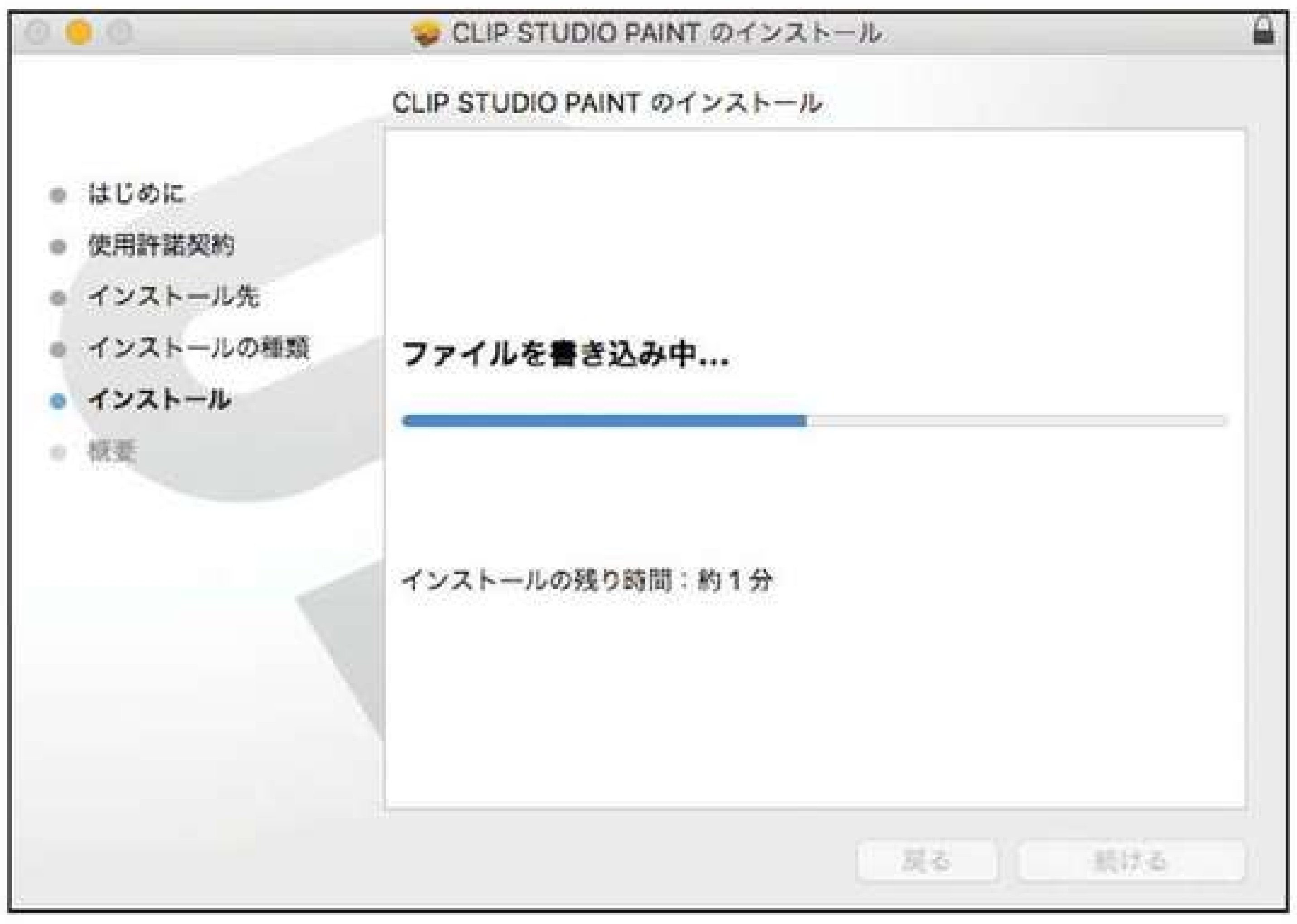
インストールの設定ができたので、[インストール]をクリックします。

Hint

ダイアログが表示された場合

[インストール]をクリックしたときに下図のようなダイアログが表示されることがあります。表示された場合は、お使いのPCのユーザ名とパスワードを入力してから[ソフトウェアをインストール]をクリックしましょう。





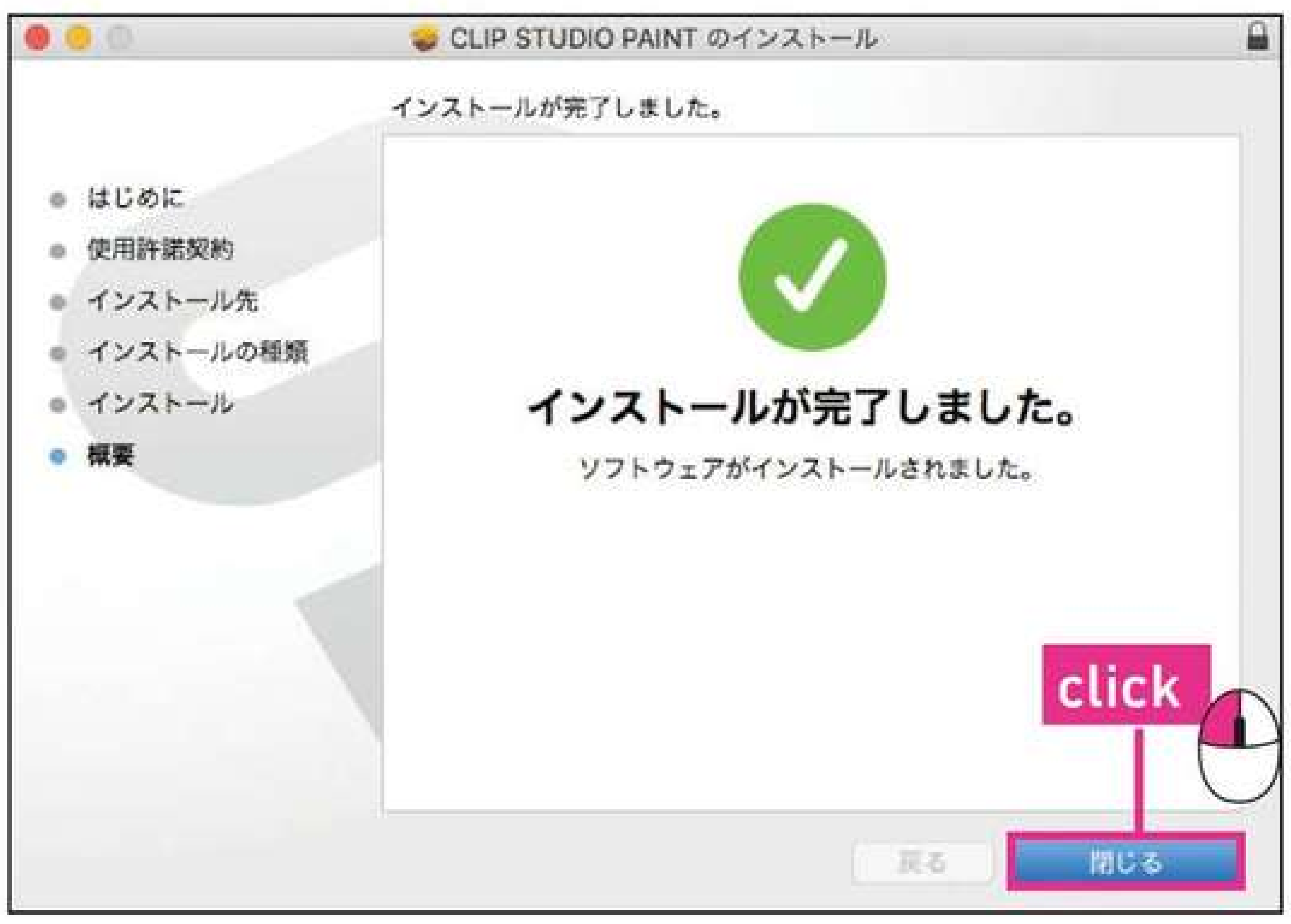
10

インストールがはじまります。



11

言語を選択する画面が表示されるので、[日本語]になっていることを確認し、[OK]をクリックします。



12

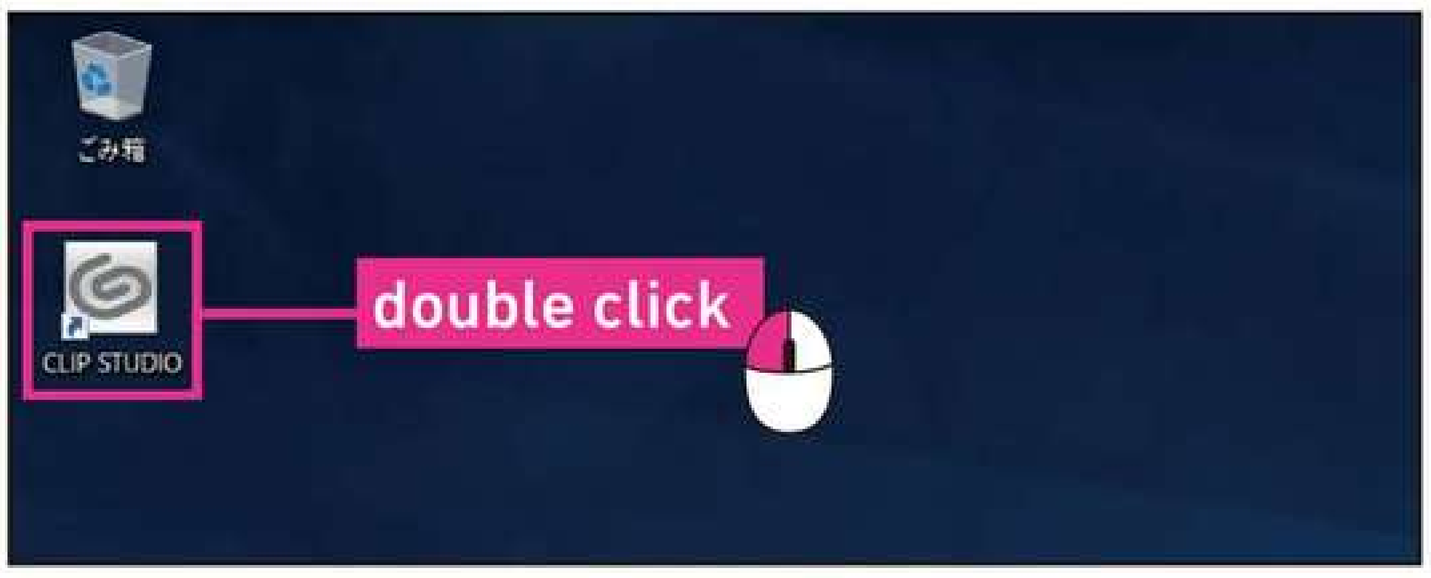
インストールが終わると、図のような画面が表示されます。[閉じる]をクリックします。



13

「アプリケーション」フォルダにアイコンが追加されます。

Step 03 アカウント登録をして起動する



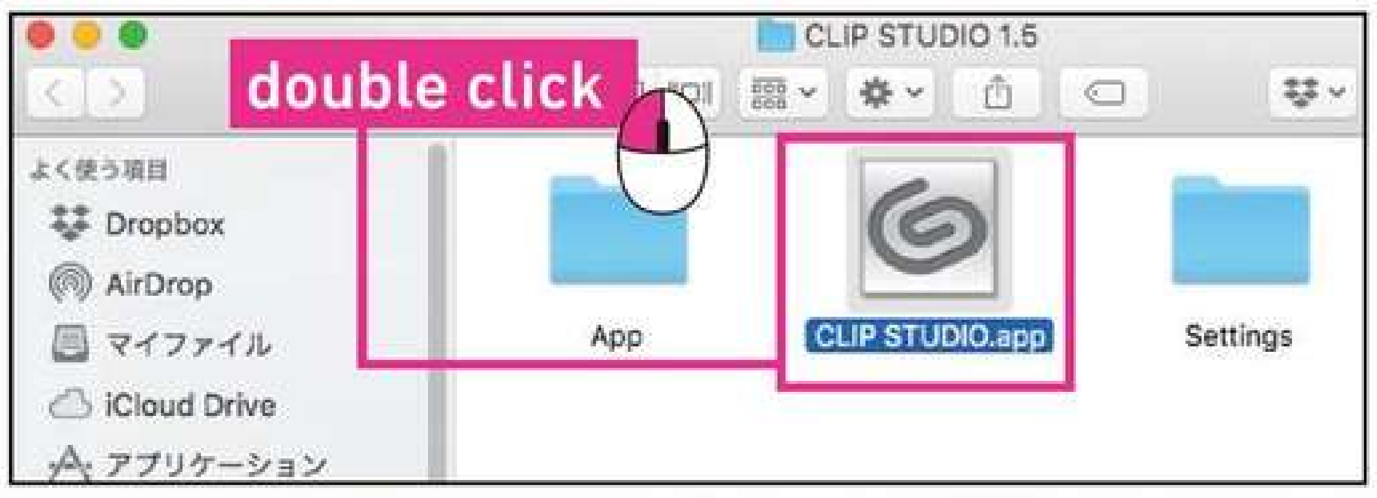
1

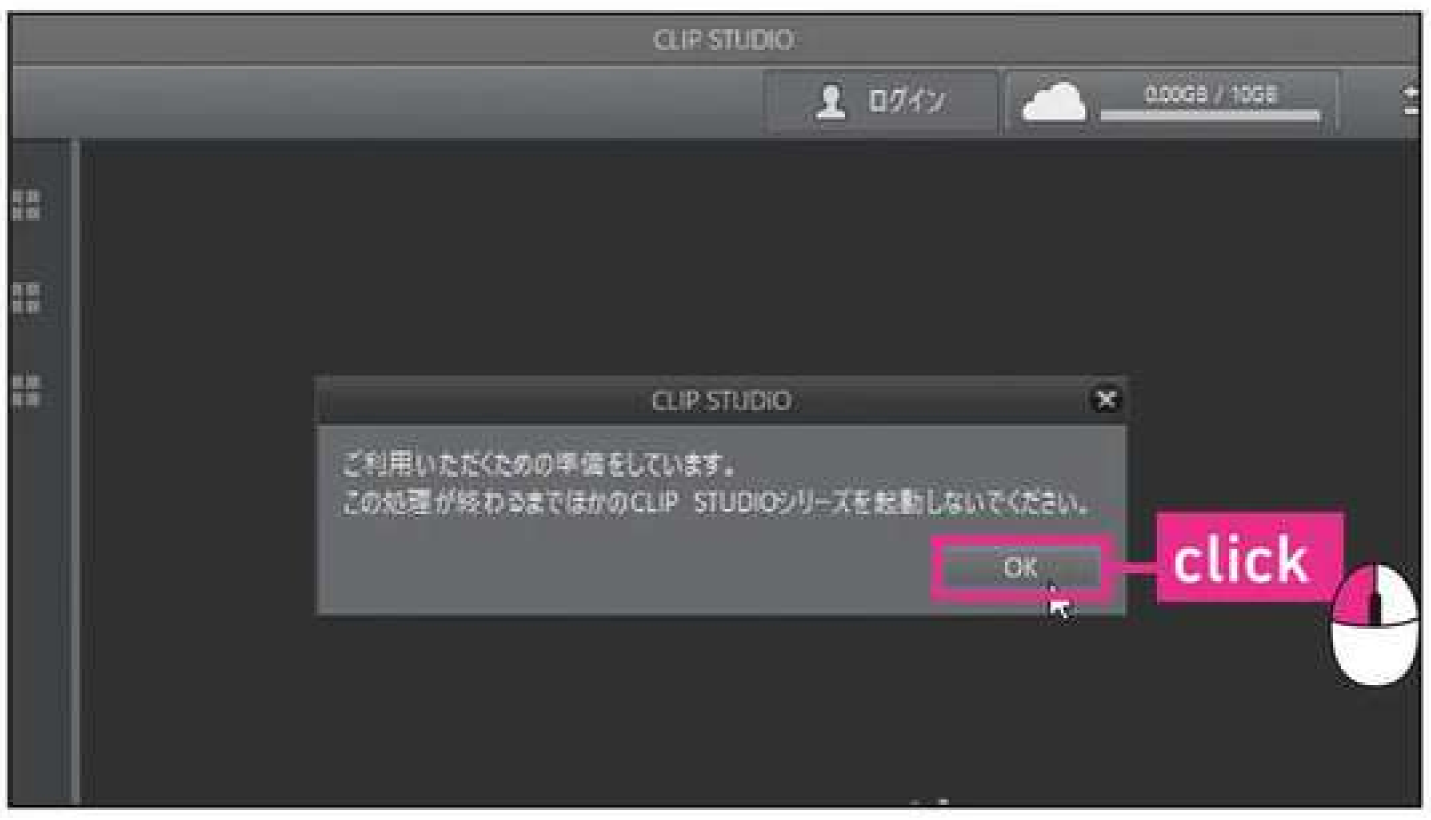
CLIP STUDIO PAINT PROを起動します。デスクトップの[CLIP STUDIO]ショートカットアイコンをダブルクリックします。
※ショートカットがデスクトップにない場合は、左下のタスクバーの[スタート]ボタンをクリックし、右側の一覧から「CLIP STUDIO」フォルダ→「CLIP STUDIO」アイコンの順にクリックします。

Hint

macOS で起動する

macOSは「アプリケーション」フォルダの「CLIP STUDIO」フォルダ→「CLIP STUDIO」アイコンの順にダブルクリックします。
※「アプリケーション」フォルダは、「移動」メニュー→「アプリケーション」の順にクリックすると表示できます。





2

CLIP STUDIOが起動します。図のようなダイアログが表示されたら、[OK]をクリックします。



3

追加素材のダウンロードのダイアログが表示されます。ここでは、[いいえ]をクリックします。
※お使いのPCのハードディスクに余裕がある場合は、[はい]をクリックすることで、追加素材をダウンロードして使用することができます。



4

図のような画面が表示されます。左側の一覧から[PAINT]をクリックします。



5

ライセンス照合のダイアログが表示されます。ここでは[体験版を使う(制限なし)]を使用するため、アカウント登録を先に行います。図のようにリンク部分をクリックします。





6

Webブラウザが起動しCLIP STUDIOのWebページが表示されます。右側の[アカウント登録]をクリックします。

7

画面にしたがってメールアドレスを入力し、[次へ]をクリックします。入力したメールアドレスにメールを送信した内容の画面が表示されます。





8

お使いのメールソフトで届いたメールを表示します。リンク部分をクリックします。

9

Webブラウザで図のような画面が表示されます。画面の内容にしたがって入力し(パスワードは忘れないように控えておきます)、「利用規約に同意する」にチェックを入れ、[登録]をクリックします。



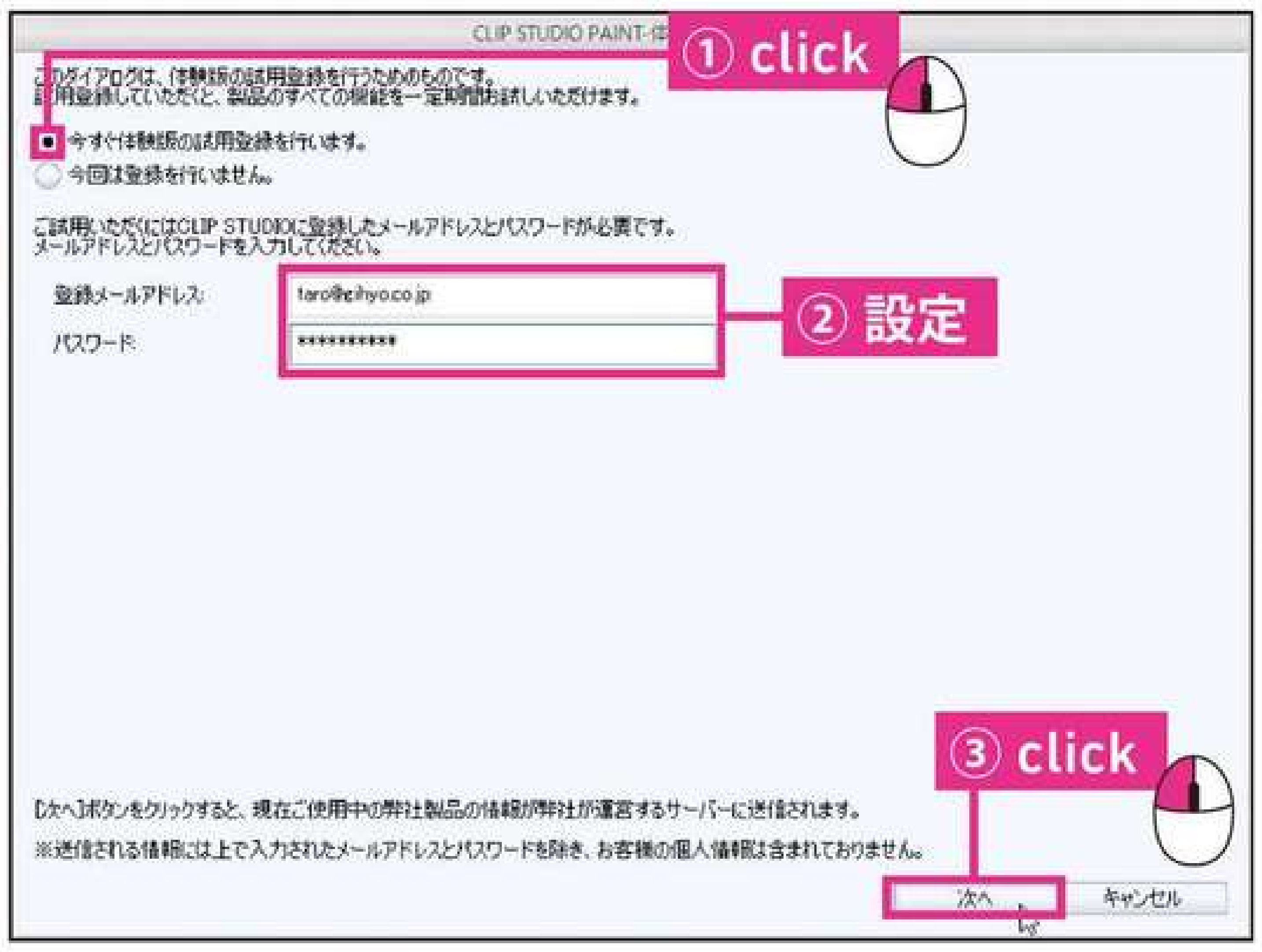


10

図のような画面が表示されたら完了です。

11

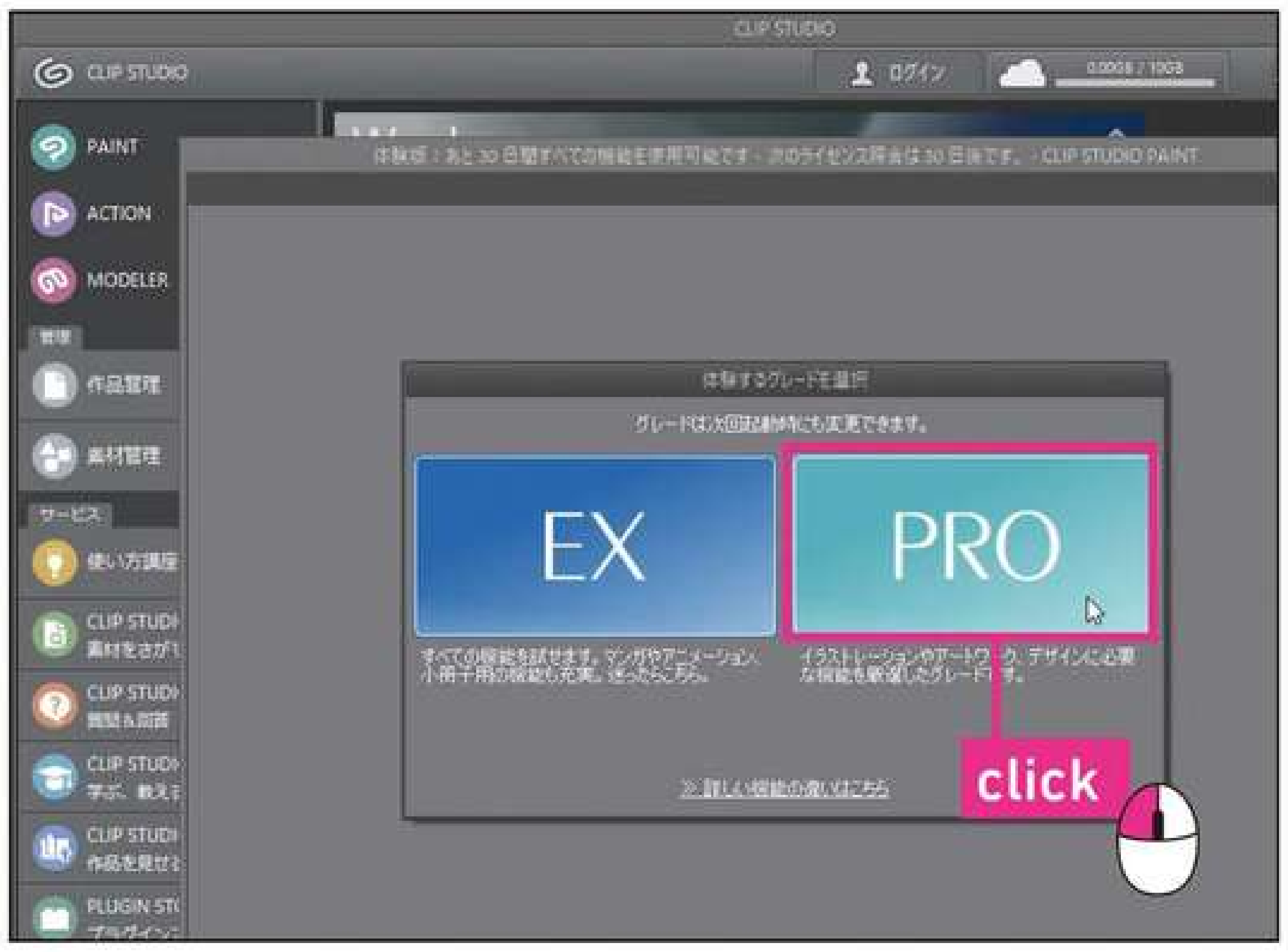
再びライセンス照合の画面で[体験版を使う(制限なし)]をクリックします。





12

「今すぐ体験版の試用登録を行います。」にチェックを入れ、登録したメールアドレスとパスワードを入力して[次へ]をクリックします。試用登録が完了した内容の画面が表示されたら、[OK]をクリックします。



13

CLIP STUDIOのグレードを選択する画面が表示されるので、[PRO]をクリックします。

Hint

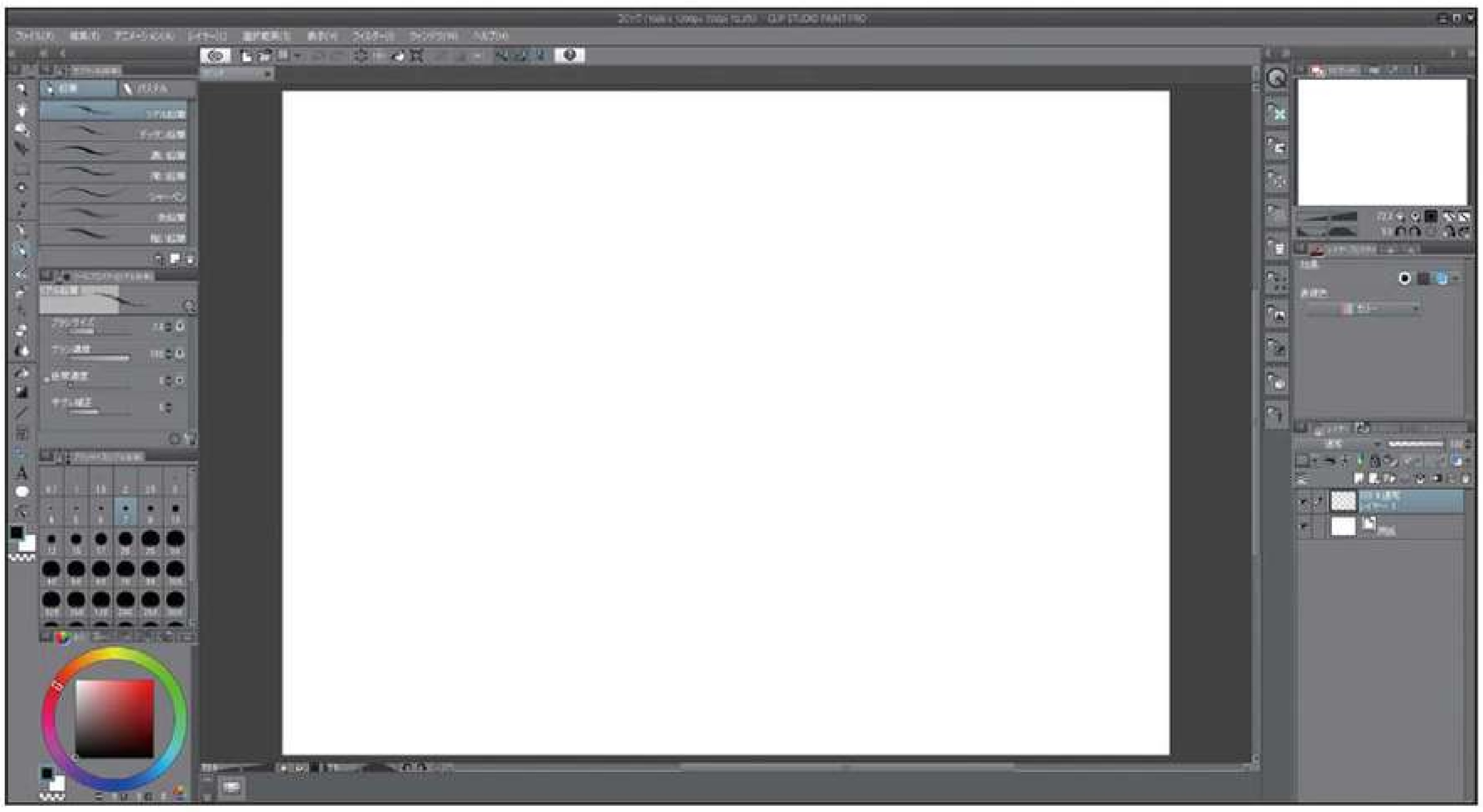
ダイアログが表示された場合

CLIP STUDIOを起動する際、Windowsで下図のようなダイアログが表示されることがあります。表示された場合は、[はい]をクリックしましょう。



14

CLIP STUDIO PAINT PROの画面が表示されました。
これで使用できるようになりました。



Chapter 1 - 02

CLIP STUDIO PAINT PRO を起動・終了しよう

ここでは、CLIP STUDIO PAINT PRO での起動と終了の方法について解説します。
ファイルの開き方、保存方法についても覚えておきましょう。

Before no file　After no file

Step 01 CLIP STUDIO PAINT PRO を起動する

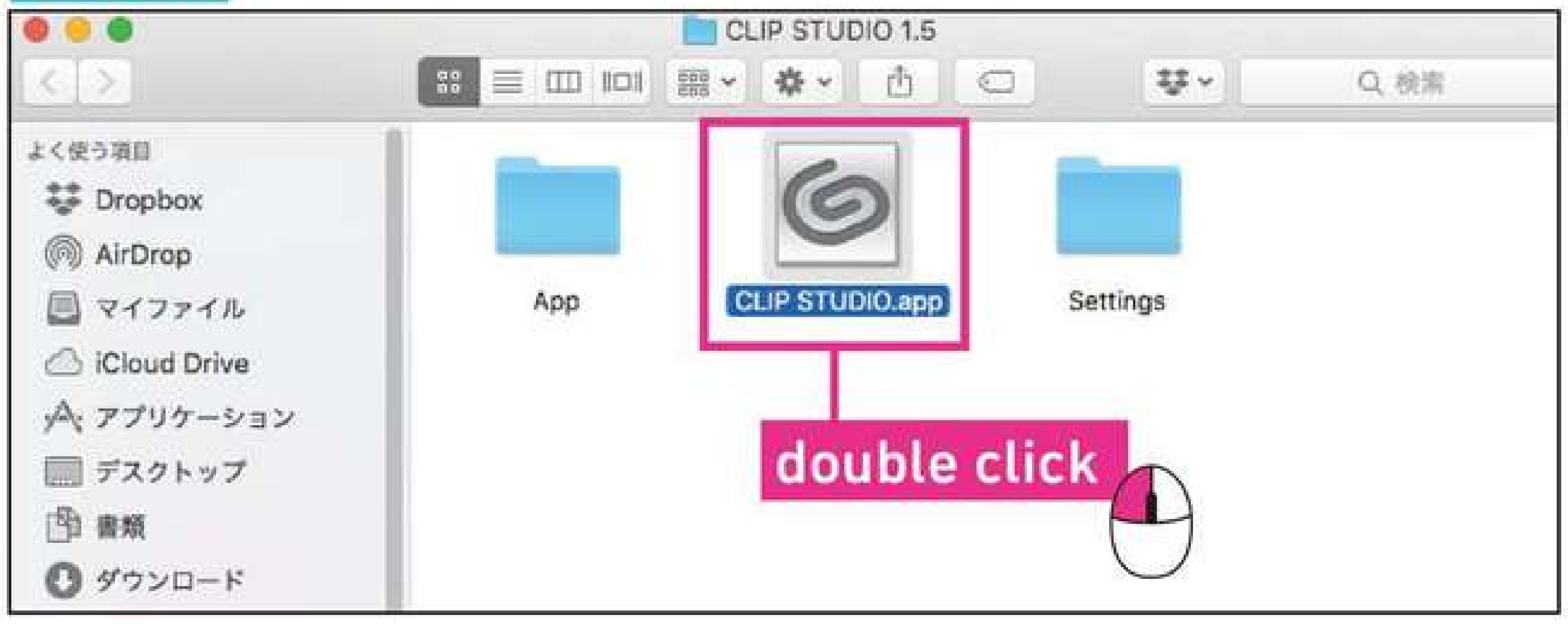
1

CLIP STUDIO PAINT PROを起動します。デスクトップの[CLIP STUDIO]ショートカットアイコンをダブルクリックします。macOSは「アプリケーション」フォルダの「CLIP STUDIO」フォルダ→「CLIP STUDIO」アイコンの順にダブルクリックします。

Windows



macOS

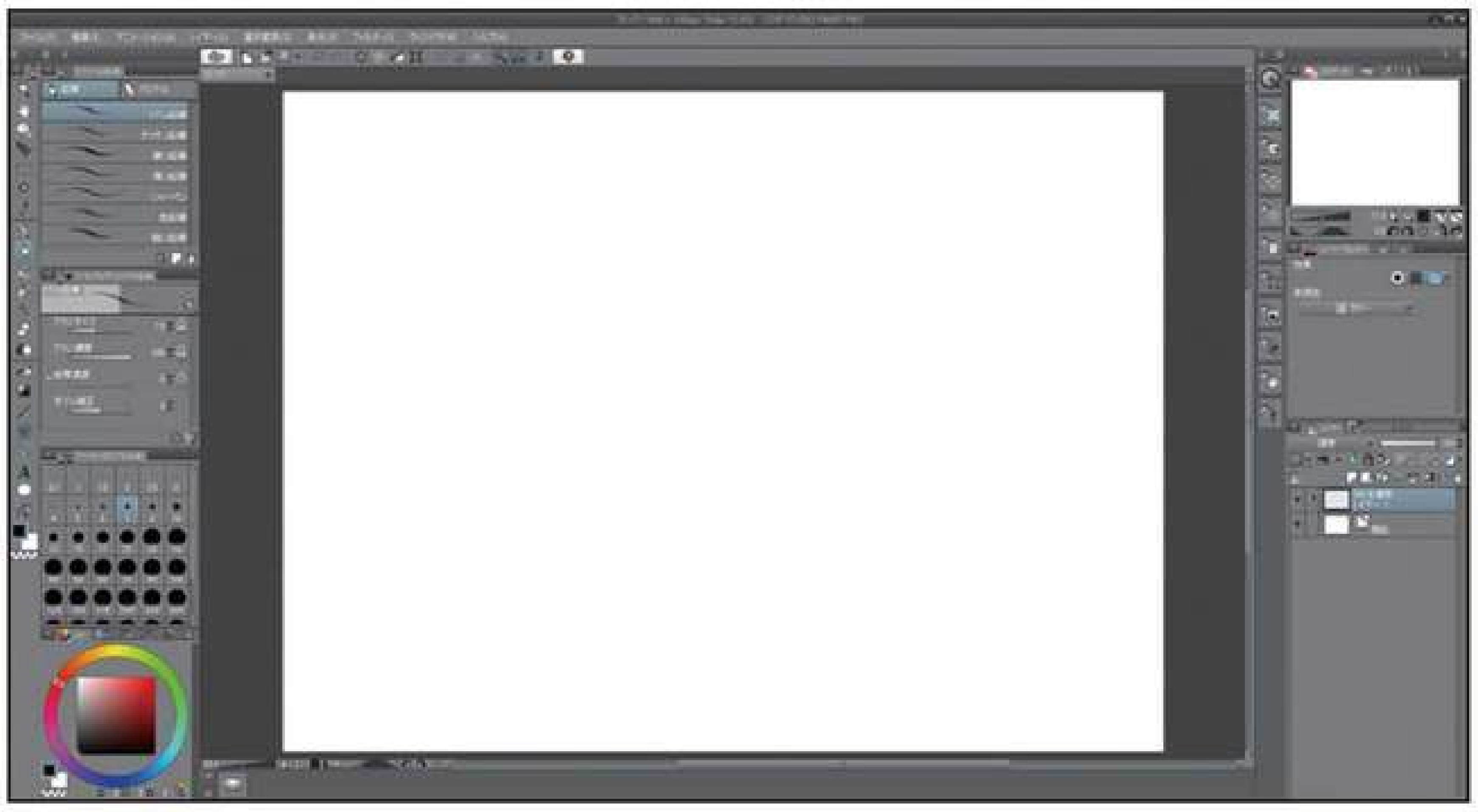


Memo

p.13の手順4ような画面が表示されるので、左側の一覧から[PAINT]をクリックします。体験版では、グレードを選択する画面が表示されるので、[PRO]をクリックします。

2

CLIP STUDIO PAINT PROの画面が表示されます。



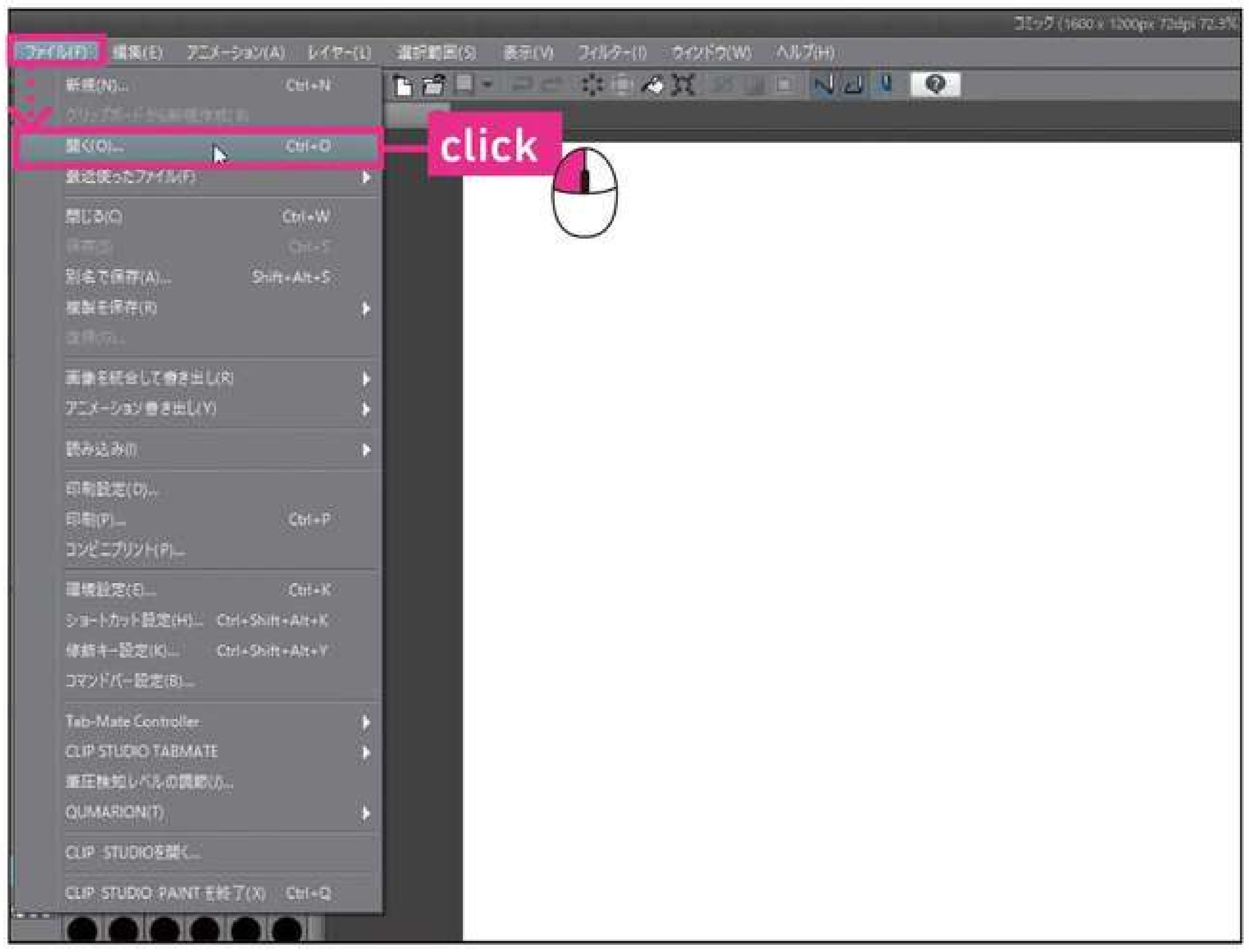
Memo

はじめて起動した場合は、新規キャンバスが作成されます。サイズの変更方法はp.29を参照しましょう。
なお、2回目以降に起動した場合は、新規キャンバスは作成されません。

Step 02 ファイルを開く

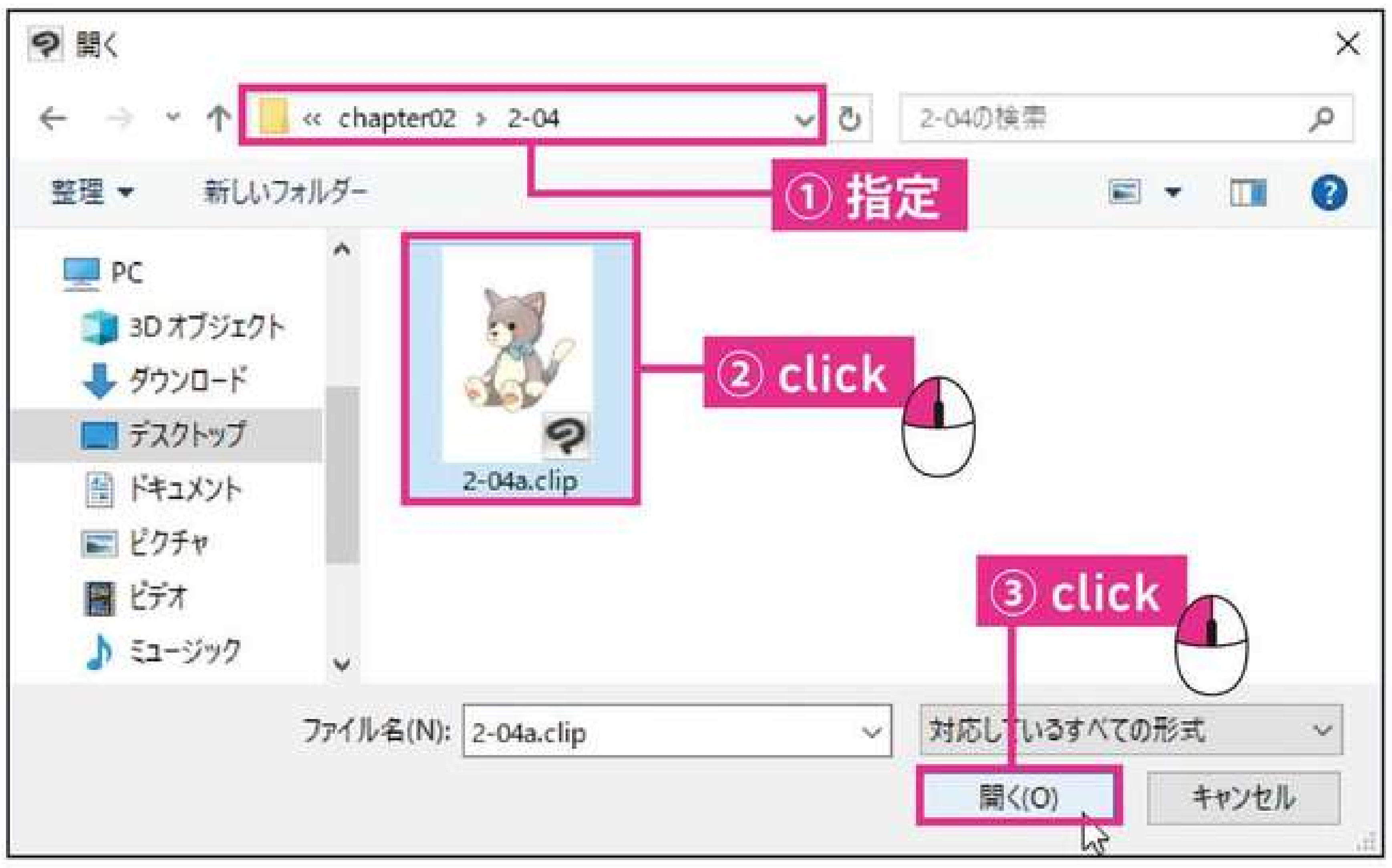
1

［ファイル］メニュー→［開く］の順にクリックします。



2

［開く］ダイアログが表示されます。ファイルのある場所を指定します。ファイルをクリックして選択し、［開く］ボタンをクリックします。



3

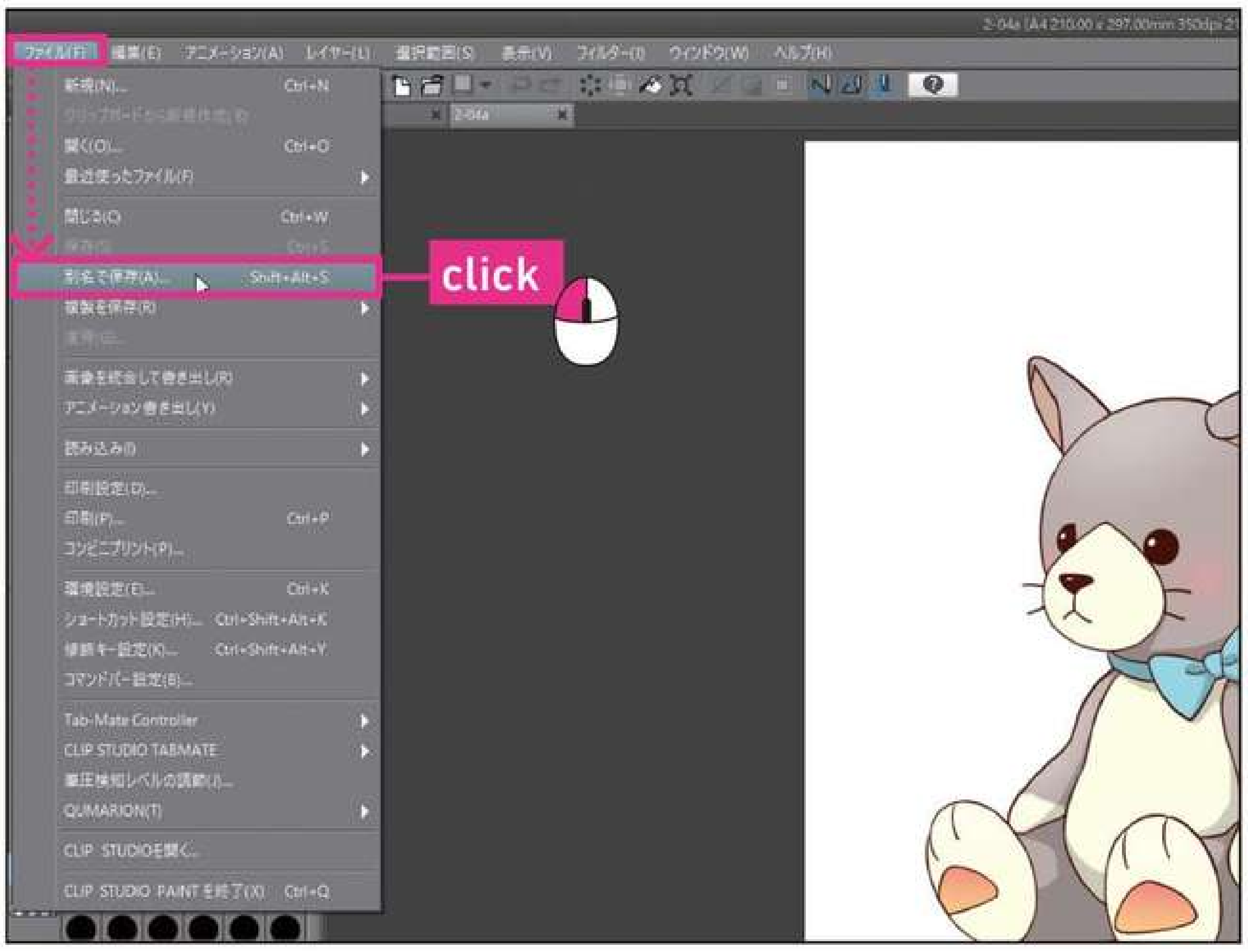
CLIP STUDIO PAINT PROの画面に選択したファイルが表示されます。



Step 03 ファイル名を変更して保存する

1

[ファイル]メニュー→[別名で保存]の順にクリックします。



Memo

CLIP STUDIOの専用形式(CLIP STUDIO FORMAT)以外に、BMP／JPEG／PNG／TIFF／Targa／Photoshopドキュメント形式でも保存することができます。[ファイルの種類]から選択します。
ただし、編集が再び必要になる場合に備え、CLIP STUDIO FORMATで保存しておくようにしましょう。

2

[別名で保存]ダイアログが表示されます。ファイルを保存する場所を指定します。[ファイル名]に名前を入力し、[保存]ボタンをクリックします。

Windows



macOSでは保存場所を指定後、[名前]にファイル名を入力し、[保存]ボタンをクリックします。

macOS



Memo

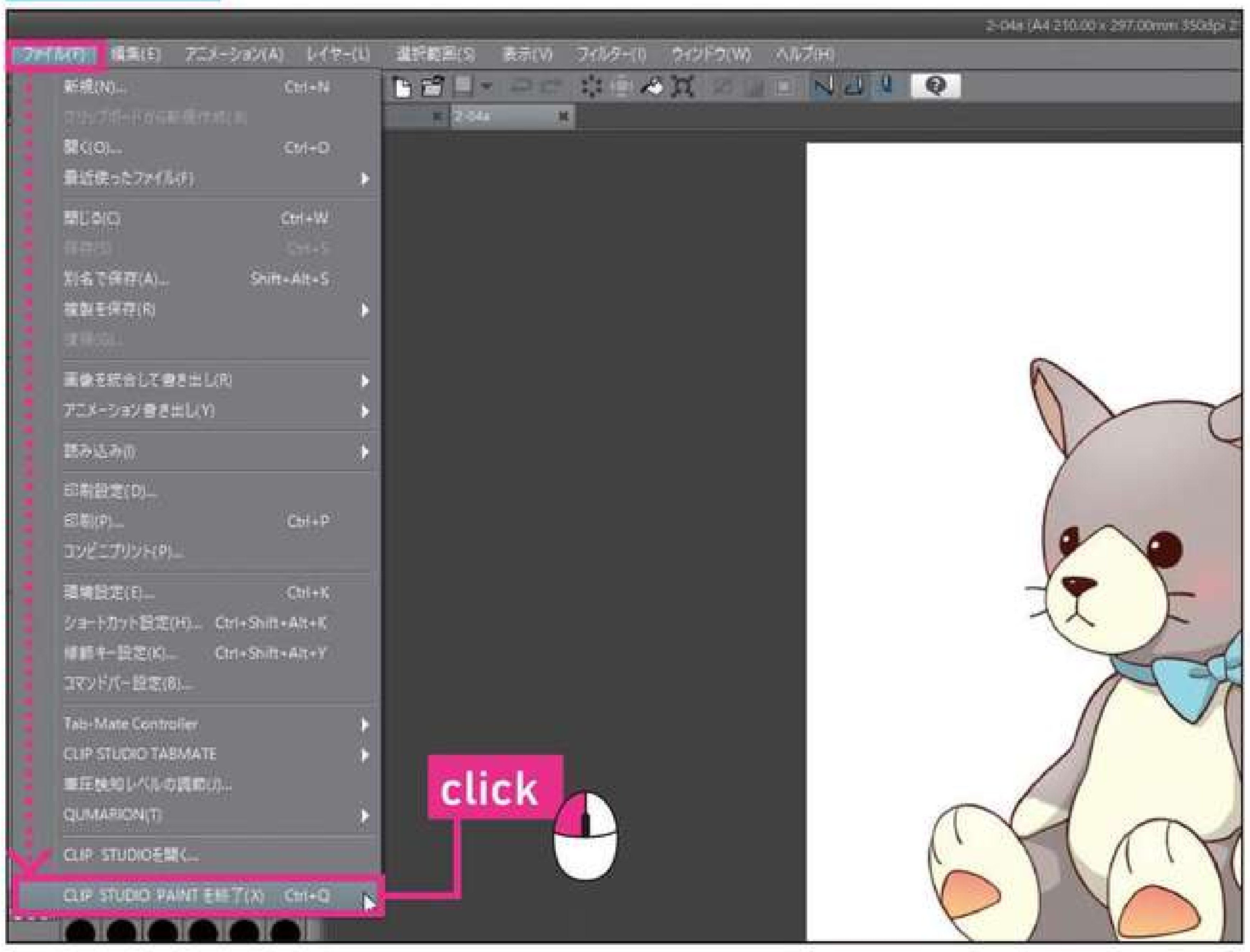
[CLIP STUDIO]画面でクラウドにアップしてファイルを同期する方法については、p.26(iPadとのファイル共有についてはp.188)を参照してください。

Step 04 CLIP STUDIO PAINT PRO を終了する

1

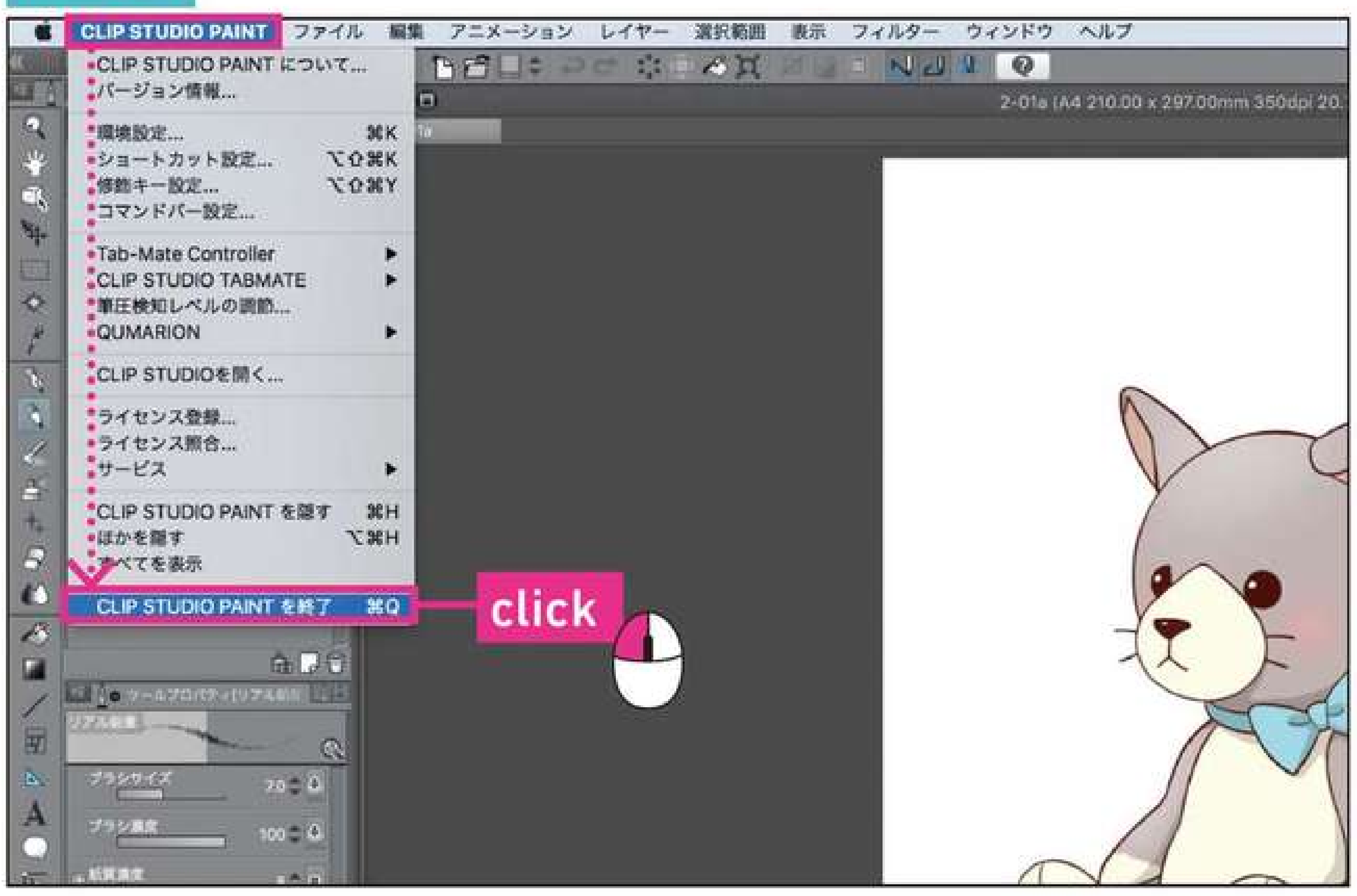
［ファイル］メニュー→［CLIP STUDIO PAINTを終了］の順にクリックします。

Windows



macOSでは［CLIP STUDIO PAINT］メニュー→［CLIP STUDIO PAINTを終了］の順にクリックします。

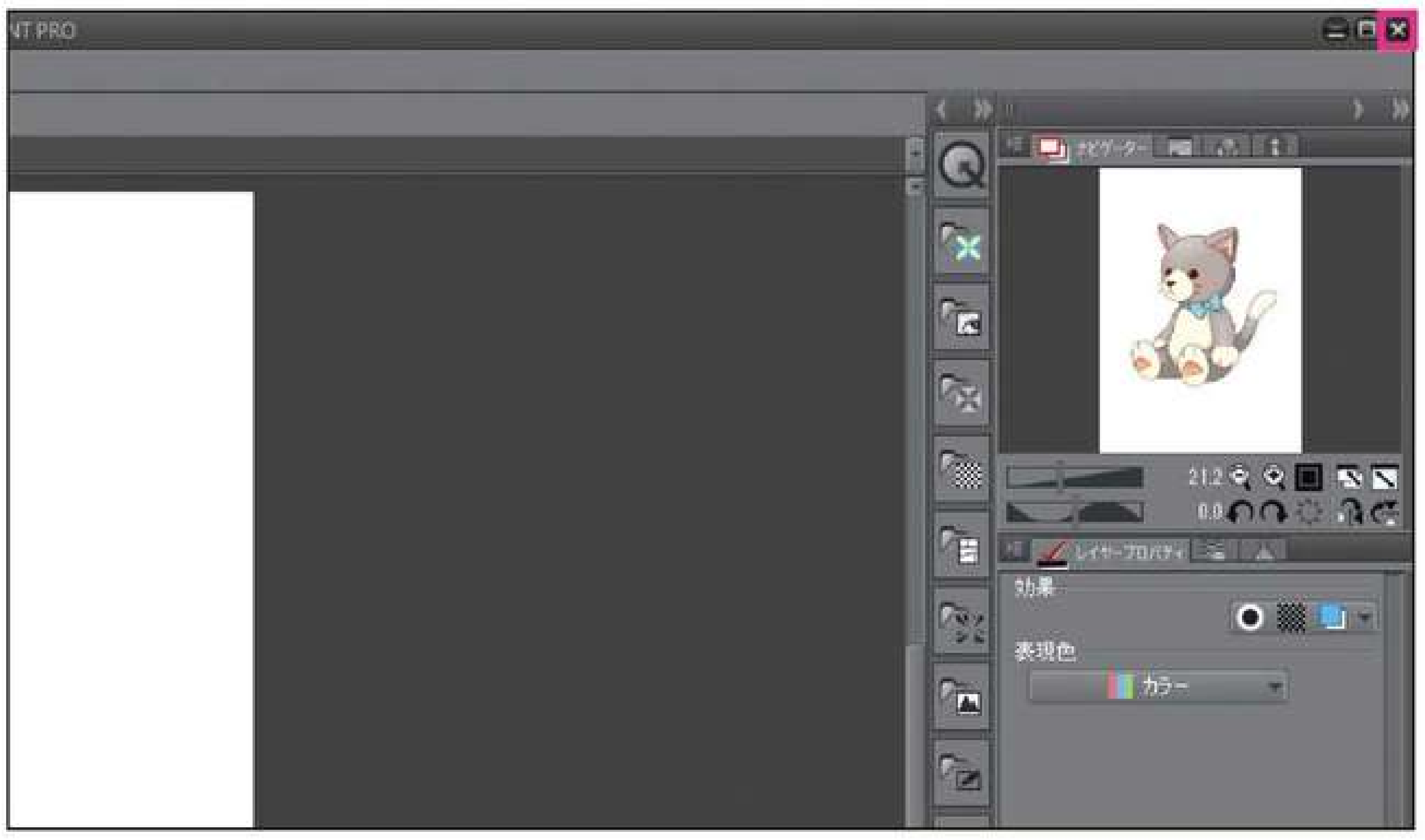
macOS



Hint

［閉じる］ ボタンで終了する

Windowsでは、画面の右上の［閉じる］ボタン ☒ をクリックしても終了することができます。



Chapter1 - 03

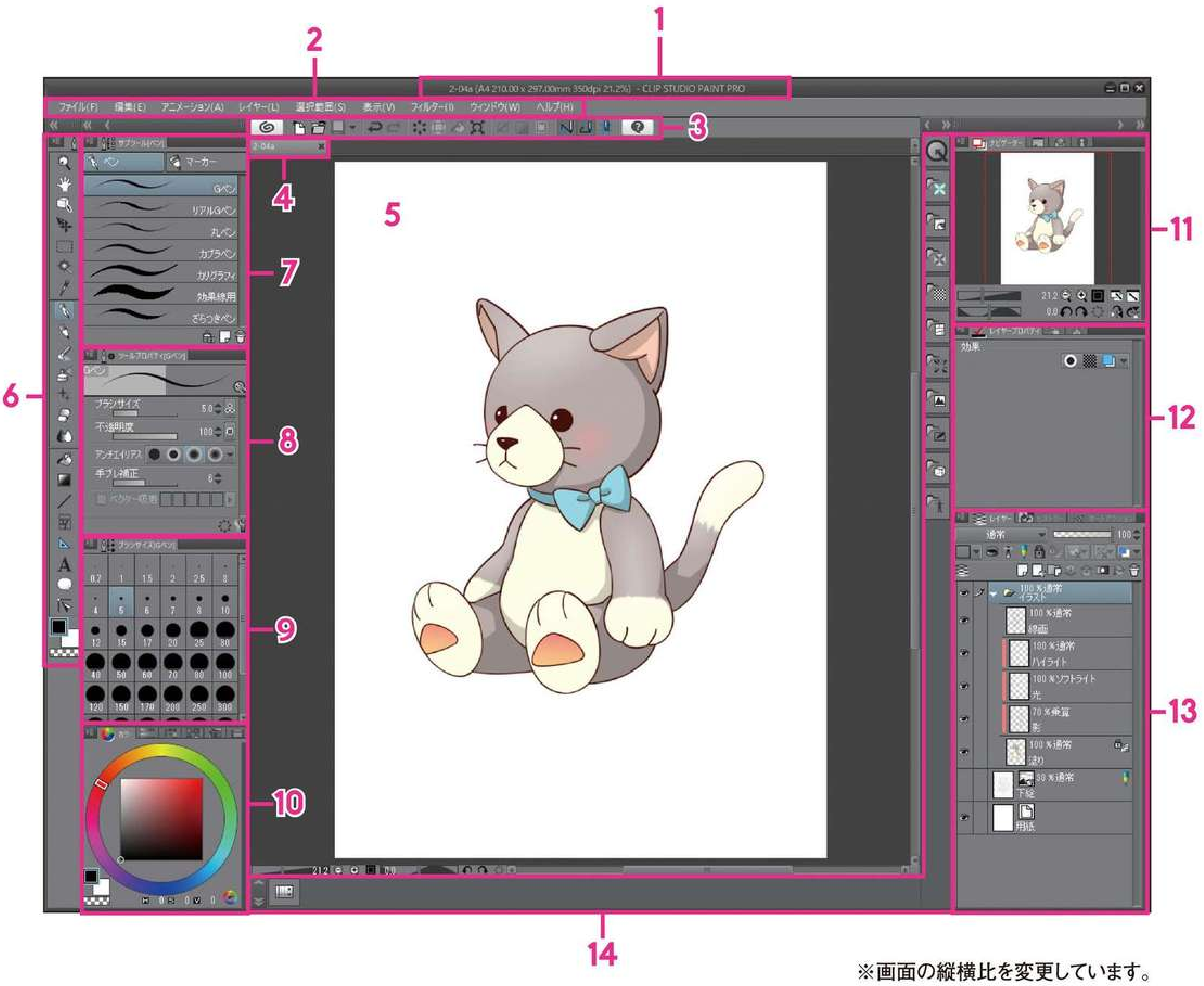
CLIP STUDIO PAINT PRO の画面の見方を知ろう

ここでは、CLIP STUDIO PAINT PROの画面の見方を知っておきましょう。Chapter2から実際にイラストを描いていきますが、パレットの配置やツールの場所を覚えておくと、作業がしやすくなります。

Before no file　After no file

Step 01 CLIP STUDIO PAINT PRO の画面構成

下図はCLIP STUDIO PAINT PROをインストール後に、はじめて起動した初期設定の画面構成です。
CLIP STUDIO PAINT PROのバージョンによっては表示の仕方やパレットの配置が異なる場合があります。
※バージョンは予告なく変更されることがあります。インストール時のバージョン番号をご確認ください。バージョン番号は、[ヘルプ]メニュー→[バージョン情報]で確認することができます（以下はWindows版デスクトップVer 1.8.5の表示です）。



※画面の縦横比を変更しています。

Step 02 CLIP STUDIO PAINT PRO の各部名称

各バーやパレットの表示、非表示は[ウィンドウ]メニューから行うことができます。
※バーおよびパレットの詳細については、セルシス社のWebサイトをご確認ください。
CLIP STUDIO PAINTユーザーガイド(https://www.clip-studio.com/site/gd/csp/manual/userguide/)

1 タイトルバー

ソフトウェア名やファイル名、描画しているキャンバスのサイズ、解像度、表示倍率などの情報が表示されます。

2 メニューバー

ファイルやレイヤーの操作など、各項目ごとにメニューが分けられています。画面上に表示されている項目以外で操作に必要なメニューが用意されています。

3 コマンドバー

よく使う機能のアイコンがまとめられています。使用頻度の高い機能のアイコンをカスタマイズすることもできます。

4 (ファイル名) タブ

作業中のファイル名が表示されます。複数のファイルを開いている場合、ファイル名のタブをクリックすることで切り替えられます。ファイル名の隣りにある[閉じる]ボタン をクリックすると、ファイルを閉じることができます(ソフトウェアは終了しません)。

5 キャンバスウィンドウ

描画する領域です。下のスライダーアイコンでキャンバスを拡大、縮小、回転するなど、描画しやすいように調整することができます。

6 [ツール] パレット

CLIP STUDIO PAINT PROで描くためのツールが用意されています。それぞれのツールの説明はp.22を参照しましょう。

7 [サブツール] パレット

[ツール]パレットで選択したツールにあらかじめ用意されている設定が表示されます。[サブツール]パレットで項目を選択すると、[ツールプロパティ]パレットの項目も切り替わります。

8 [ツールプロパティ] パレット

[サブツール]パレットで選択したサブツールのサイズや不透明度など、設定する項目が表示されます。[サブツール]パレットと組み合わせて設定することで、目的に合わせた描画を行うことができます。

9 [ブラシサイズ] パレット

ペンや消しゴムなどの描画ツールで、あらかじめ設定されているサイズから選択することができます。カスタマイズしたサイズをパレットに登録することもできます。

10 [カラー] パレット

初期設定では[カラーサークル]パレットが表示されています。ここで色の選択をすることができます。他にも[カラースライダー]や[カラーセット]パレットなどが用意されているので、目的に合わせて効率的に色を選択することができます。

11 [ナビゲーション] パレット

キャンバスでどの部分が表示されているのかを確認できます。拡大、縮小、回転などのキャンバスの表示を変更することもできます。

12 [レイヤープロパティ] パレット

選択したレイヤーに対して編集できる項目が表示されます。レイヤーの種類によって設定できる項目が変わります。

13 [レイヤー] パレット

追加や削除、表示や非表示、重なり順など、レイヤーの管理を行うことができます。

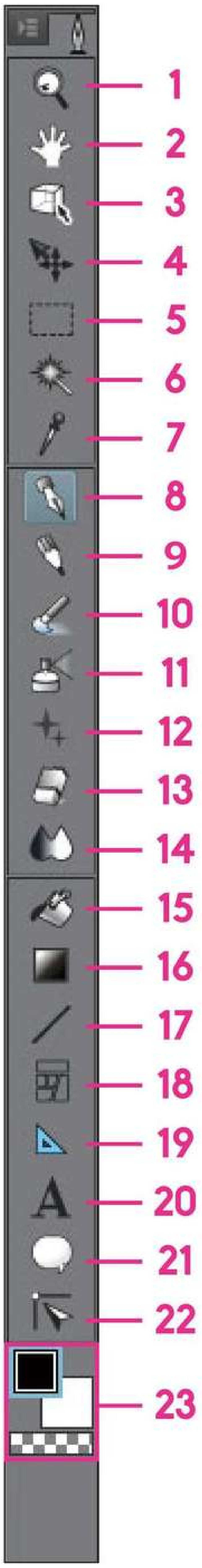
14 パレットドック

使用頻度の高いパレットをカスタマイズして登録することができます。

Step 03 CLIP STUDIO PAINT PRO のツール

［ツール］パレットで目的にあったツールを選択して描画します。［サブツール］パレットで項目を選択し、［ツールプロパティ］パレットで細かい設定を行うことができます。

※ツールの詳細については、セルシス社のWebサイトをご確認ください。
　CLIP STUDIO PAINTユーザーガイド（https://www.clip-studio.com/site/gd/csp/manual/userguide/）



1 虫めがねツール

キャンバスを拡大、縮小表示するためのツールです。

サブツール

ズームイン	拡大
ズームアウト	縮小

2 移動ツール

キャンバス内をスクロール、回転するためのツールです。

サブツール

手のひら	スクロール
回転	キャンバスを回転

3 操作ツール

画像、コマ枠などの図形を移動、変形、回転するためのツールです。レイヤーの選択、3D素材や定規の操作も行えます。

サブツール

オブジェクト	移動／変形／回転
レイヤー選択	特定のレイヤーを選択
ライトテーブル	ライトテーブルレイヤーの移動／サイズ／角度の調整
タイムライン編集	アニメーション作成時のタイムラインで選択しているフレームを編集

4 レイヤー移動ツール

選択したレイヤーに描かれたイラストや画像を移動するためのツールです。

サブツール

レイヤー移動	レイヤーを移動
トーン柄移動	トーンを設定しているレイヤーを移動
グリッド移動	グリッドを設定しているレイヤーを移動

5 選択範囲ツール

選択範囲を作成するツールです。

サブツール

長方形選択	四角い選択範囲を作成
楕円選択	円形の選択範囲を作成
投げなわ選択	自由な曲線で選択範囲を作成
折れ線選択	直線で選択範囲を作成
選択ペン	ドラッグした部分が選択範囲になる
選択消し	ドラッグした部分の選択範囲を解除する
シュリンク選択	描画部分に沿って選択範囲を作成

6 自動選択ツール

同じ色の連続した部分を選択するためのツールです。

サブツール

編集レイヤーのみ参照選択	編集中のレイヤーを対象に選択範囲を作成
他レイヤーを参照選択	表示されているレイヤーすべてを対象に選択範囲を作成
参照レイヤー用選択	参照レイヤーに描いた内容を基に選択範囲を作成

7 スポイトツール

画像から描画色を取得するためのツールです。

サブツール

表示色を取得	表示されているレイヤーすべてを対象に色を取得
レイヤーから色を取得	選択したレイヤーを対象に色を取得

8 ペンツール

つけペンやマーカーのようなタッチで描画するためのツールです。強弱のついた線(ペン)や均等な線(マーカー)で描けます。

サブツール

ペン	Gペン
	リアルGペン
	丸ペン
	カブラペン
	カリグラフィ
	効果線用
	ざらつきペン
マーカー	ミリペン
	サインペン
	べた塗りペン
	マジックペン
	ドットペン
	フラットマーカー

9 鉛筆ツール

鉛筆のようなタッチで描画するためのツールです。濃淡をつけて描けます。

サブツール

鉛筆	リアル鉛筆
	デッサン鉛筆
	濃い鉛筆
	薄い鉛筆
	シャーペン
	色鉛筆
	粗い鉛筆
パステル	チョーク
	パステル
	クレヨン
	木炭
	ノイズ

10 筆ツール

筆のようなタッチで描画するためのツールです。複数の色をなじませながら描けます。

サブツール

水彩	不透明水彩
	透明水彩
	濃い水彩
	滑らか水彩
	塗り&なじませ
	水彩毛筆
	にじみ縁水彩
	水多め
	紙質強調
	重ねムラブラシ
油彩	油彩
	油彩平筆
	色変化
墨	ややかすれ
	滑らか
	粗め
	薄墨
	濃い滲み
	にじみ薄墨

11 エアブラシツール

エアブラシのようなタッチで描画するためのツールです。ぼかしのついたタッチで描けます。

サブツール

強め	描いた輪郭がぼけたようなタッチで描ける
柔らか	「強め」よりもボケ足のついたタッチで描ける
ハイライト	「柔らか」よりもさらにボケ足の強いタッチで描ける
影	影の自然なボケを表現できる
スプレー	スプレーのように細かい粒子を吹きつけた表現ができる
トーン削り	トーンレイヤーを柔らかく削りたいときに使用する
にじみスプレー	紙のにじみを表現できる
飛沫	粒子の粗い表現ができる

12 デコレーションツール

連続したパターンを描画するためのツールです。あらかじめ以下のような項目が用意されています。

サブツール

効果・演出	星A
	星B
	ハートカラー
	きらめきA
	きらめきB
	きらめきC
	ほわ
	ほわ丸
	キラキラ〇十字
	ほわ五角形
	羽
	音符
	血痕
カケアミ・砂目	擦れ
	ガーゼ
	雲ガーゼ
	砂目ほわA
	砂目ほわB
	斜線
	カケアミ1カケ
	カケアミ4カケ
	カケアミ(トーン削り用)
服飾	チロリアンテープ
	シンプルフリル
	レースリボン
	三つ編み縄
	切り紙レース
	和柄リボン(黒)
	真珠
	ゴールドチェーン
模様	ハート
	星
	雪の結晶
	ツタ蝶々
	ツタ
	メロディ
	花模様
	桜文様
	七弁花

花	桜
	桜花弁
	クレマチス
	ポピー
	あじさい
	コスモス
	水仙
	梅
	百合
	薔薇
	朝顔
	ひまわり
草木	銀杏葉
	かすれ紅葉
	枝葉
	樹木
	落ち葉
	草A
	草B
	草C
	草原
人工風景	鉄条網
	瓦礫
	ヒビ割れ
	KEEPOUT
	木の柵
	鉄柵
	電柱
	しゃぼん玉
自然風景	ぼかし虹
	炎
	砂煙
	横すじ雲
	岩塊
	小石
罫線	波線
	ギザギザ
	デコボコ
	破線
	点線

13 消しゴムツール

描いた線や画像を消すためのツールです。

サブツール

硬め	強弱のついたはっきりとした消しあとになる
軟らかめ	エアブラシのようなふんわりとした消しあとになる
ざっくり	均一な太さの消しあとになる
ベクター用	ベクターレイヤーに描かれたオブジェクトを消す。他の線との交点までの線を消す
レイヤー貫通	表示されているレイヤーに描かれている内容を消す
スナップ消しゴム	グリッドや定規に沿って消すことができる(あらかじめ[表示]メニューで[グリッドにスナップ]、[定規にスナップ]をオンにしておかなければならない)

14 色混ぜツール

指で絵の具をなじませたような表現で描画するためのツールです。

サブツール

色混ぜ	すでに塗られている色と色を混ぜ合わせる
ぼかし	色をのばさずにじませるようにぼかす
指先	指先で引っ張ったような表現で色を混ぜる
繊維にじみ	紙ににじませたような表現で色を混ぜる
水彩なじませ	水彩のようなにじませた表現で色を混ぜる
コピースタンプ	すでに描かれたイラストを別の場所やレイヤーに転写する

15 塗りつぶしツール

線で閉じられた領域を塗るためのツールです。

サブツール

編集レイヤーのみ参照	選択したレイヤーに描かれた線に対して塗る
他レイヤーを参照	表示レイヤーに描かれた線に対して塗る
囲って塗る	塗りつぶしたい部分を囲むようにドラッグすると閉じられた領域が塗られる
塗り残し部分に塗る	塗り残し部分をなぞるようにドラッグすると閉じられた領域が塗られる

16 グラデーションツール

ラスターレイヤーにグラデーションを描くためのツールです。

サブツール

グラデーション	描画色から透明色
	描画色から背景色
	ストライプ
	背景色ストライプ
	光球
	青空
	昼空
	夕焼け
	夜空
	虹
	消しグラデーション
	マンガ用グラデーション
等高線塗り	通常塗り
	最も薄い陰
	最も濃い陰

17 図形ツール

線や図形を描くためのツールです。基本的な図形だけでなく、集中線なども描くことができます。

サブツール

直接描画	直線
	曲線
	折れ線
	連続曲線
	投げなわ塗り
	長方形
	楕円
	多角形
流線	まばら流線
	濃い流線
	陰気
	雨
集中線	まばら集中線
	濃い集中線（曲線指定）
	密な集中線
	陽気
	破裂

18 コマ枠ツール

主にマンガ制作でコマ枠を描くためのツールです。分割などの編集も行うことができます。

サブツール

コマ作成	長方形コマ
	折れ線コマ
	コマ枠ペン
コマ枠カット	コマフォルダー分割
	枠線分割

19 定規ツール

線をきれいに描くための補助ツールです。ペンツールなどの手描きの線で描きたいときに便利です。

サブツール

直線定規	ドラッグしたラインが直線になる
曲線定規	クリックした部分が曲線になる
図形定規	四角や円などの図形を描きたいときに使用
定規ペン	フリーハンドで描いたラインを定規にしたいときに使用
特殊定規	平行線や放射線などを描きたいときに使用
ガイド	ガイド線を描きたいときに使用
パース定規	建物や空間を描くときに使用
対称定規	左右対称な線や幾何学模様などを描きたいときに使用

20 テキストツール

タイトルや文章などを入れるためのツールです。

21 フキダシツール

フキダシを作成するためのツールです。テキストツールで作成したテキストを囲むと同じレイヤー上にフキダシが作れます。

サブツール

フキダシ	楕円フキダシ
	曲線フキダシ
	フキダシペン
	フキダシしっぽ
	フキダシ丸しっぽ
フラッシュ	ベタフラッシュ
	フラッシュ
	密フラッシュ
	ウニフラ
	花火

22 線修正ツール

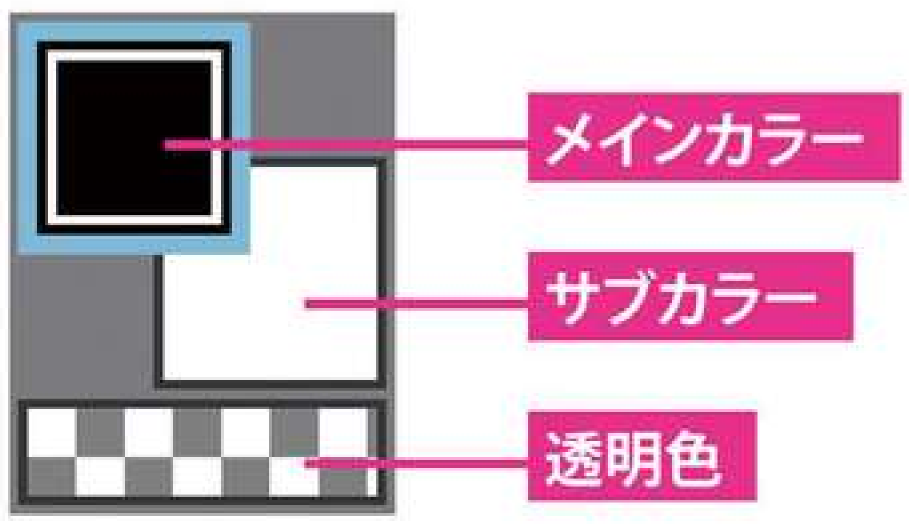
ベクターレイヤーに描かれたイラストや図形を修正するためのツールです。

サブツール

線修正	制御点
	ベクター線つまみ
	ベクター線単純化
	ベクター線つなぎ
	線幅修正
	ベクター線描き直し
	ベクター線幅描き直し
ごみ取り	ごみ取り
	塗り残し埋め
	ごみ選択

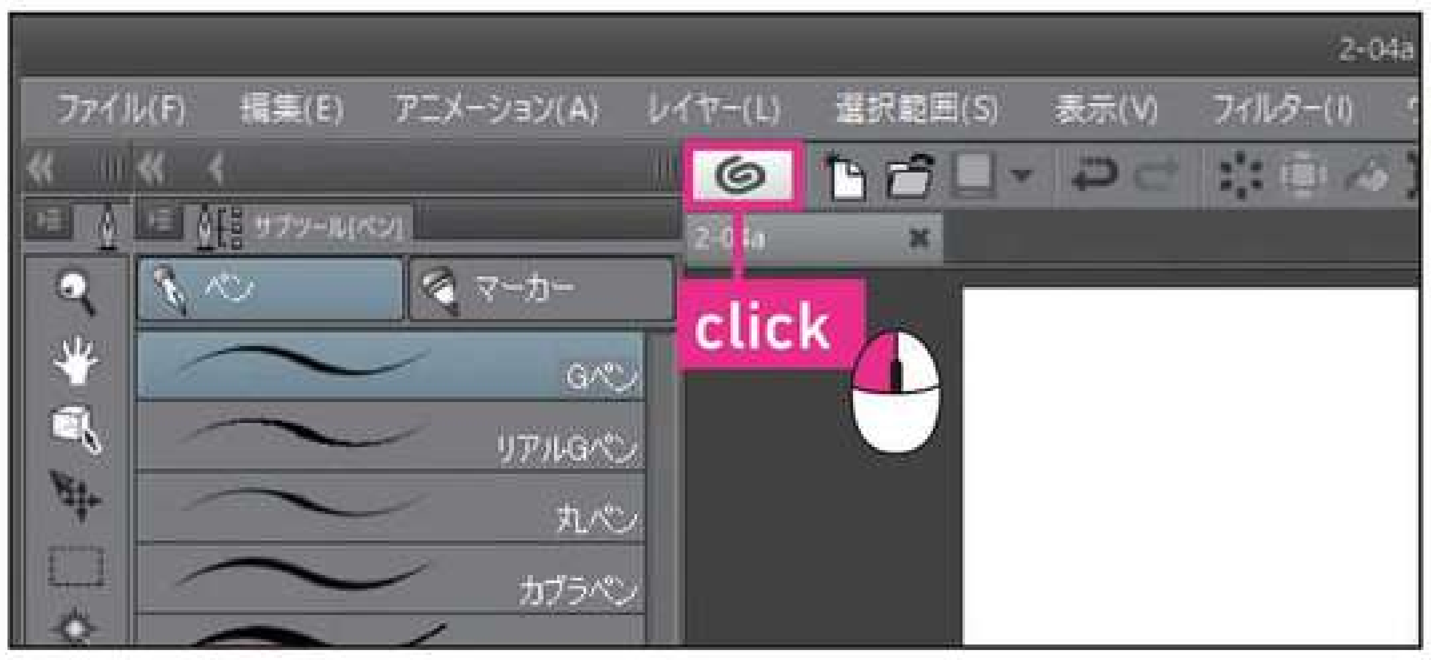
23 カラーアイコン

描画色の設定をします。メインカラー（描画色）とサブカラー（背景色）の2つの色と透明色が設定でき、2つの色は使用頻度の高い色を設定しておくことができます。
青い枠で囲まれた色が現在選択されている色で、クリックして切り替えながら使用します。



Step 04 CLIP STUDIO 画面でファイル共有する

［CLIP STUDIO］画面では、ソフトの起動や素材のダウンロード、クラウドにファイルをアップして共有することができます。ここでは、クラウドにファイルをアップする方法を解説します。



1

［CLIP STUDIO PAINT PRO］のコマンドバーの［CLIP STUDIO］アイコン をクリックします。



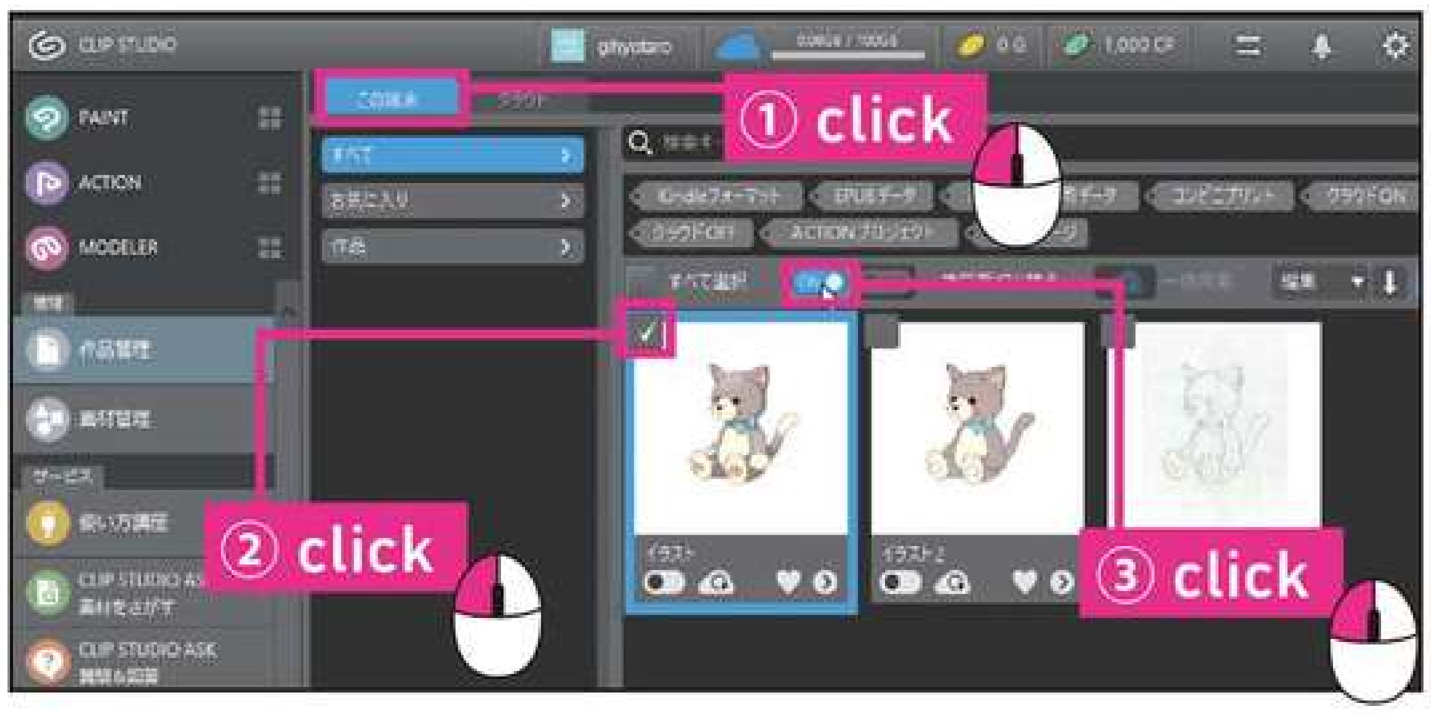
2

［CLIP STUDIO］画面が表示されます。左側の［作品管理］をクリックし、［ログイン］をクリックします。



3

p.14の手順9でアカウント登録したメールアドレス、パスワードを入力して［OK］ボタンをクリックすると、クラウドが使用できるようになります。



4

ログインしたら、［この端末］タブをクリックし、共有するファイルにチェックを入れ、［OK］をクリックします。

※保存しているファイルがない場合は、［この端末］にはファイルが表示されません。ファイルを保存してから行ってください。



5

図のような画面が開くので、［OK］ボタンをクリックします。



6

［クラウド］タブをクリックして［再読み込み］をクリックすると、同期したファイルが表示されます。これで同じアカウントであれば、どの端末からでも使用することができるようになりました。

※ファイルの上にチェックを入れ、ファイル名の下の［ダウンロード］アイコン をクリックすると、使用している端末にダウンロードされます。

Chapter 2

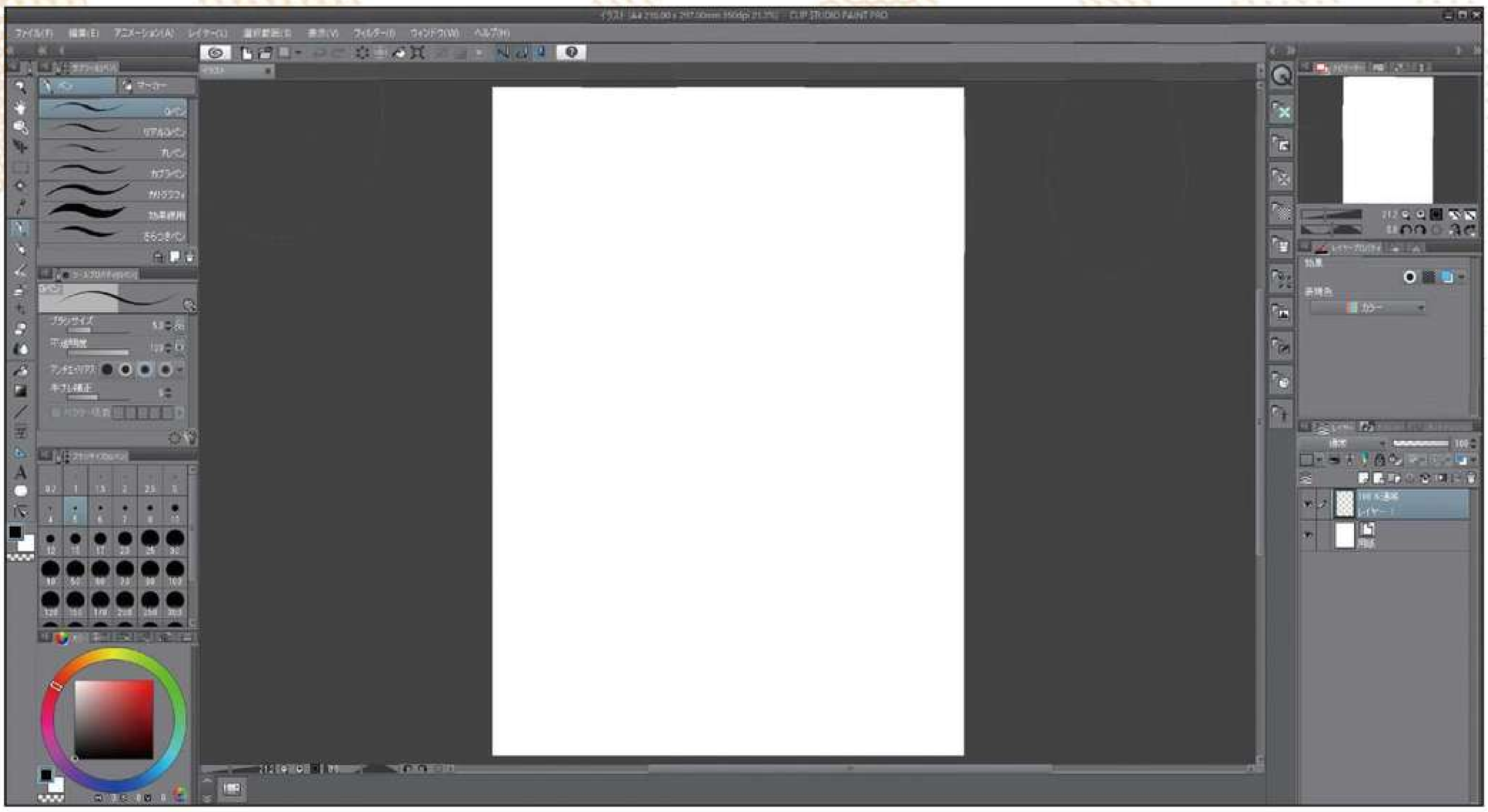
線画を描こう

Chapter2では、CLIP STUDIO PAINT PROで
線画を描く方法を解説します。
下絵をもとにレイヤーを増やしながら線画を描いていきます。
描画ツールの種類やサイズの変更方法、
はみ出した線の消し方なども解説します。
効率的に線画を描くテクニックも一緒に解説しているので、
参考にしながら描いてみましょう。



Chapter 2 - 01

キャンバスを作成しよう

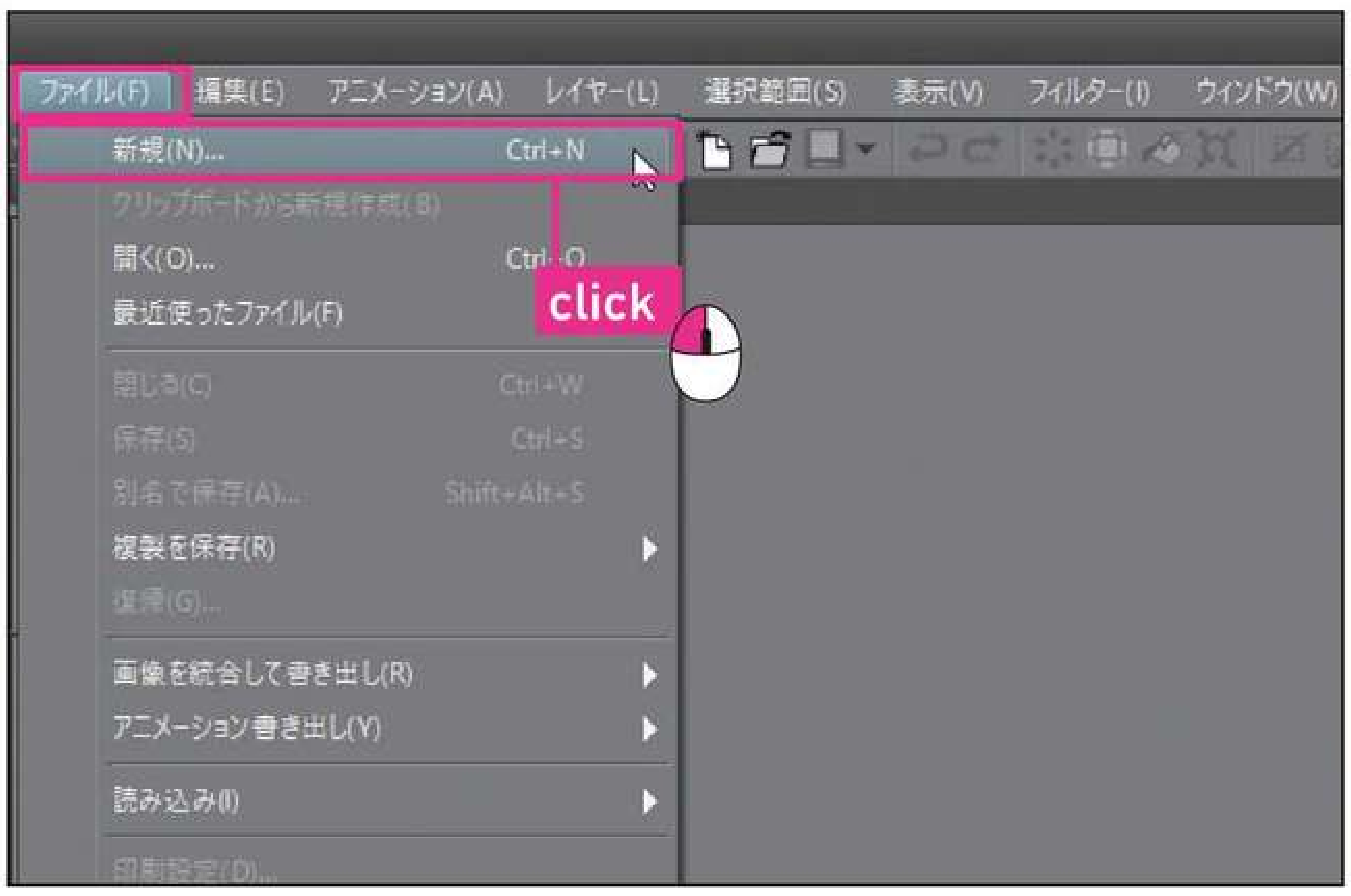


Before no file　After 2-01a.clip

ここでは、CLIP STUDIO PAINTで絵を描く準備をします。まずは新規キャンバスを作成し、新規レイヤーを追加してみましょう。

Step 01 新規キャンバスを作成する

CLIP STUDIO PAINTを起動し、[ファイル]メニュー →[新規]の順にクリックします。



2

[新規]ダイアログが表示されるので、[作品の用途]を選択します。
ここでは、イラストを制作するので、[イラスト]をクリックします。



Memo

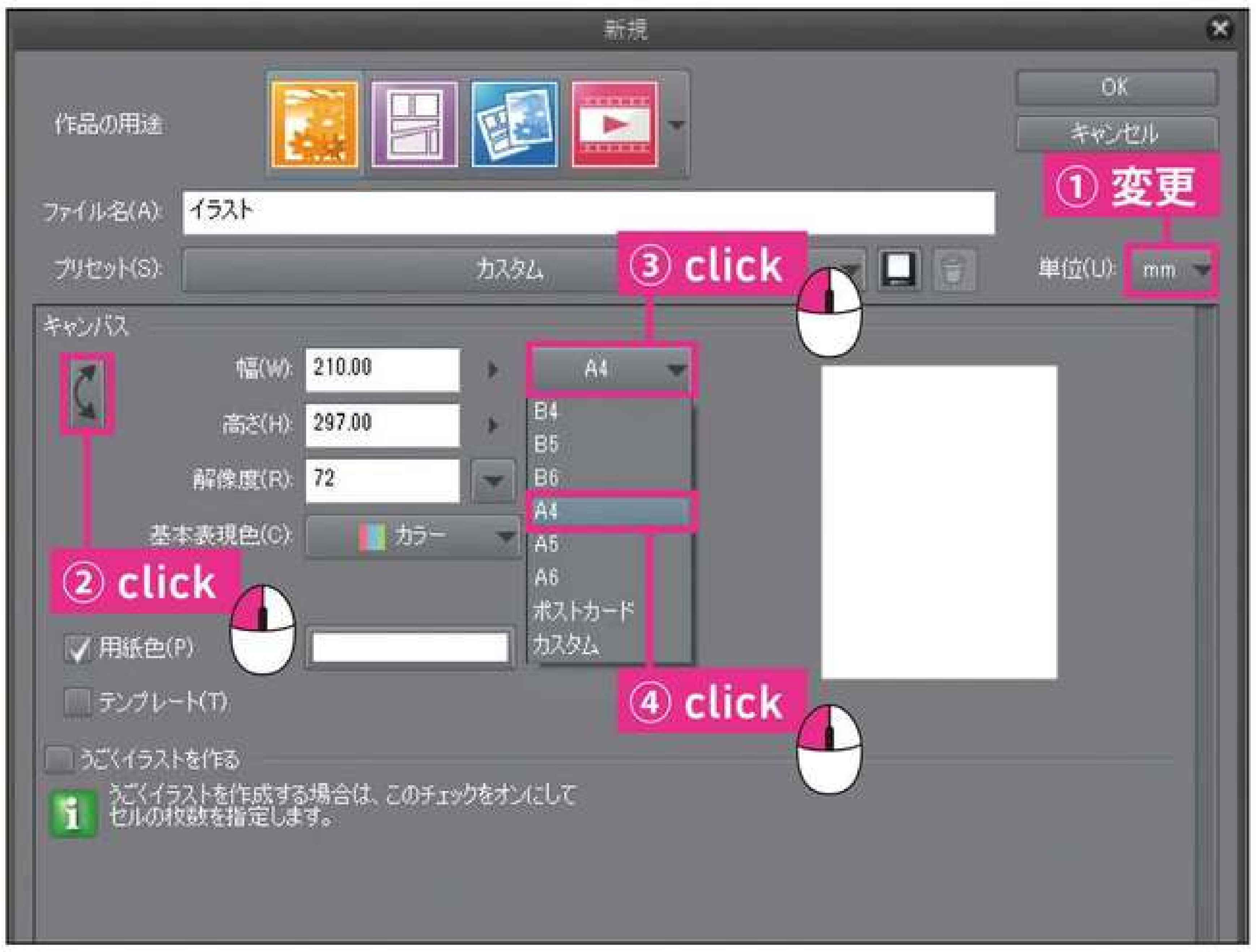
[作品の用途]のボタンは、左から[イラスト][コミック][すべてのコミック設定を表示][アニメーション]です。

Step 02 キャンバスを設定する

キャンバスの設定をします。サイズや解像度、基本表現色、用紙色を設定することができます。

1

[単位]を「mm」に変更し、マークをクリックしてドキュメントを縦にします。
[キャンバスサイズ]プルダウンメニューをクリックして用紙を選択する方法と、幅と高さの数値を直接入力する方法があります。
A4（210×297mm）に設定しました。



Memo

マークをクリックすると、ドキュメントの幅と高さの数値を入れ替えることができます。

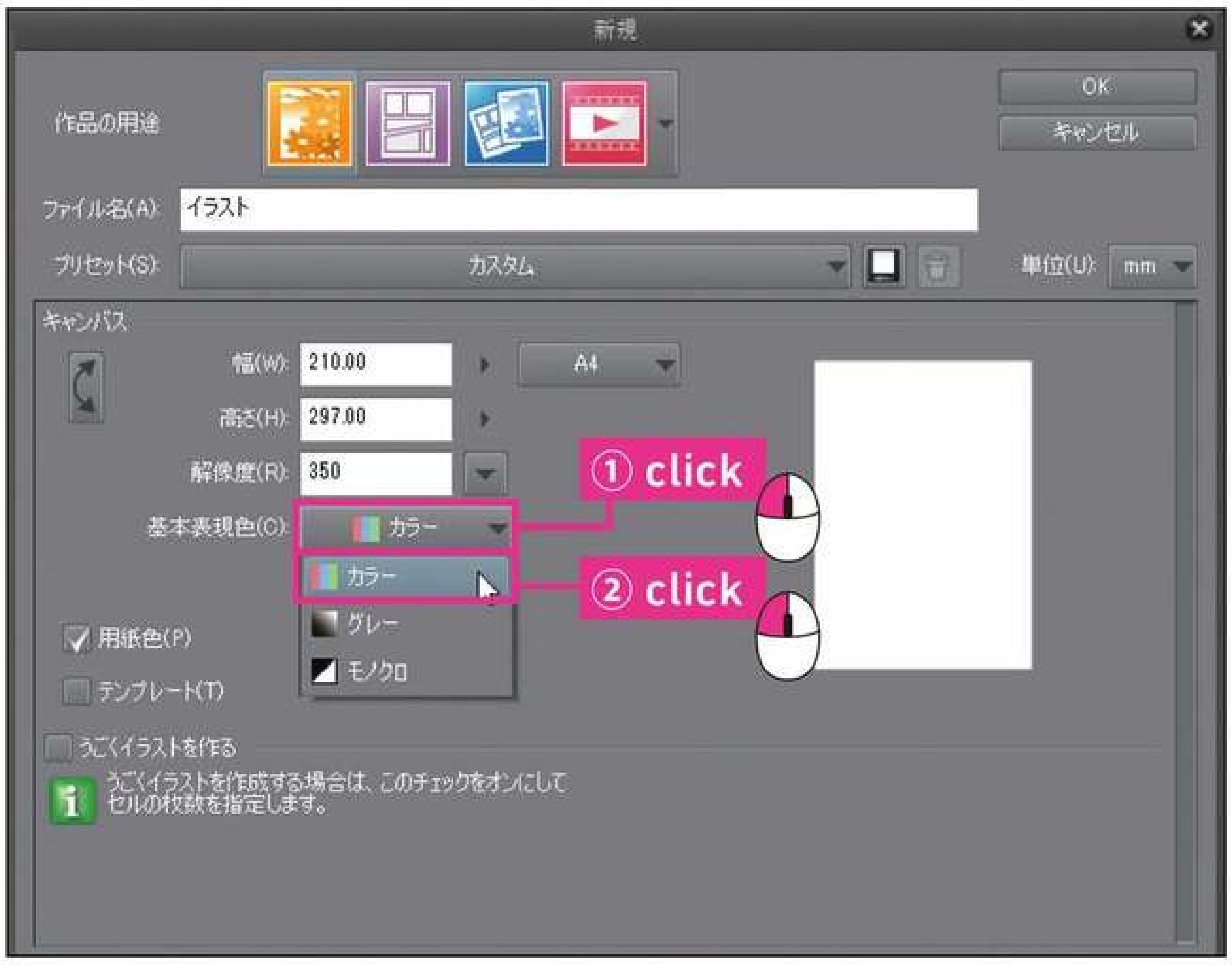
2

[解像度]プルダウンメニューをクリックし、解像度を選択します。
カラーイラストなので「350dpi」に設定しました。



3

[基本表現色]プルダウンメニューをクリックし、「カラー」「グレー」「モノクロ」から選びます。
カラーイラストなので「カラー」に設定しました。



4

用紙色の有無（「無しの場合は透明）を選択します。[用紙色]チェックボックスをクリックして用紙色ありにし、隣りのカラーボックスをクリックすると、[色の設定]ダイアログが表示されます。
そこから用紙色を選択します。初期設定の白色のままにしました。これらを設定して[OK]をクリックします。

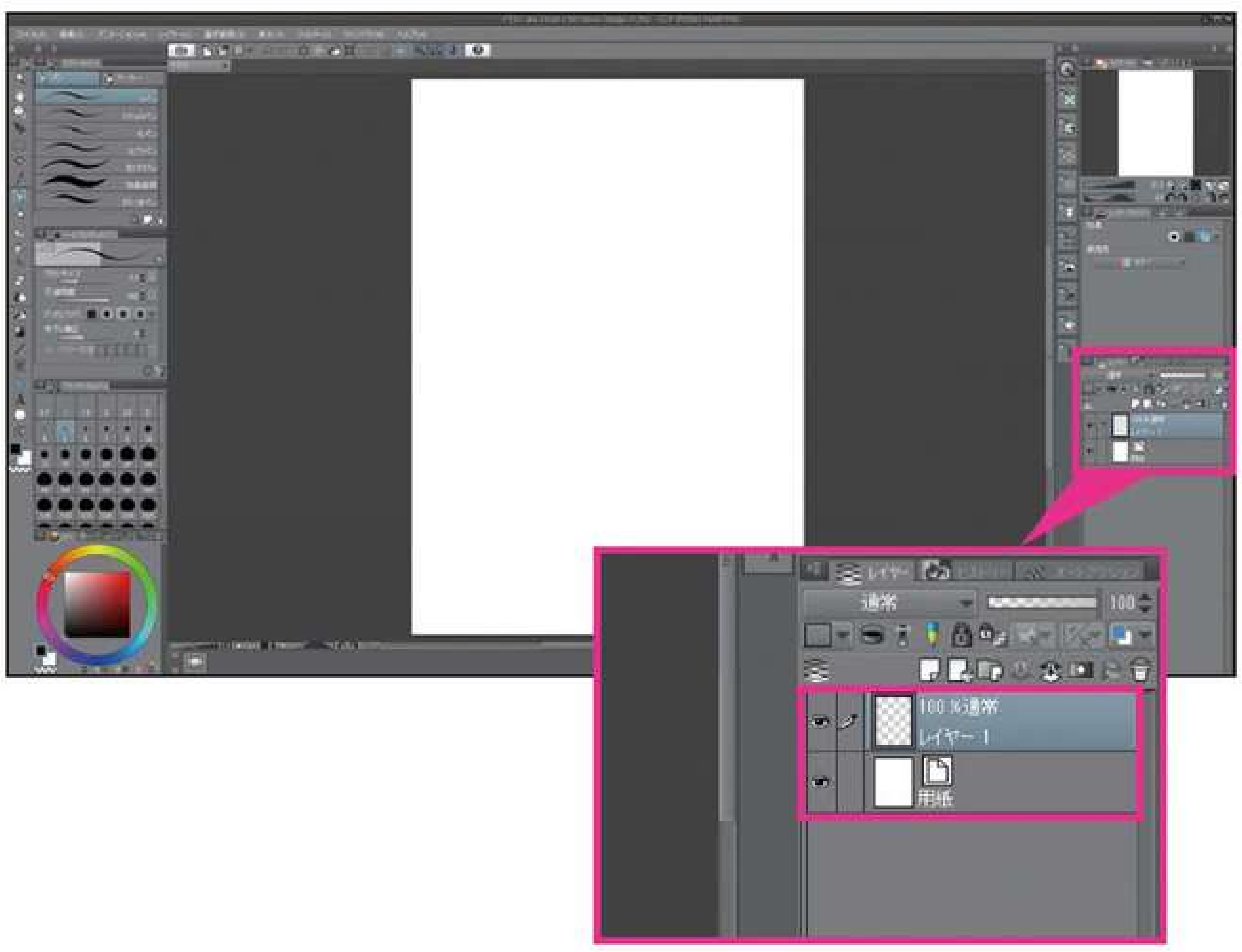


Memo

RGBでは数値が「255」で白、「0」は黒になり、CYMKでは「0」で白、「100」で黒になります。

5

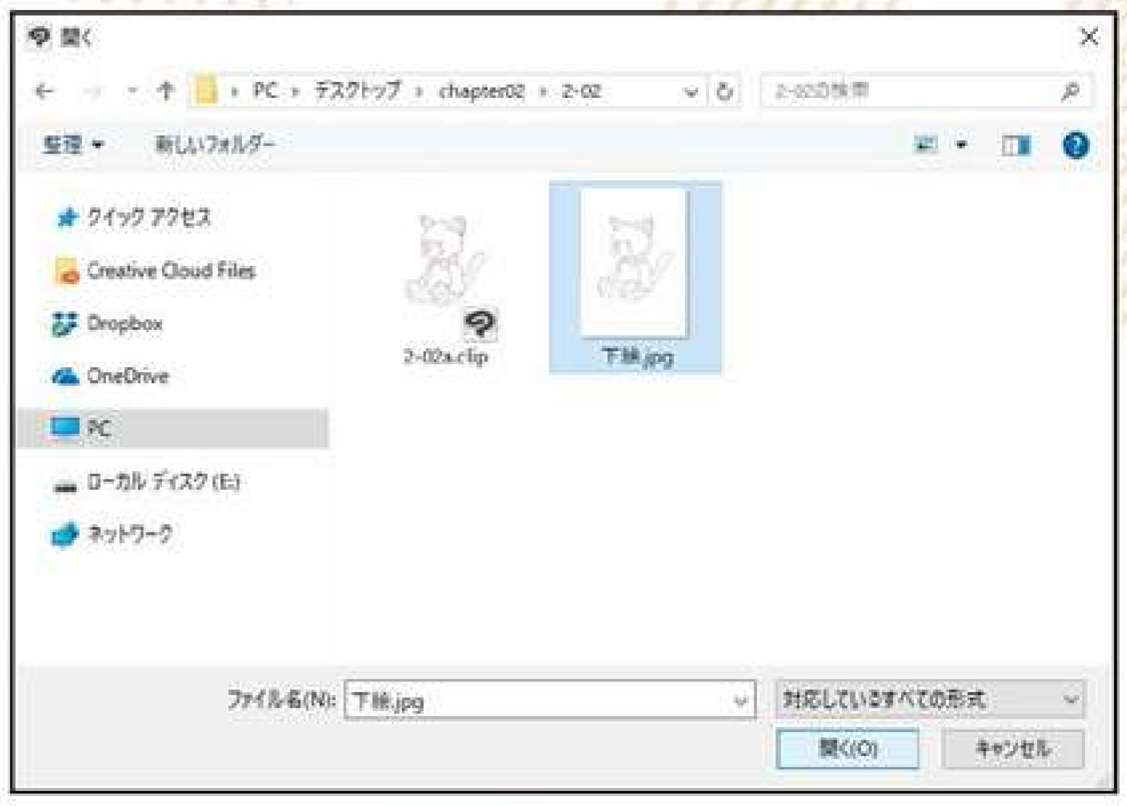
新規キャンバスが作成できました。



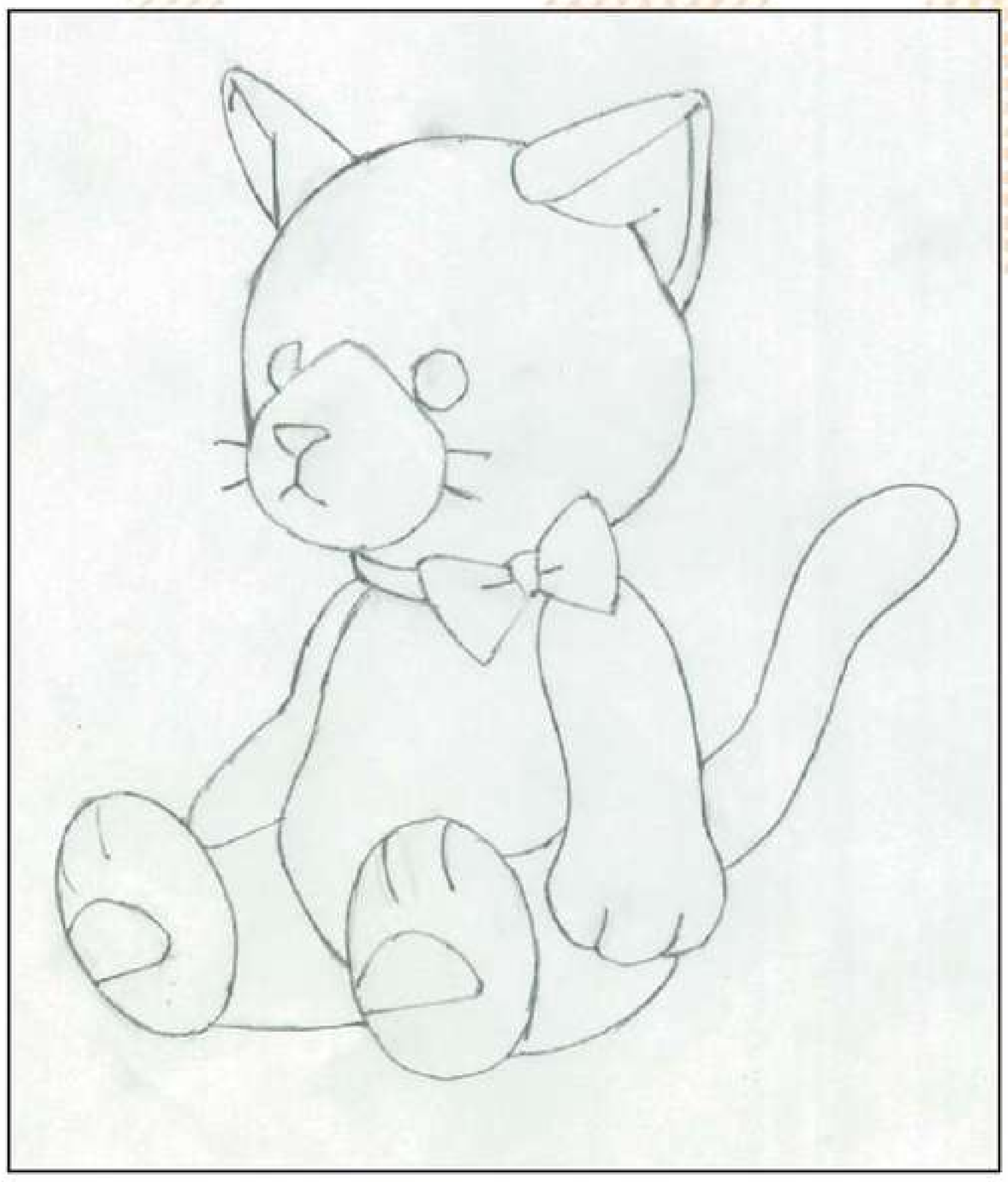
Memo

新規キャンバスを作成すると、白い「用紙」レイヤーと何も描かれていない「レイヤー1」のレイヤー構成になっています。

下絵を用意しよう



Before 下絵.jpg



After 2-02a.clip

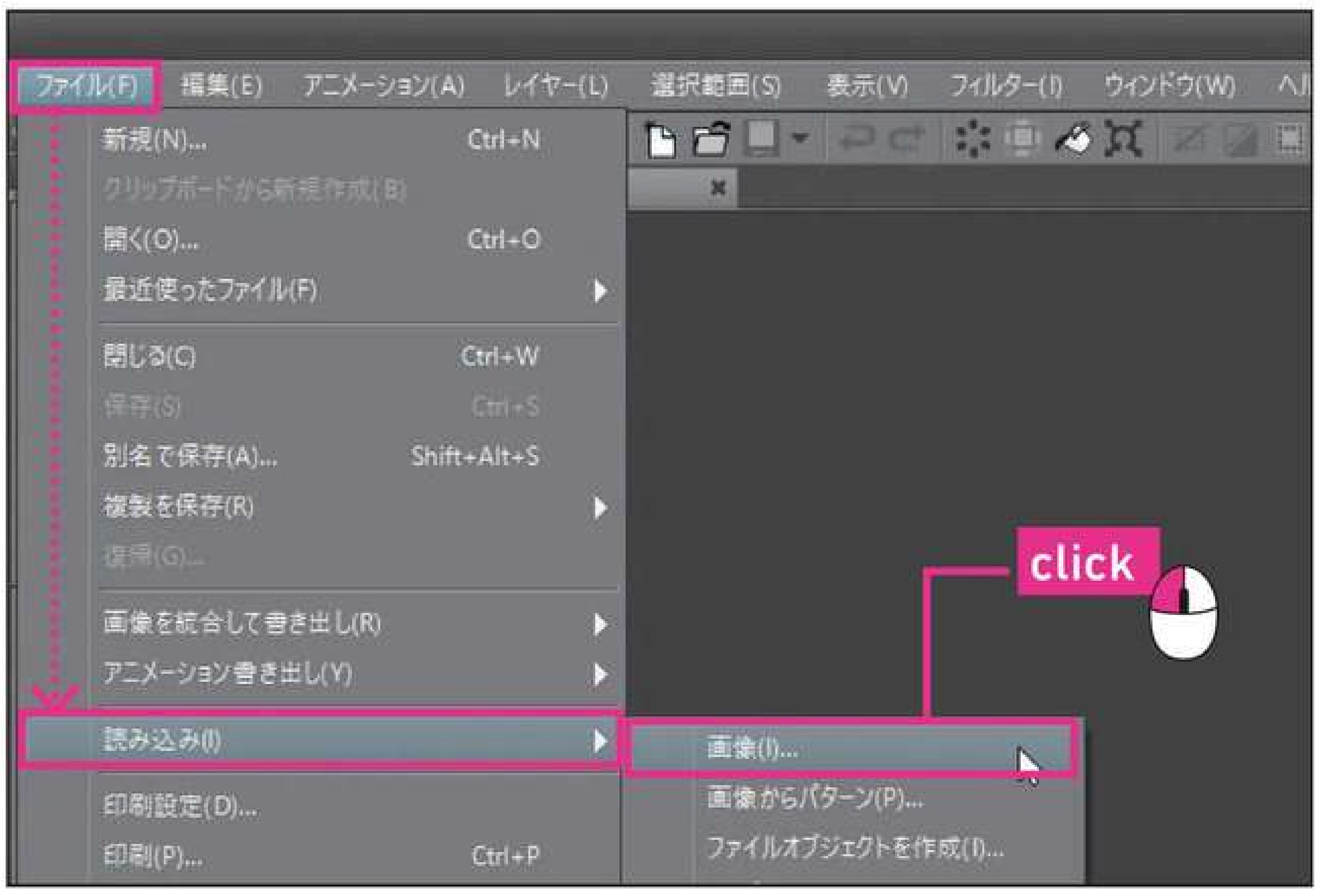
ここでは下絵になるイラストの準備をします。手描きのイラストを読み込み、取り込んだファイルを下絵用に調整しましょう。

Step 01 手描きのイラストを読み込む

手描きの画像を読み込みます。[ファイル]メニュー →[読み込み]→[画像]の順にクリックします。

Memo

本書では下絵用のファイルを用意しています。下絵が用意できない場合は、P.5を参照してお使いのPCにファイルを準備してから行いましょう。



2

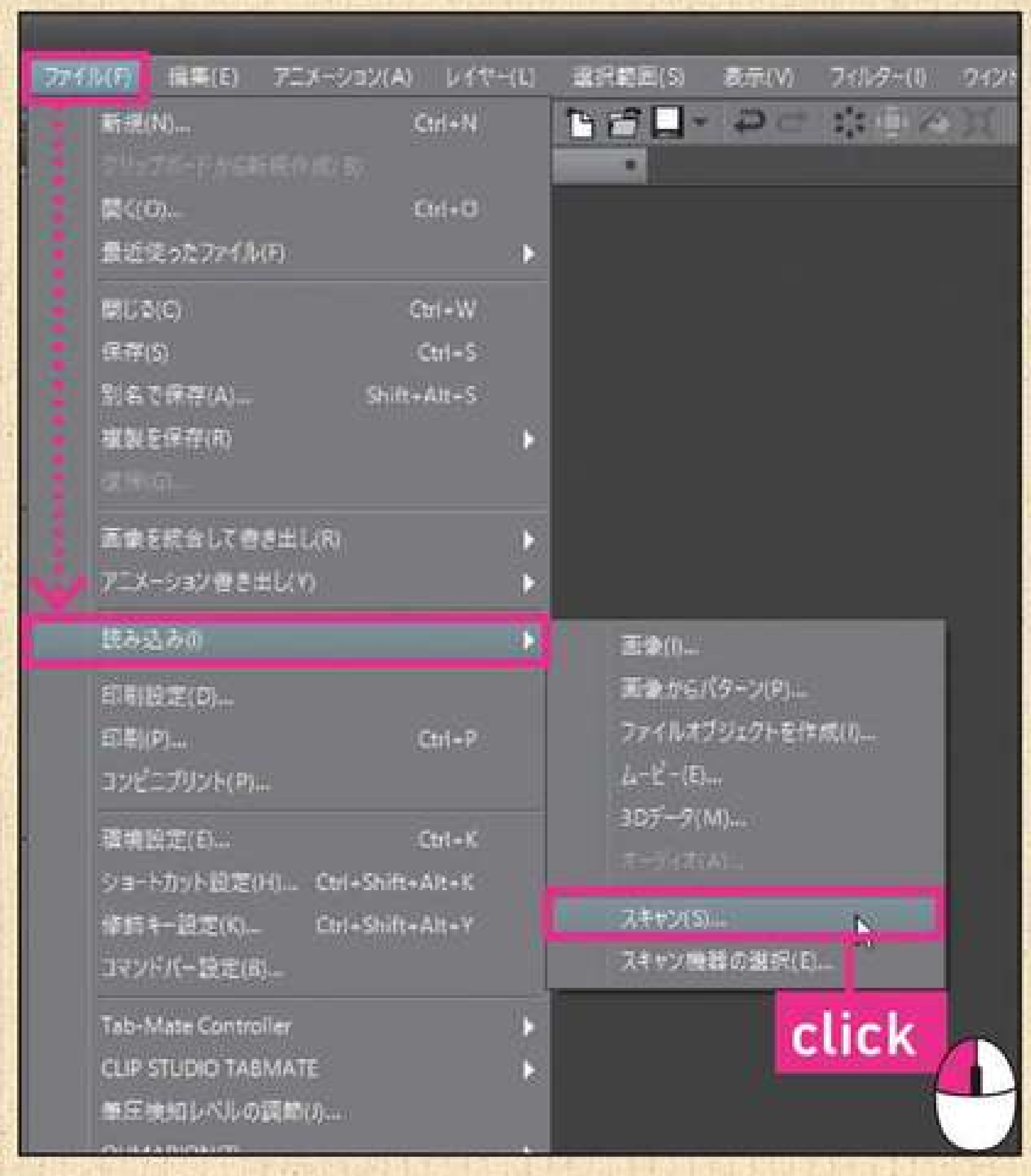
[開く]ダイアログが表示されます。該当のフォルダから、手描きの下絵のファイルを指定します(ここでは「Chapter02」>「2-02」フォルダ>「下絵.jpg」)。



Column

下絵をスキャンする場合

下絵をスキャンする場合は、「TWAIN32」対応ドライバに対応したスキャナが必要です。取り込み方法は、スキャナをPCに接続し、手描きの下絵をセットして[ファイル]メニュー →[読み込み]→[スキャン機器の選択]の順にクリックし、使用するスキャナを選択します。
続けて[ファイル]メニュー →[読み込み]→[スキャン]のスキャナの読み込みダイアログが表示されるので、解像度を指定してスキャンをし、下絵を取り込みます。用紙の解像度に合わせて「350dpi」にしました。各項目を設定して読み込みます。
スキャナの詳しい操作および設定については、お使いの機器に付属のマニュアルをご確認ください。

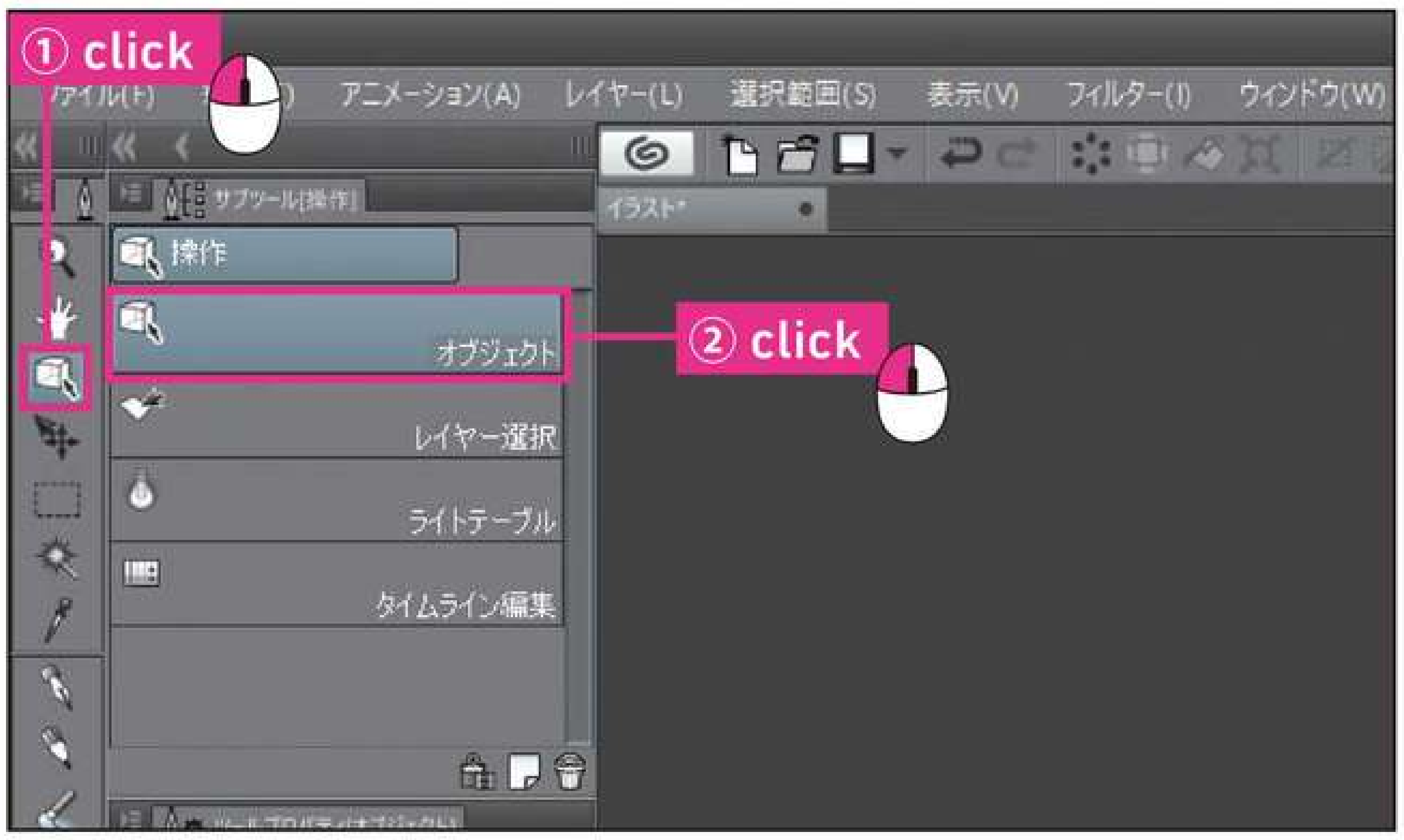




Step 02 位置や大きさを調整して配置する

1

［ツール］パレットの［操作］ツールをクリックし、［サブツール］パレットから［オブジェクト］を選択します。

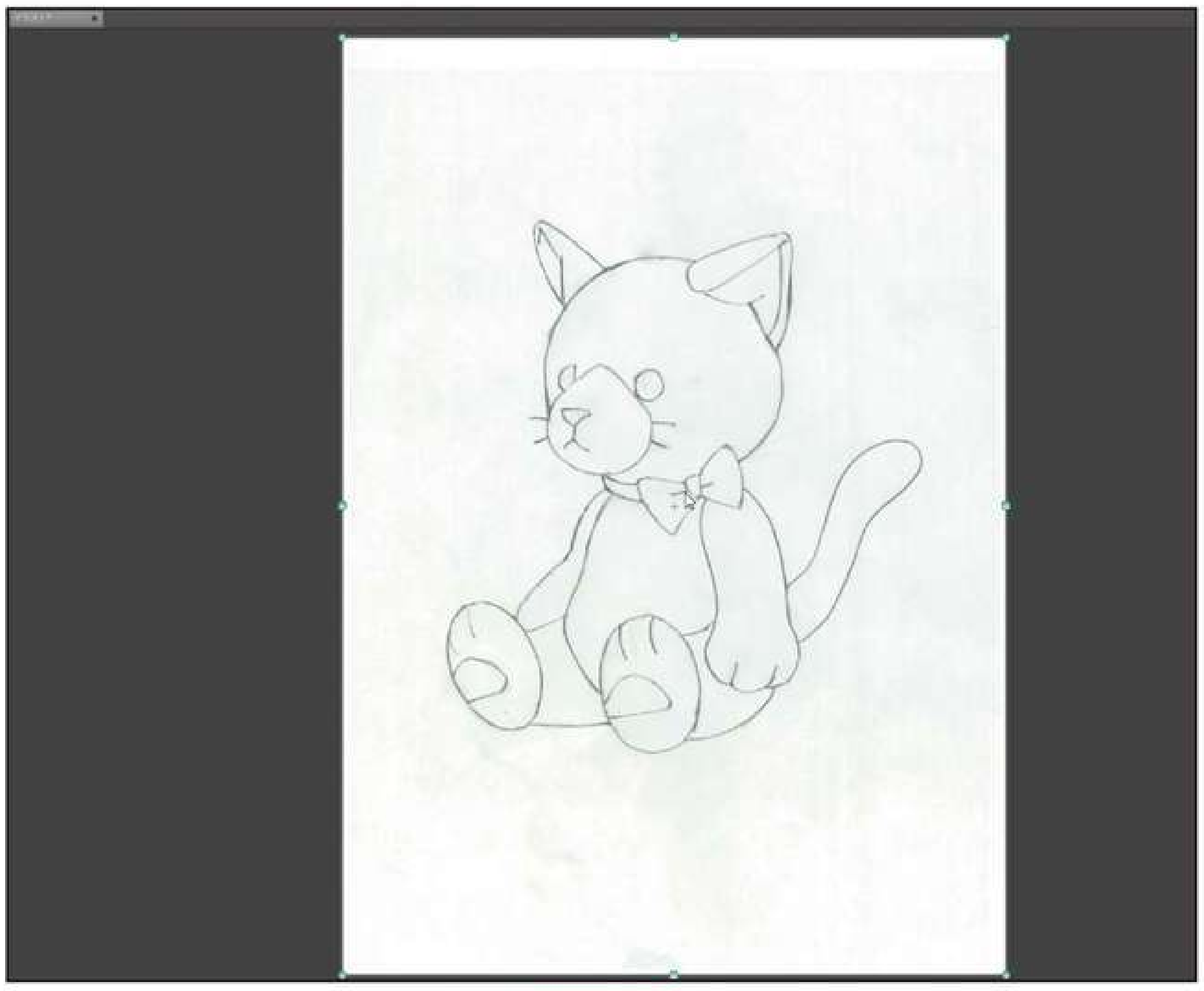


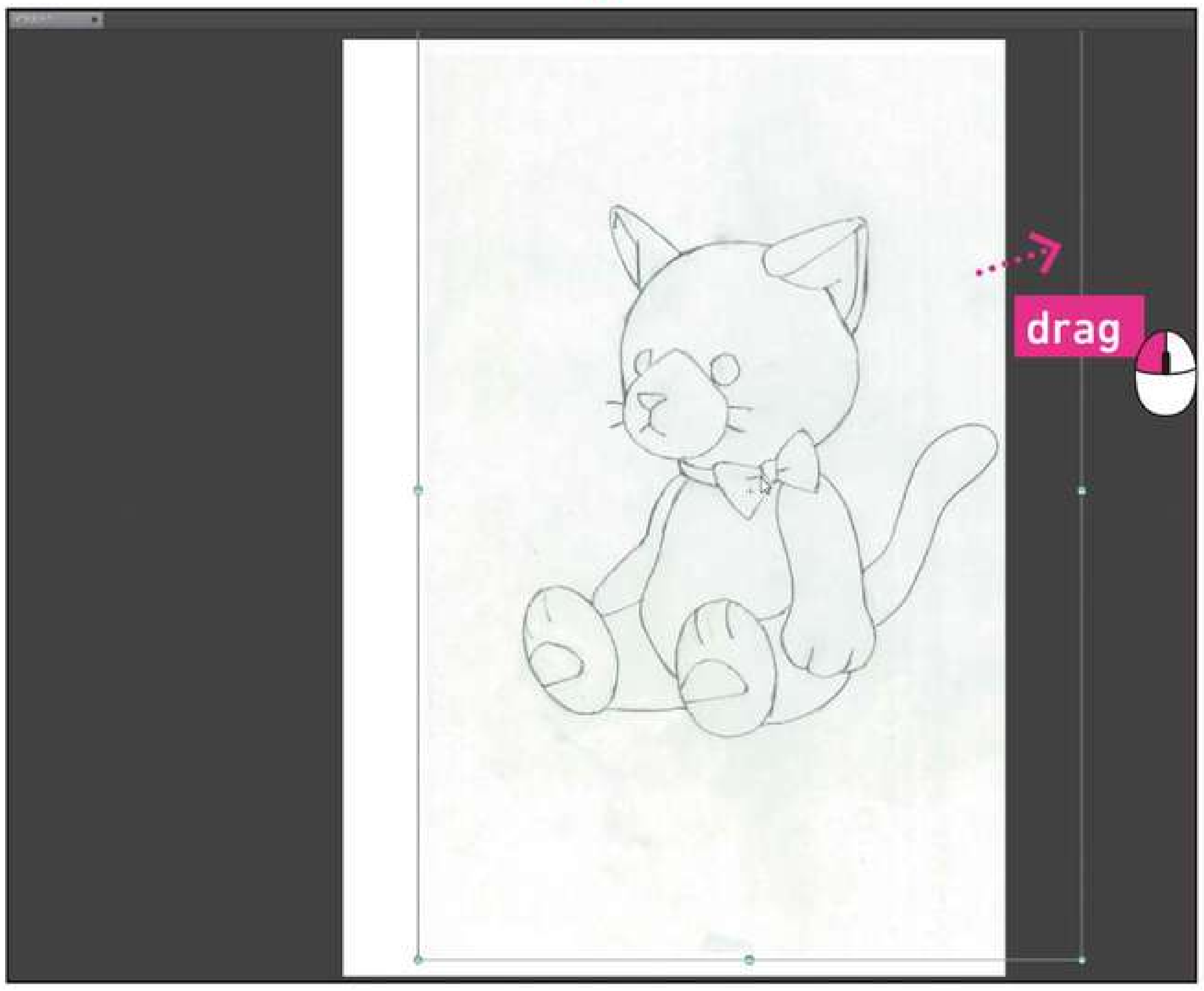
Memo

画像を読み込んだ直後は、これらが選択された状態になっています。

2

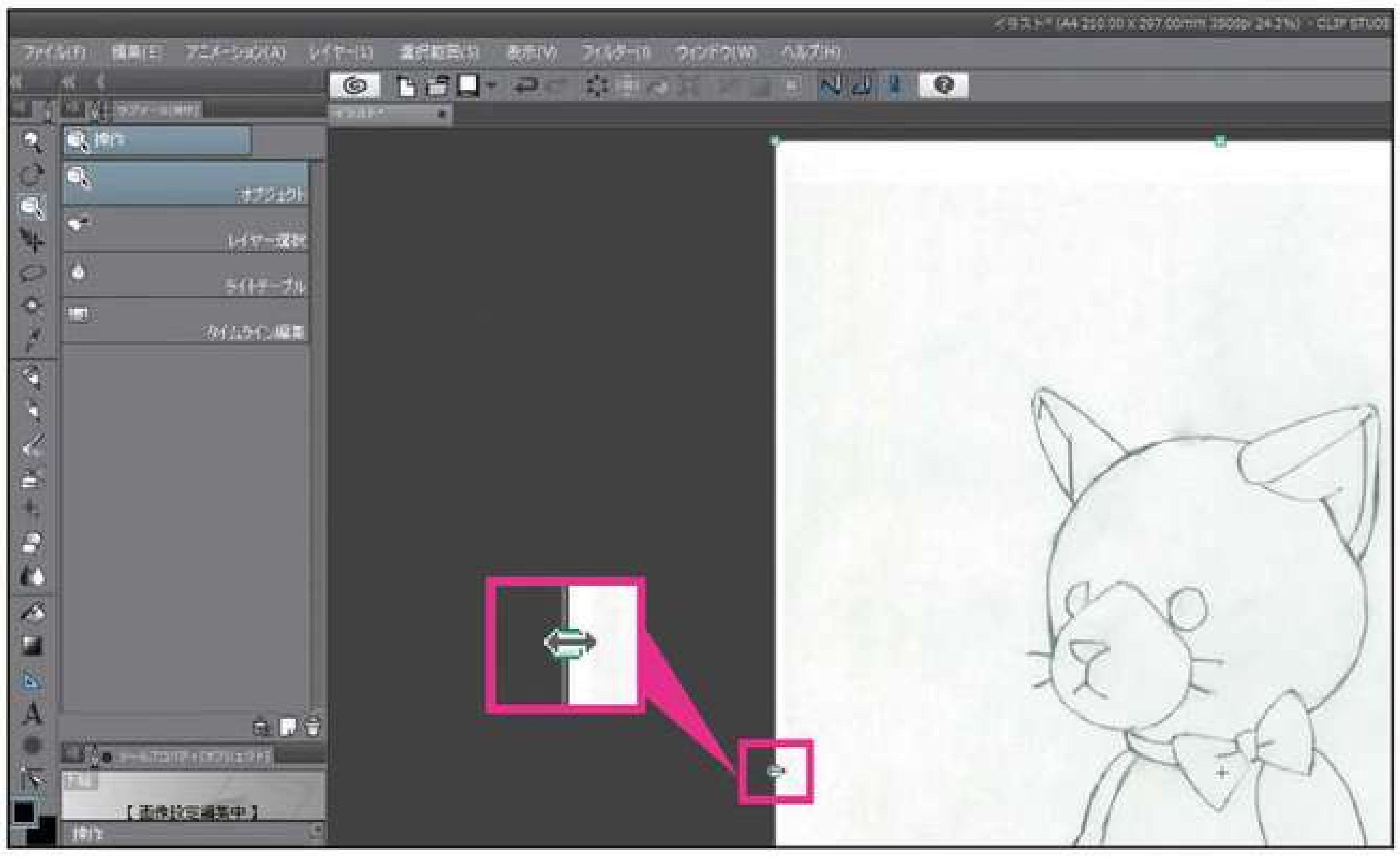
読み込んだ画像をドラッグすると位置を移動させることができます。

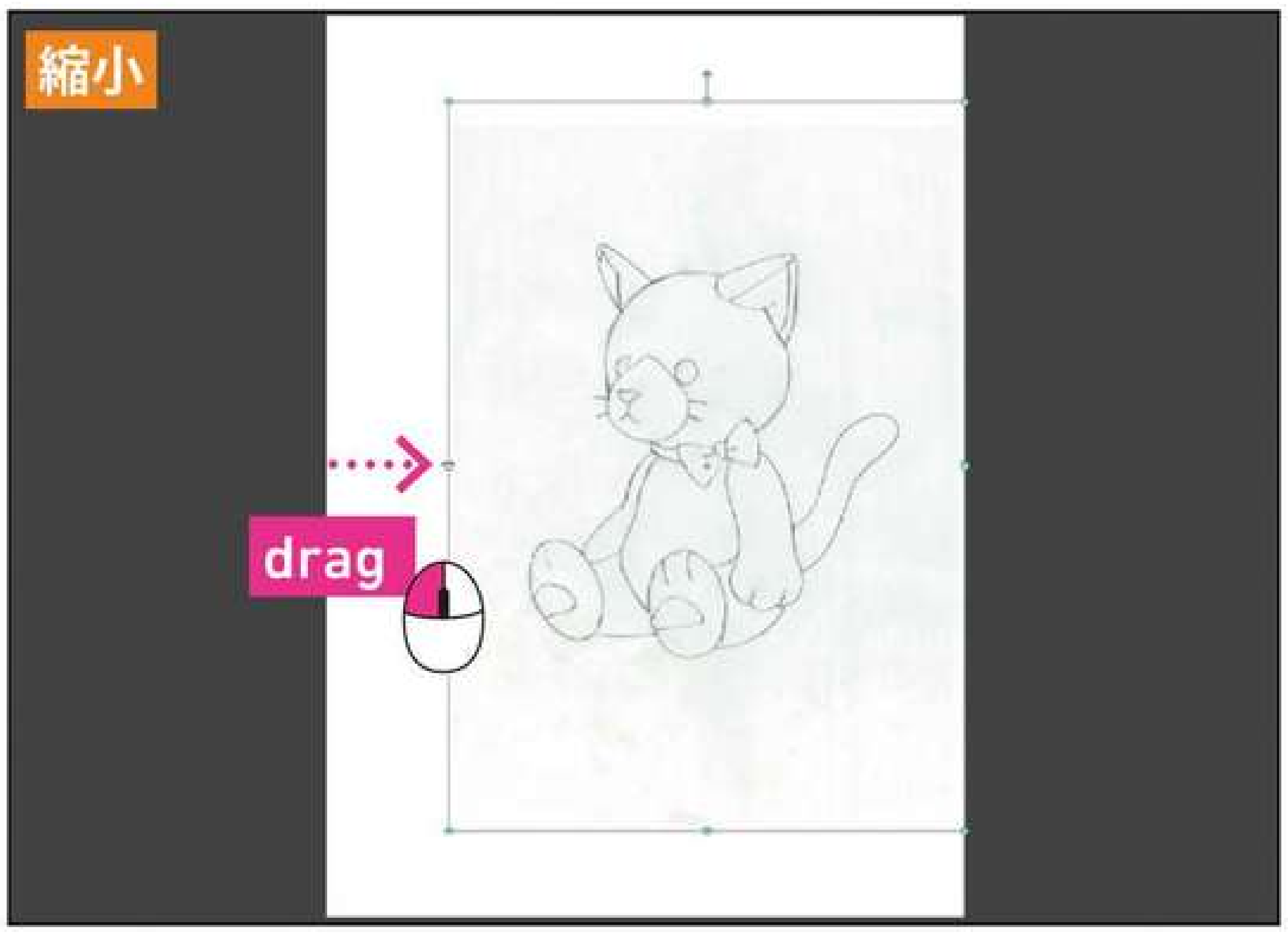




3

画像の四隅にある丸（または各辺の中心にある四角）にマウスカーソルを合わせると↔に変わります。この状態でドラッグすると、画像を拡大・縮小することができます。

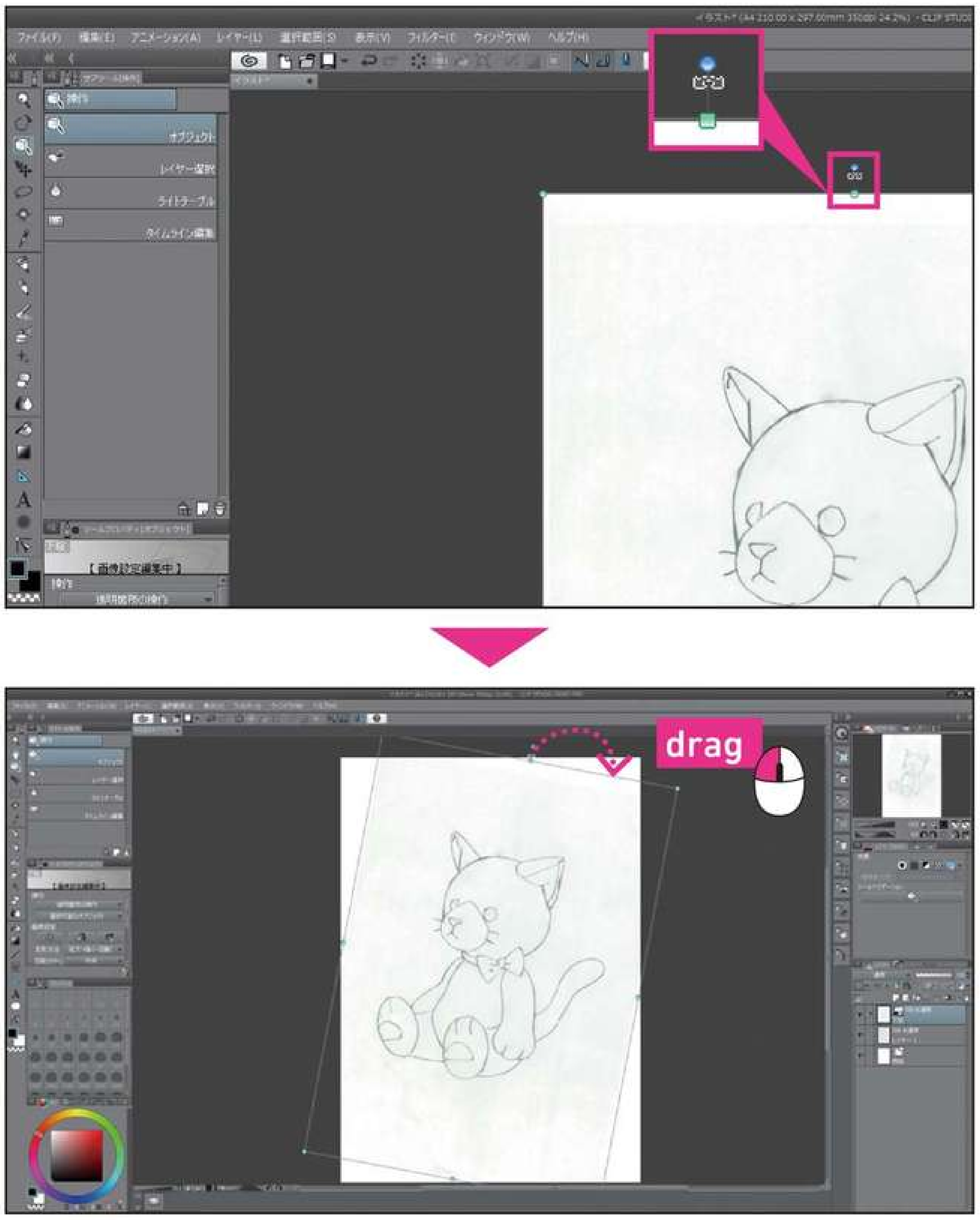




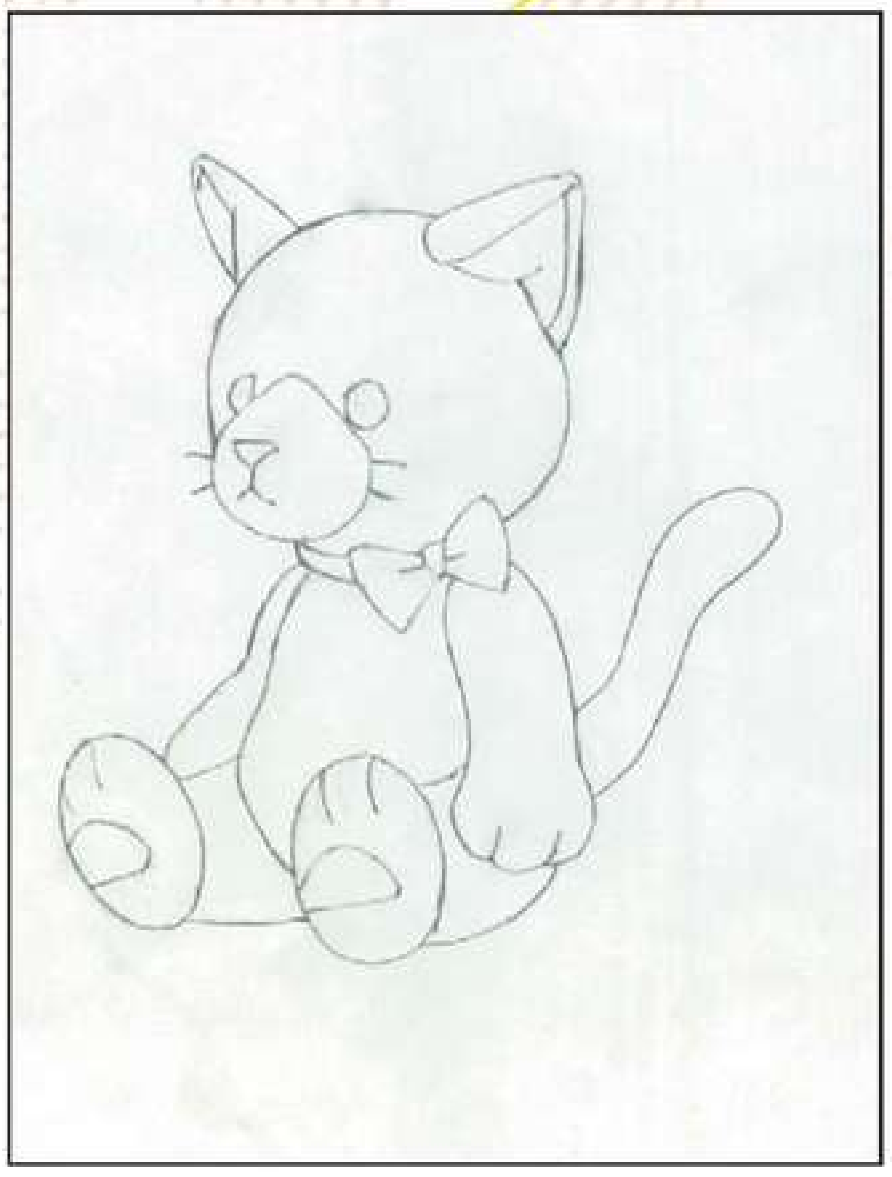


4

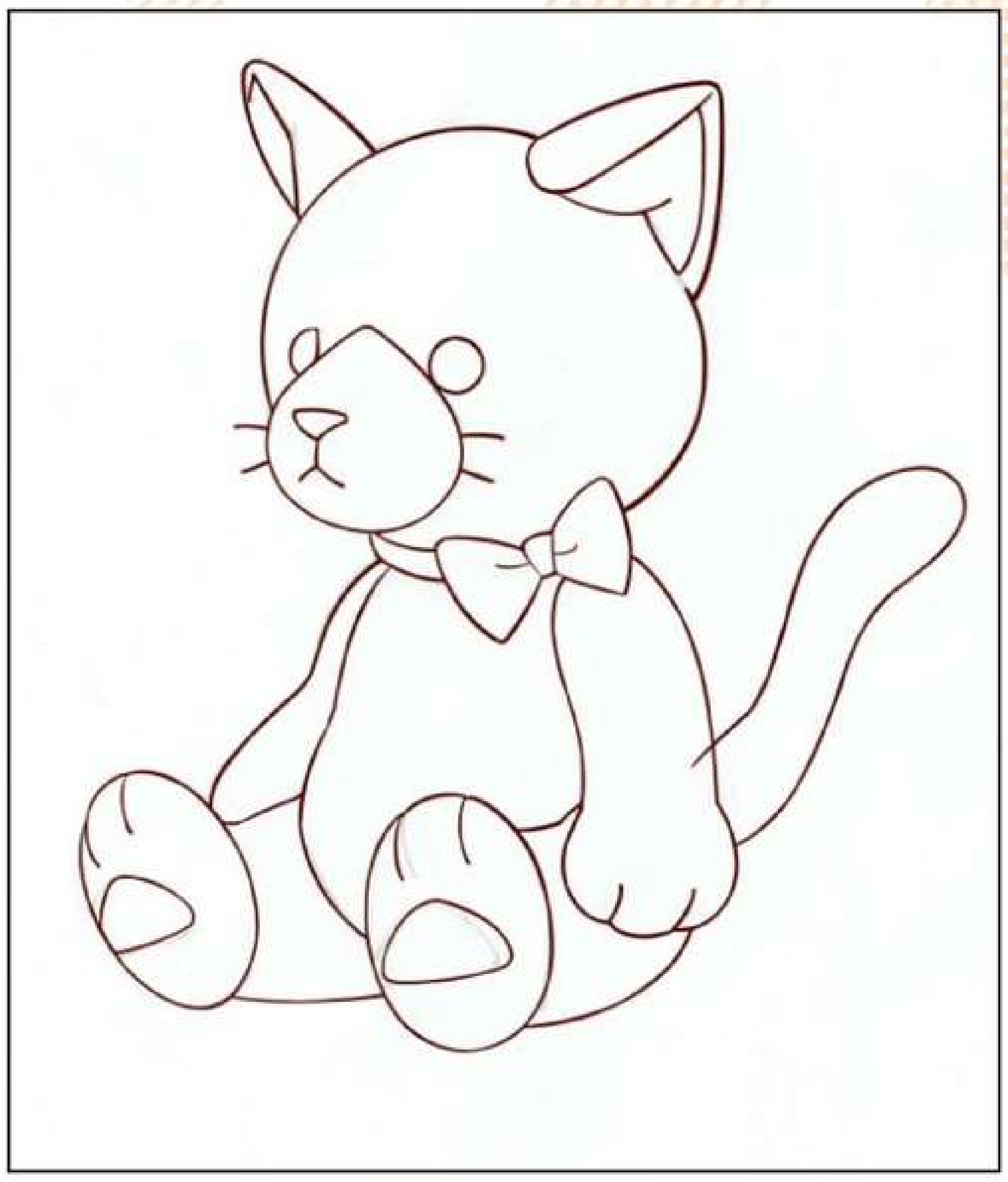
線と青い丸にマウスカーソルを合わせてドラッグすると回転させることができます。
今回は調整する必要がなかったので読み込んだ画像ままの状態（*Step01*の状態）で次に進みます。



線画を描こう



Before 2-03.clip

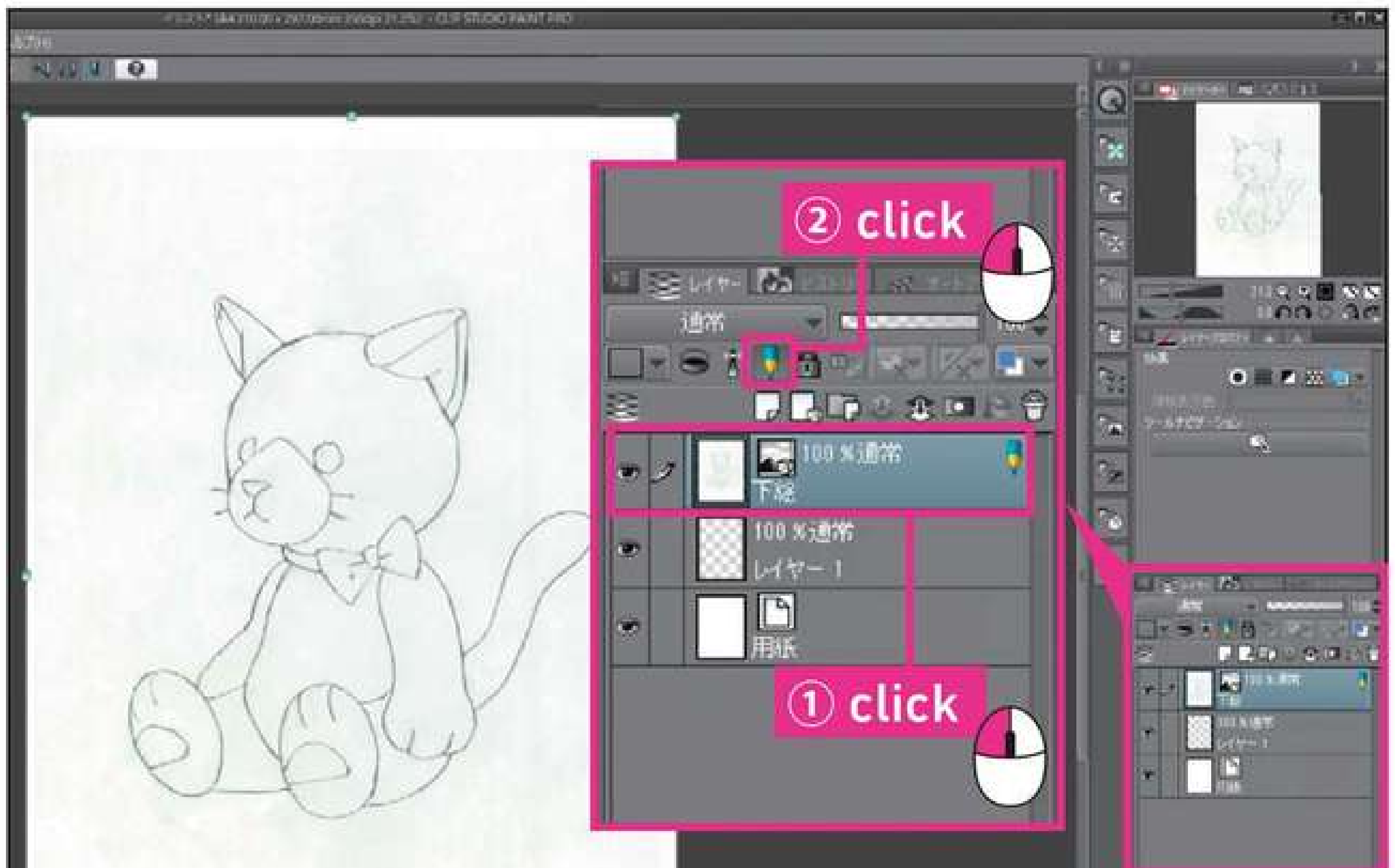


After 2-03a.clip

描画ツールや色を選択し、用意した下絵をもとに線画を描きます。

Step 01 レイヤーの準備をする

「下絵」レイヤーをクリックして選択し、［下描きレイヤーに設定］ボタンをクリックします。

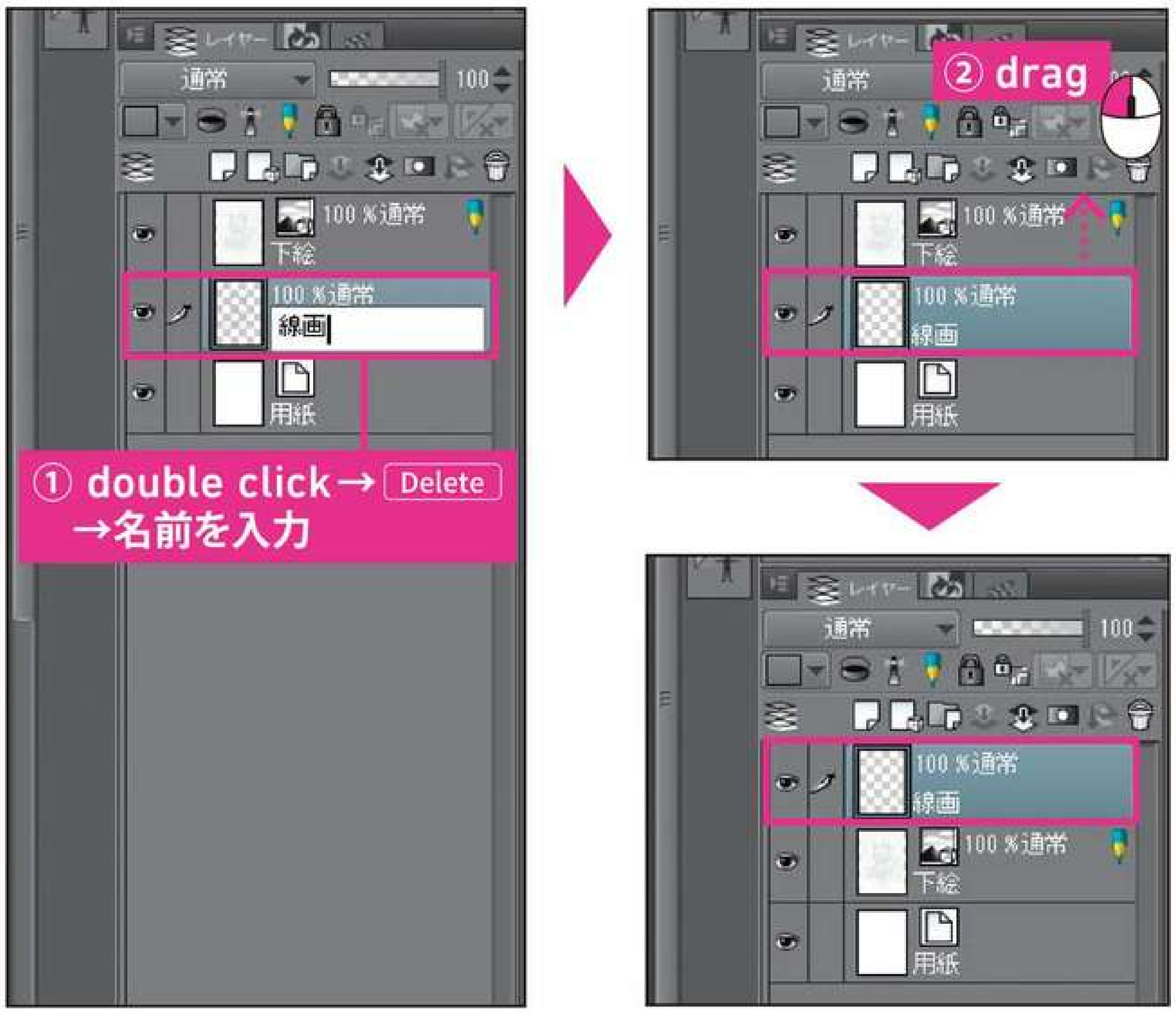


Memo

下描きレイヤーに設定しておくと、書き出しや印刷時に非表示になります。レイヤーを非表示にし忘れたりしても出力されることがないので設定しておくと良いでしょう。

2

まだ何も描いていない「レイヤー1」を線画を描くレイヤーとして使用します。
レイヤー名をわかりやすいように「線画」に変更し、「下絵」レイヤーの上に移動します。

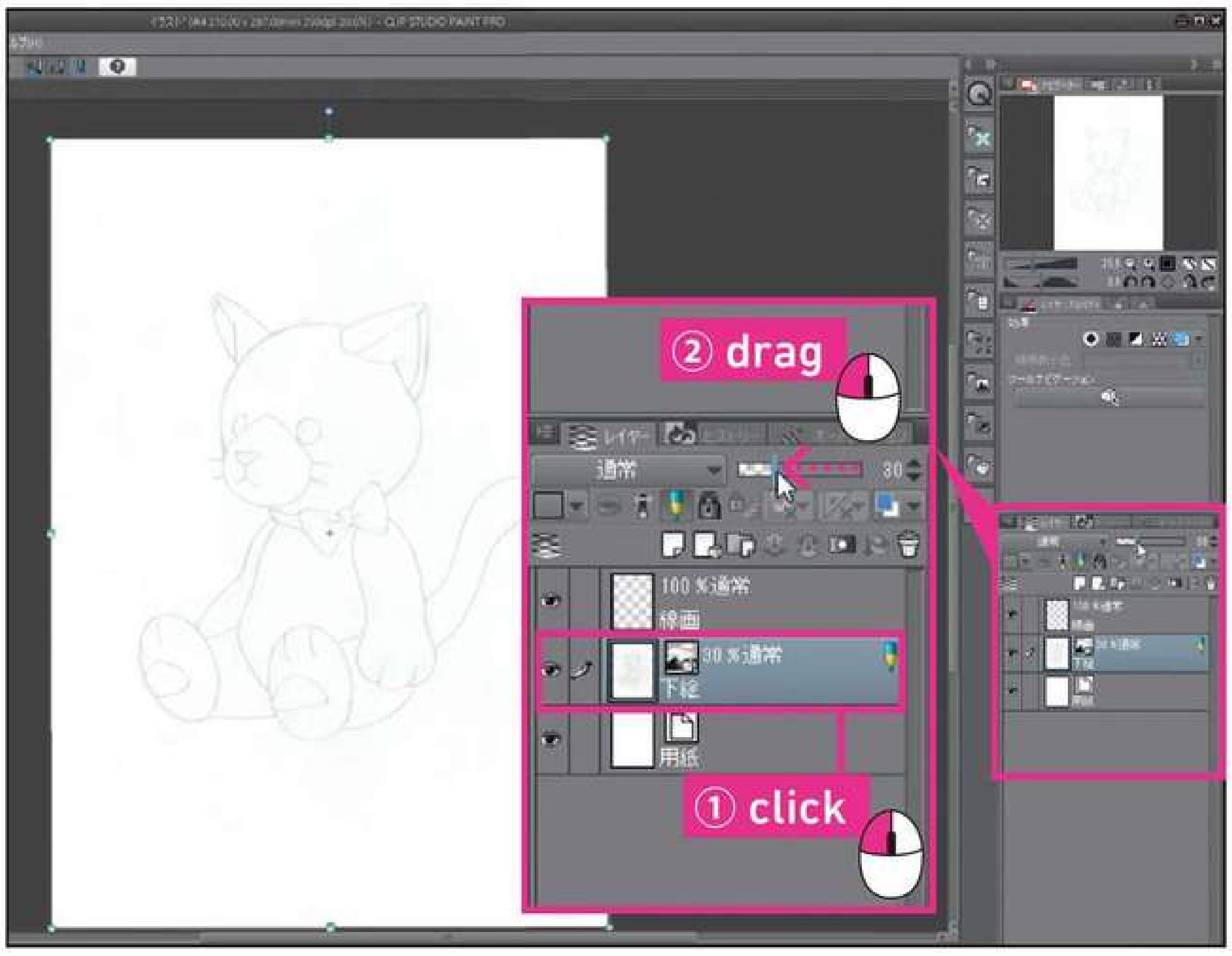


Memo

レイヤーの移動は、該当のレイヤーをクリックして選択し、移動したい場所の境目(太い線が表示されます)にドラッグします。

3

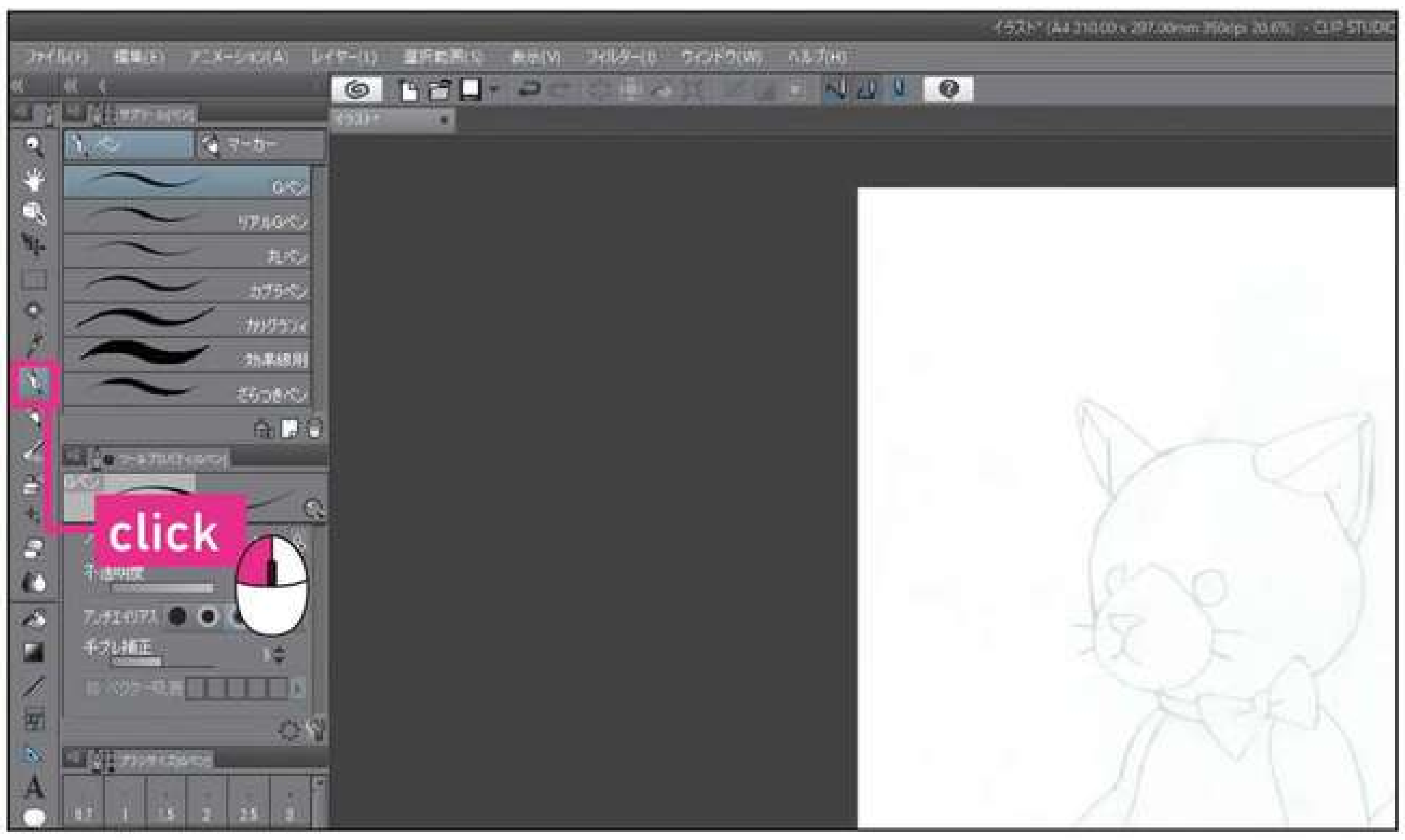
線画を描きやすいように「下絵」レイヤーの表示を薄くします。
「下絵」レイヤーを選択し、[レイヤー]パレットの[不透明度]のバーを左にドラッグして低くします。
ここでは[不透明度]を「30%」に設定しました。



Step 02 描画ツールを選択する

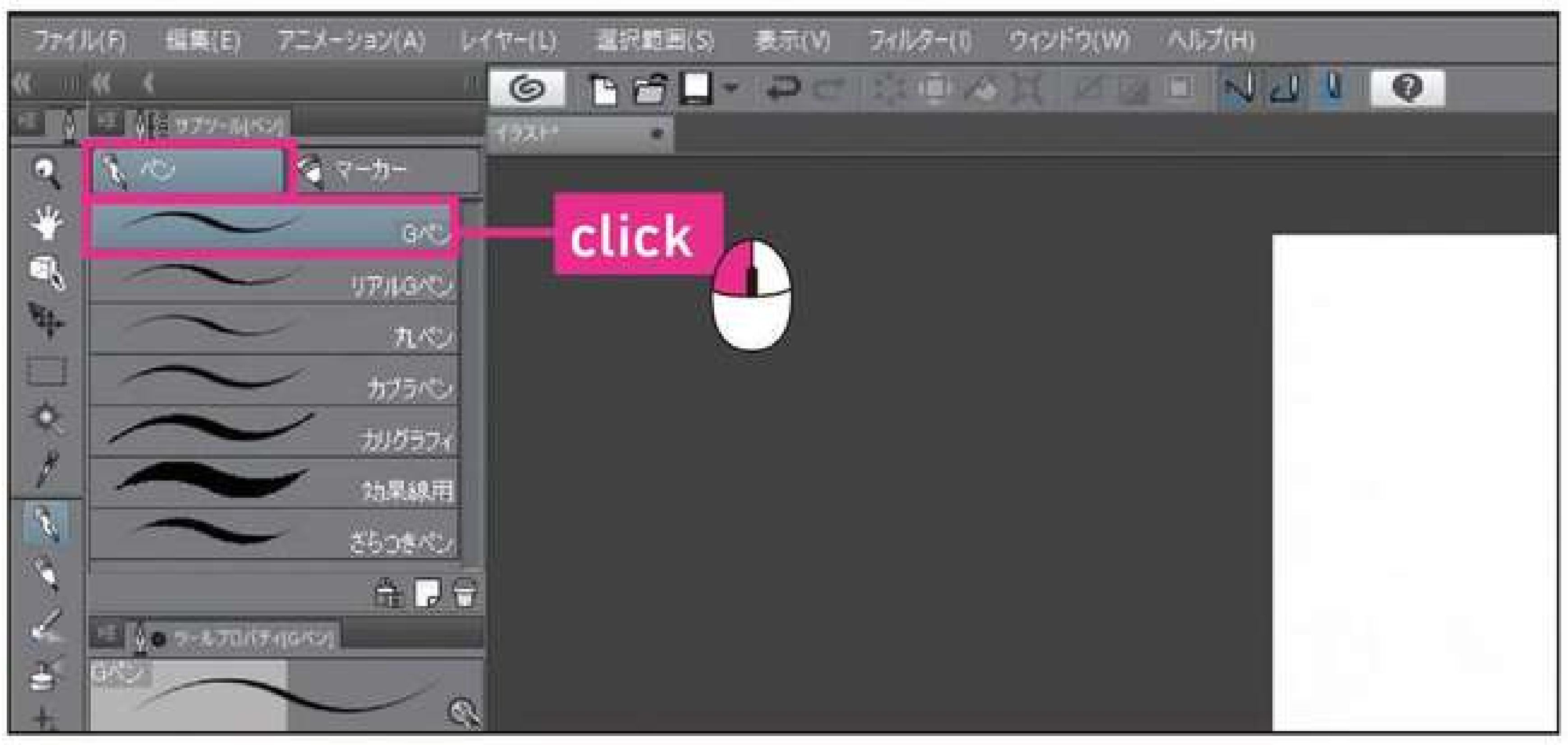
1

[ツール]パレットから線画を描くときに使用するツールを選択します。
ここでは[ペン]ツールを選択しました。



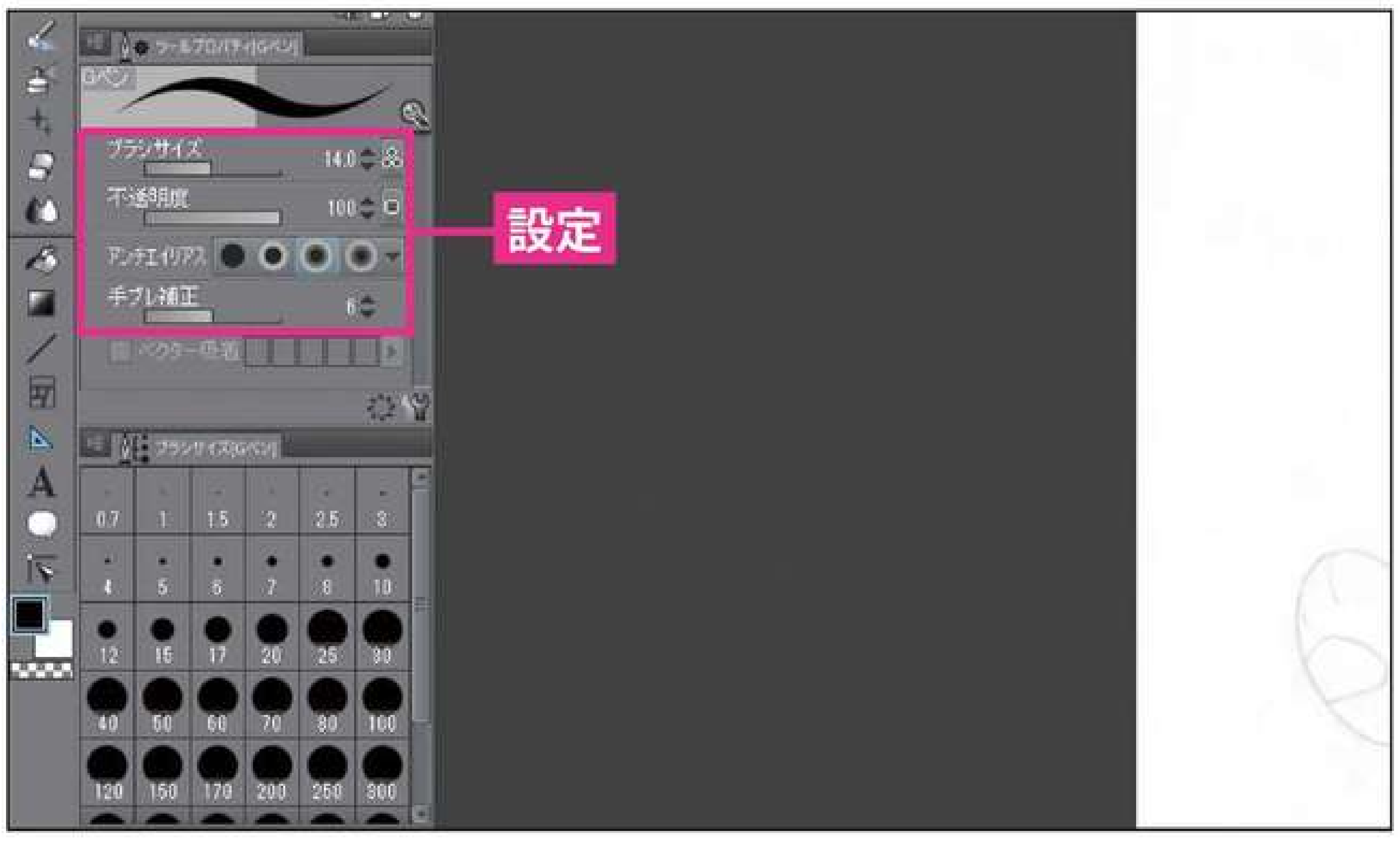
2

［サブツール］パレットからペンの種類を選択します。
ここでは［ペン］の［Gペン］を選択しました。



3

［ツールプロパティ］パレットでサイズや不透明度などを変更し、描きやすいように調整します。
ここではブラシサイズ「14.0pixel」、不透明度「100%」、アンチエイリアス「中」、手ブレ補正「6」に設定しました。

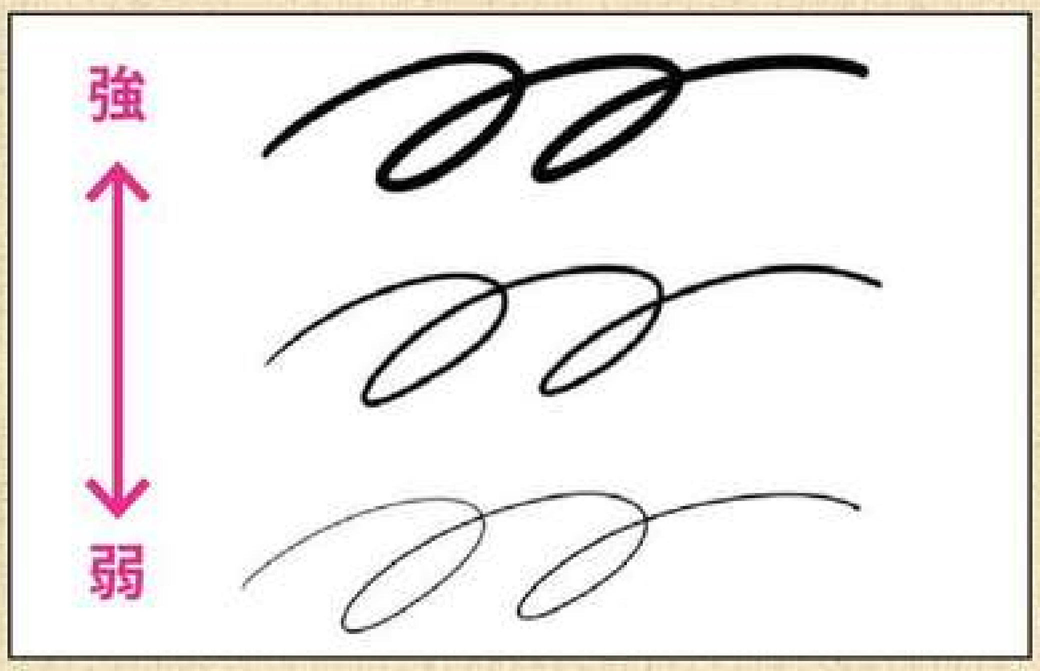


Column

［ツールプロパティ］パレット（ペン）の設定

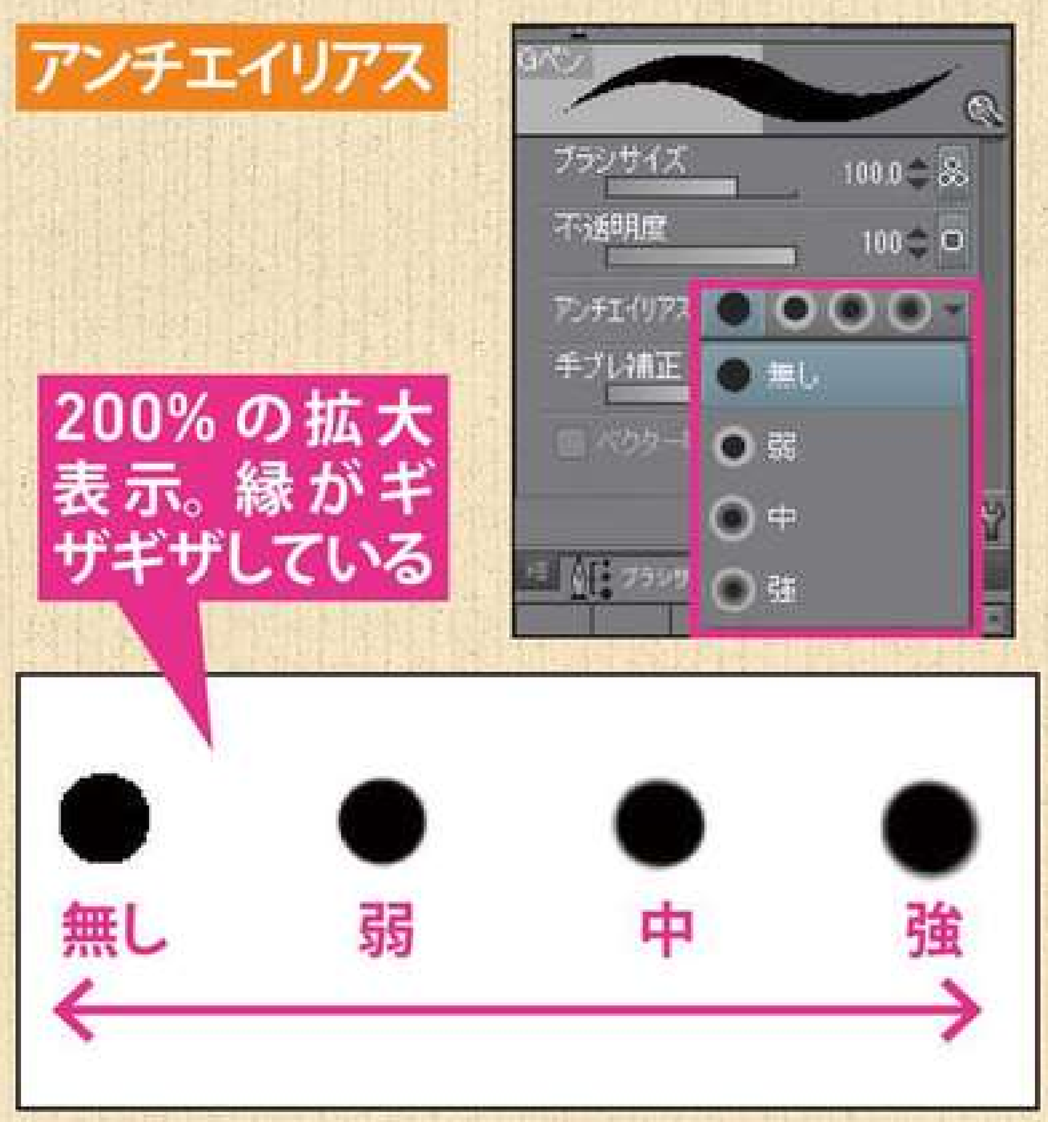
ペンを選択した場合の［ツールプロパティ］パレットでは、次のように設定を変更して描くことができます。描くイラストに合わせて設定を変更しましょう。

項目	内容
ブラシサイズ	バーを左右にドラッグして大きさを変更します。左にドラッグすると細く、右にドラッグすると太くなる
不透明度	バーを左右にドラッグして濃さを変更します。左にドラッグすると薄く、右にドラッグすると濃くなる
アンチエイリアス	アンチエイリアスのかかり方を4段階から選べる（※アンチエイリアスとはピクセルのギザギザをなめらかに描写すること）
手ブレ補正	バーを左右にドラッグして手ブレ補正の強さを変更できる。左にドラッグすると補正が弱く、右にドラッグすると強くなる



筆圧によって線の太さを変えることができる

アンチエイリアス

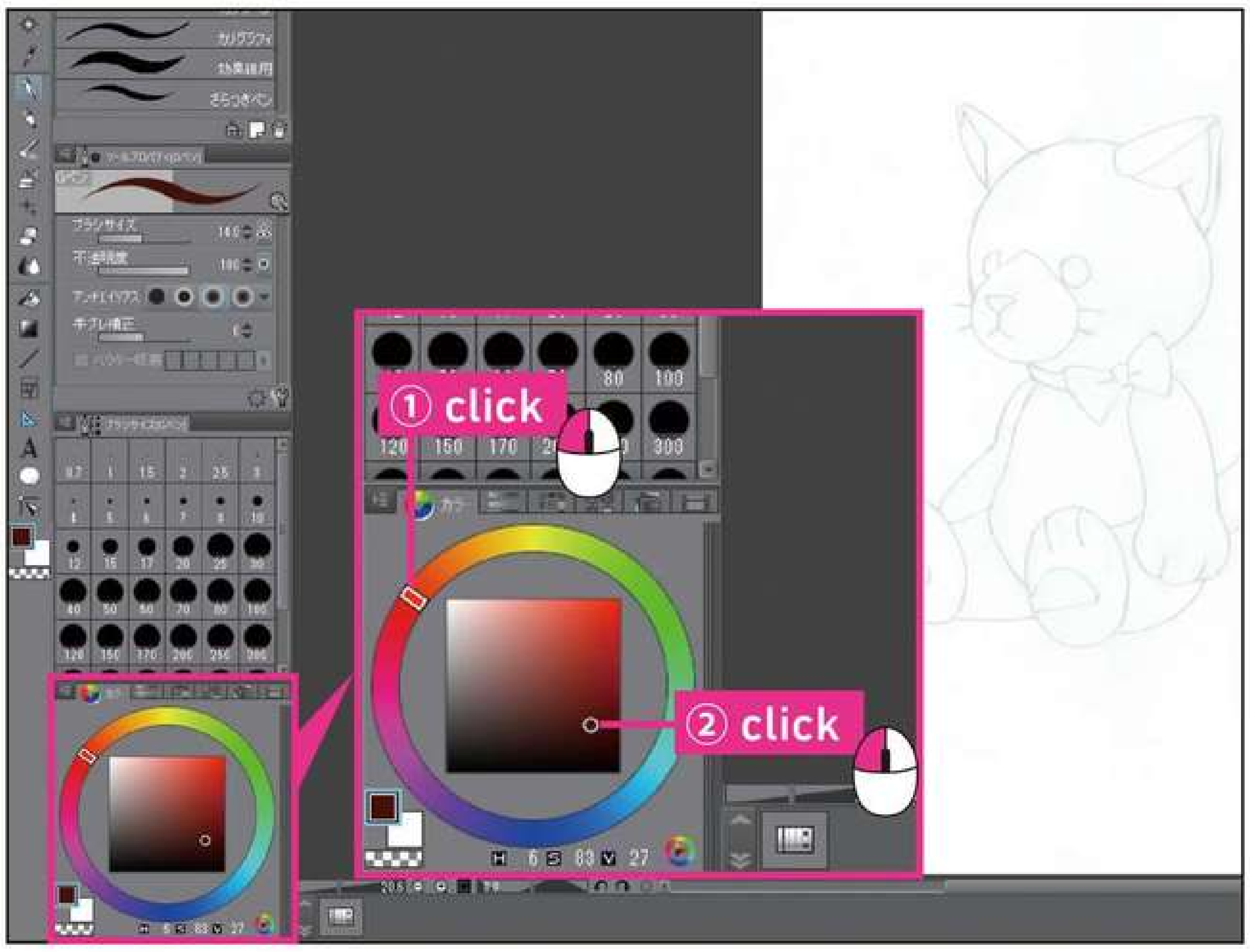


強くするほど縁がなめらかになる

Step 03 色を選択する

1

ここでは[カラーサークル]パレットで色を選択してみます。
ここでは濃い茶色を作りました。



Memo

本書と同じ色にしなくてもかまいません。好きな色を[カラーサークル]パレットもしくは、他の[カラー]パレットから選んでみましょう。

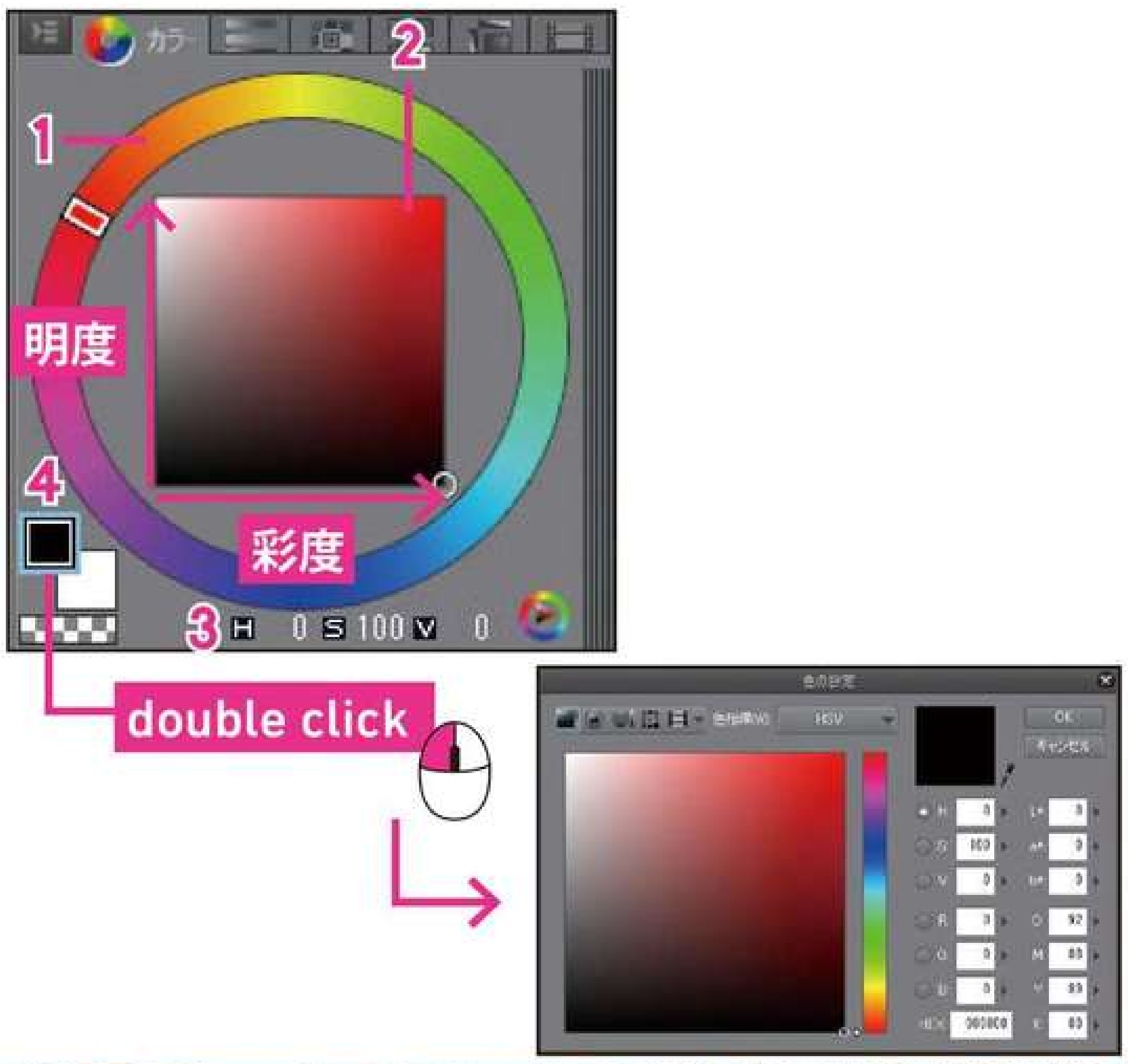
2

よく使う色はパレットに登録しておくと便利です。
[カラーセット]パレットを選択し、右下の[色の追加]ボタンをクリックします。
現在選択している色がパレットに追加されます。



Hint

[カラーサークル] パレットの使い方

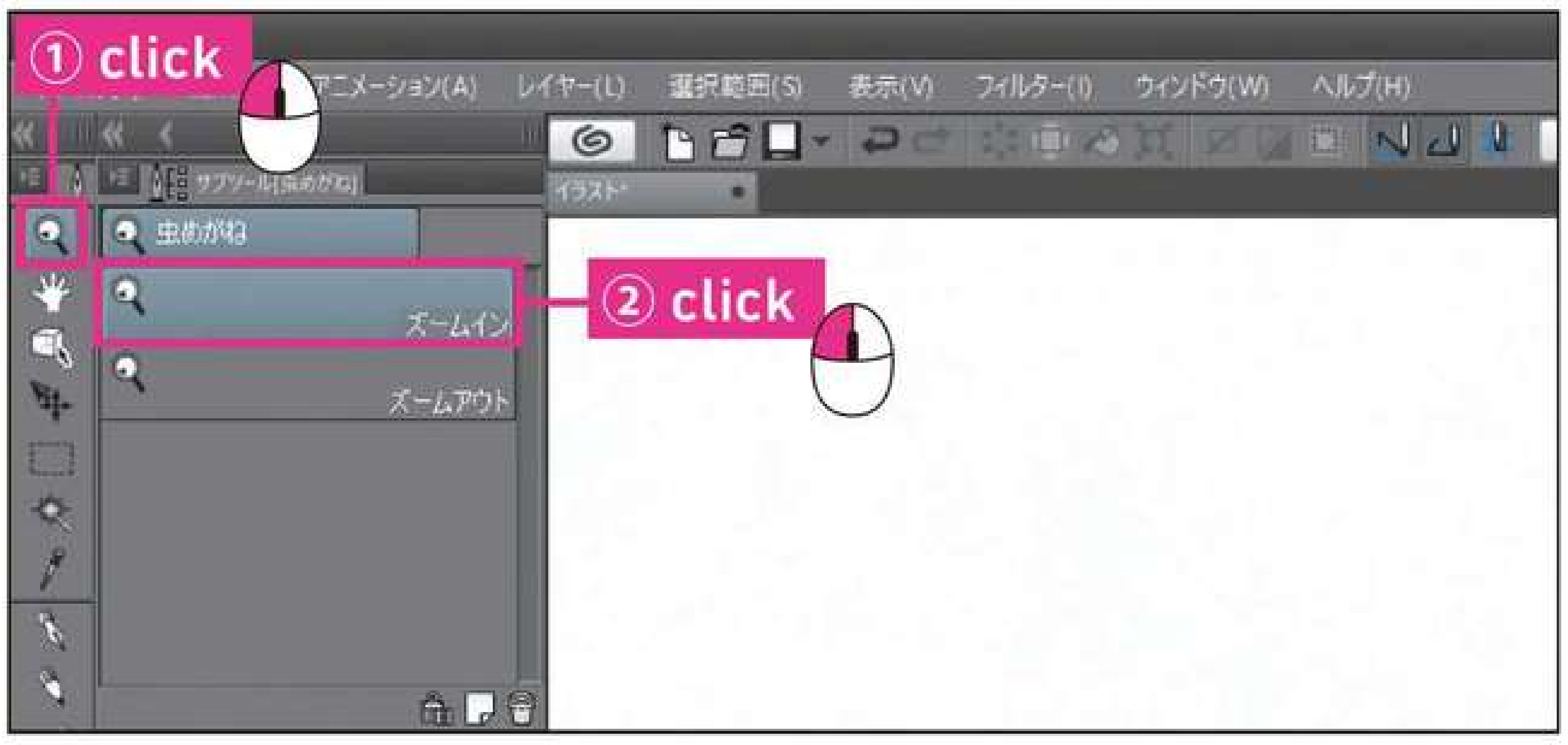


1 外側の円の部分では色相を選択できます。使いたい色に近い色相を選択してクリックします。
2 中心部の色空間では彩度と明度を選択できます。鮮やかさと明るさがグラデーションになっているので、ここから使いたい色を選択してクリックします。
3 選択している色の数値が表示されます。初期設定ではHSV値で表示されていますが、クリックするとRGB値に切り替えられます(本書ではHSV値で解説)。
4 カラーアイコンをダブルクリックすると、[色の設定]ダイアログが表示され、数値で色を指定することができます。メインカラー(上)、サブカラー(下)それぞれに色を割り当てられます。

Step 04 線画を描く

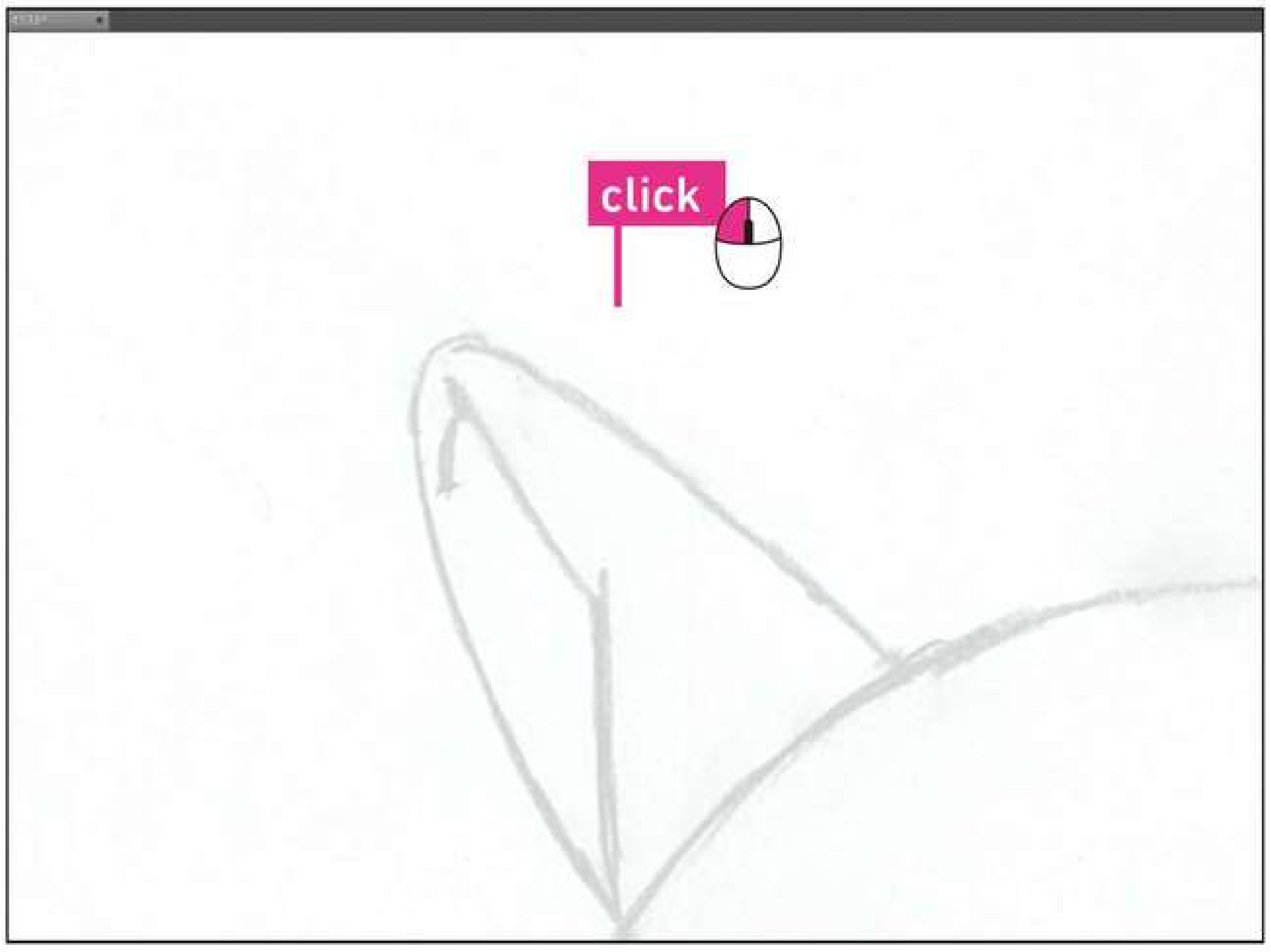
1

準備が整ったので、下絵をなぞって線画を描きます。
[ツール]パレットから[虫めがね]ツールをクリックし、[サブツール]パレットから[ズームイン]を選択します。



2

キャンバスを何度かクリックし、線が描きやすい大きさまで表示を拡大します。



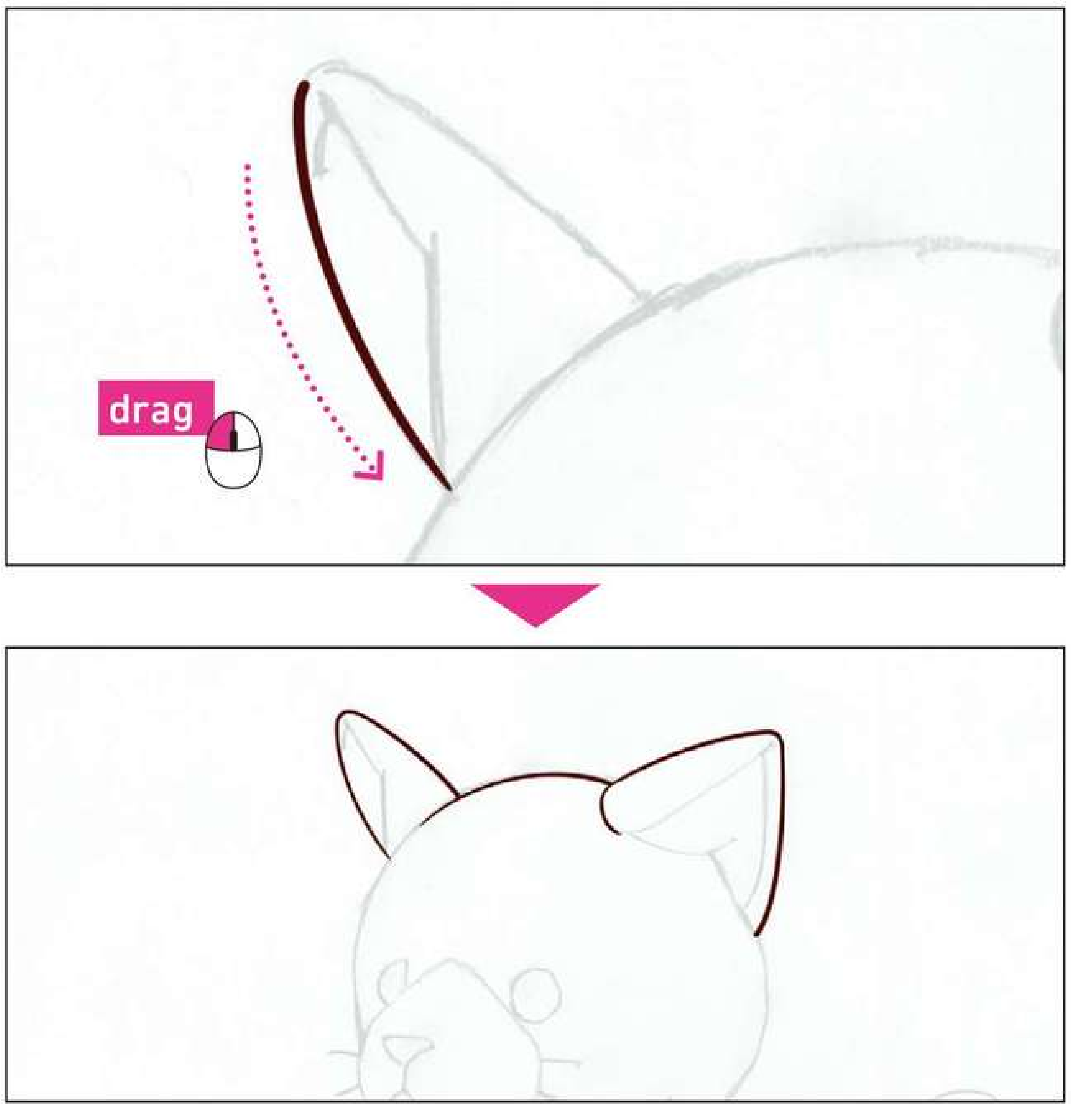
Memo

拡大と縮小はよく使うので、キーボードのショートカットを活用すると便利です。

ズームイン：Ctrl（command）＋＋キー
ズームアウト：Ctrl（command）＋－キー

3

設定したGペンで、[線画]レイヤーに下絵をなぞりながら線を描いていきます。



Memo

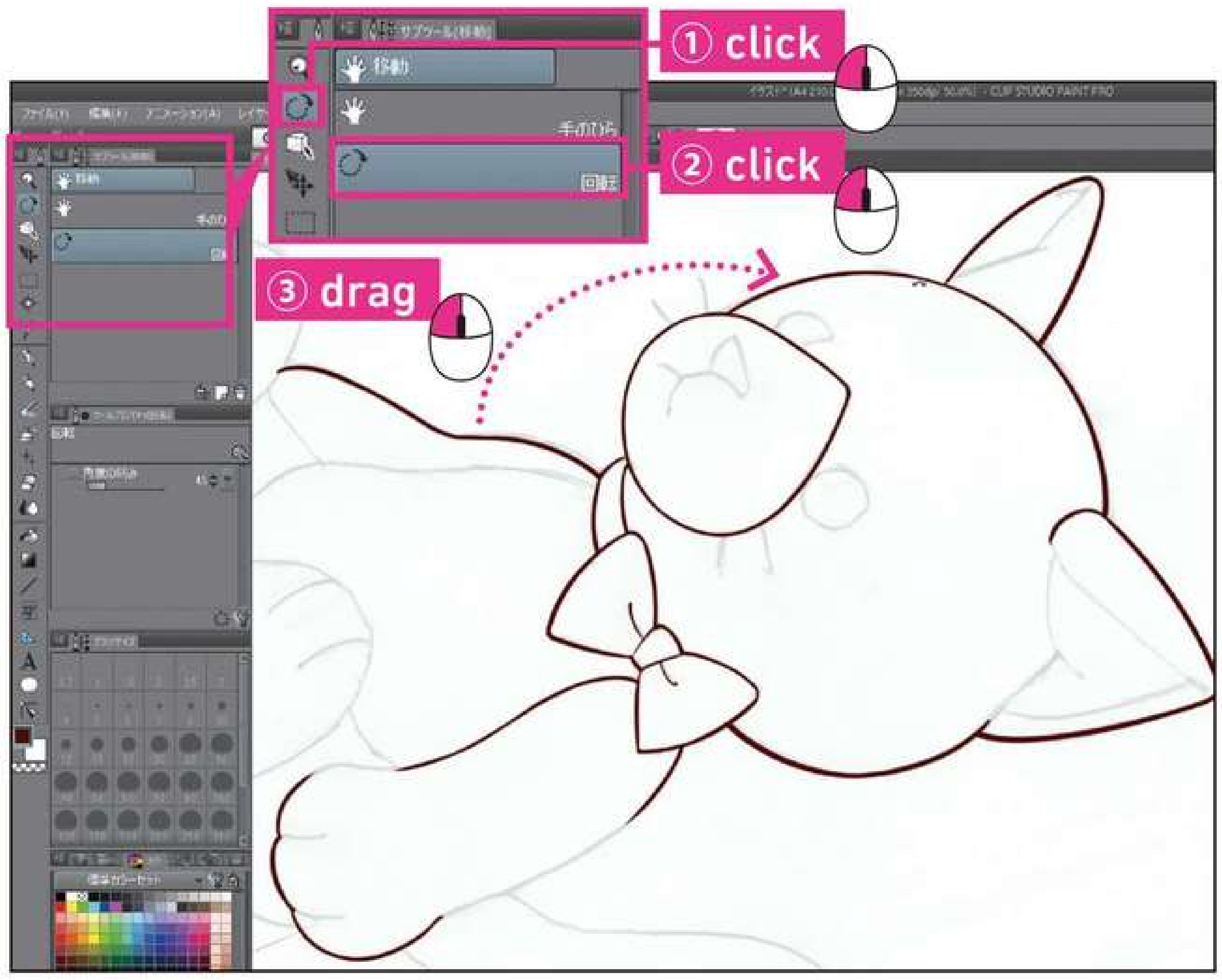
コマンドバーの[取り消し]アイコンをクリックすると、1つ前の状態に戻すことができます。[やり直し]アイコンをクリックすると、戻った操作を1つ進めることができます。取り消しとやり直しはよく使うので、キーボードのショートカットを活用すると便利です。

取り消し：Ctrl（command）＋Zキー
やり直し：Ctrl（command）＋Yキー

Step 05 キャンバスを回転しながら描く

1

線が描きにくいときは、キャンバスを回転させて描きます。[ツール]パレットの[移動]ツールをクリックし、[サブツール]パレットから[回転]を選択します。キャンバス上を傾けたい方向にドラッグし、回転させせます。



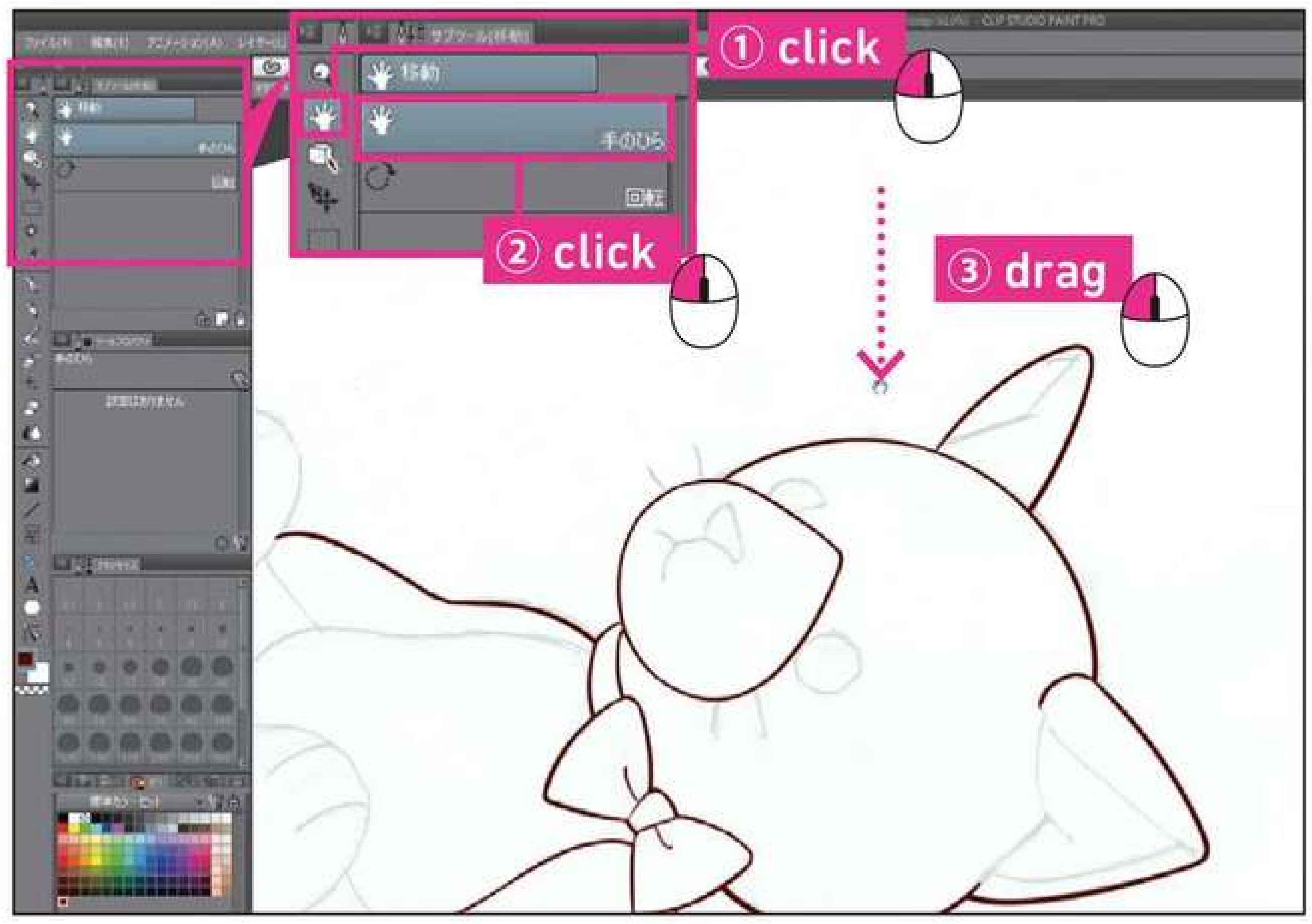
Memo

[回転]ツールのショートカットは次の通りです。

[回転]ツール：Shift + Space キー

2

[サブツール]パレットの[手のひら]を選択し、キャンバスをドラッグして表示する位置をずらすことができます。



Memo

[手のひら]のショートカットは次の通りです。

[手のひら]ツール：Space キー

Hint

回転を元に戻す

キャンバスウィンドウ(左下)もしくは[ナビゲーター]パレットの[回転をリセット]ボタンをクリックすると、元の表示に戻すことができます。

キャンバスウィンドウ

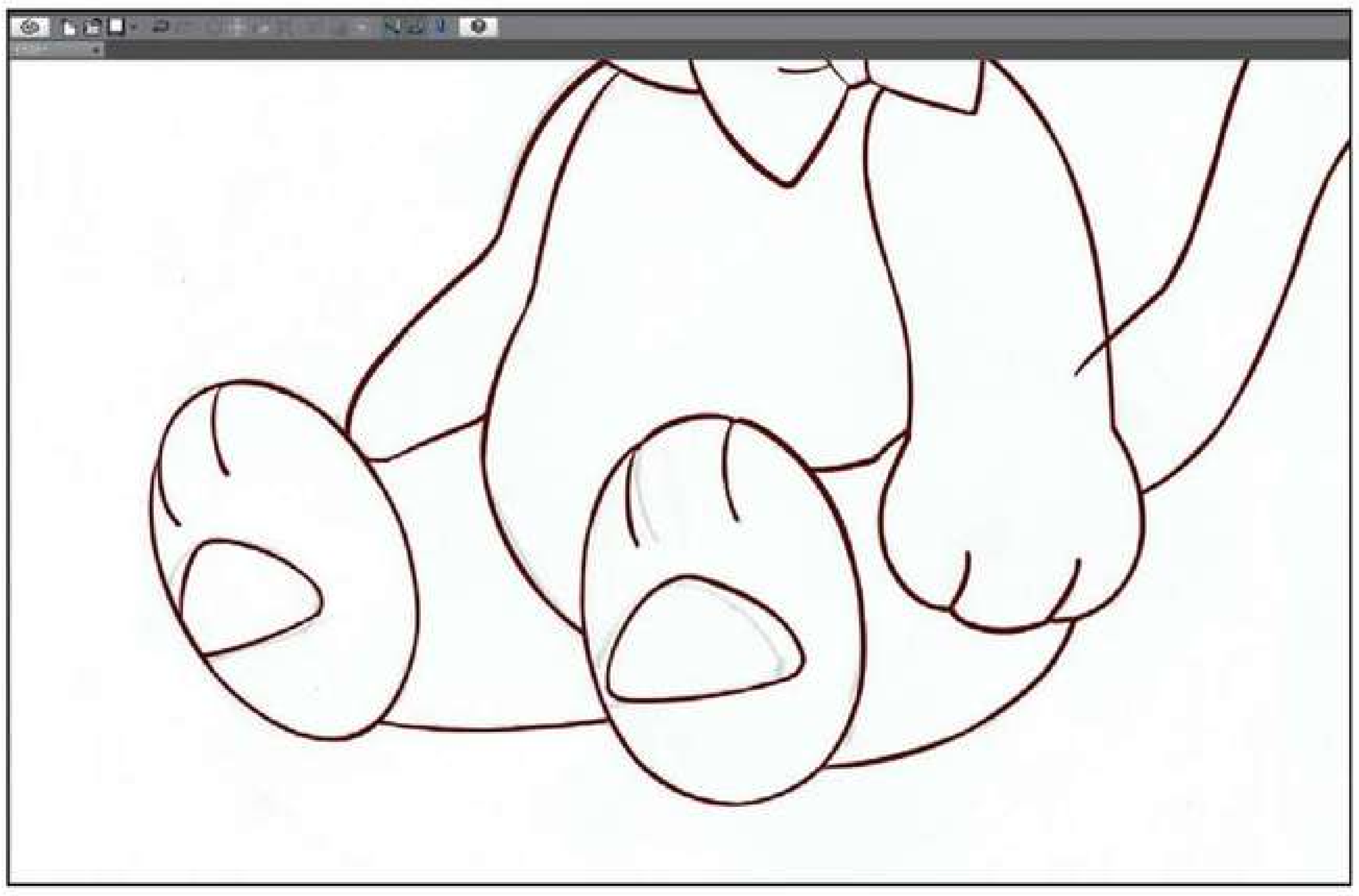


[ナビゲーター]パレット



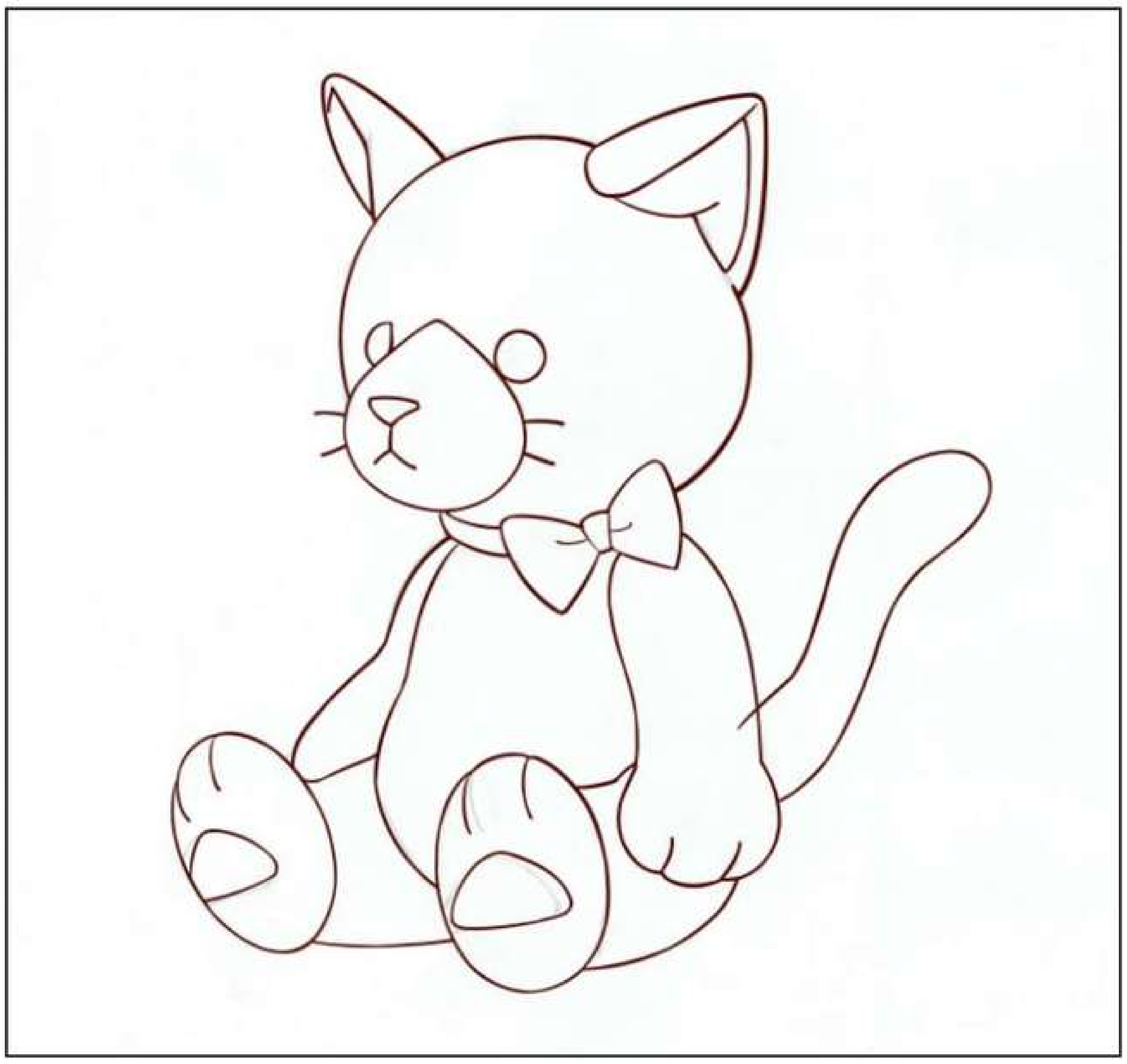
3

下絵を完璧になぞる必要はないので、下絵で気になる箇所があったら線画を描くときに修正しましょう。



4

はみ出してもかまわないので、下絵をなぞって完成させます。



Memo

はみ出し部分の修正方法については、次の04節で解説します。

Column

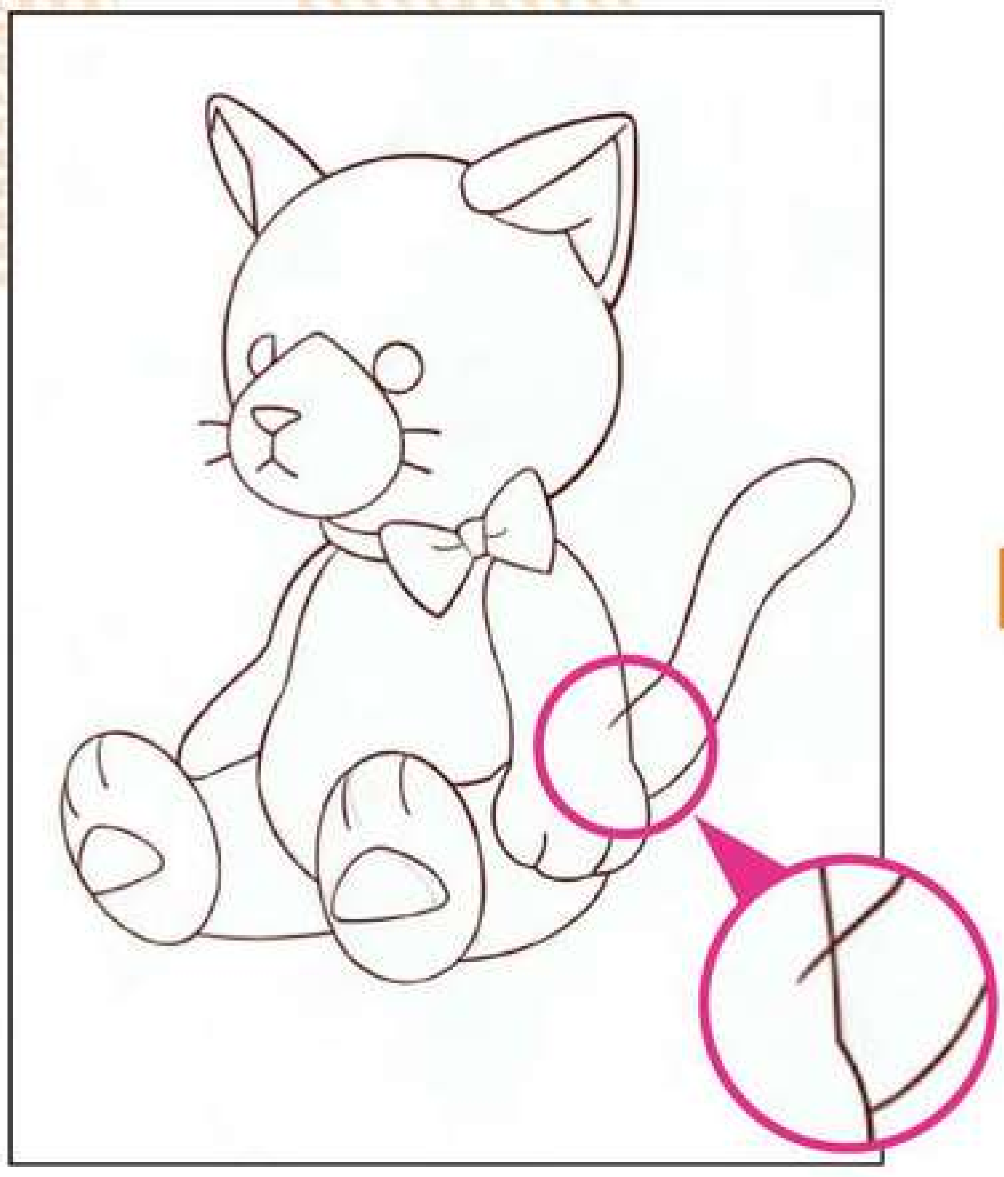
［ナビゲーター］パレットの操作

［ナビゲーター］パレットでもキャンバスの拡大・縮小や回転をすることができます。

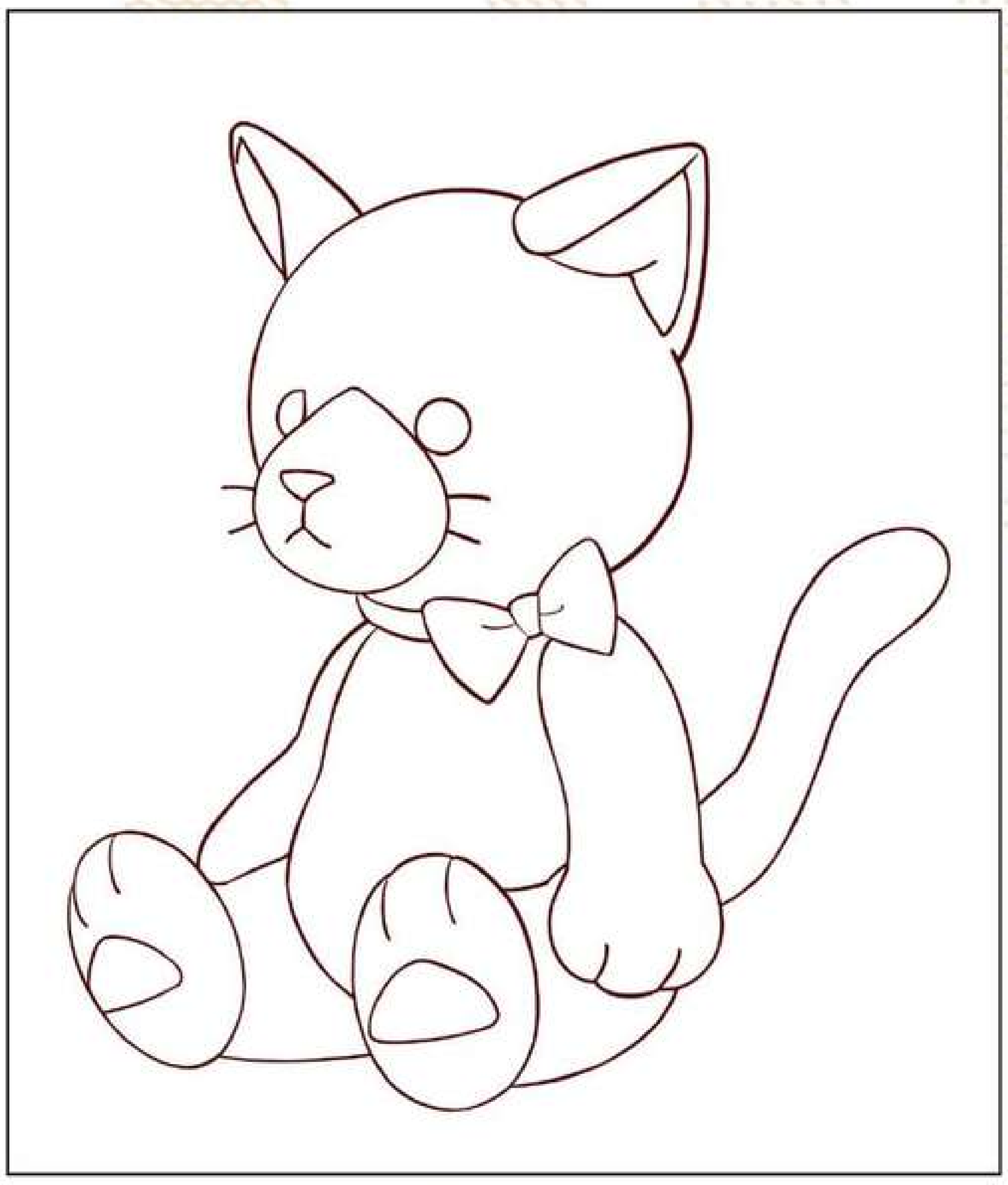
1 ズームアウト
2 ズームイン
3 100%
4 フィッティング
※チェックを入れると、キャンバスウィンドウのサイズを変更してもそれに連動して全体表示してくれる
5 全体表示
6 左回転
7 右回転
8 回転をリセット
9 左右反転
10 上下反転



線の消し方を覚えよう



Before 2-04.clip



After 2-04a.clip

描いているときにはみ出した線は、[消しゴム]ツールを使って消すことができます。消したい線に合わせて[消しゴム]ツールの設定を変えながら修正する方法を覚えましょう。

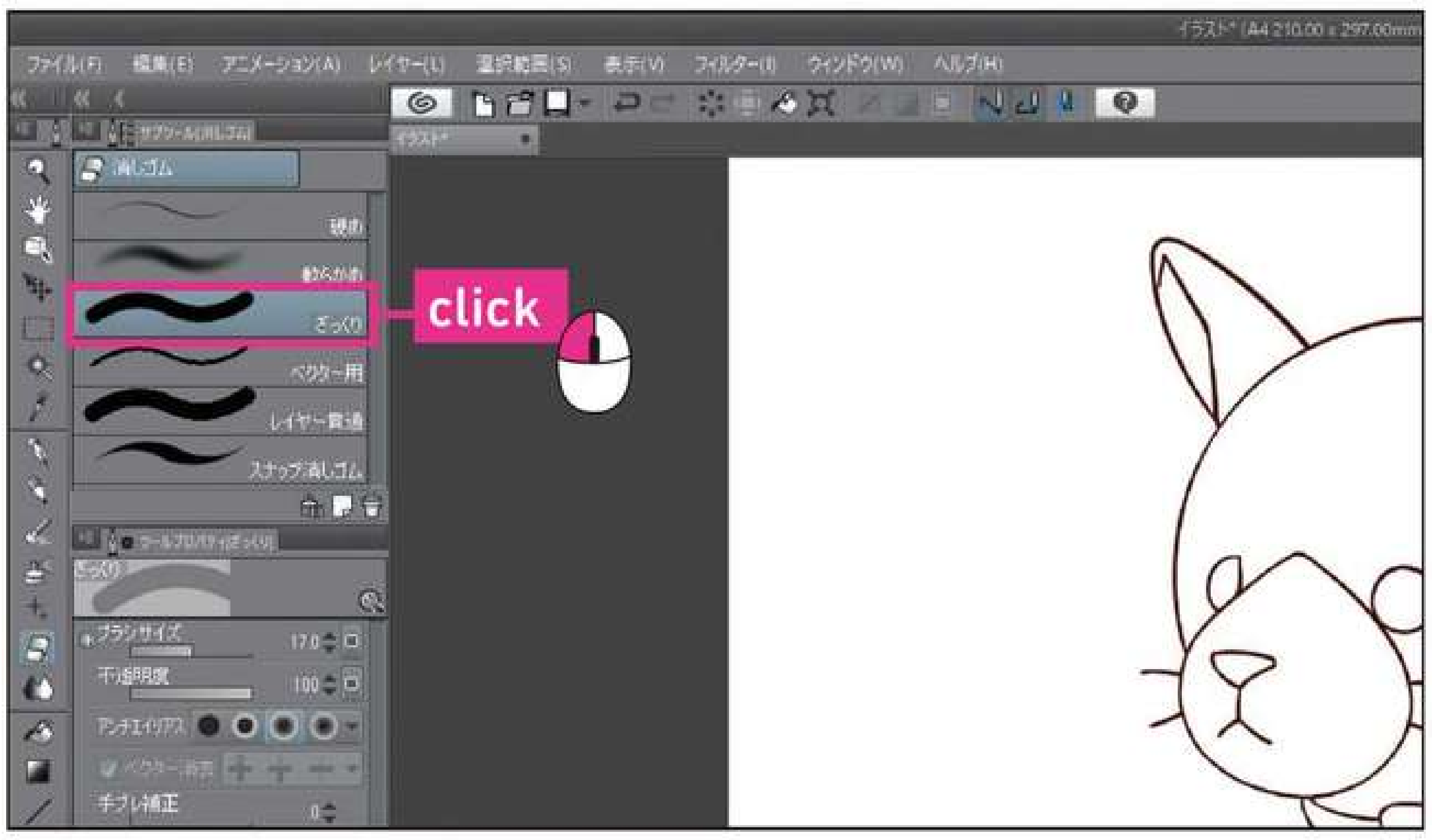
Step 01 はみ出した部分を消す

図のような小さなはみ出しは[消しゴム]ツールで消します。[ツール]パレットの[消しゴム]ツールをクリックします。



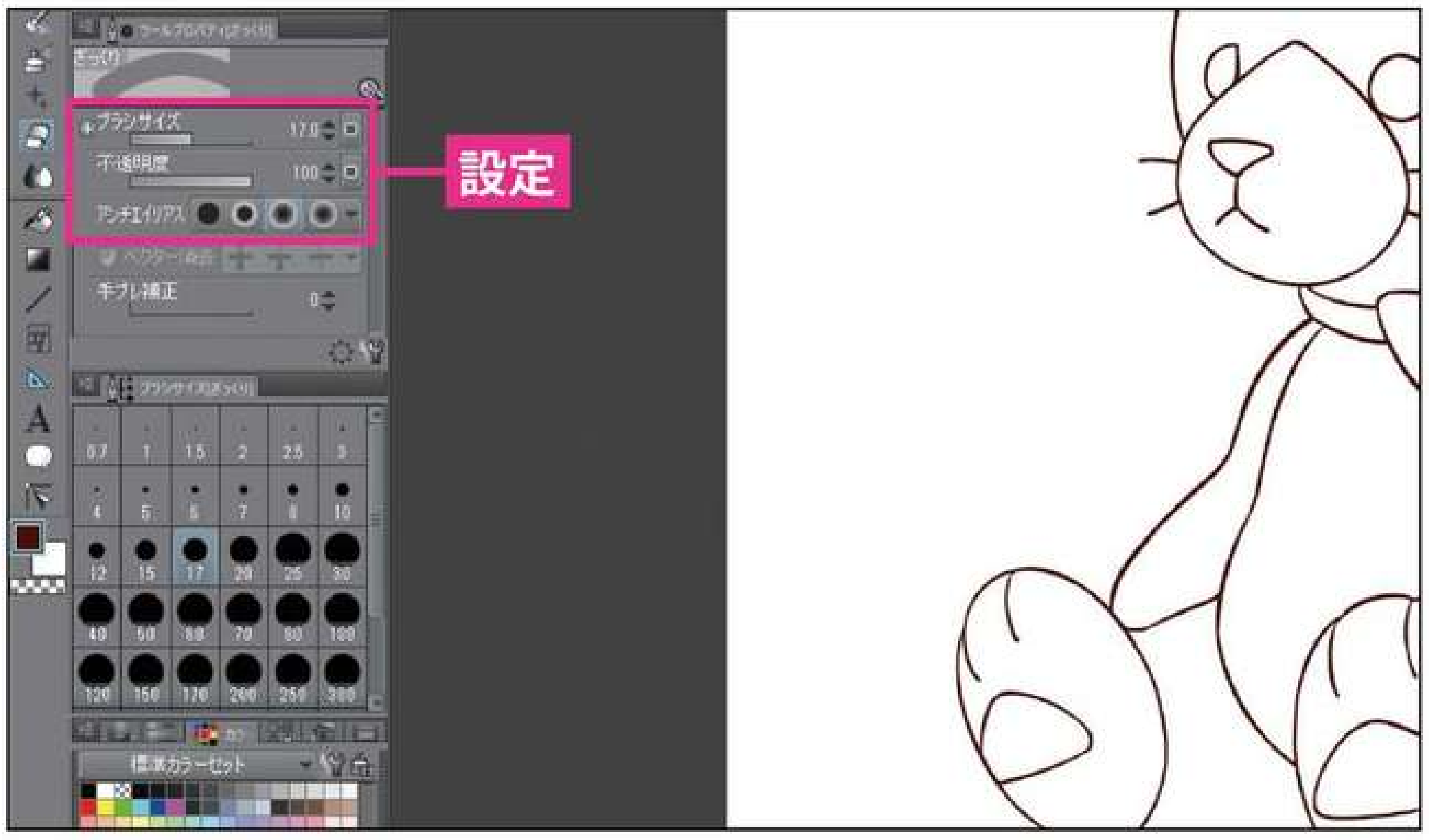
2

［サブツール］パレットから消しゴムの形状を選択します。
ここでは「ざっくり」を選択しました。



3

［ツールプロパティ］パレットでサイズや不透明度などを変更し、描きやすいように調整します。



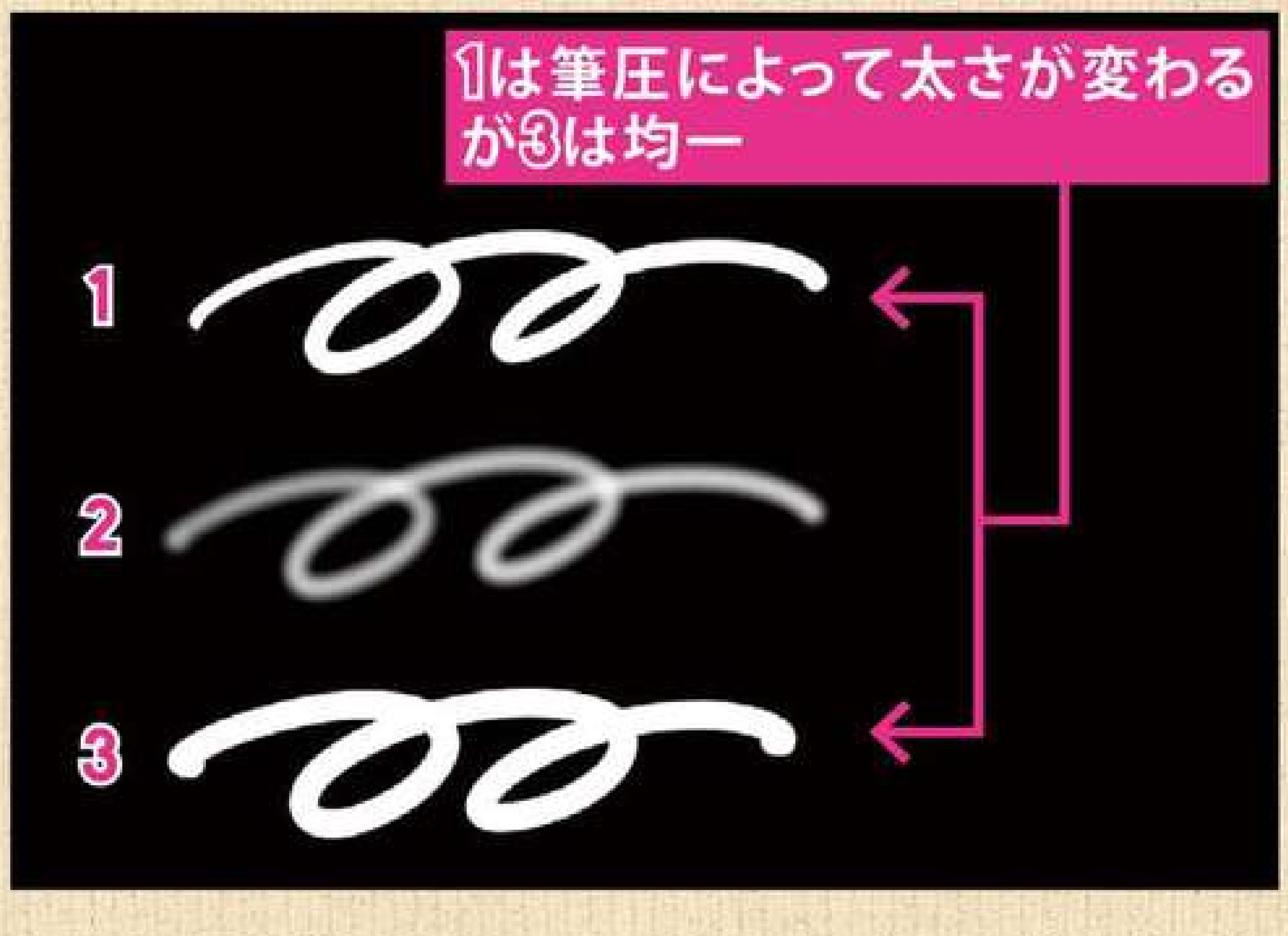
Column

消しゴムツールの種類

［消しゴム］ツールに用意されているサブツールは以下の通りです。
上の3つは形状の違い、下の3つは用途の違いがあります。

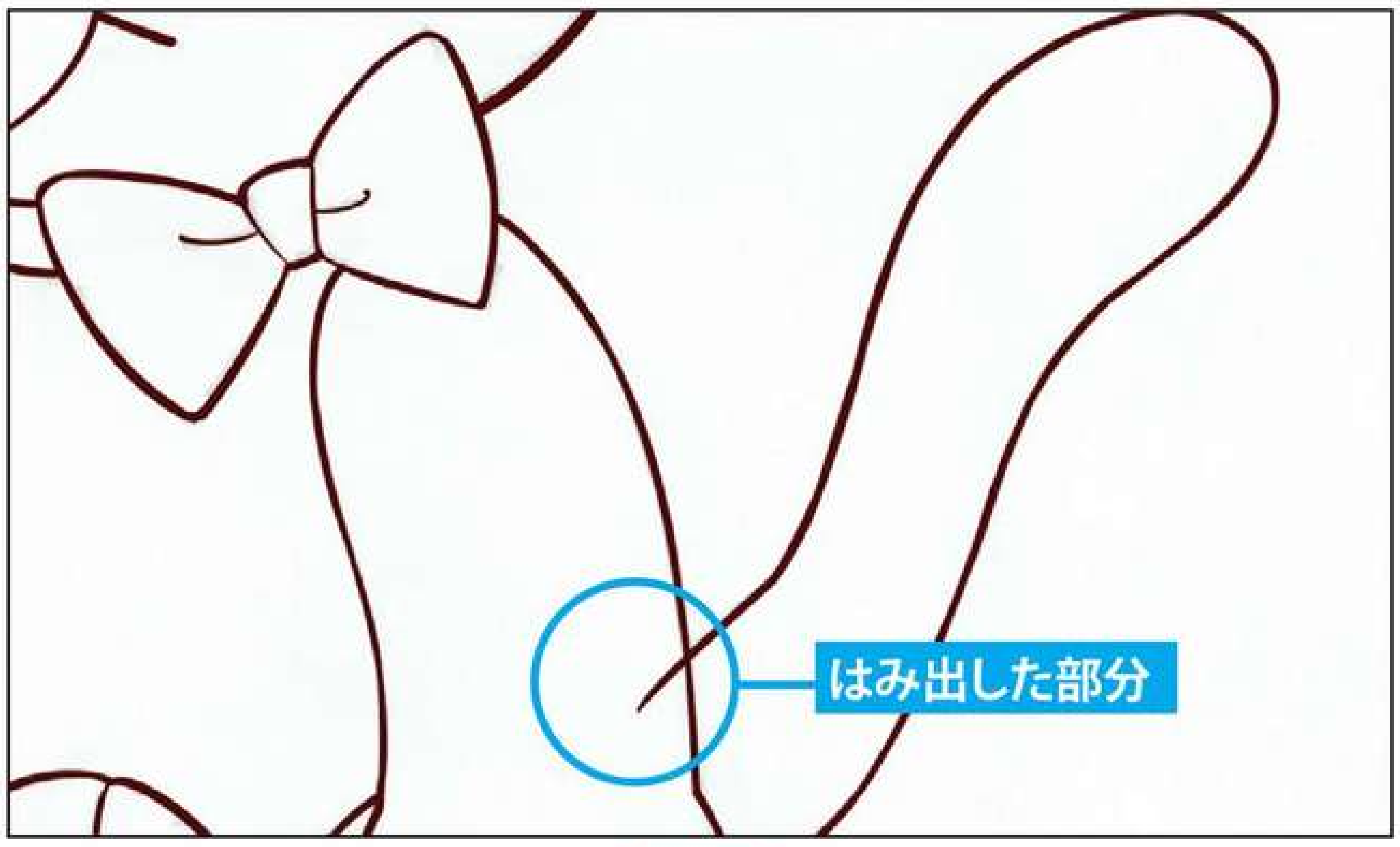
項目	概要
1 硬め	硬くはっきりとした形状
2 軟らかめ	軟らかくふんわりした形状
3 ざっくり	太さが均一なのでざくざく消せる
4 ベクター用	ベクターレイヤーに描いた線をきれいに消せる
5 レイヤー貫通	選択しているレイヤーだけでなく、その下にあるレイヤーも貫通して消せる
6 スナップ消しゴム	定規やグリッドにスナップする（吸着する）ように消せる

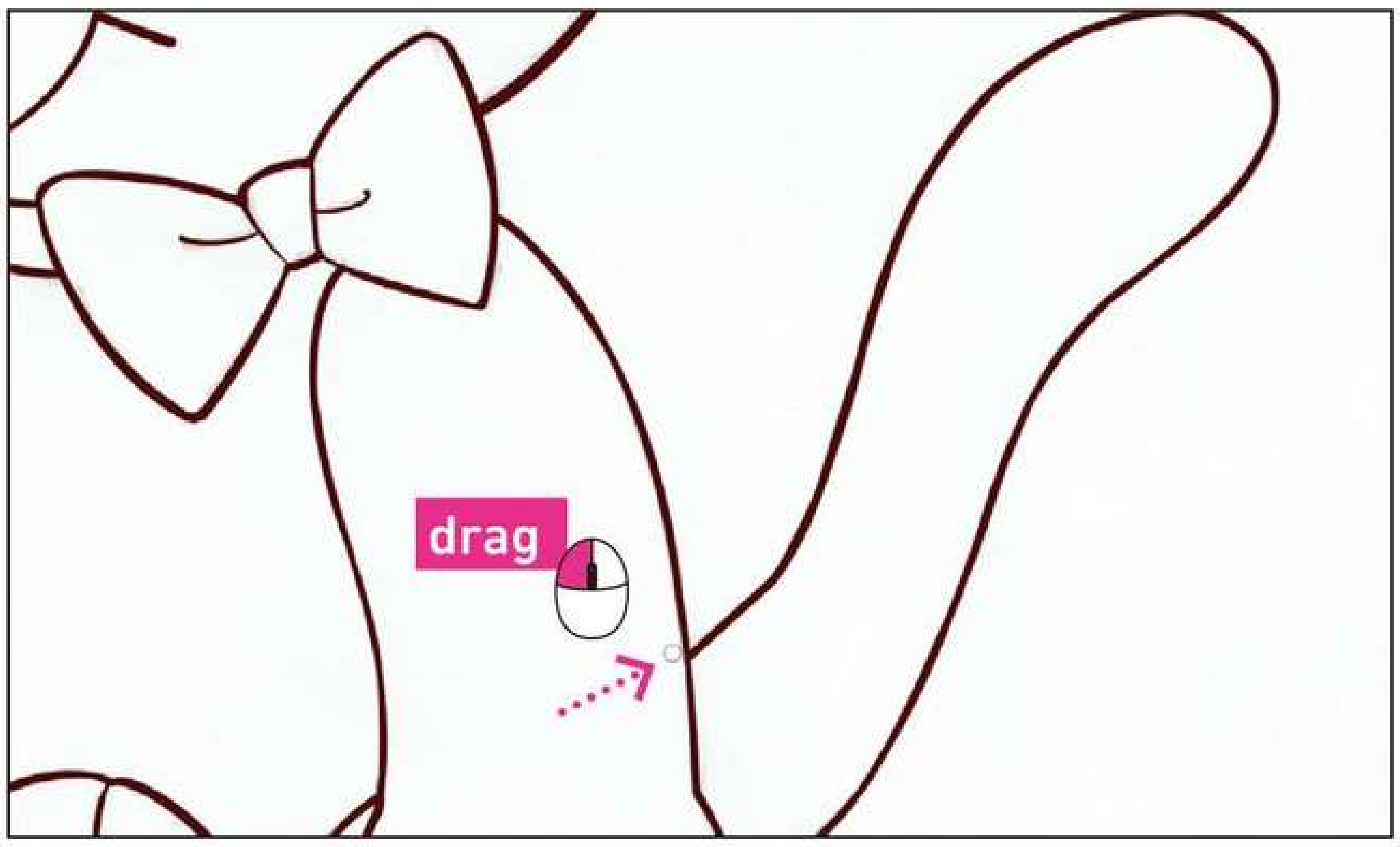




4

はみ出した部分をドラッグして消します。

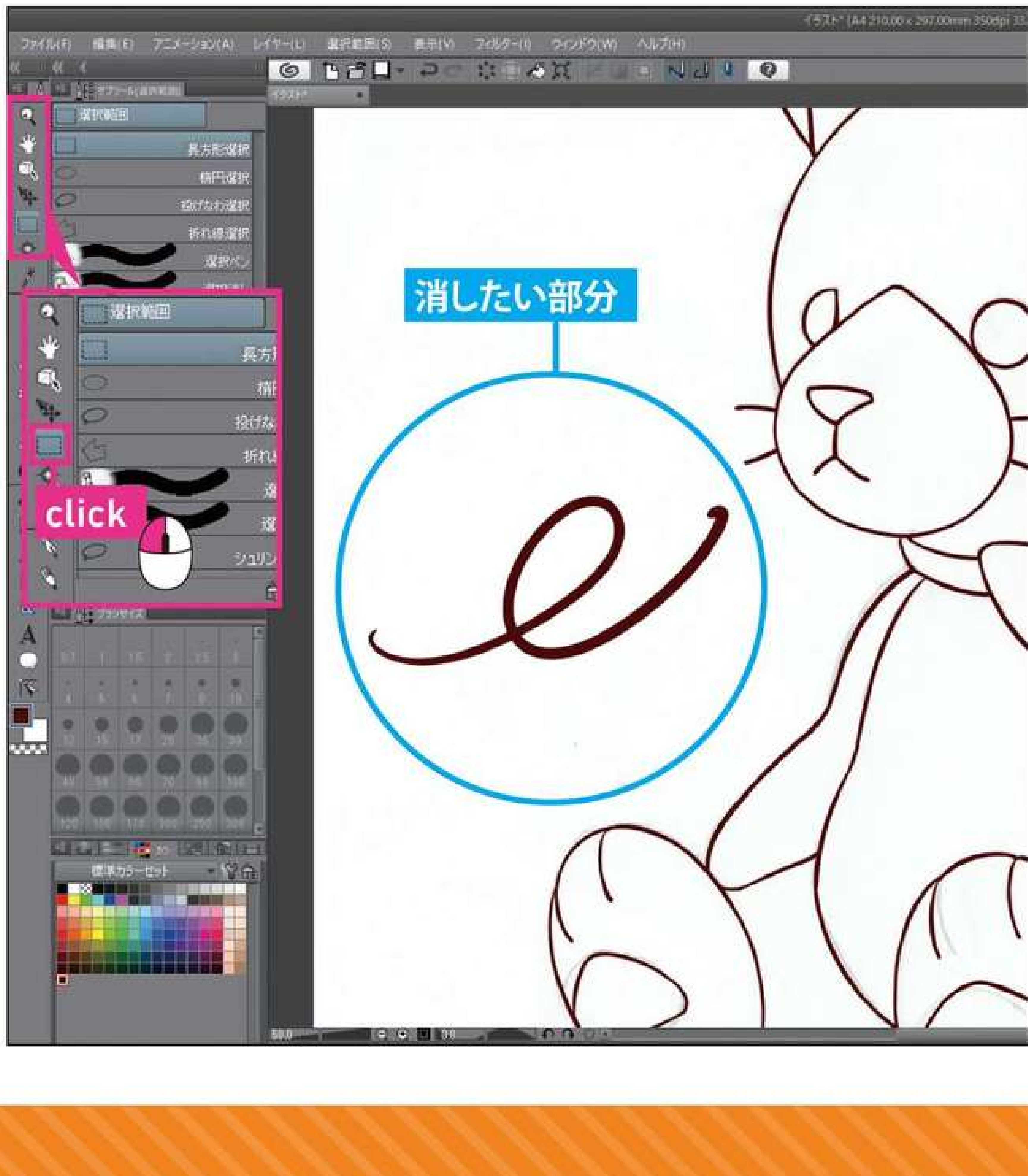




Step 02 大きなはみ出し範囲を選択して消す

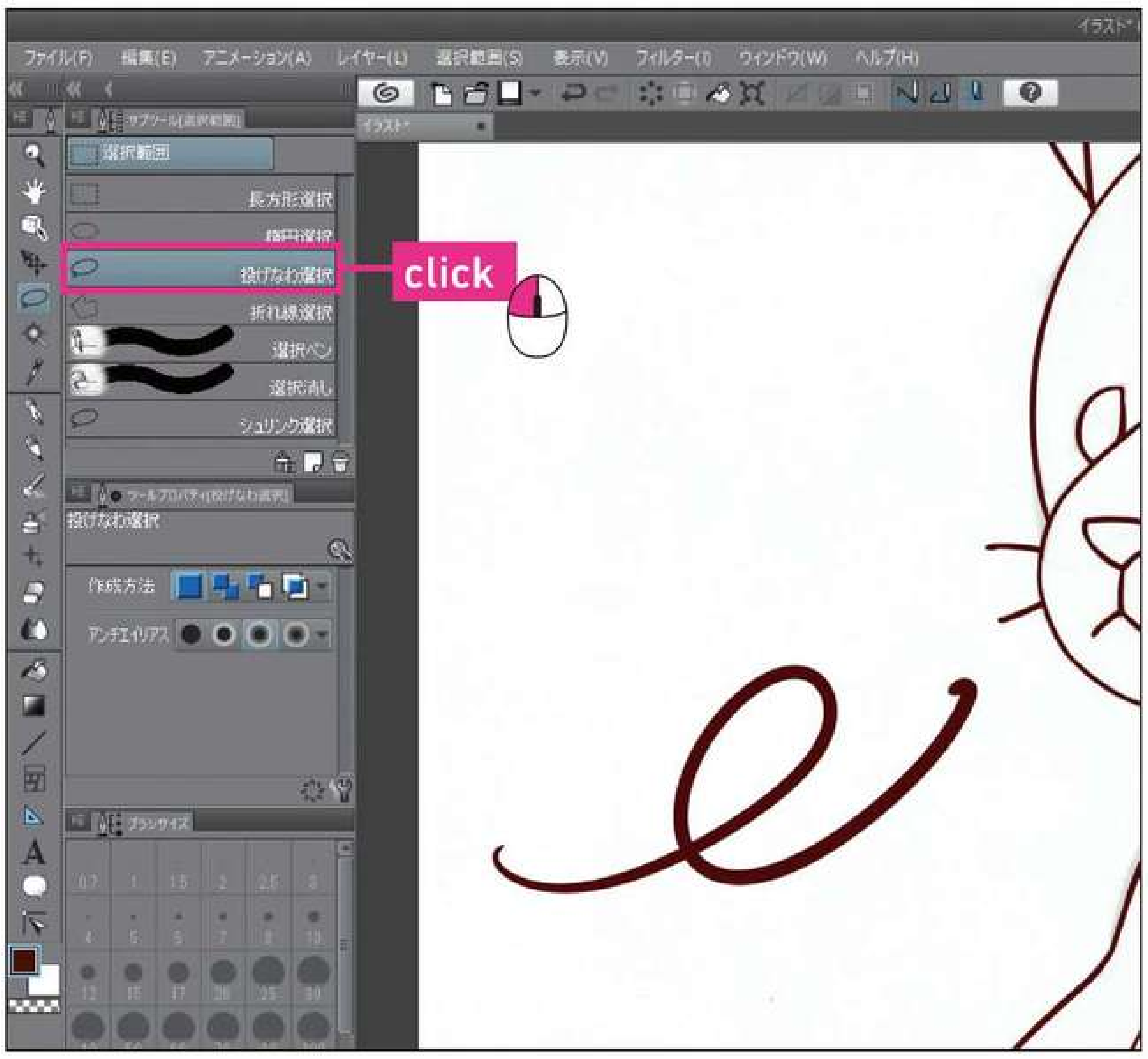
1

大きくはみ出した線は選択範囲を作って削除すると便利です。
［ツール］パレットの［選択範囲］ツールをクリックします。



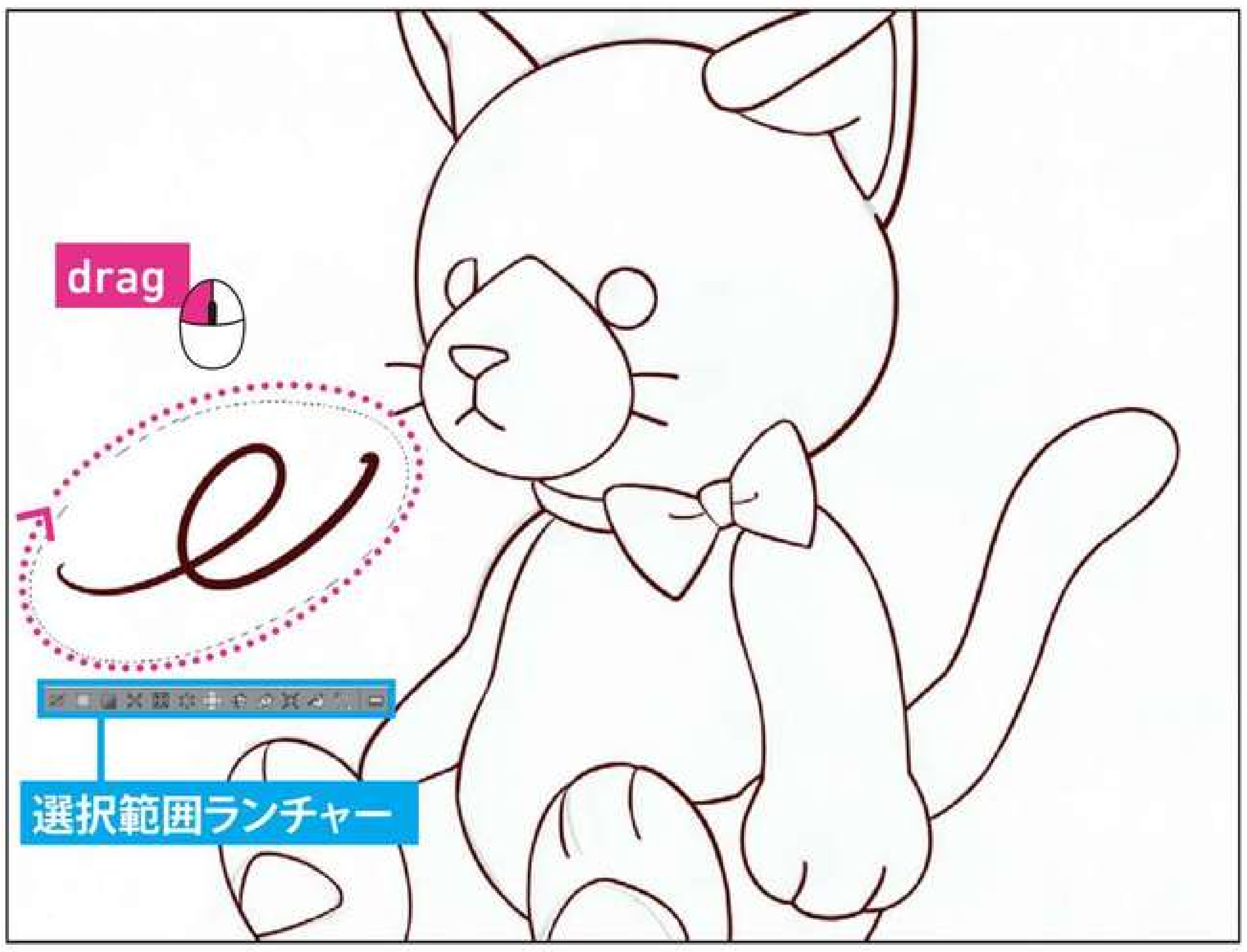
2

［サブツール］パレットから［投げなわ選択］を選択します。



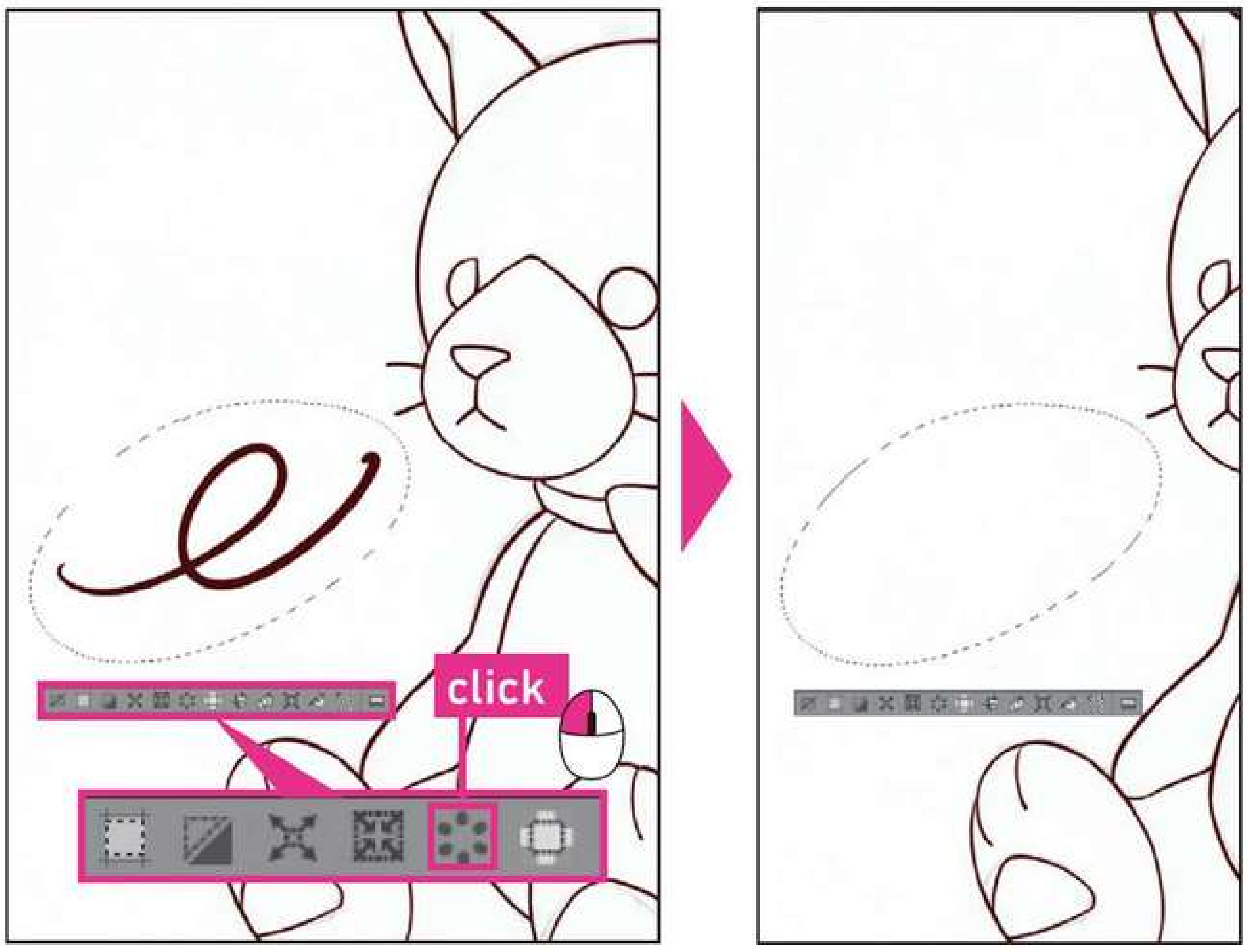
3

消したい部分をフリーハンドでドラッグして囲い、選択範囲を作成します。
選択範囲ランチャーが表示されます。



4

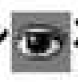
選択範囲ランチャーの［消去］ボタンをクリックして選択範囲内を消します。

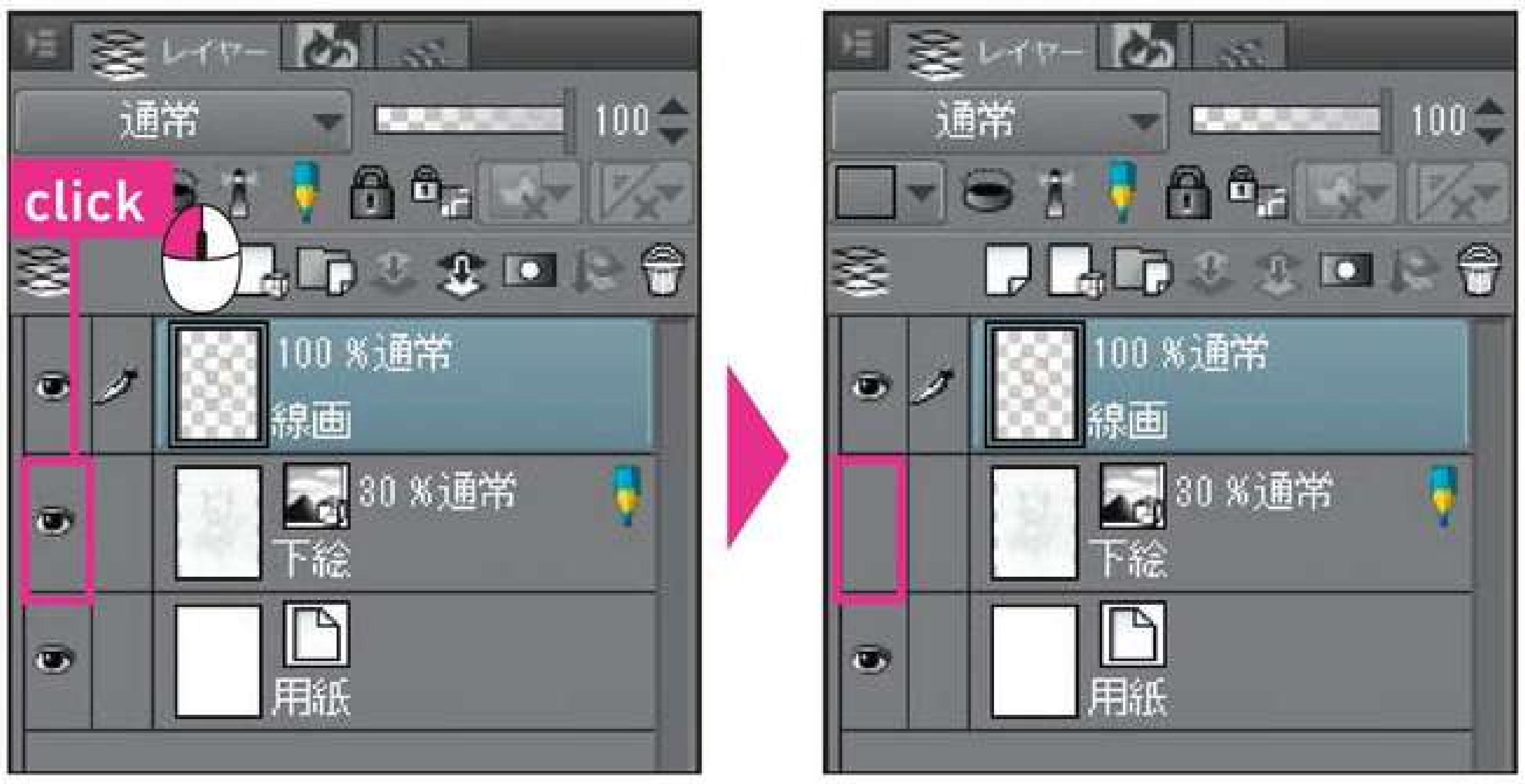


Memo

選択範囲で囲んだ部分は、キーボードの Delete キーでも消去できます。

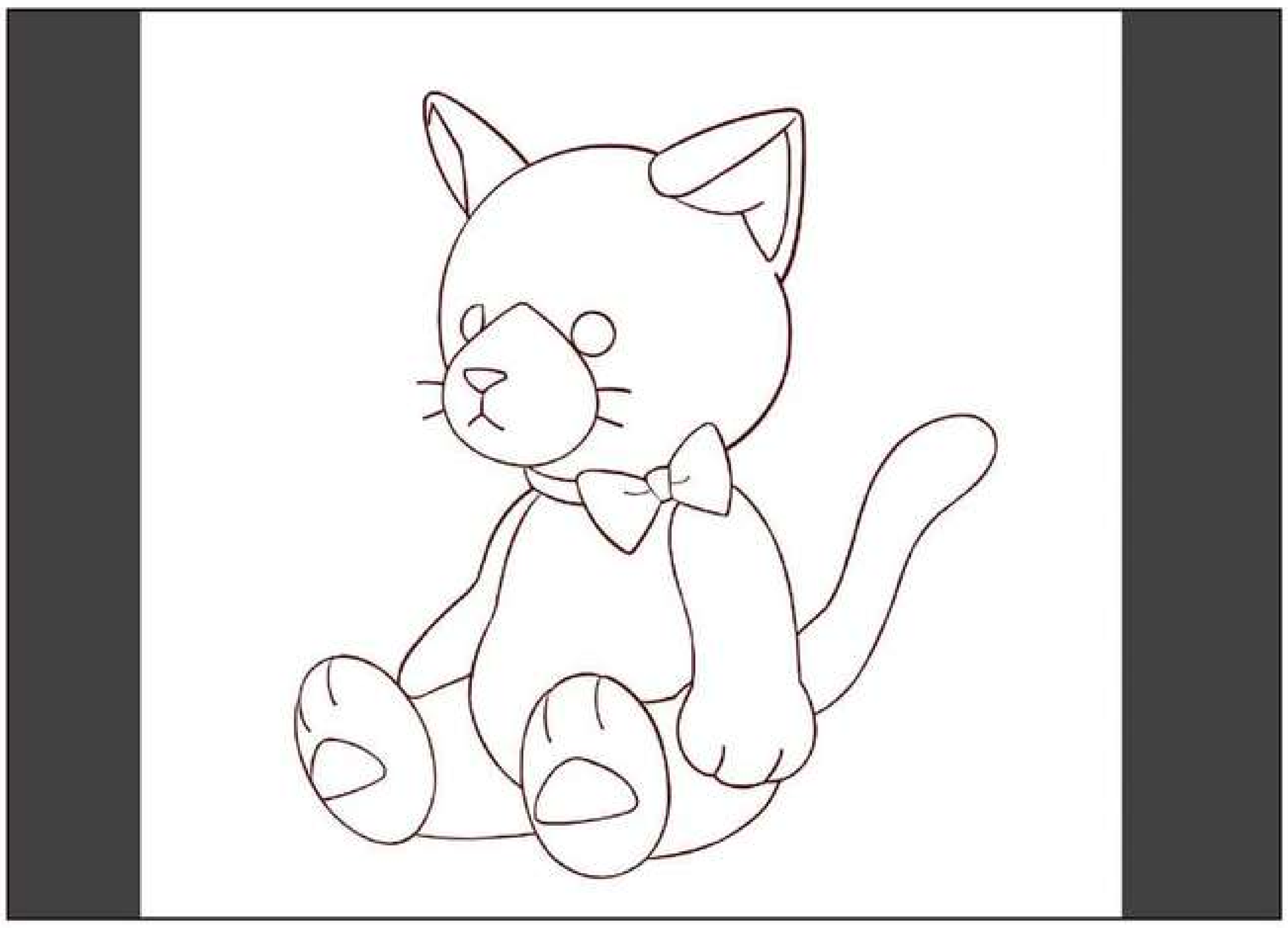
5

「下絵」レイヤーの目のアイコンをクリックして、「下絵」レイヤーを非表示にします。



6

線画が完成しました。

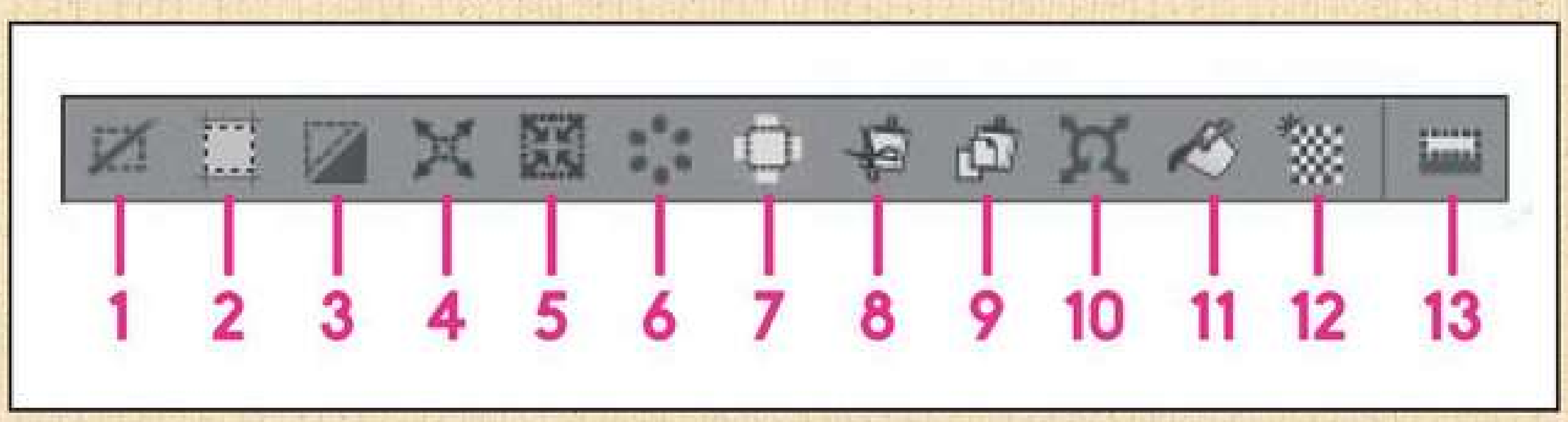


Column

選択範囲ランチャー

選択範囲ランチャ—は次の通りです。描く内容に合わせてボタンを選択して使い分けましょう。

1 選択を解除
2 キャンバスサイズを選択範囲に合わせる
3 選択範囲を反転
4 選択範囲を拡張
5 選択範囲を縮小
6 消去
7 選択範囲外を消去
8 切り取り＋貼り付け
9 コピー＋貼り付け
10 拡大・縮小・回転
11 塗りつぶし
12 新規トーン
13 選択範囲ランチャーの設定



Chapter 3

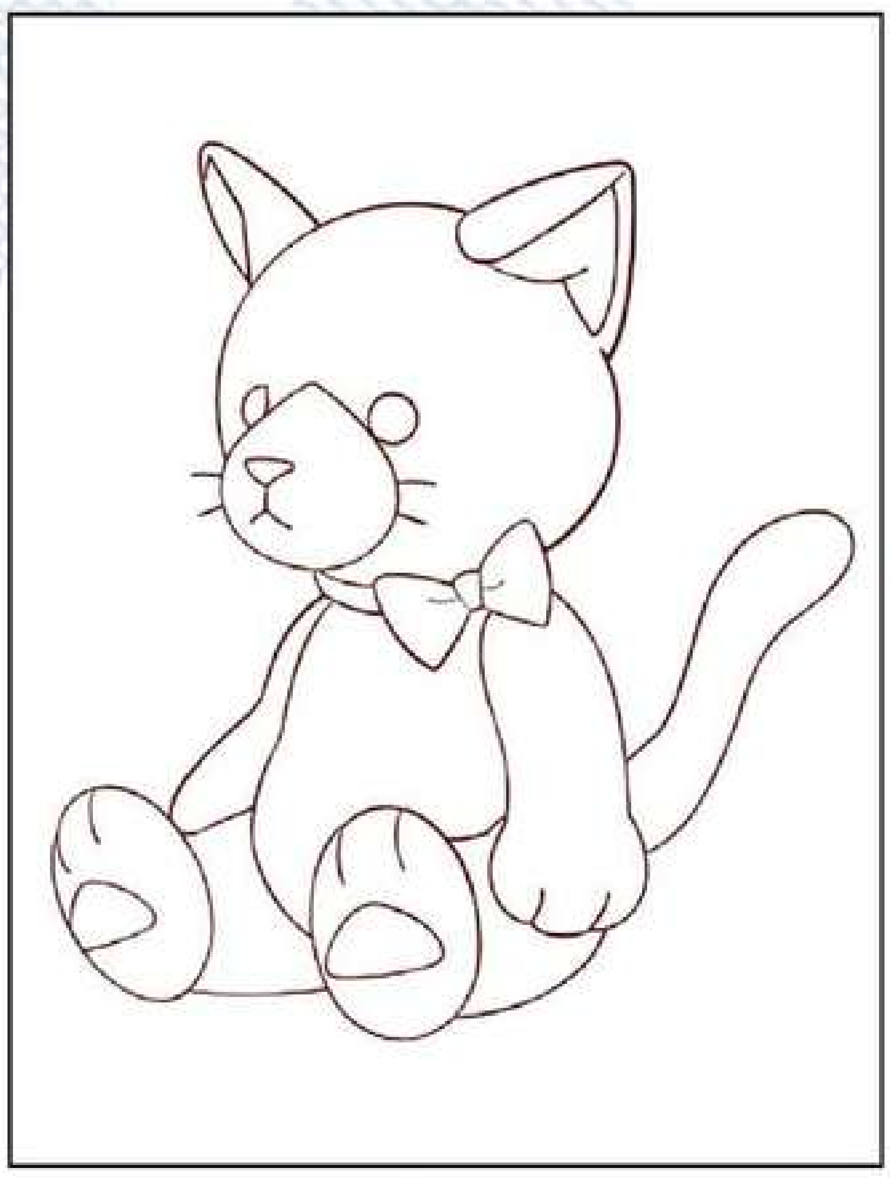
色を塗ろう

Chapter3では、前章で描いたネコの線画に
色を塗る方法を解説します。
Chapter2で描いた線画からはみ出さないように塗る方法や、
用途に合わせてレイヤーを増やしながら塗るテクニックについても
解説します。
毛並みの雰囲気が出るように塗っていきます。



Chapter 3 - 01

塗りつぶしツールで色を塗ろう



Before 3-01.clip

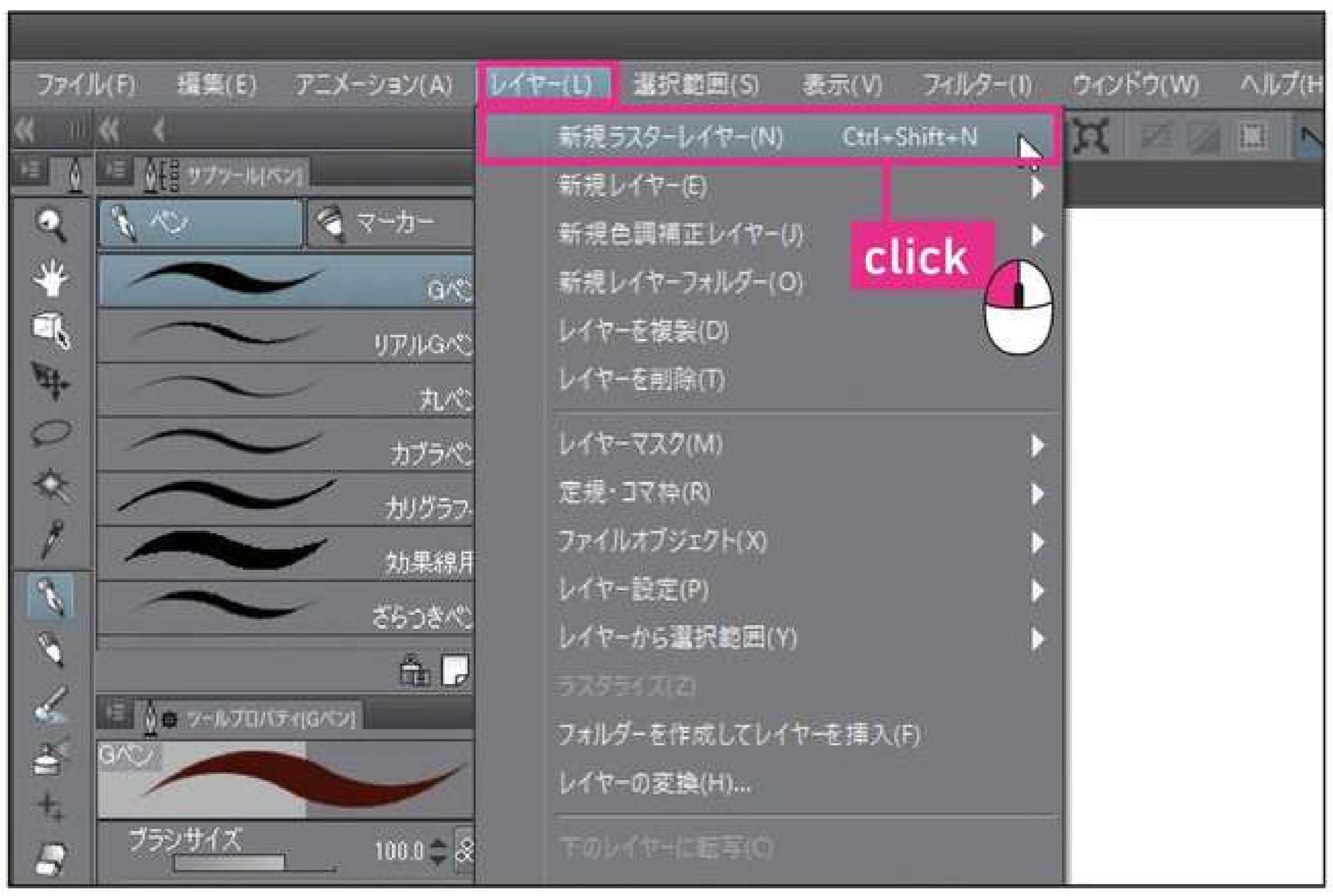


After 3-01a.clip

線で囲まれた部分を[塗りつぶし]ツールを使って単色で塗りつぶします。

Step 01 レイヤーの準備をする

色を塗る用に新しいレイヤーを用意します。[レイヤー]メニュー→[新規ラスターレイヤー]の順にクリックして新しいレイヤーを追加します。

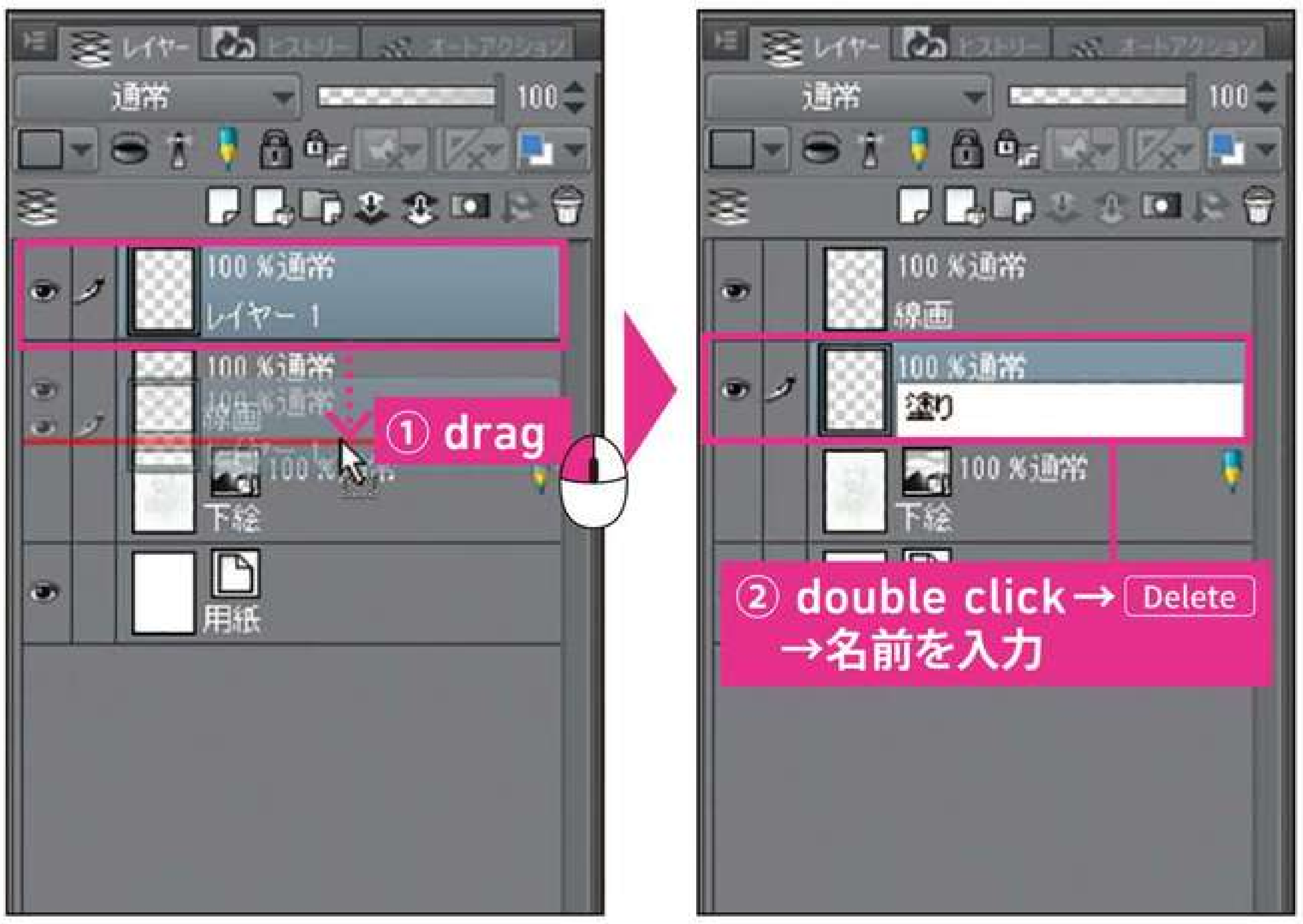


Memo

[レイヤー]パレットの[新規ラスターレイヤー]アイコンをクリックしてもレイヤーを追加できます。

2

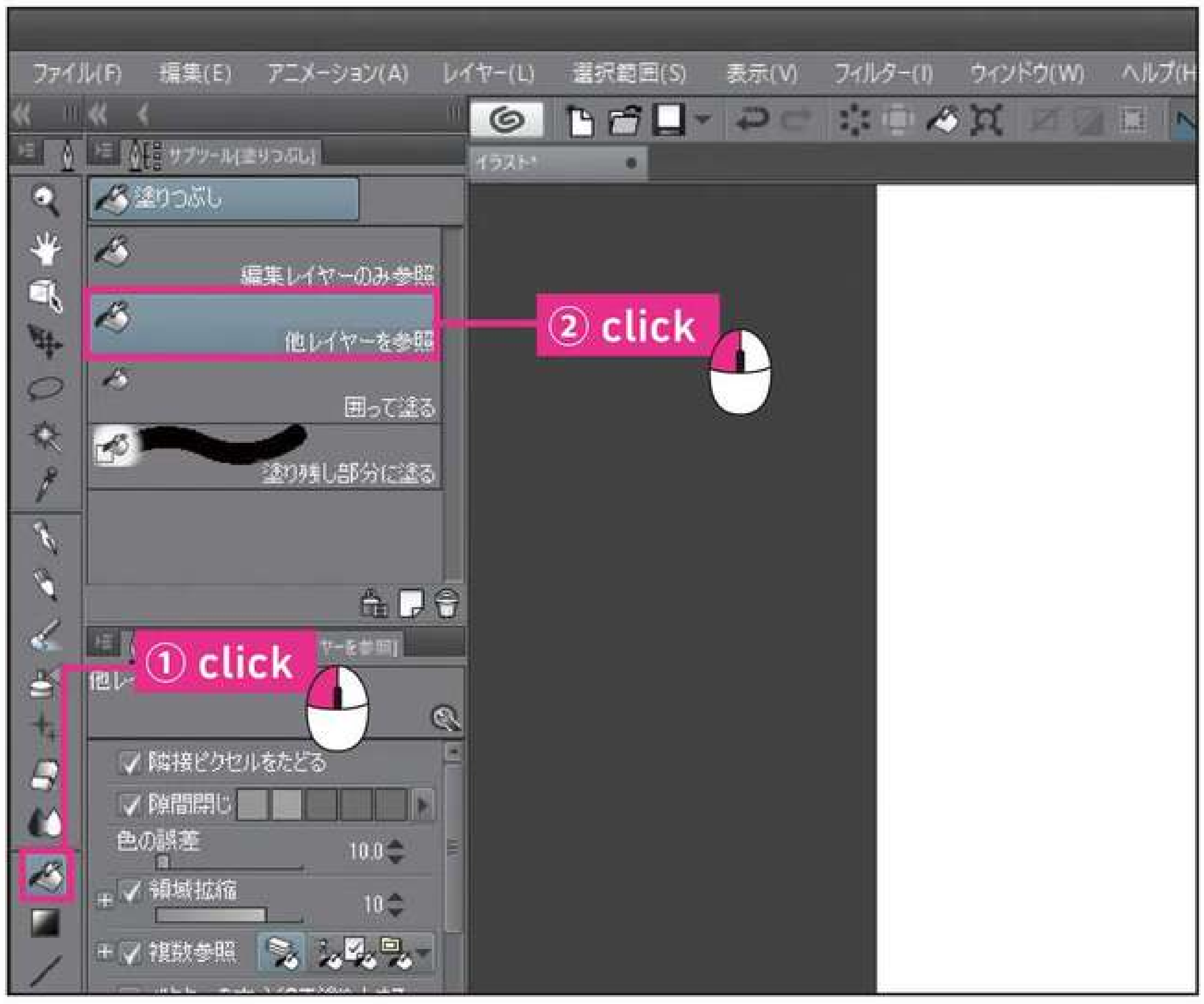
色を塗るレイヤーを「線画」レイヤーの下に移動させ、レイヤー名をわかりやすく変更しておきます。ここでは「塗り」にしました。



Step 02 ［塗りつぶし］ツールで色を塗る

1

［ツール］パレットの［塗りつぶし］ツールをクリックし、［サブツール］パレットから［他レイヤーを参照］を選択します。



2

［ツールプロパティ］パレットで［塗りつぶし］ツールの設定を細かく変更することができます。
ここではそのままの設定で進みます。

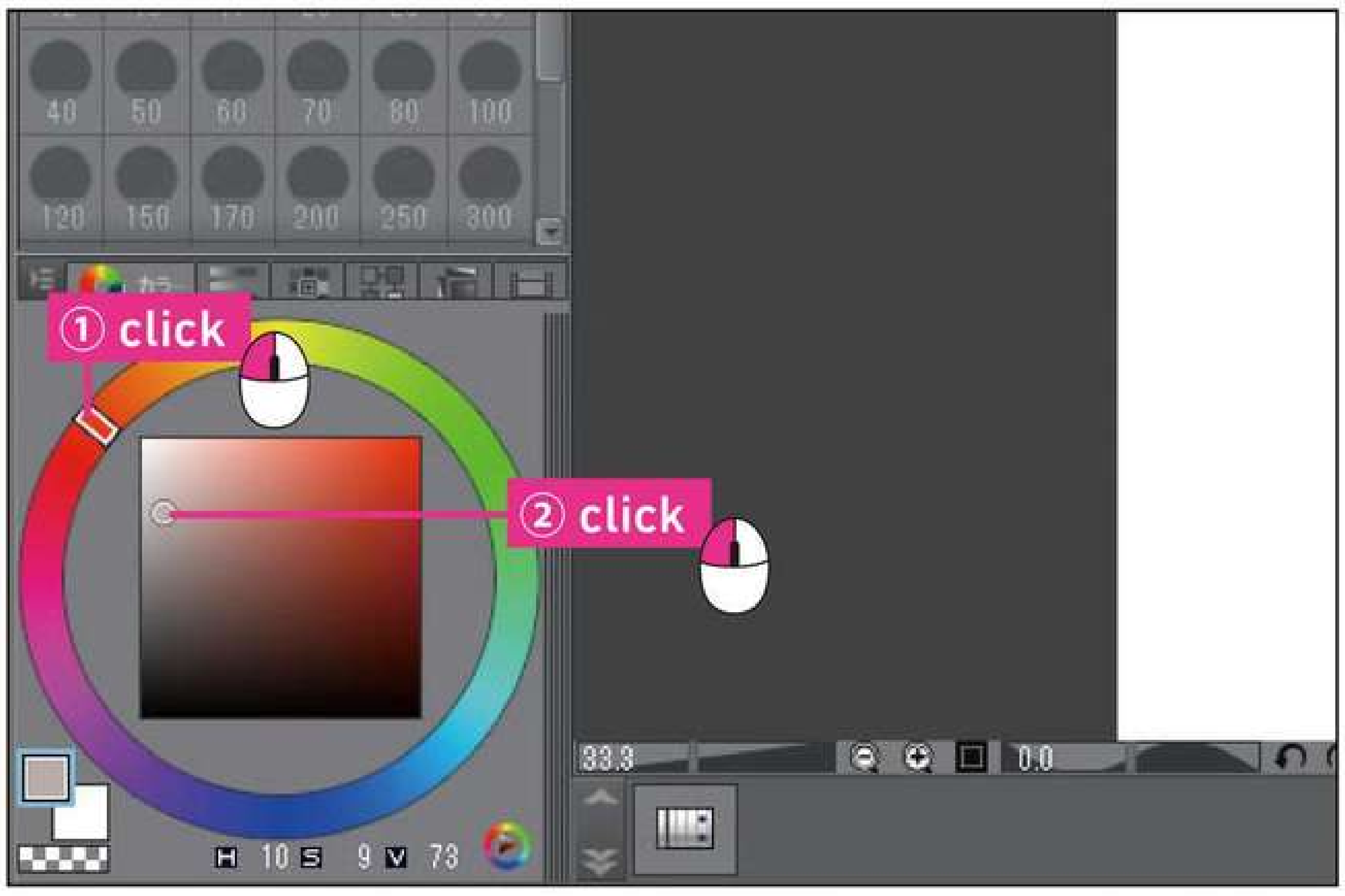


Memo

［塗りつぶし］ツールの［ツールプロパティ］パレットの設定については、p.50を参照しましょう。

3

［カラーサークル］パレットから使う色を選択します。

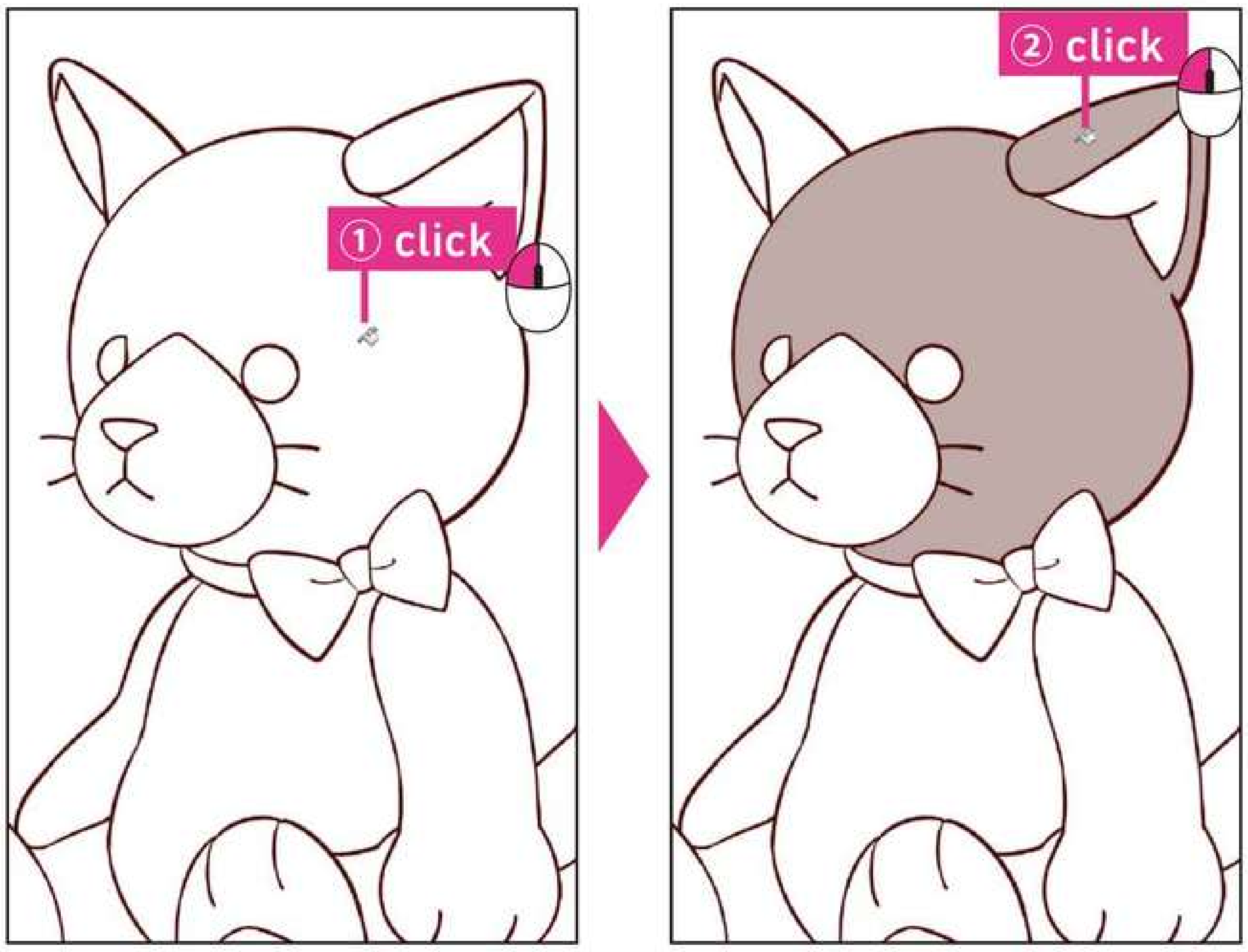


Memo

［カラーサークル］パレットの使い方については、p.38を参照してください。［カラーサークル］パレット以外の［カラー］パレットで色を選んでもかまいません。

4

塗りたい部分をクリックして塗りつぶします。



Hint

［ツールプロパティ］パレット（塗りつぶし）の設定

各項目のチェックボックスをクリックしてチェックを入れて設定することで、効率的に塗りつぶすことができます。主に以下の項目を設定すると作業しやすくなります。

1 隙間閉じ
設定しておくと、線画が途切れていても隙間を閉じて塗りつぶしてくれる

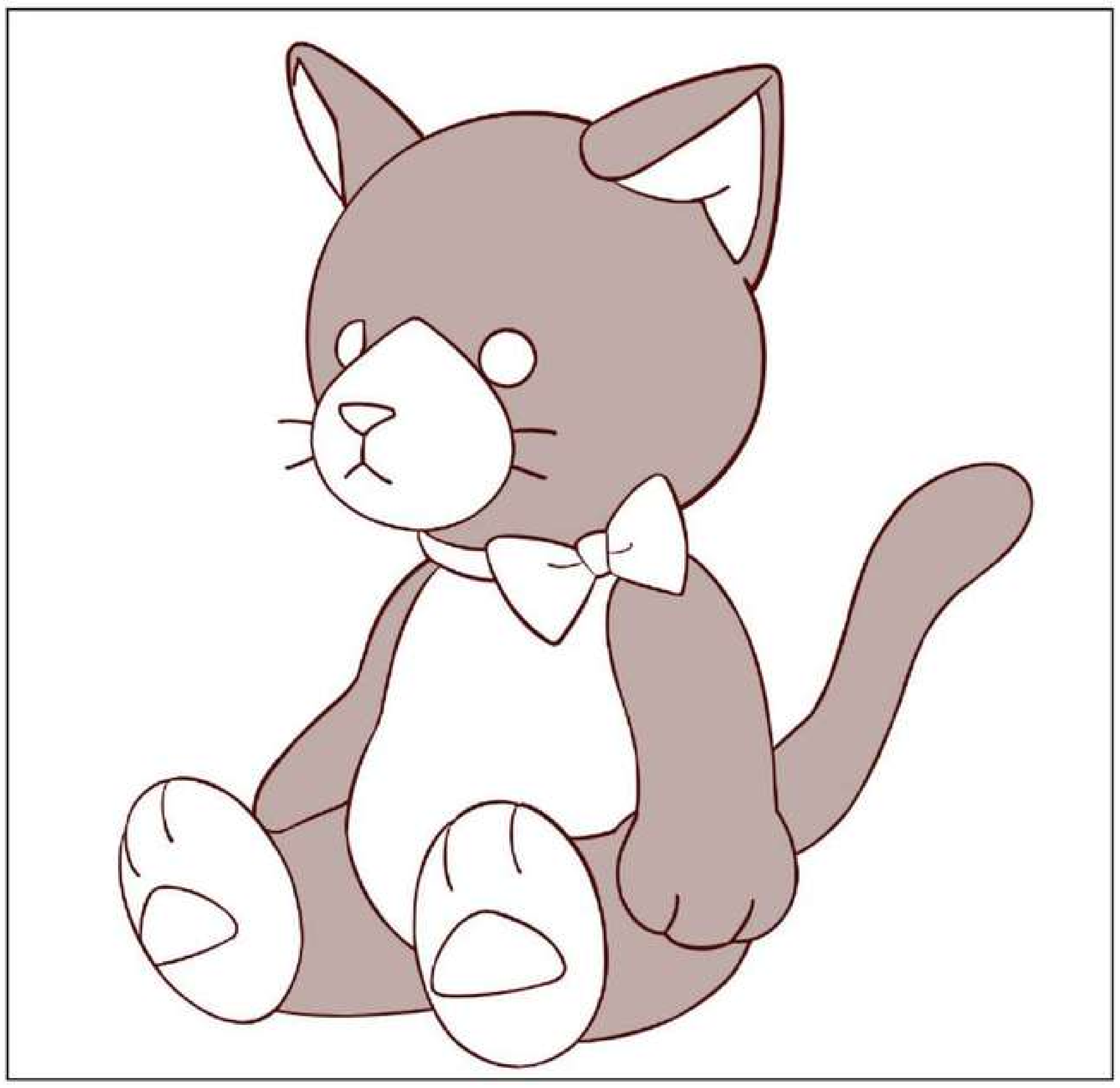
2 領域拡縮
プラス側（右にドラッグ）に設定すると参照した領域より少し余分に、マイナス側（左にドラッグ）に設定すると参照した領域より少し小さく塗りつぶせる

3 複数参照
どのレイヤーを塗りつぶすか、レイヤーの種類やフォルダーなどを詳細に設定できる



5

線で囲まれている部分を塗りつぶすことができるので、同様に他の部分も塗っていきます。



Memo

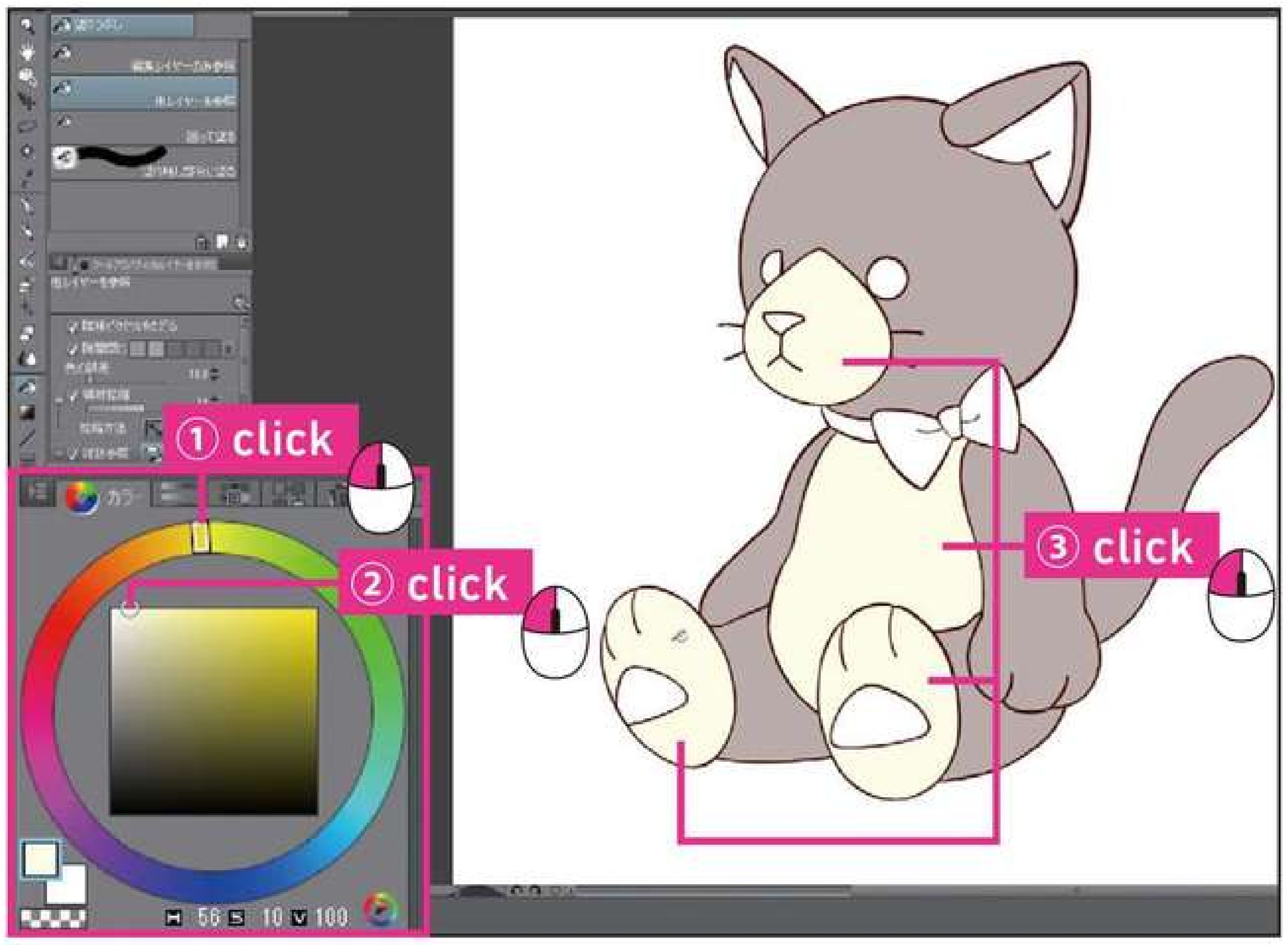
［隙間閉じ］を設定しておくと、線画が途切れていても隙間を閉じて塗りつぶしてくれます。

6

3～5の手順で他の色の部分も塗っていきます。口の周り、お腹、足の裏を薄いクリーム色で塗りました。

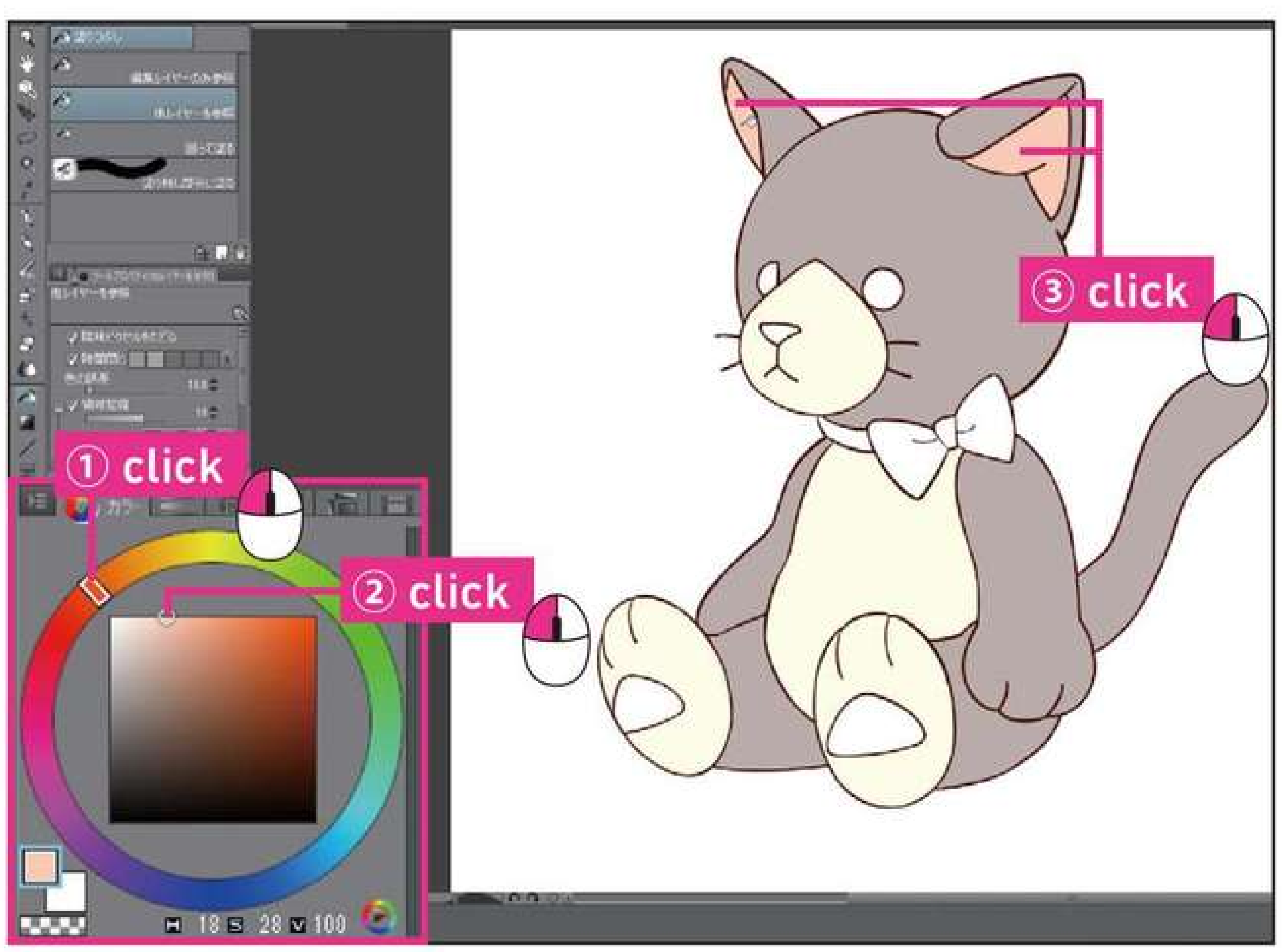
Memo

足の裏の肉球部分は03節で塗るので、このままにしておきます。



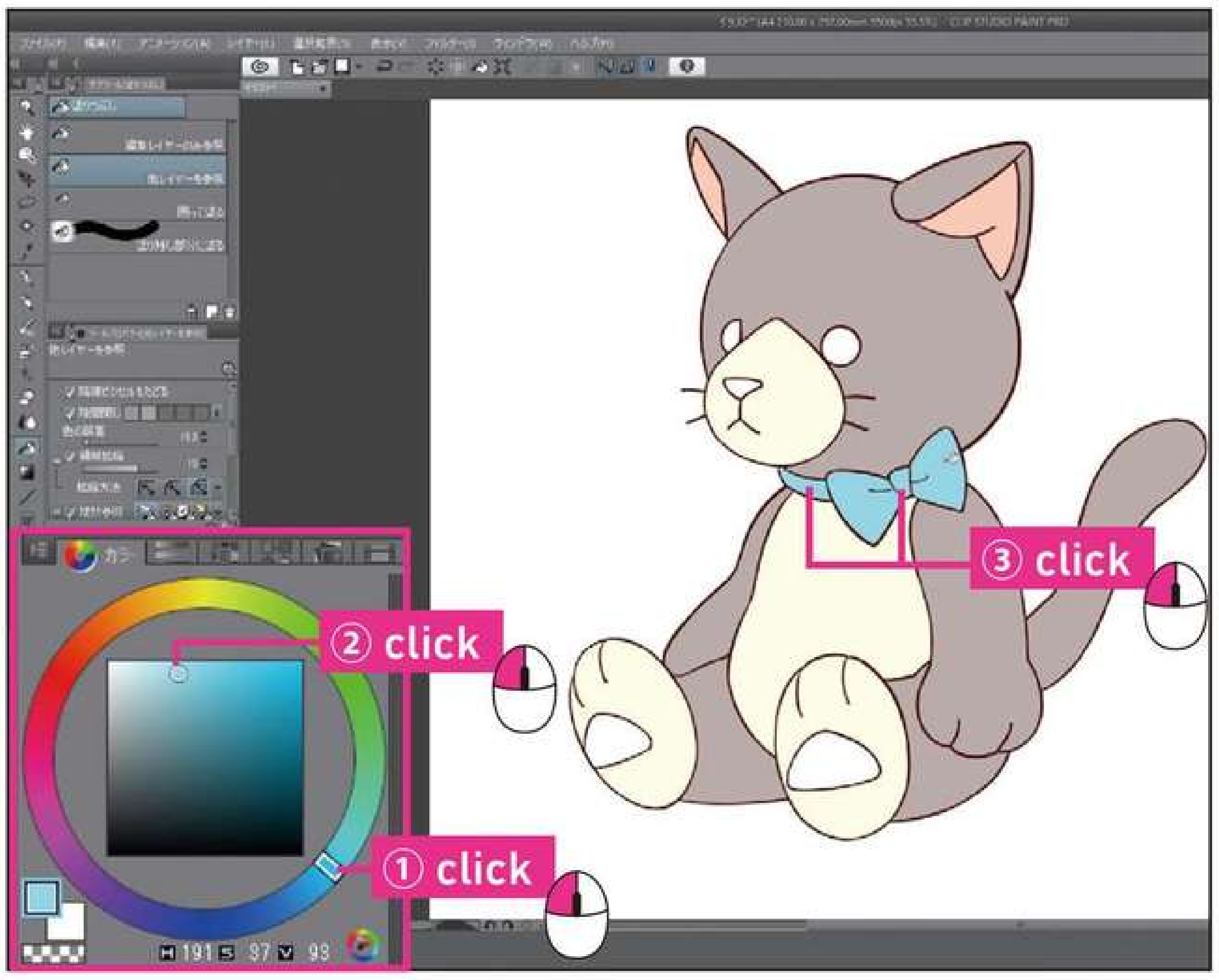
7

耳の内側は薄いピンクにしました。



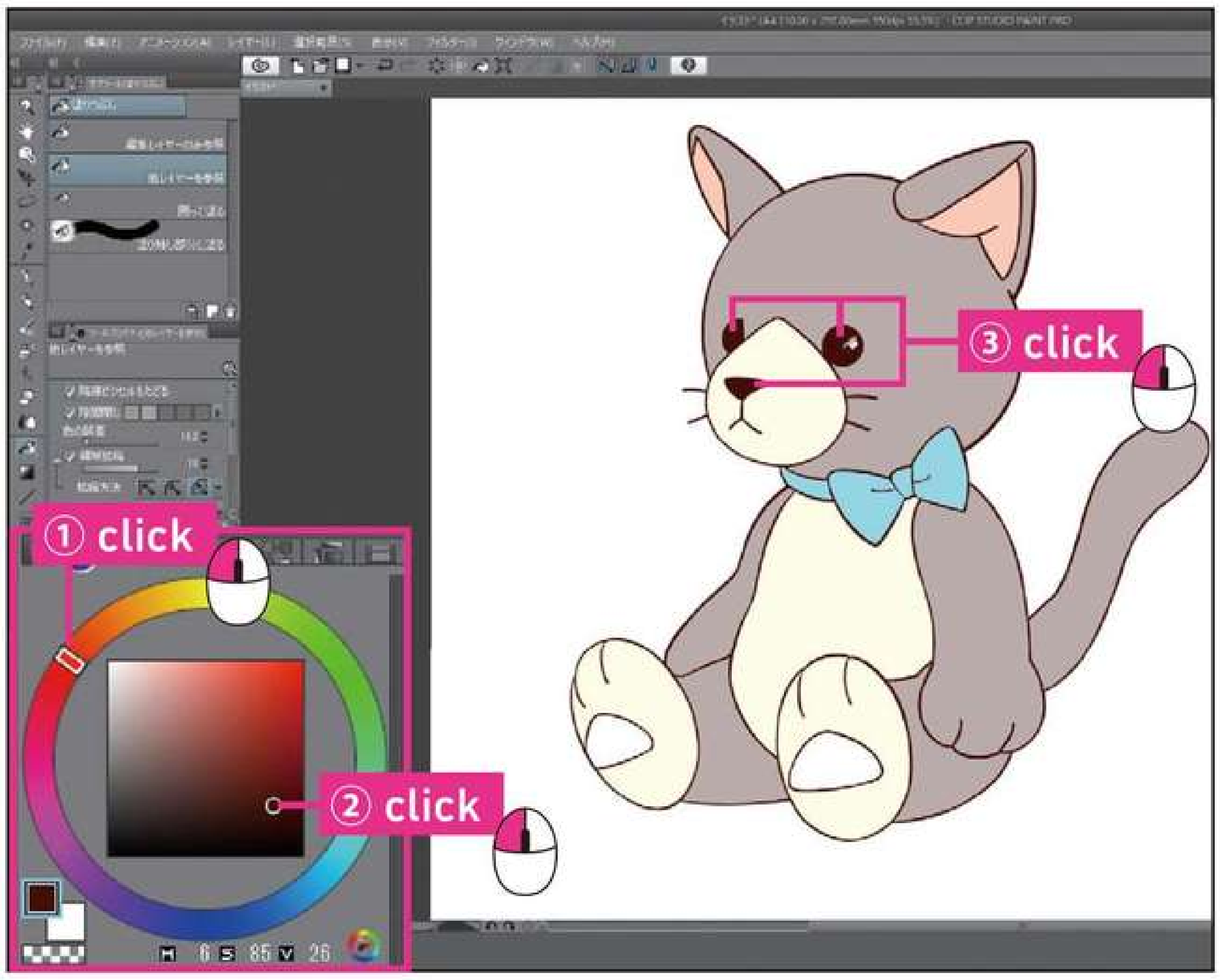
8

リボンは水色にしました。



9

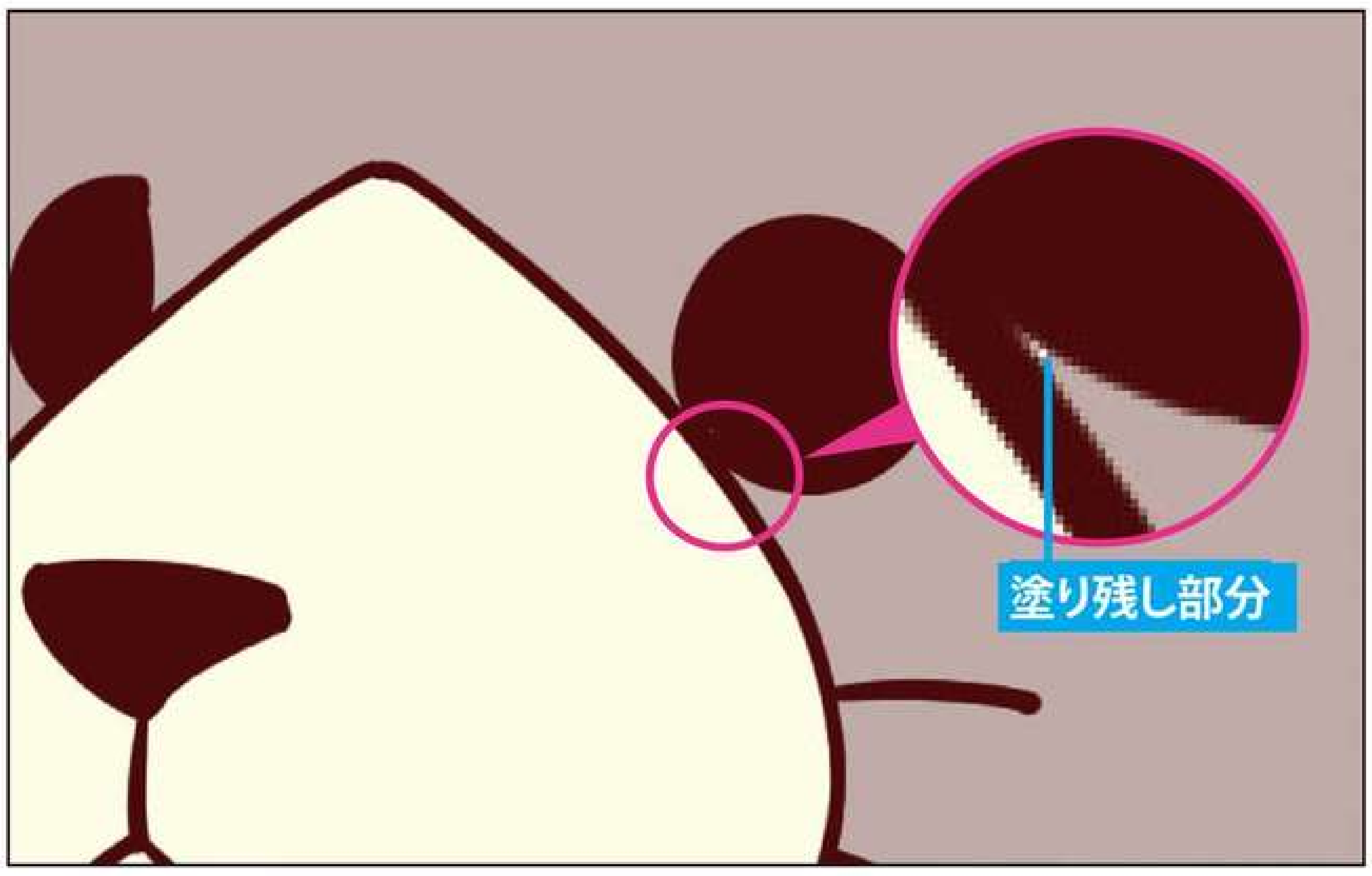
最後に鼻と目を濃い茶色にしました。



Step 03 塗り残し部分を塗る

1

キャンバスウィンドウを拡大し、塗り残しのある箇所を探します。



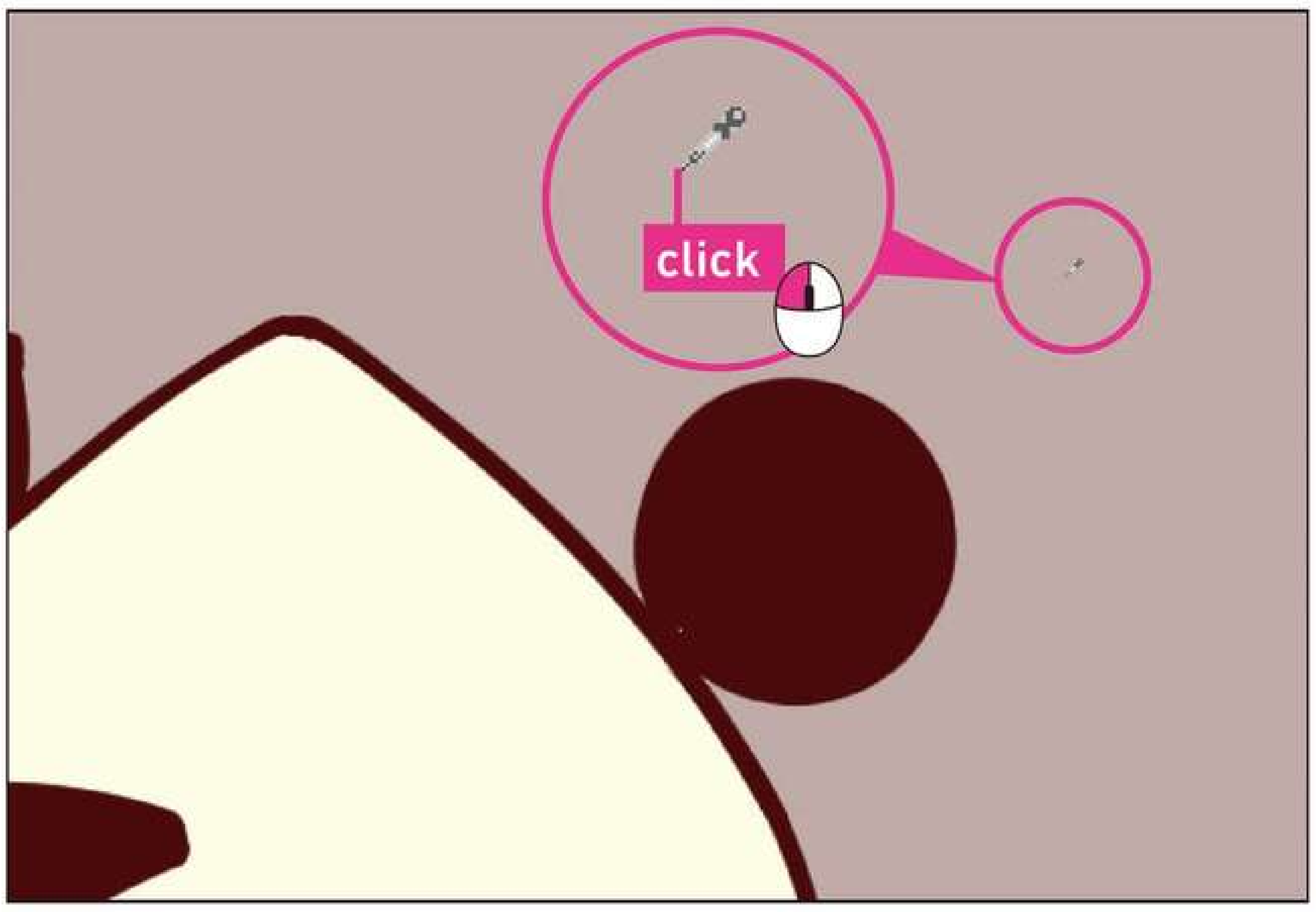
2

［ツール］パレットの［スポイト］ツールを選択し、取得したい色の部分をクリックします（ここではグレーの部分）。

Memo

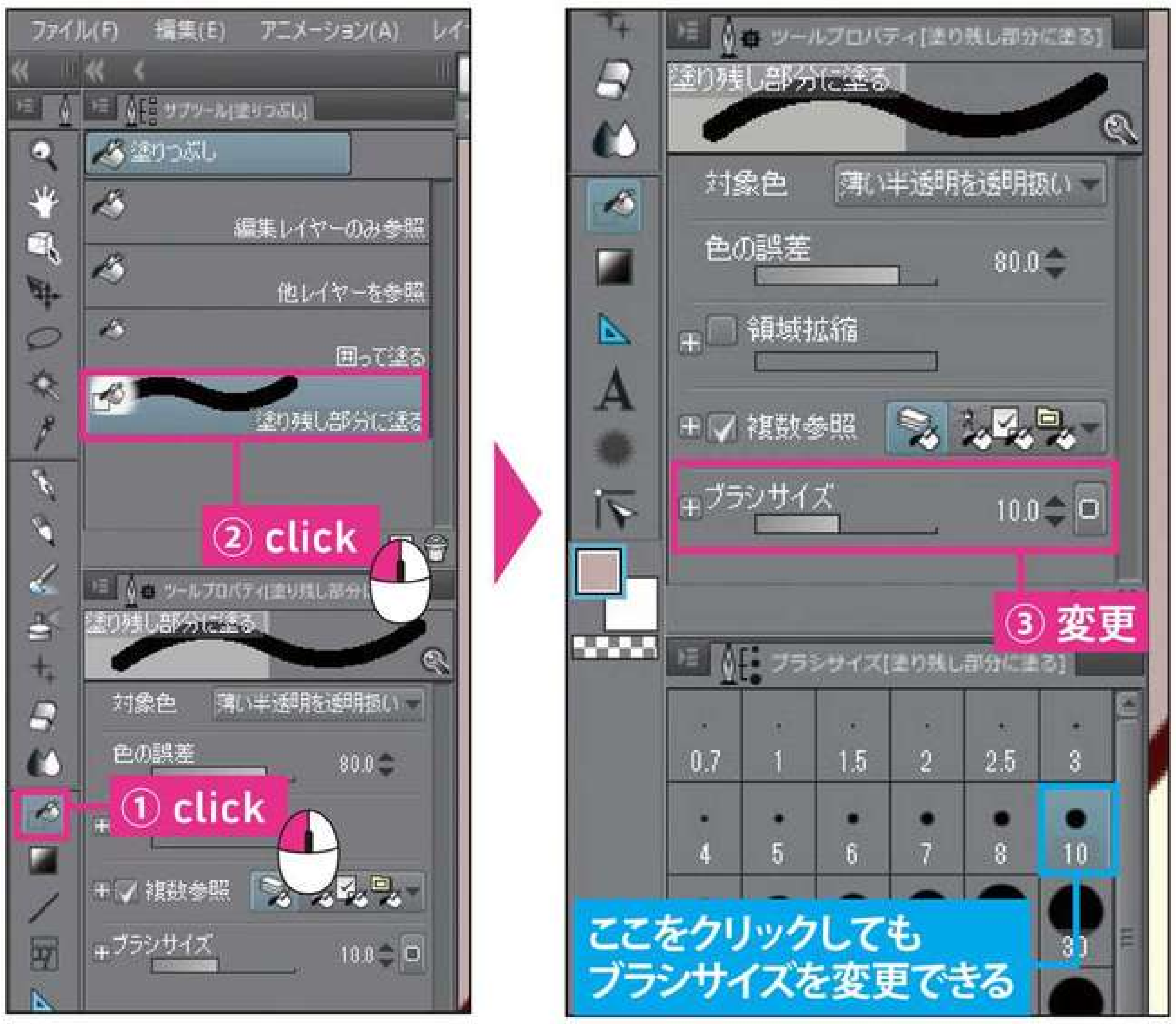
［スポイト］ツールのショートカットは次の通りです。

［スポイト］：Iキー



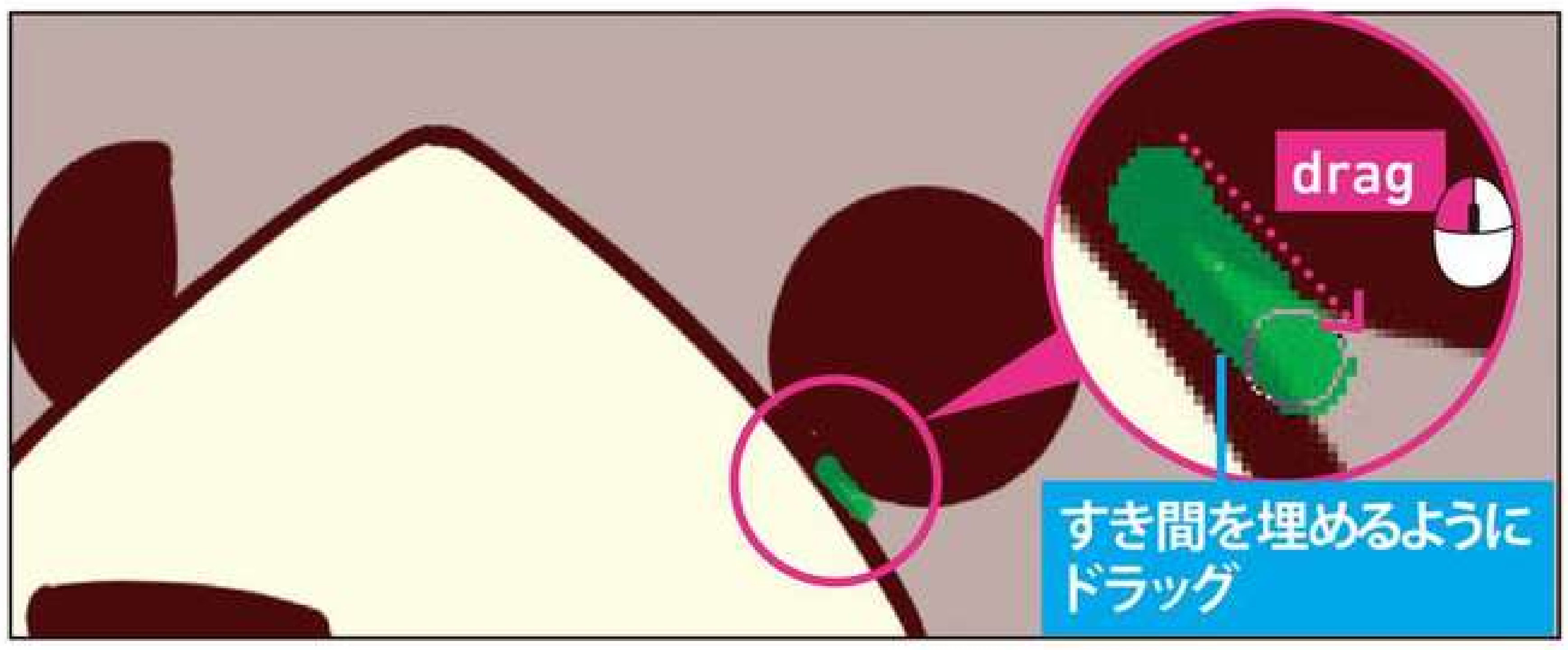
3

［ツール］パレットの［塗りつぶし］ツールをクリックし、［サブツール］パレットから［塗り残し部分に塗る］を選択します。
細かい部分に塗るので、［ツールプロパティ］パレットのブラシサイズを小さめに変更します。ここでは「10pixel」にしました。



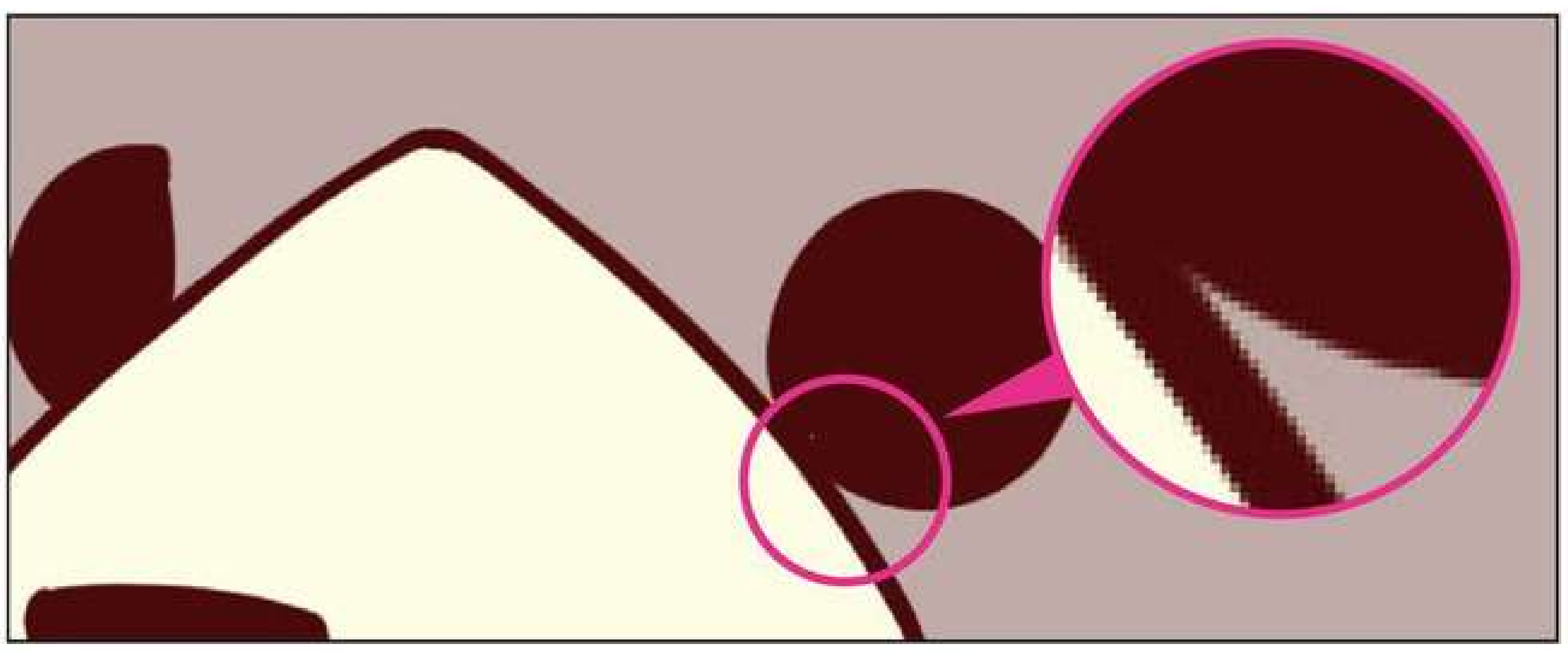
4

塗り残し部分の隙間を埋めるようにしてドラッグしていきます。ドラッグしている最中は緑色に表示されます。



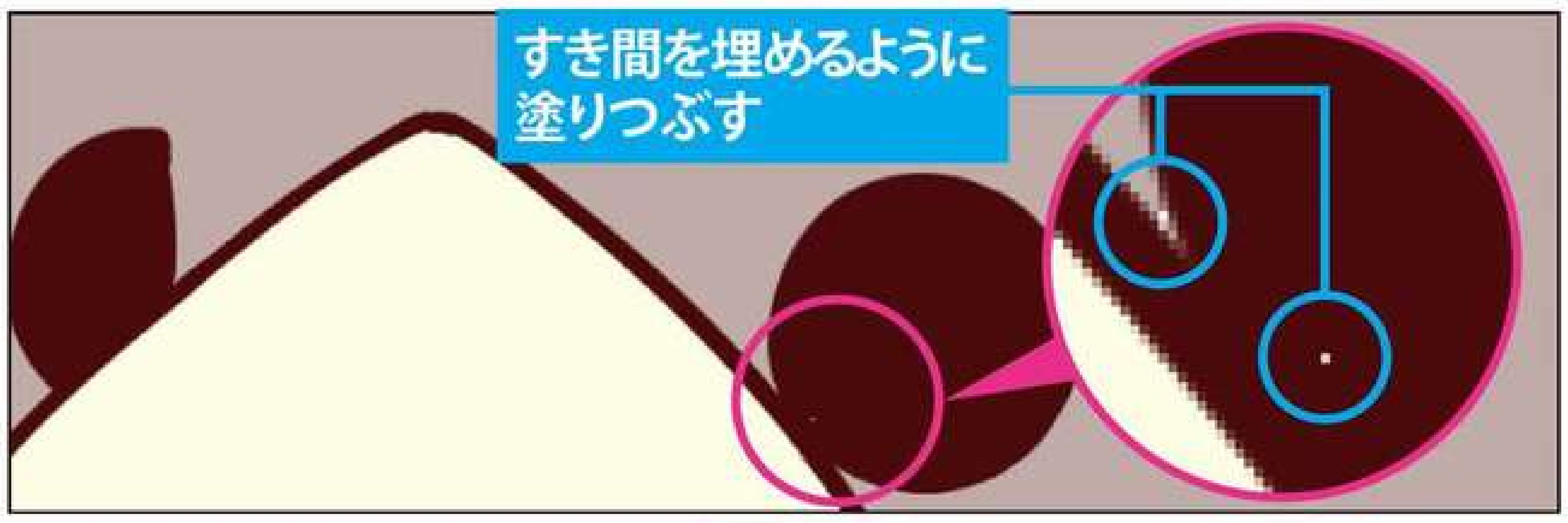
5

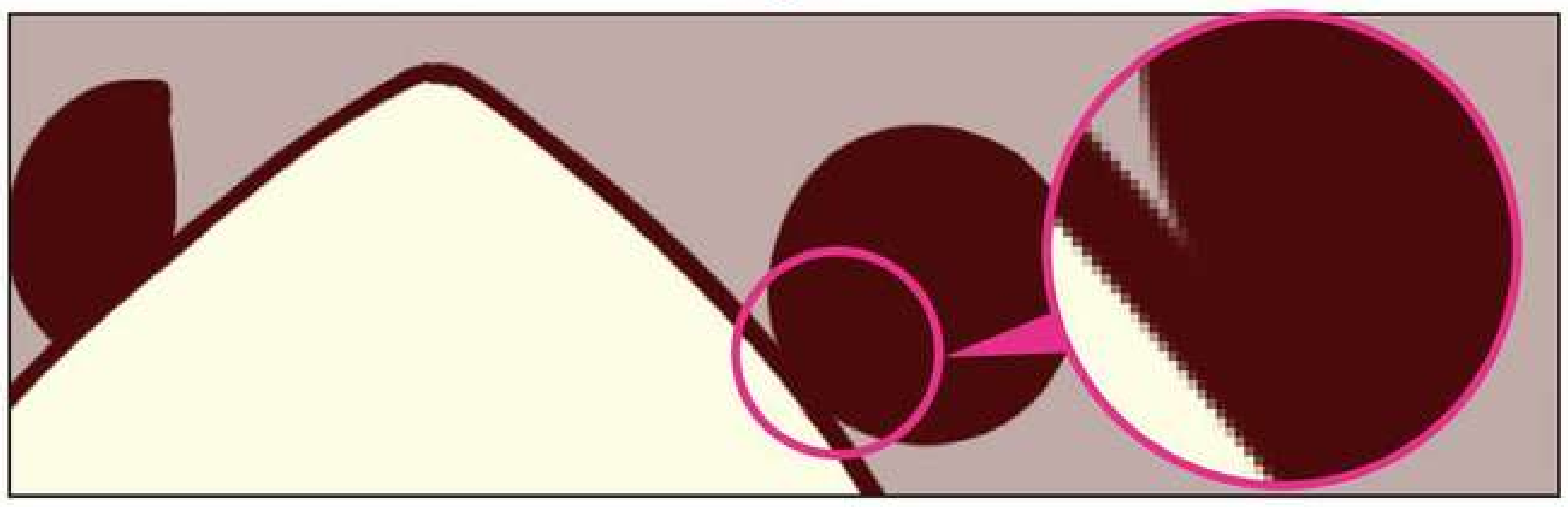
緑色に表示されている領域内の閉じられている部分が塗りつぶせます。



6

同様に他の場所も塗りつぶします。





Memo

目の茶色の塗り残し部分は、[スポイト]ツール で色を拾いなおし、塗りつぶしましょう。

Column

[塗りつぶし]ツールの種類

[塗りつぶし]ツール には次のような項目が用意されています。作業に合わせて使い分けましょう。

1 編集レイヤーのみ参照
選択されているレイヤーを参照して塗りつぶしができる。ここでは「塗り」レイヤーに何も描かれていないため全体が塗りつぶされる。





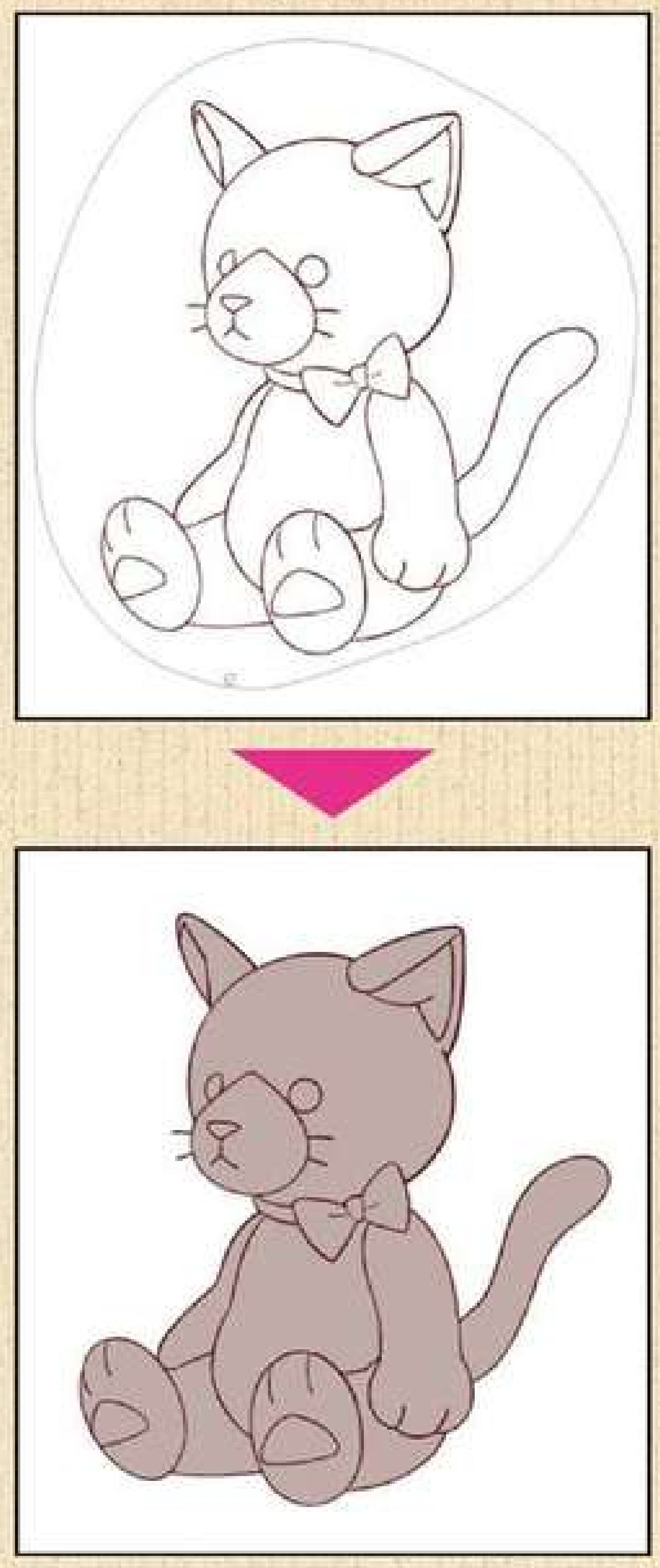
2 他レイヤーを参照
選択されているレイヤー以外を参照して塗りつぶしができる。ここでは「線画」レイヤーに描かれた線を参照して線で囲まれている部分が塗りつぶされる。





3 囲って塗る
[他レイヤーを参照]では閉じた領域を1つずつ塗るが、[囲って塗る]では選択範囲内にある複数の閉じた領域を一気に塗りつぶすことができる。





※[ツールプロパティ]パレットで、[複数参照]の[すべてのレイヤー]にチェックを入れている

4 塗り残し部分に塗る
※この節のStep03で説明。

Chapter 3 - 02

いろいろな描画ツールを使ってみよう



Before 3-02.clip

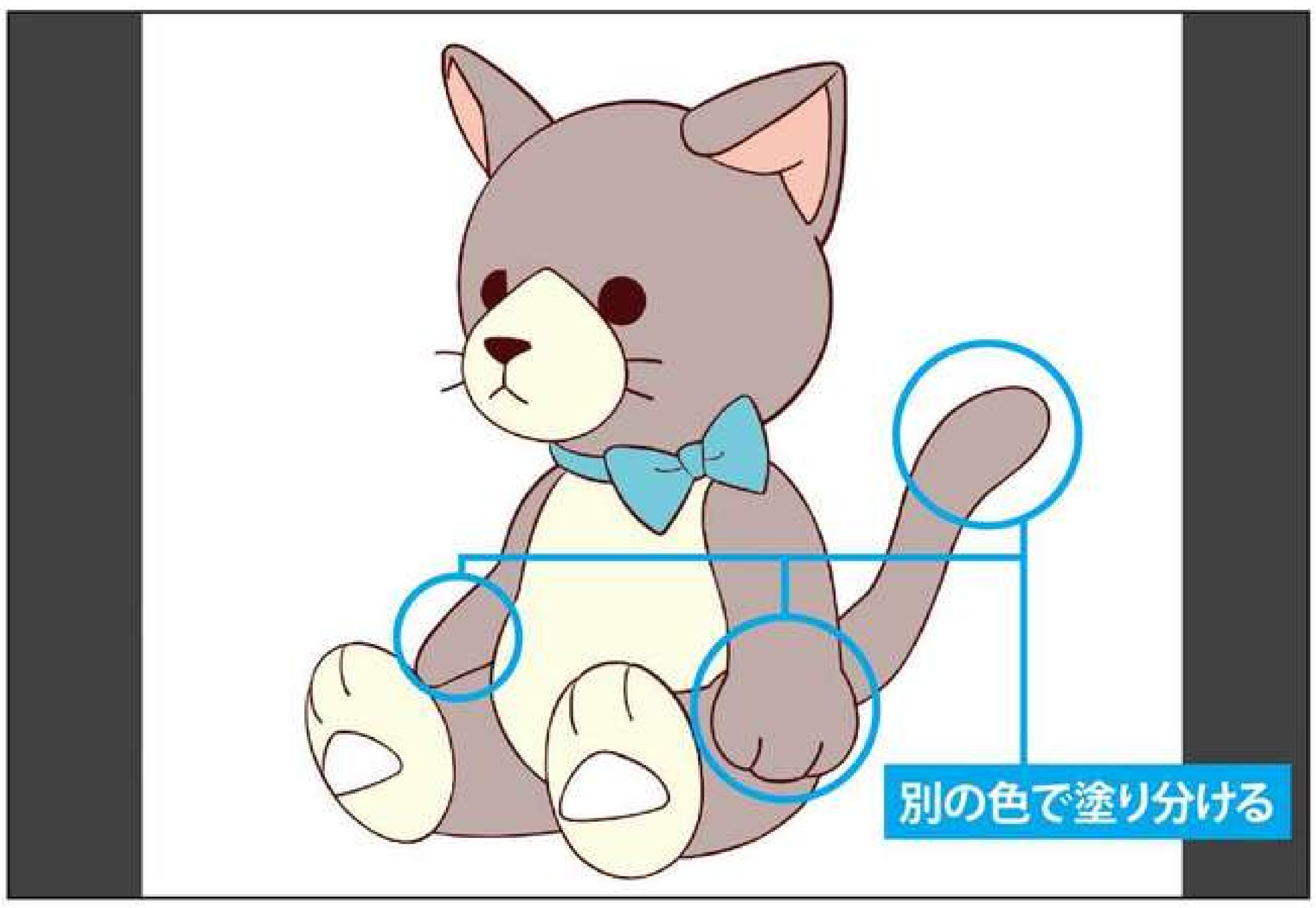


After 3-02a.clip

［筆］や［エアブラシ］などいろいろな描画ツールを使い分けて描いてみましょう。

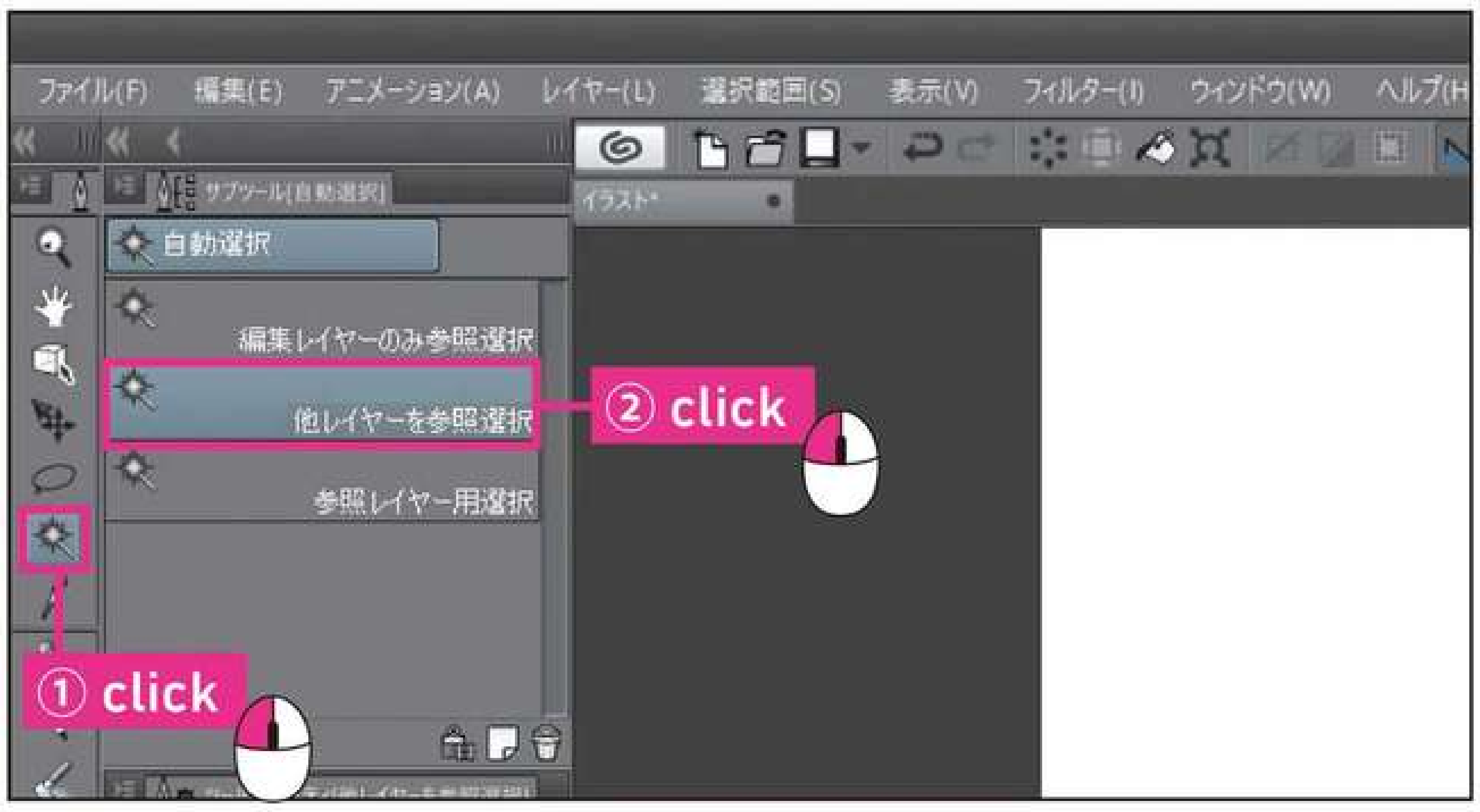
Step 01 ［筆］ツールで色を塗る

ここでは手の部分と尻尾の先の部分を別の色で塗っていきます。



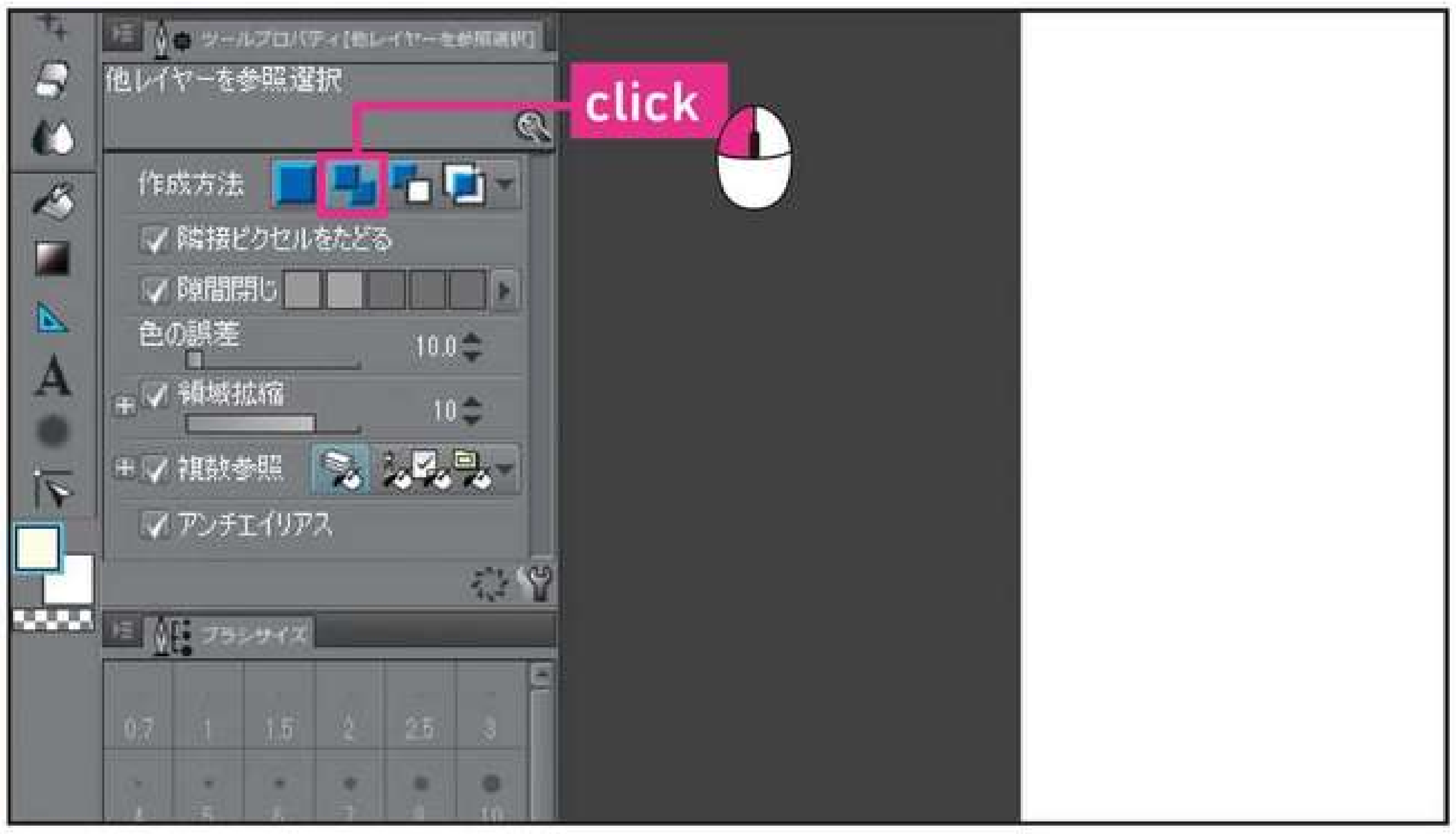
2

はみ出さないように塗るため、選択範囲を設定します。
［ツール］パレットの［自動選択］ツールをクリックし、［サブツール］パレットから［他レイヤーを参照選択］を選択します。



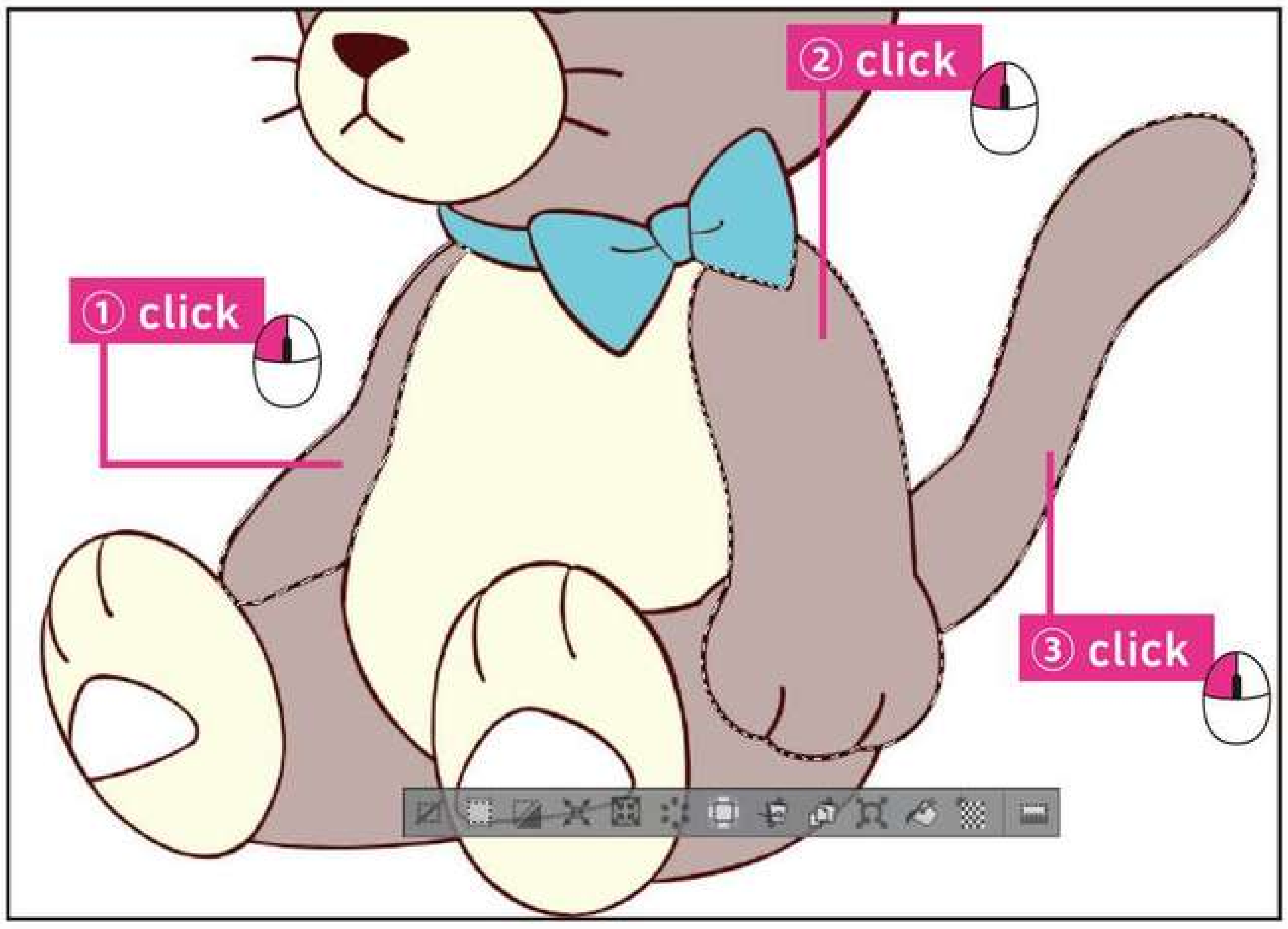
3

色を塗りたい部分をクリックして選択範囲を作成します。
［ツールプロパティ］パレットの［作成方法］を［追加選択］にすると、複数の選択範囲を指定することができます。



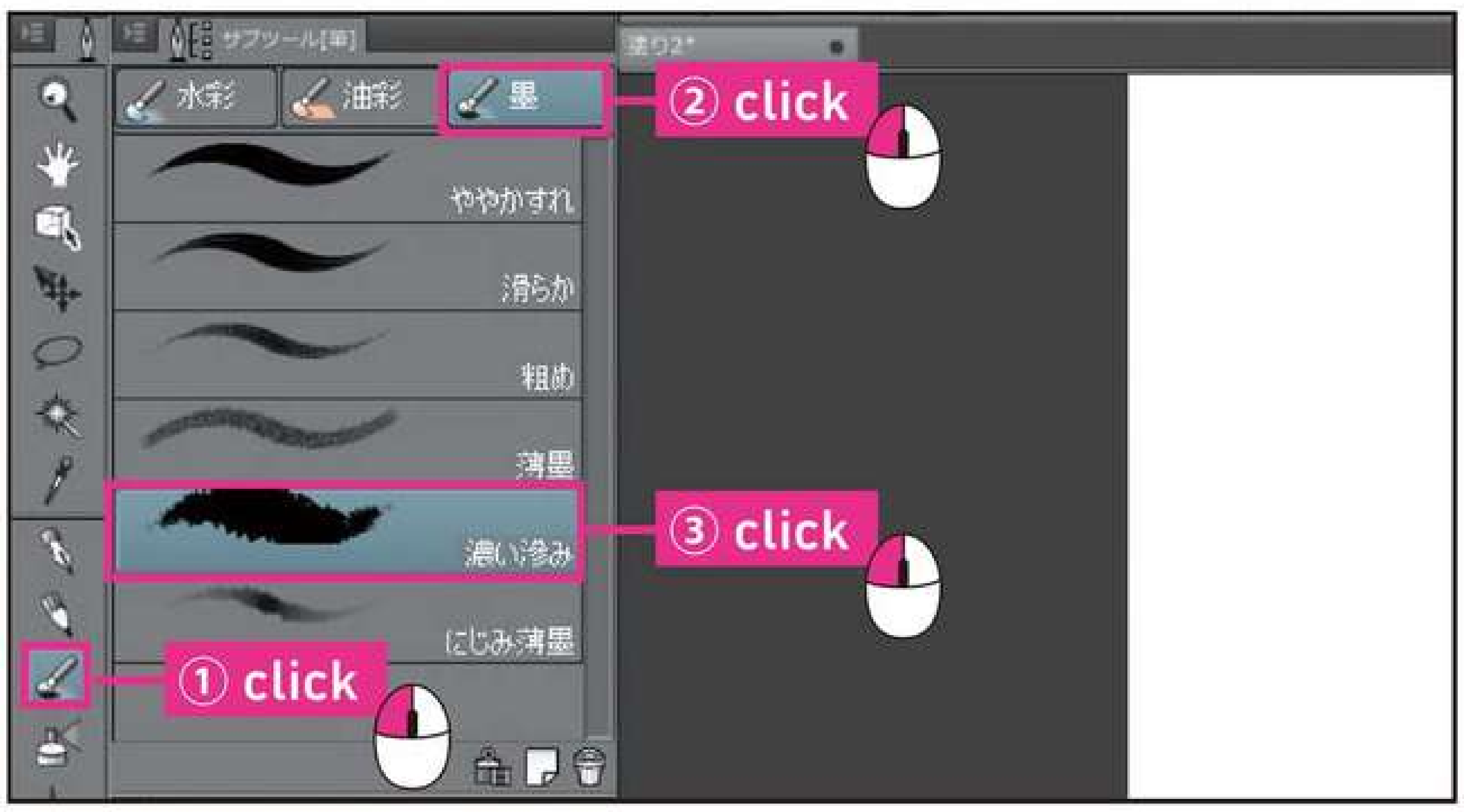
4

ここでは両手と尻尾をクリックして選択範囲を作成しました。



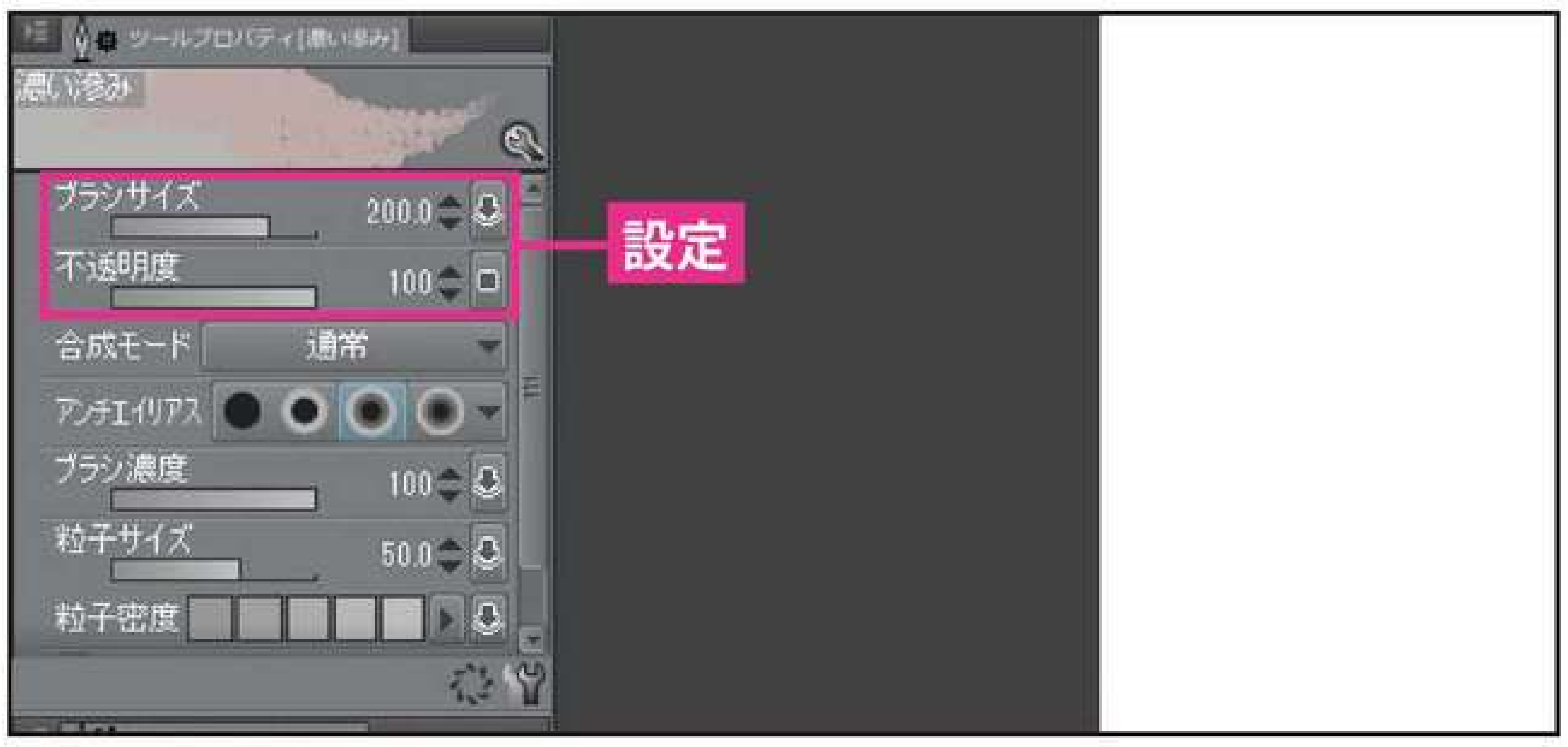
5

［ツール］パレットの［筆］ツールをクリックし、［サブツール］パレットから［墨］の［濃い滲み］を選択します。



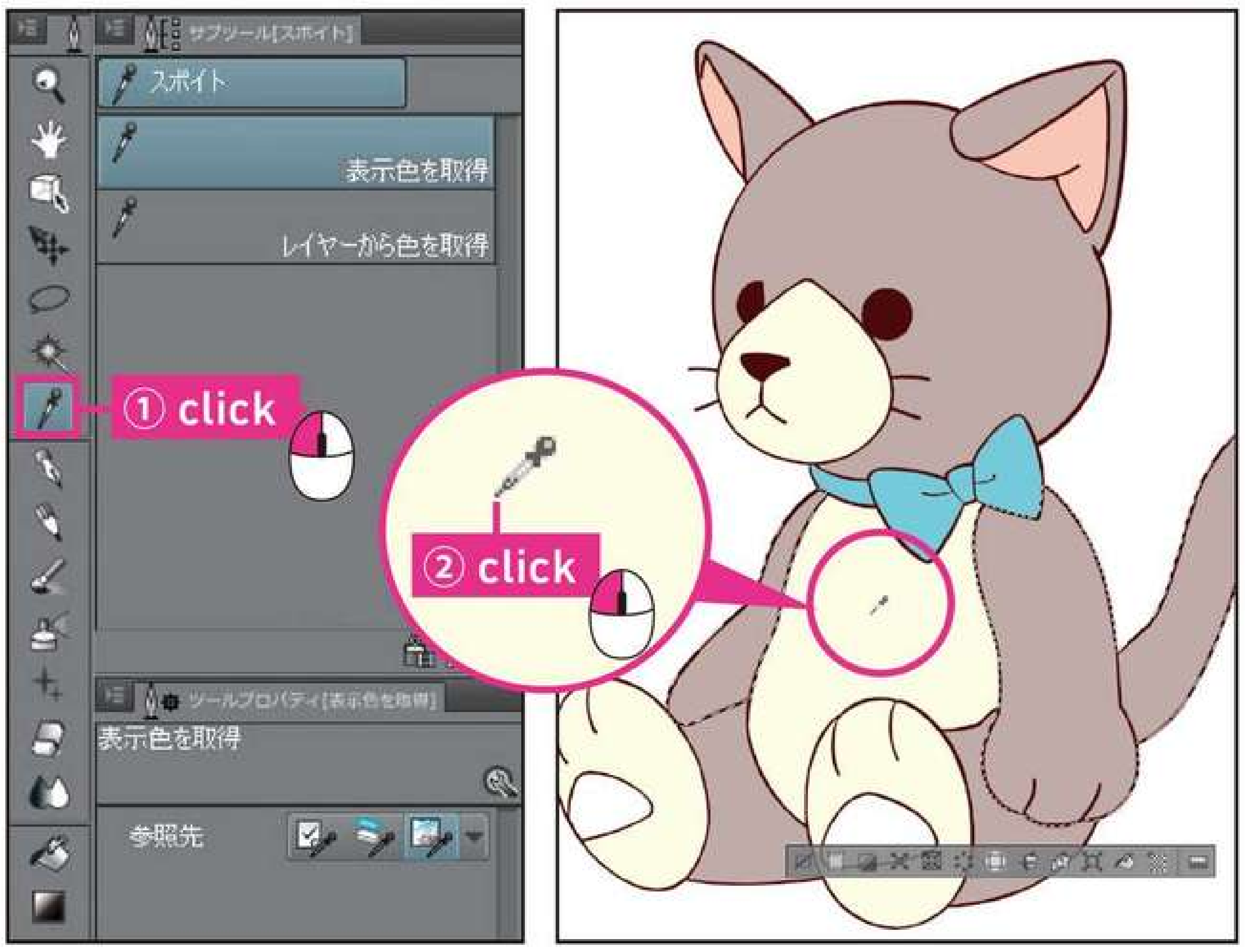
6

［ツールプロパティ］パレットで筆の設定を細かく変更することができます。
ここではブラシサイズを大きめの「200pixel」に、不透明度は「100%」にしました。



7

色はp.51の手順6のおなかの部分を塗ったクリーム色を使います。
［スポイト］ツールを使ってクリーム色を選択します。



8

ドラッグして色を塗っていきます。
しっぽの先を図のように、上から斜め下に向かって塗ります。



Hint

［墨］の［濃い滲み］

［濃い滲み］で描くと、図のように濃淡をつけながら、にじんだようなタッチを表現することができます。



9

同じように左右の手もドラッグして塗っていきます。



10

細かい部分は筆のサイズを小さくして（ここでは「50pixel」）、描いていきます。

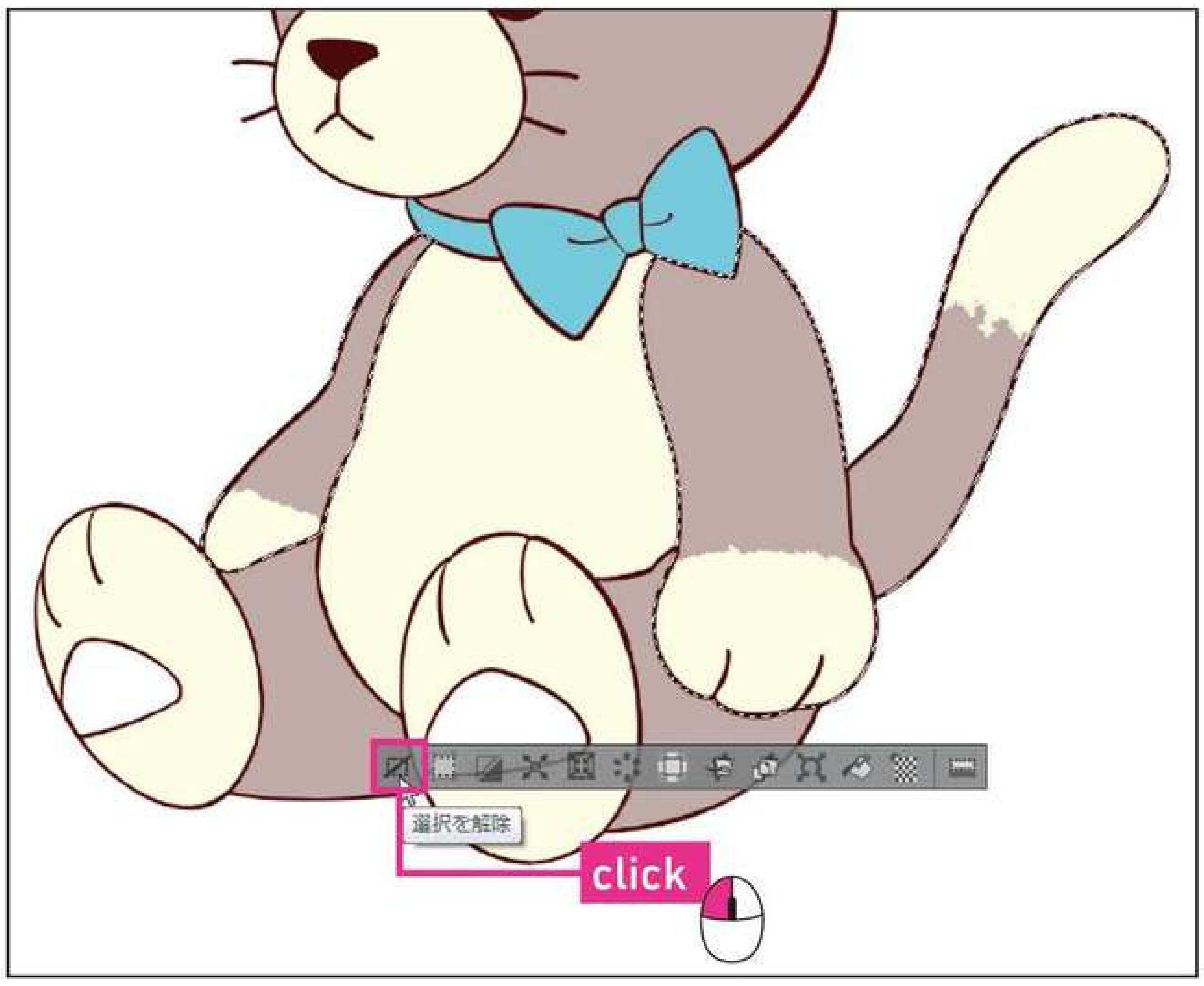


Memo

［ブラシサイズ］パレットで目的のサイズをクリックしても変更できます。

11

最後に選択範囲を解除します。
選択範囲ランチャーの［選択を解除］ボタンをクリックします。



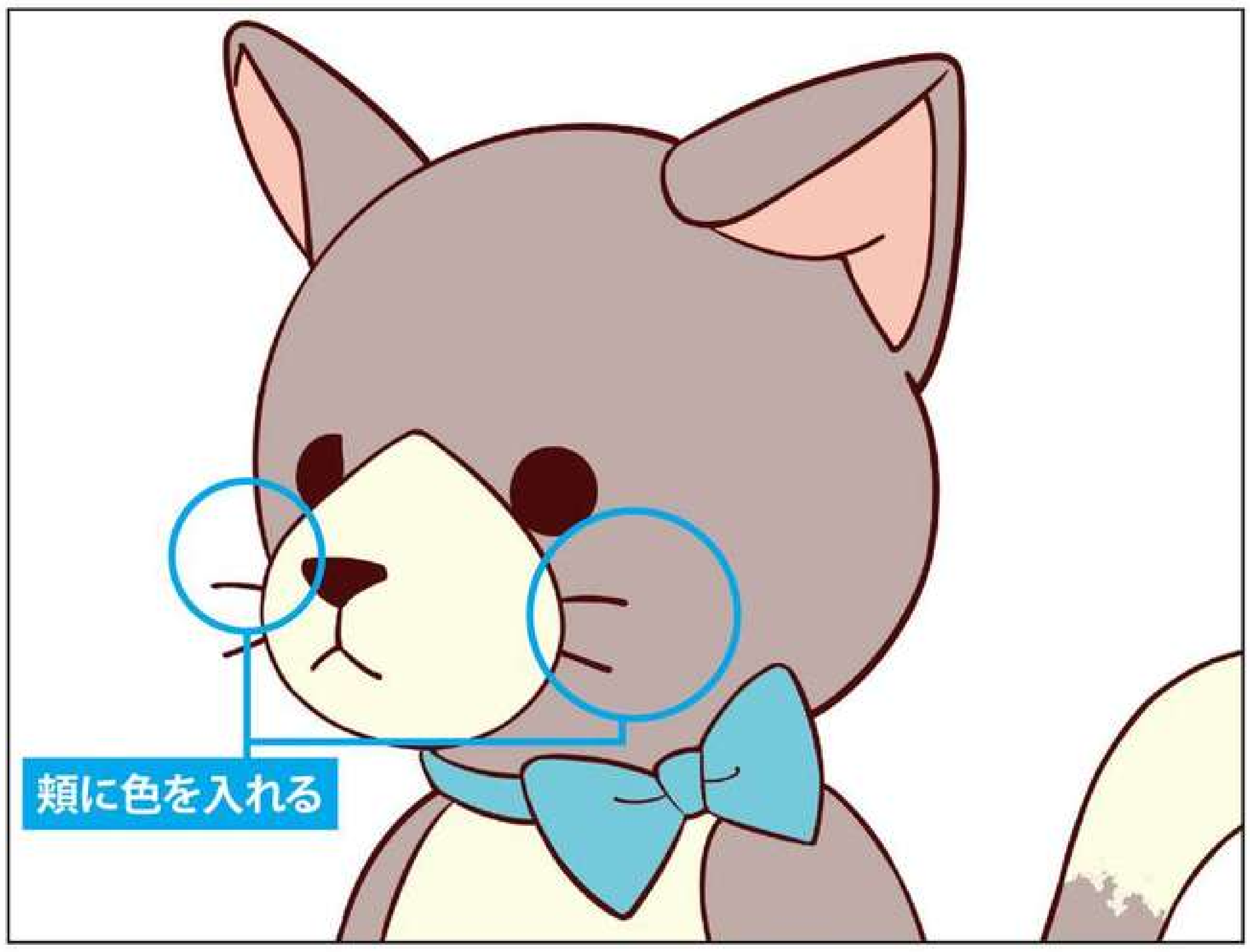
Memo

［選択範囲］メニュー→［選択を解除］の順にクリックしても解除できます。

Step 02 ［エアブラシ］ツールで色を塗る

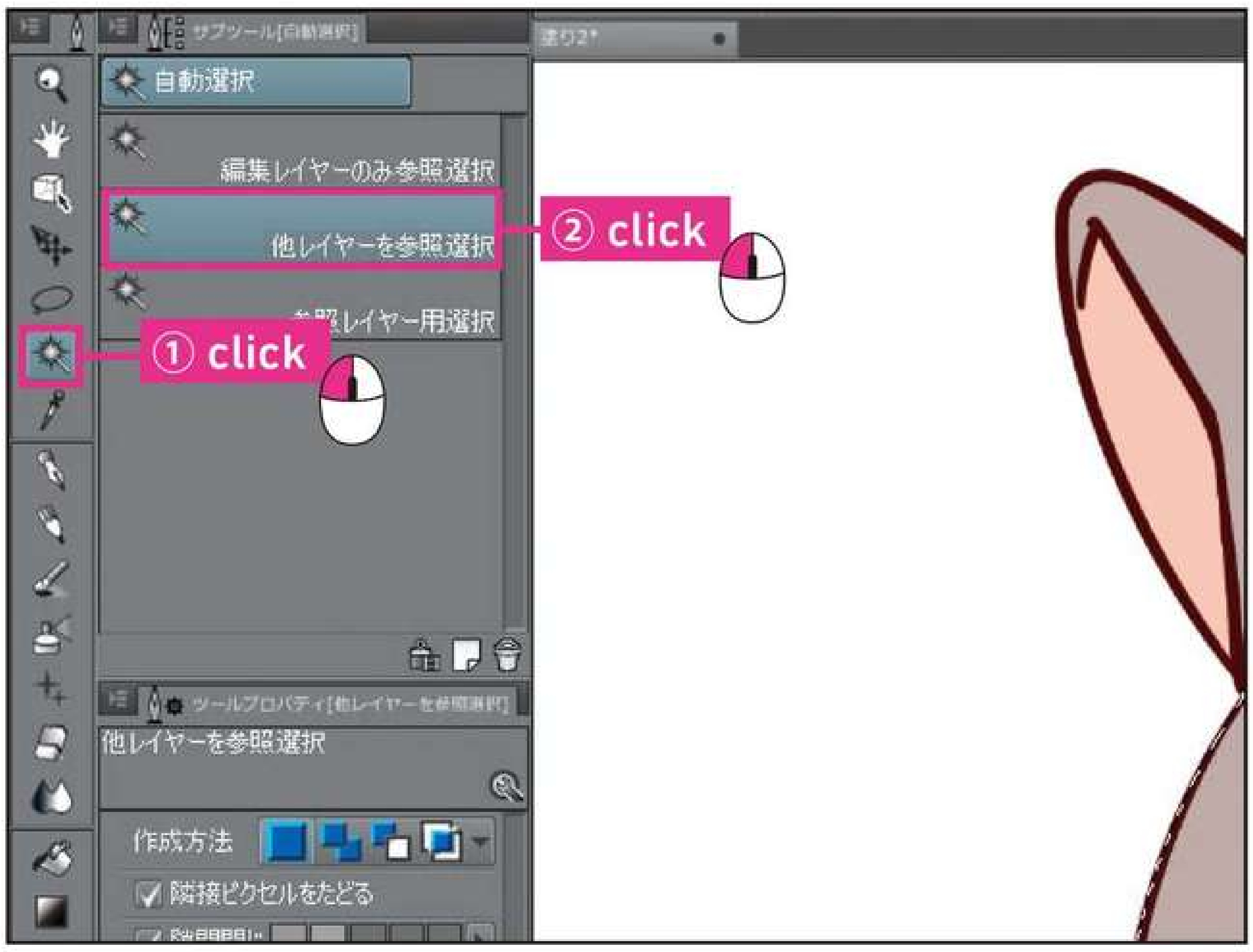
1

ここでは頬の部分にふんわりと色を入れていきます。



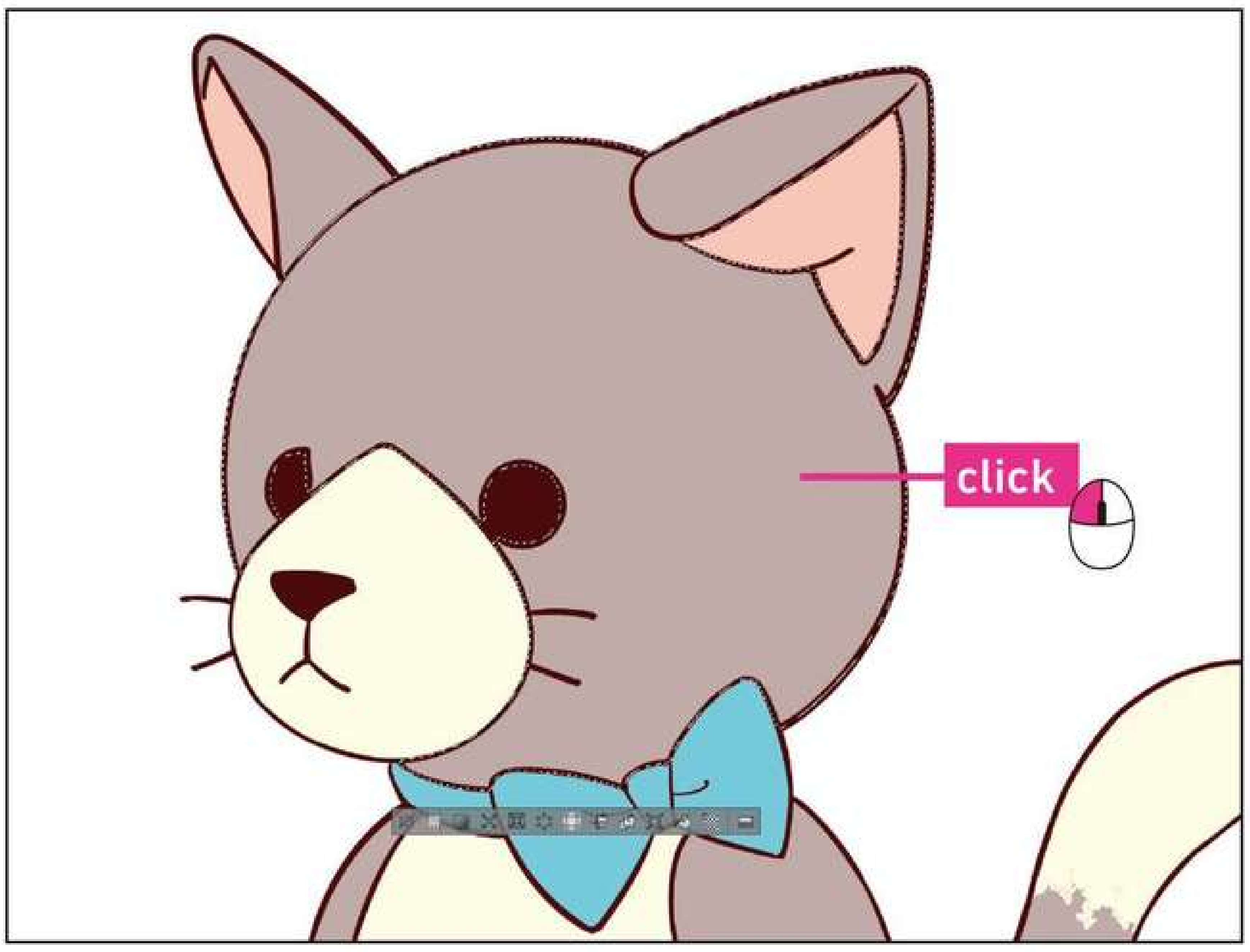
2

p.55のStep01と同様の方法で、選択範囲を設定します。



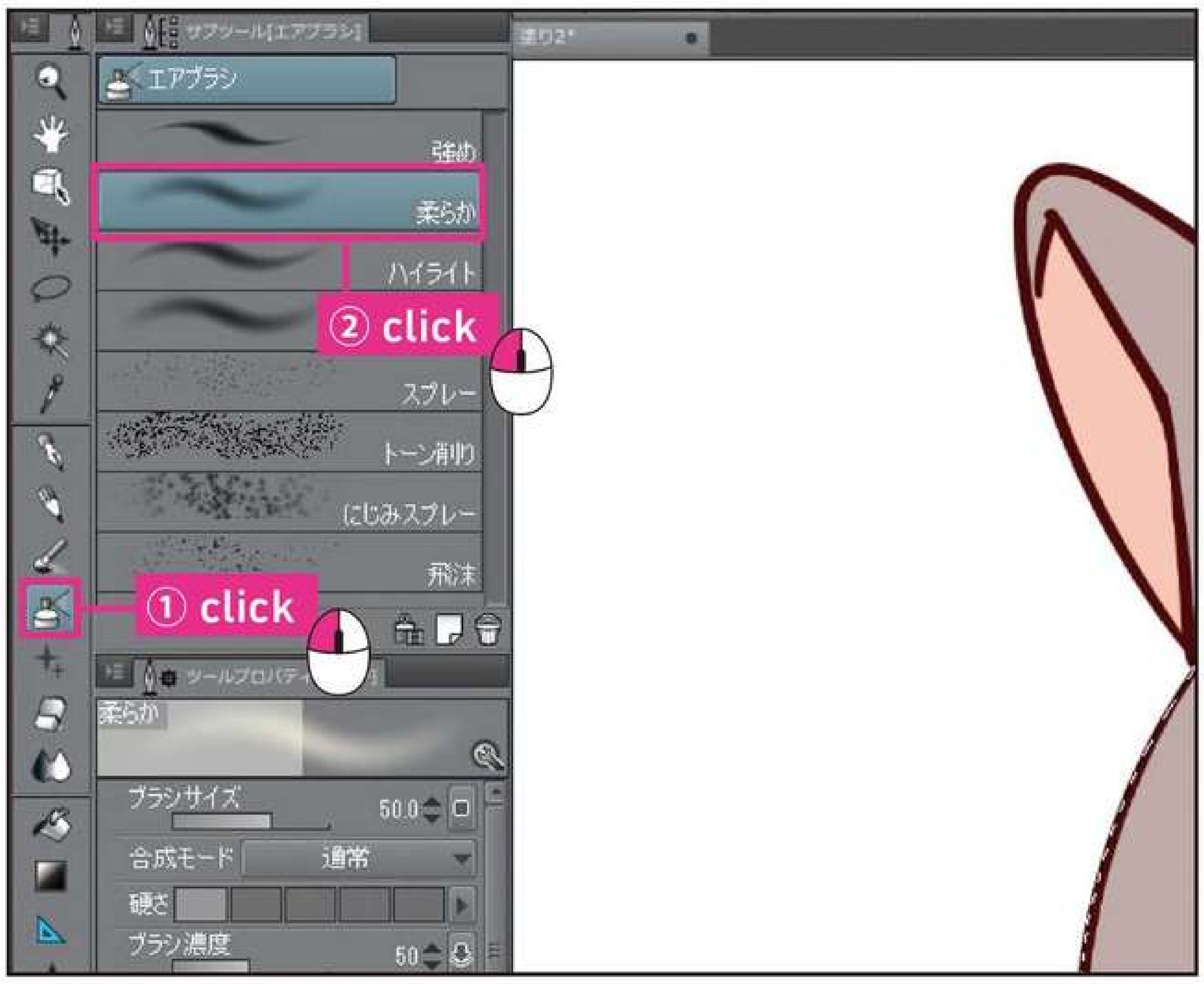
3

ここでは顔の部分に選択範囲を作成しました。



4

［ツール］パレットの［エアブラシ］ツール をクリックし、［サブツール］パレットから［柔らか］を選択します。



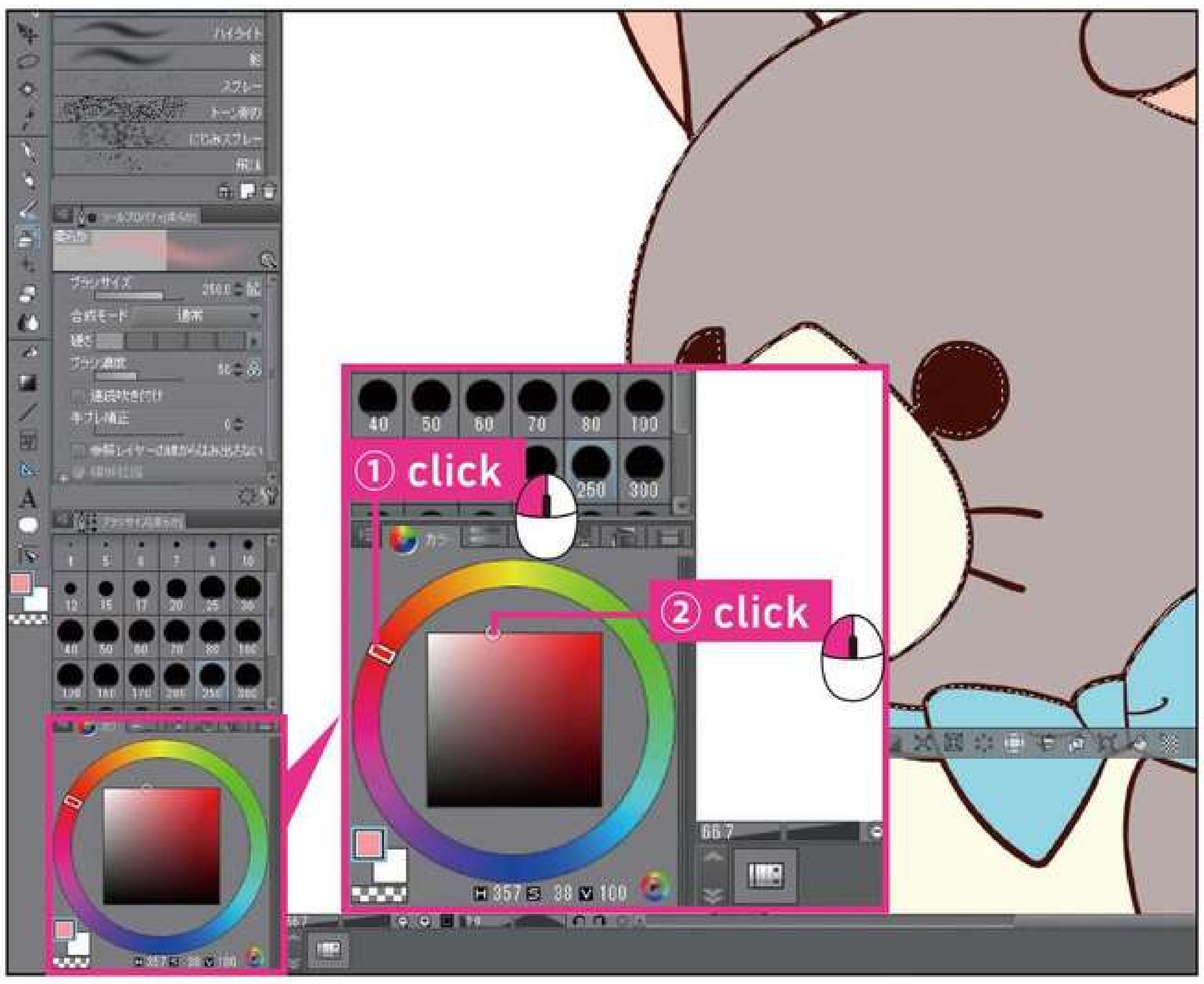
5

［ツールプロパティ］パレットで筆の設定を細かく変更することができます。
ここではブラシサイズを「250pixel」に、ブラシ濃度を「50%」に変更しました。



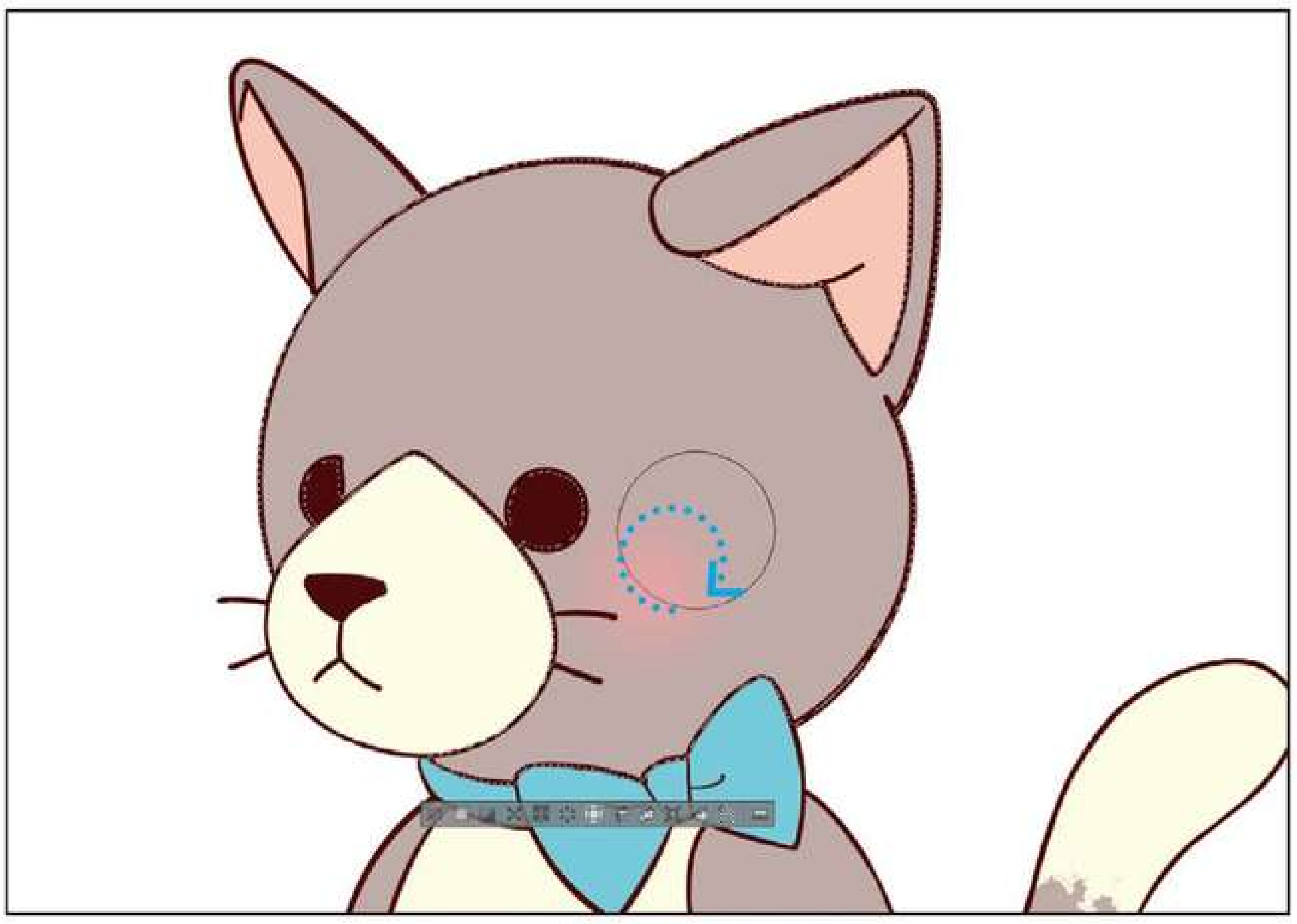
6

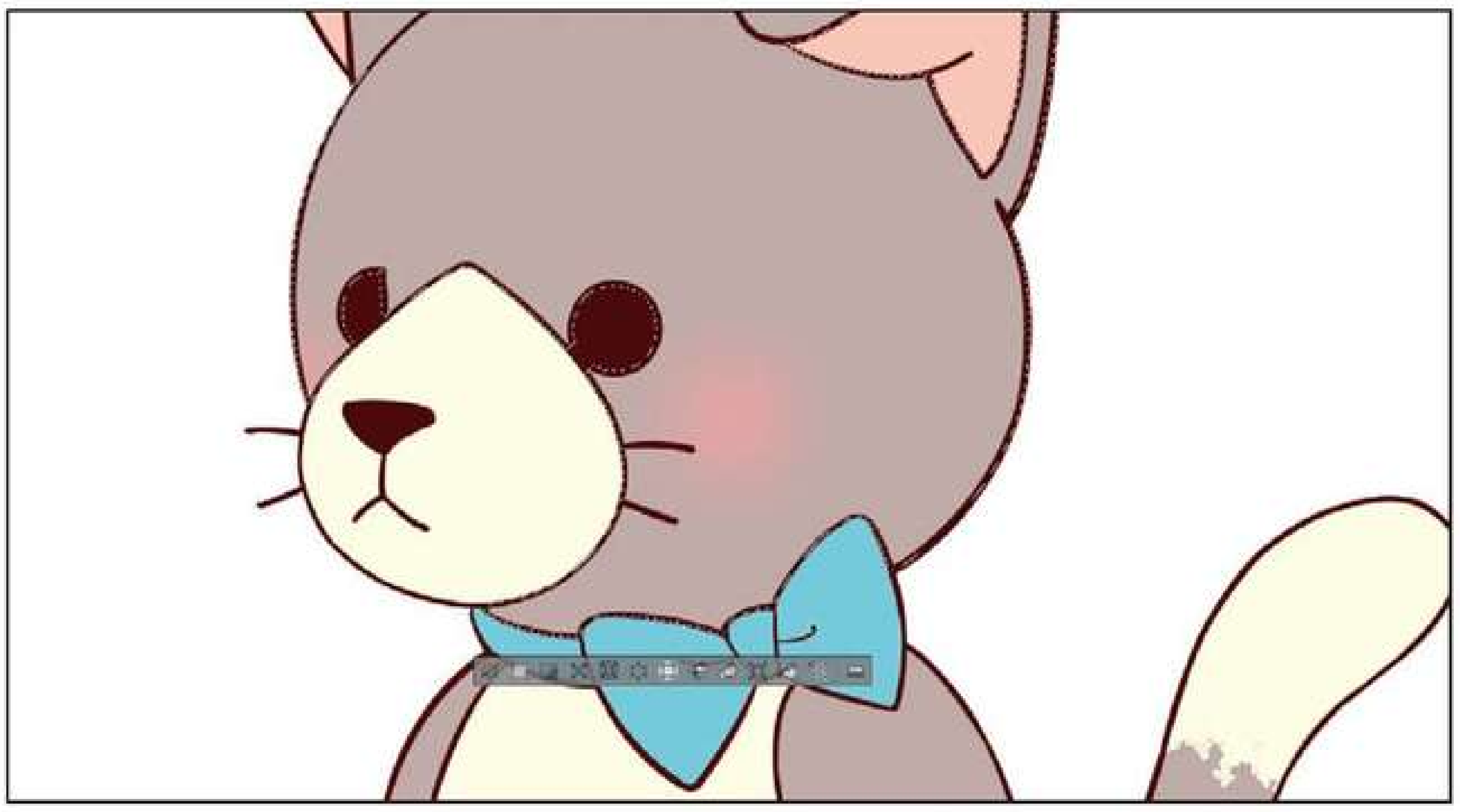
［カラーサークル］パレットで色を作ります。
ここでは薄いピンクにしました。



7

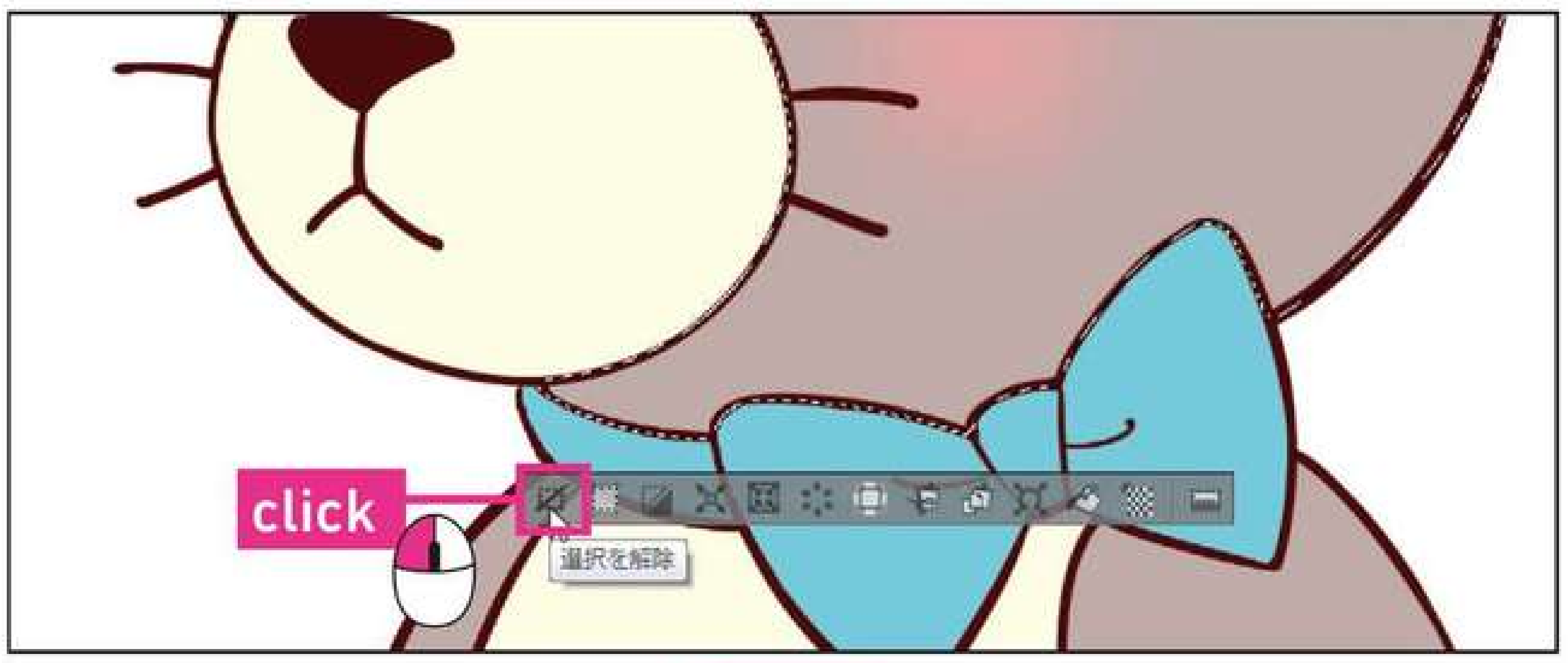
ドラッグして頬の部分をふんわりピンクに塗ります。
くるくると円を描くイメージでドラッグすると良い感じになります。

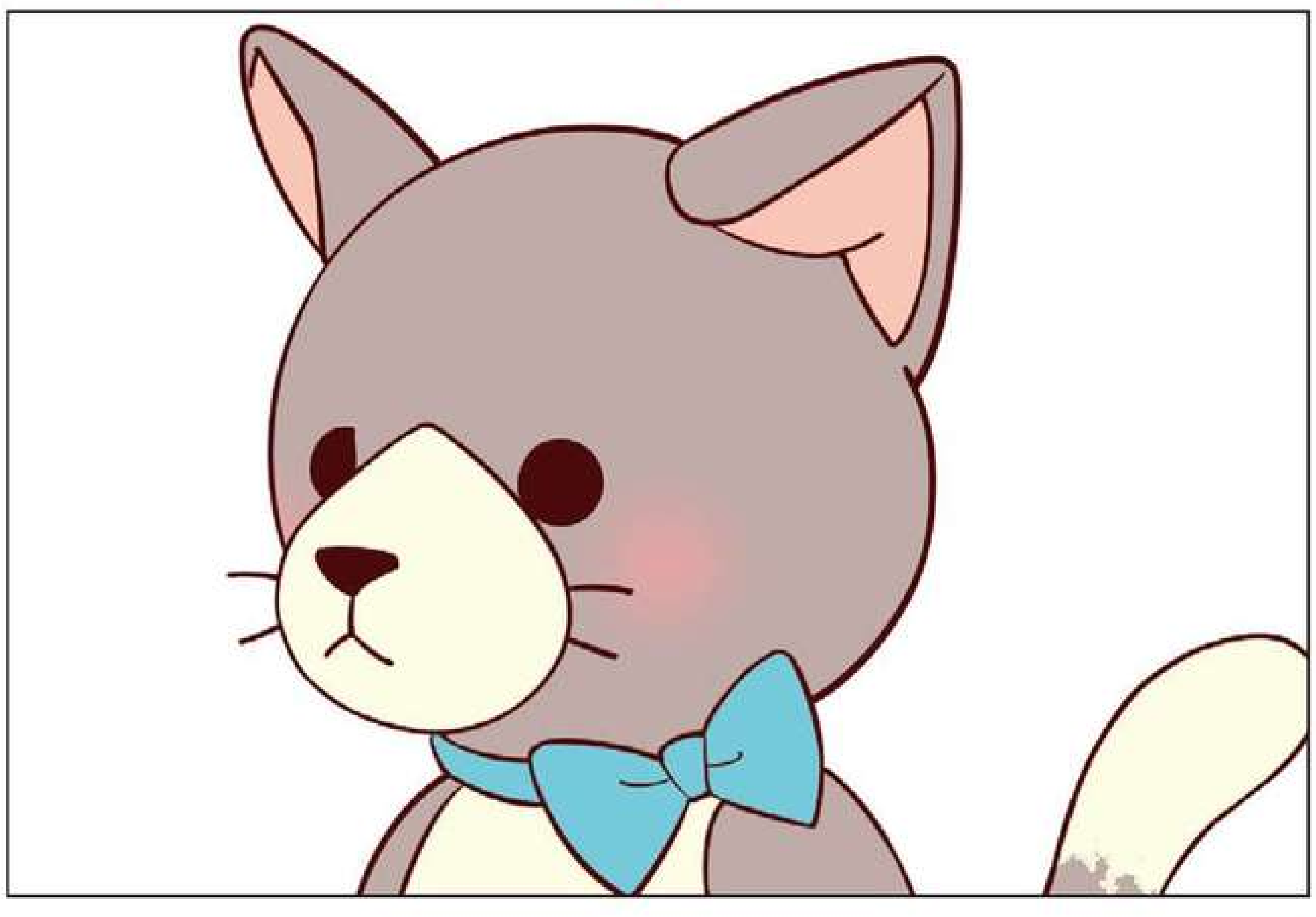




8

最後に選択範囲を解除します。
選択範囲ランチャーの［選択を解除］ボタンをクリックします。





Chapter 3 - 03

グラデーションとぼかしで塗ろう



Before 3-03.clip

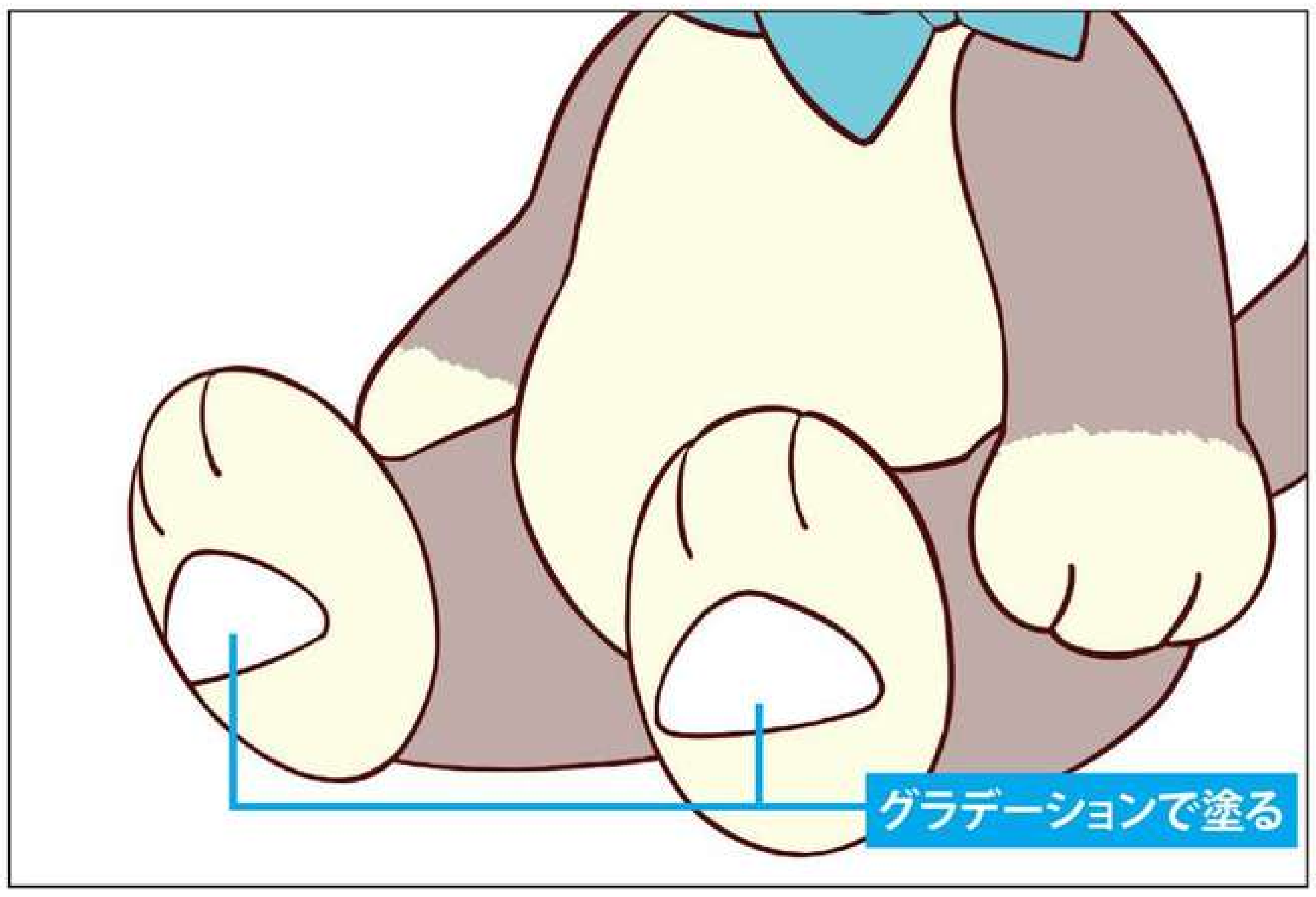


After 3-03a.clip

［グラデーション］や［ぼかし］、［指先］ツールを使って表現の幅を広げてみましょう。

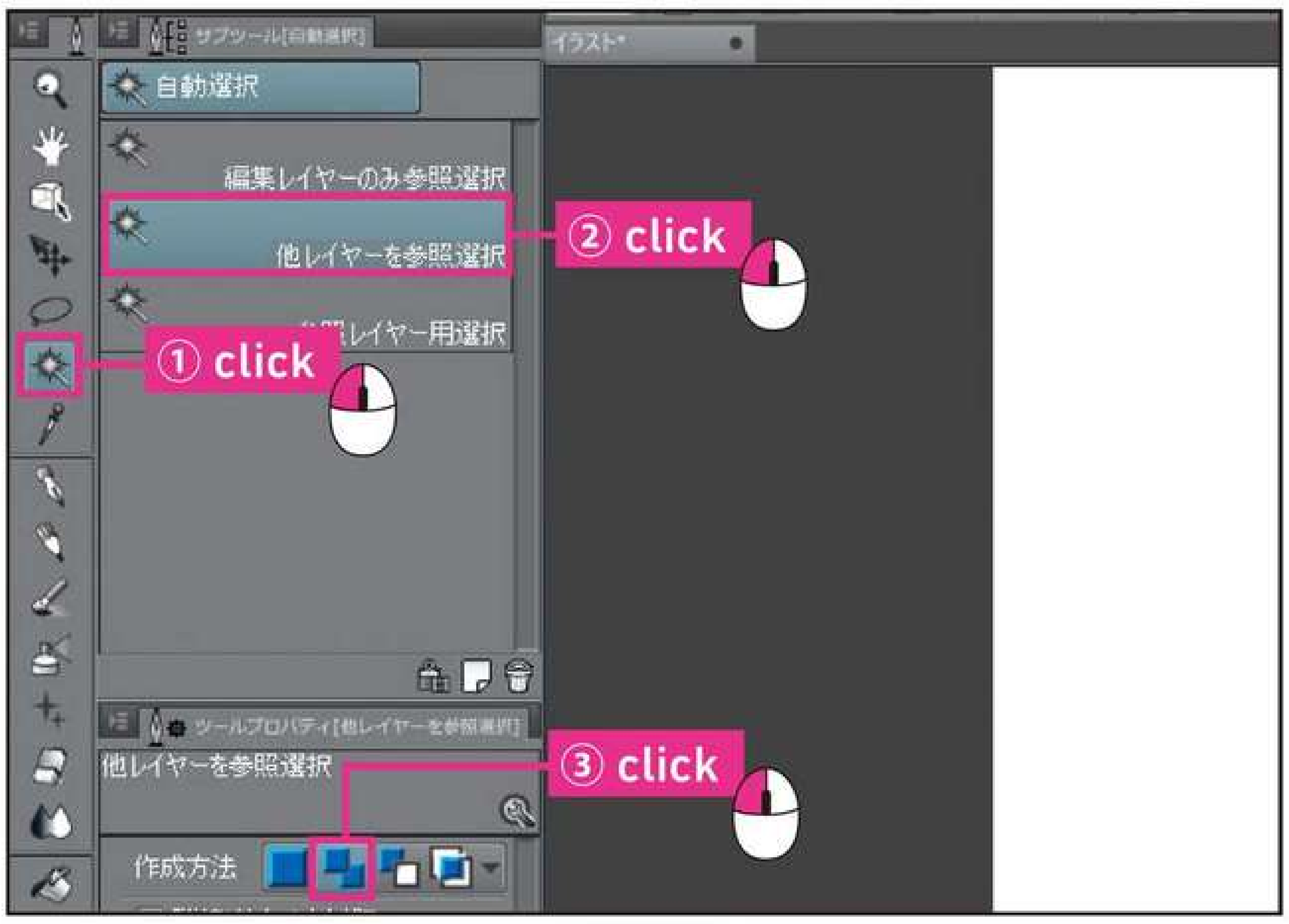
Step 01 ［グラデーション］を使って色を塗る

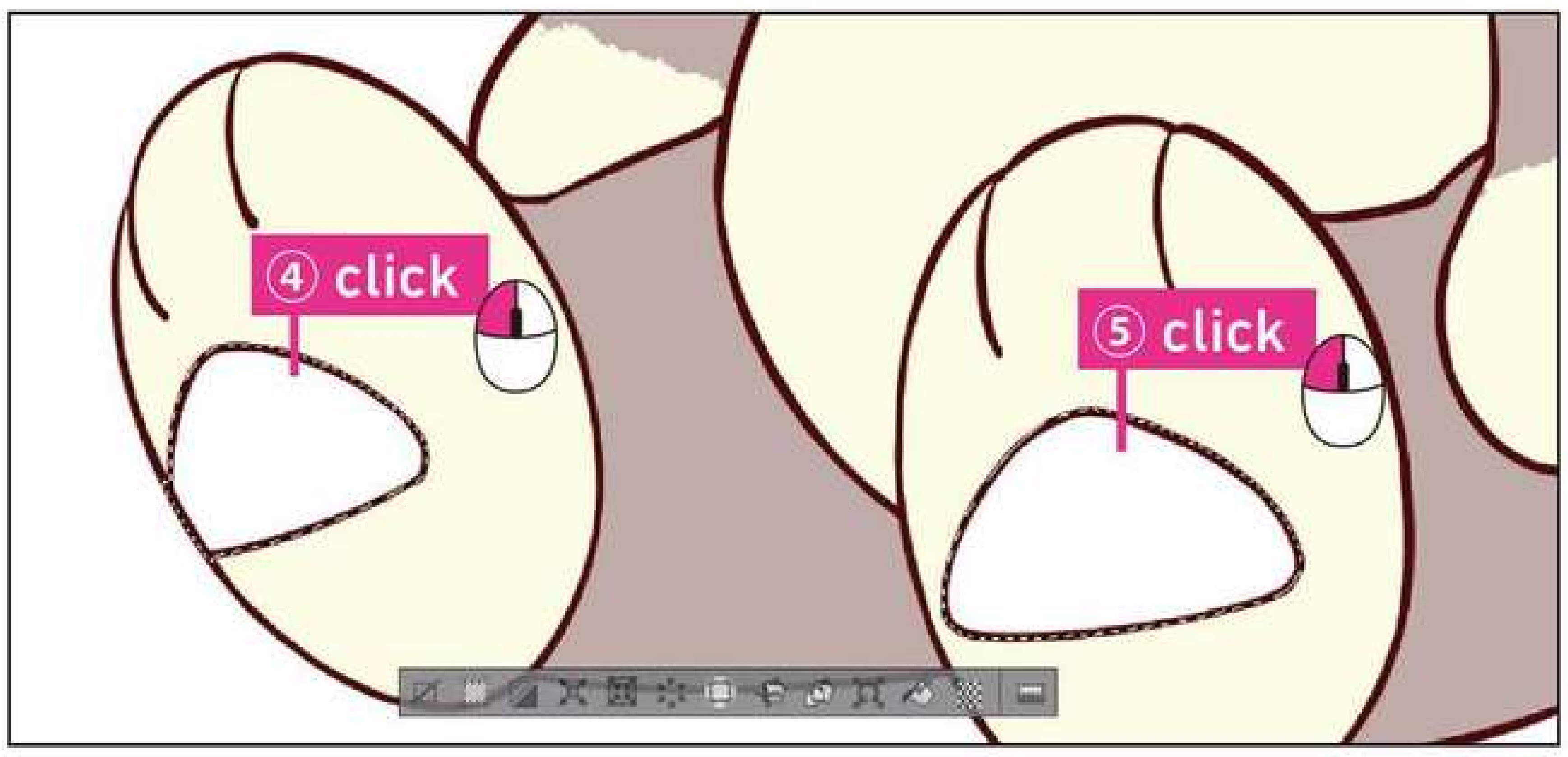
ここでは足の裏の部分を［グラデーション］ツール■で塗っていきます。



2

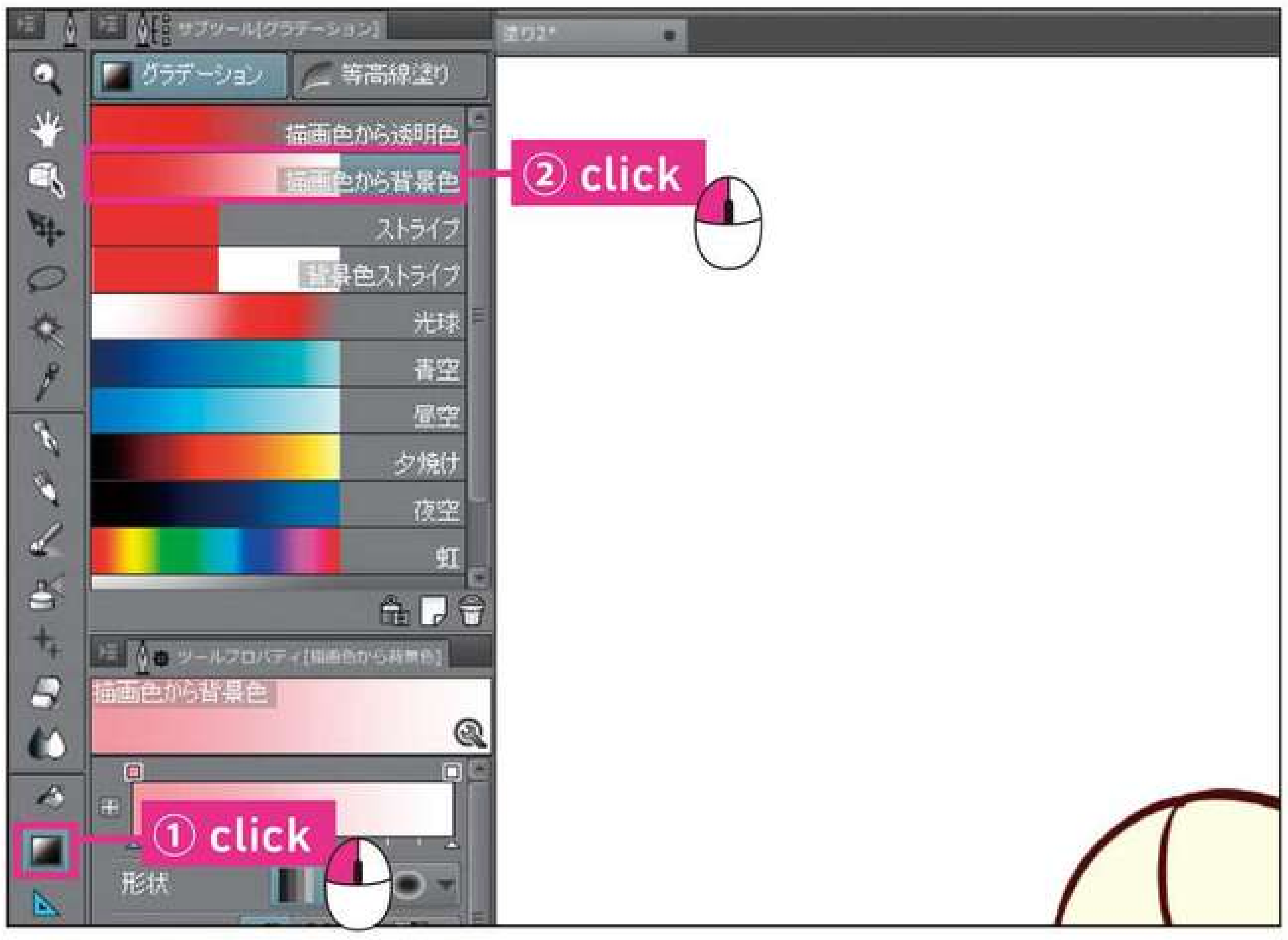
p.56の手順2～4と同様の方法で、選択範囲を設定します。
足の裏の部分に選択範囲を作成しました。





3

[ツール]パレットの[グラデーション]ツールをクリックし、[サブツール]パレットから[描画色から背景色]を選択します。[描画色から背景色]では2色のグラデーションができます。



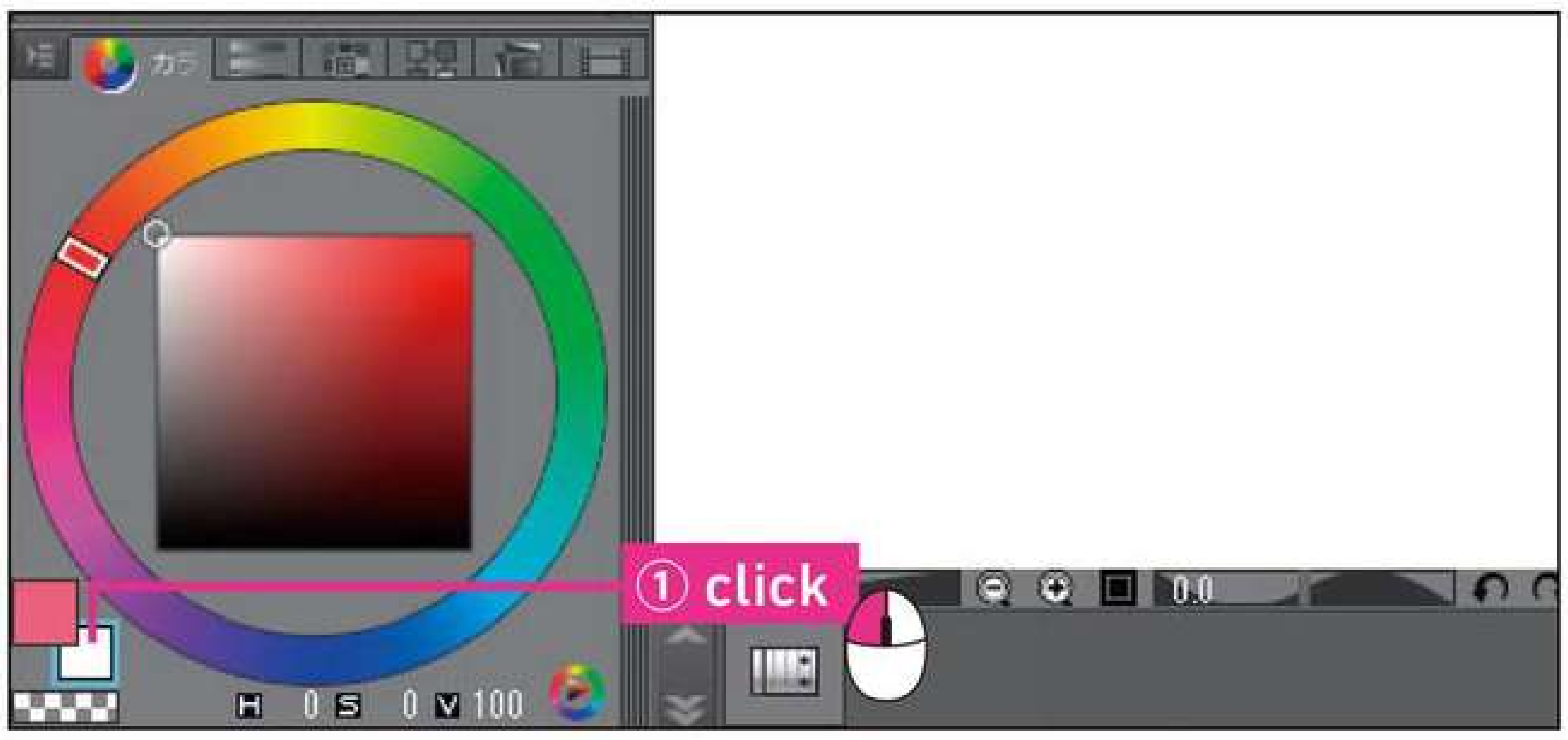
4

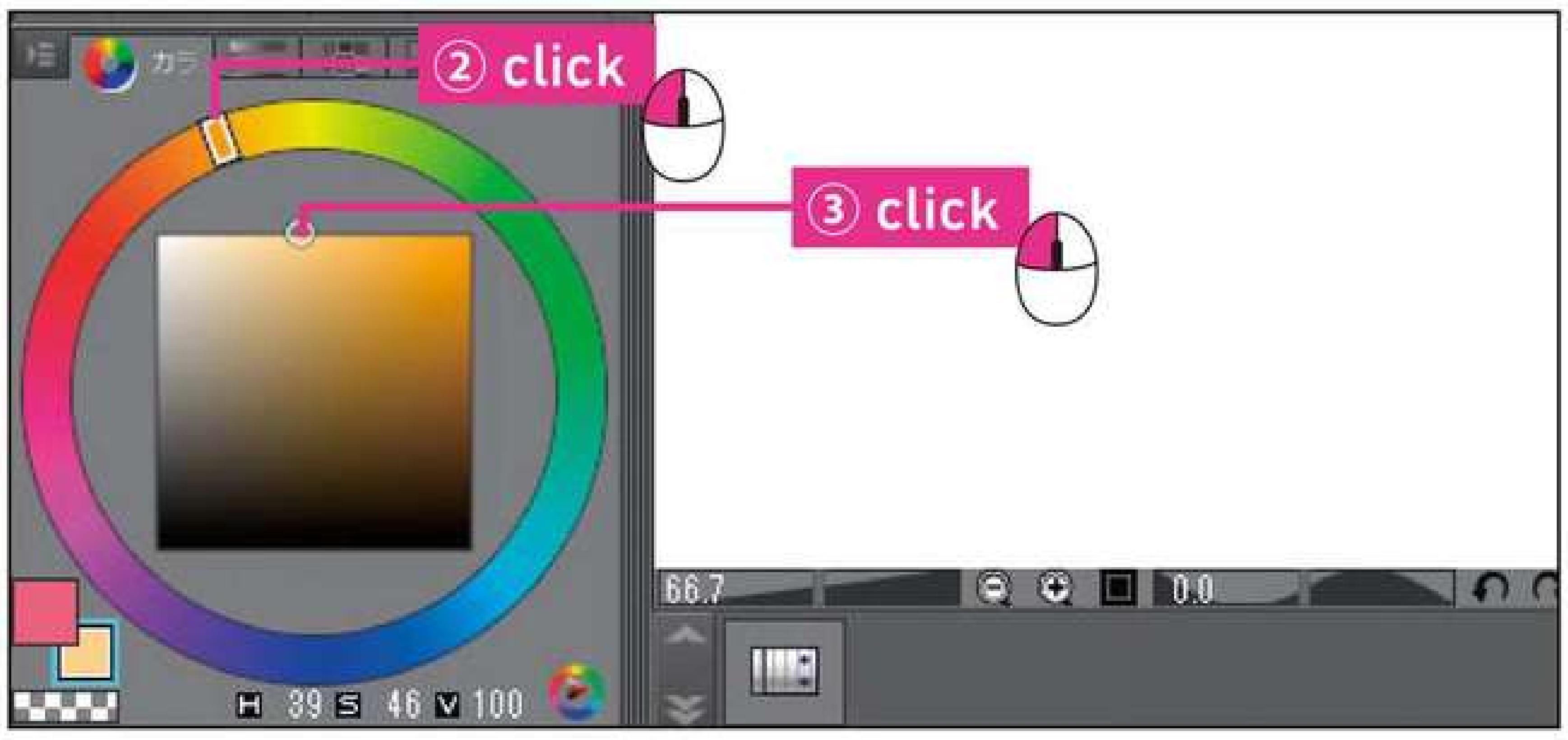
[カラーサークル]パレットでメインカラー(描画色)とサブカラー(背景色)をそれぞれ設定します。
ここではメインカラーにオレンジを設定します。



5

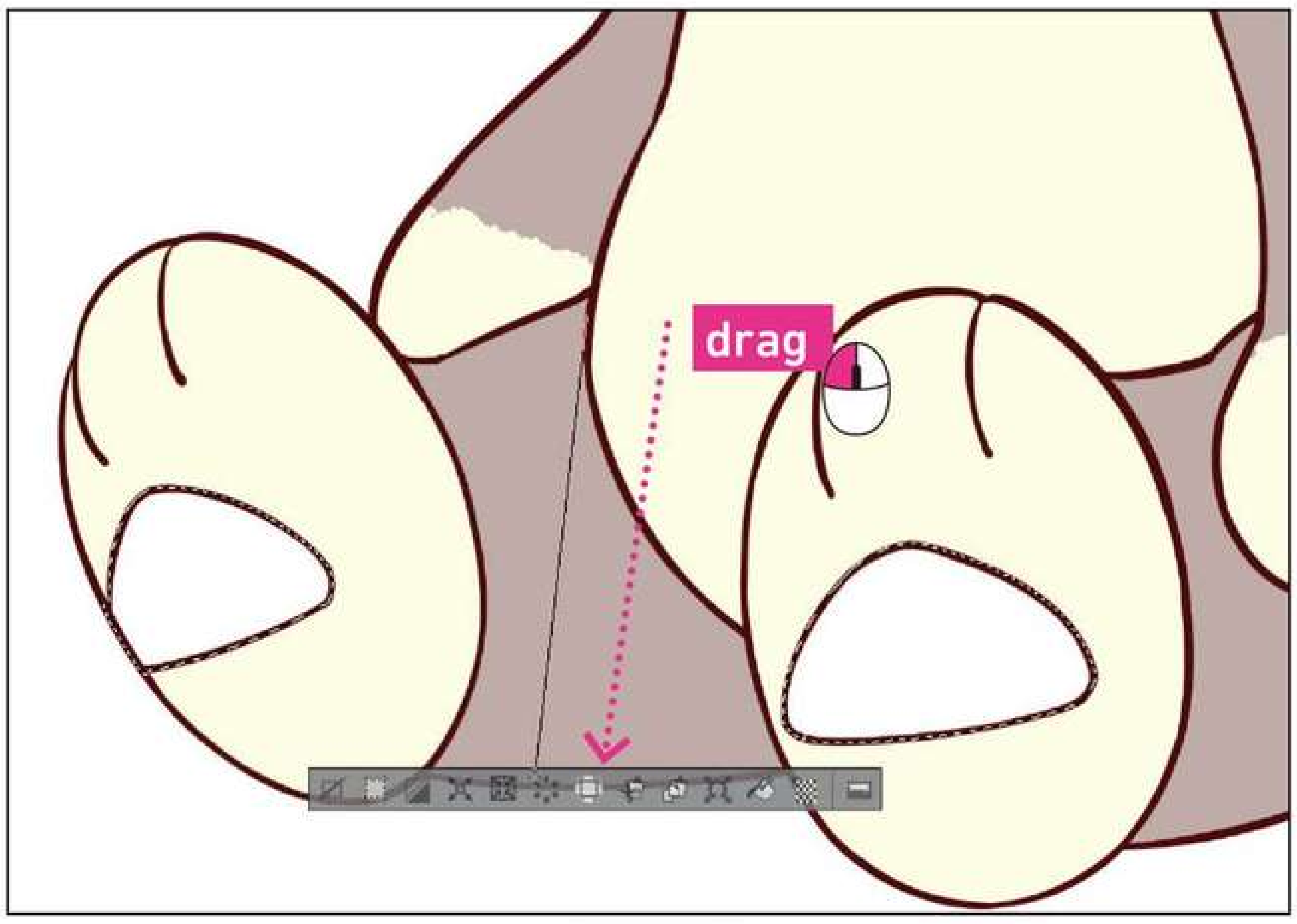
サブカラーは下側の四角をクリックし、青の枠線が表示されたら、色を設定します。
ここでは、黄色を設定しました。

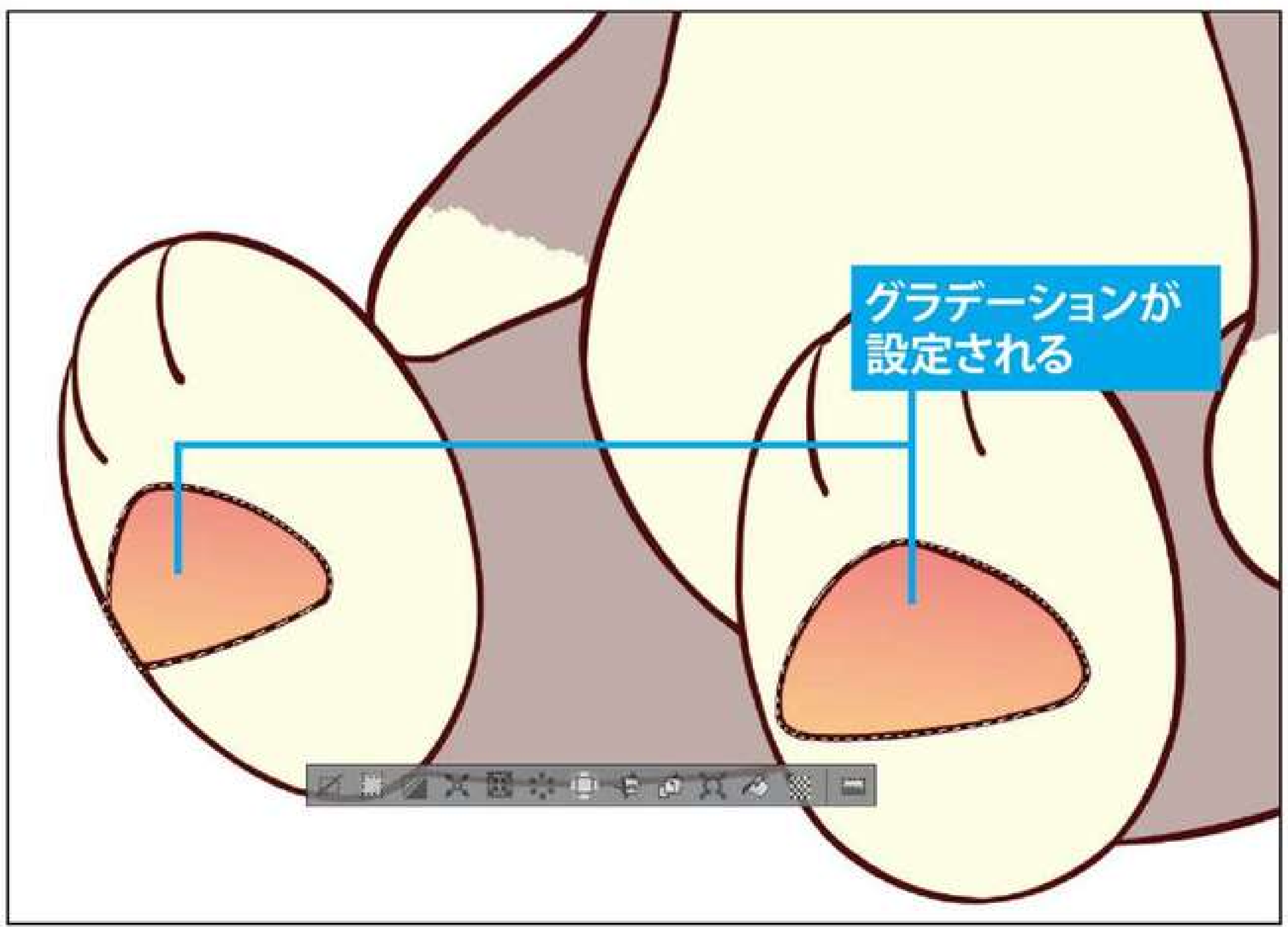




6

キャンバス内をドラッグすると線が表示され、それを始点→終点とした描画色～背景色のグラデーションが描写できます。





7

最後に選択範囲を解除します。



Memo

選択範囲ランチャーの[選択を解除]ボタンをクリックします。
Ctrl(command)+Dキーでも選択を解除することができます。

Column

グラデーションの種類

CLIP STUDIOにはあらかじめさまざまなグラデーションの種類が用意されています。
[グラデーション]ツールの[サブツール]パレットで種類を選び、[ツールプロパティ]パレットで調整することができます。基本的なグラデーションの種類は次の通りです。

種類	効果	種類	効果
描画色から透明色	描画色 → 透明色	ストライプ ※ドラッグする距離が短いとストライプが細く、長いと太くなる	
描画色から背景色	描画色 → 背景色	円形 ※[ツールプロパティ]パレットの形状を[円]にすると円形にグラデーションすることができる	描画色 → 背景色

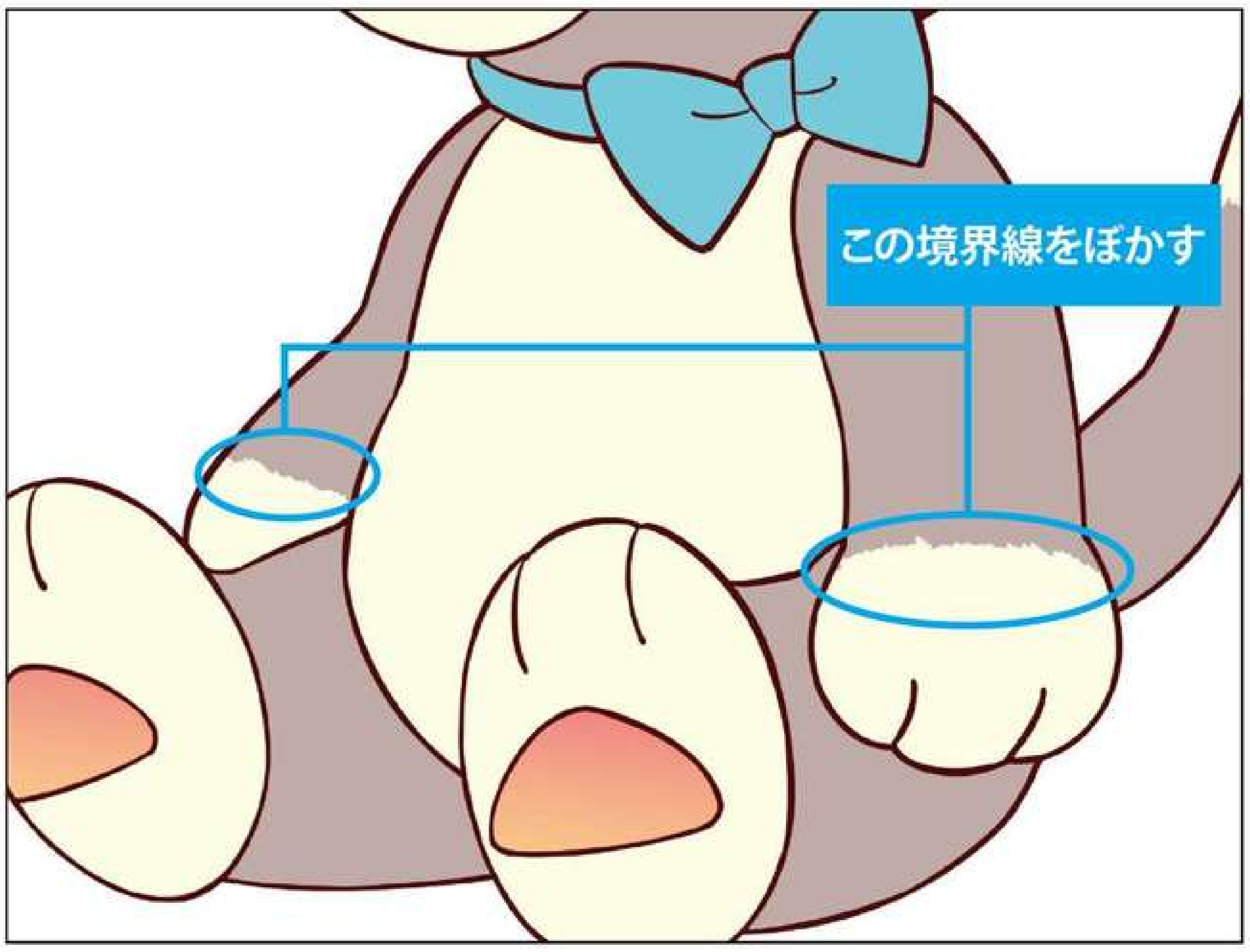


Step 02

［ぼかし］ツールを使う

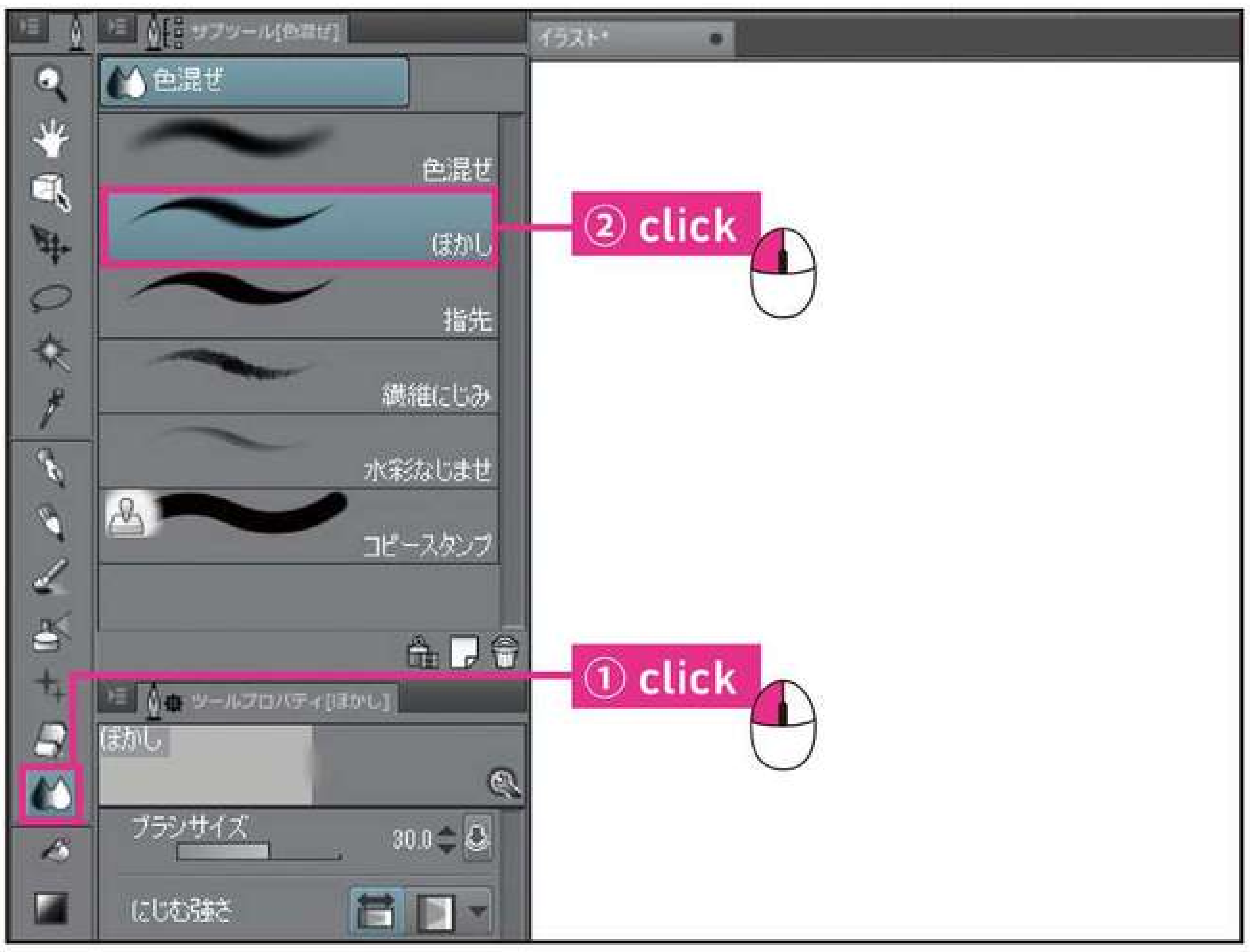
1

［色混ぜ］ツールの［ぼかし］を使って2色の境界をぼかしてみましょう。



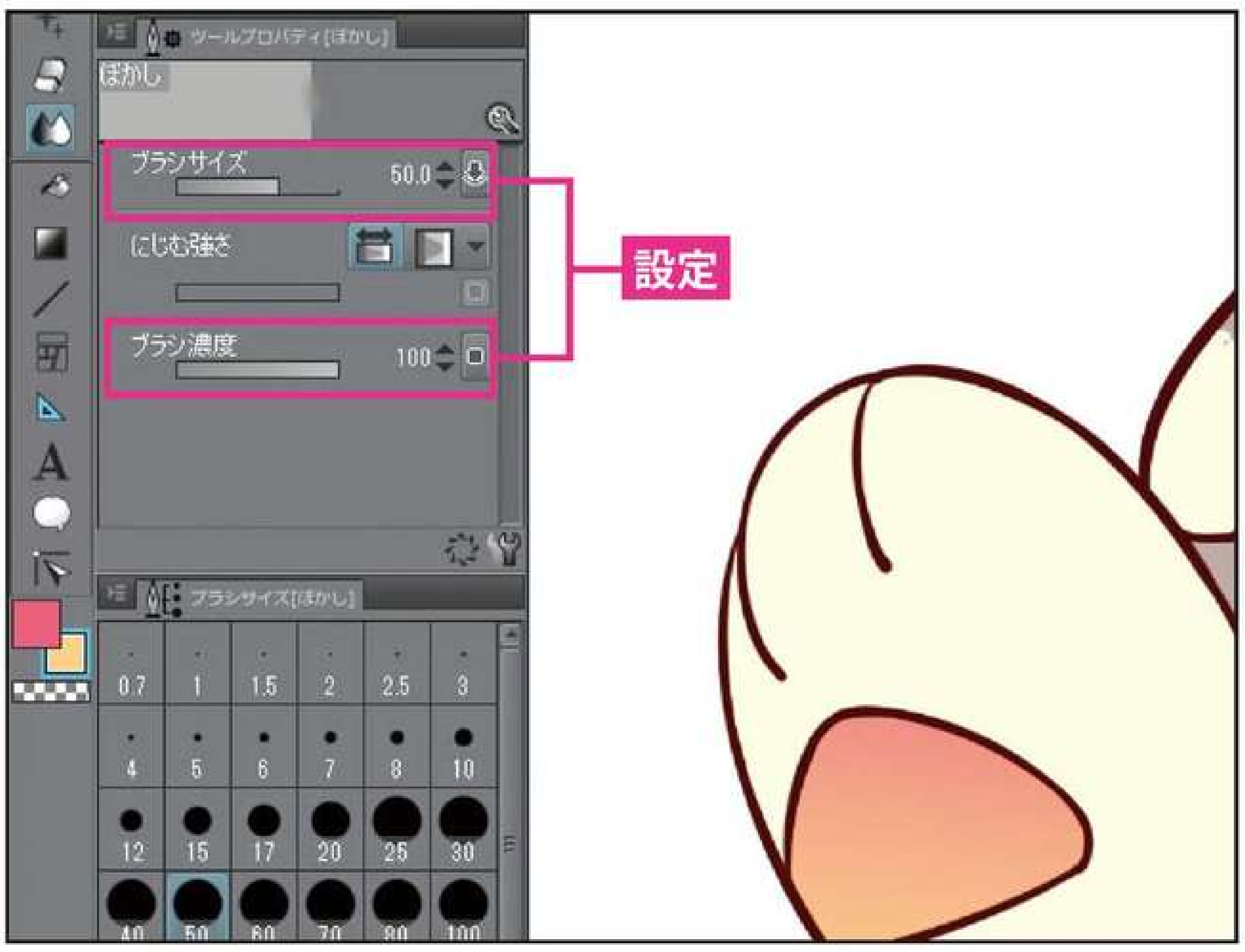
2

［ツール］パレットの［色混ぜ］ツールをクリックし、［サブツール］パレットから［ぼかし］を選択します。



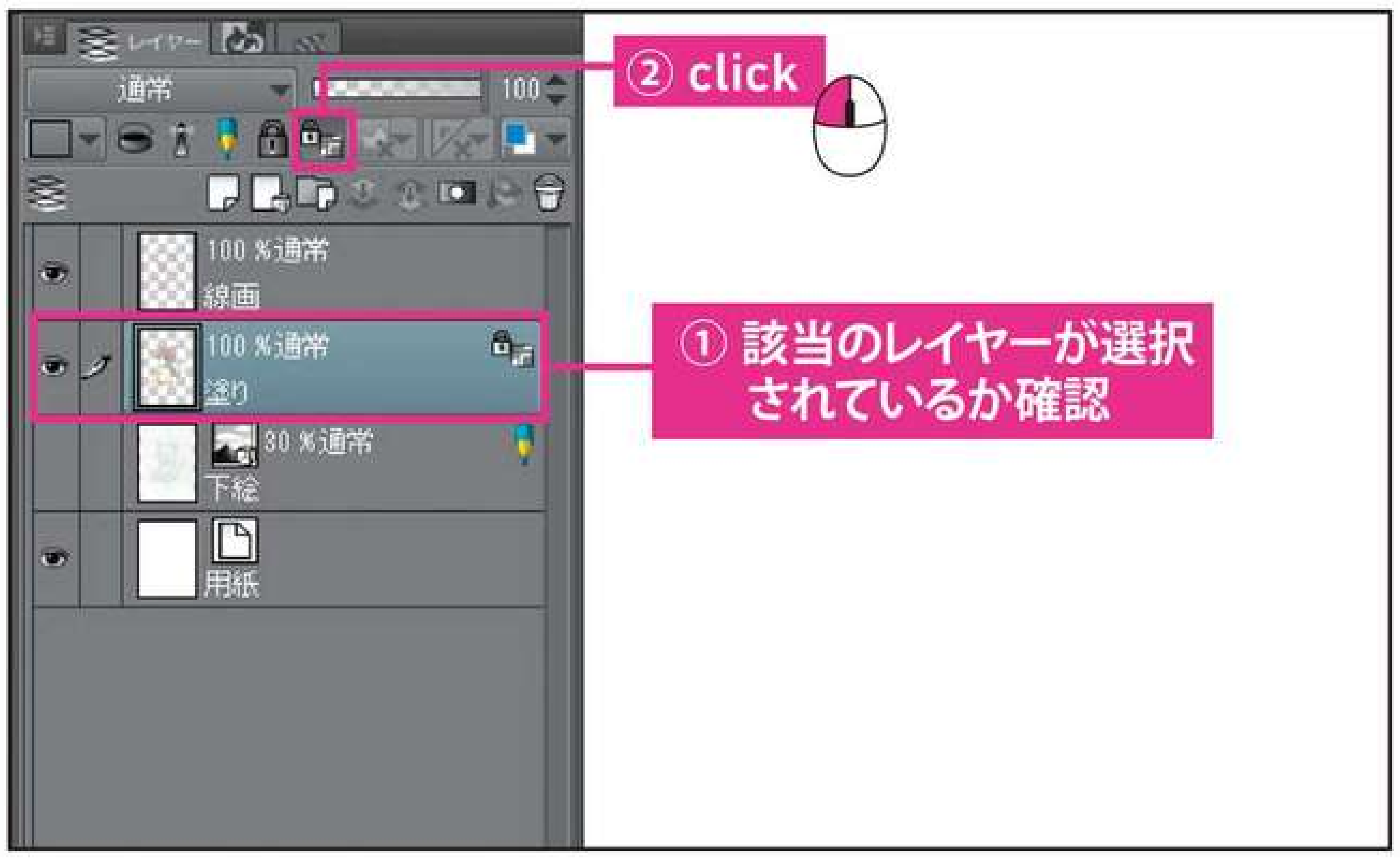
3

［ツールプロパティ］パレットで［ぼかし］の設定を細かく変更することができます。
ここではブラシサイズを「50pixel」、にじむ強さを「自動設定」に、ブラシ濃度を「100%」にしました。



4

はみ出さないように[レイヤー]パレットの[透明ピクセルをロック]にチェックを入れます。

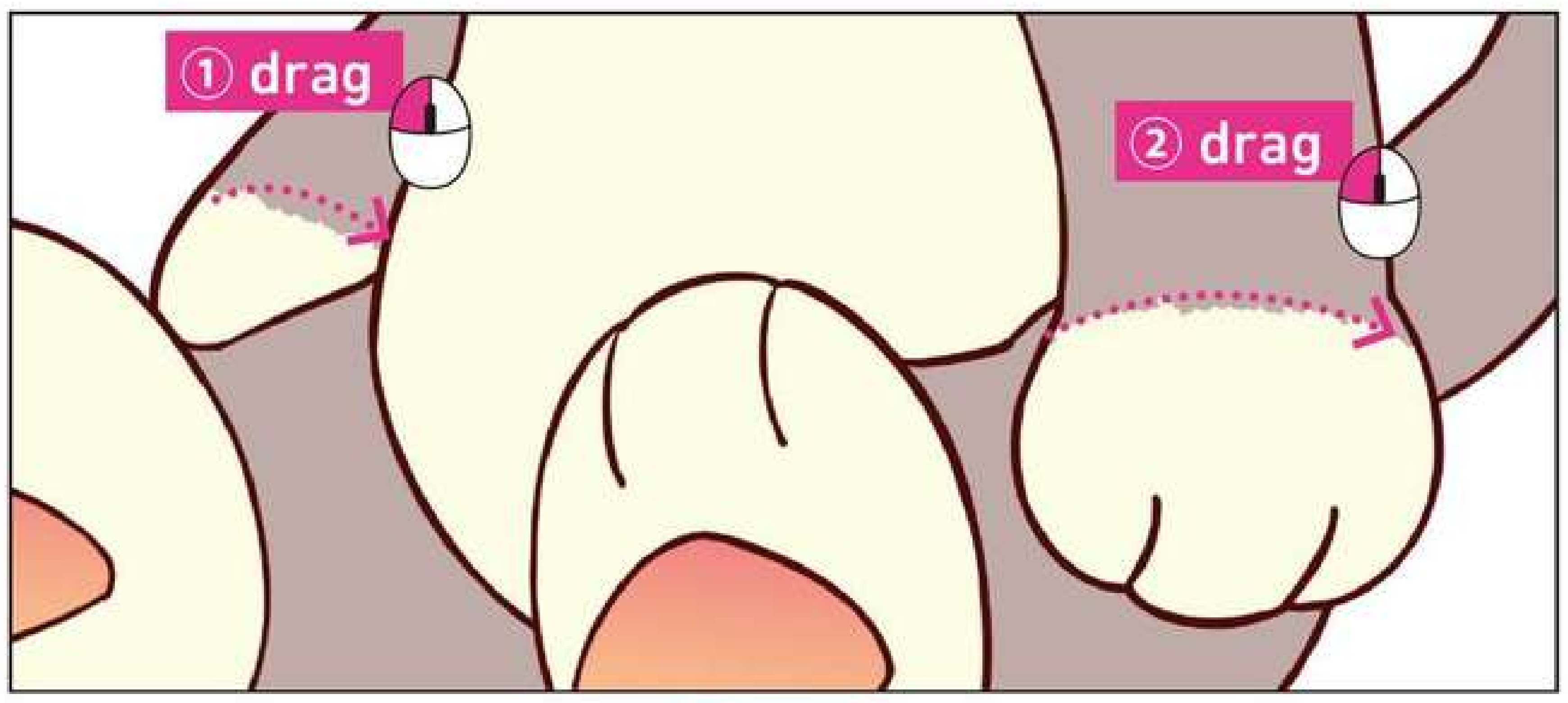


Memo

[透明ピクセルをロック]は、透明部分にはみ出さないように塗るための機能です。

5

手のグレーとクリーム色の境界をなぞるようにドラッグしてぼかしていきます。



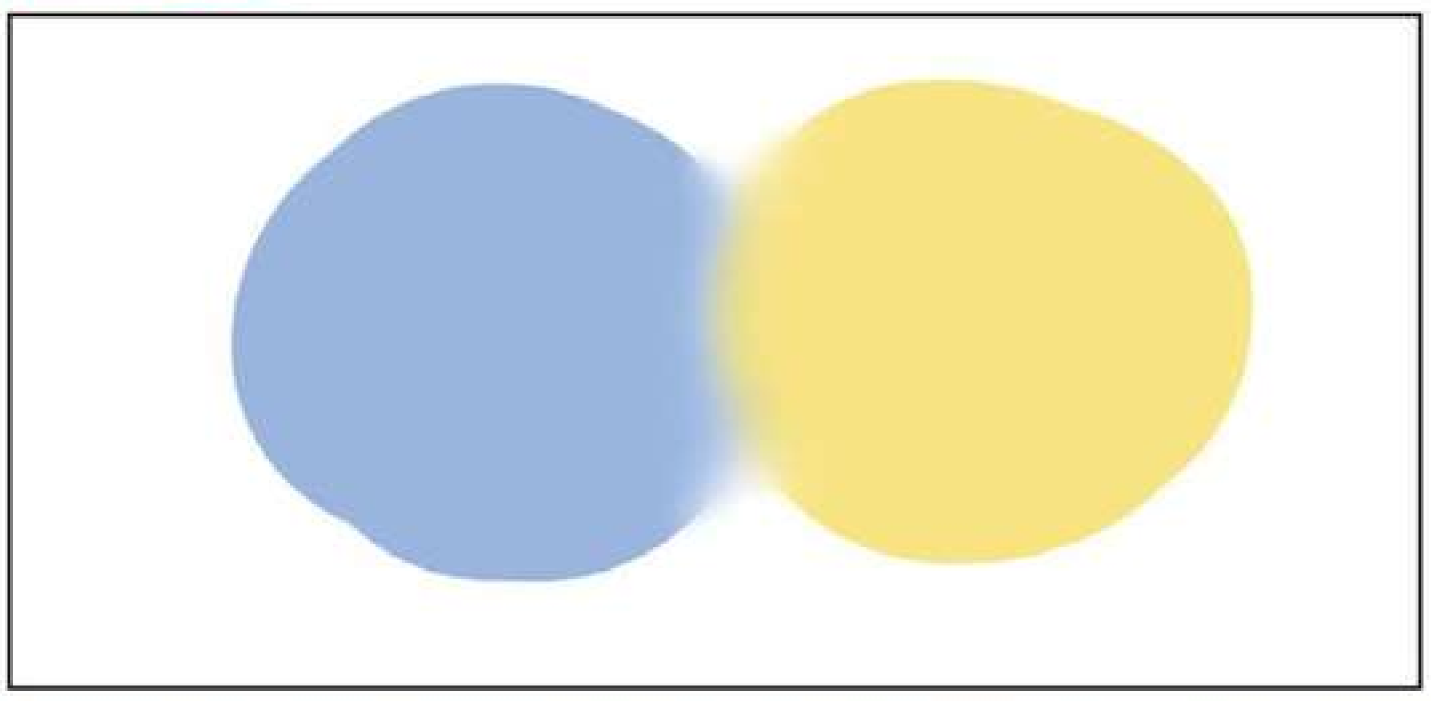


Hint

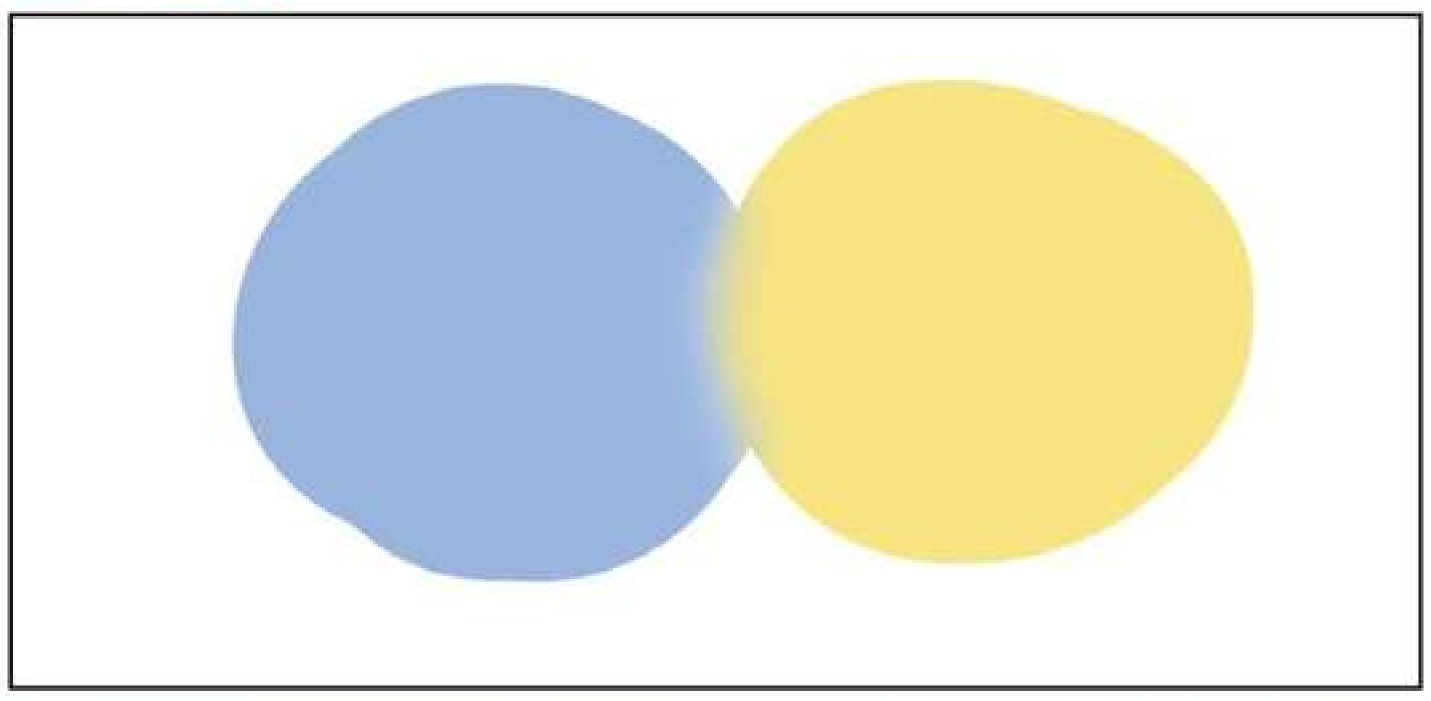
[透明ピクセルをロック] の利用

ロックされていないと描画していない透明の部分にもぼかしが広がりますが、[透明ピクセルをロック]すると描画している部分だけぼかすことができます。

ロックなし



ロックあり



Step 03 ［指先］ツールを使う

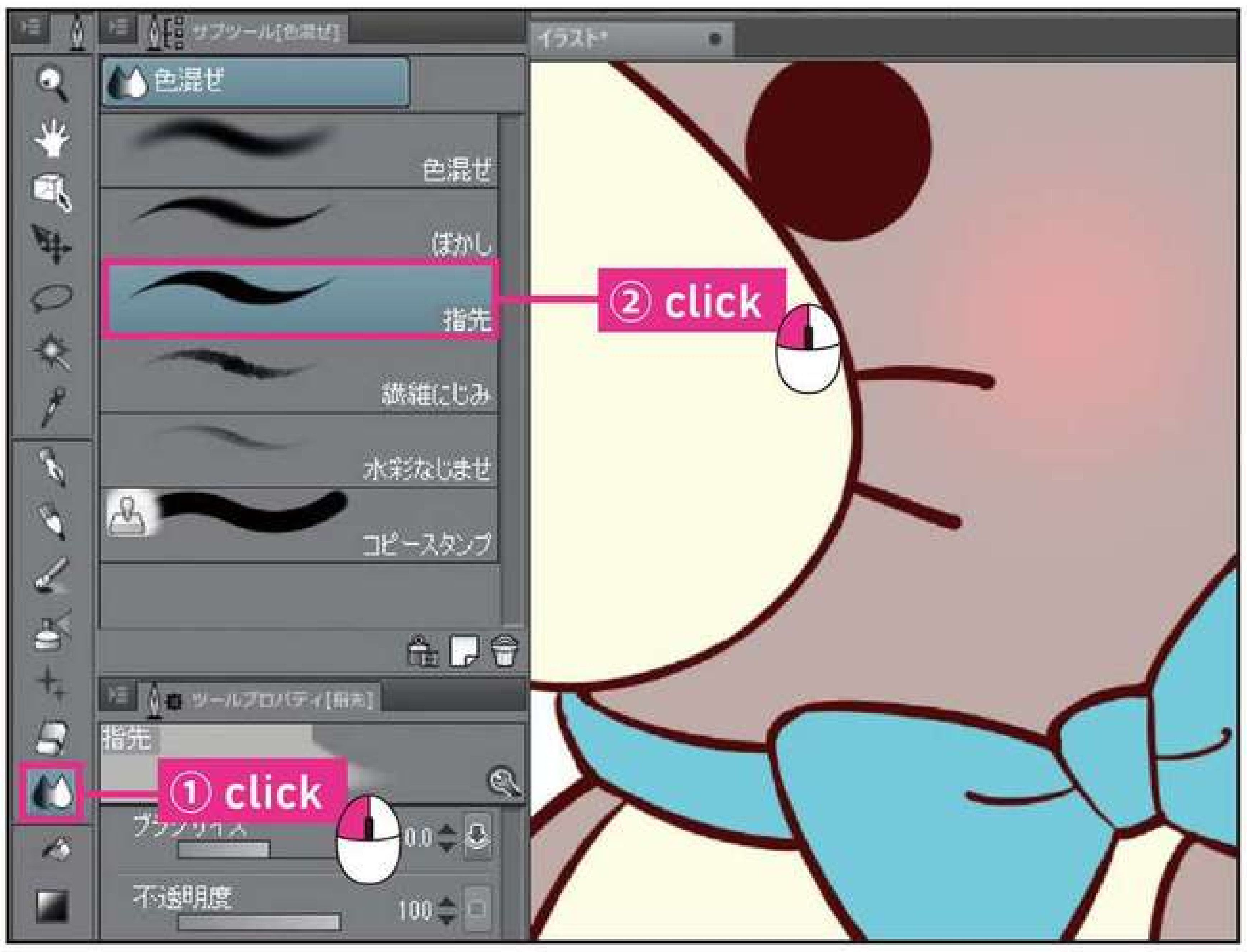
1

［色混ぜ］ツールの［指先］では指で絵の具をこすって伸ばしたような表現ができます。
ここでは尻尾のグレーとクリーム色の境界に［指先］を使って毛束感を表現してみます。



2

［ツール］パレットの［色混ぜ］ツールをクリックし、［サブツール］パレットから［指先］を選択します。



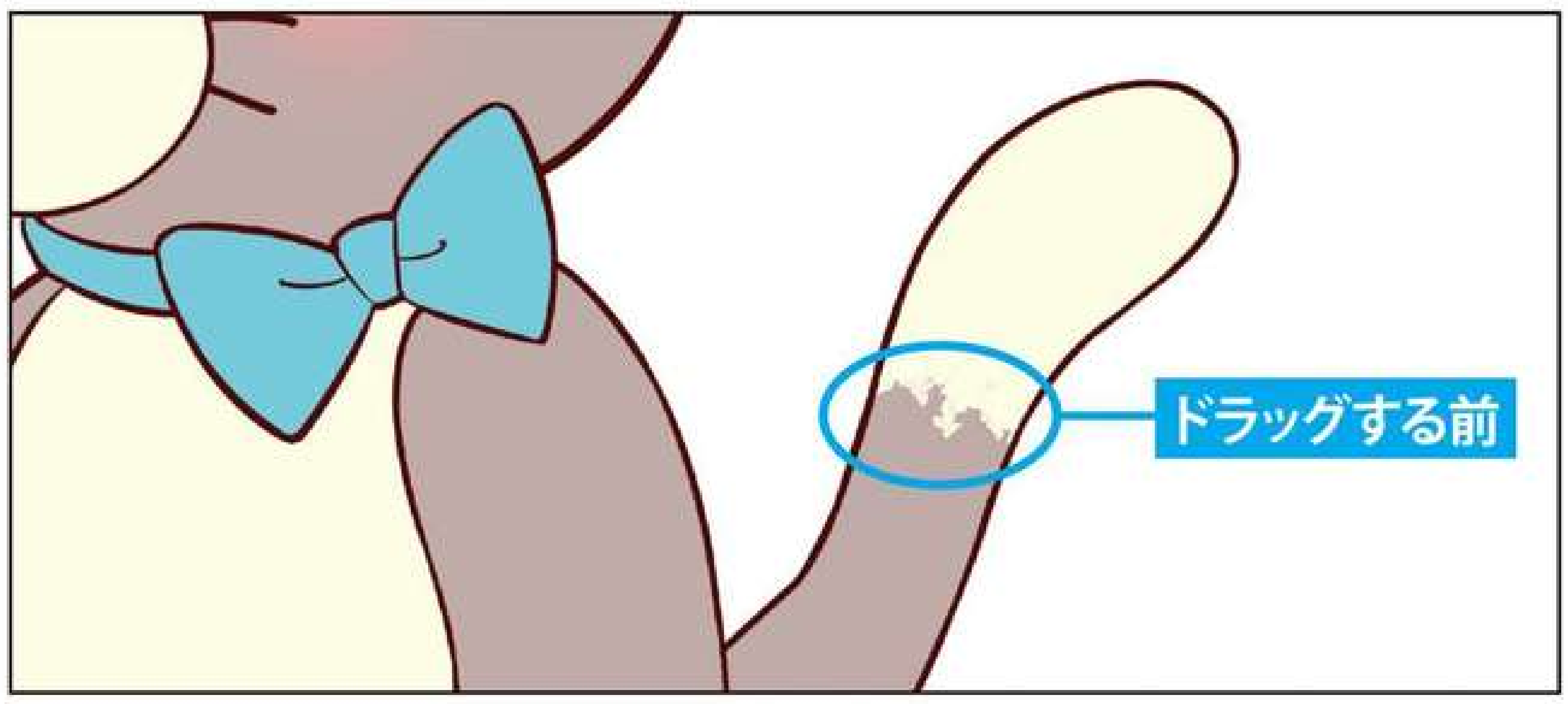
3

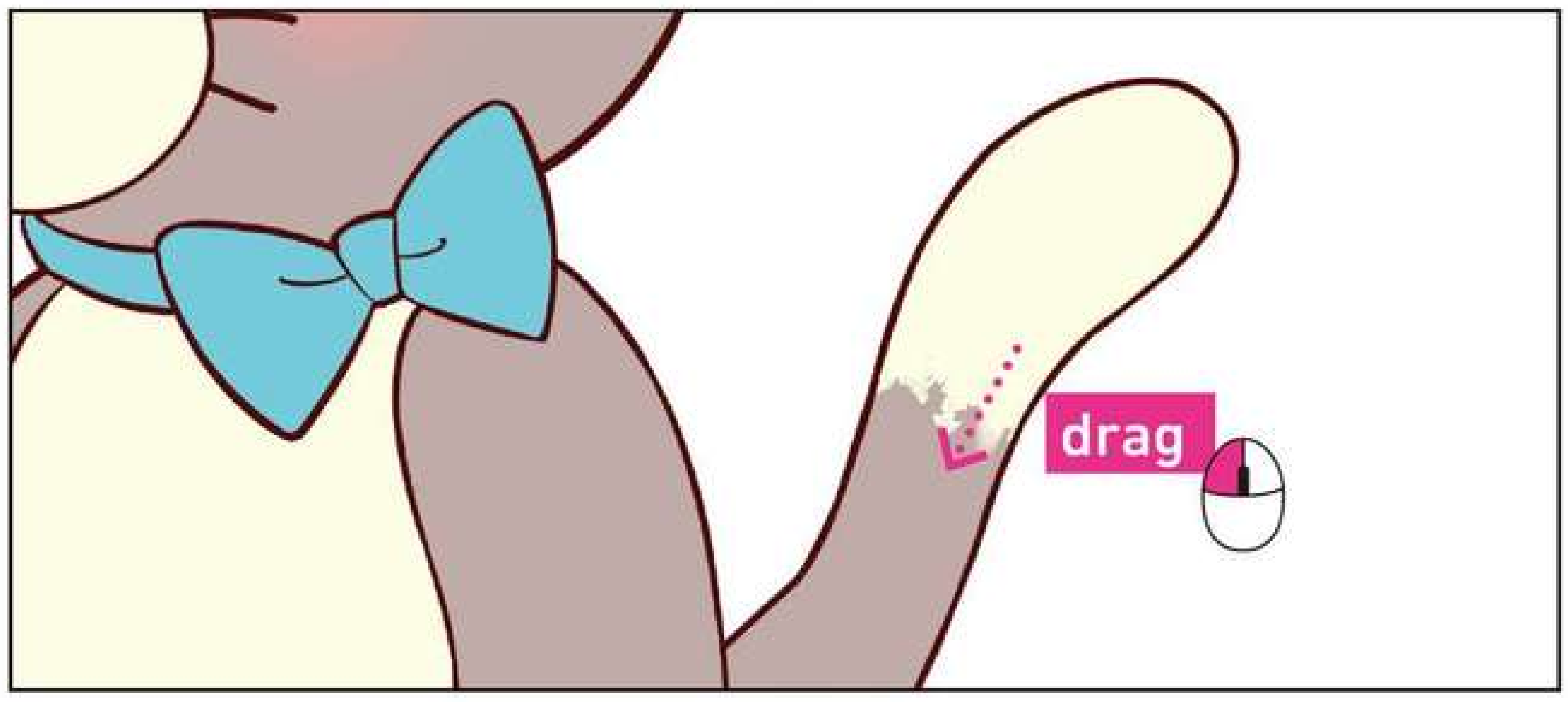
［ツールプロパティ］パレットで［指先］の設定を細かく変更することができます。
ここではブラシサイズを「70pixel」に、不透明度は「80%」にしました。



4

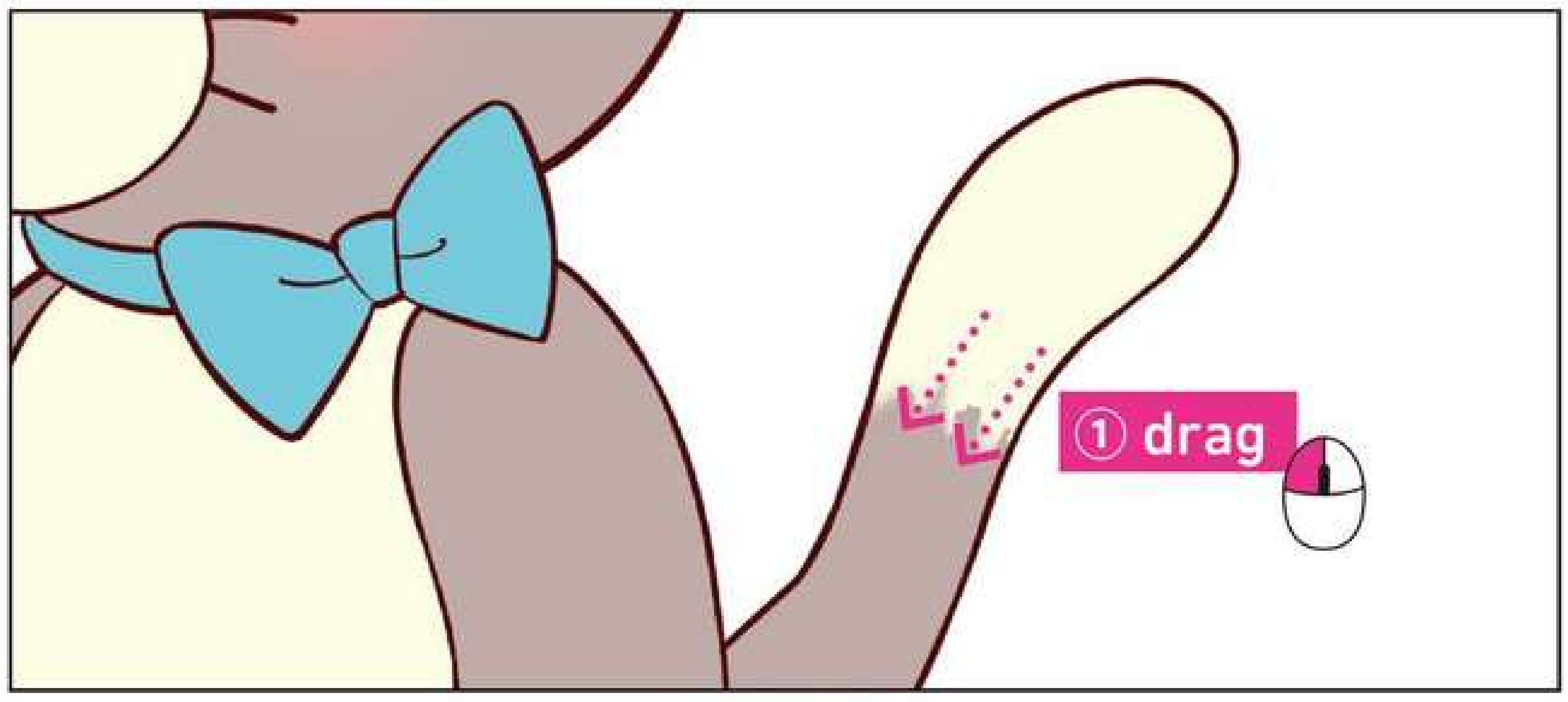
尻尾のグレーとクリーム色の境界を矢印のようにドラッグします。

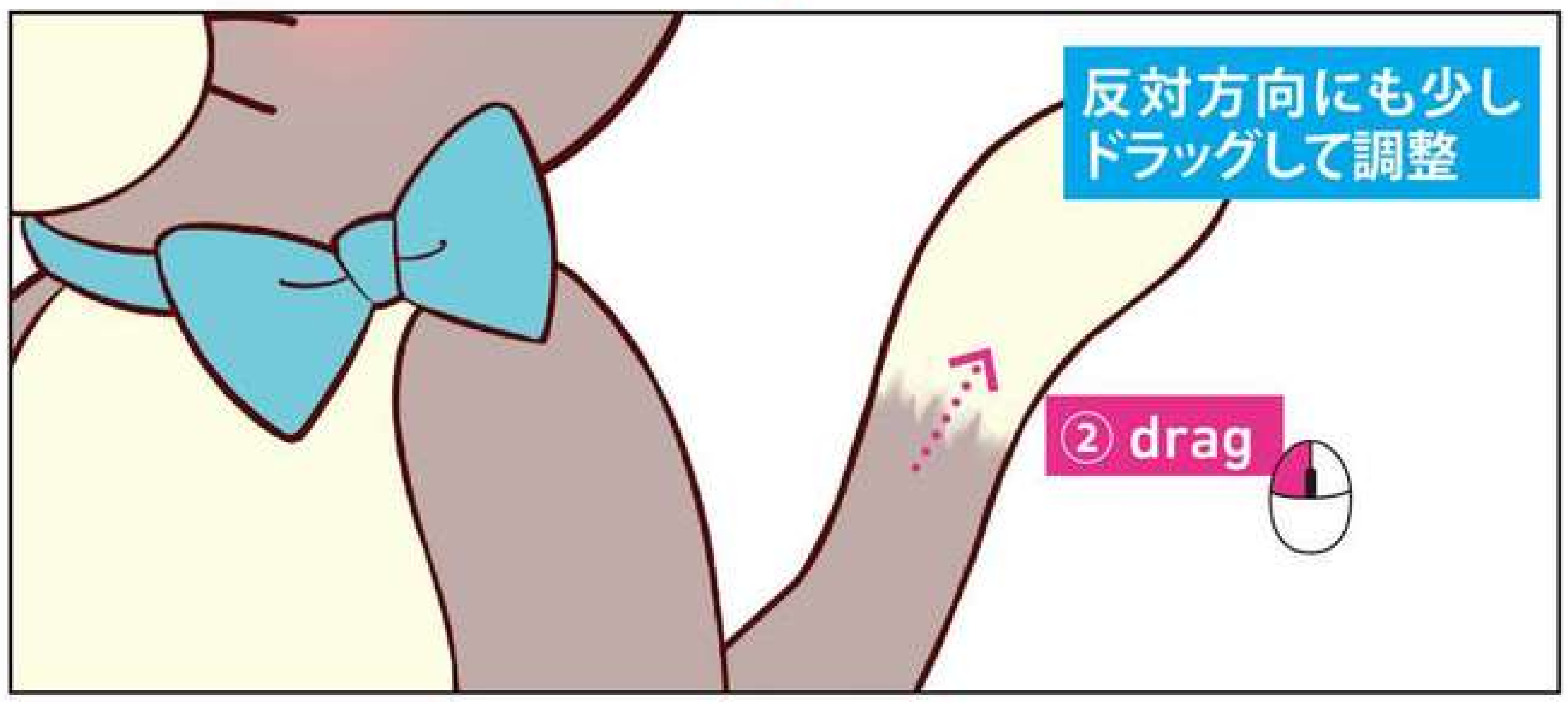




5

手順4を何回か繰り返して毛の感じを表現しました。





Hint

［色混ぜ］ツールの種類

色の混ざり方が違うので使い分けてみましょう。



合成モードを使って塗り分けよう



Before 3-04.clip

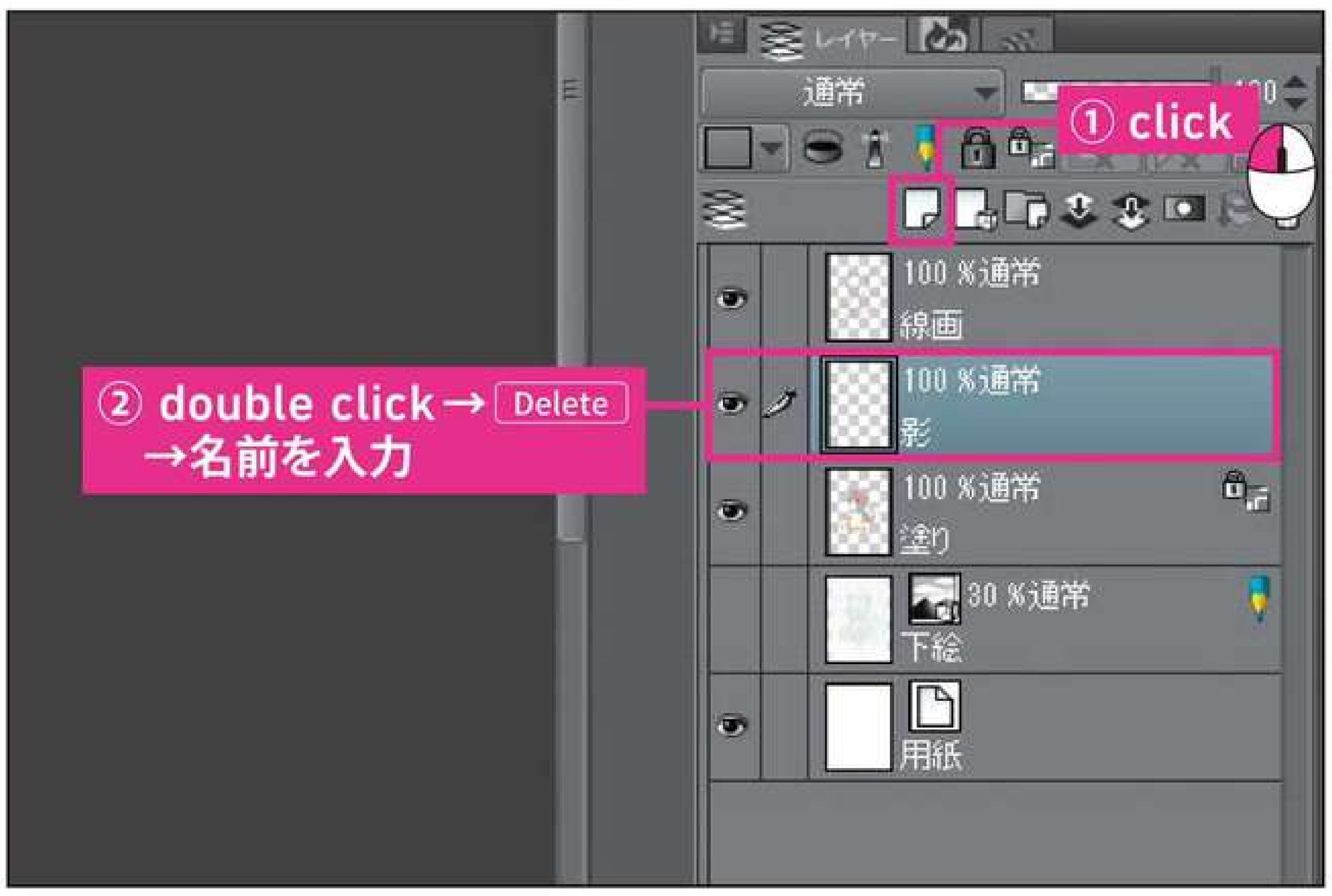


After 3-04a.clip

レイヤーの合成モードを変更して効果的に塗り分けましょう。

Step 01 ［乗算］で影を入れる

「塗り」レイヤーの上に影を描くレイヤーを追加します。
レイヤー名を「影」とします。

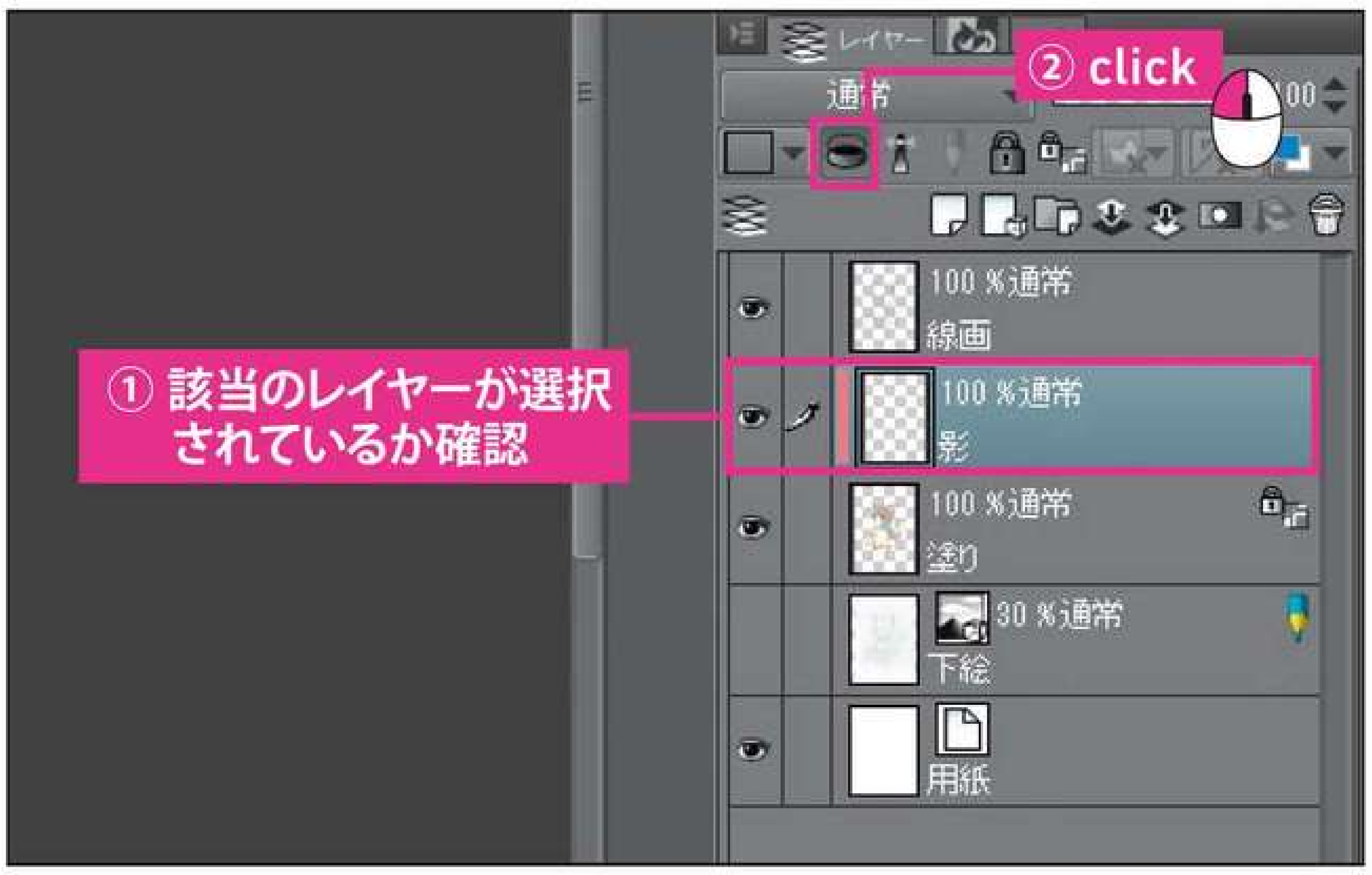


2

［レイヤー］パレットの［下のレイヤーでクリッピング］をクリックします。

Memo

クリッピングすることで、「塗り」レイヤーに描いてある部分からはみ出さずに塗ることができます。クリッピングしたレイヤーには赤い線が表示されます。



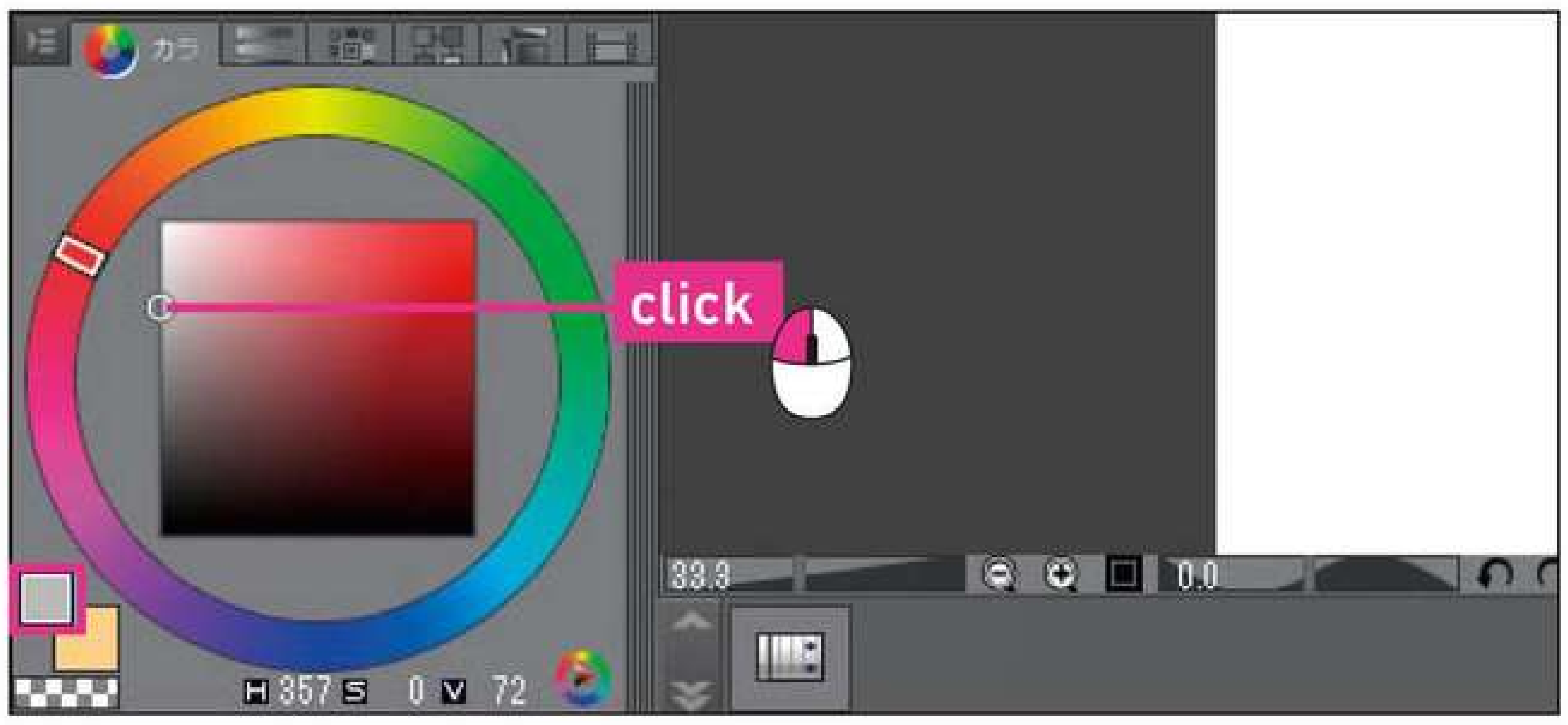
3

「影」レイヤーの合成モードを［乗算］に変更します（p.73のColumn参照）。



4

［カラーサークル］パレットで影の色を選択します。
ここではグレーを選択しました。

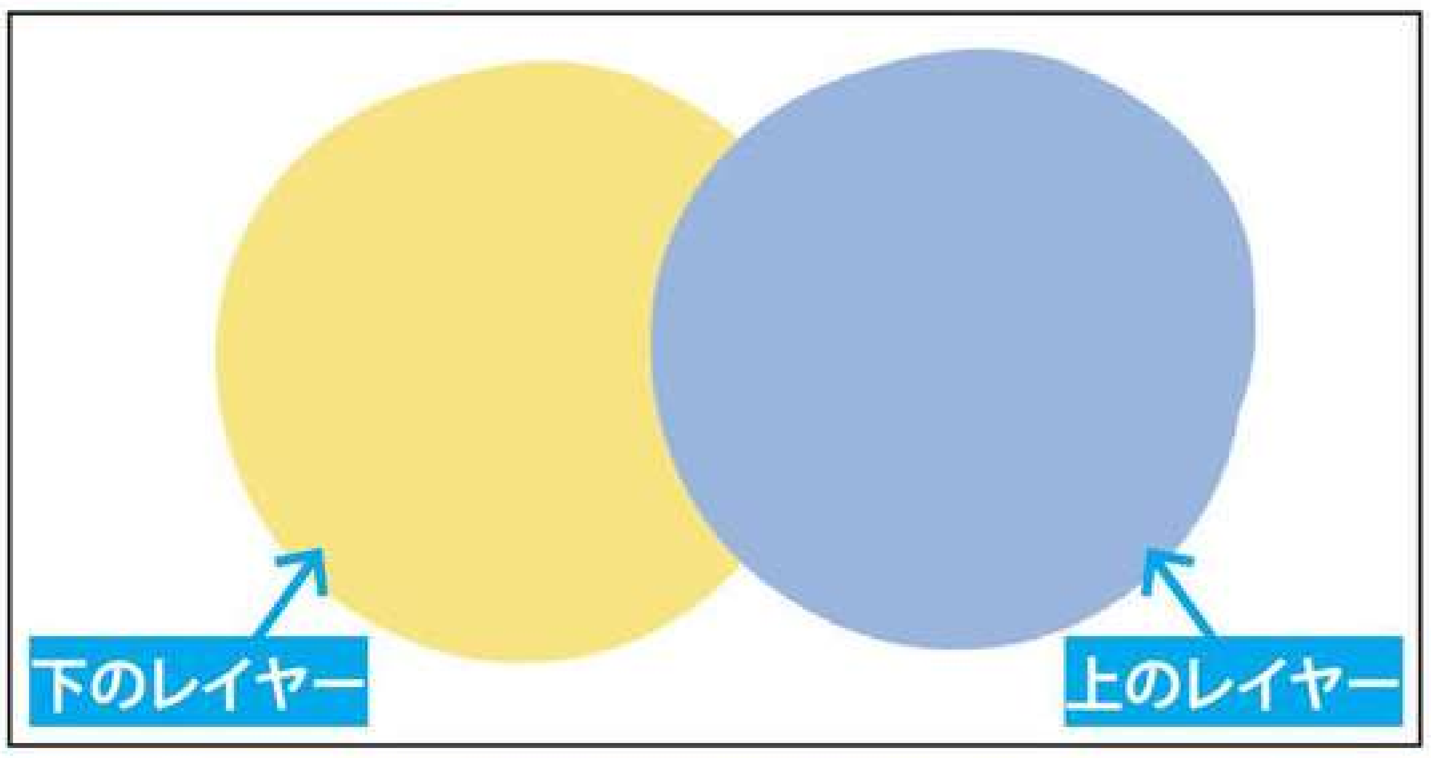


Hint

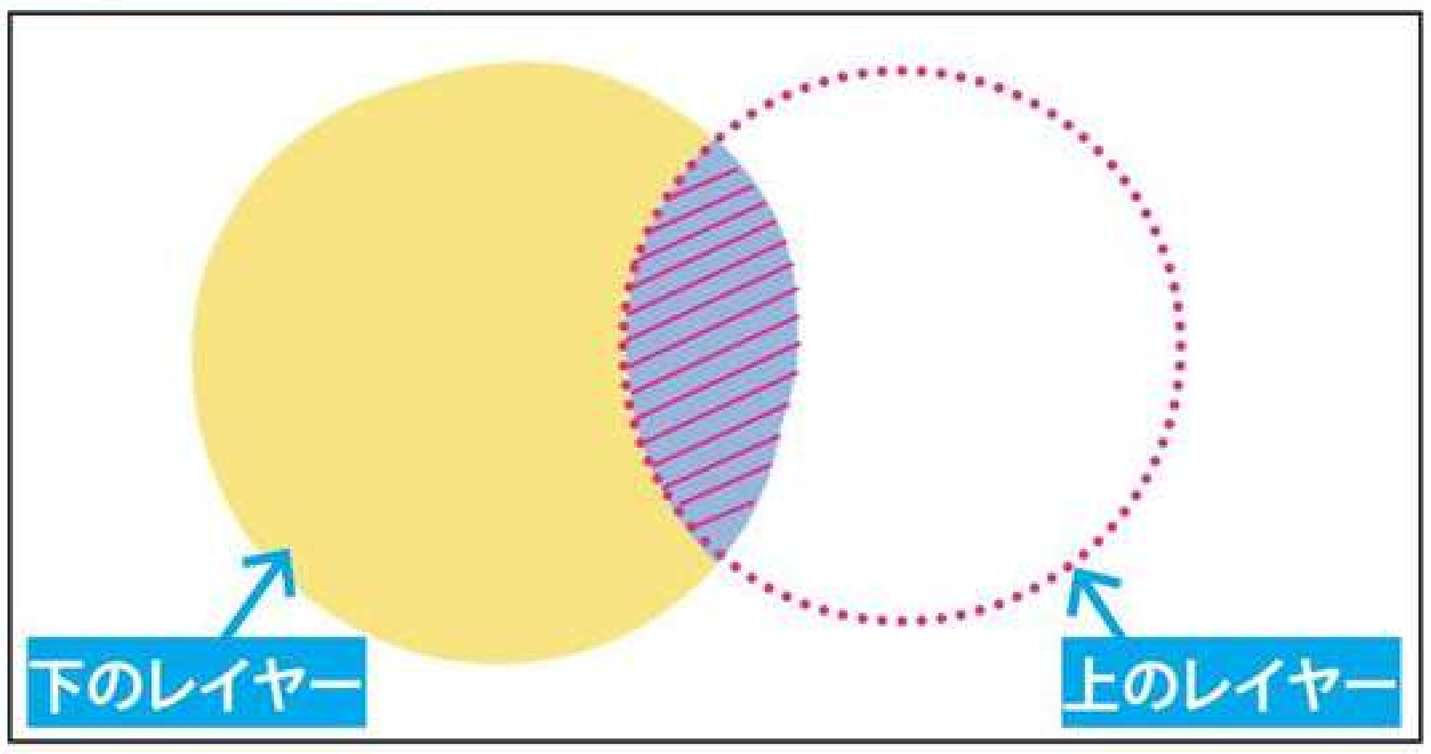
クリッピングの利用

クリッピングをすると、ひとつ下のレイヤーに描画されている部分からはみ出さずに塗ることができます。

クリッピングなし

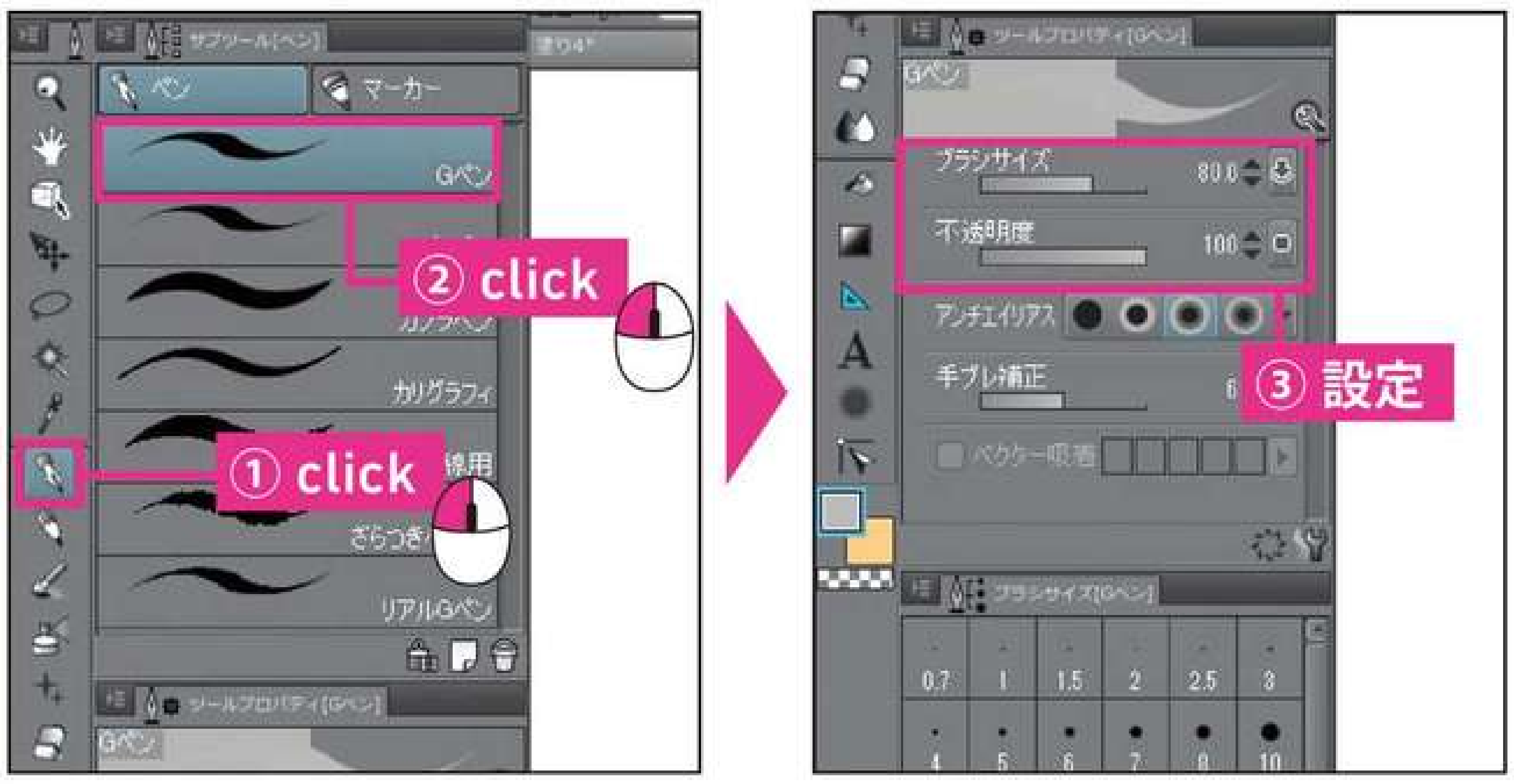


クリッピングあり



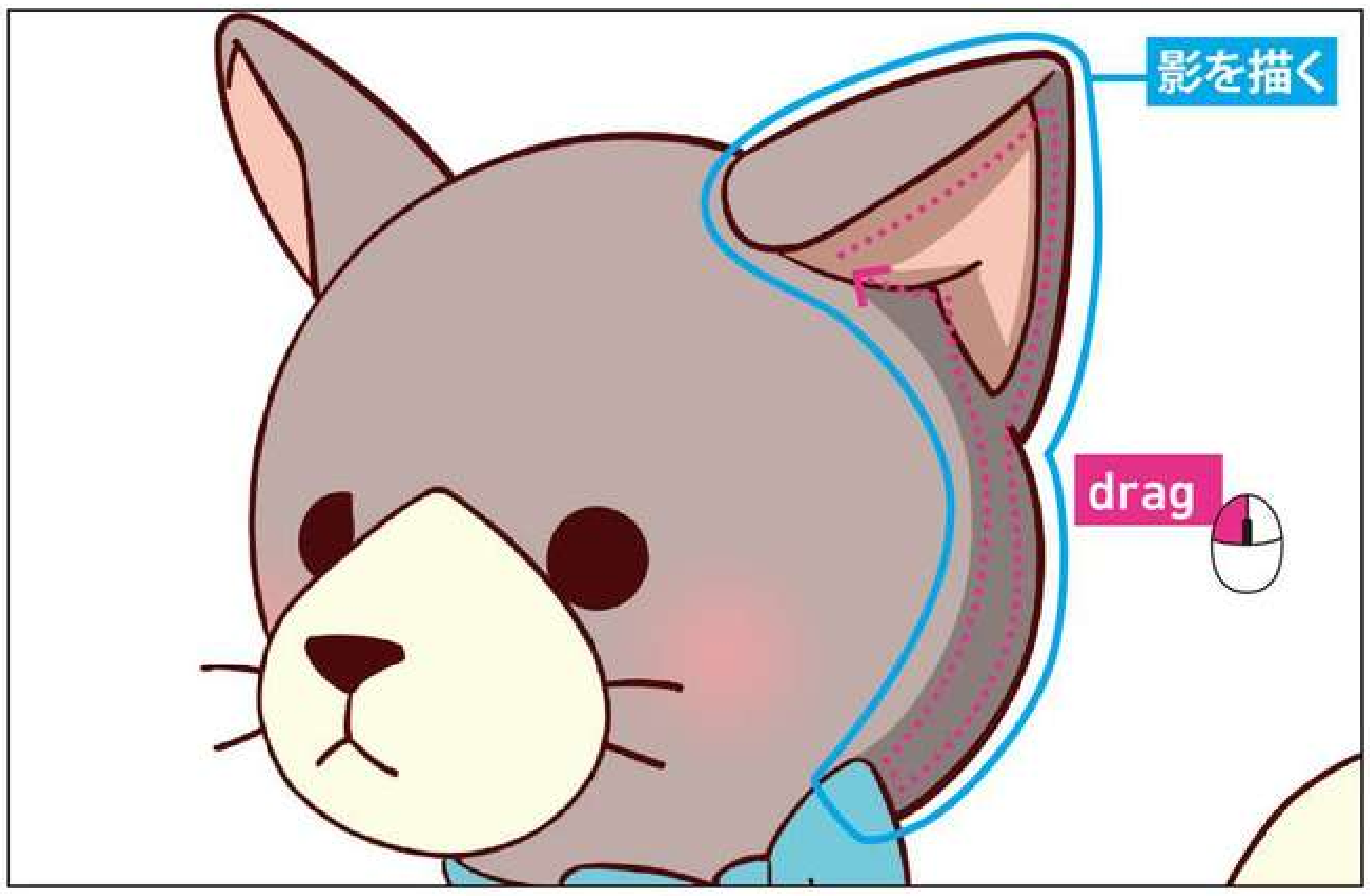
5

[ツール]パレットの[ペン]ツールをクリックし、[サブツール]パレットから[Gペン]を選択します。
ここでは、ブラシサイズ「80pixel」、不透明度「100%」を設定しました。



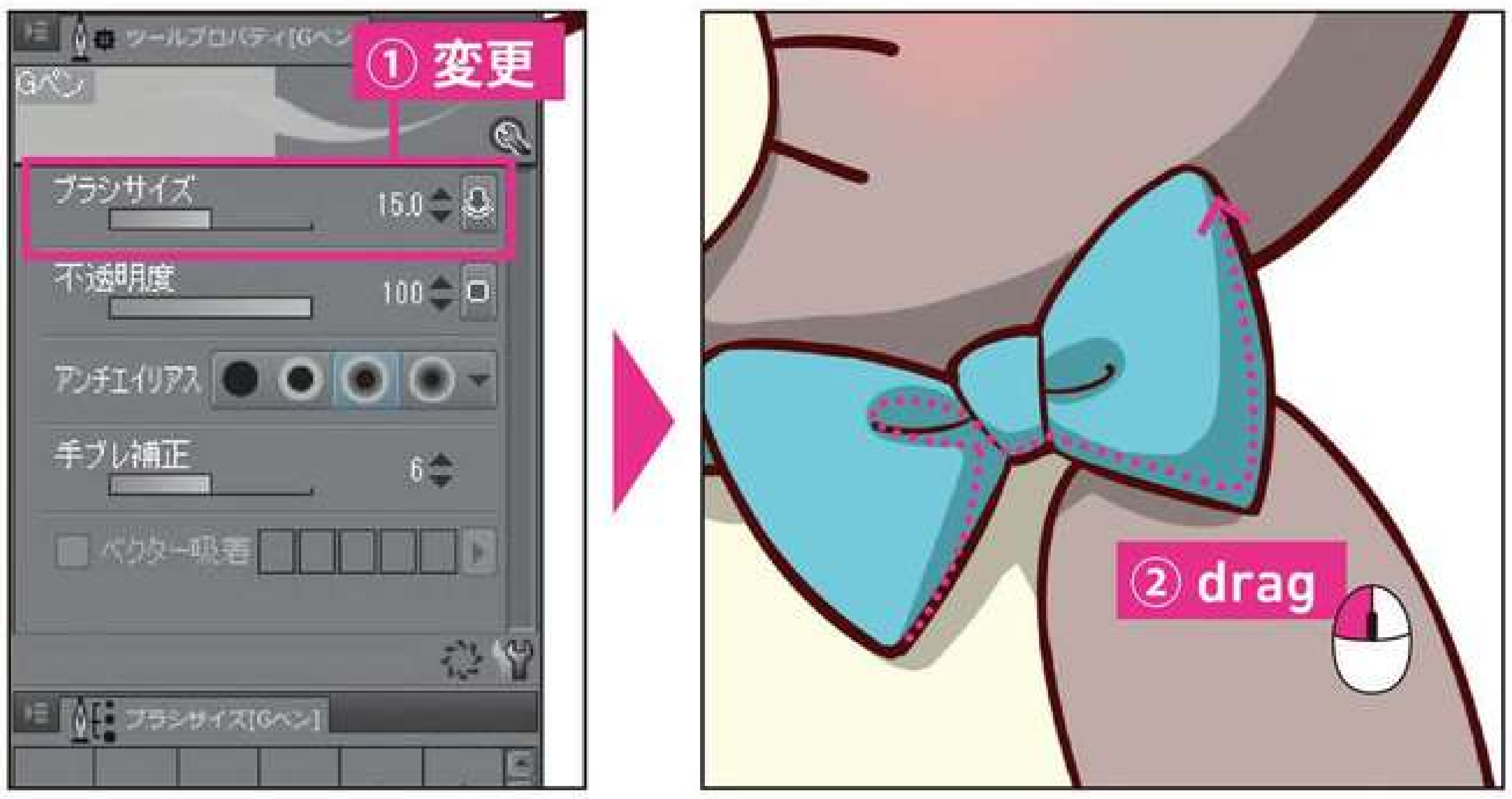
6

フリーハンドで影を描いていきます。
顔や耳、体、リボンの下に影を入れます。



7

細かい部分はブラシのサイズを変更しながら、影を入れていきましょう。



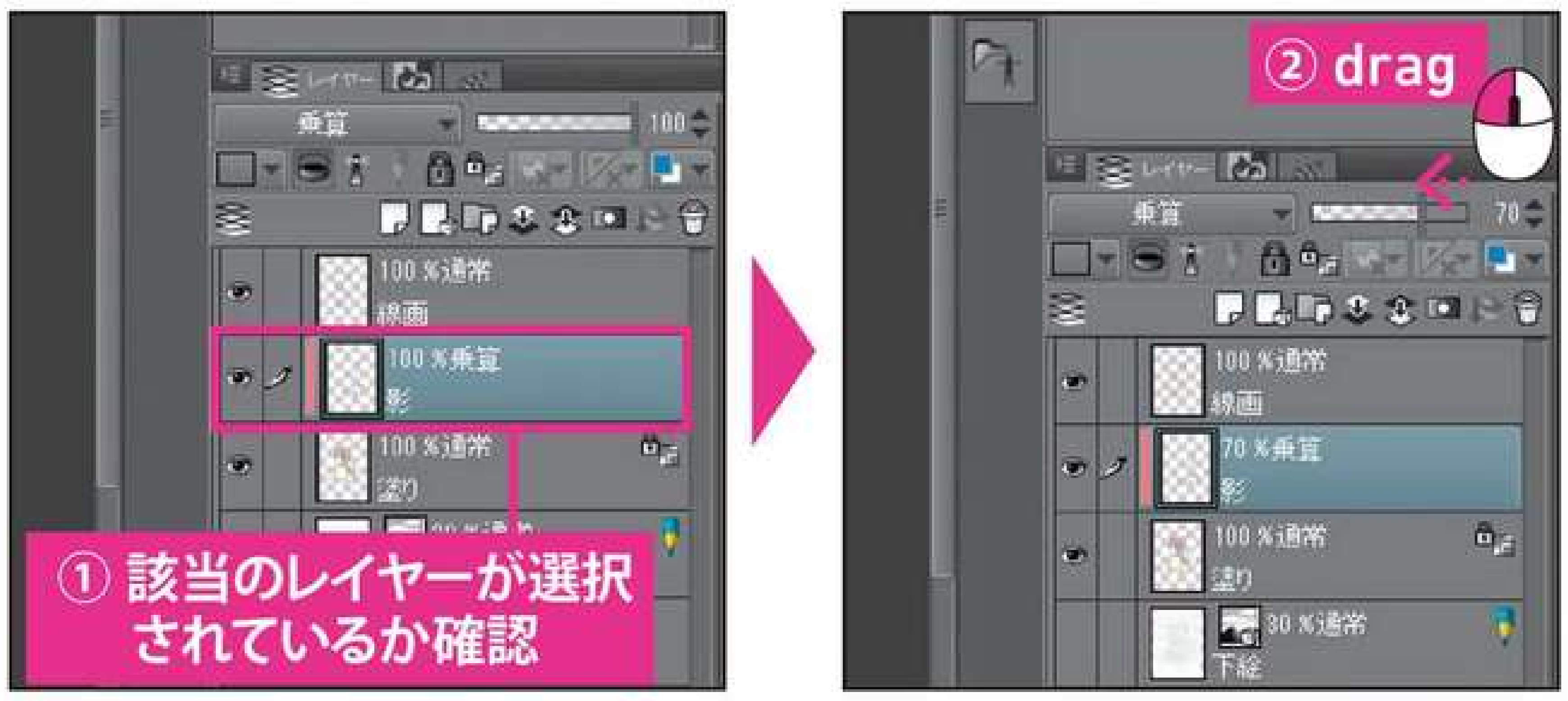
8

図を参考に他の部分にも影を入れて仕上げます。



9

レイヤーの不透明度を変更し、影の濃さを調節します。
ここでは不透明度「70%」にしました。



10

影の部分ができました。

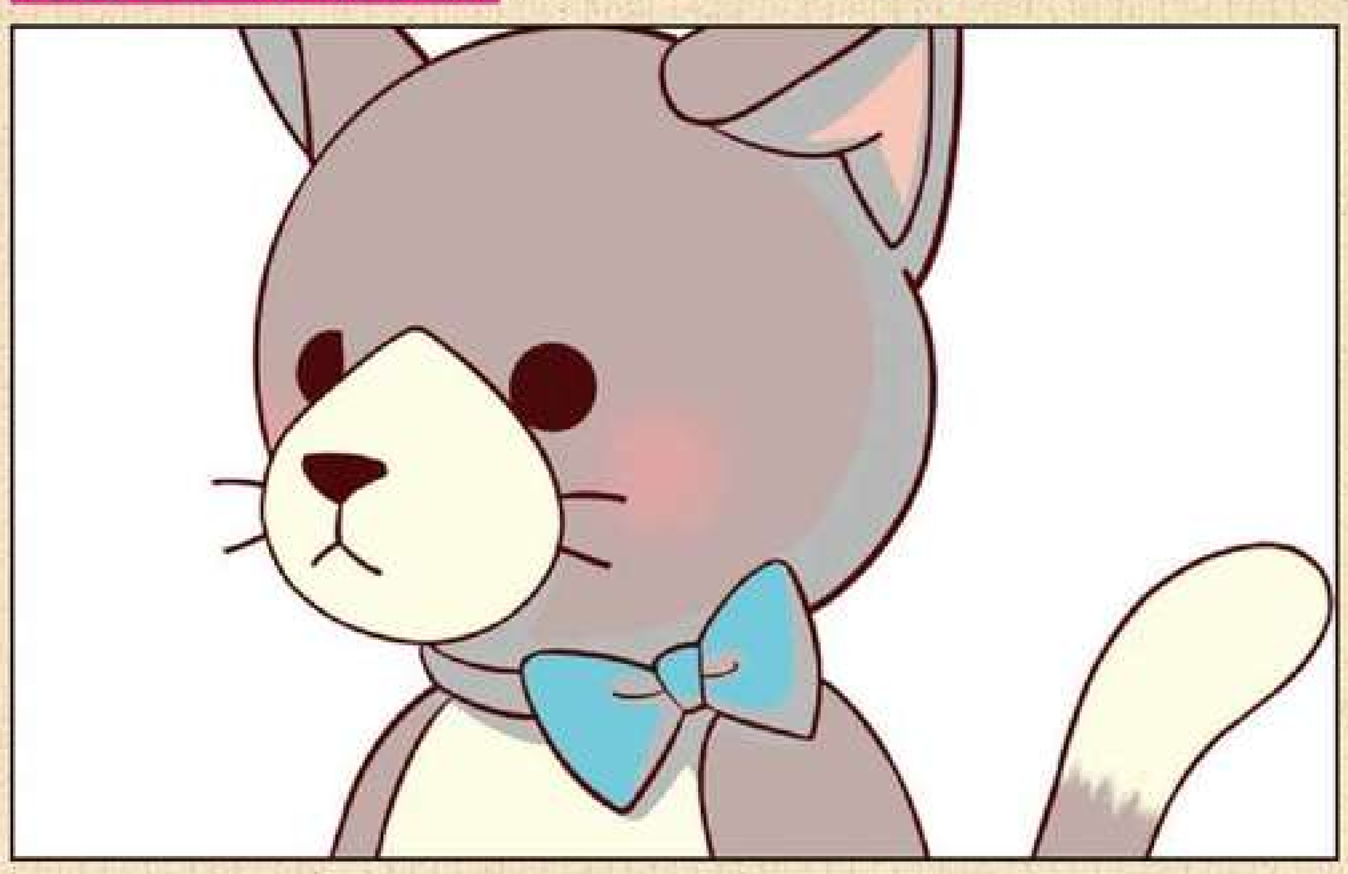


Column

乗算の設定

乗算は下のレイヤーに上のレイヤーを掛け合わせたような合成モードです。
色を重ねていくので仕上がりは濃く暗くなります。

合成モード[通常]



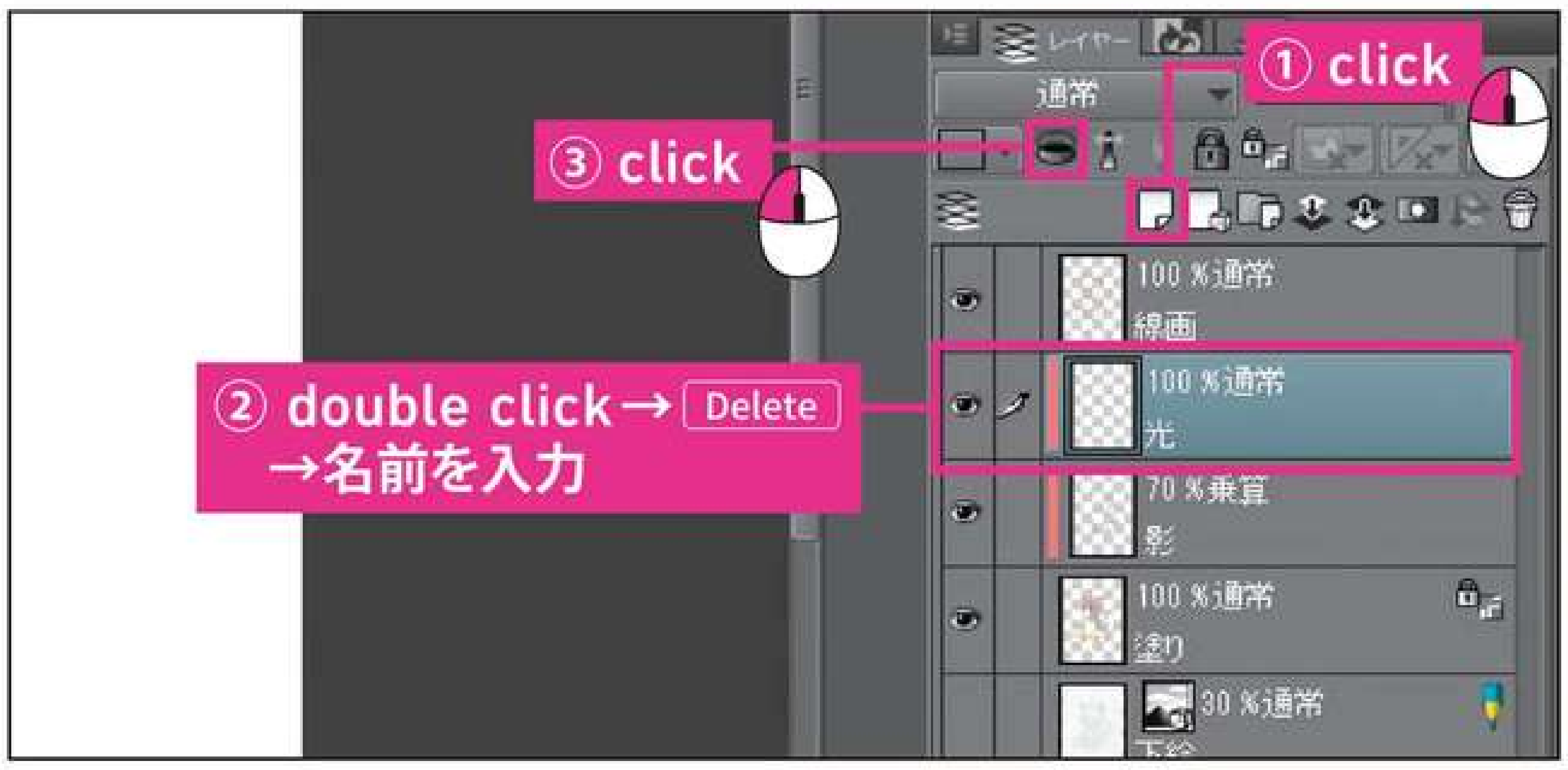
合成モード[乗算]



Step 02 ［ソフトライト］で光を入れる

1

「影」レイヤーの上に光を描くレイヤーを追加します。レイヤー名を「光」とします。
［レイヤー］パレットの［下のレイヤーでクリッピング］をクリックします（p.71の手順2と同様の操作です）。



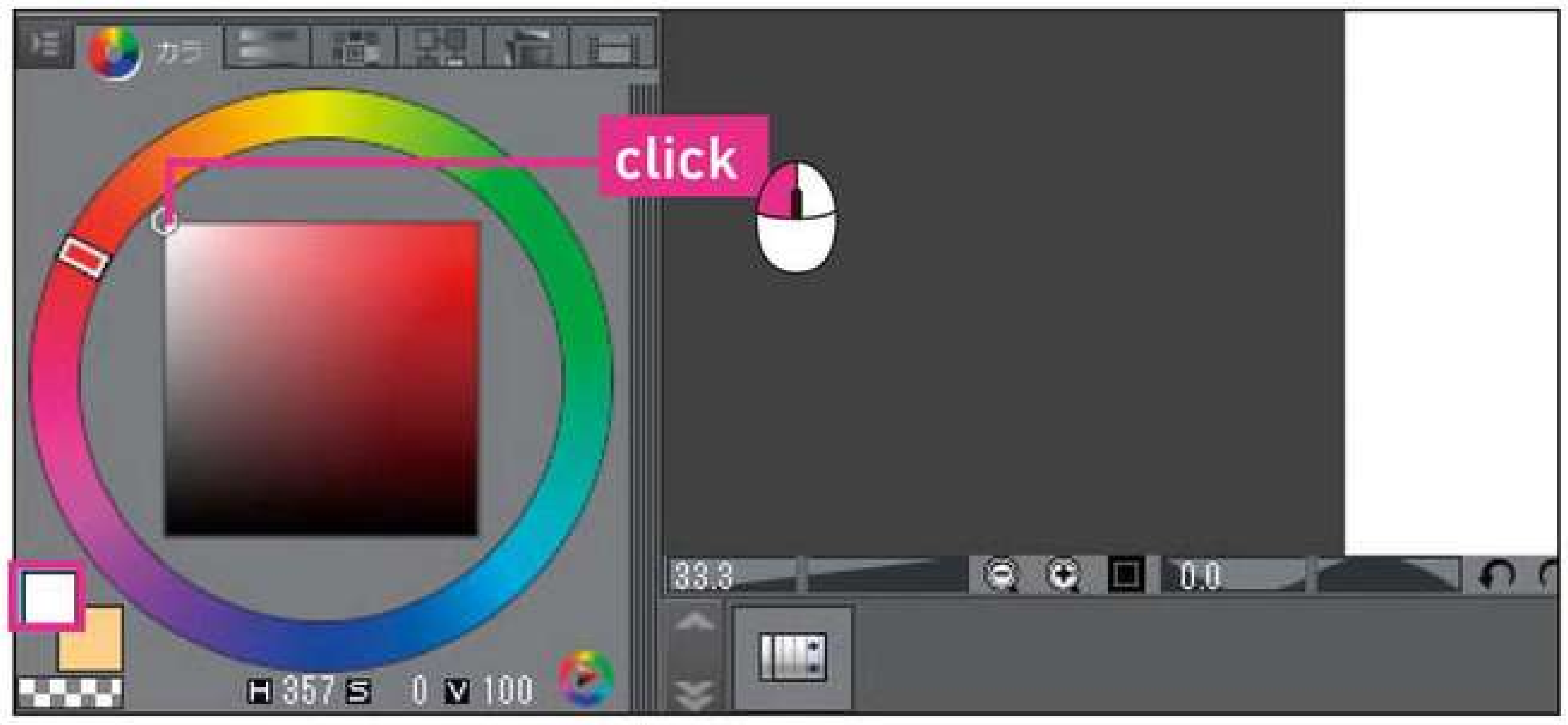
2

レイヤーの合成モードを［ソフトライト］に変更します。



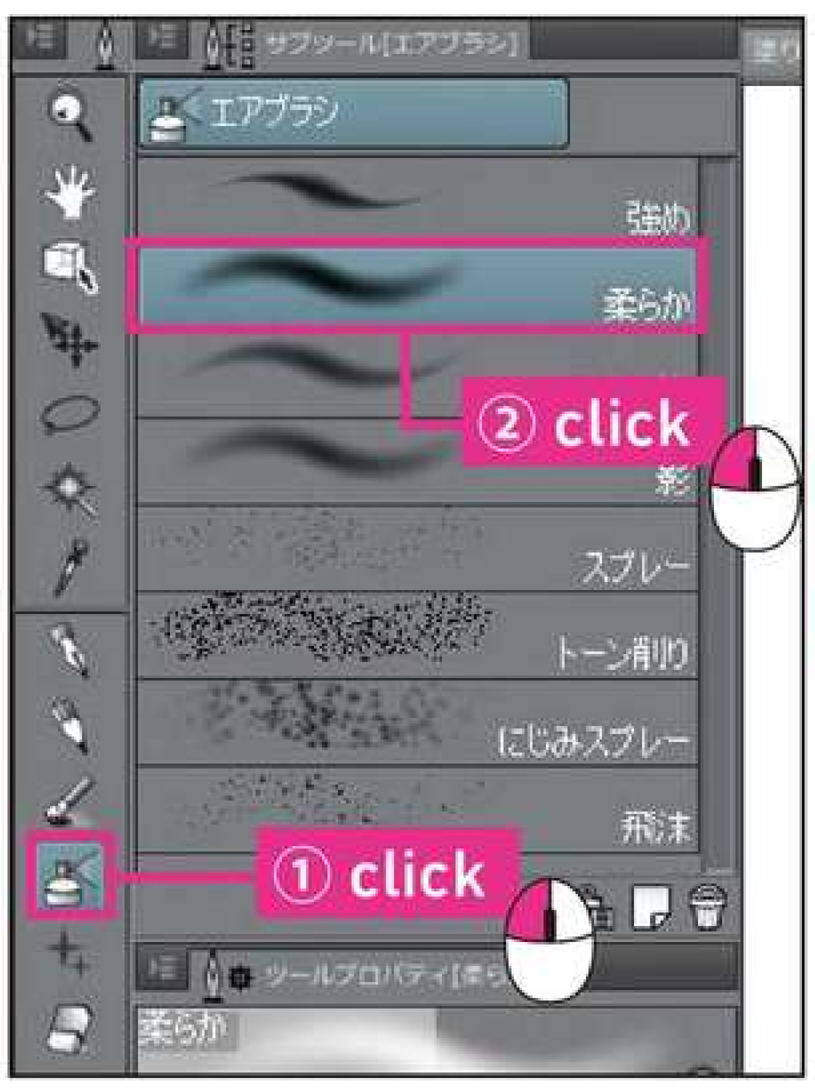
3

［カラーサークル］パレットで光の色を選択します。
ここでは白を選択しました。



4

［ツール］パレットの［エアブラシ］ツールをクリックし、［サブツール］パレットから［柔らか］を選択します。
ブラシサイズは大きめで「200〜550pixel」、ブラシ濃度は「50%」にしました。





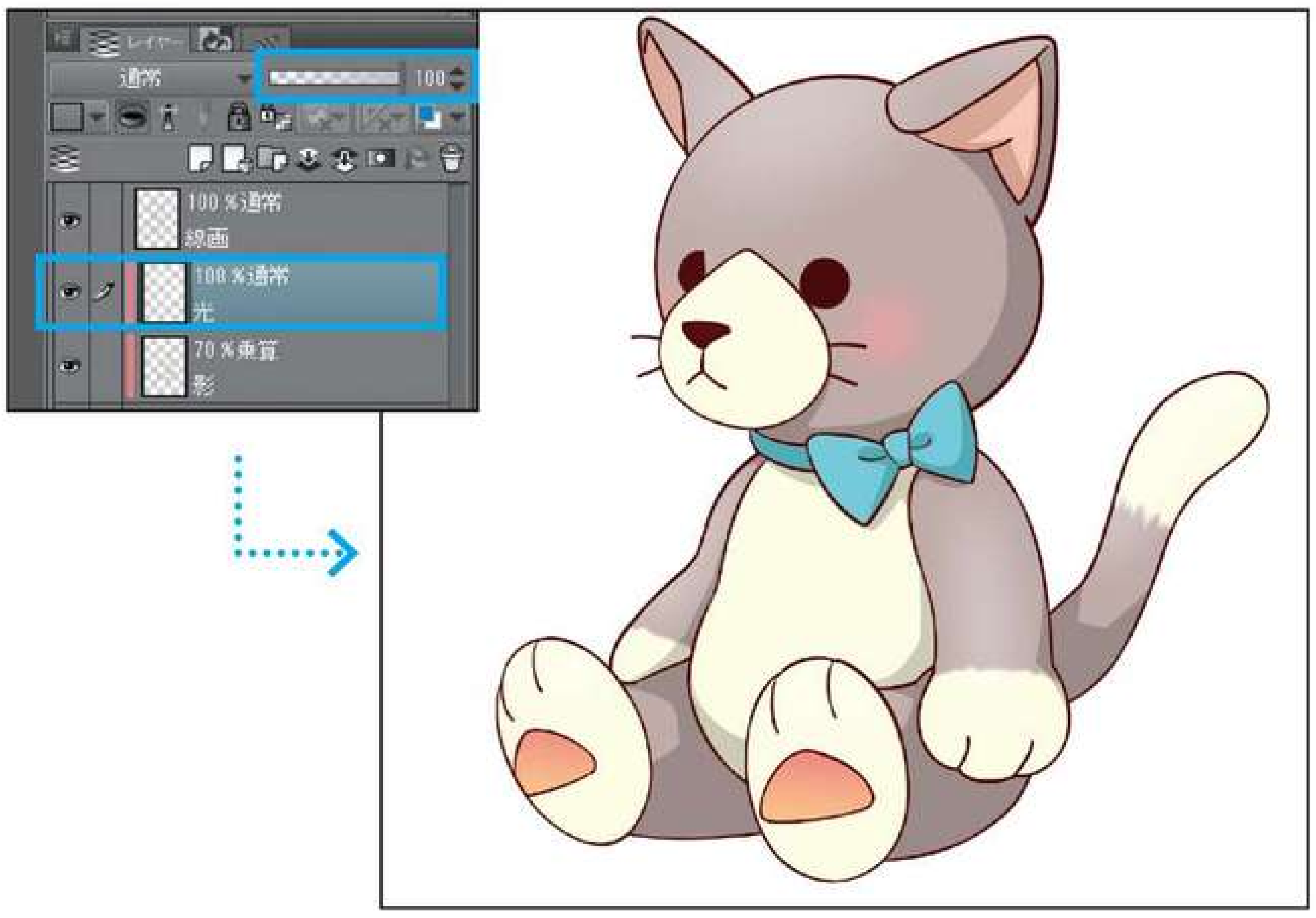
5

ふんわりと光を描いていきます。



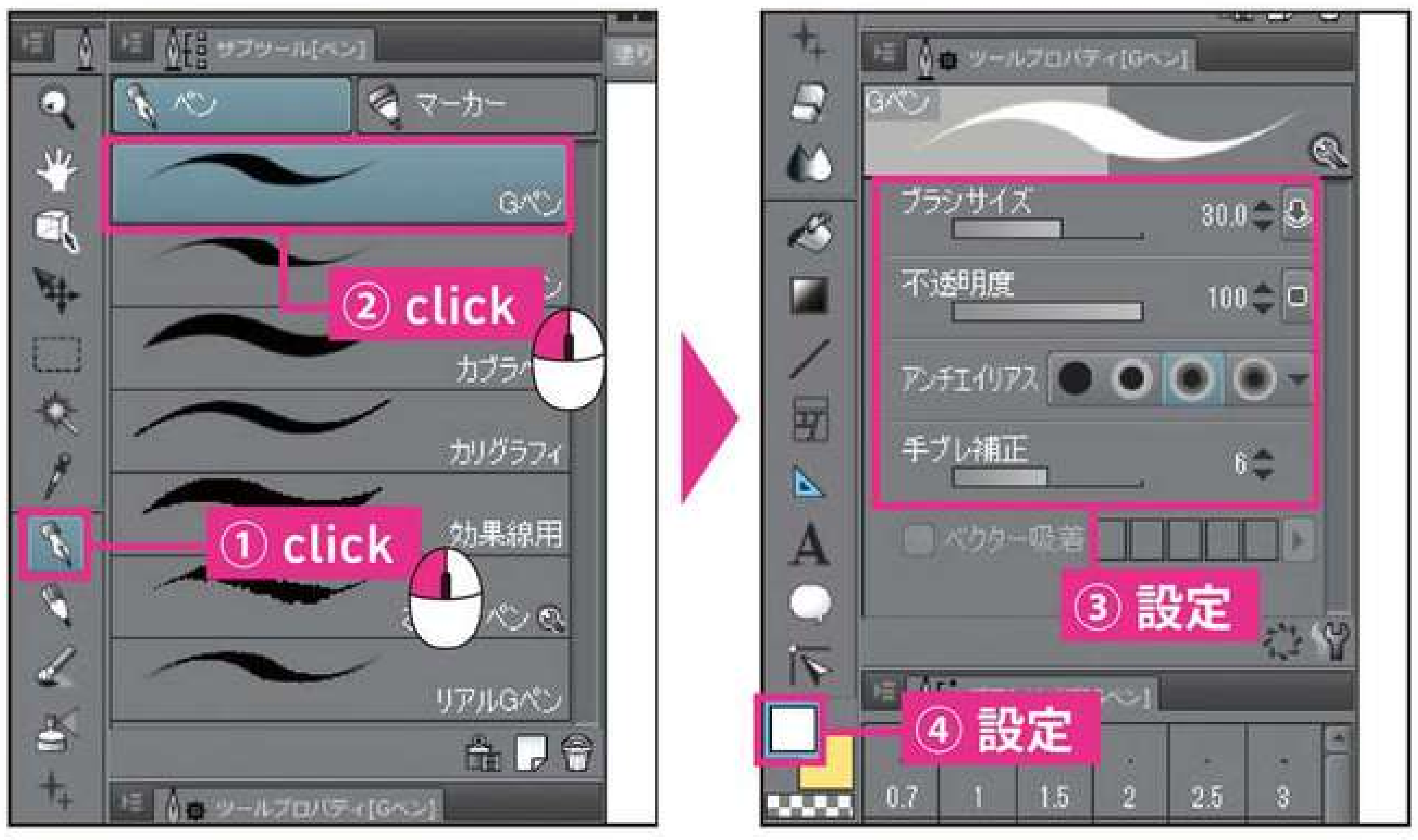
6

レイヤーの不透明度を変更すると、光の強さを調節できます。
ここでは不透明度「100%」のままにしています。
光の部分ができました。



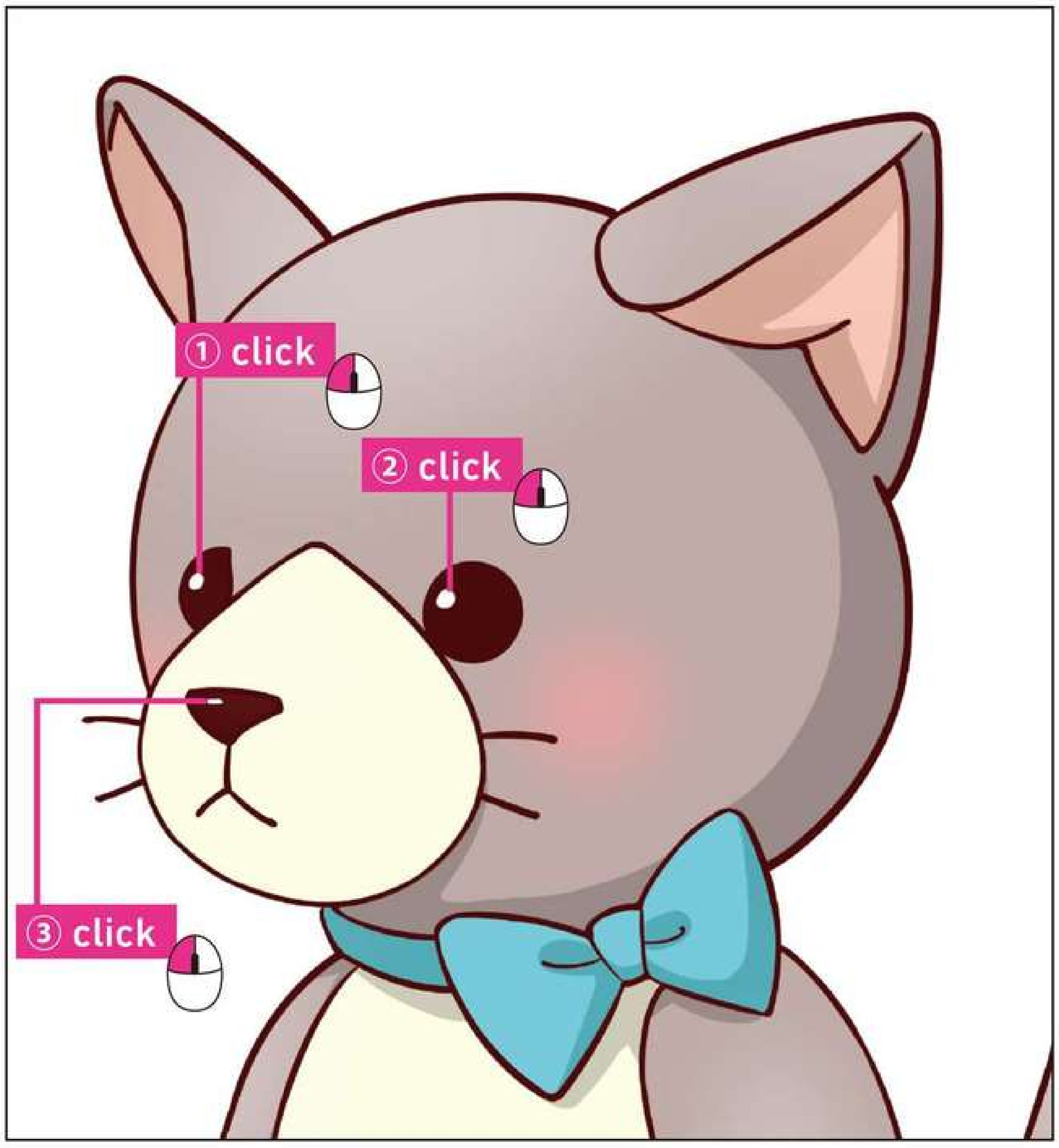
7

最後に目の部分の目と鼻の先にハイライトを入れます。「光」レイヤーの上にレイヤーを追加し、レイヤー名を「ハイライト」とします。［ツール］パレットの［ペン］ツールをクリックし、［サブツール］パレットから［Gペン］を選択します。ブラシサイズは「30pixel」、手ブレ補正は「6」にし、色は白を選択しました。



8

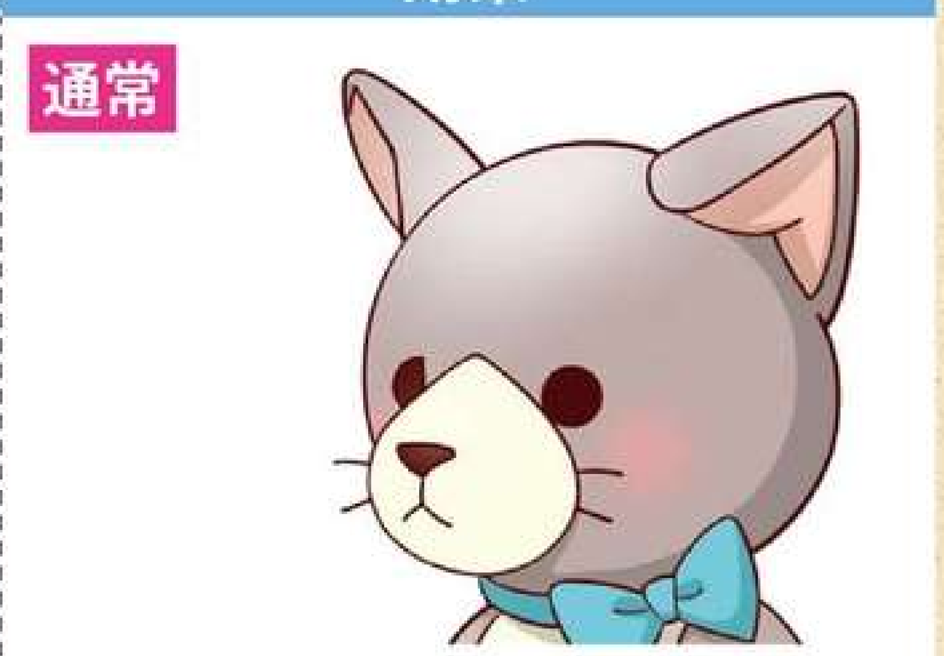
目と鼻の先にハイライトを入れたら完成です。

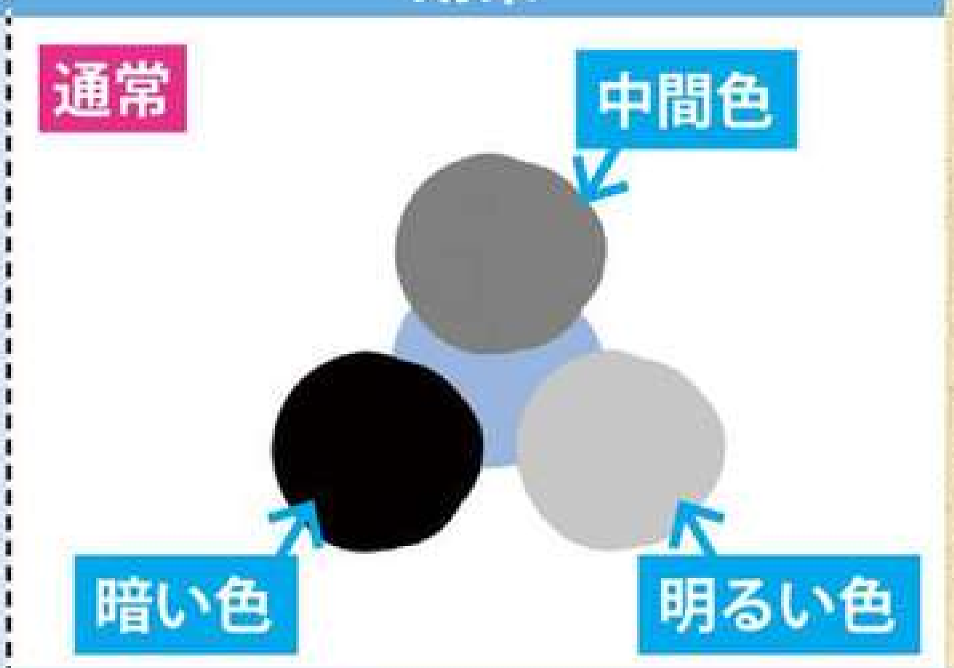
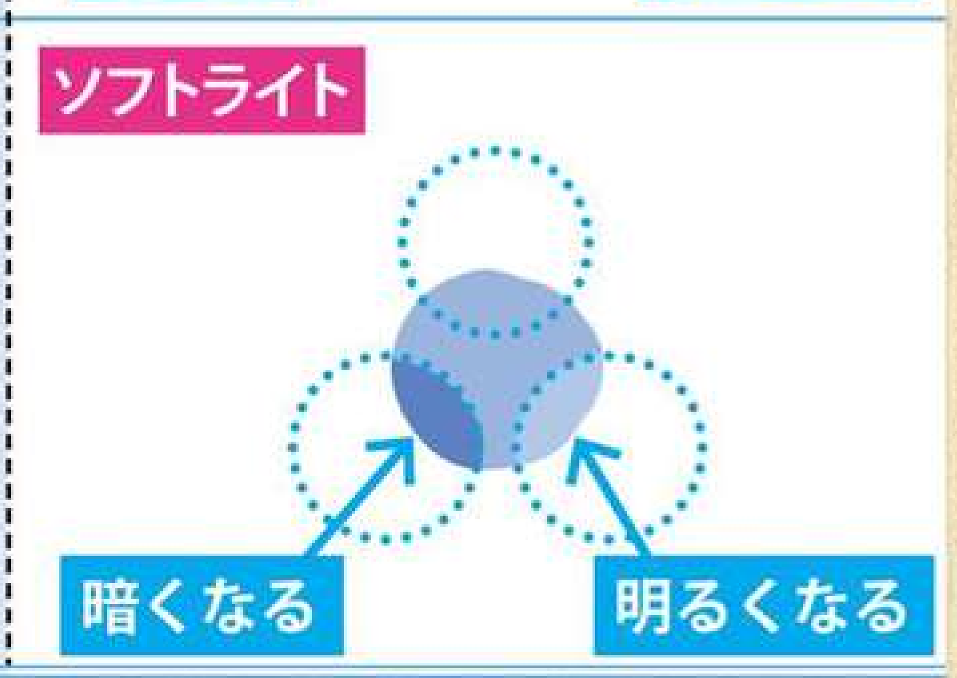


Column

ソフトライトでやわらかさを表現する

ソフトライトでは暗い色を重ねるとより暗く、明るい色を重ねるとより明るくなります。
濃淡のつき方がとても柔らかでやさしい印象に仕上がります。

項目	効果
合成モード［通常］	
合成モード［ソフトライト］	

項目	効果
合成モード［通常］	
合成モード［ソフトライト］	

この他にもレイヤーのブレンド方法がたくさんあるので、いろいろ試してみてください。

Chapter4

CLIP STUDIO PAINT PROの便利な機能を活用しよう

Chapter4では、CLIP STUDIO PAINT PROに用意されている
便利機能を活用する方法を解説します。
豊富なトーンなどの素材を使うことで、
背景を華やかにすることができます。
さらに、定規を使うことで、手描きでも正確な直線や曲線を描けます。



Chapter4 - 01

素材を使って模様を入れよう



Before 4-01.clip



After 4-01a.clip

CLIP STUDIO PAINT PROにはあらかじめパターンや画像素材が用意されています。
ここではChapter2、3で描いた猫のイラストに、素材を背景として入れてみましょう。

Step 01 パターンを選択して配置する

1

Chapter2、3で描いた猫のイラストを開きます。



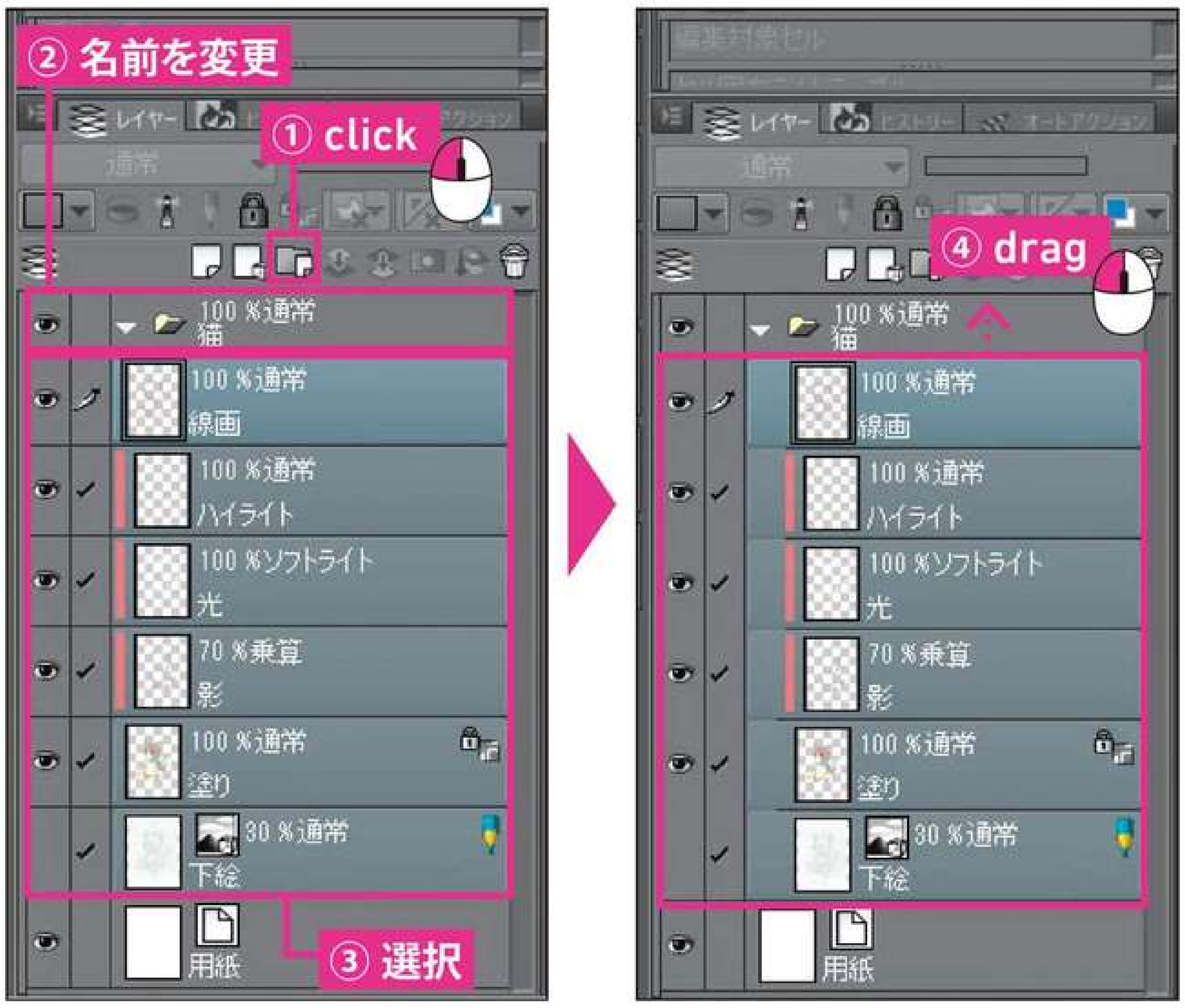
Memo

Chapter2、3で描いた猫のイラストがない場合は、「4-01.clip」ファイルを使用しましょう（ファイルについてはp.5参照）。

2

猫のイラストのレイヤーをまとめておきます。[レイヤー]パレットの[新規レイヤーフォルダー]アイコンをクリックしてレイヤーフォルダーを作成し、名前を「猫」にしました。
猫のイラストのレイヤーをすべて選択し、「猫」レイヤーフォルダーにドラッグします。

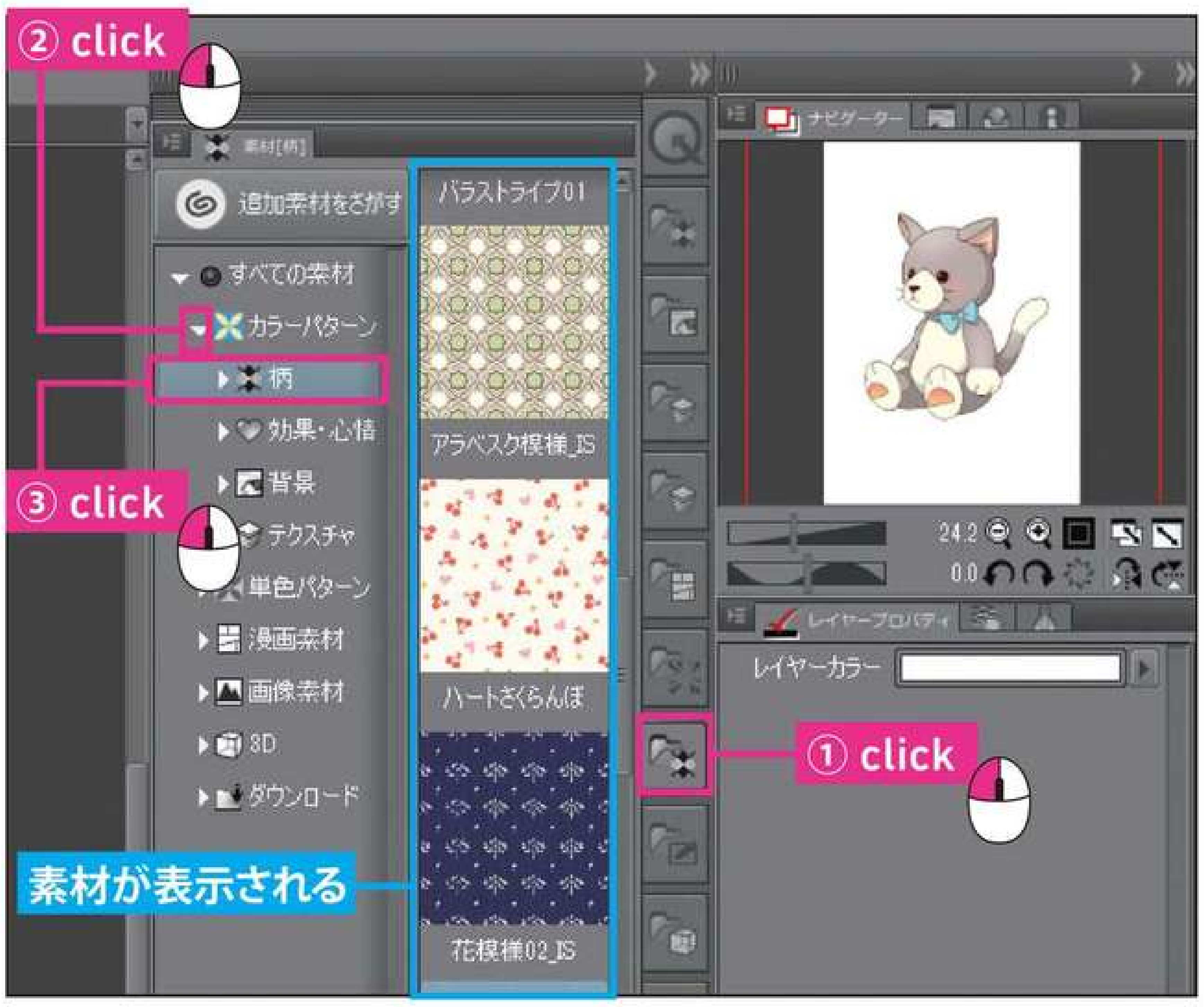
> **Memo**
> Shift キーもしくは Ctrl（command）キーを押しながらクリックすると、複数のレイヤーを選択できます。



3

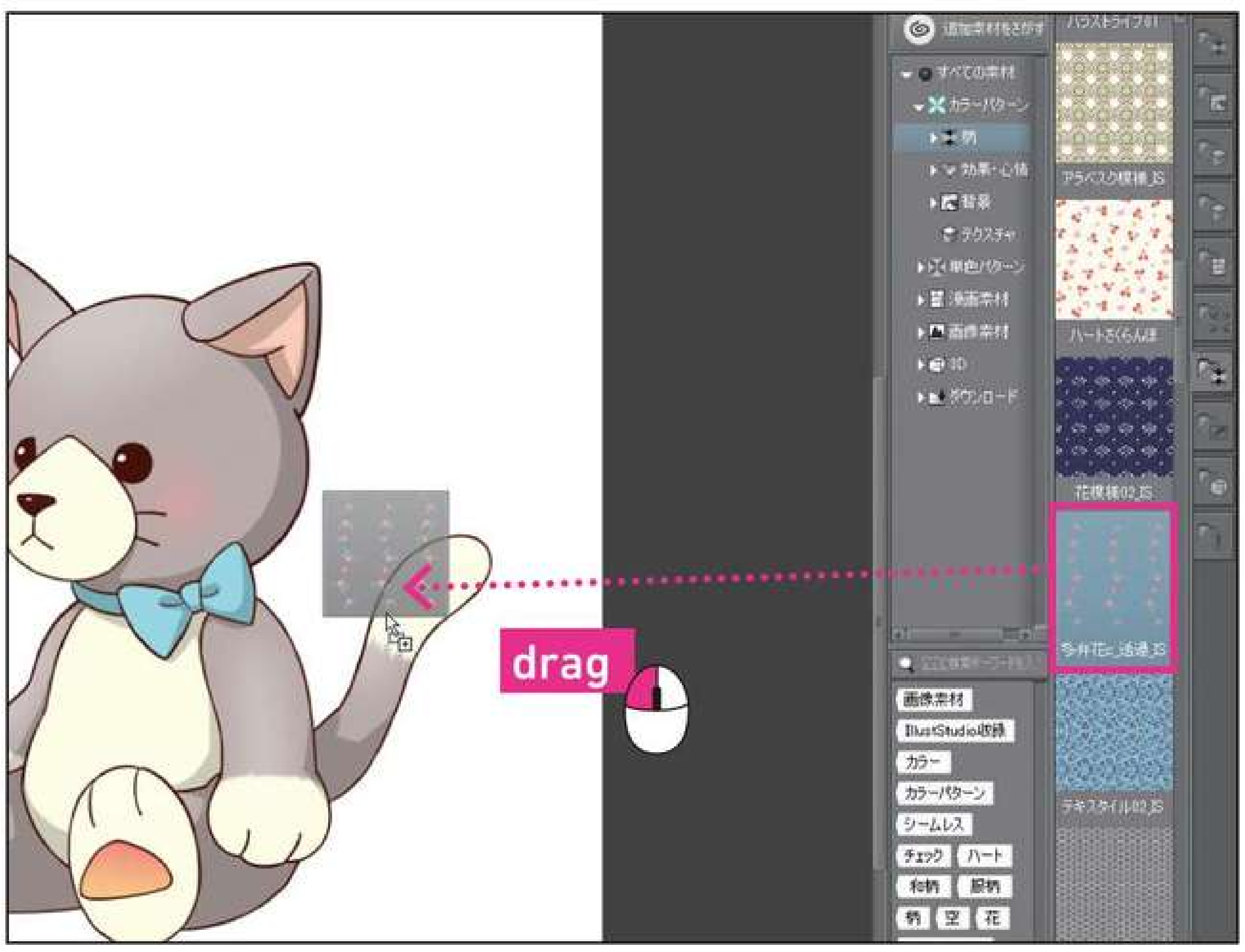
パレットドックから[素材（カラーパターン）]パレットを表示します。
▶をクリックして一覧を表示し、[柄]をクリックします。素材の一覧が表示されます。

> **Memo**
> 素材が表示されない場合は、追加素材をダウンロードする必要があります。
> 詳しくは、p.80の *Hint* を参照してください。



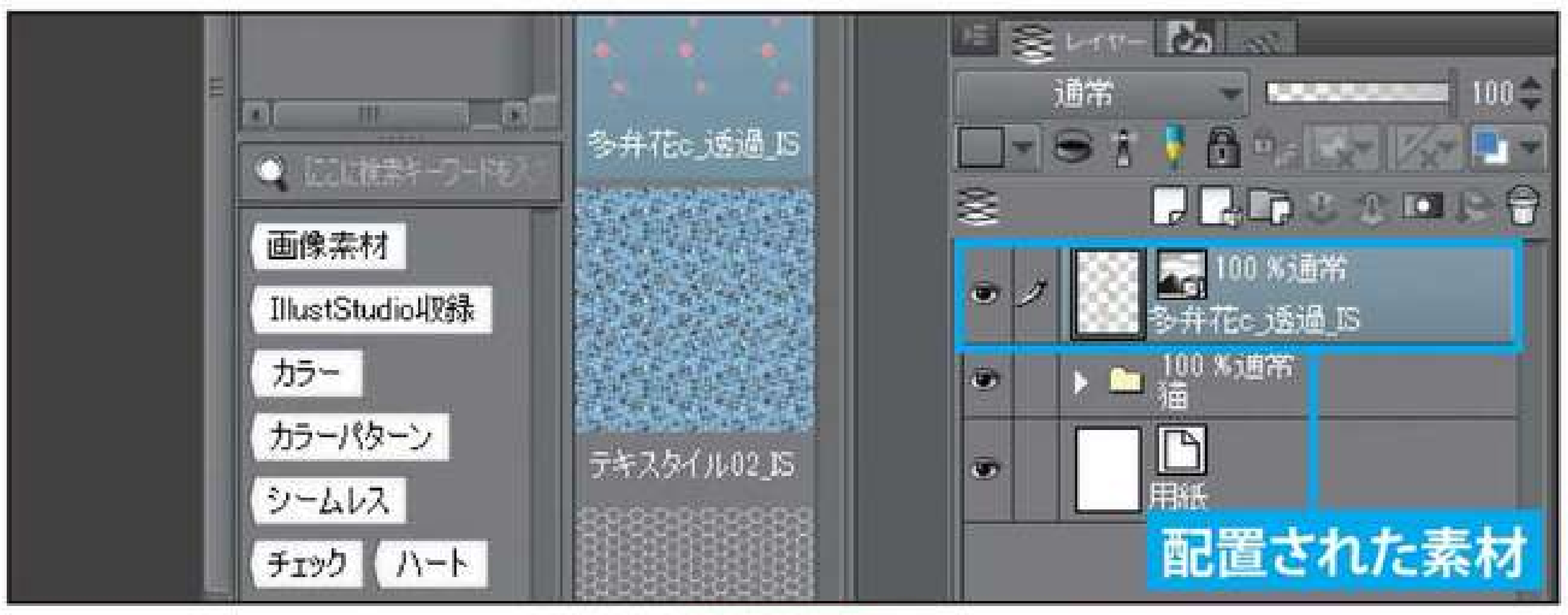
4

使いたい素材を選択し、キャンバスウィンドウにドラッグします。
ここでは「多弁花c_透過_IS」を選択しました。



5

素材が一番上にレイヤーとして配置されます。

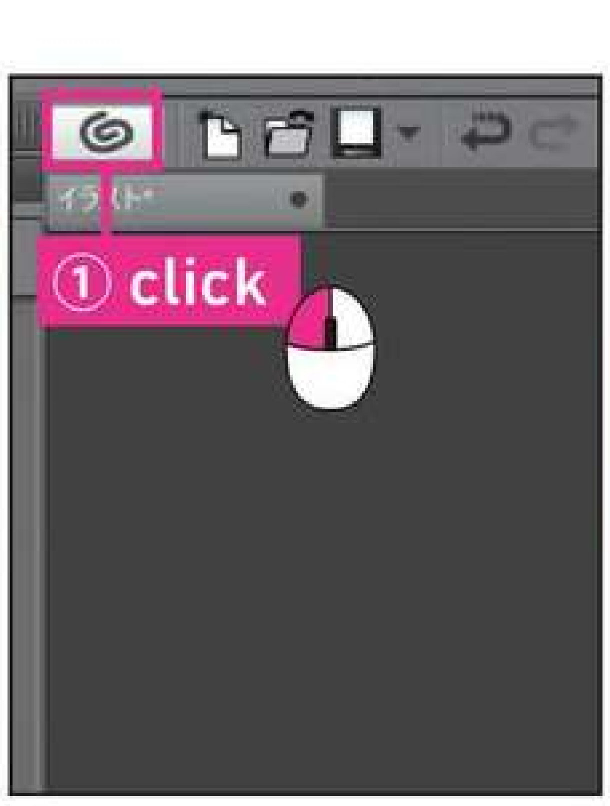


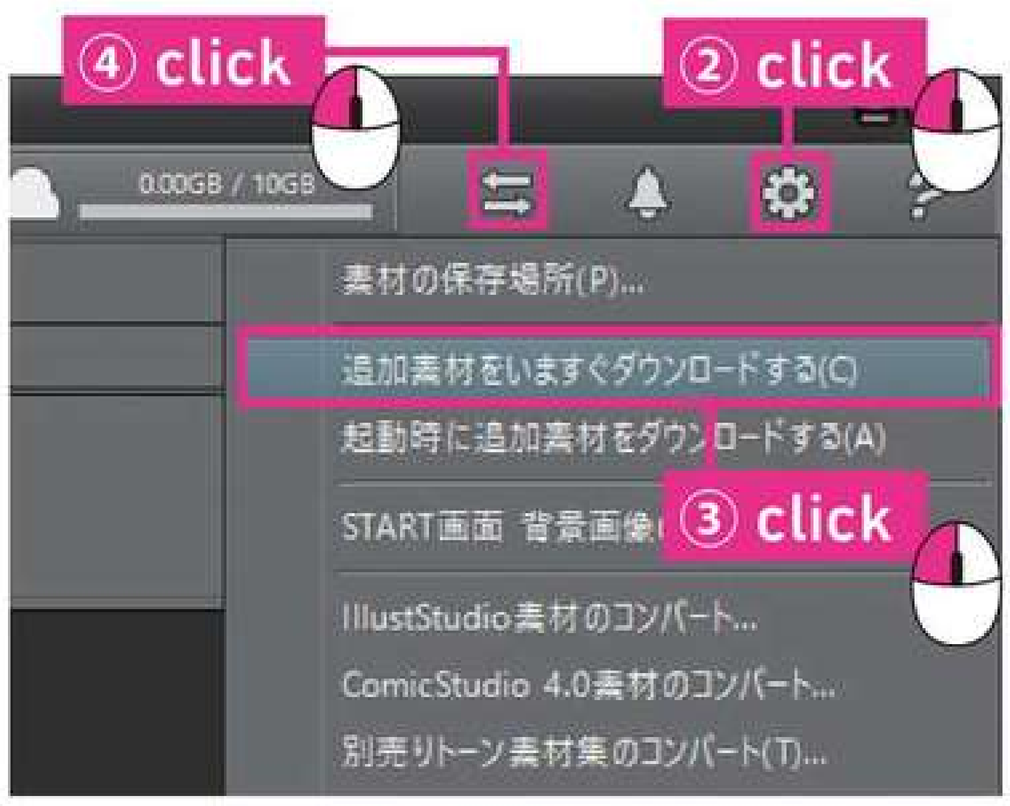


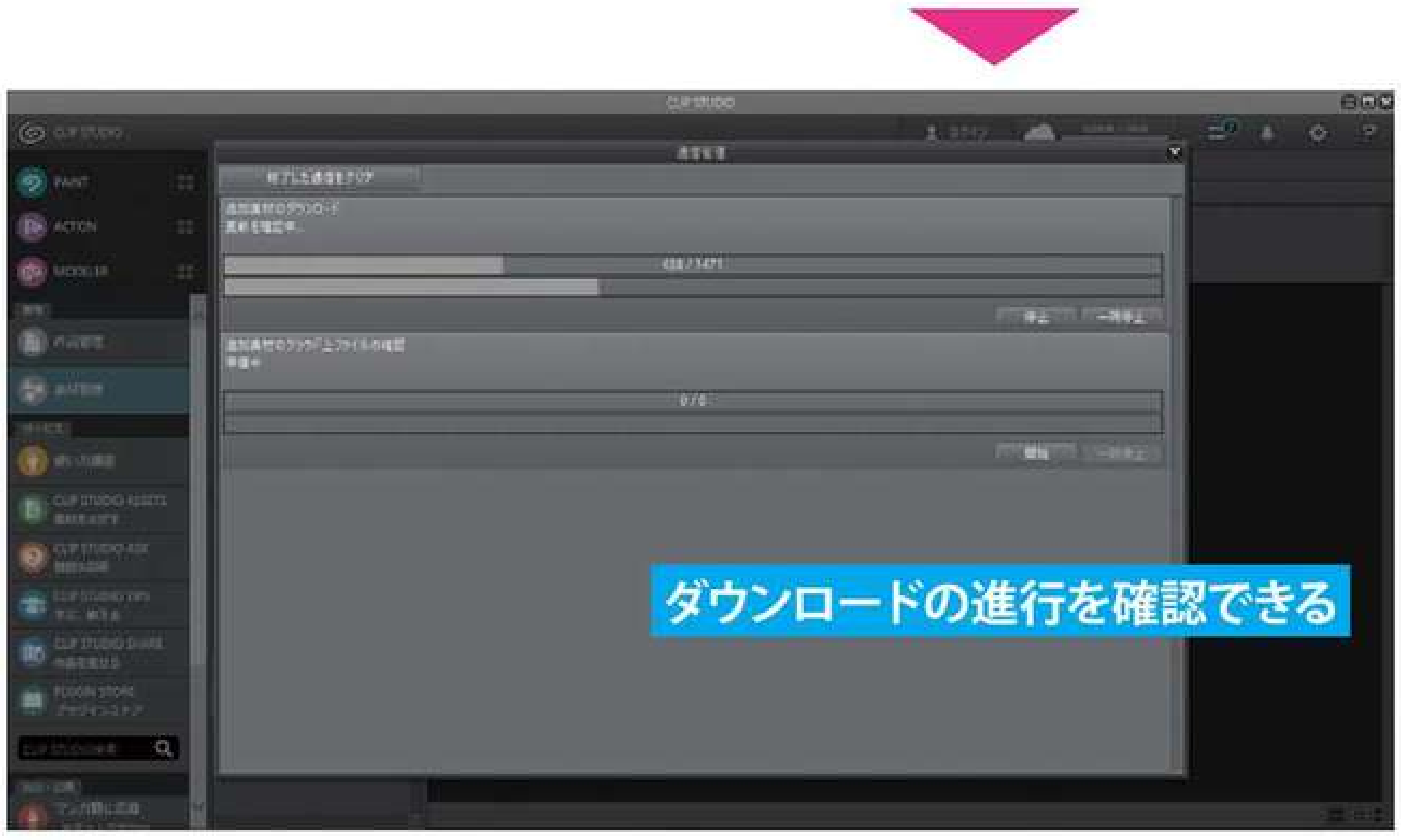
Hint

追加素材のダウンロード

インストール時に素材のダウンロードを行わなかった場合は、次の手順でダウンロードすることができます。
［CLIP STUDIO］アイコンをクリックして画面を表示し、CLIP STUDIO PAINT PROを終了します。
［CLIP STUDIO］画面の［設定］アイコンをクリックし、「追加素材をいますぐダウンロードする」をクリックします。アイコンをクリックすると［通信管理］画面が開くので、ダウンロードの進行を確認することができます。
なお、素材のダウンロードにはPCの容量が必要です。素材をダウンロードする前に、あらかじめPCの容量を確保してから行うようにしましょう。





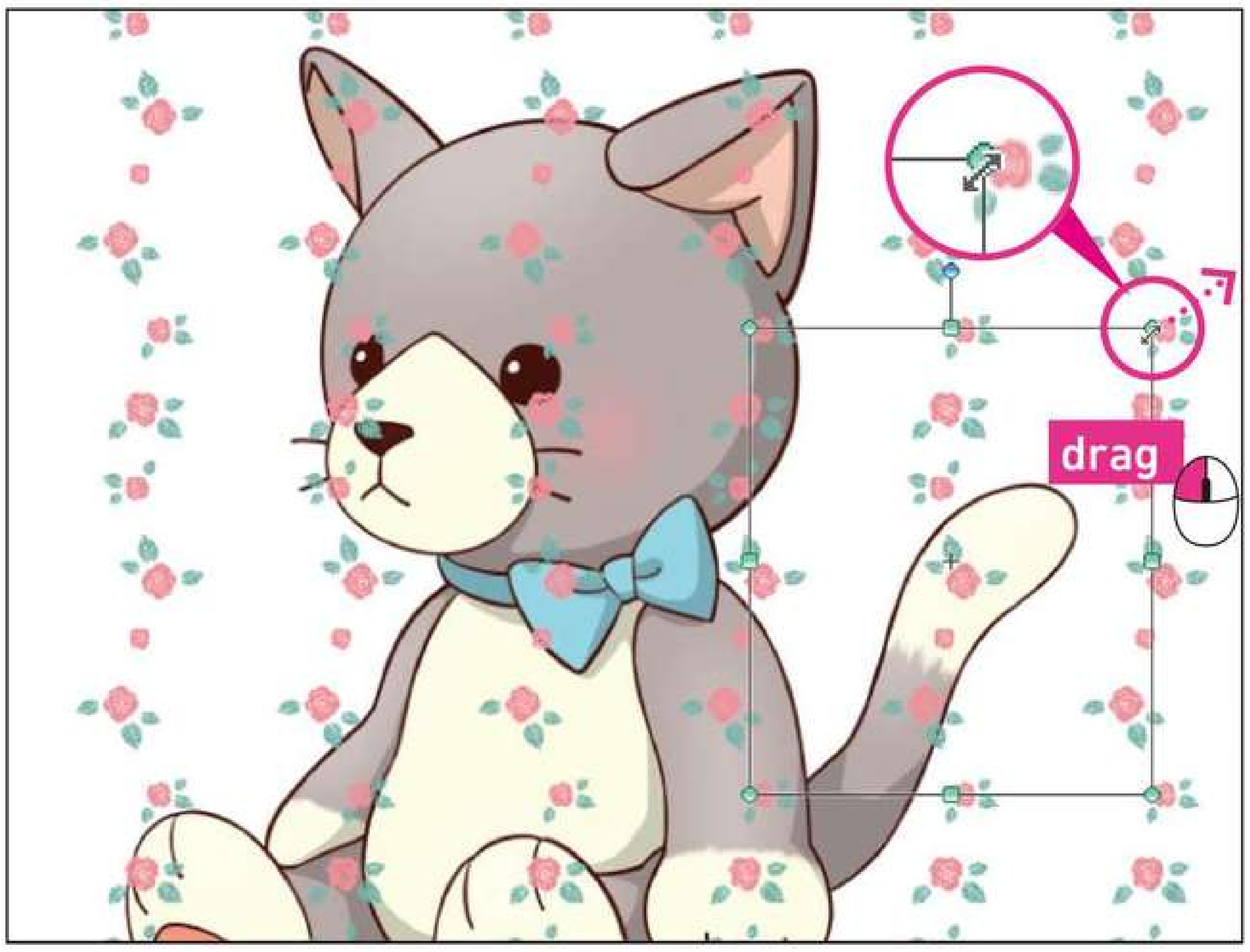


Step 02 素材の大きさと位置を調整する

1

素材を拡大、縮小します。
素材に表示されているボックスの角にマウスカーソルを合わせます。↗が表示されたら、ドラッグしてキャンバスウィンドウに合わせて調整します。

Memo
ボックスの角にマウスカーソルを合わせると、回転の矢印が表示されます。
これを左右にドラッグすることで、素材を回転させることもできます。



2

素材を移動させて配置を調整します。ボックスの上の真ん中あたりにマウスカーソルを合わせ、ドラッグして移動します。

Memo
透過素材の場合、色の付いている部分(ここでは花)からドラッグすると、きちんと選択できます。透明部分からドラッグすると、下にある猫のレイヤーが動く可能性があります。
[操作]ツールの[オブジェクト]であとからでも調整することができます。



3

素材が配置できたら、画像素材レイヤーを猫のイラストの後ろに移動します。
[レイヤー]パレットで画像素材レイヤーを選択し、猫のイラストの下にドラッグして移動します。素材が猫のイラストの後ろに配置されました。
これで完成です。

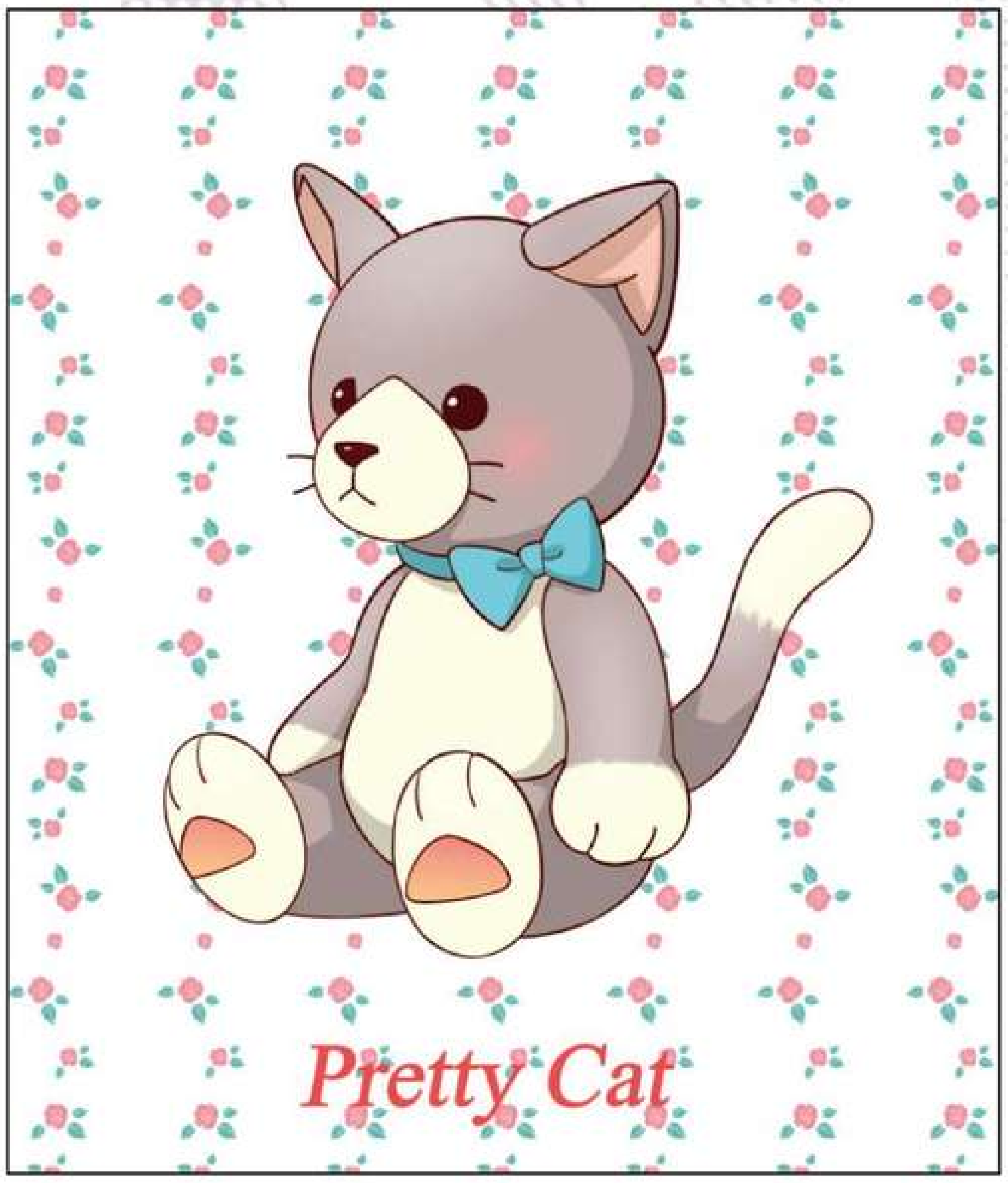


Chapter 4 - 02

横書きの文字を入れてみよう



Before 4-02.clip

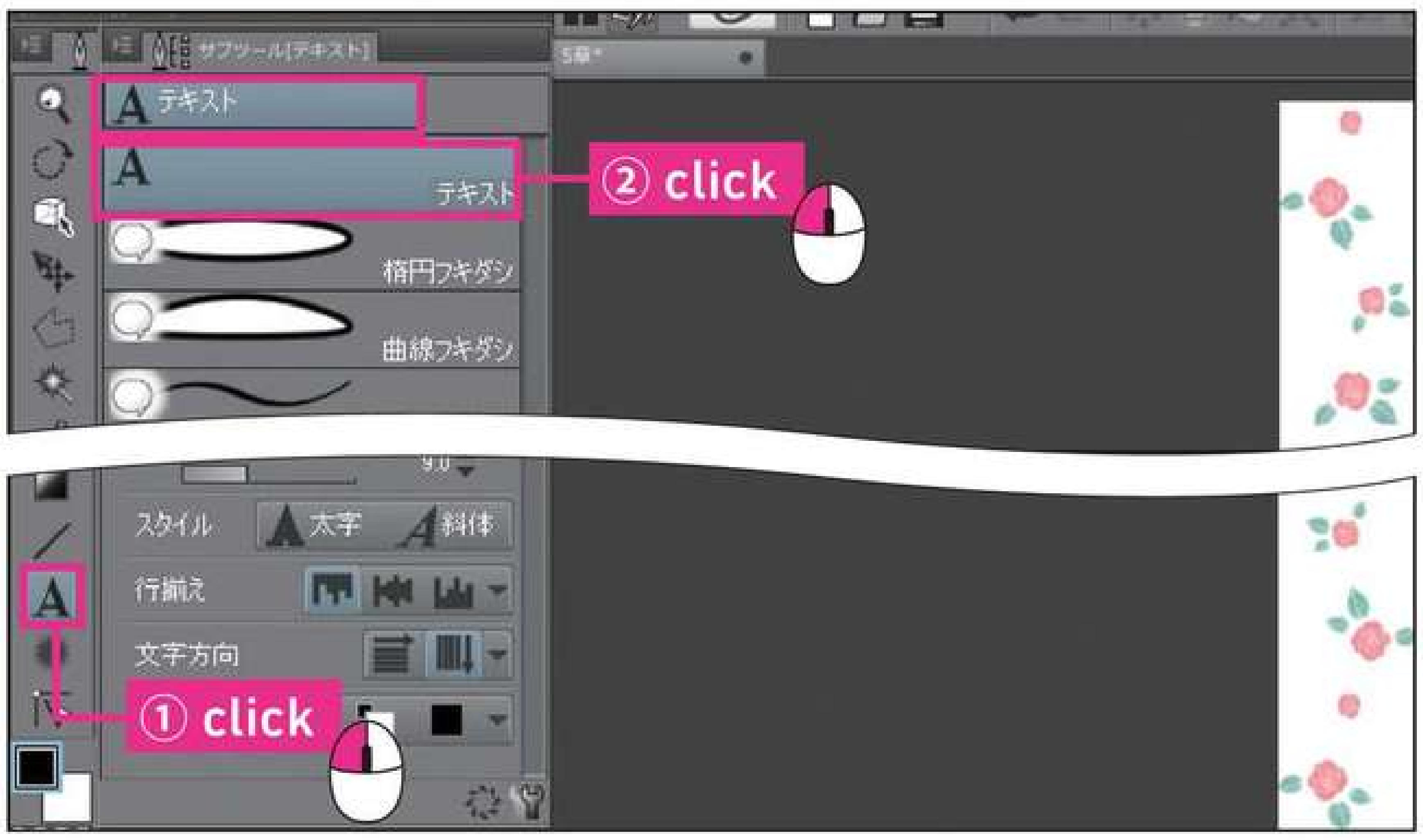


After 4-02a.clip

横書きのロゴを入れてみましょう。

Step 01 文字を入力する

［ツール］パレットから［テキスト］ツールAをクリックし、［サブツール］パレットの［テキスト］をクリックします。

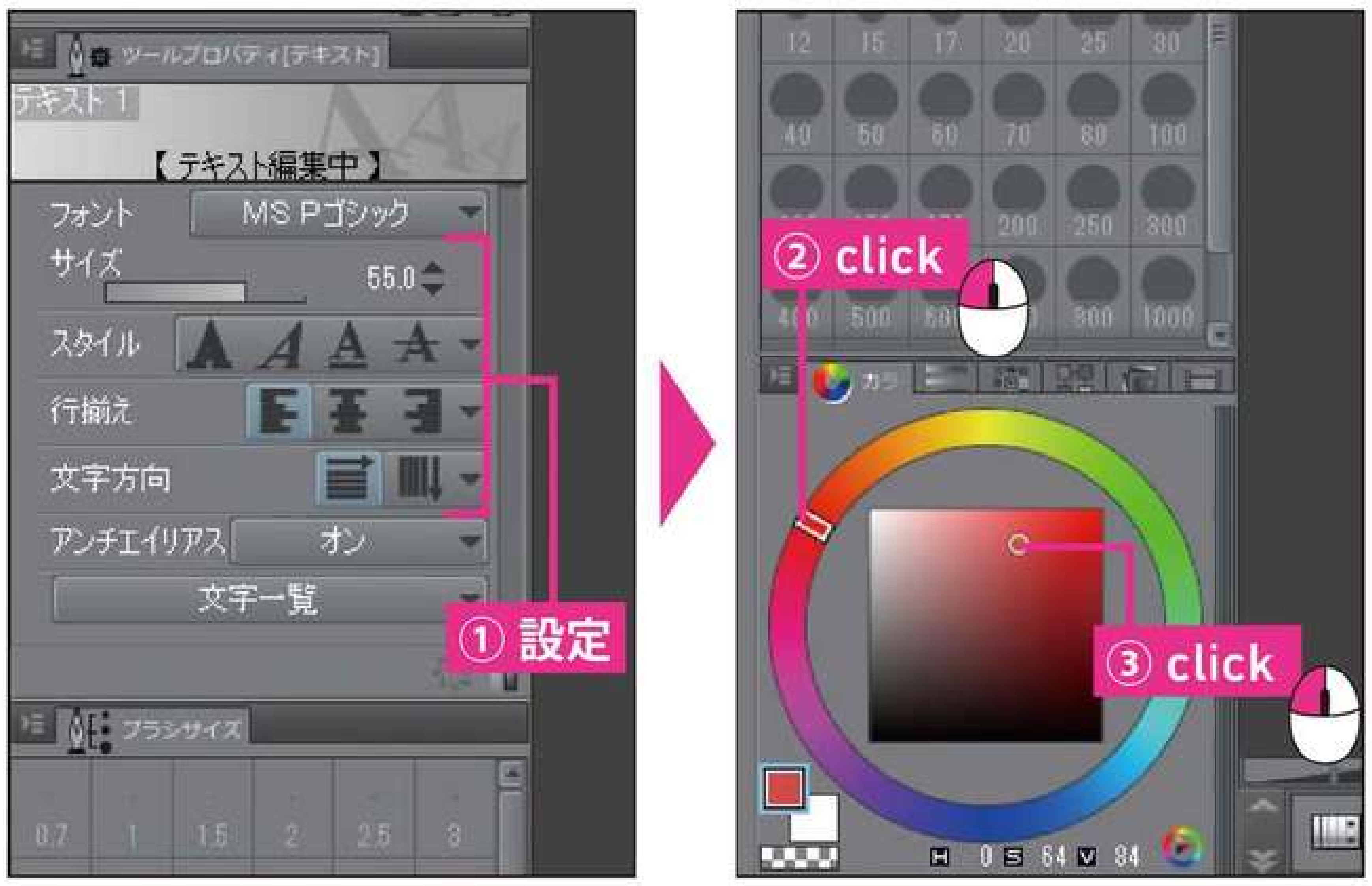


2

［ツールプロパティ］パレットでサイズを「55px」、［文字方向］を「横書き」にし、［カラーサークル］パレットで色を選択します。

Memo

フォントはあとで変更するので、そのままでかまいません。ここでは、サイズを大きめな「55px」に設定しています。

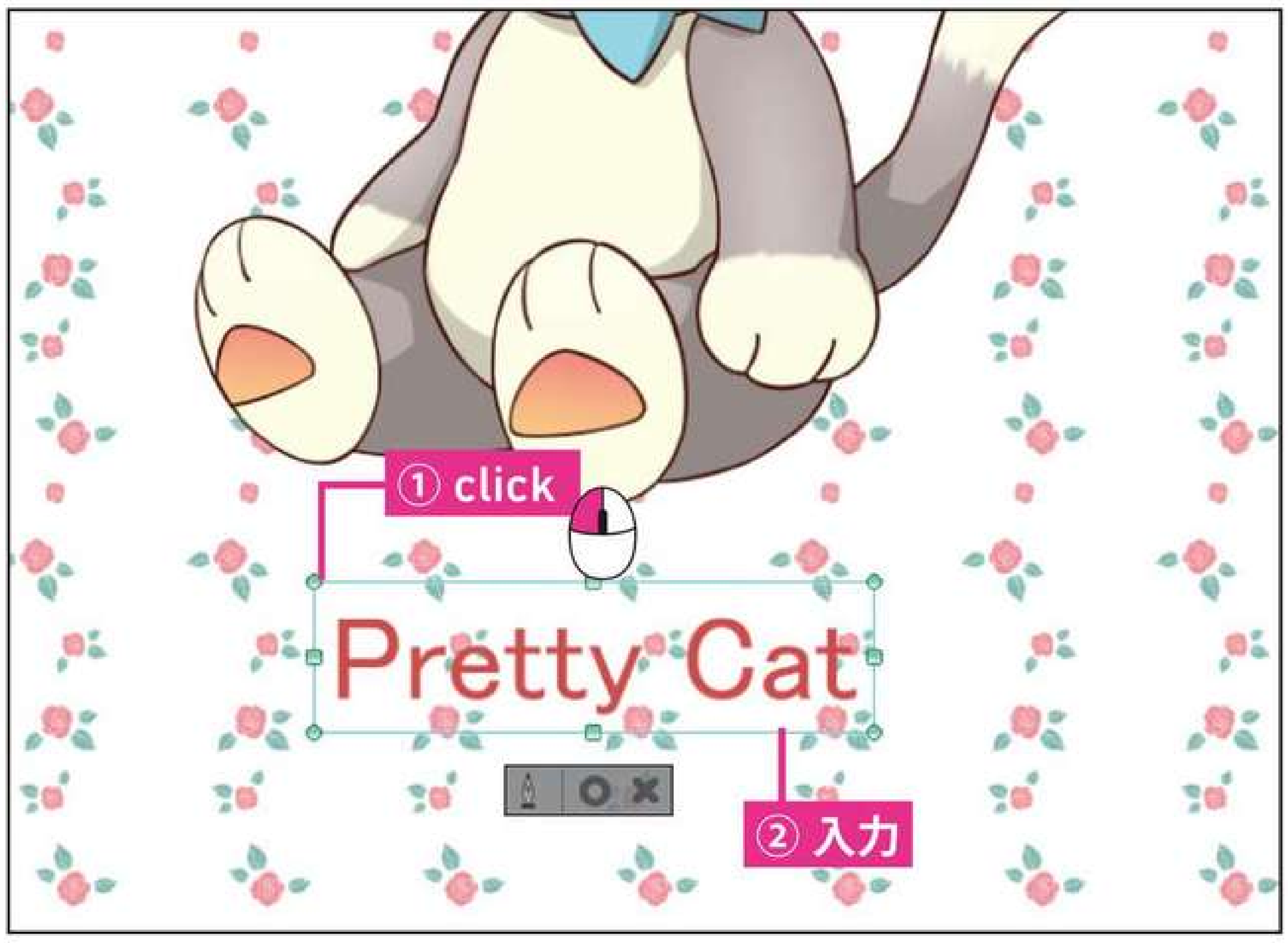


3

キャンバスウィンドウ内の文字を入れたい場所をクリックし、文字を入力します。
文字の位置はあとで調整できるので、おおまかな位置でかまいません。
ここでは「Pretty Cat」と入力しました。

Memo

文字を入力すると、一番上にテキストレイヤーが作成されます。



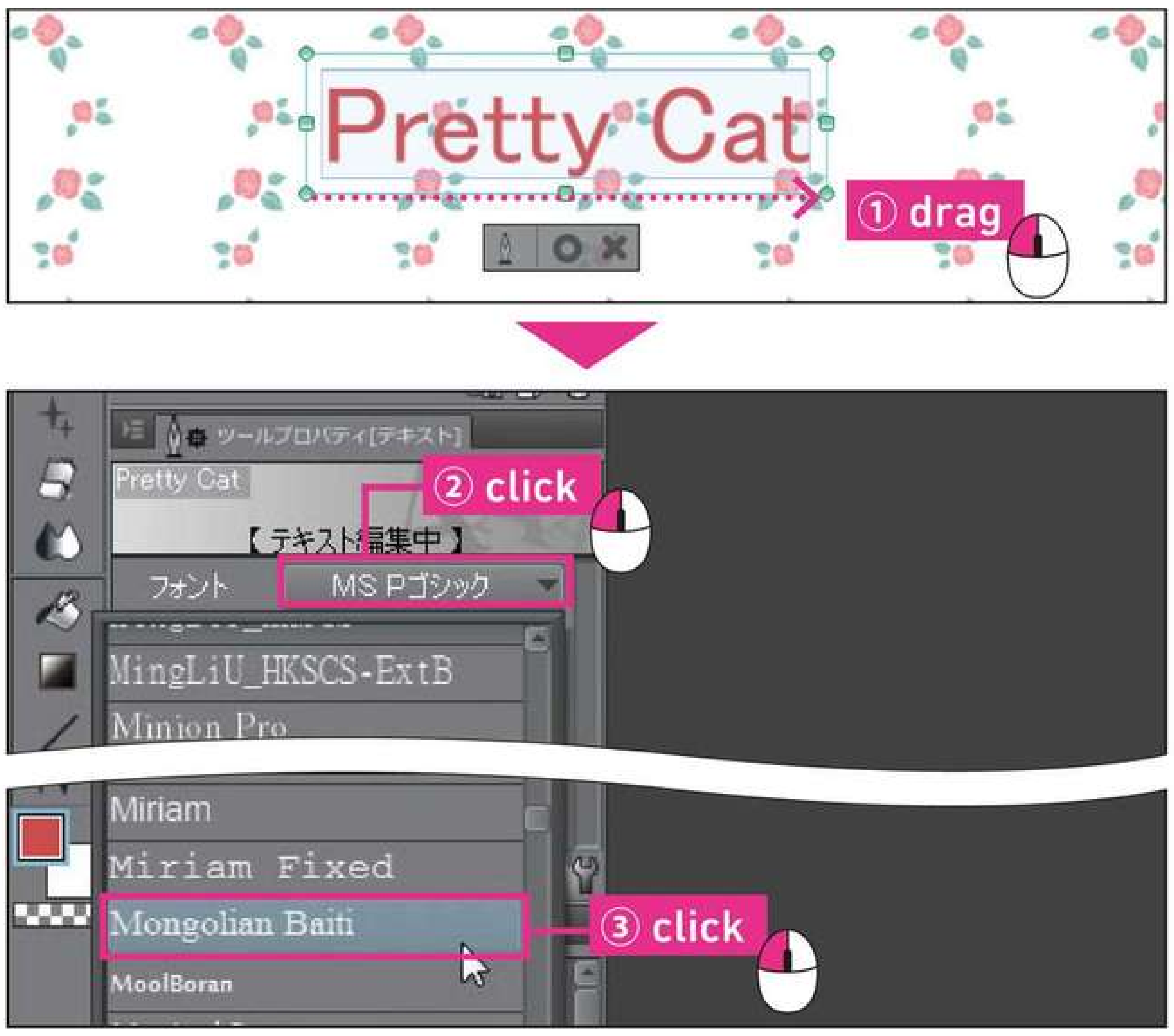
Step 02 フォントやスタイルを変更する

1

入力したあとでもフォントやスタイルを変更できます。
ドラッグして文字を選択し、［ツールプロパティ］パレットで［フォント］の右のボックスをクリックすると一覧が表示されます。
一覧から好みのフォントを選択します。

Memo

お使いのPCによってインストールされているフォントが異なるので、好きなフォントを選んでみましょう。ここでは明朝系のフォントを選択しています。



2

スタイルを設定します。ここでは[太字][斜体]をクリックして設定しました。



3

文字の配置を調整します。
文字のボックスにマウスカーソルを合わせると、アイコンが表示されます。
ドラッグして移動し、位置を調整します。



4

位置が調整できたら、完成です。



Chapter 4 - 03

フキダシを入れてみよう



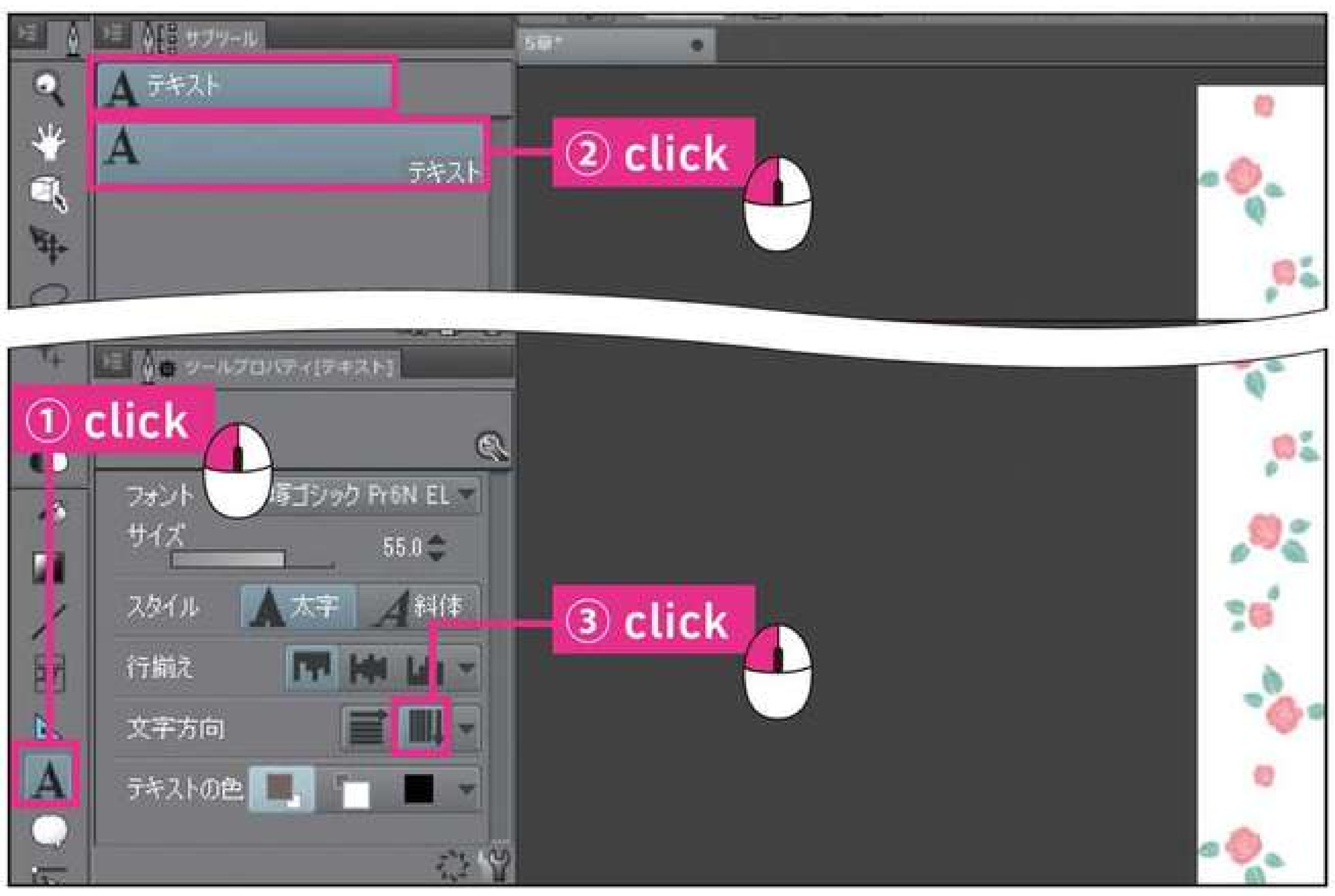
Before 4-03.clip



After 4-03a.clip

縦書きのフキダシを作成してみましょう。

Step 01 文字を入力して楕円フキダシを作る



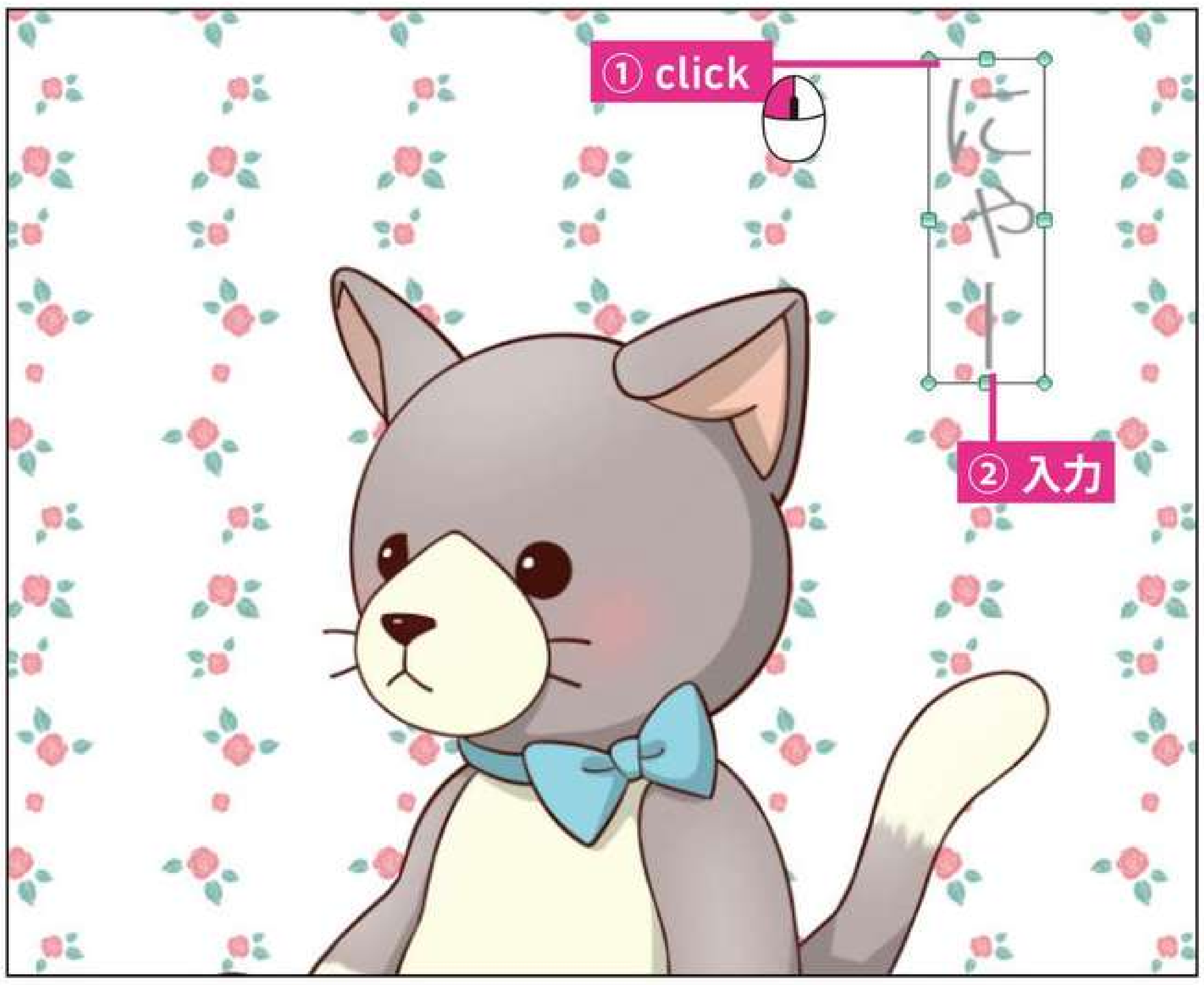
［ツール］パレットから［テキスト］ツール A をクリックします。［ツールプロパティ］パレットでサイズを設定し、［文字方向］の「縦書き」をクリックします。

Memo

ここでは、サイズを大きめな「55px」に設定しています。［ツールプロパティ］パレットは、あとからでも変更できます。

2

キャンバスウィンドウ内の文字を入れたい場所をクリックし、文字を入力します。
文字の位置はあとで調整できるので、おおまかな位置でかまいません。
ここでは「にゃー」と入力しました。

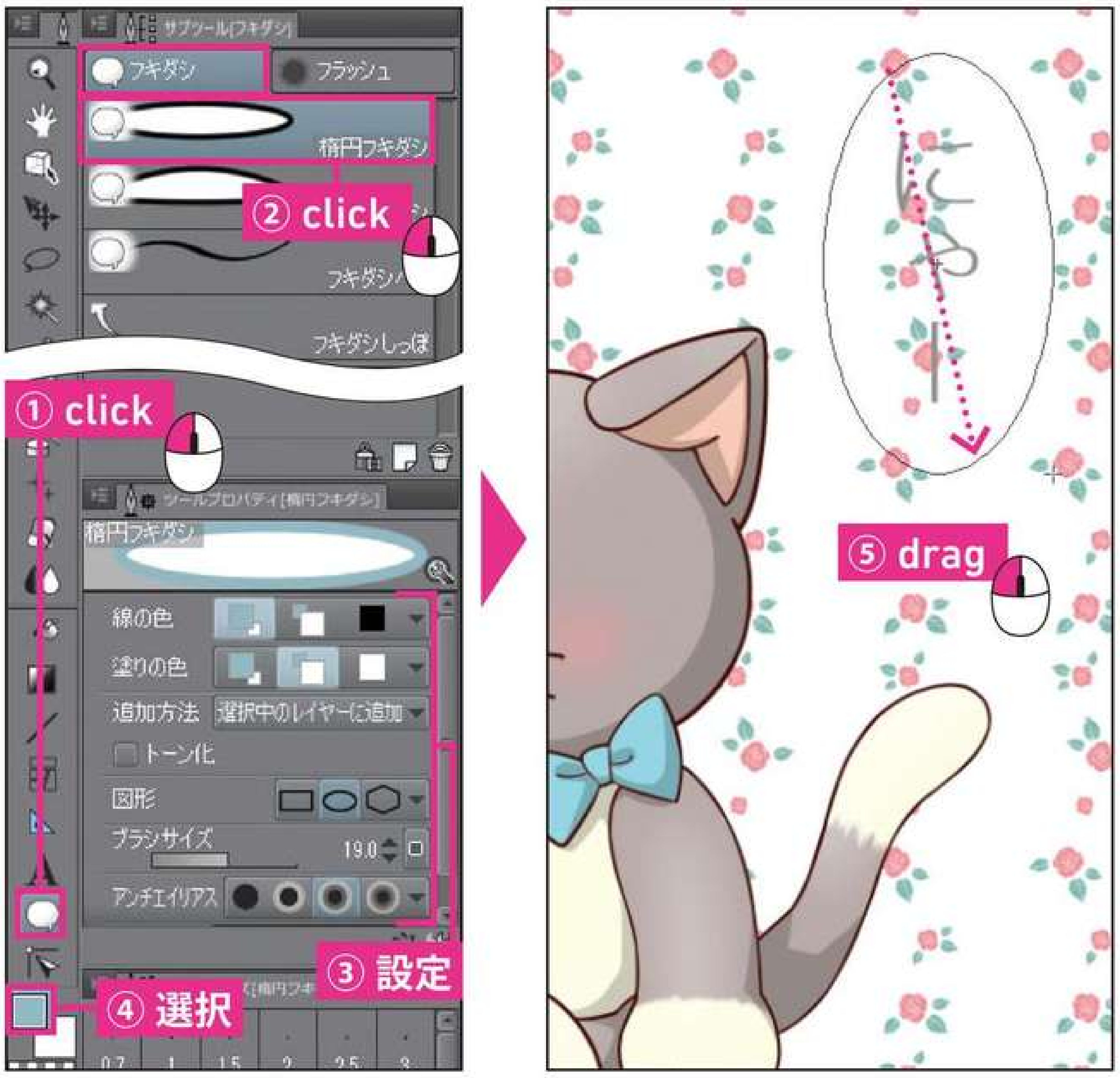


Memo

お使いのPCによってインストールされているフォントが異なるので、好きなフォントを選んでみましょう。ここではゴシック系のフォントを選択しています。

3

［フキダシ］ツールをクリックし、［サブツール］パレットの［テキスト］から［楕円フキダシ］を選択します。
［ツールプロパティ］パレットでブラシサイズ（枠線の太さ）などを設定し、色を選択します。
入力した縦書きの文字を囲むようにドラッグします。

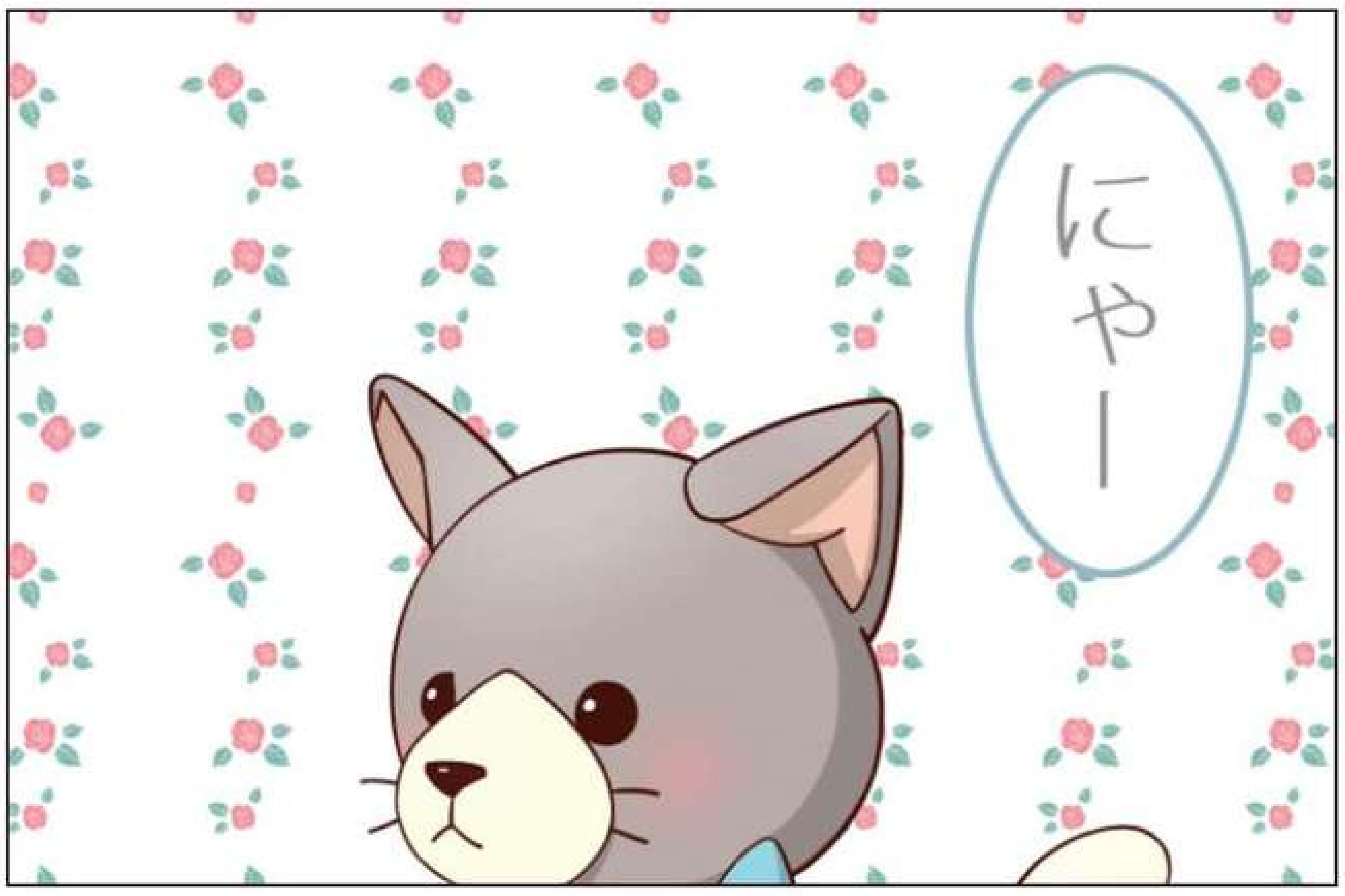


Memo

［サブツール］パレットで［楕円フキダシ］を選択すると、［ツール］パレットのアイコンの表示が［楕円フキダシ］に変わります。

4

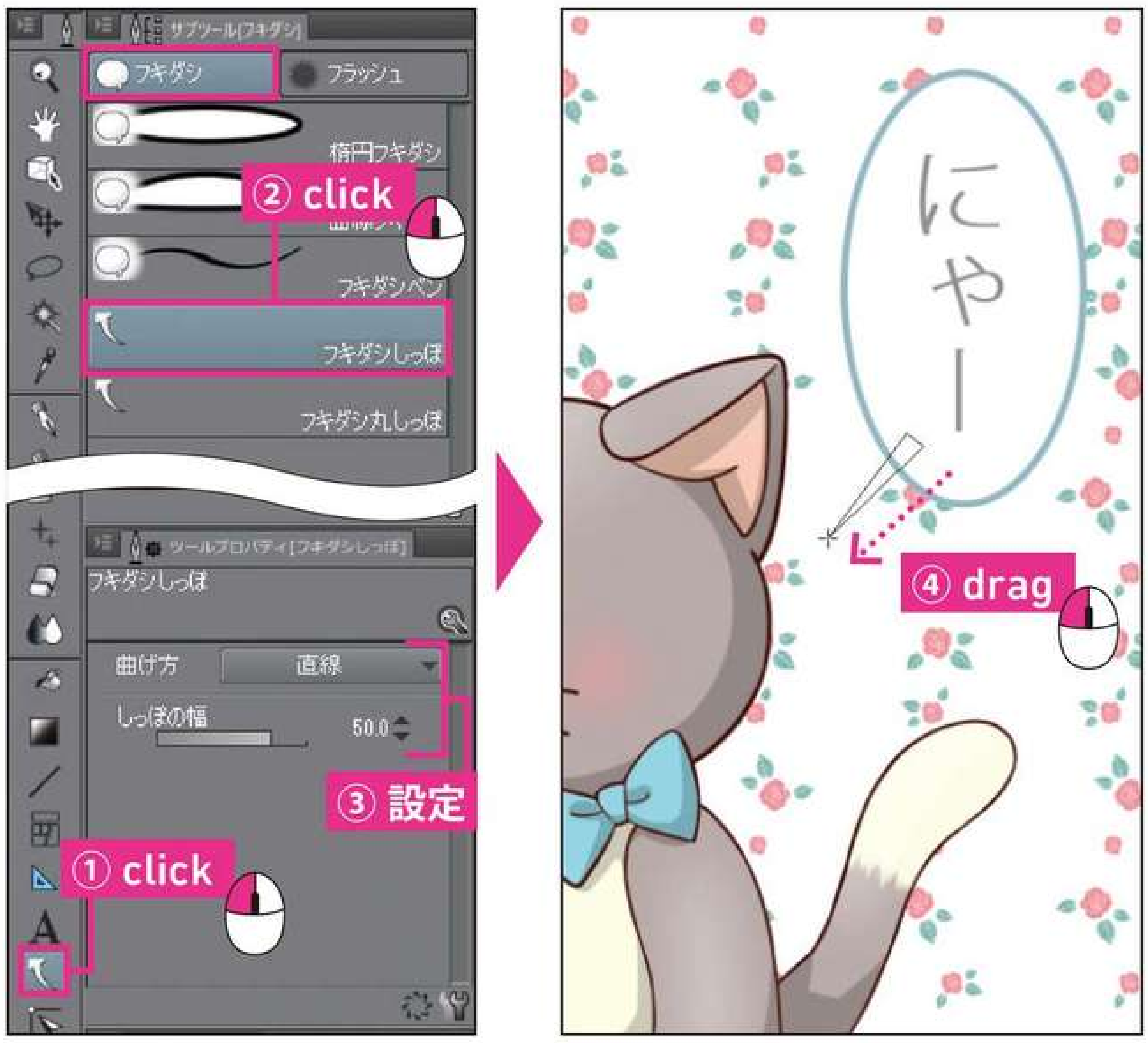
ドラッグが解除されると、フキダシの楕円の部分ができ上がります。



Step 02 フキダシにしっぽをつける

1

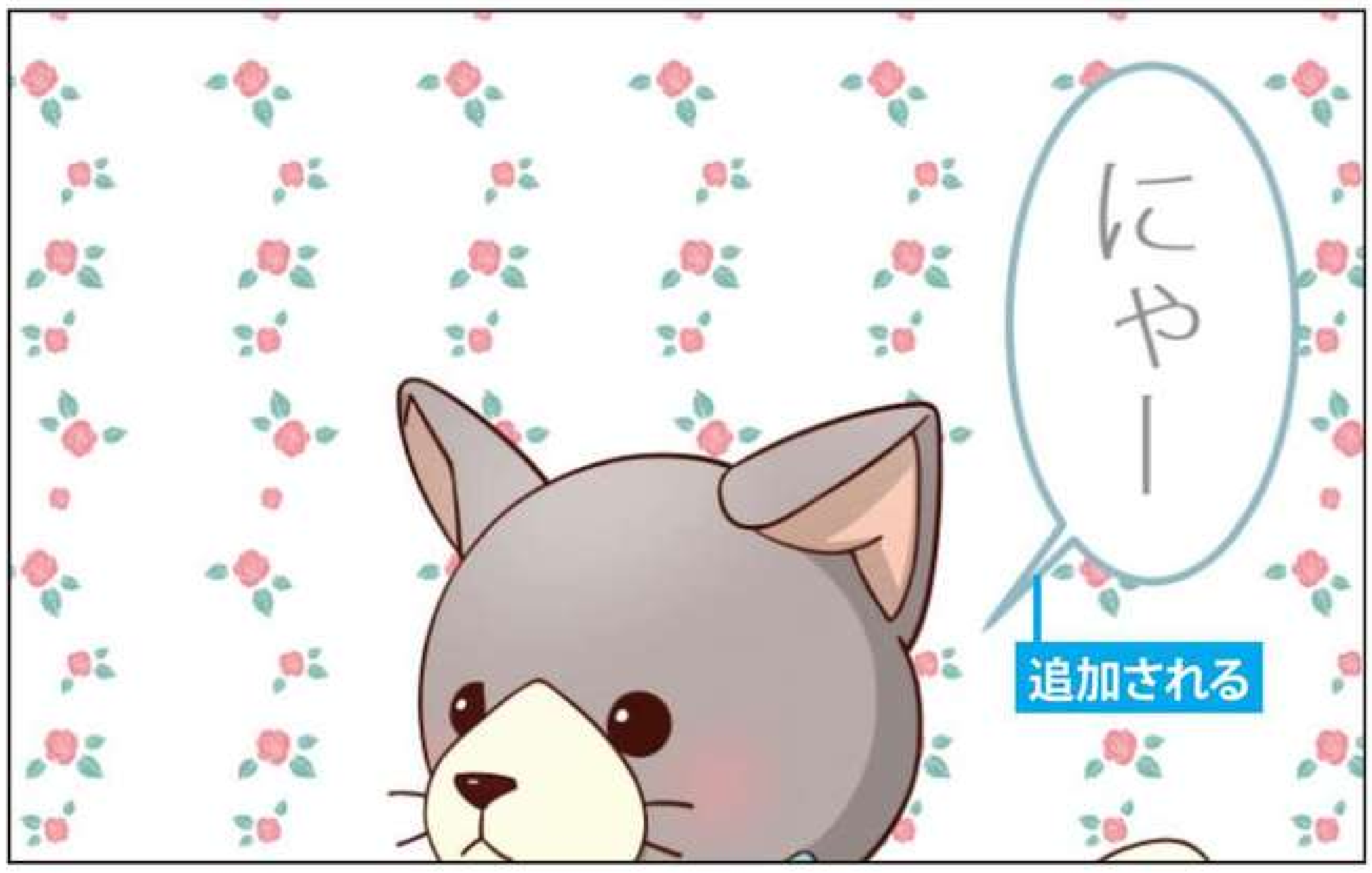
フキダシの楕円にしっぽをつけます。
[フキダシ]ツールをクリックし、[サブツール]パレットの[テキスト]から[フキダシしっぽ]を選択します。
[ツールプロパティ]パレットでしっぽの形(曲げ方)、しっぽの幅を設定し、楕円の内側(始点)から示す方向にドラッグします。



Memo
[サブツール]パレットで[フキダシしっぽ]を選択すると、[ツール]パレットのアイコンの表示が[フキダシしっぽ]に変わります。

2

マウスカーソルをはなすと、楕円にしっぽが追加されます。



Memo
作成したフキダシと文字が1つのレイヤーになります。ただし、文字やフキダシのパーツはそれぞれ分かれているので、クリックして編集することができます。

3

フキダシの位置を調整します。
[ツール]パレットの[操作]ツールをクリックし、[サブツール]パレットから[オブジェクト]を選択します。
位置を調整できたら、完成です。



Chapter 4 - 04

レイヤーマスクで切り抜こう



Before 4-04.clip

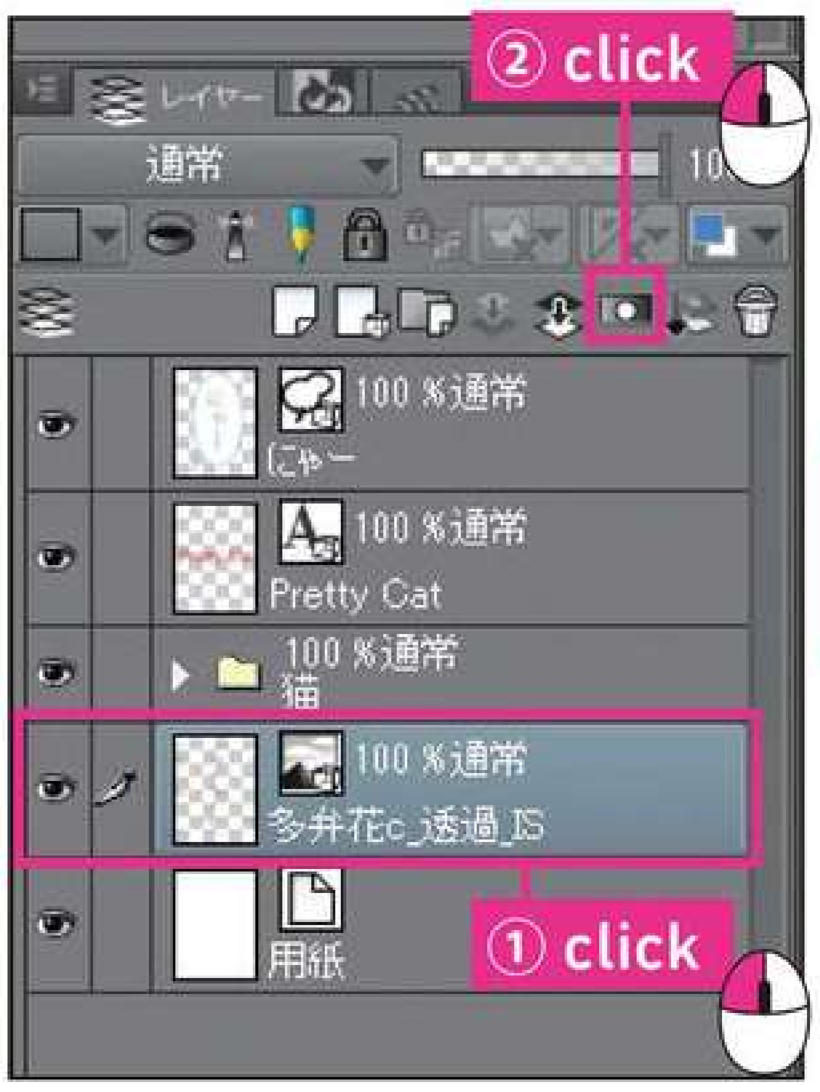


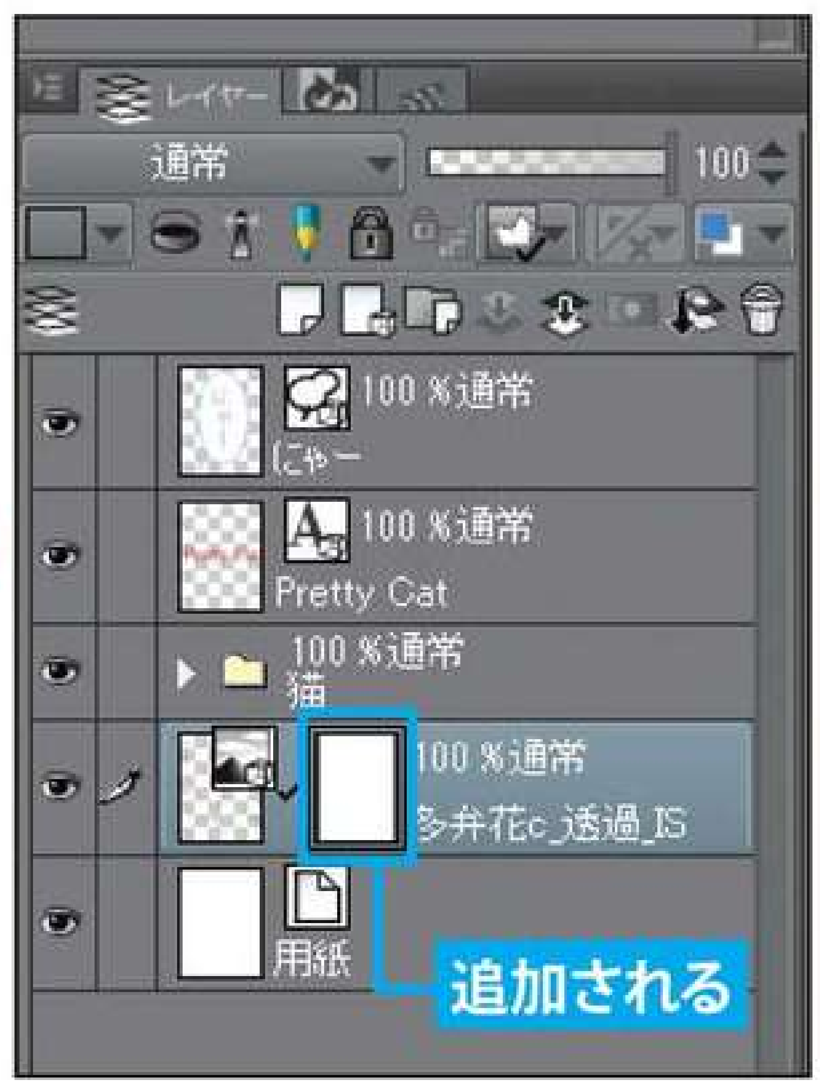
After 4-04a.clip

レイヤーマスクとは、レイヤー上の画像を一部非表示にして隠す（マスク）機能です。
レイヤーマスクを設定することによって、余計な部分を非表示にすることができます。

Step 01 レイヤーを選択する

文字の周りの花の素材をレイヤーマスクします。
［レイヤー］パレットでレイヤーマスクをしたい「多弁花c_透過_IS」レイヤーを選択し、［レイヤーマスクを作成］アイコンをクリックします。
「多弁花c_透過_IS」レイヤーにレイヤーマスクのアイコンが追加されます。





2

[ツール]パレットから[消しゴム]ツールをクリックし、[サブツール]パレットの[硬め]を選択します。
文字の周りをドラッグします。[消しゴム]ツールでドラッグした部分がマスクされ、非表示になります。



3

完成です。



Hint

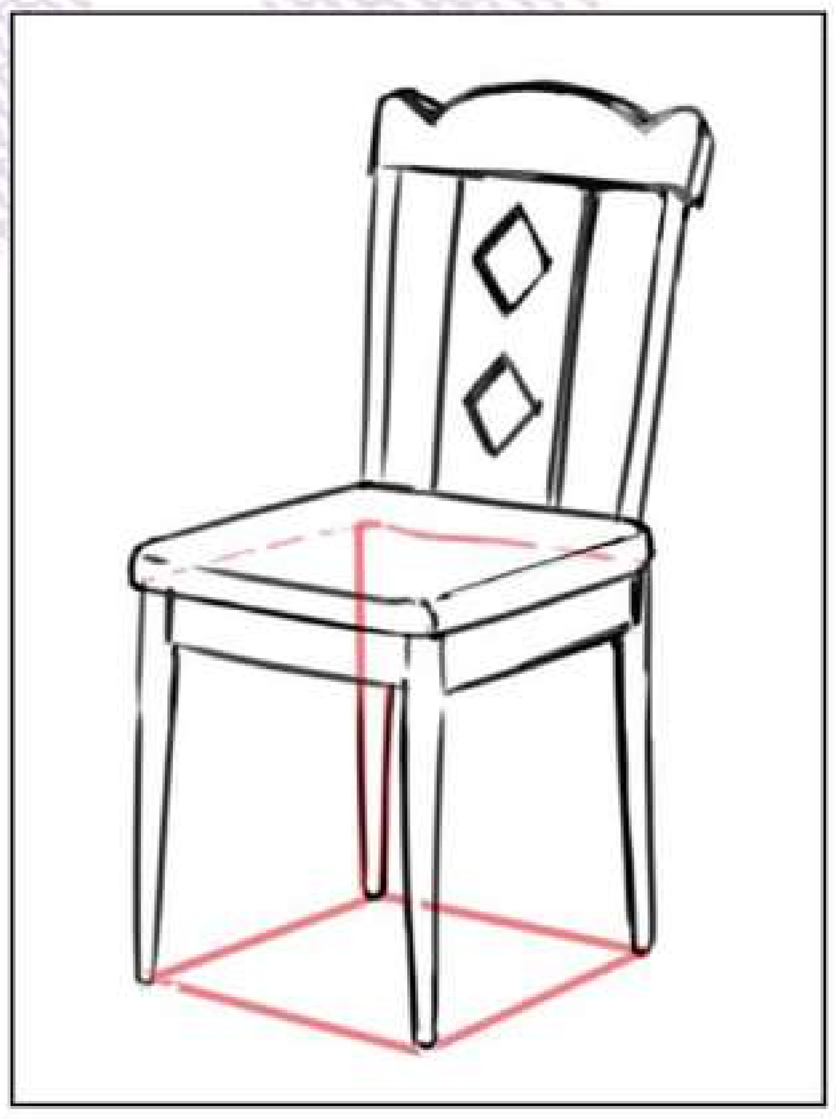
マスクで消した部分を再表示させる

[ペン]ツールや[鉛筆]ツールなどの描画ツールでドラッグすると、再び表示されます。

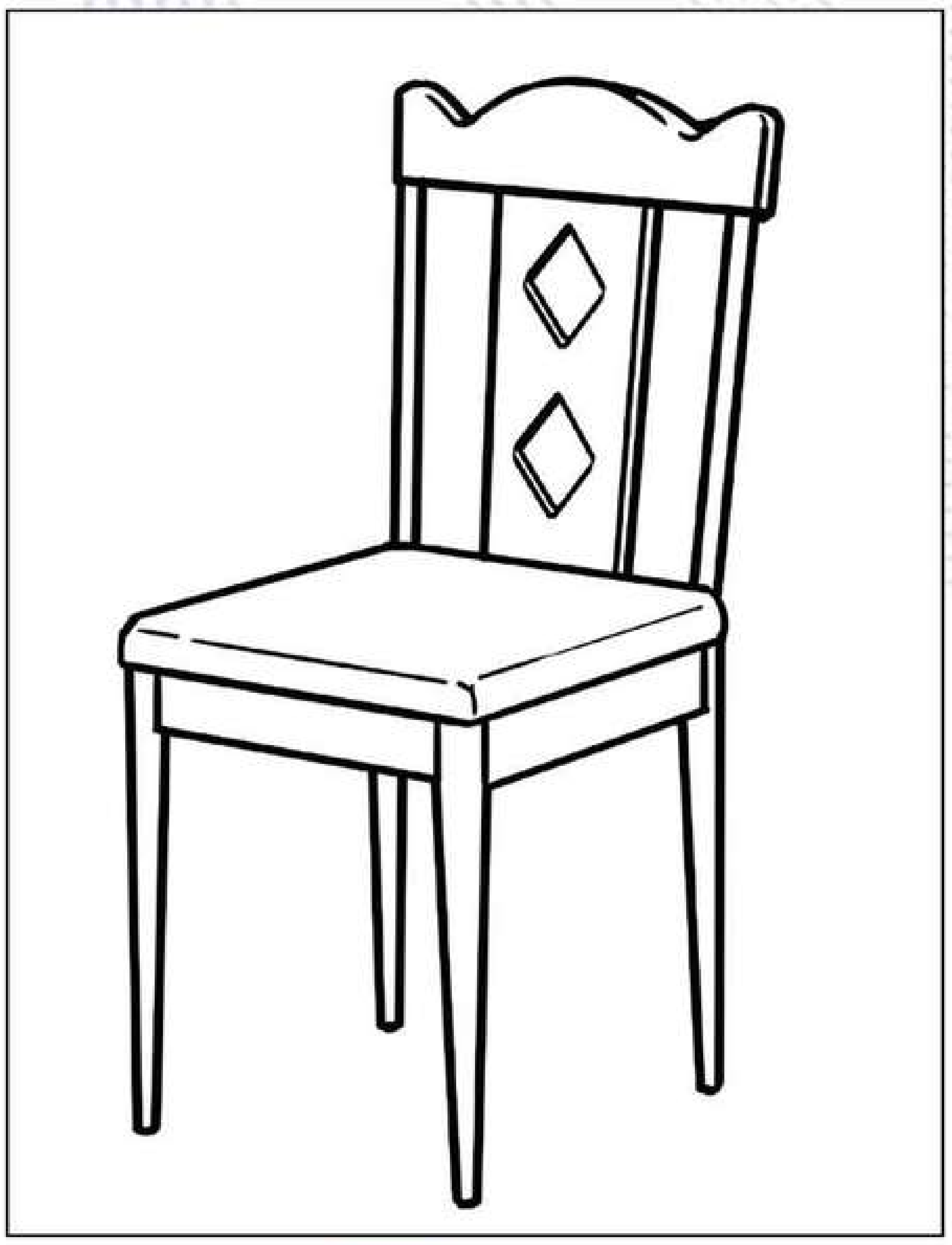


Chapter 4 - 05

パース定規を使って描こう



Before 4-05.clip



After 4-05a.clip

パース定規を使って二点透視図法のイラストを描いてみましょう。

Step 01 下絵を描く

新規キャンバスを用意します。
ラスターレイヤーを追加し、2つのレイヤーに名前を付けます（ここでは、「下絵」、「ガイド」レイヤー）。





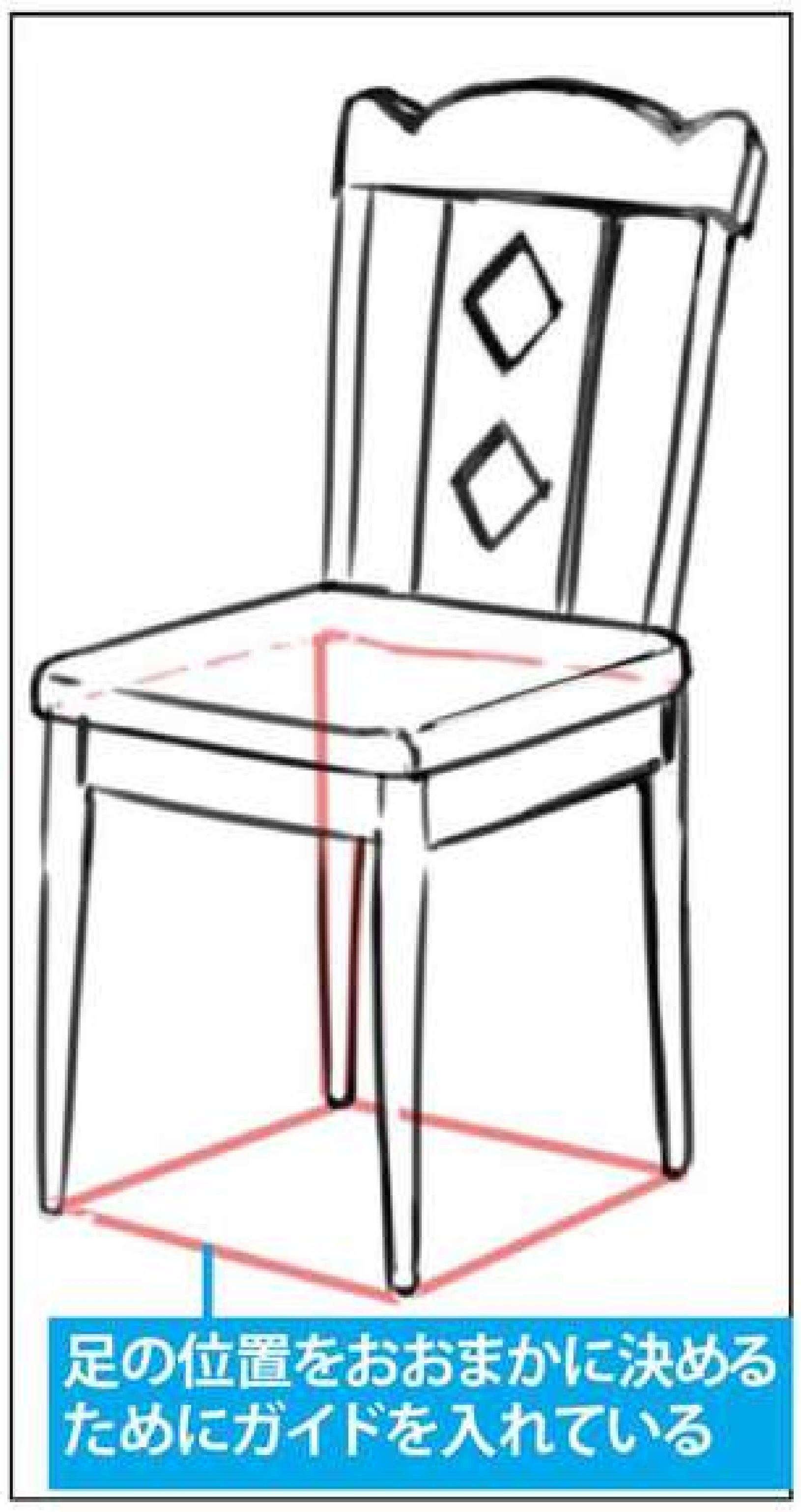
2

「下絵」レイヤーに大雑把に下絵を描きます。
ここでは[鉛筆]ツールの[薄い鉛筆]を使っています。
「ガイド」レイヤーに赤でアタリも描いておきます。

Memo

下絵とガイドを用意できない場合は、「4-05.clip」ファイルを使用しましょう（ファイルについてはp.5参照）。



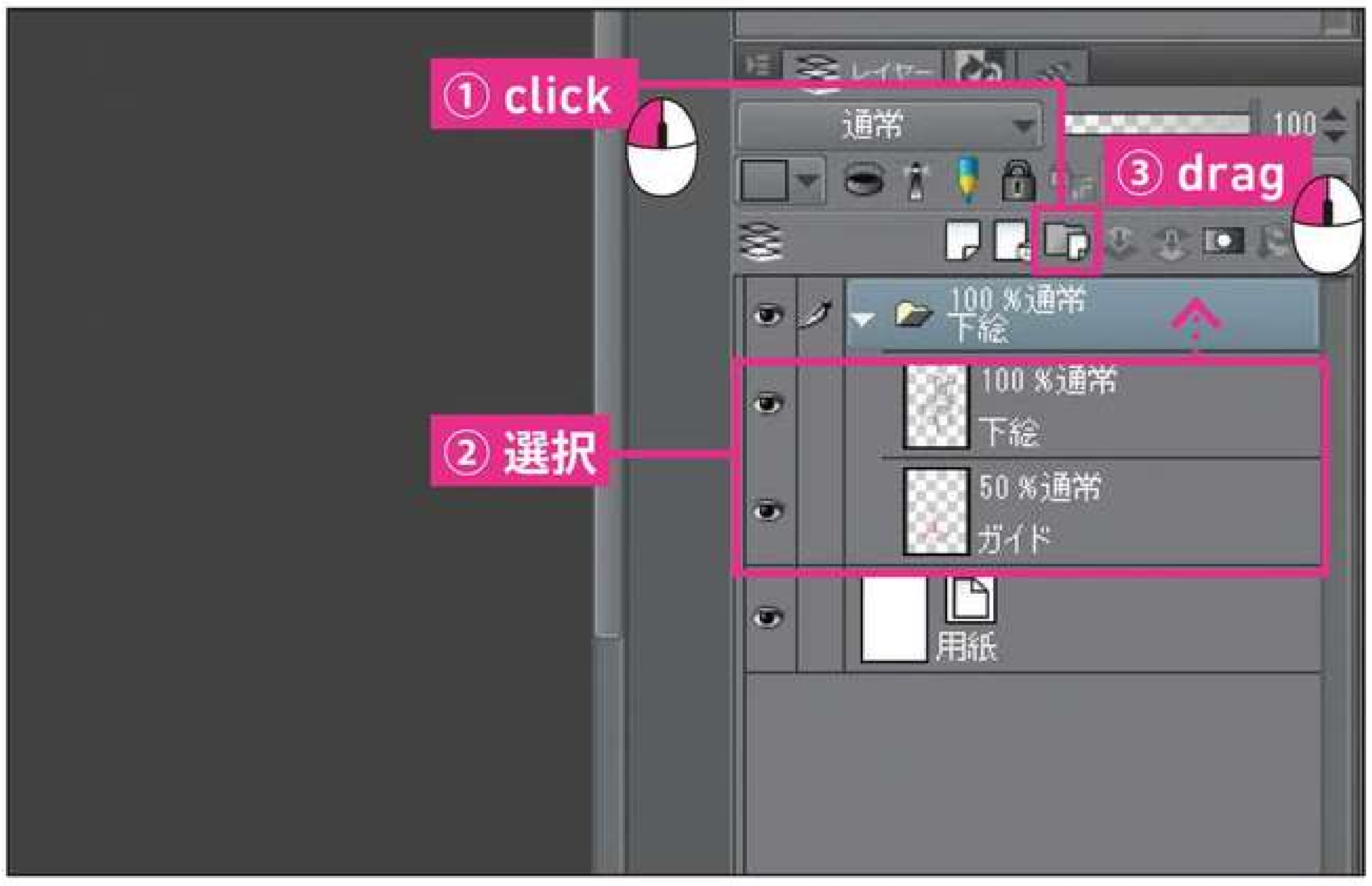


3

「下絵」と「ガイド」レイヤーをレイヤーフォルダー（「下絵」レイヤーフォルダー）を作成してまとめます。

Memo

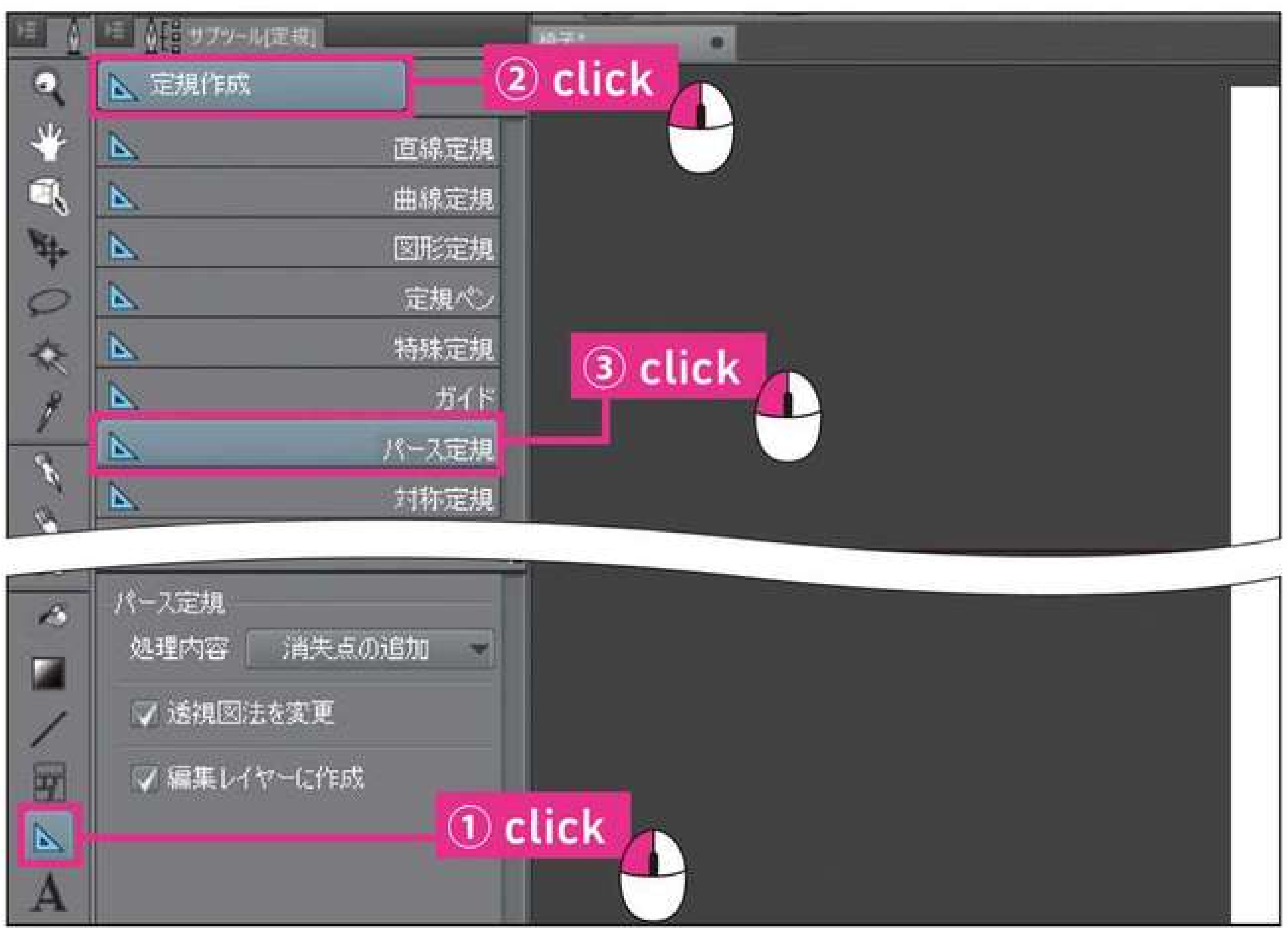
Shift キーもしくは Ctrl（command）キーを押しながらクリックすると、複数のレイヤーを選択できます。



Step 02 パース定規を表示する

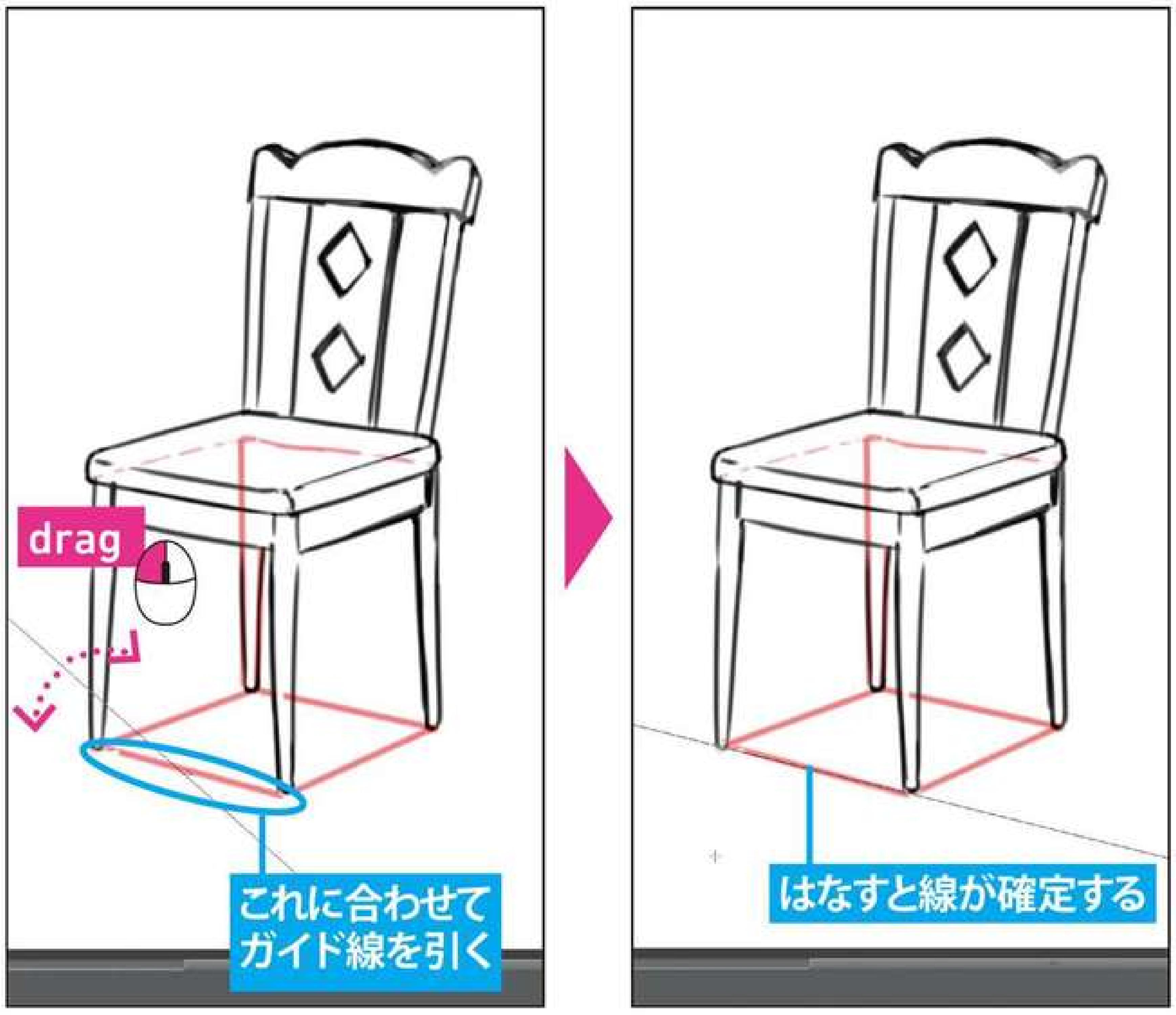
1

二点透視図法の定規を設定します。
[ツール]パレットから[定規]ツールをクリックし、[サブツール]パレットから[定規作成]の[パース定規]を選択します。



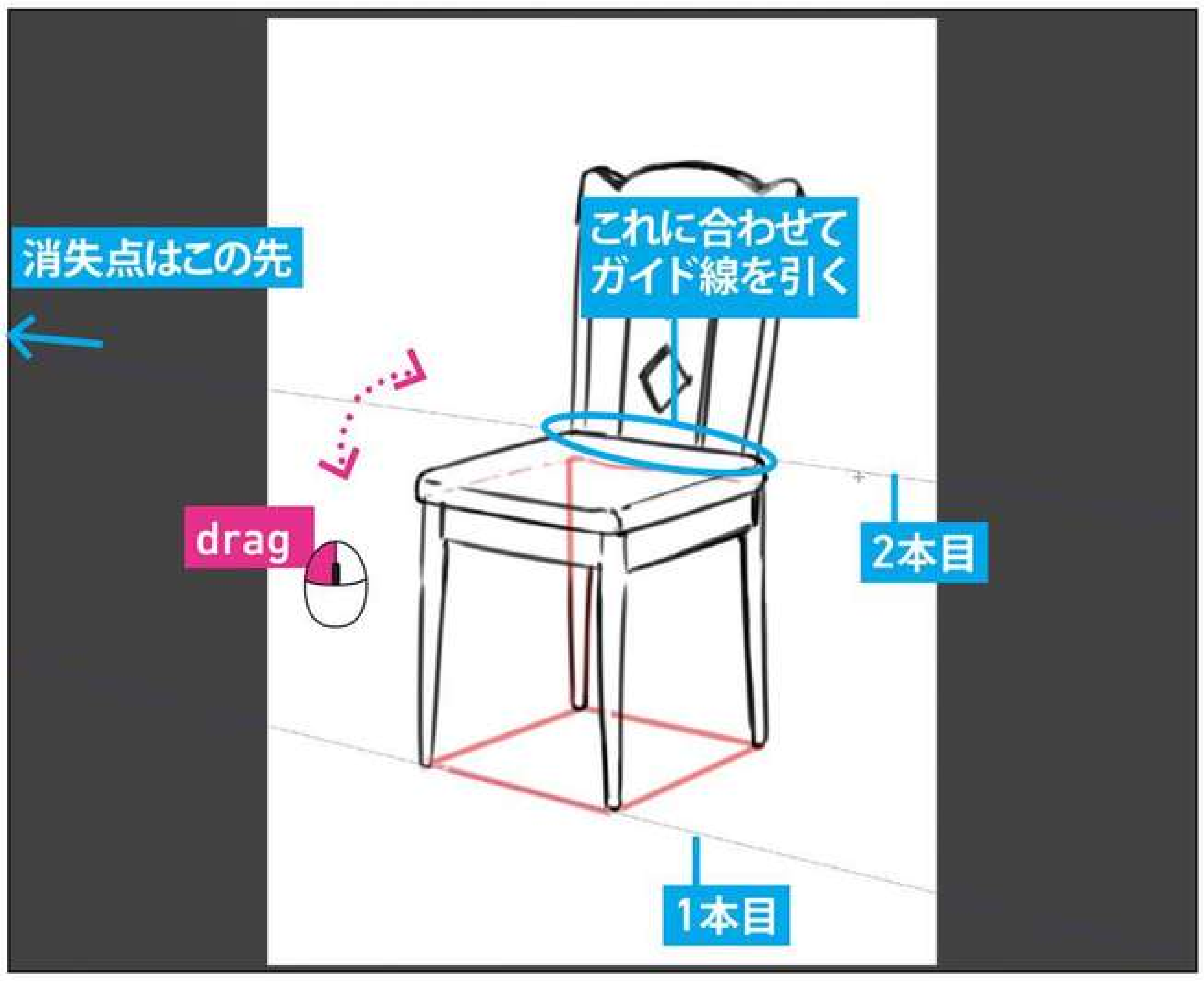
2

キャンバスウィンドウをドラッグするとガイド線が表示されるので、下絵にあわせて2本線を引きます。交わるところが消失点となります。
ドラッグで線を回転させることができ、はなすと確定します。



3

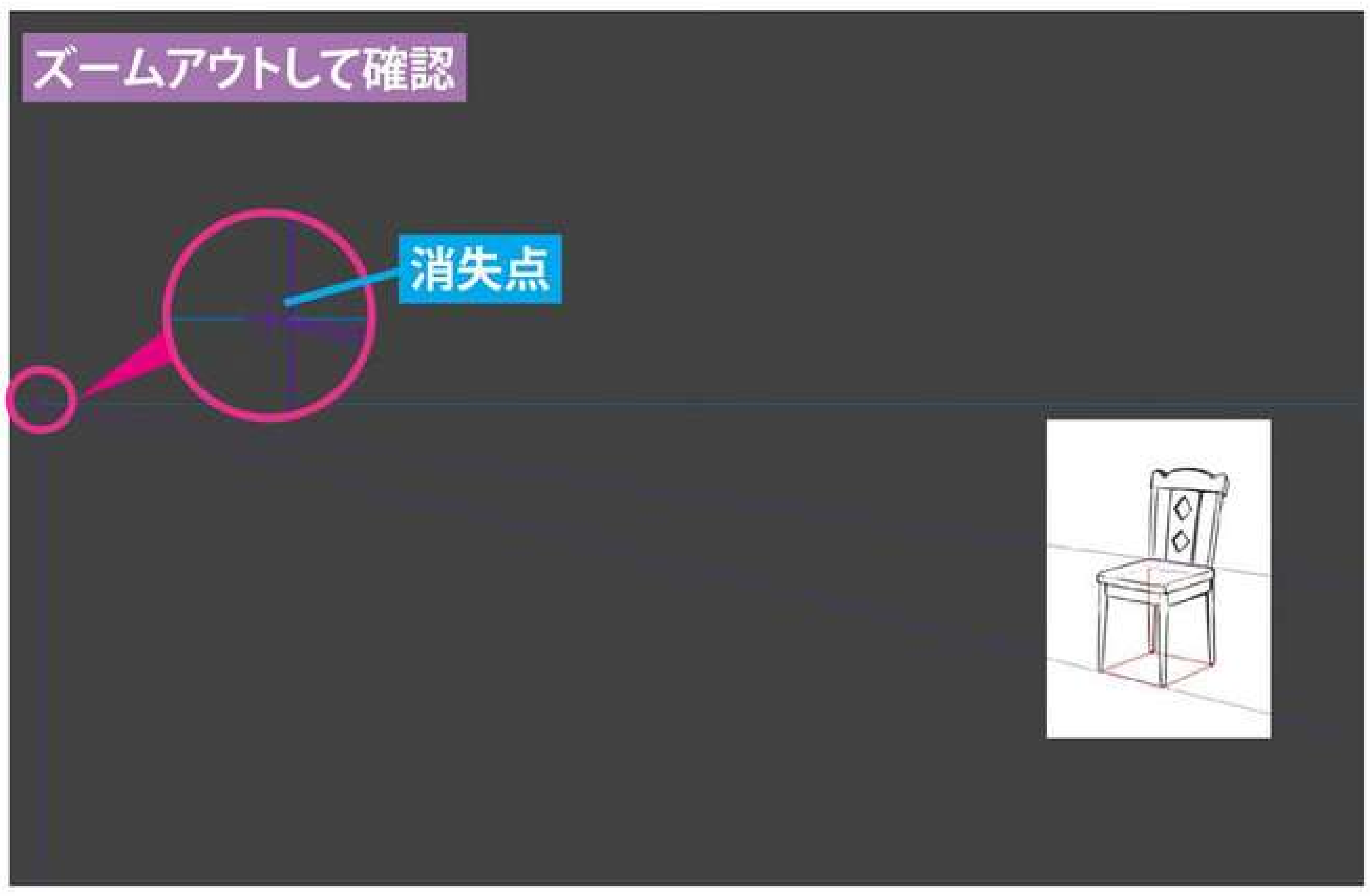
2本目も同様にしてガイド線を引きます。



Hint

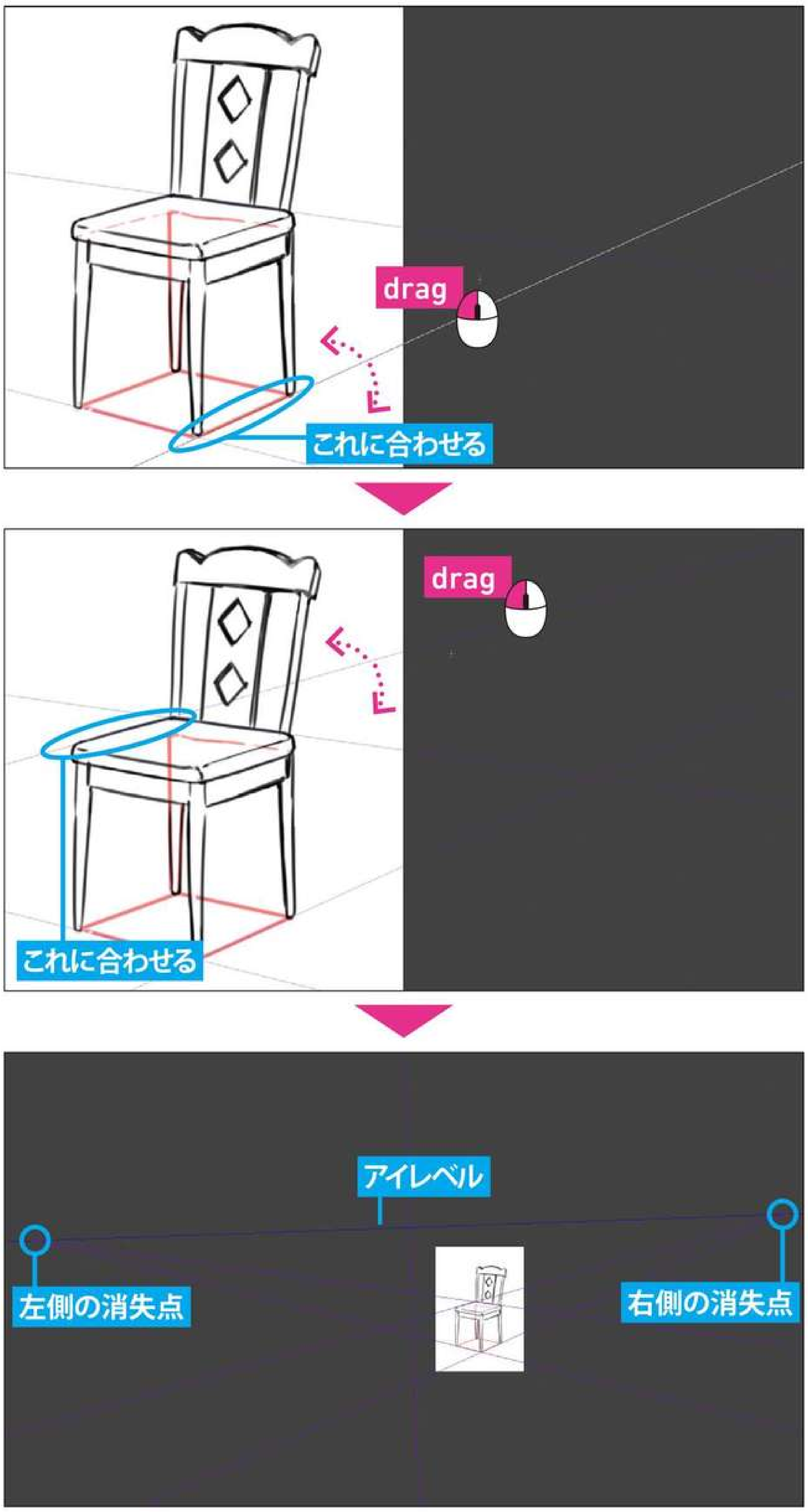
左側の消失点

キャンバス外にありますが、ズームアウトすると確認できます。



4

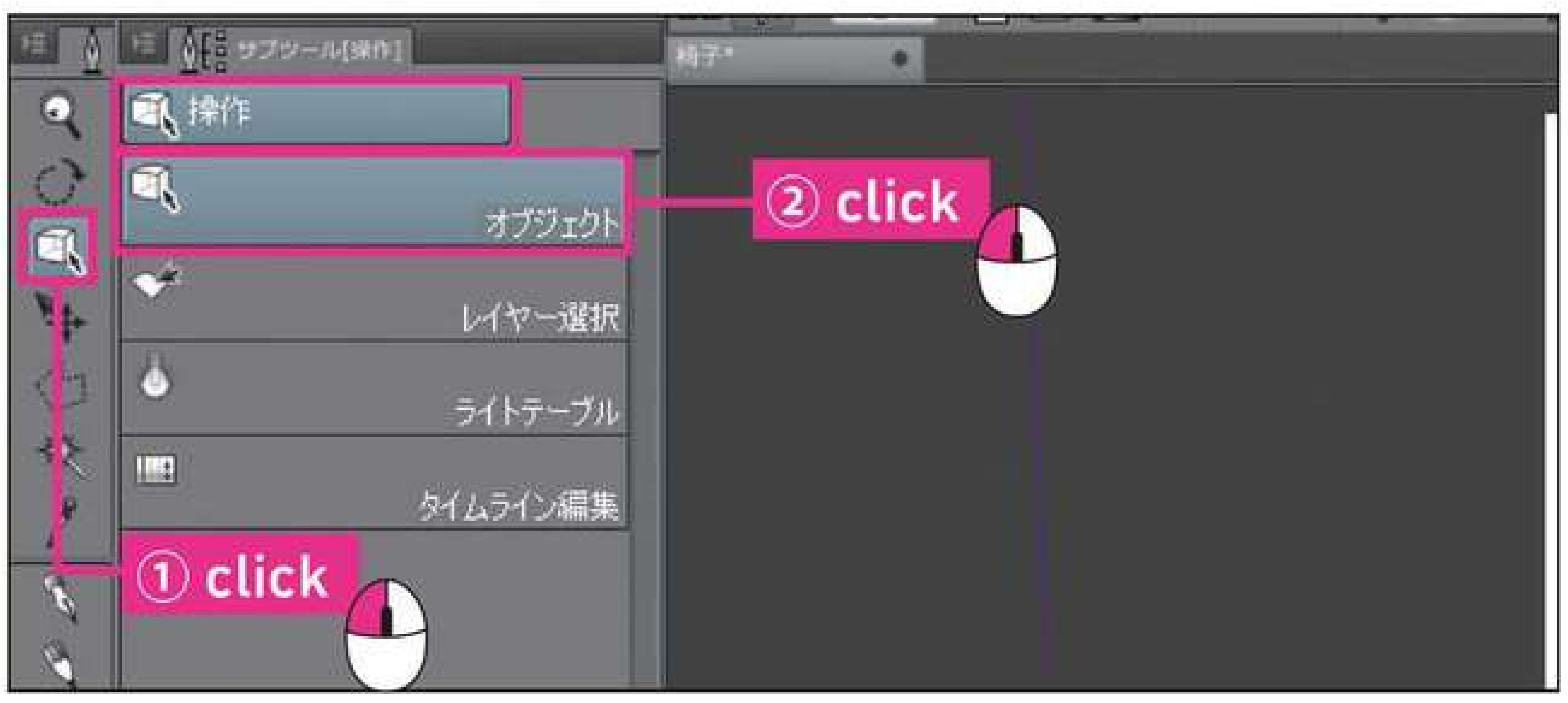
同様にして右側の消失点を決めます。



Step 03 パース定規を調整する

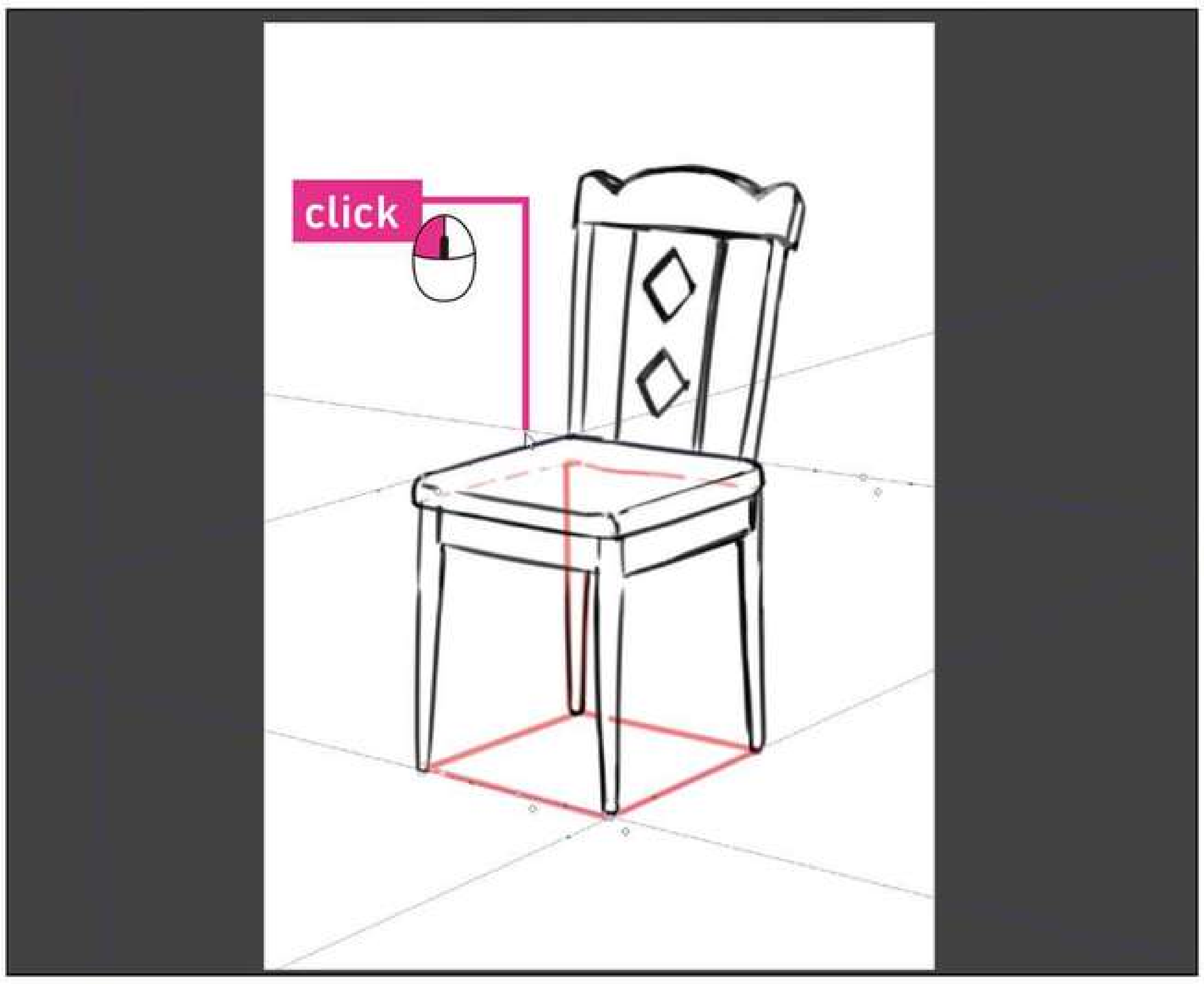
1

［ツール］パレットから［操作］ツールをクリックし、［サブツール］パレットから［オブジェクト］を選択します。



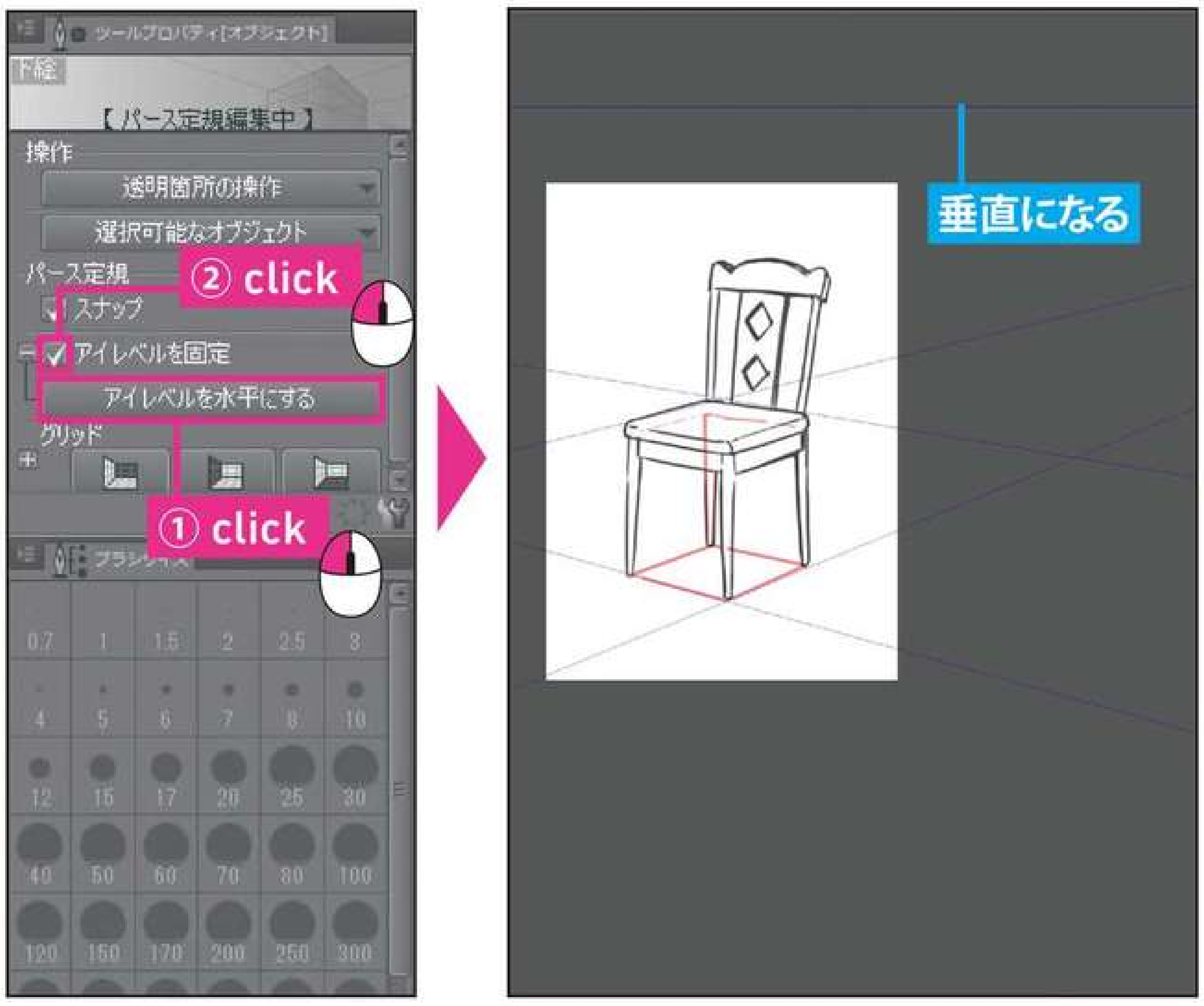
2

画面上のパース定規をクリックして選択します。



3

[ツールプロパティ]パレットの[アイレベルを水平にする]をクリックし、傾いていたアイレベルを水平にします。また、[アイレベルを固定]にチェックを入れます。

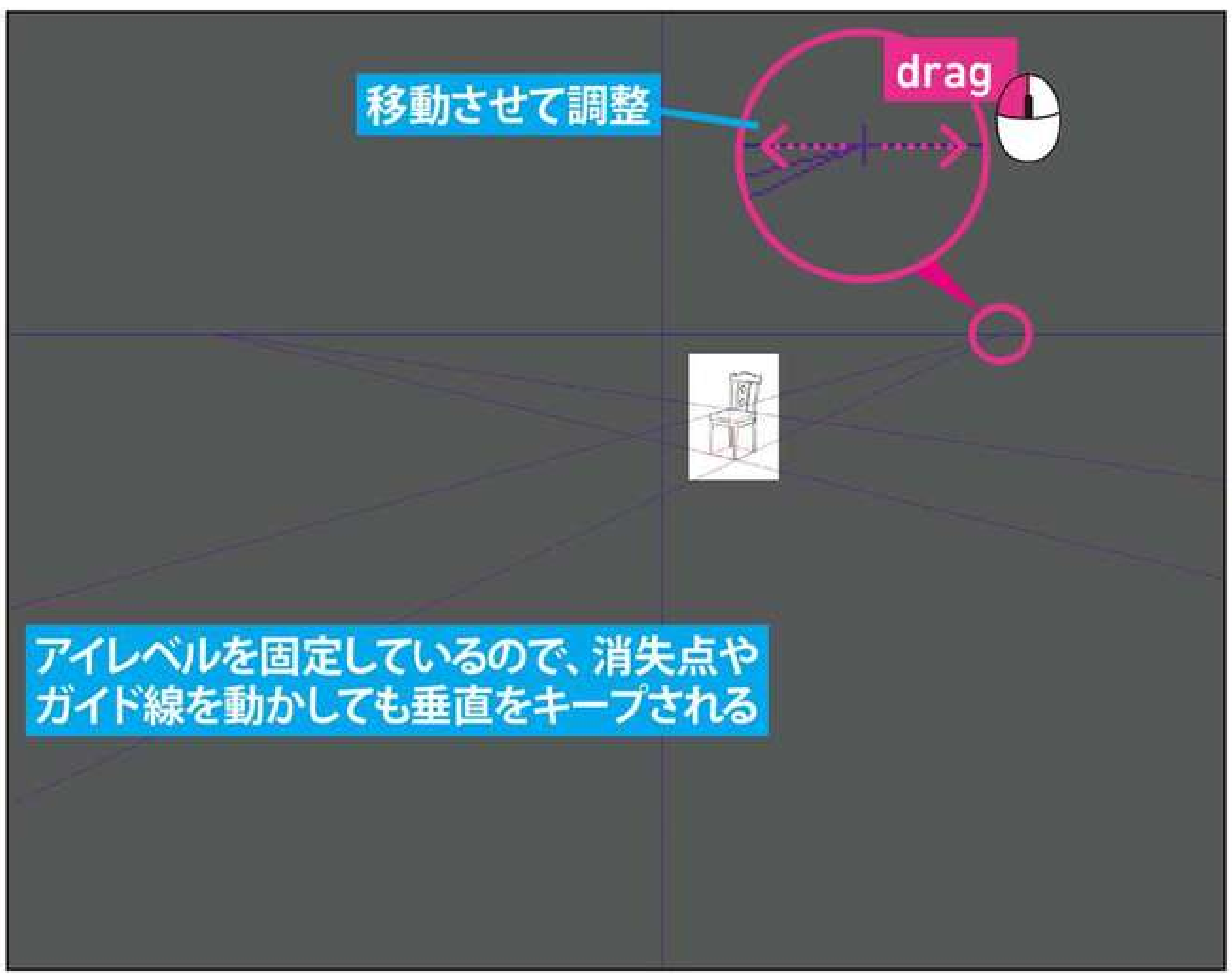


Memo

[アイレベルを固定]は、次の操作で再びアイレベルが傾いてしまうのを防ぐためにチェックします。

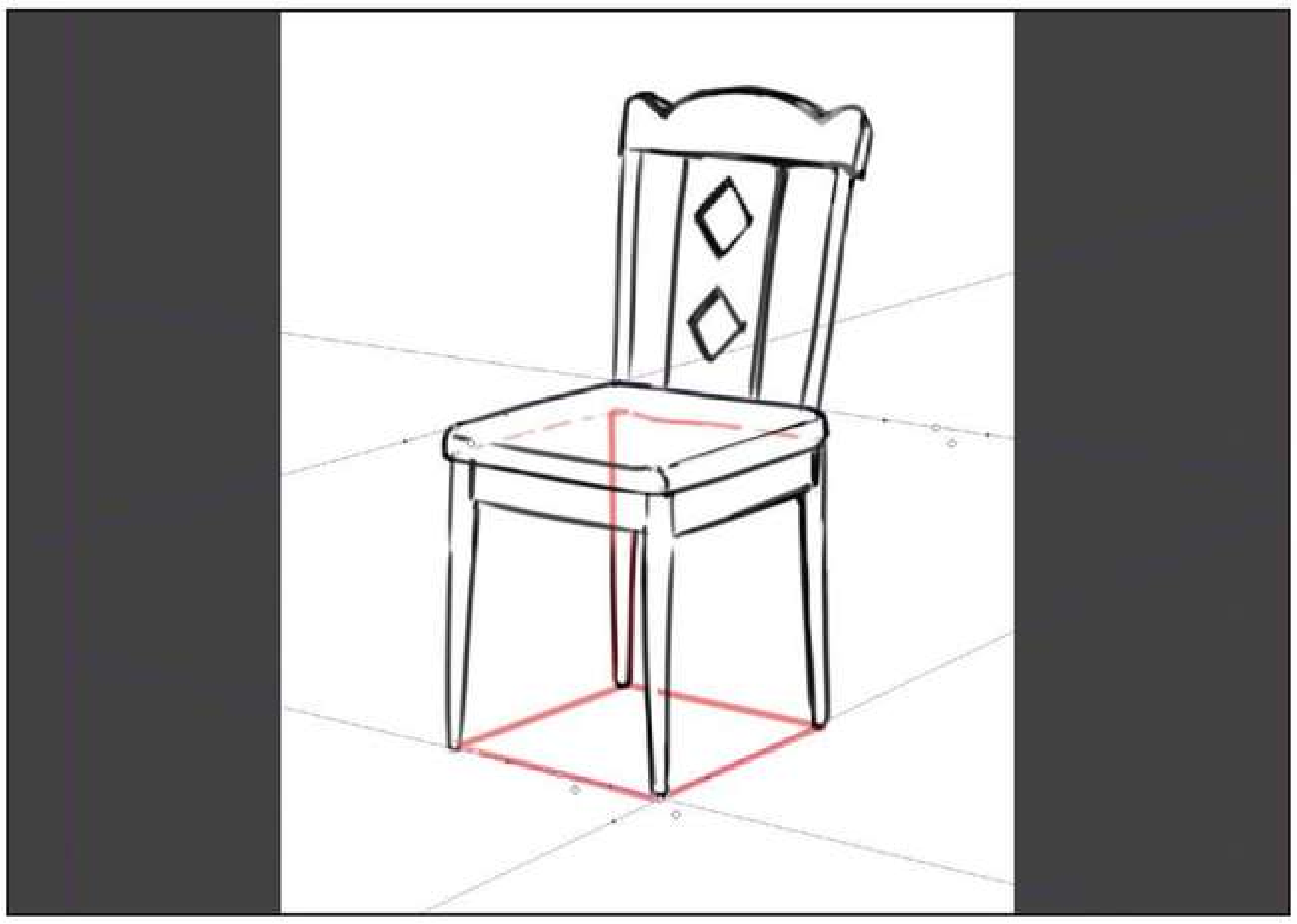
4

ガイドを動かして消失点の位置を決めます。



5

パース定規が設定ができました。

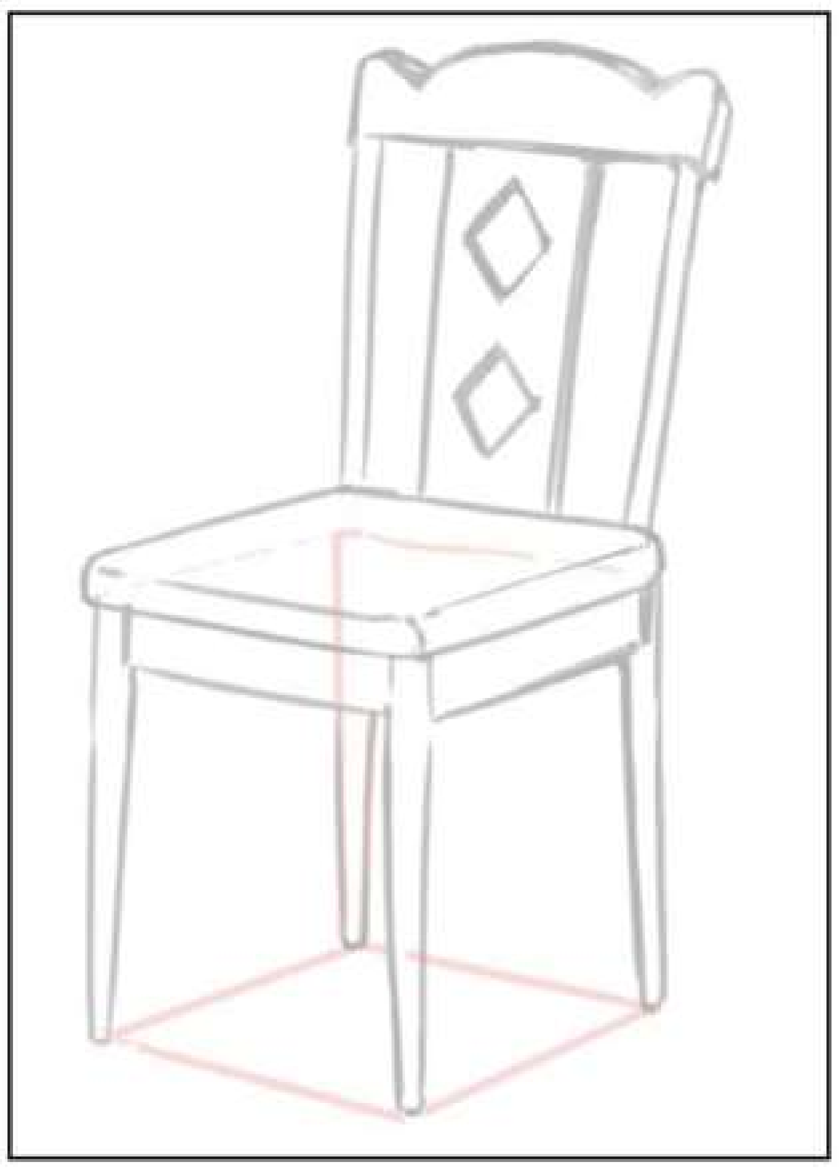


Step 04 アタリを描く

1

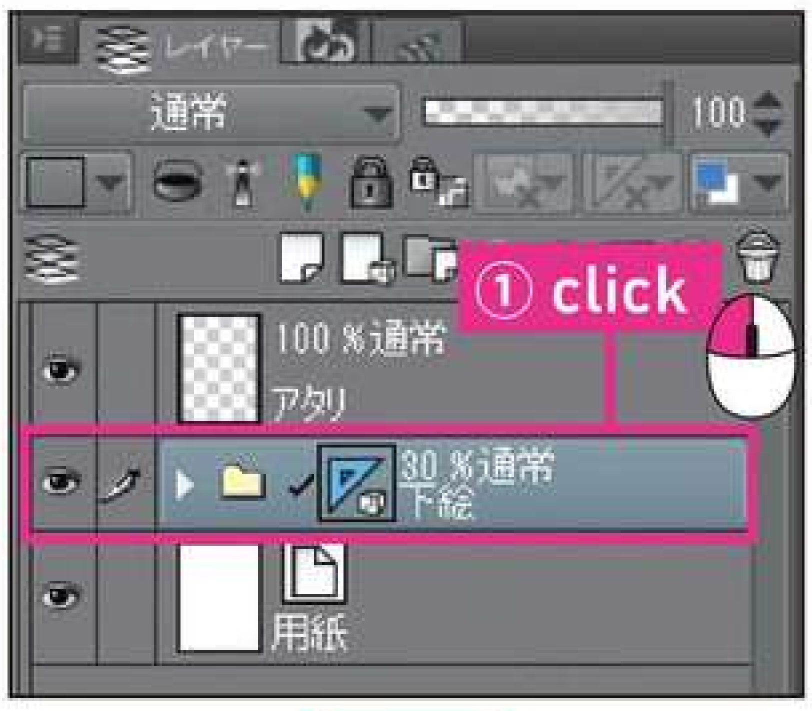
アタリ用のラスターレイヤーを用意し（レイヤー名「アタリ」）、「下絵」レイヤーフォルダーの不透明度を低くします。





2

「下絵」レイヤーフォルダーを選択します。［レイヤー］パレットの［定規の表示範囲を設定］をクリックし、［すべてのレイヤーで表示］にチェックを入れます。
この設定をすることで、定規を作成したレイヤー以外でもパース定規が表示されるようになります。

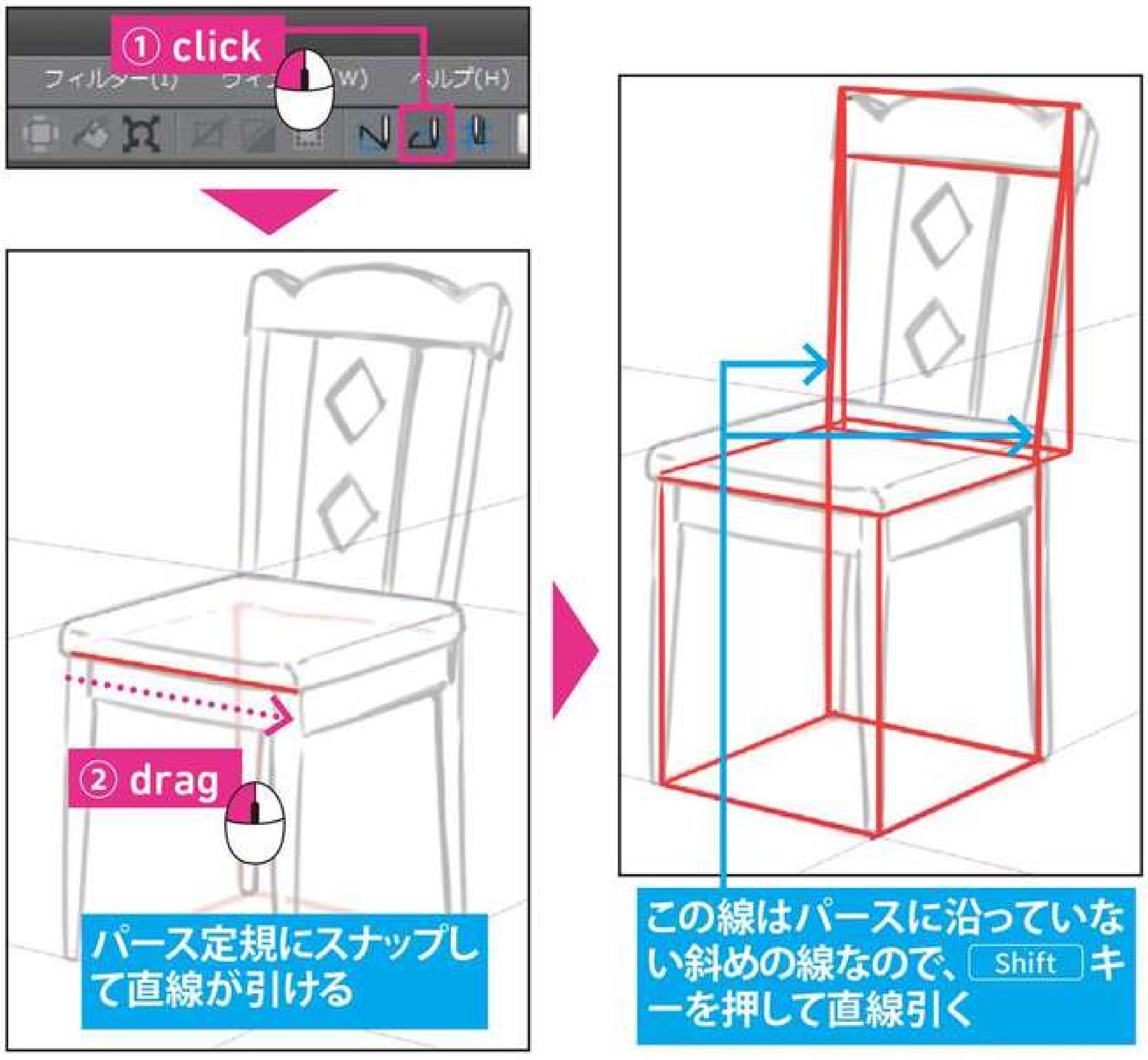






3

コマンドバーの［特殊定規にスナップ］にチェックを入れます。
「アタリ」レイヤーにアタリを描いていきます。



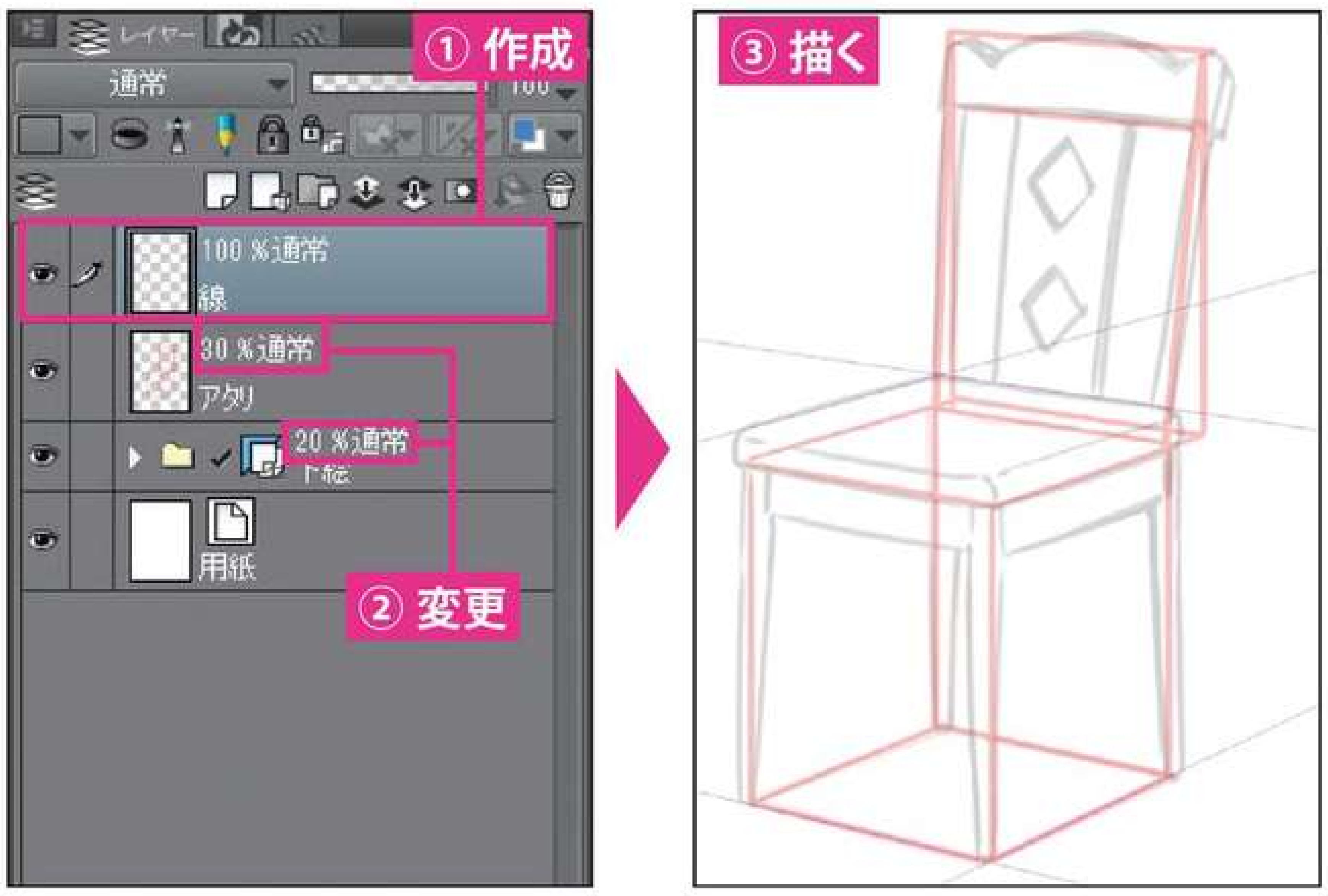
Memo

スナップすると定規に沿って描画することができます。

Step 05 線を描く

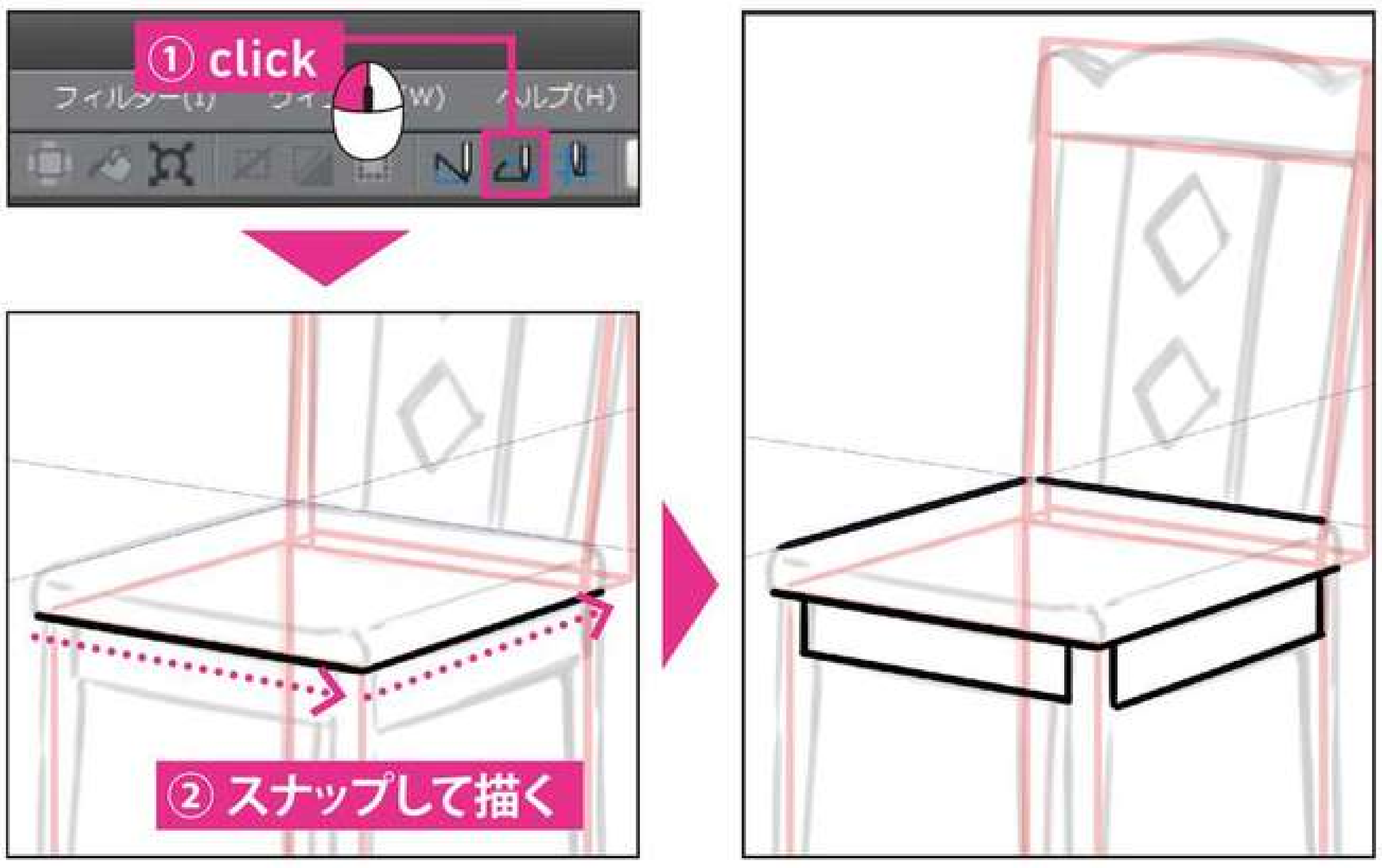
1

線を描くラスターレイヤーを用意します。下絵とアタリのどちらも薄く見えるように不透明度を調整します。
ここではレイヤー名を「線」にし、下絵の不透明度を「20％」、「アタリ」レイヤーを「30％」にしました。



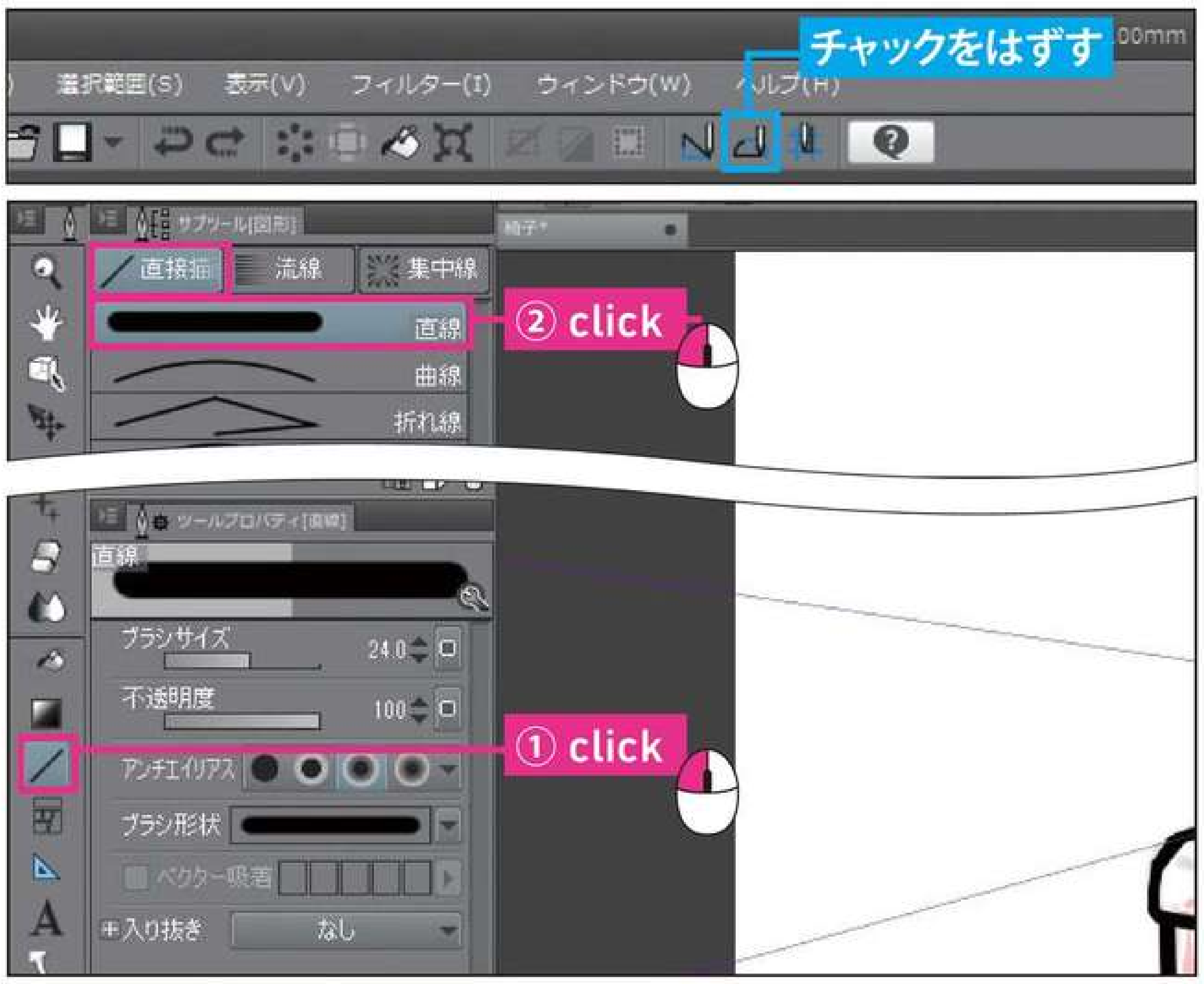
2

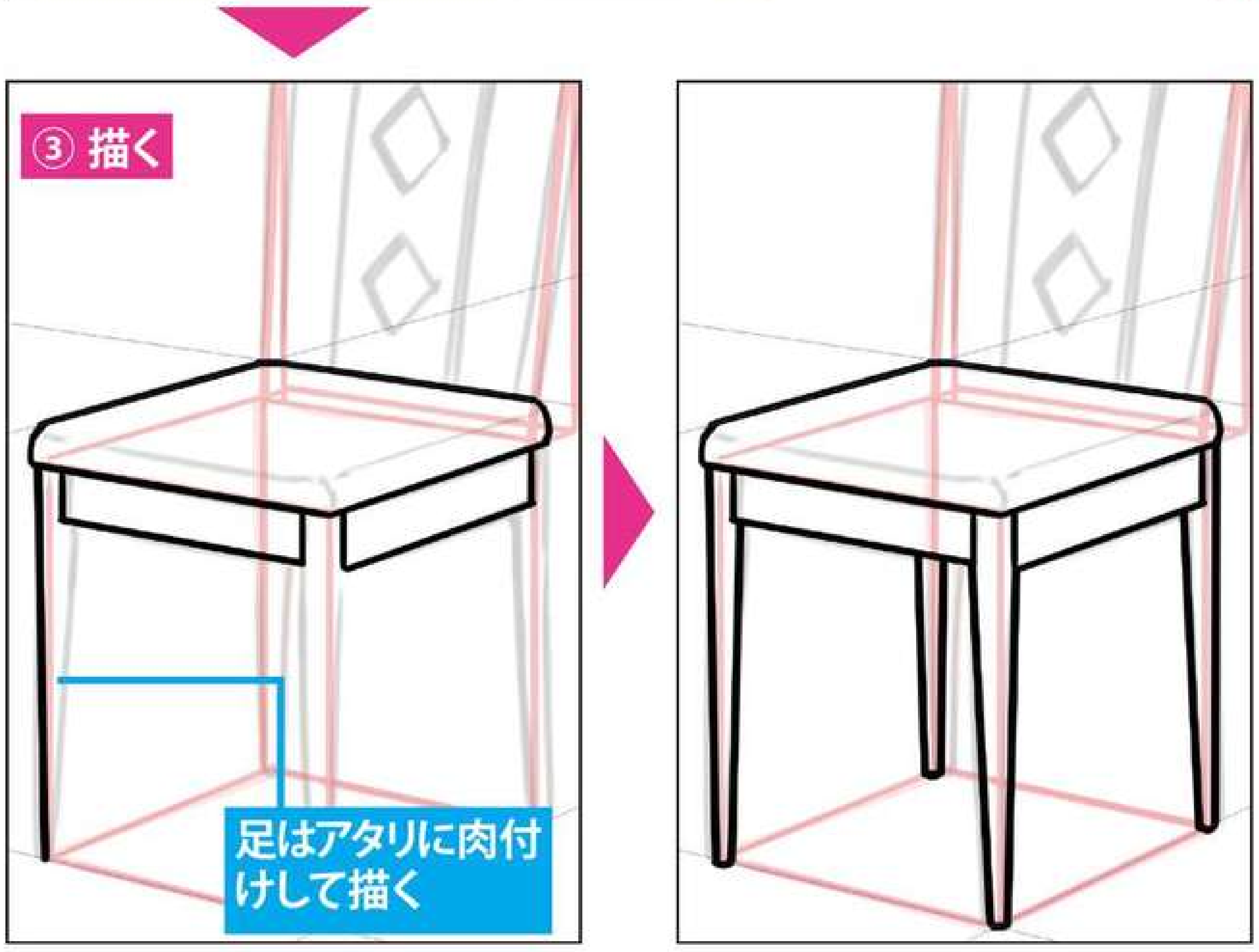
コマンドバーの［特殊定規にスナップ］にチェックを入れ、パース定規に沿っている部分を先に描いていきます。



3

[特殊定規にスナップ]のチェックを外し、パース定規に沿っていない部分を描いていきます。
足の部分は[図形]ツールの[直線]を使っています。



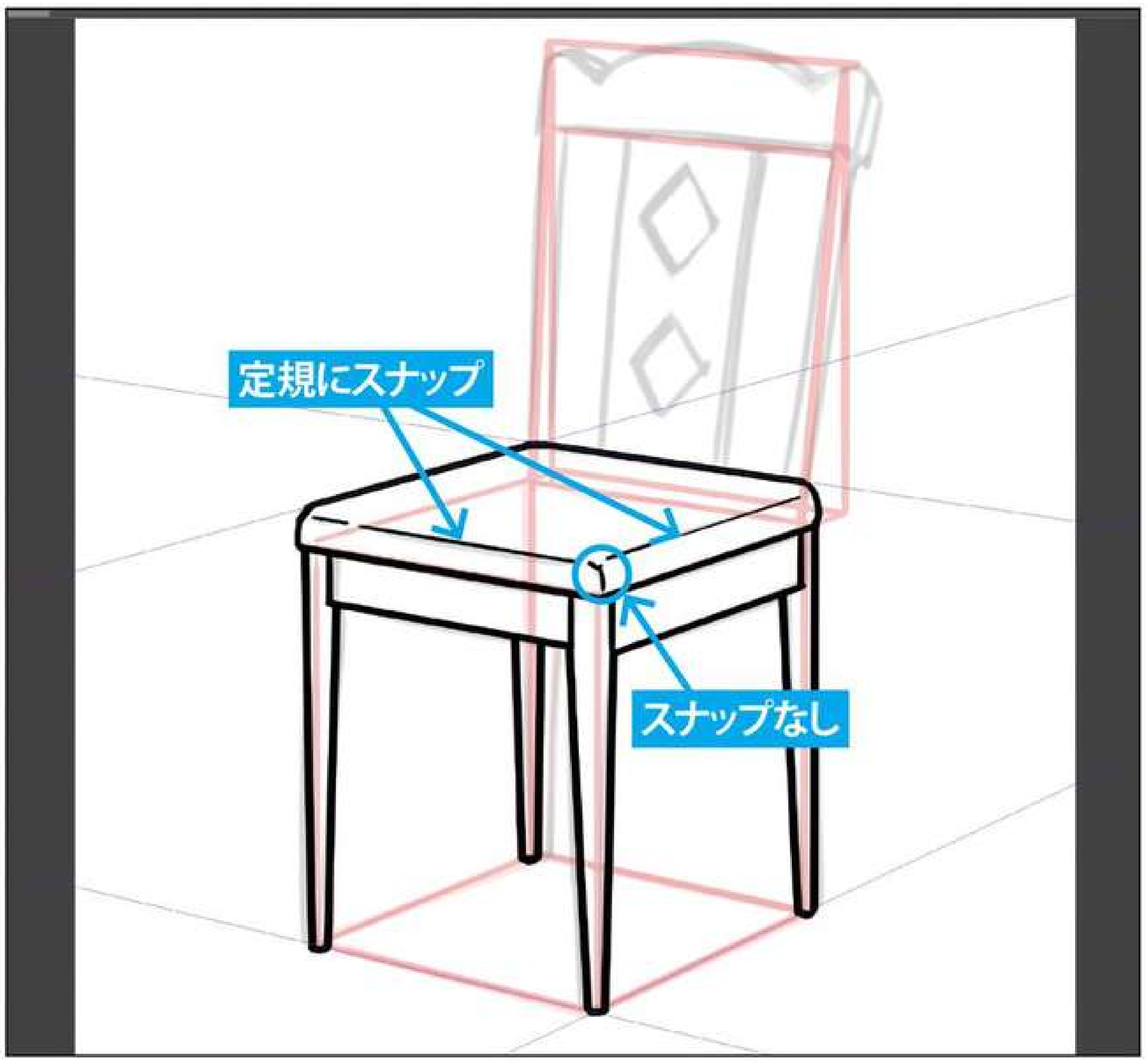


Memo

パース定規の各名称はp.98の**Column**を参照しましょう。

4

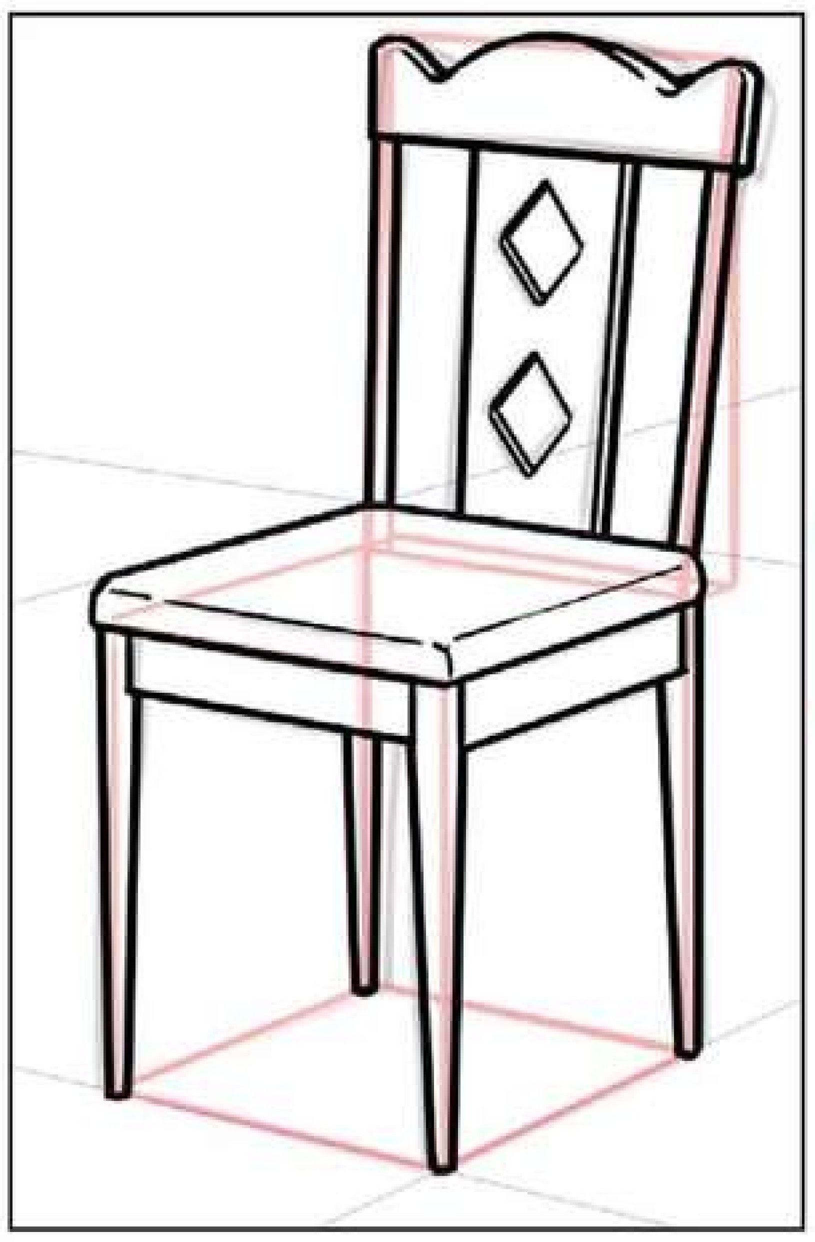
座面部分の細い線も手順2、3と同様にして描きました。



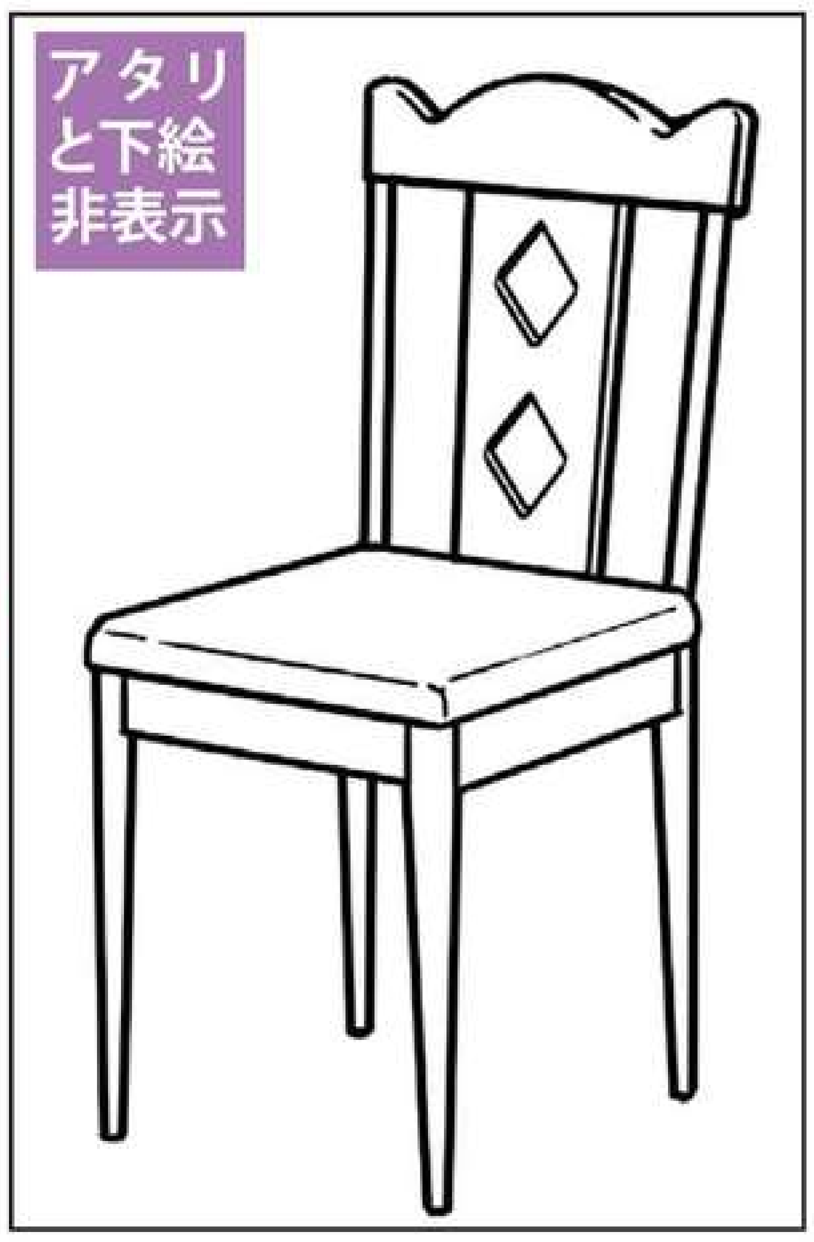
5

背もたれ部分をパースに沿ったアタリと下絵を参考にしながら描いて完成です。

① 直線部分→[直線]ツール
その他→[ペン]ツール[Gペン]



② アタリと下絵を参考に描いていく



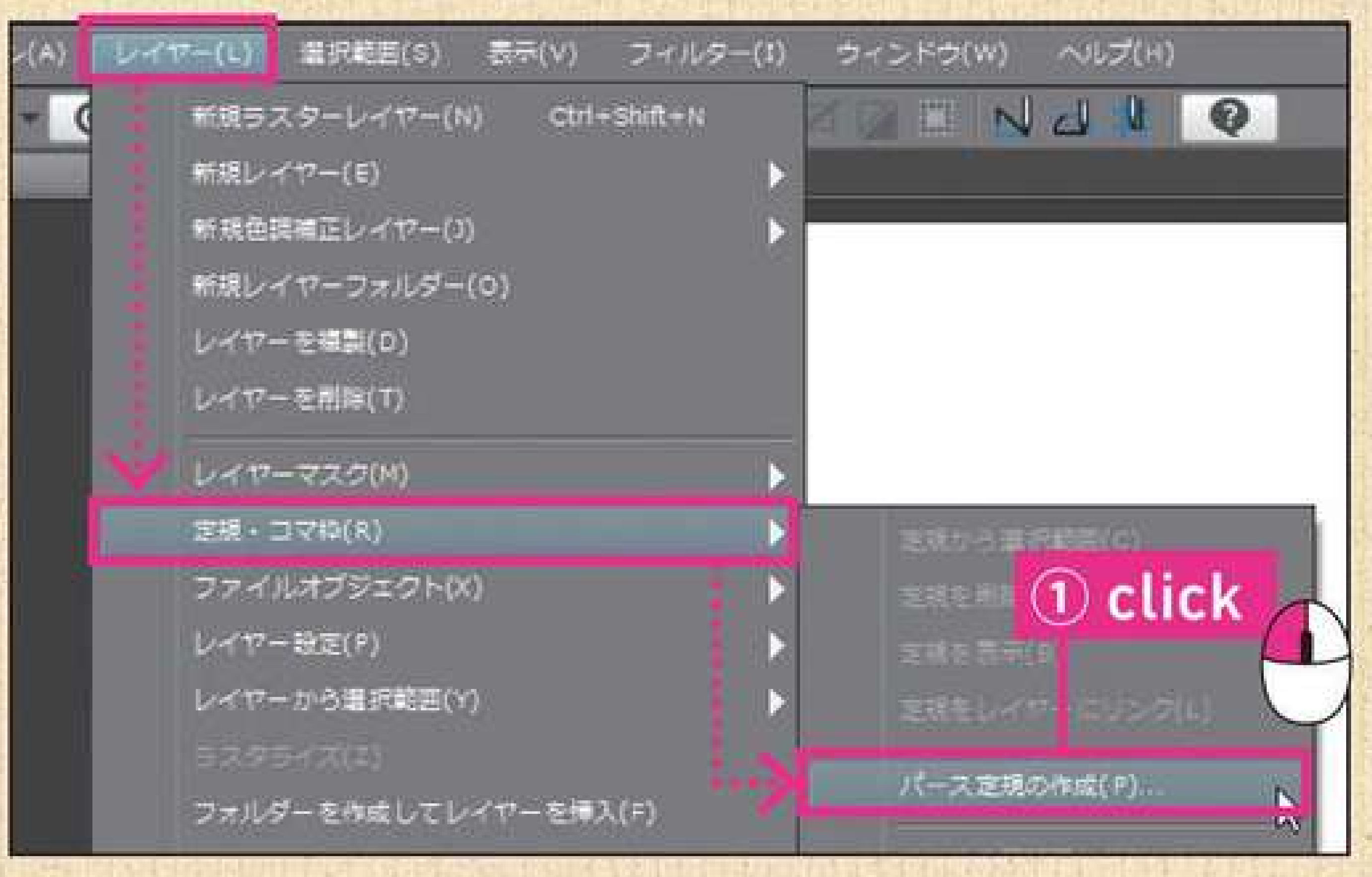
Memo

難しいようなら線画の前に一度下描きをすると良いかもしれません。

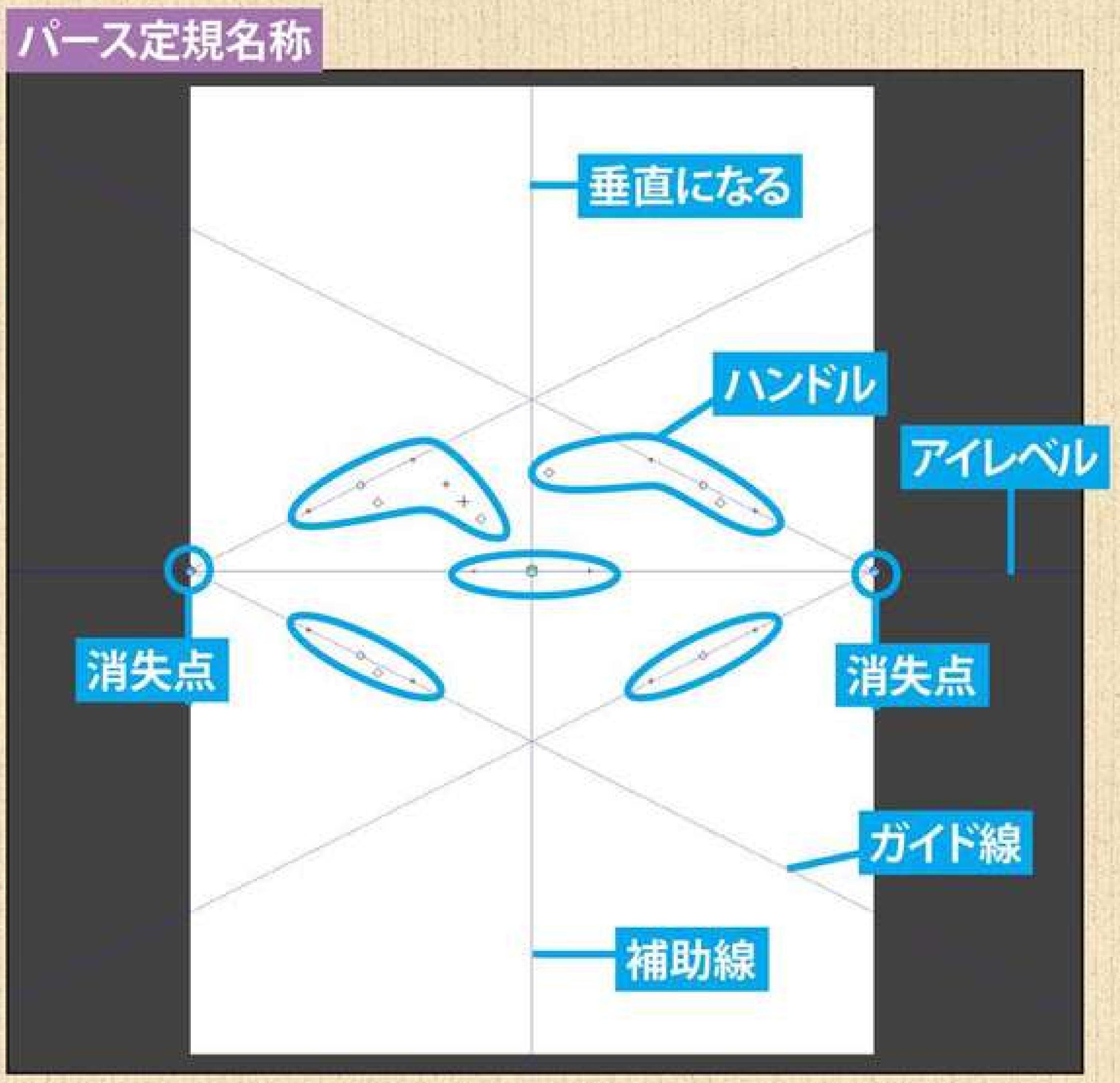
Column

透視図法を選択してパース定規を作成する

下絵などがない場合は、[レイヤー]メニュー→[定規・コマ枠]→[パース定規の作成]の順にクリックし、表示されたダイアログで透視図法のタイプを選んでパース定規を表示します。







透視図法の使い分け

1点透視
正面からみた構図のときに使用。

2点透視
物を斜めから見た構図に使用。

3点透視
大きなものを見上げるような構図(アオリ)、上から見下ろす構図(俯瞰)に使用。

Chapter5

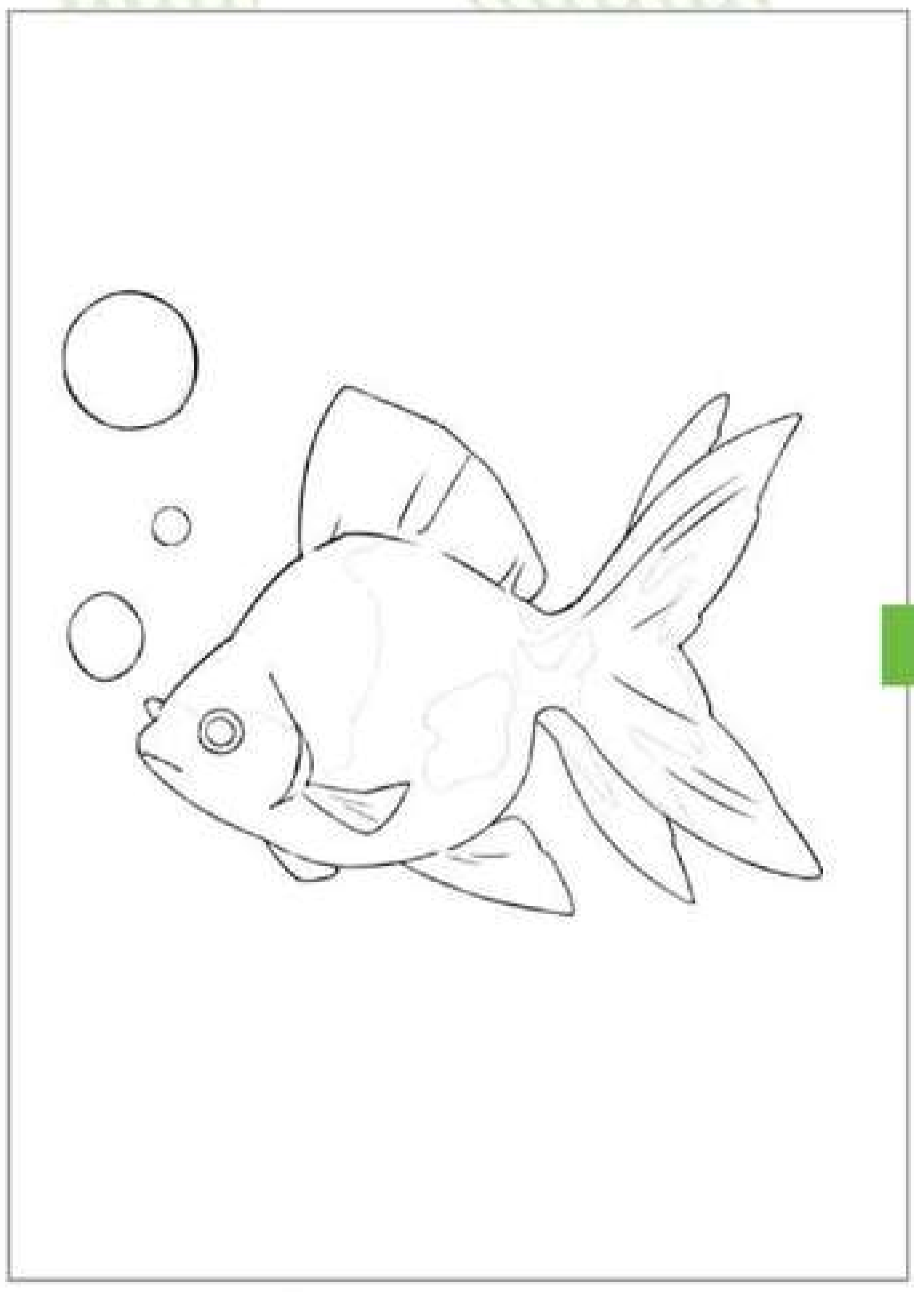
さまざまなタッチで描いてみよう

Chapter5では、ブラシを使い分けながら、「アニメ風」「水彩風」
「色鉛筆風」「油彩風」の4つのタッチ別にイラストを描いてみましょう。
本書の通りにしなくてもかまわないので、参考にしながら
思い通りに描いてみましょう。
また、カバーイラストの女の子を描く工程についても解説しています。

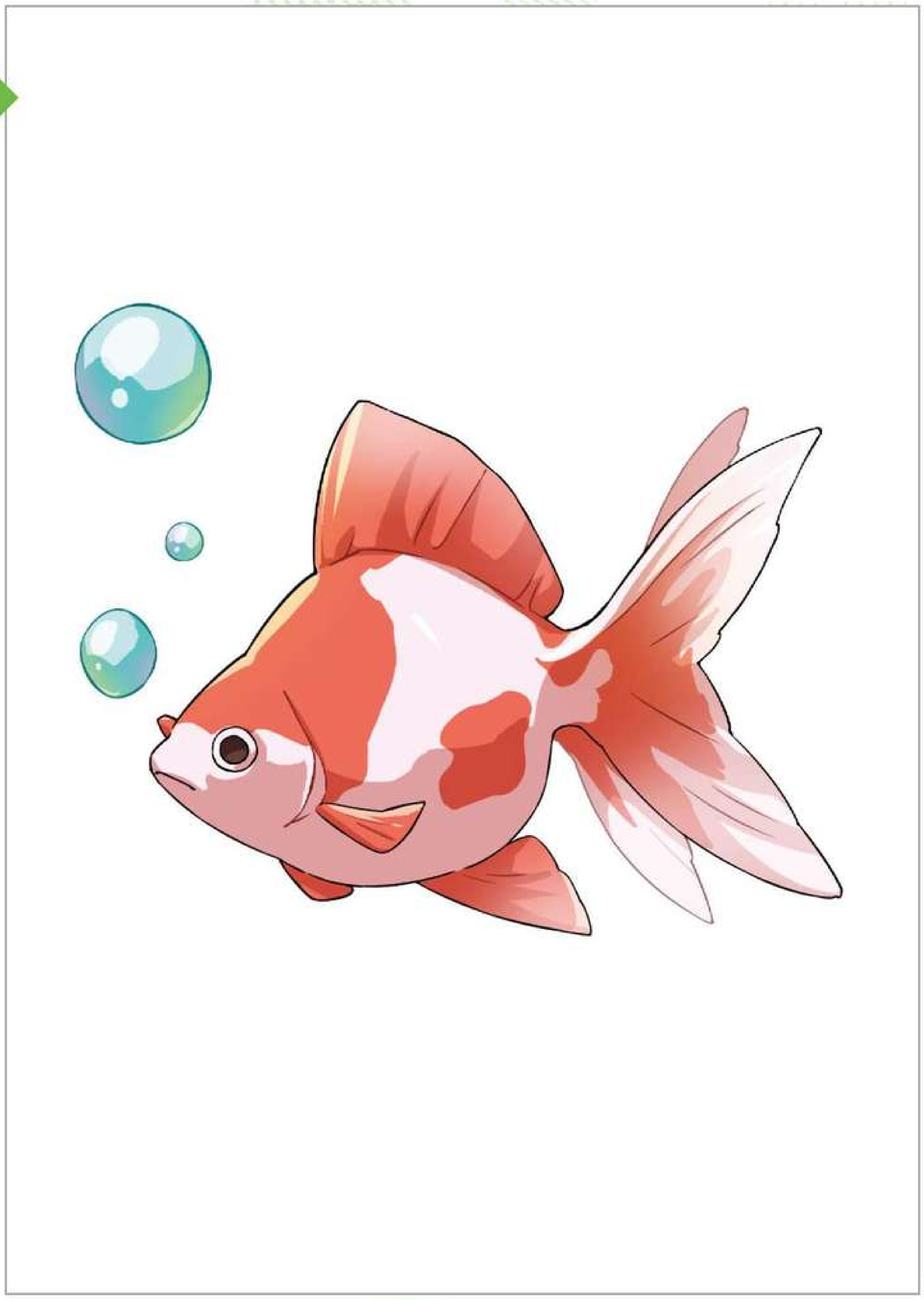


Chapter 5 - 01

アニメ風に描いてみよう



Before 5-01.clip

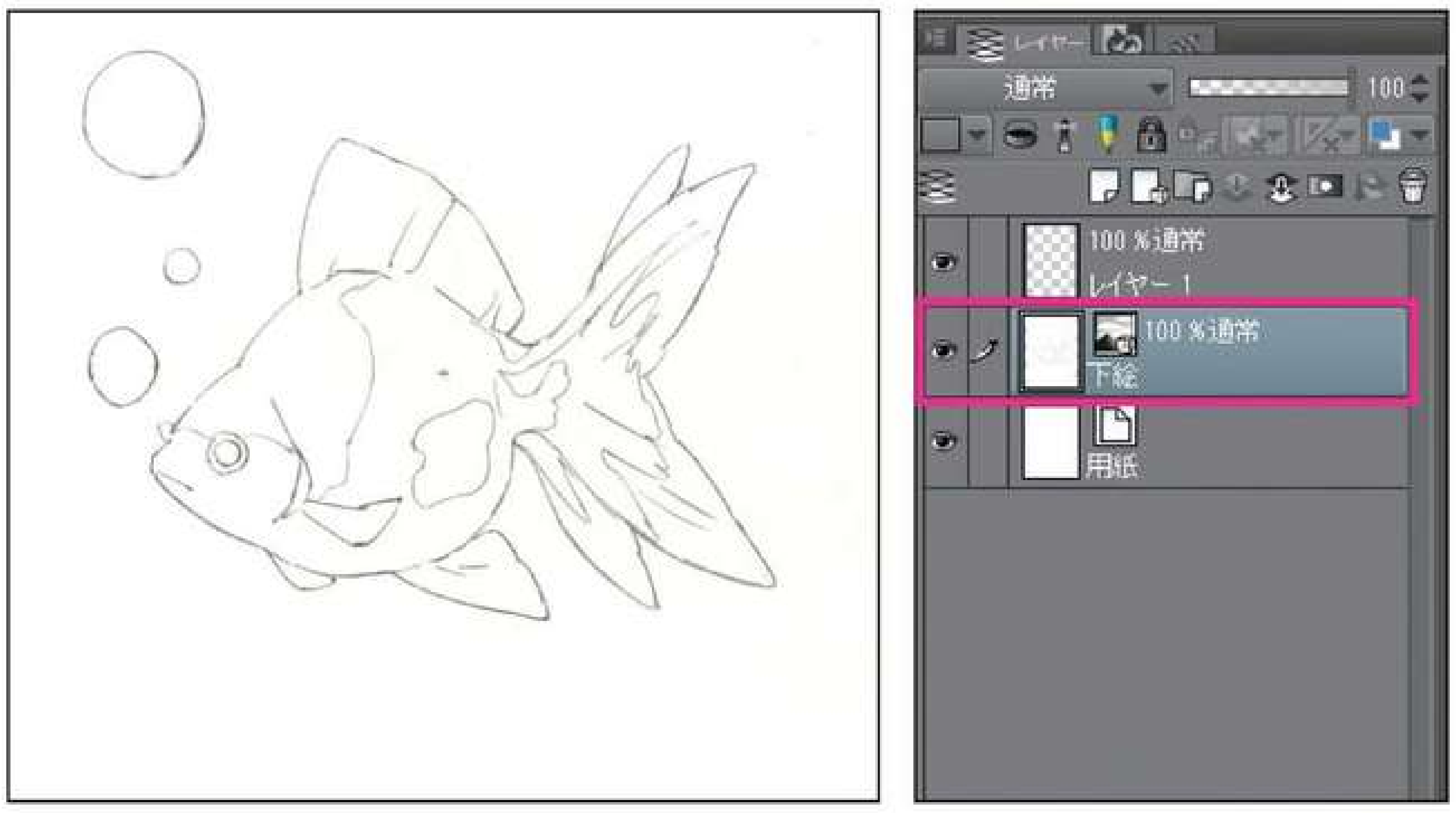


After 5-01a.clip

アニメ風のシンプルでメリハリのあるタッチで描いてみましょう。

Step 01 線画を描く

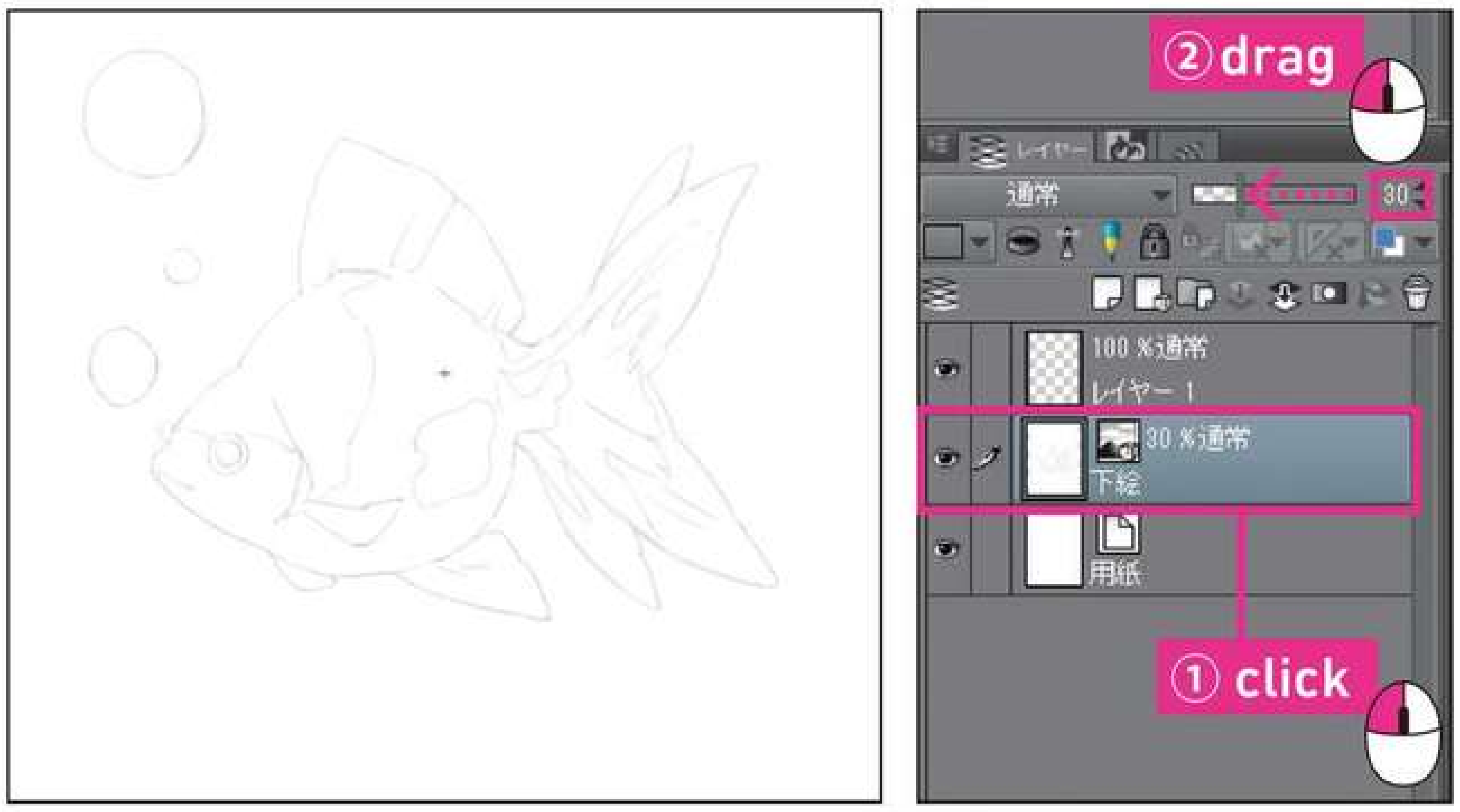
1



新規キャンバスを用意し、下絵を配置します。

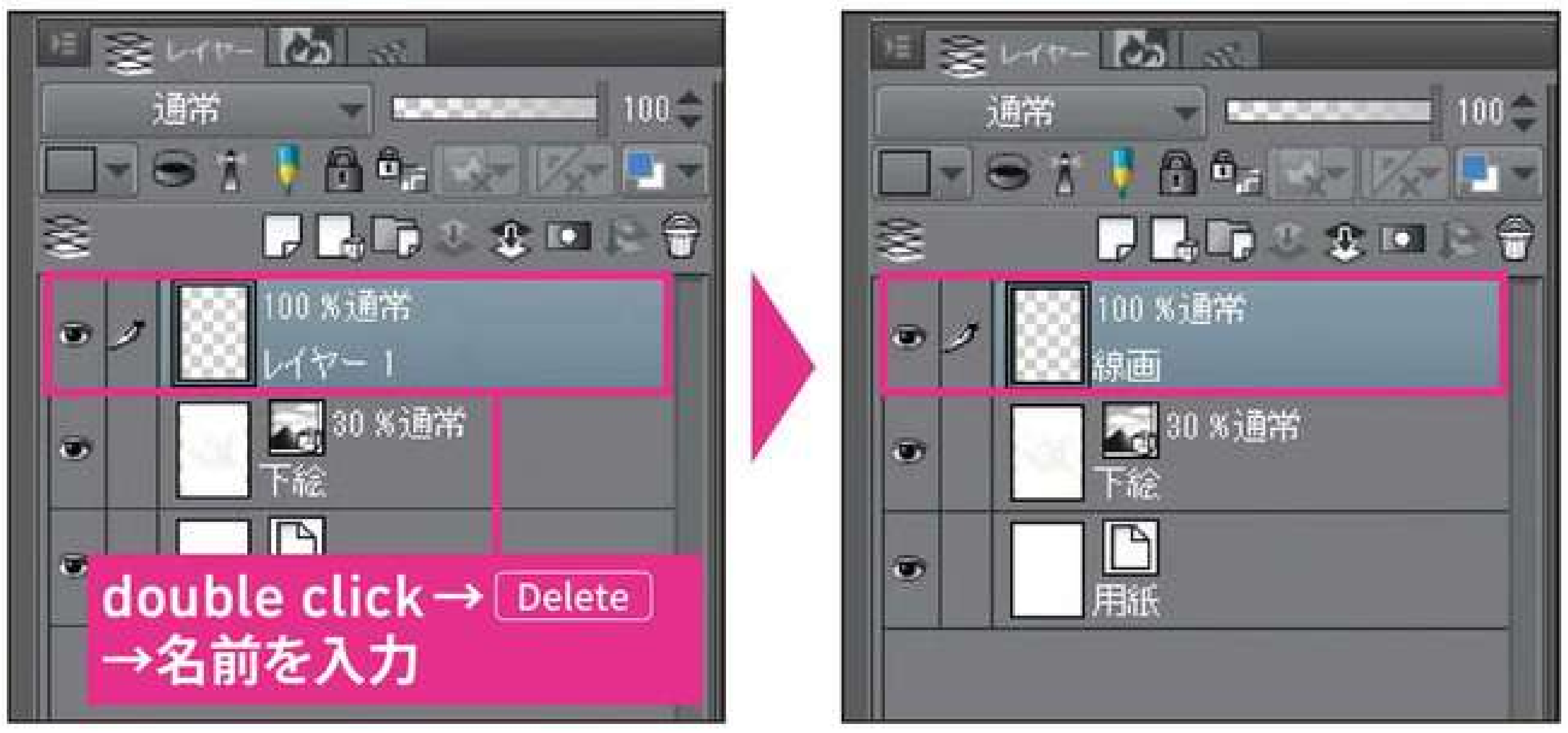
> **Memo**
> 新規キャンバスの作成についてはp.28、下絵の配置方法はp.31を参照しましょう。

2



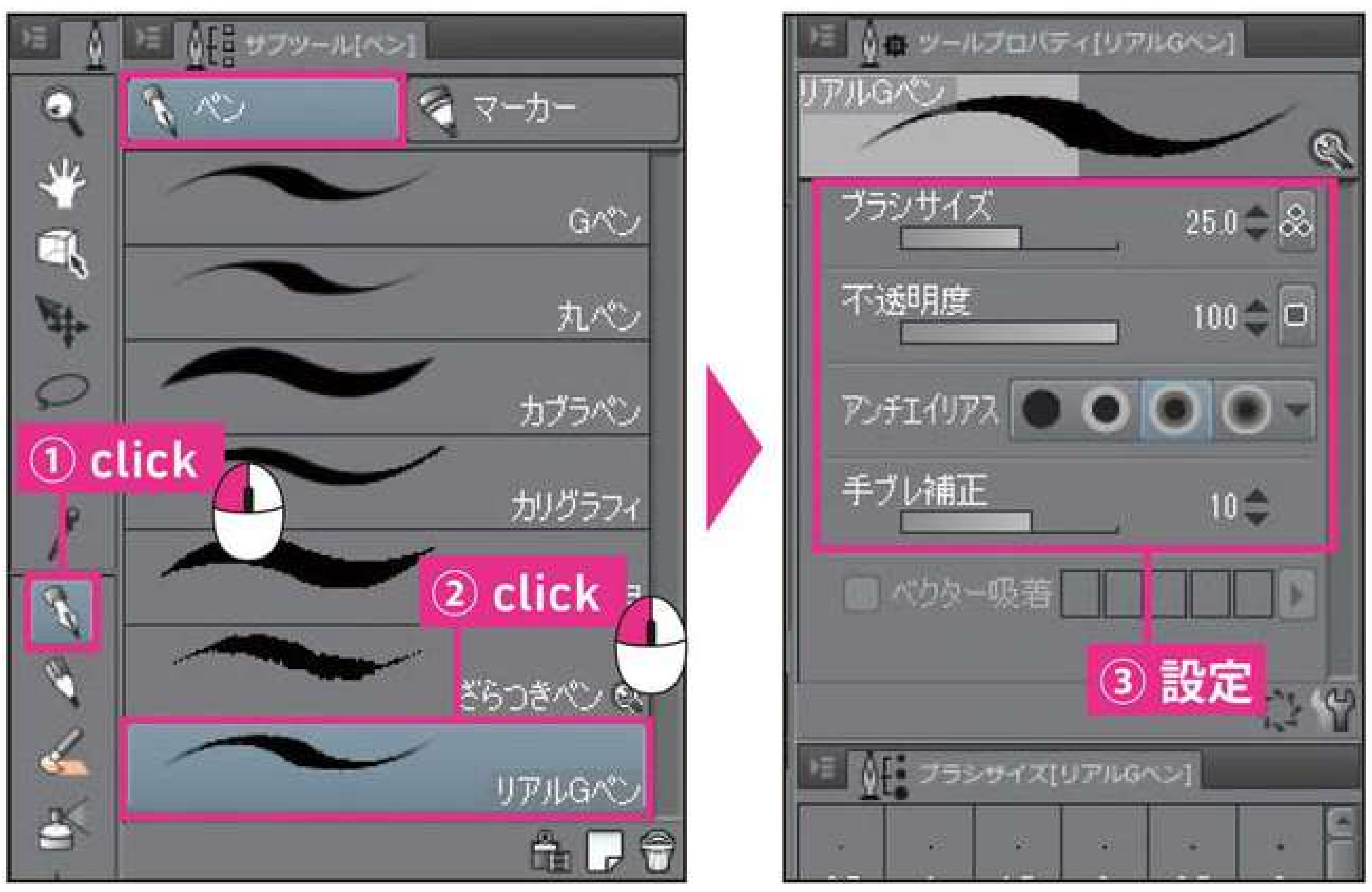
線画を描きやすいように、「下絵」レイヤーの不透明度を下げておきます。
ここでは「30%」にしました。

3



あらかじめ作成されているレイヤーを線画を描くレイヤーにします。
ここではレイヤー名を「線画」にしました。

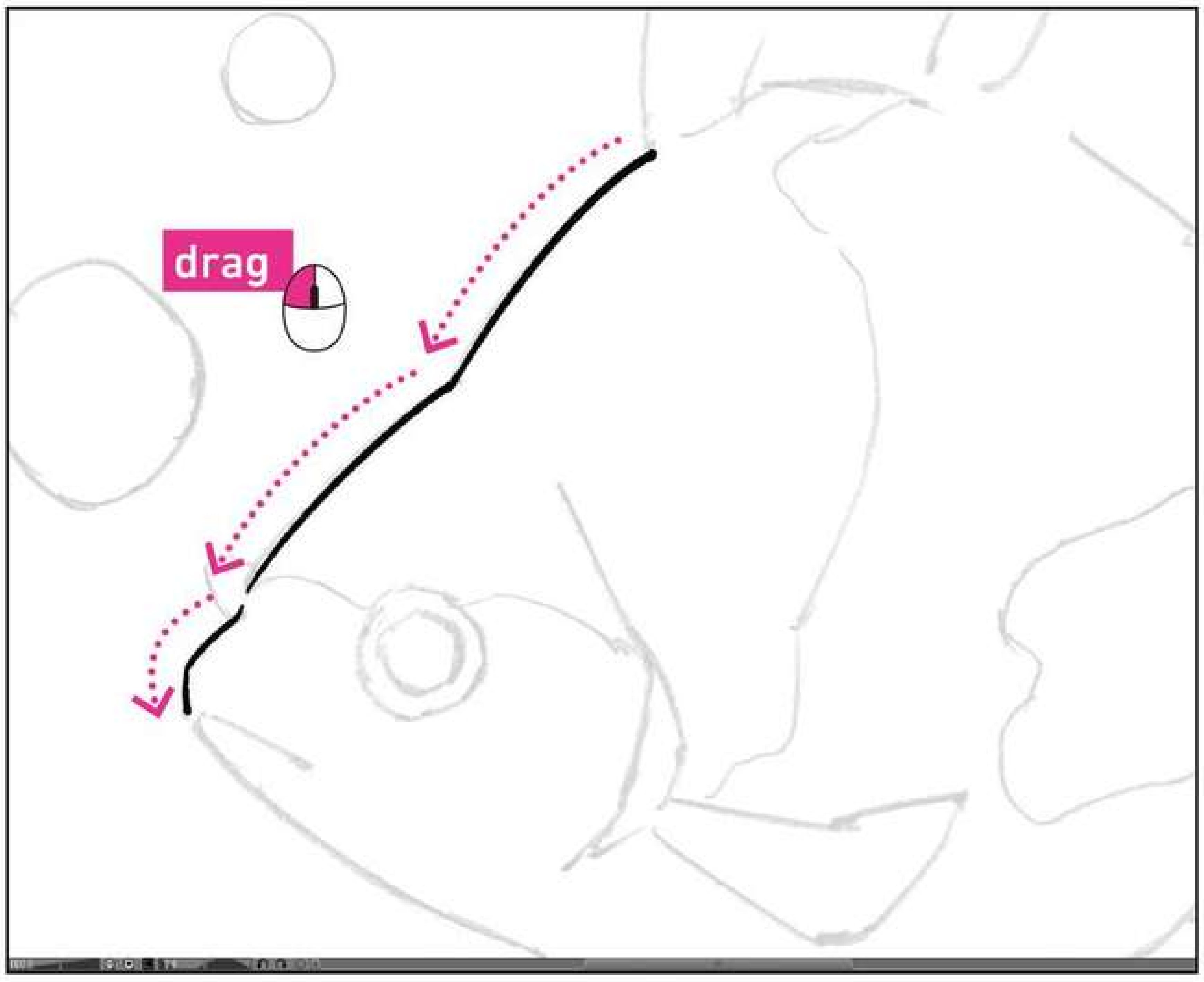
4



[ペン]ツール をクリックし、[サブツール]パレットから[ペン]の[リアルGペン]を選択します。
ここではブラシサイズ「25pixel」、不透明度「100%」、手ブレ補正を「10」に設定しました。

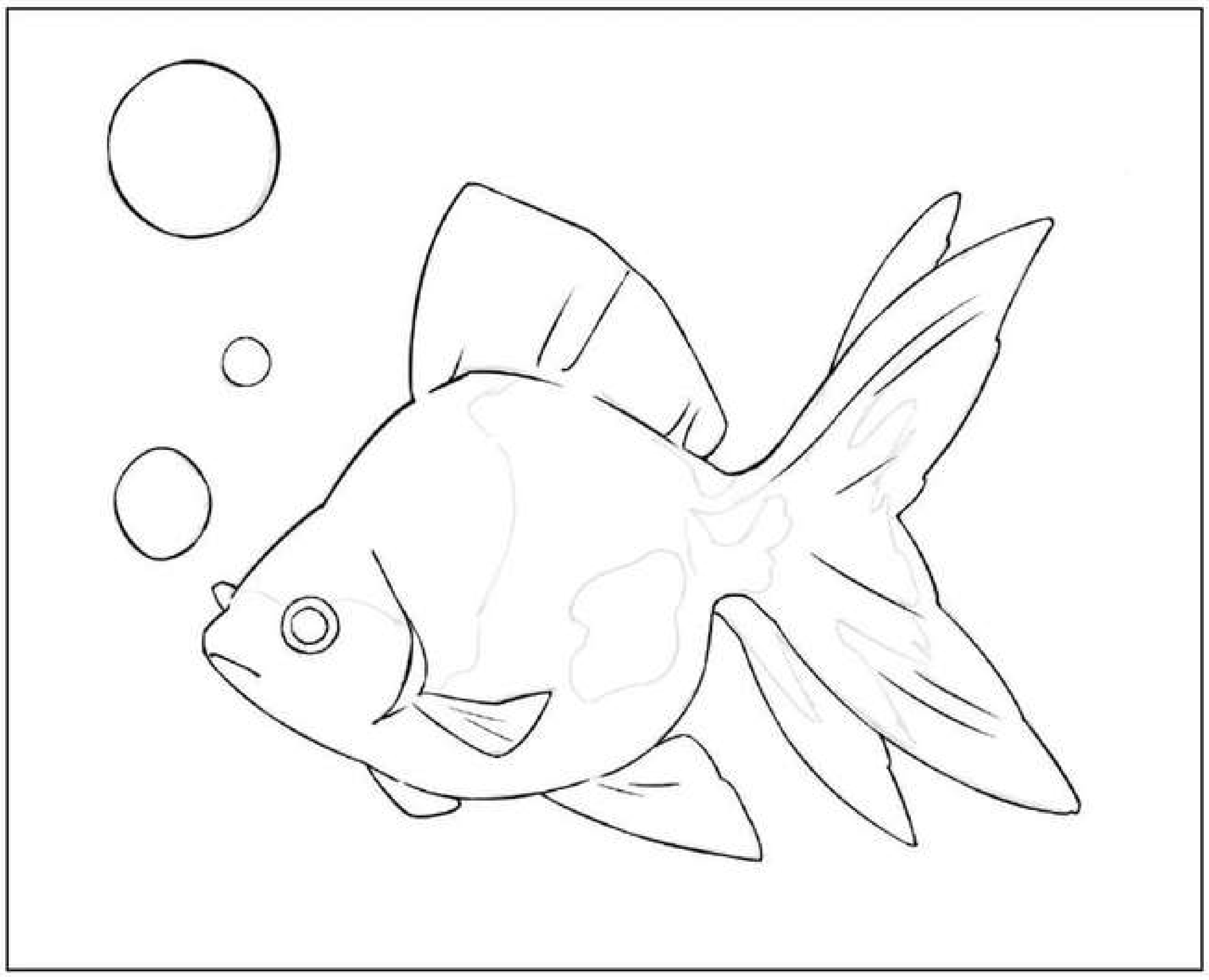
5

下絵をなぞって線画を描いていきます。



6

描きやすいように、キャンバスウィンドウを拡大、縮小しながら、描いていきましょう。

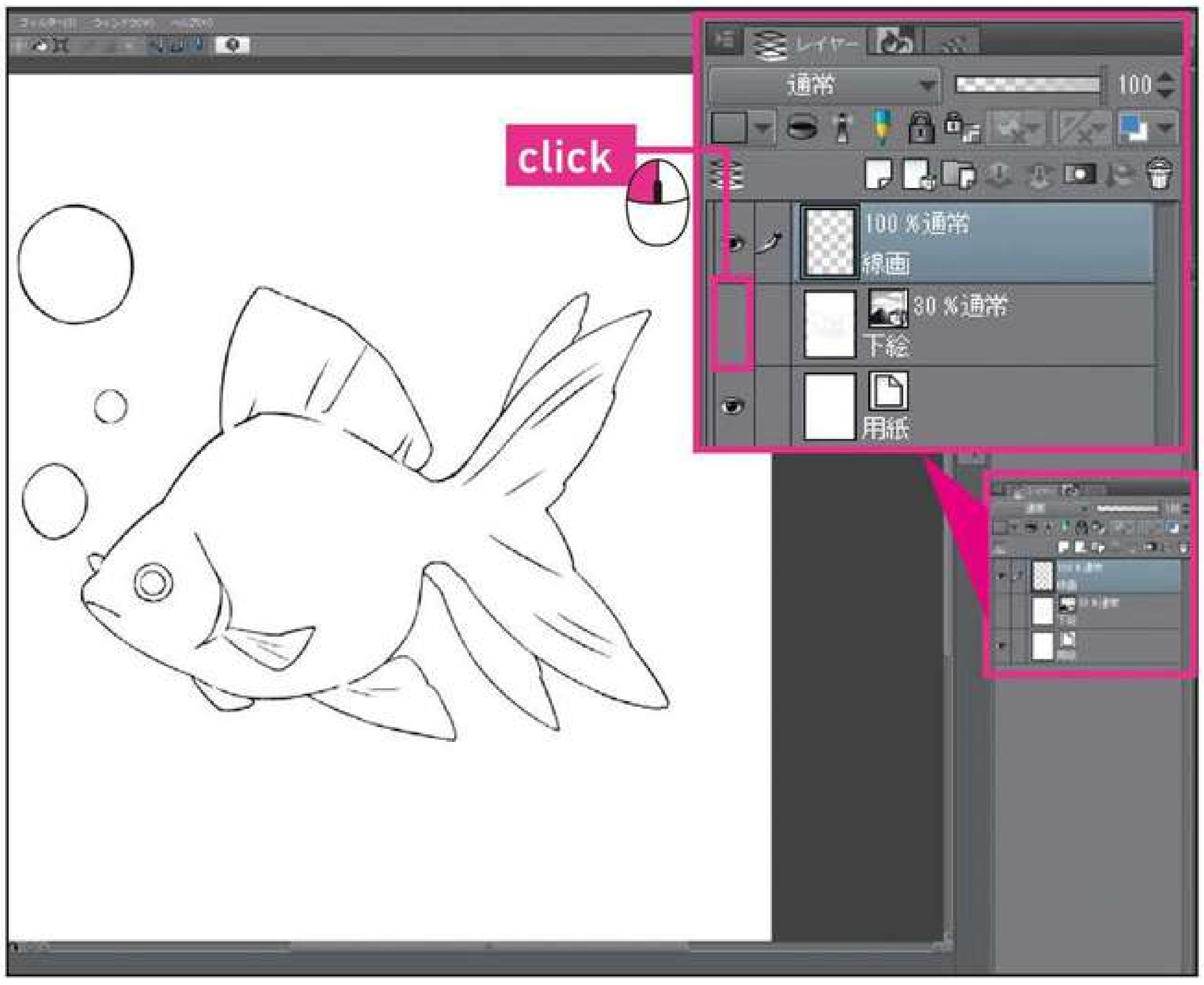


Memo

キャンバスウィンドウを拡大、縮小しながらの線画の描き方については、Chapter2を参照しましょう。

7

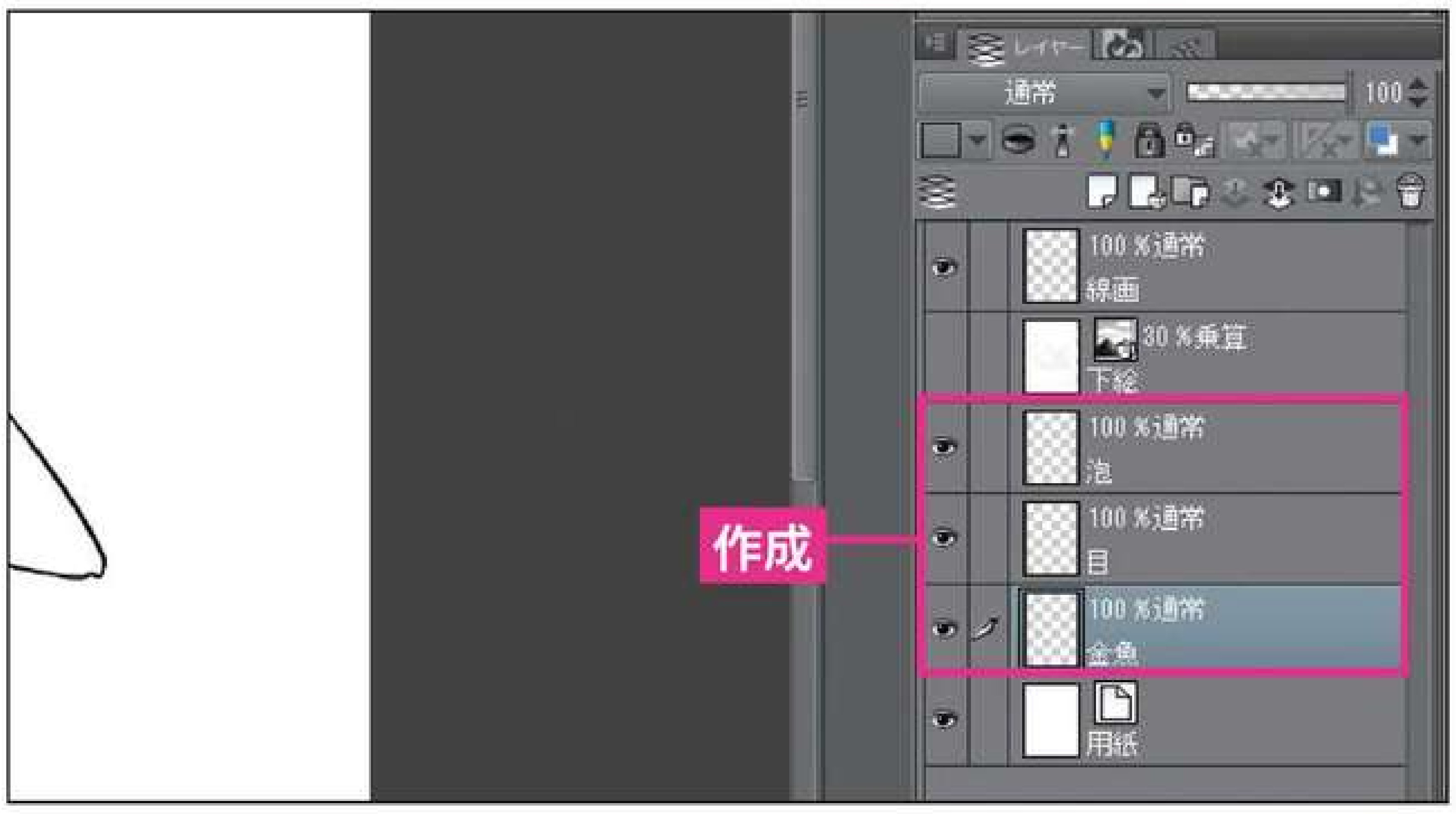
線画が描けたら、下絵のレイヤーの目のアイコンをクリックし、非表示にします。



Step 02 パーツごとに下塗りをする

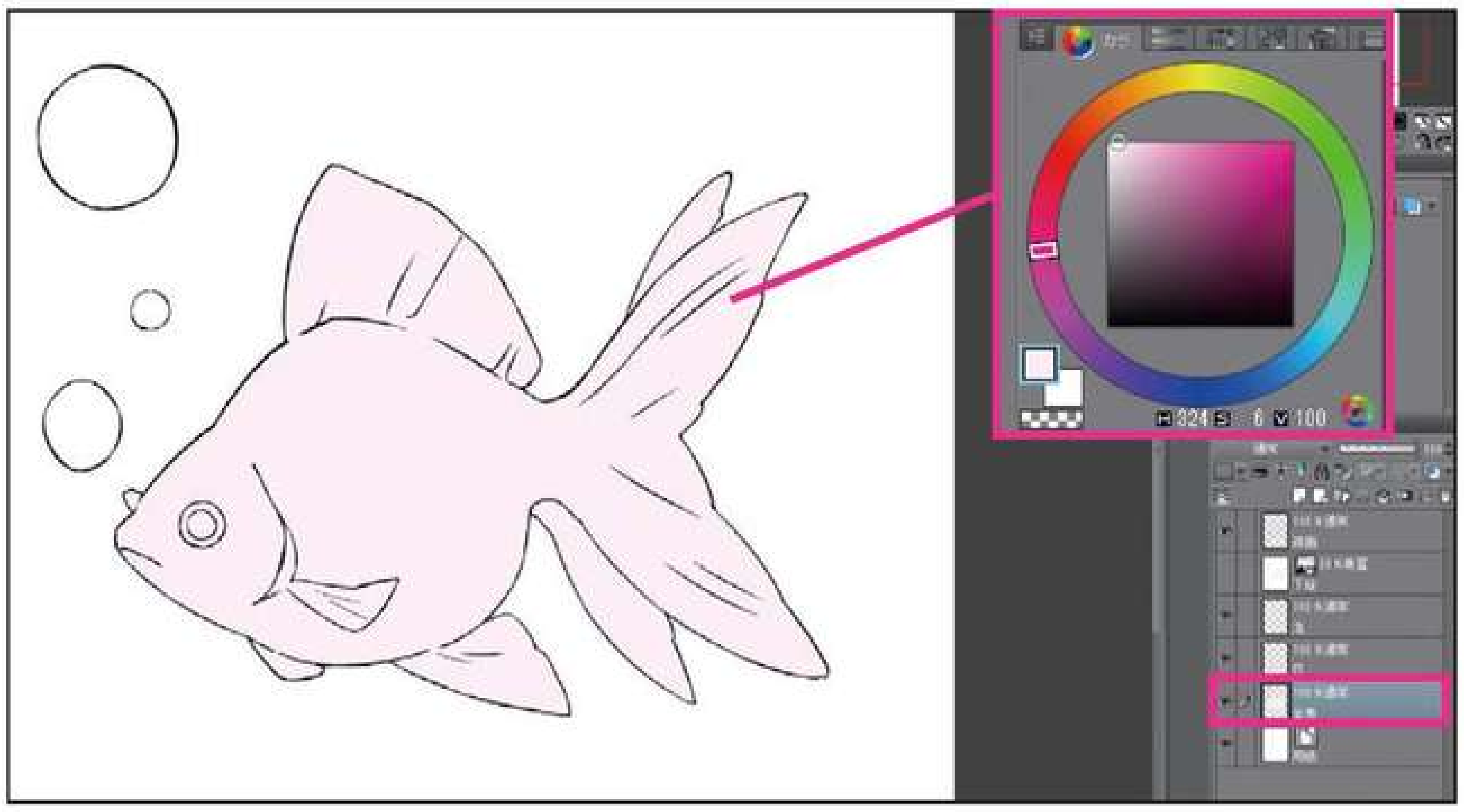
1

「線画」レイヤーの下に色を塗るレイヤーを用意します。
パーツごとにレイヤーを分けておくと便利です。
ここでは「金魚」「目」「泡」レイヤーを作成しました。



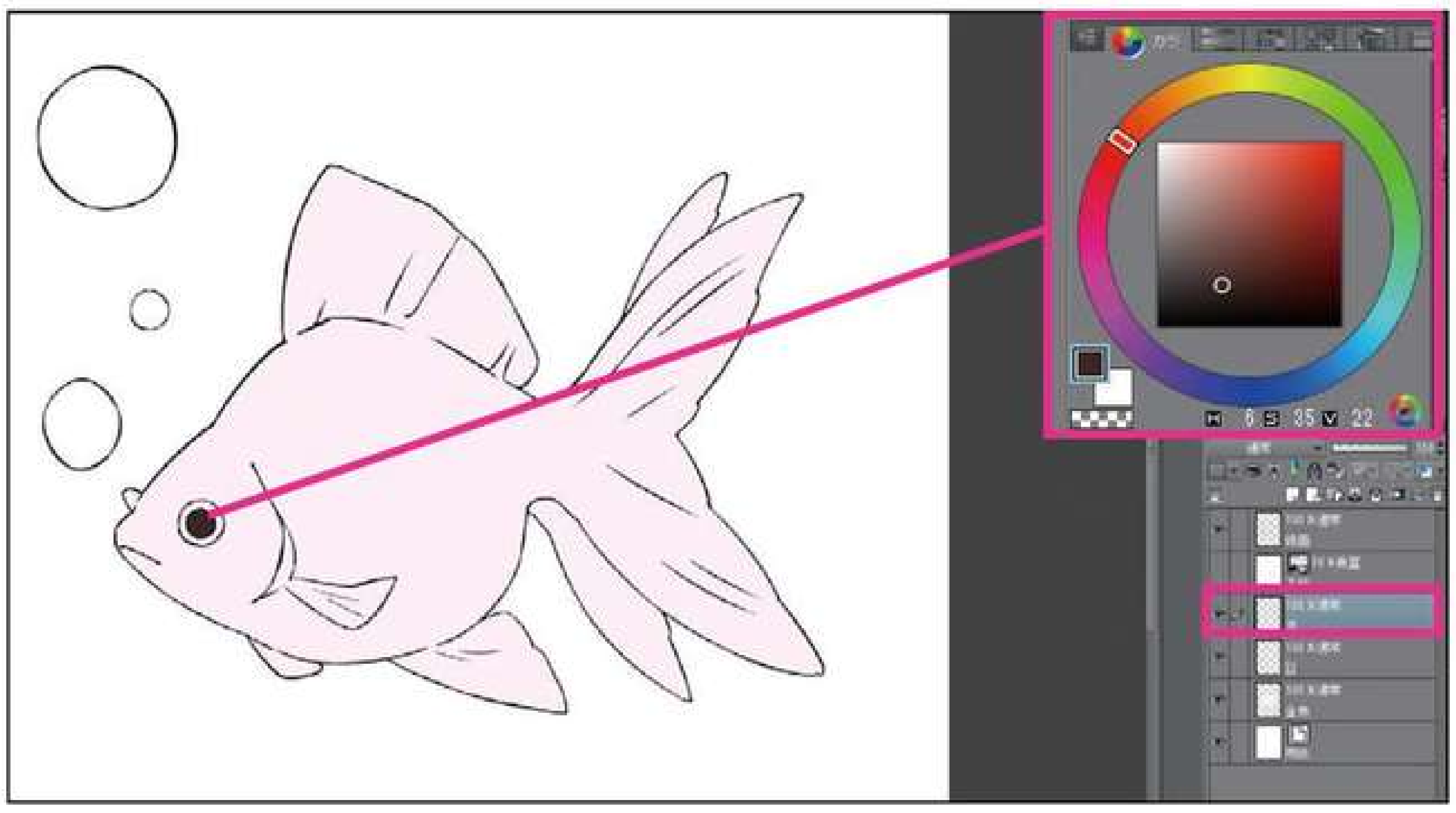
2

[塗りつぶし]ツールで、それぞれ塗りつぶします。
金魚の部分は薄いピンク色で塗りました。



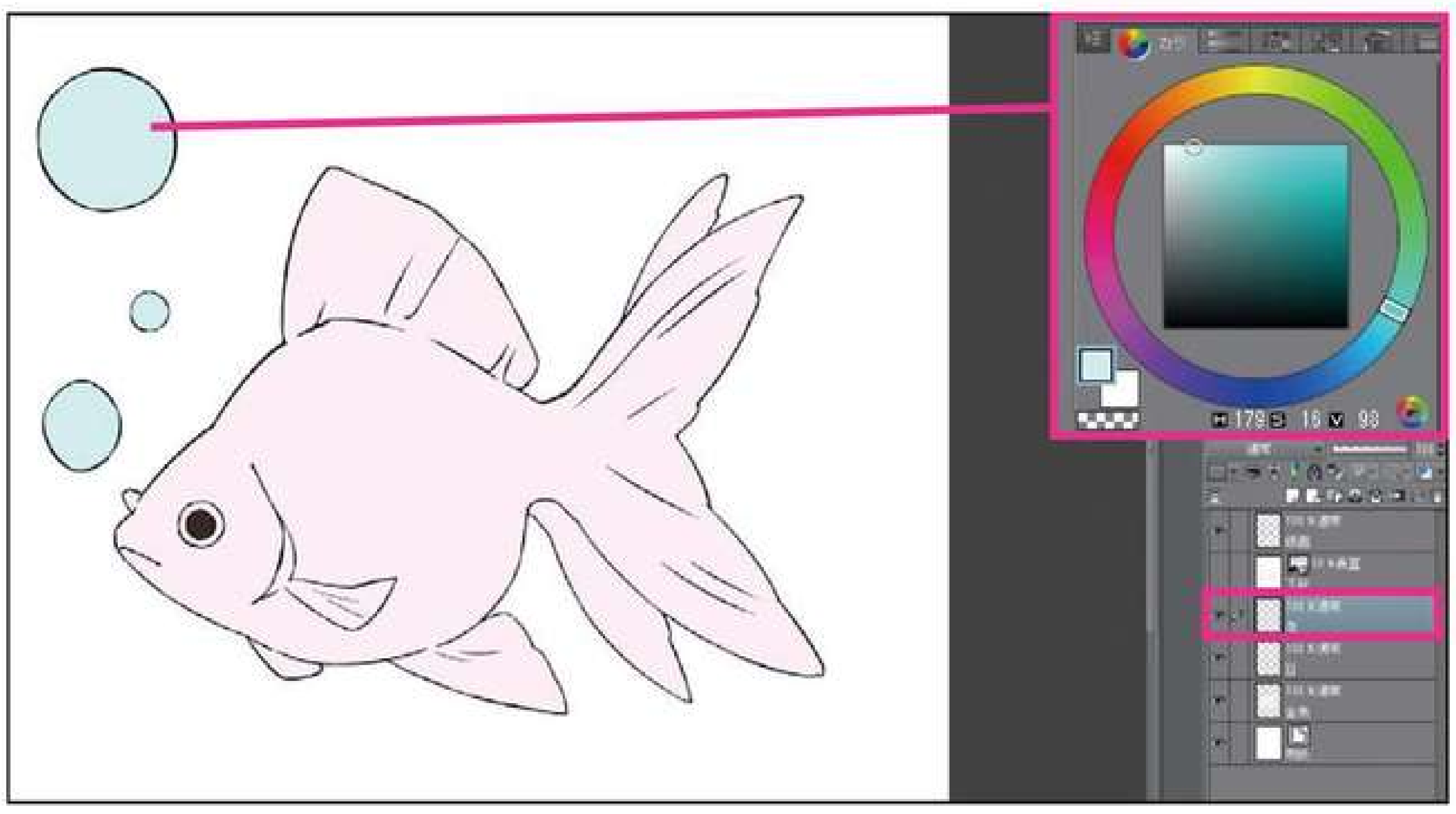
3

目の部分は黒を選択しました。



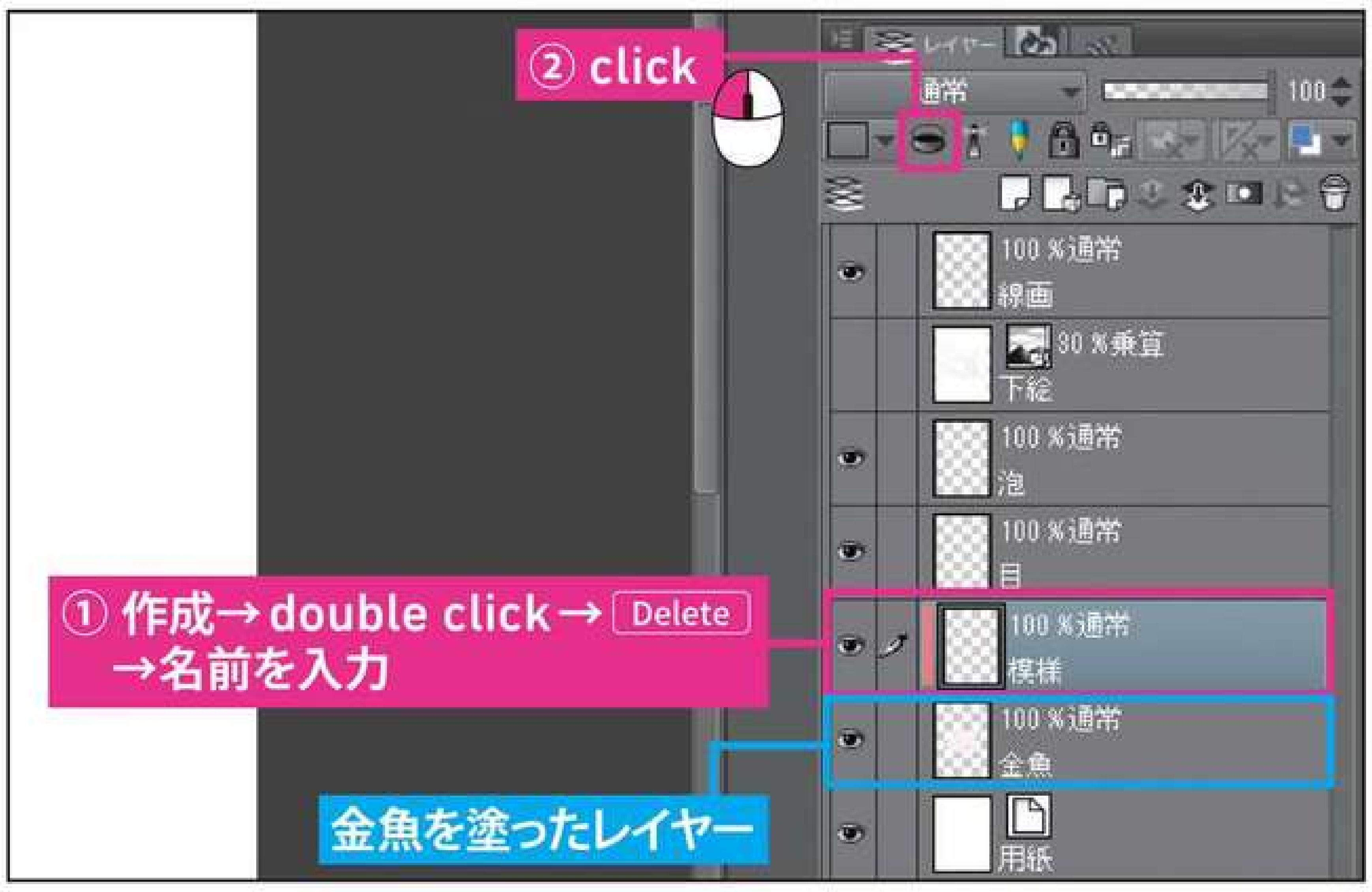
4

泡の部分は水色を選択しました。



5

新しいレイヤーを用意し（レイヤー名「模様」）、[下のレイヤーでクリッピング]をクリックし、金魚を塗ったレイヤーにクリッピングします。

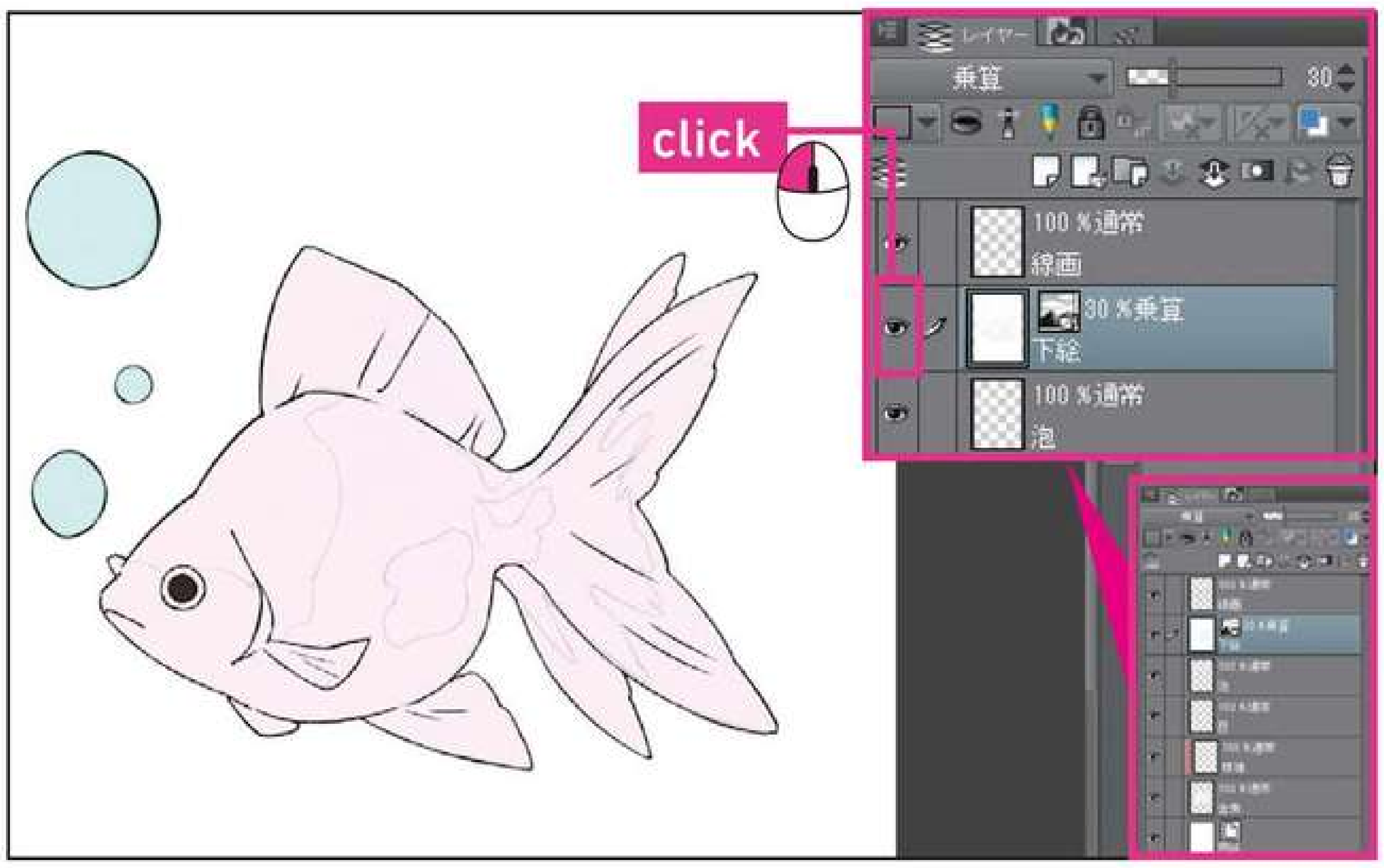


Memo

クリッピングについては、p.71 の Hint を参照しましょう。

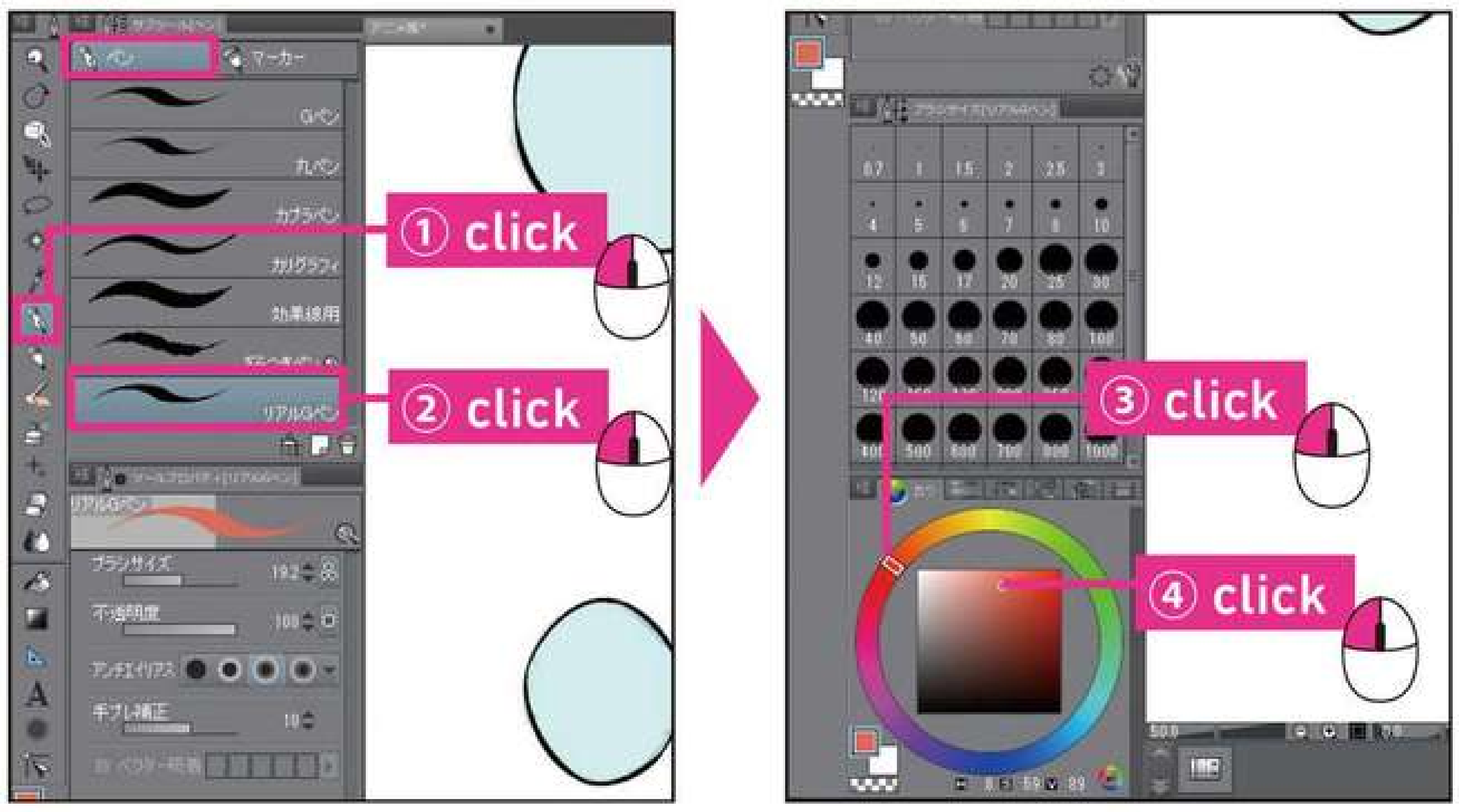
6

下絵を表示しておきます。



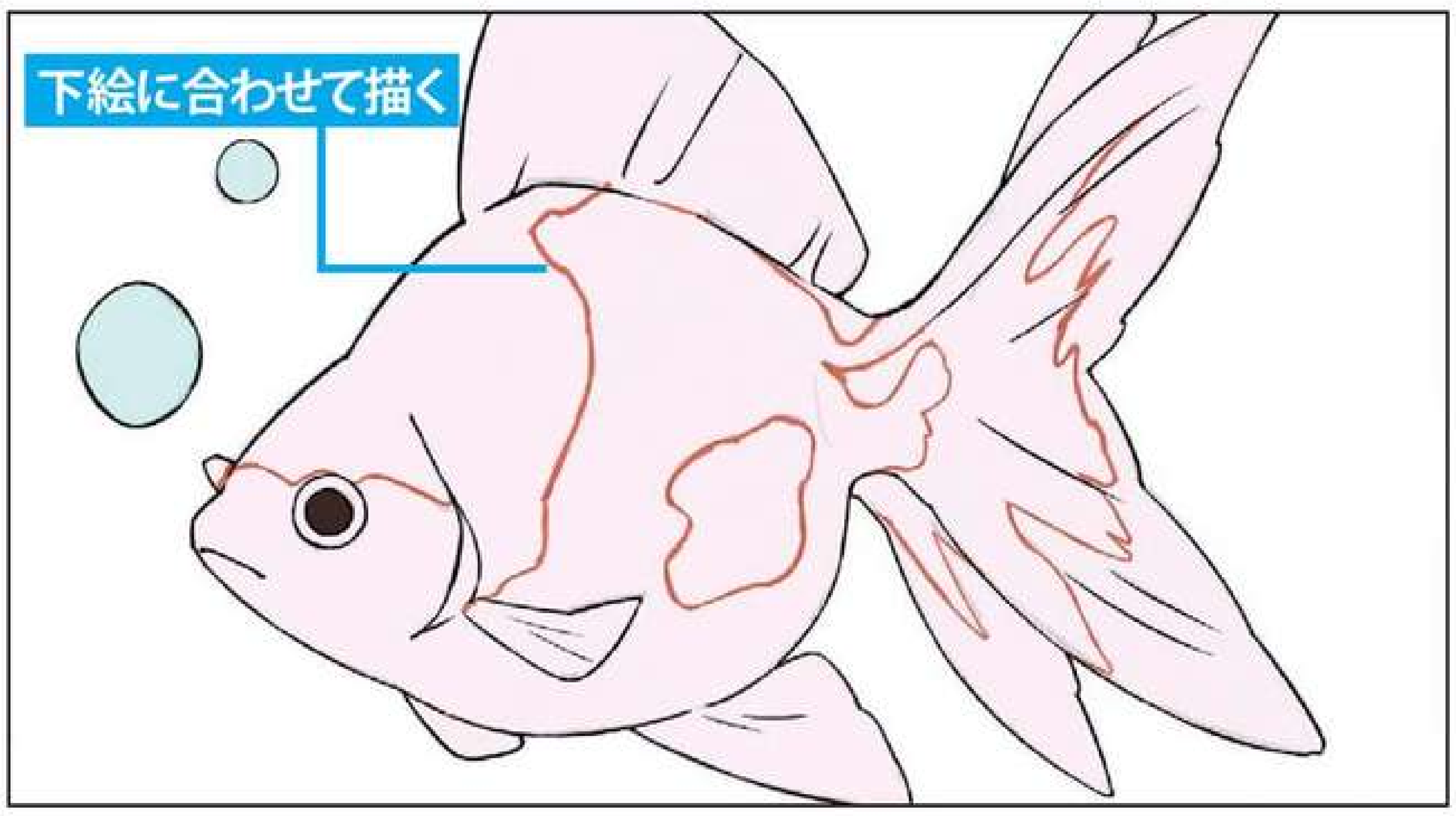
7

金魚の柄を描きます。
[ペン]ツールをクリックして[サブツール]パレットから[ペン]の[リアルGペン]を選択し、色は赤を選択しました。



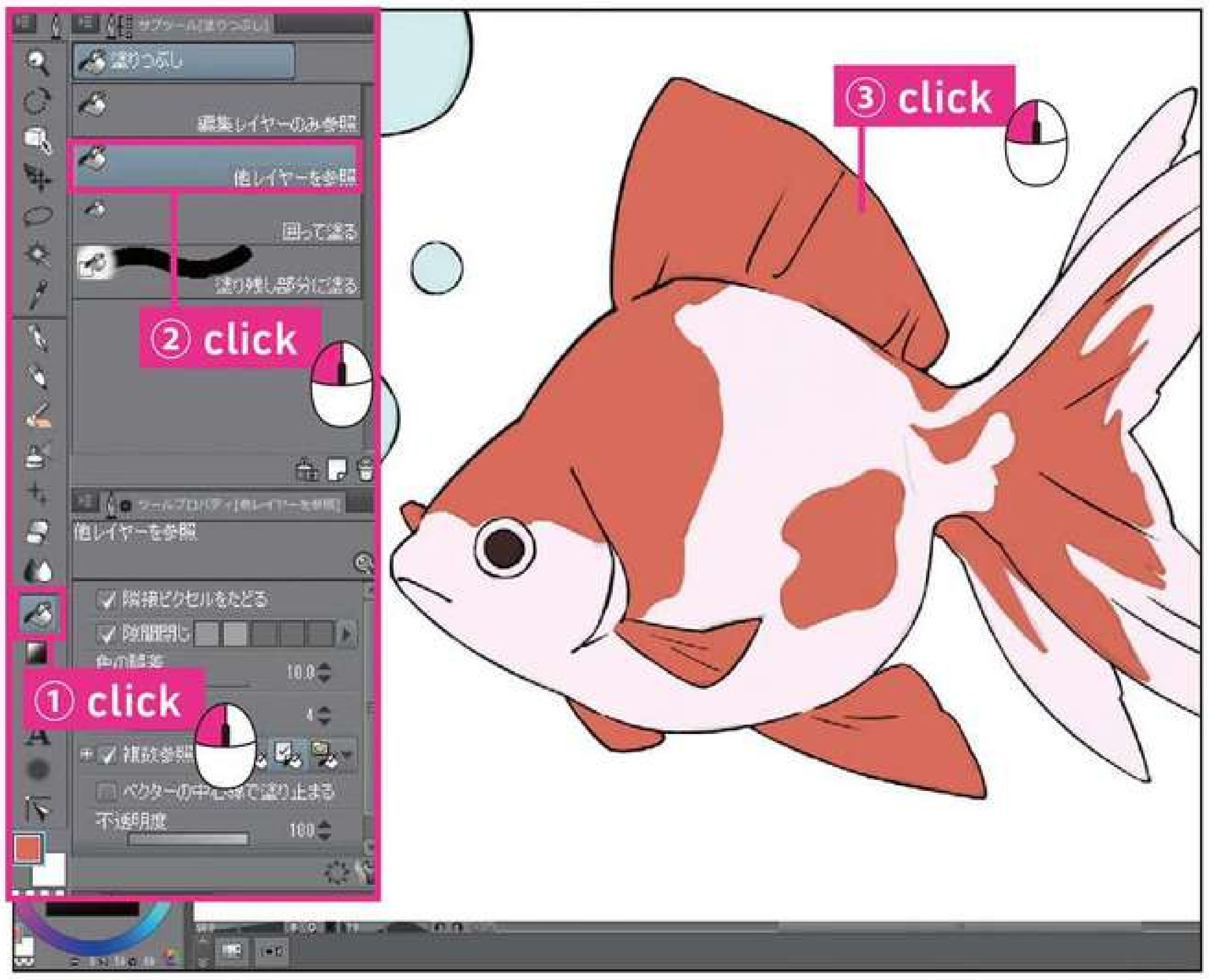
8

下絵を元にしながら柄を描いていきます。



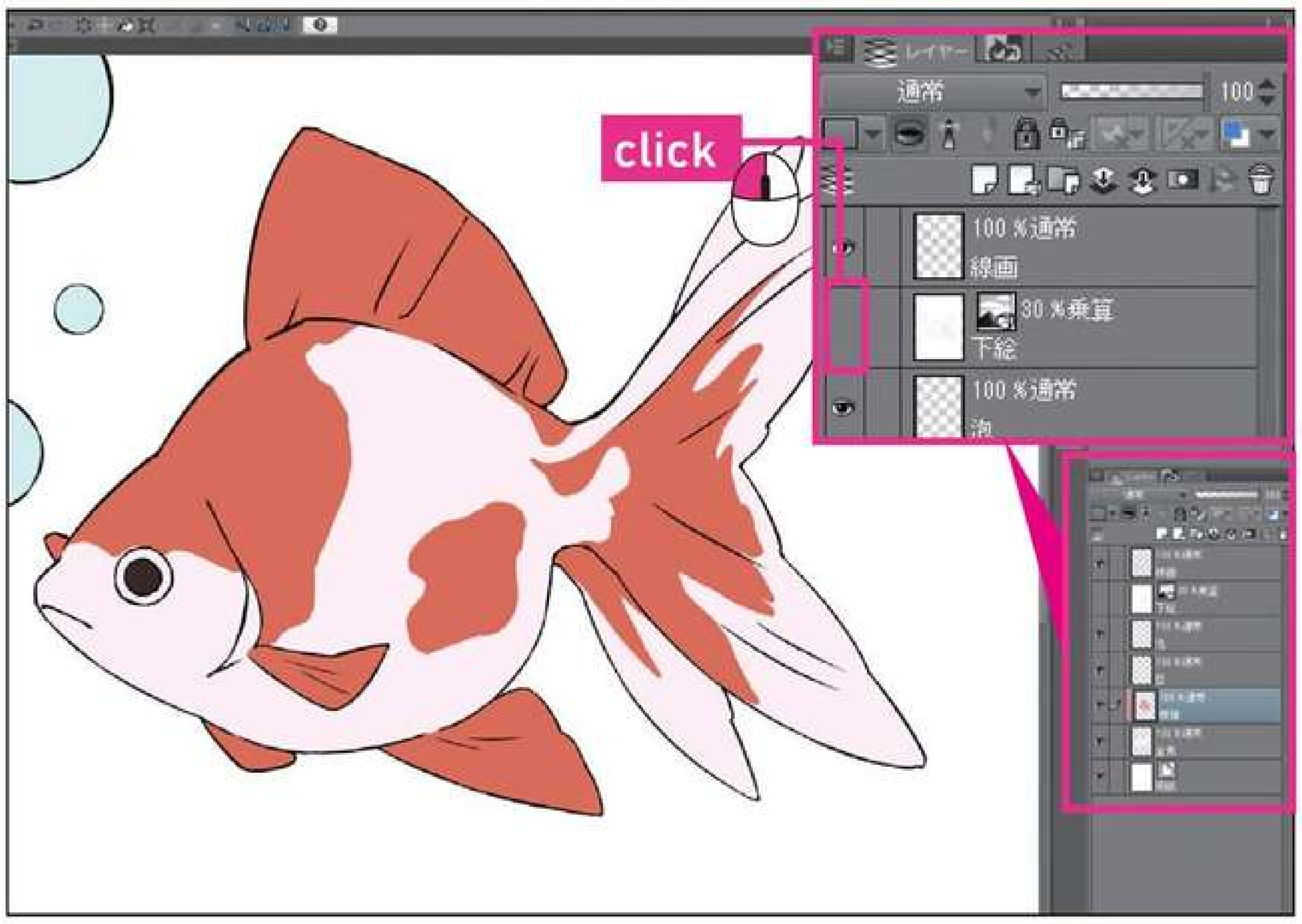
9

面積が広い部分はアウトラインだけ描いて、[塗りつぶし]ツール を使うと効率よく塗れます。



10

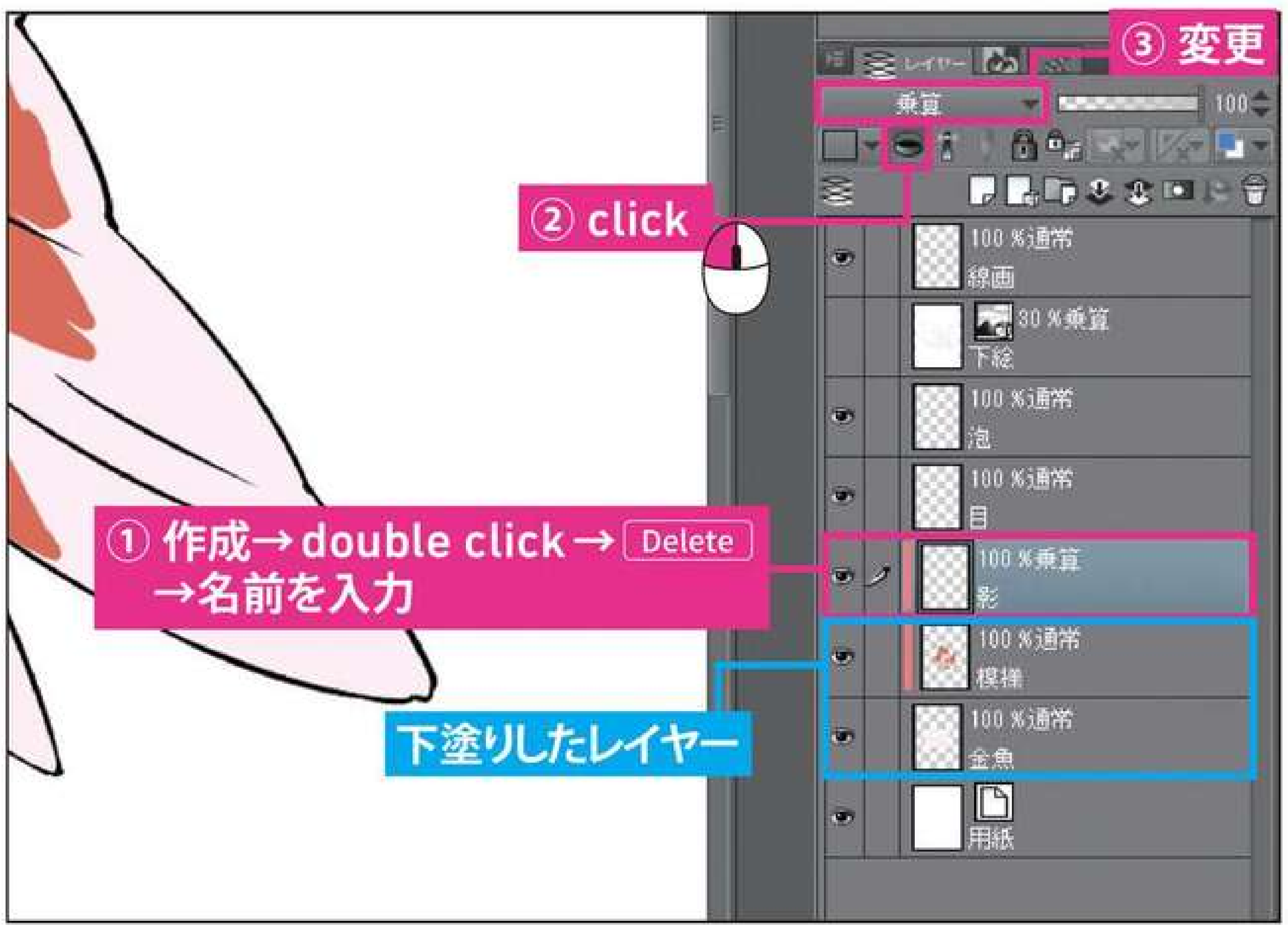
再び下絵のレイヤーを非表示にします。



Step 03 影を描く

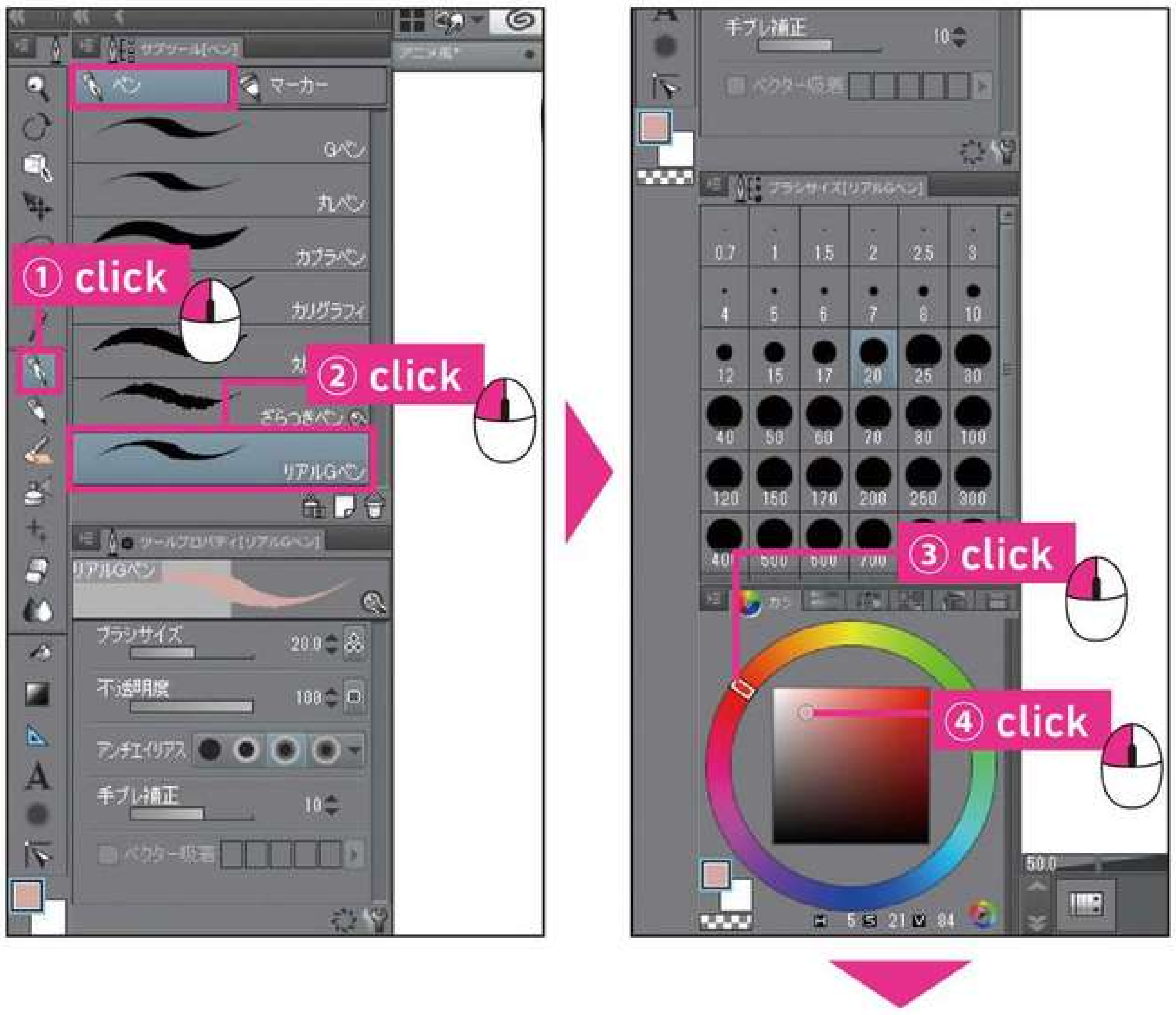
1

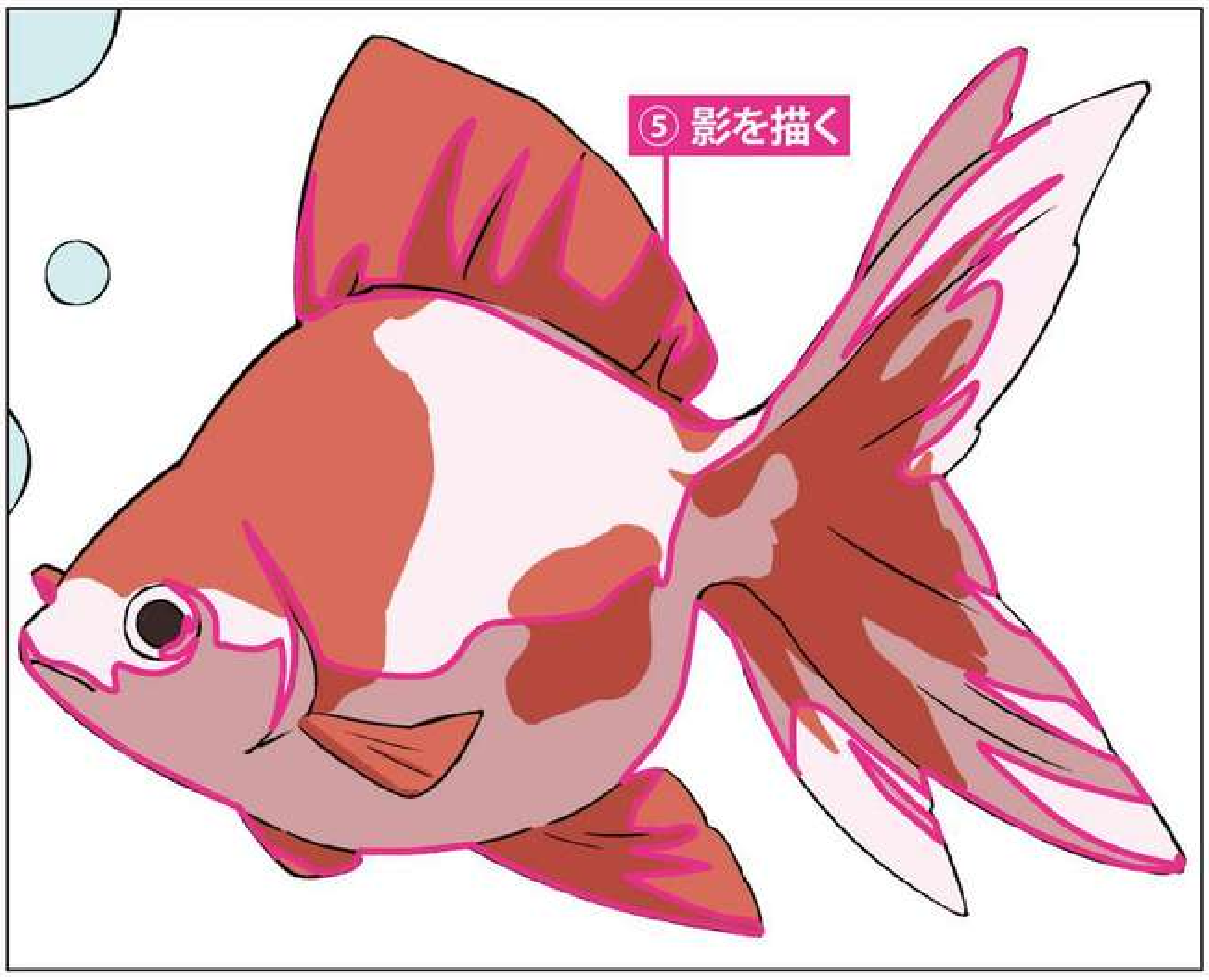
新しいレイヤーを用意し(レイヤー名「影」)、[下のレイヤーでクリッピング] をクリックし、*Step02*で下塗りをしたレイヤーにクリッピングします。
合成モードを[乗算]に設定します。



2

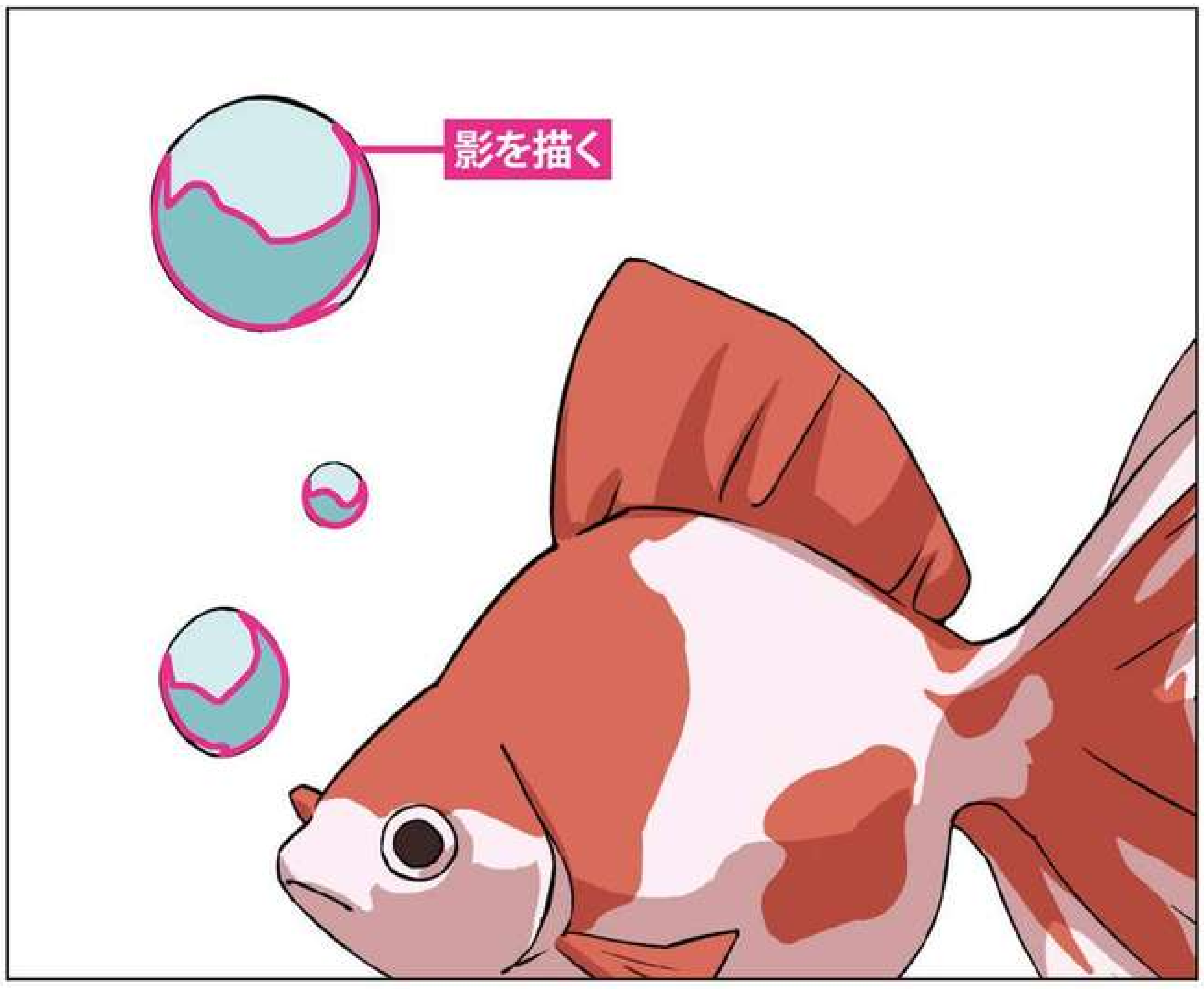
[ペン]ツール をクリックし、[サブツール]パレットから[ペン]の[リアルGペン]を選択し、くすんだピンク色で影を描いていきます。





3

同じようにして泡の部分にも影を入れます。



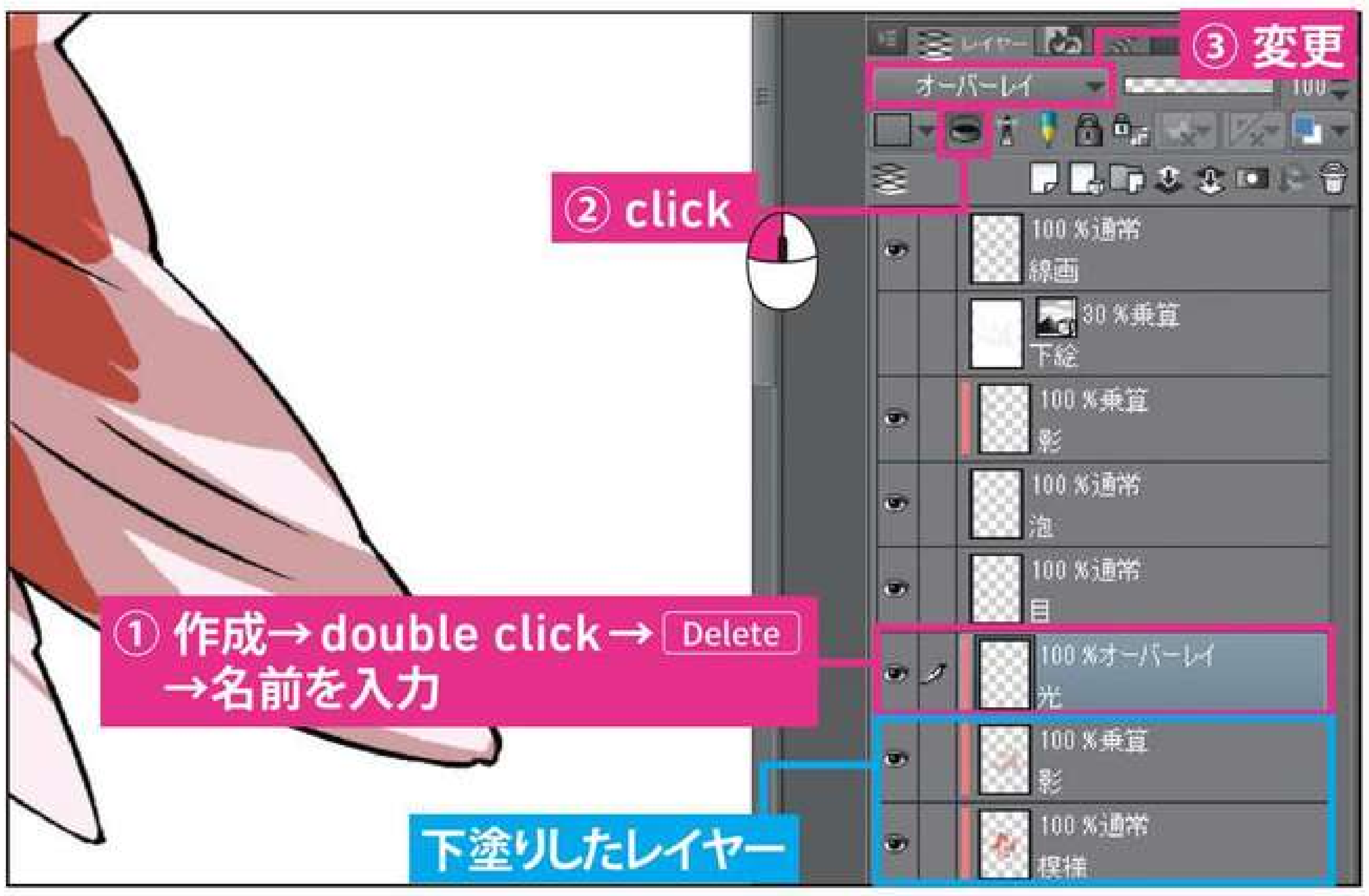
Memo

泡の影も下塗りをしたレイヤー(「泡」レイヤー)の上に新規ラスターレイヤーを作成してクリッピングし、合成モードを[乗算]に設定してから影を描きます。

Step 04 光を描く

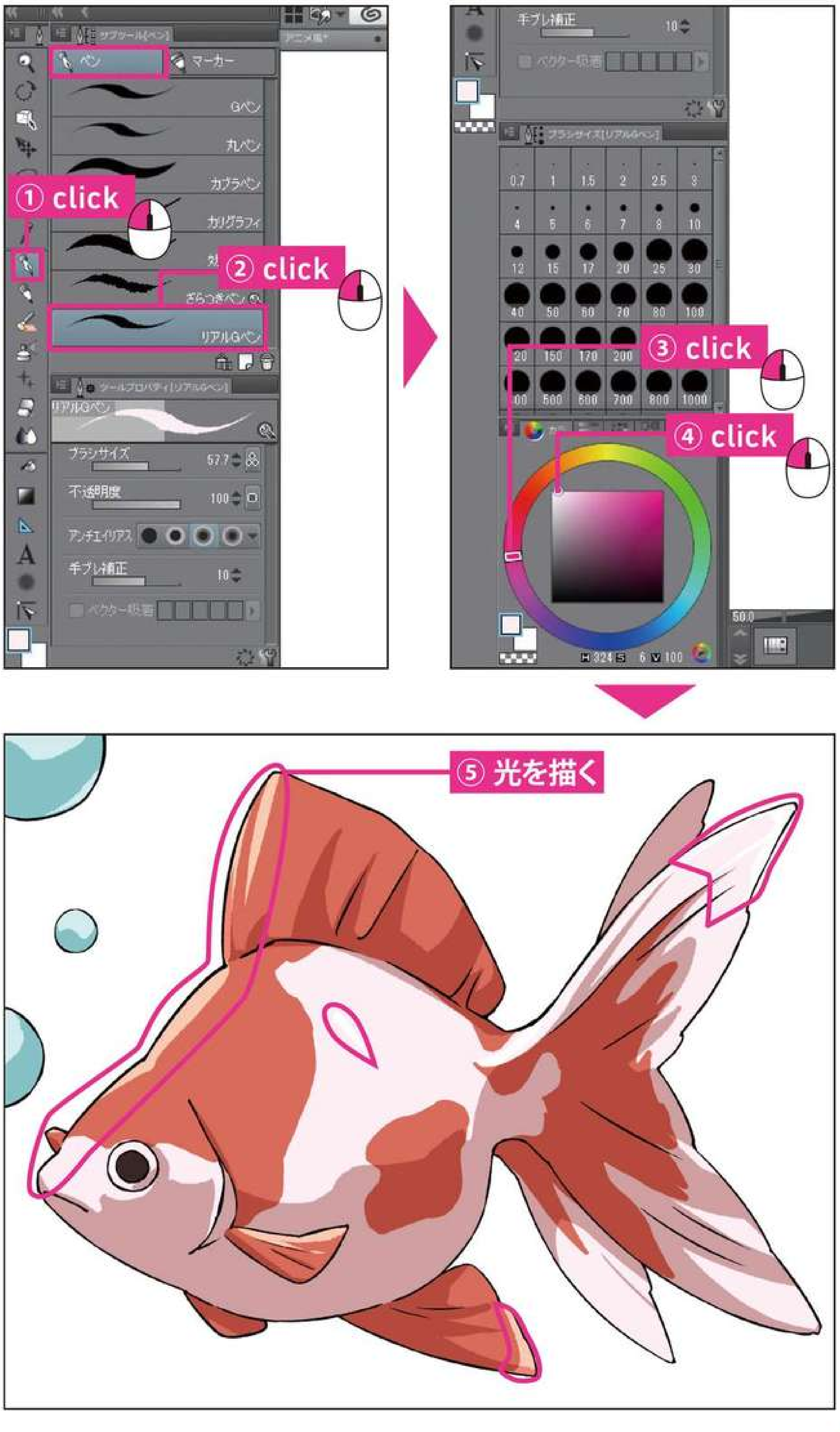
1

新しいレイヤーを用意し(レイヤー名「光」)、[下のレイヤーでクリッピング]をクリックし、Step02で下塗りをしたレイヤーにクリッピングします。
合成モードを[オーバーレイ]に設定します。



2

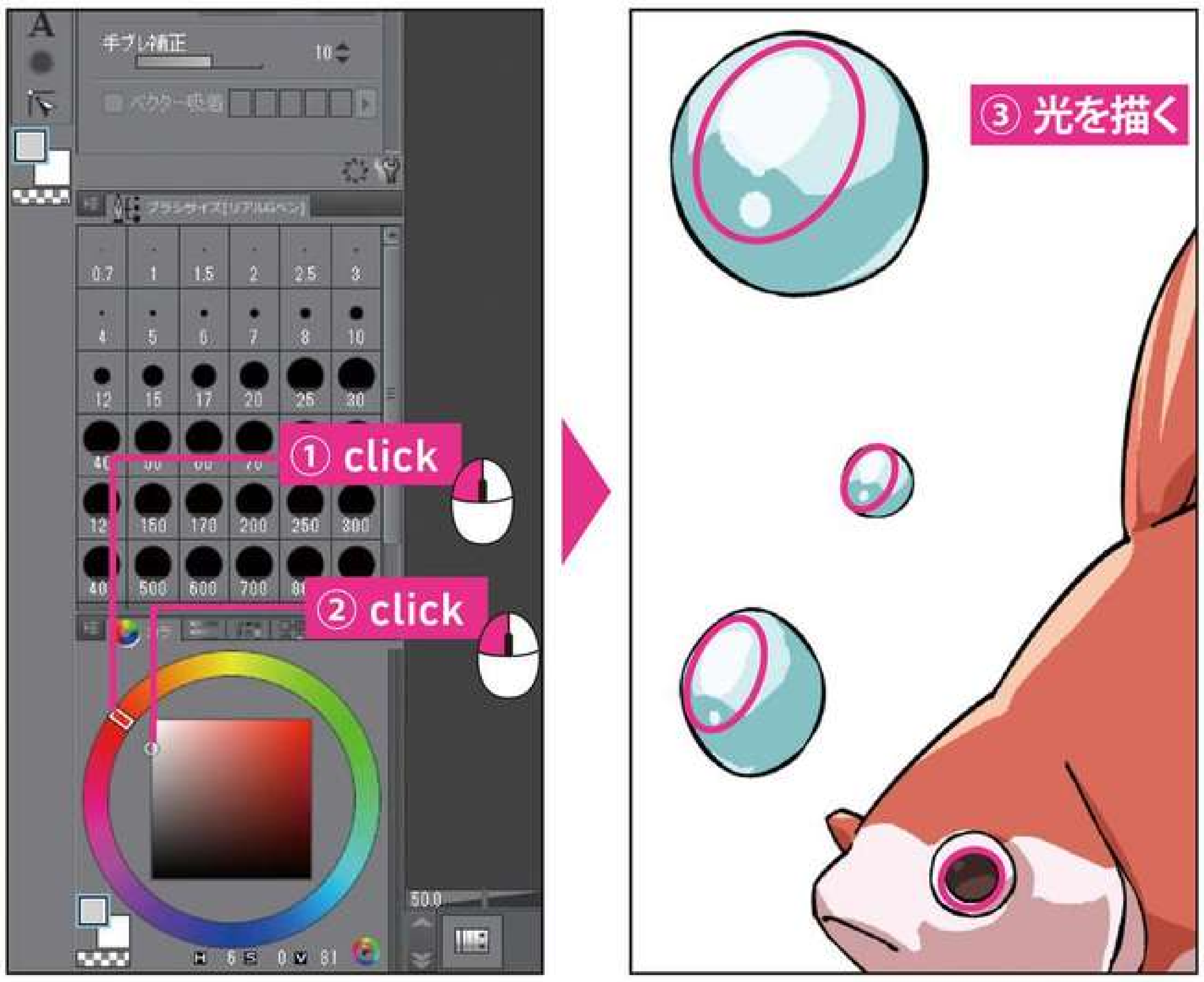
[ペン]ツールをクリックし、[サブツール]パレットから[ペン]の[リアルGペン]を選択し、白色で光を描いていきます。



> **Memo**
> 光の色は、真っ白ではなく、光を入れる部分の同色の薄い色を選択しています。

3

同じようにして泡の部分、目の部分にも光を入れます。



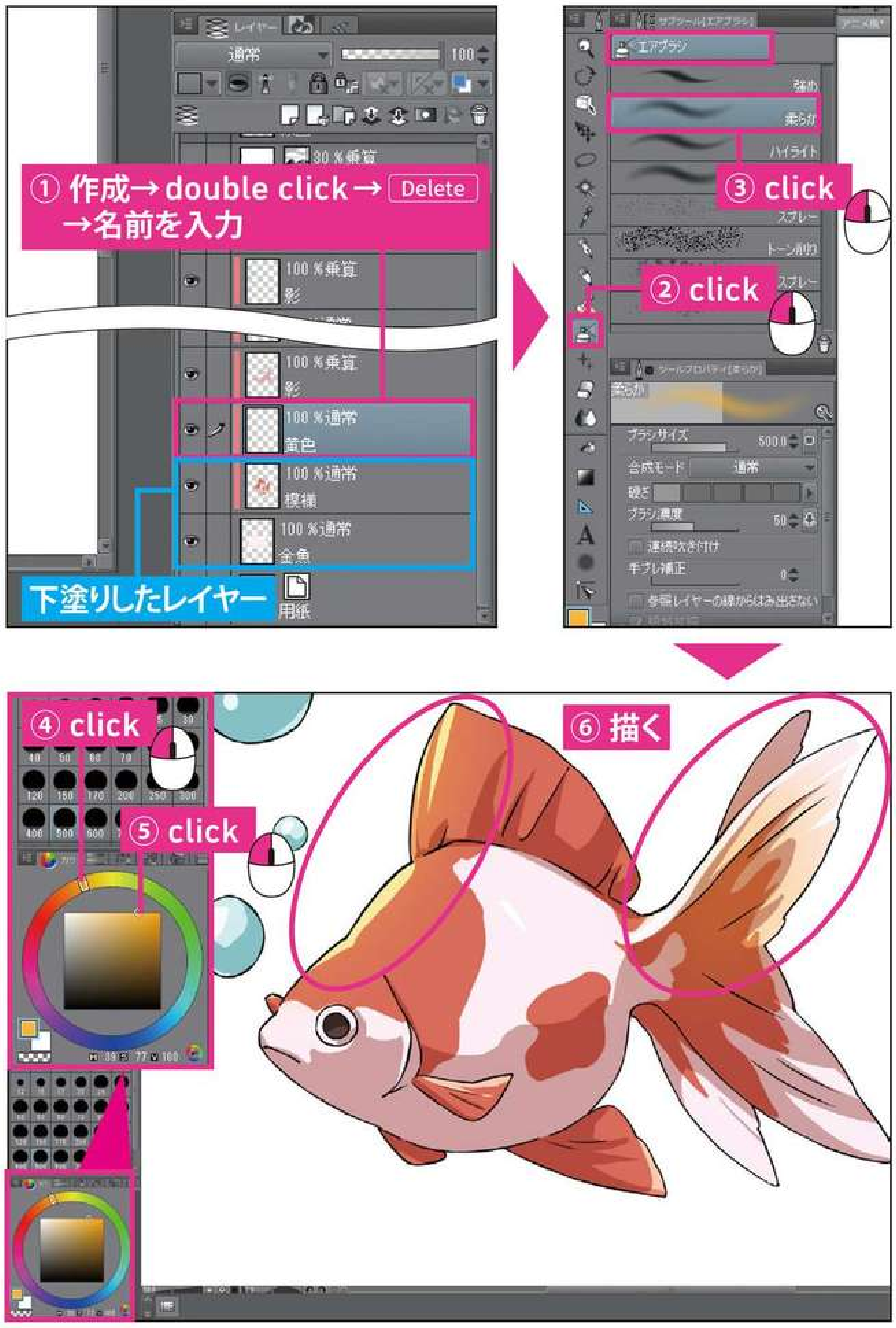
Memo

泡、目の光も下塗りをしたレイヤー(「泡」、「目」レイヤー)の上に新規ラスターレイヤーを作成してクリッピングし、合成モードを[オーバーレイ]に設定してから光を描きます。

Step 05 グラデーションを入れる

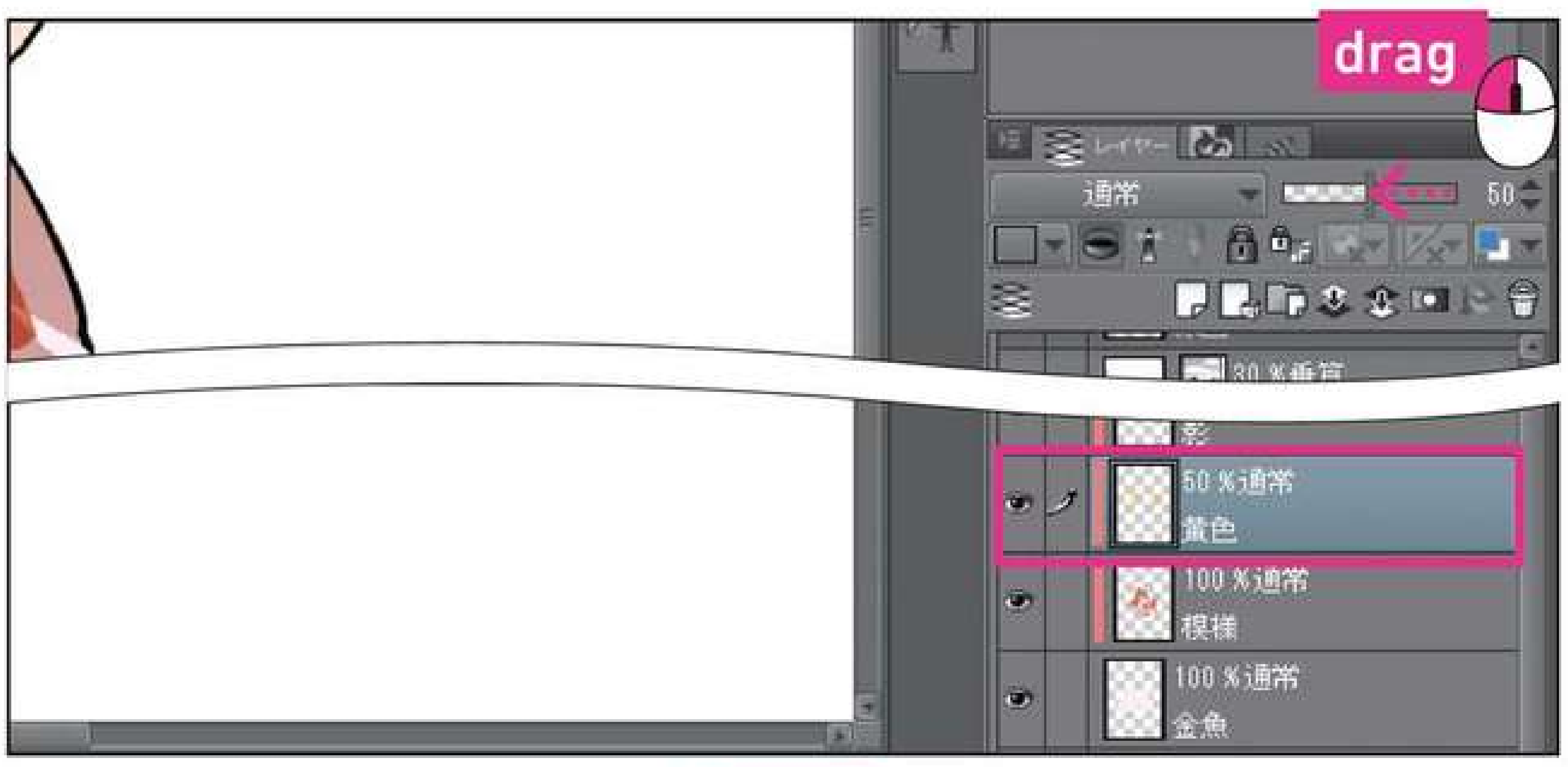
1

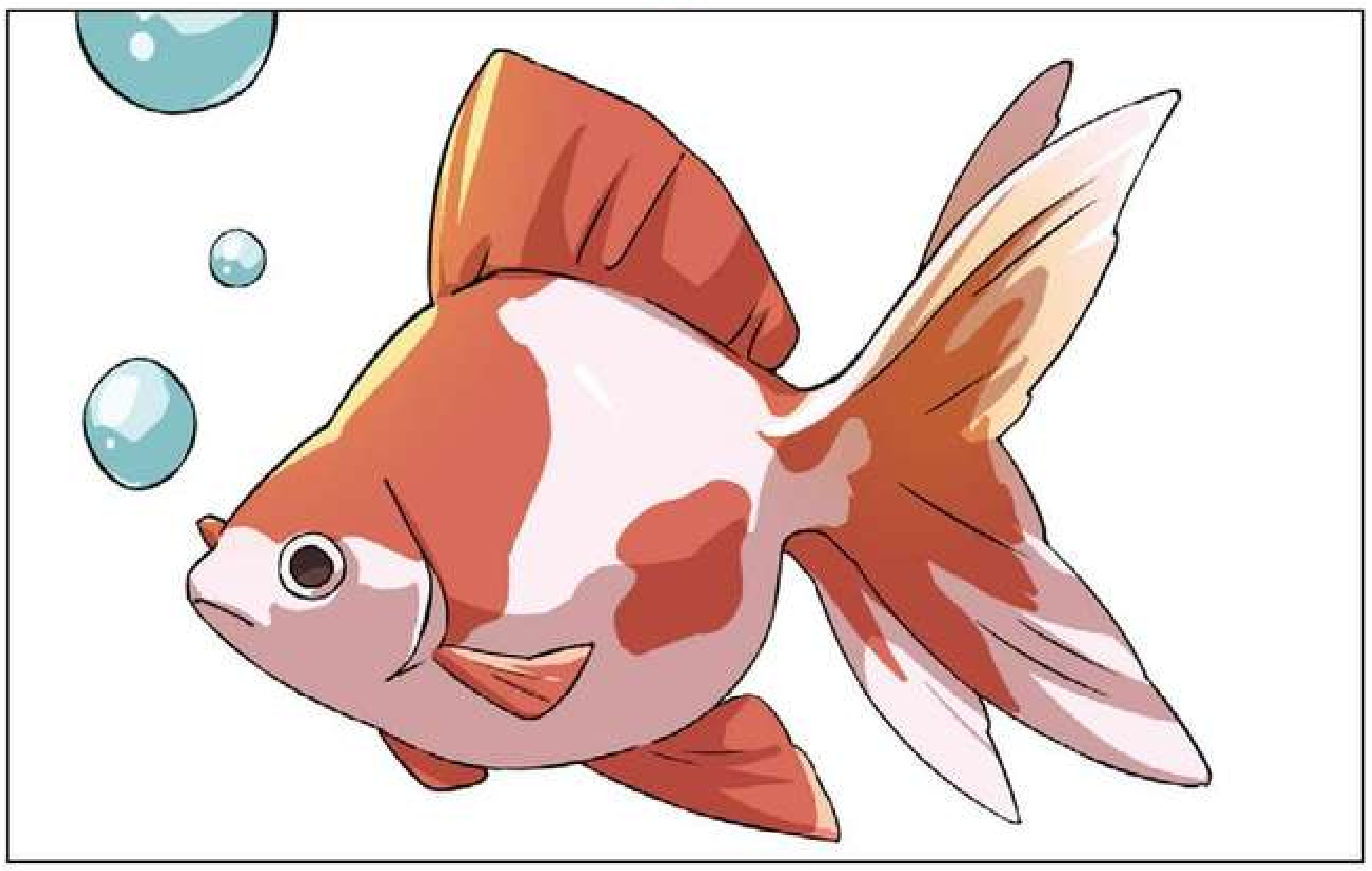
エアブラシを使ってグラデーションを入れていきます。
金魚の下塗りをしたレイヤーの上に新規ラスターレイヤーを作成し(「黄色」レイヤー)、[エアブラシ]ツールでふんわりと黄色を塗ります。



2

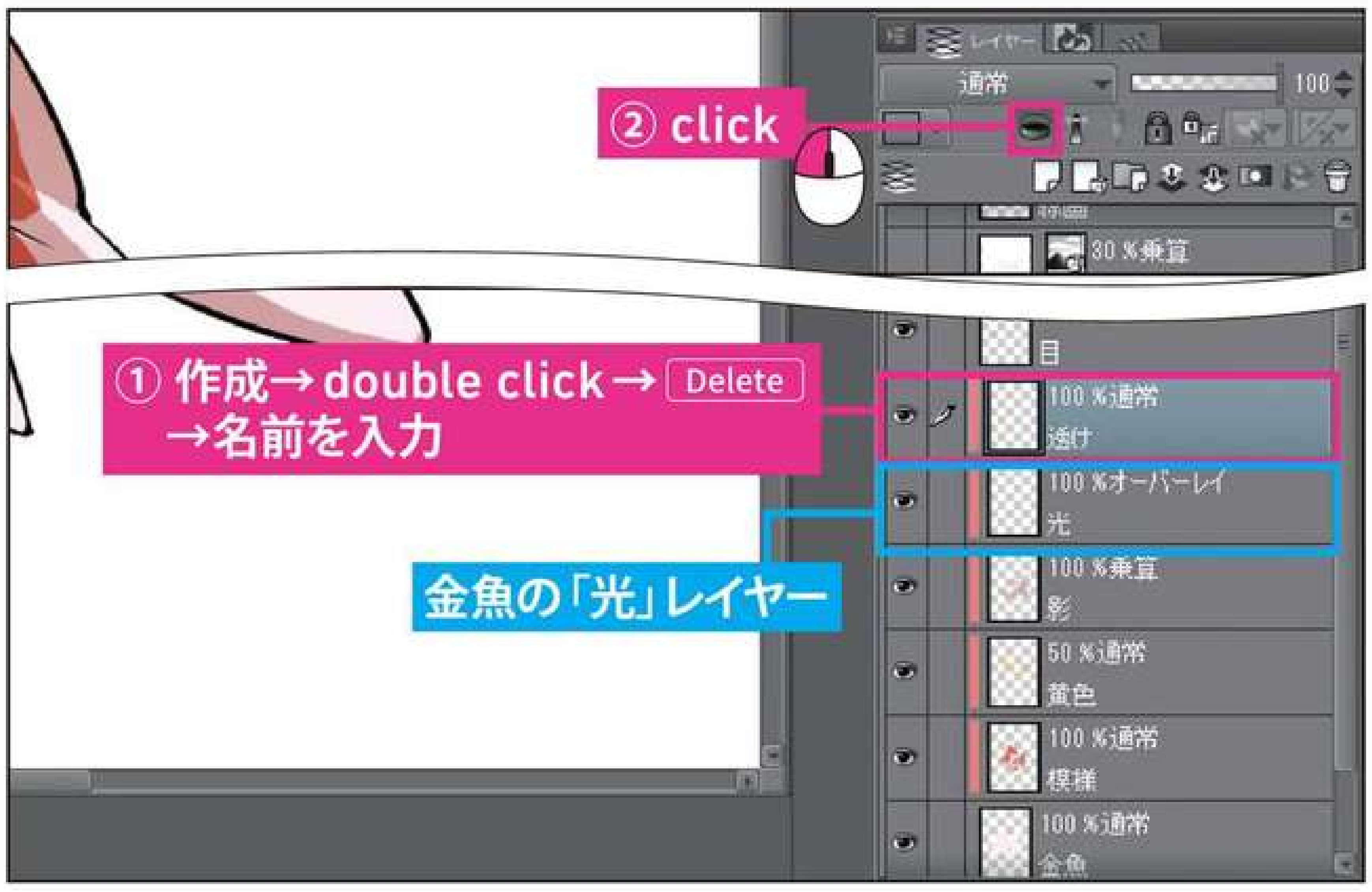
黄色を塗ったら、レイヤーの不透明度を調整します。
ここでは「50%」にしました。





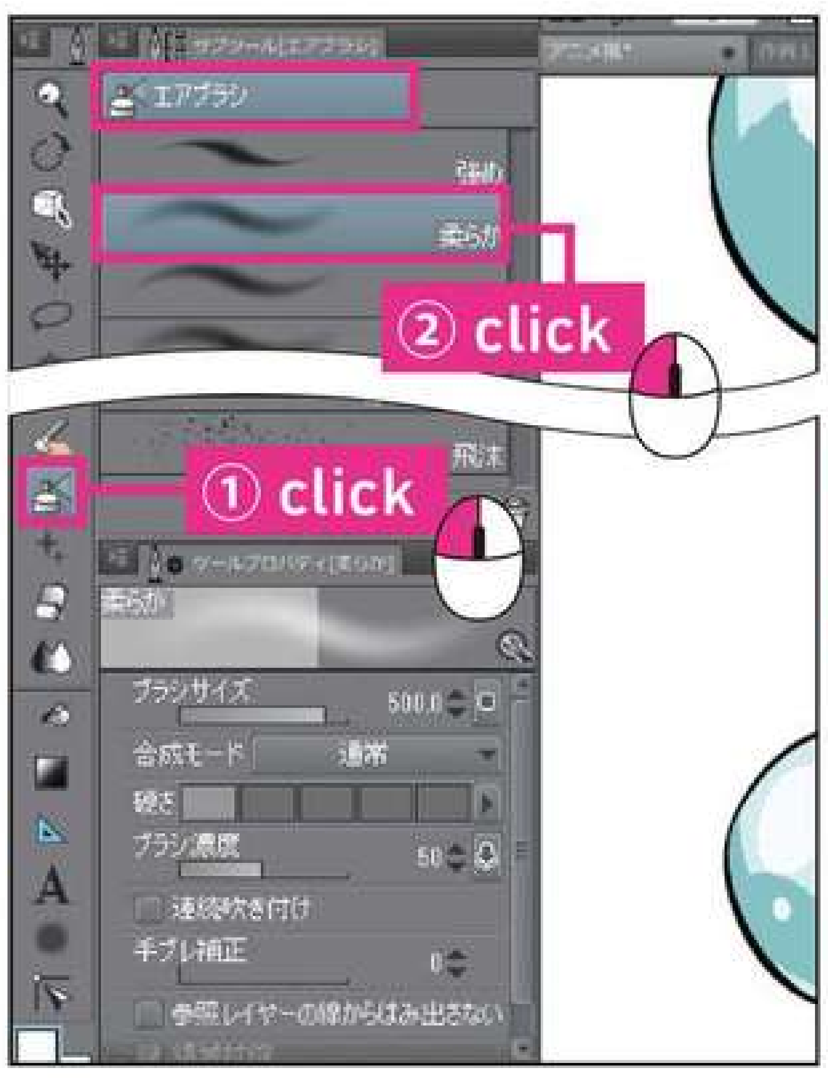
3

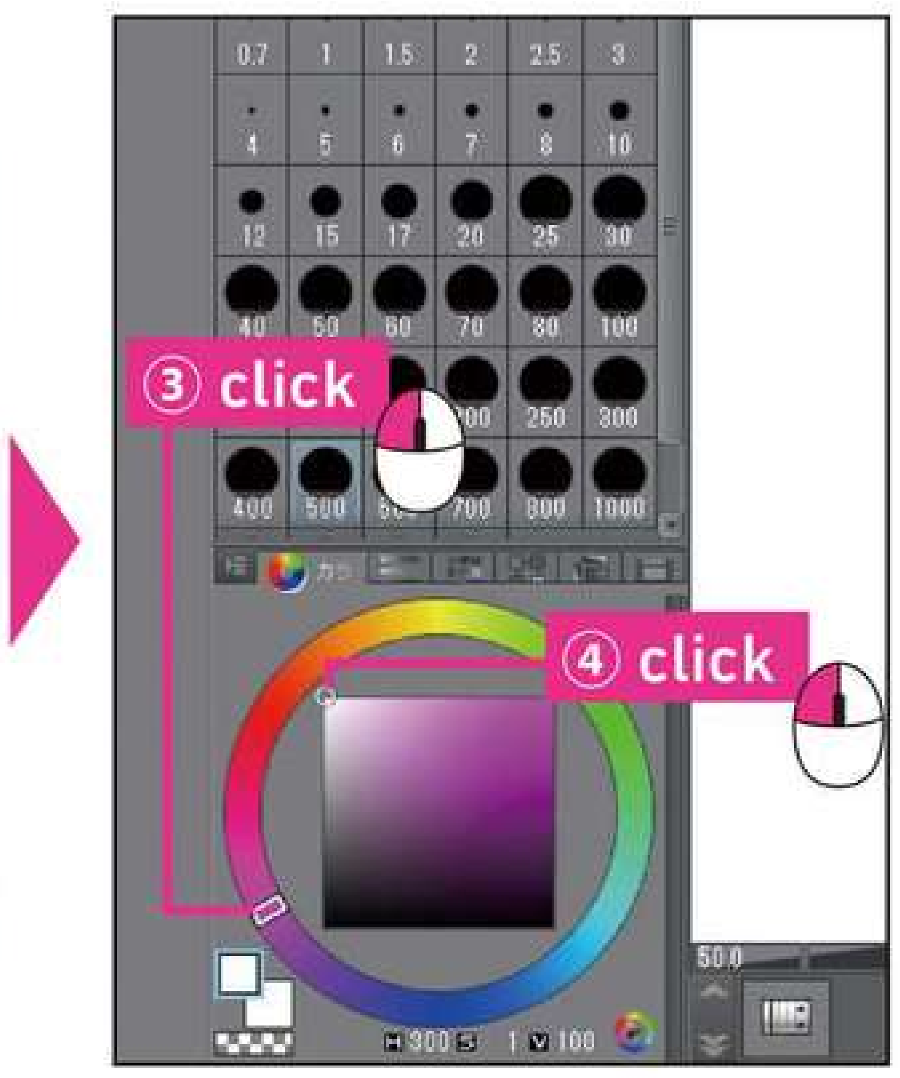
金魚の「光」レイヤーの上に新しいレイヤーを用意し（レイヤー名「透け」）、［下のレイヤーでクリッピング］をクリックしてクリッピングします。



4

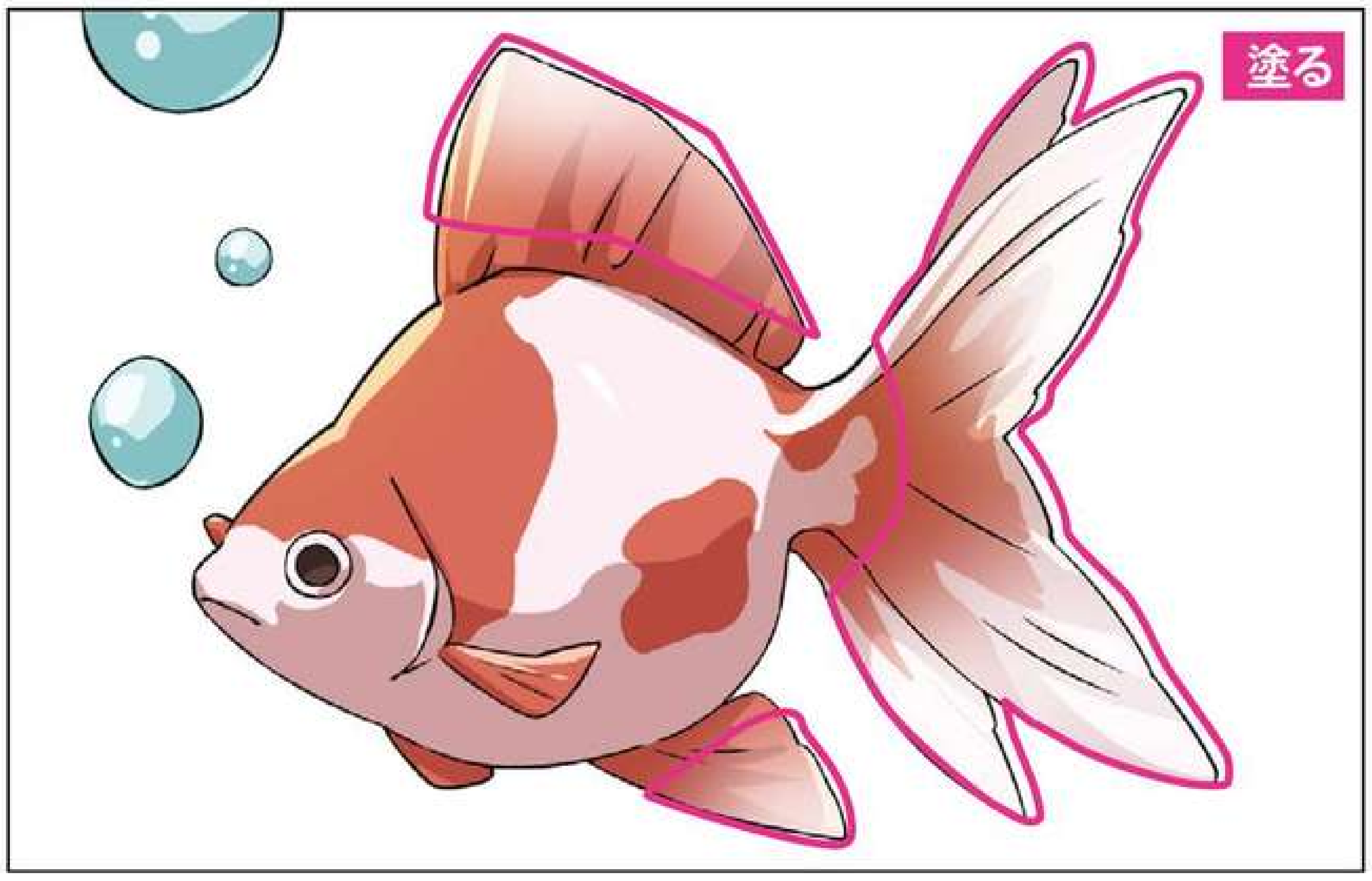
エアブラシでひれの部分に透け感を表現します。
［エアブラシ］ツールを設定し、白色を選択します。





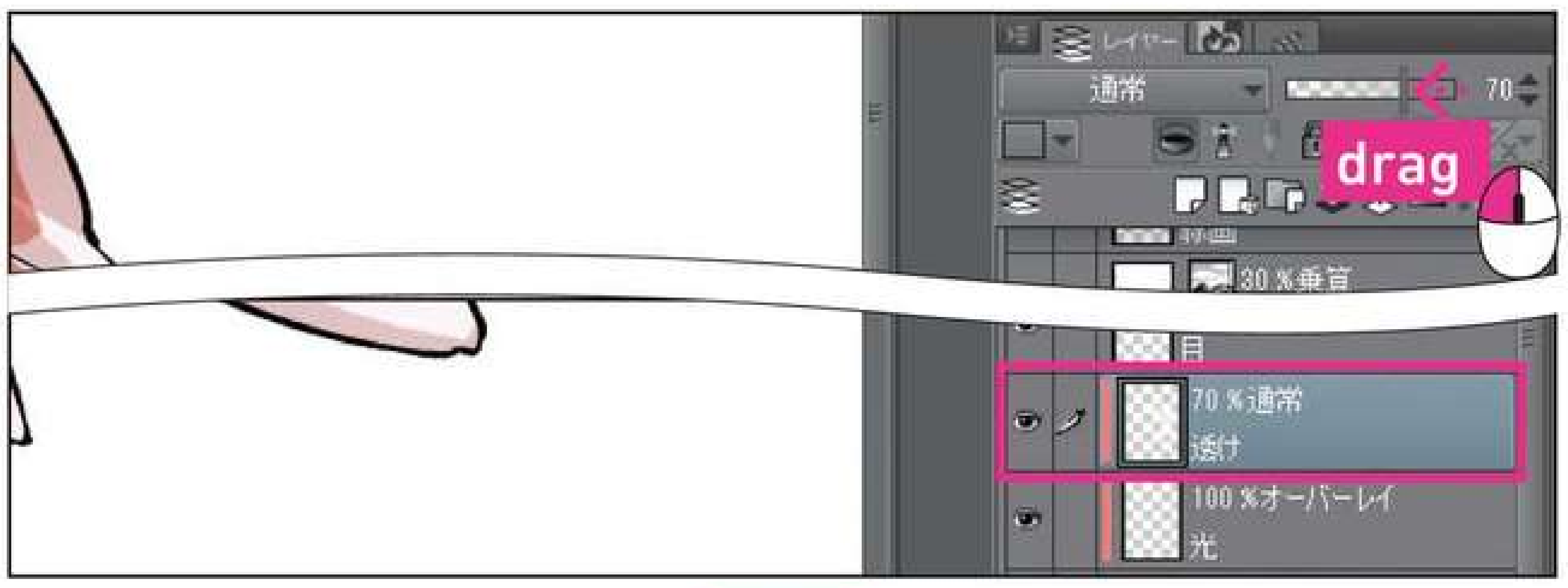
5

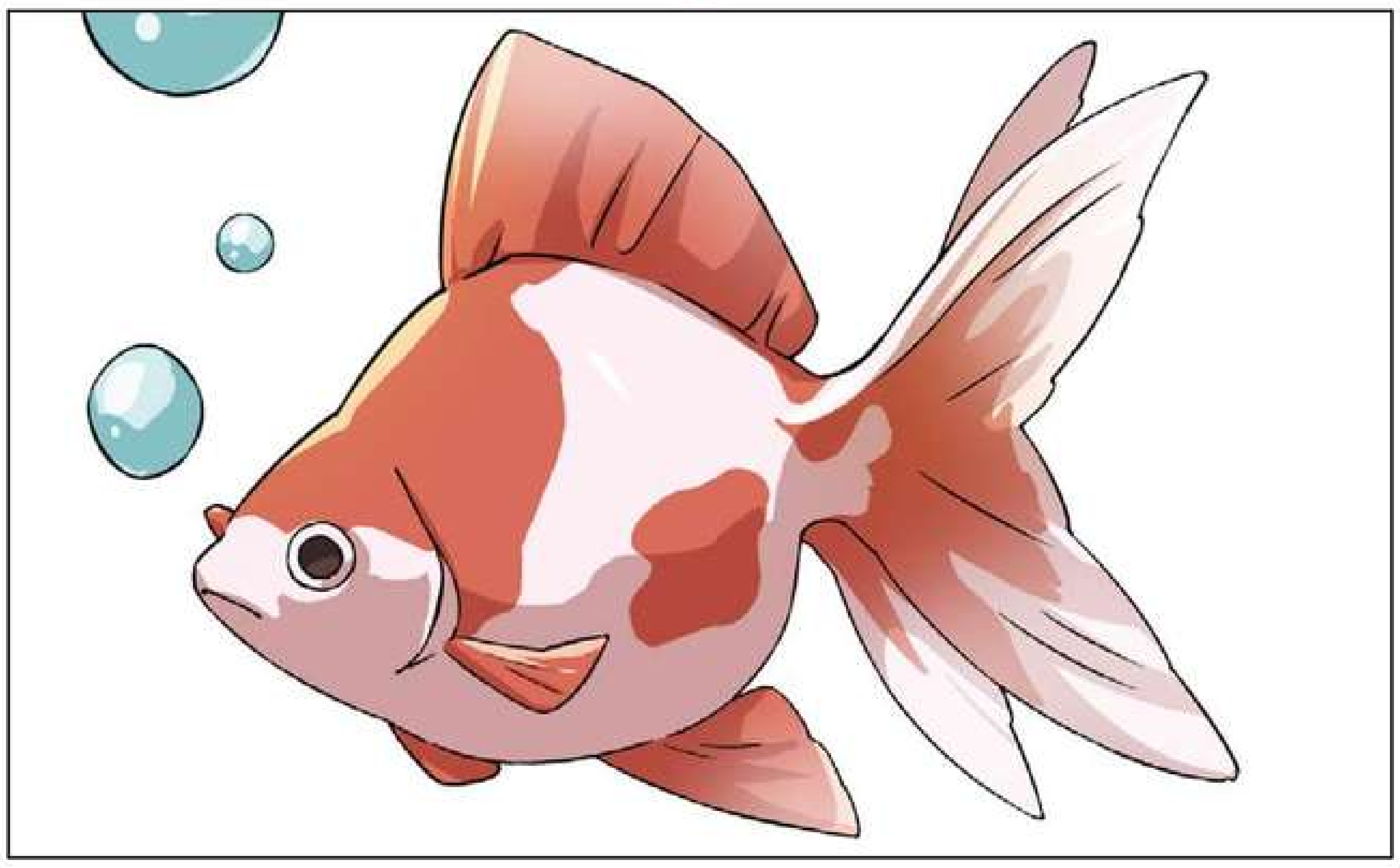
ふんわりと塗り、透け感を表現しました。



6

白色を塗ったら、レイヤーの不透明度を調整します。
ここでは「70%」にしました。





7

「泡」のレイヤー上に新規ラスターレイヤーを作成し（「グラデーション」レイヤー）、下のレイヤーでクリッピング］をクリックしてクリッピングします。［エアブラシ］ツールでふんわりと黄色やピンク色を塗ります。





Memo

グラデーションを入れることで情報量が増え、影と光だけのシンプルな塗りよりも少し豪華になります。

8

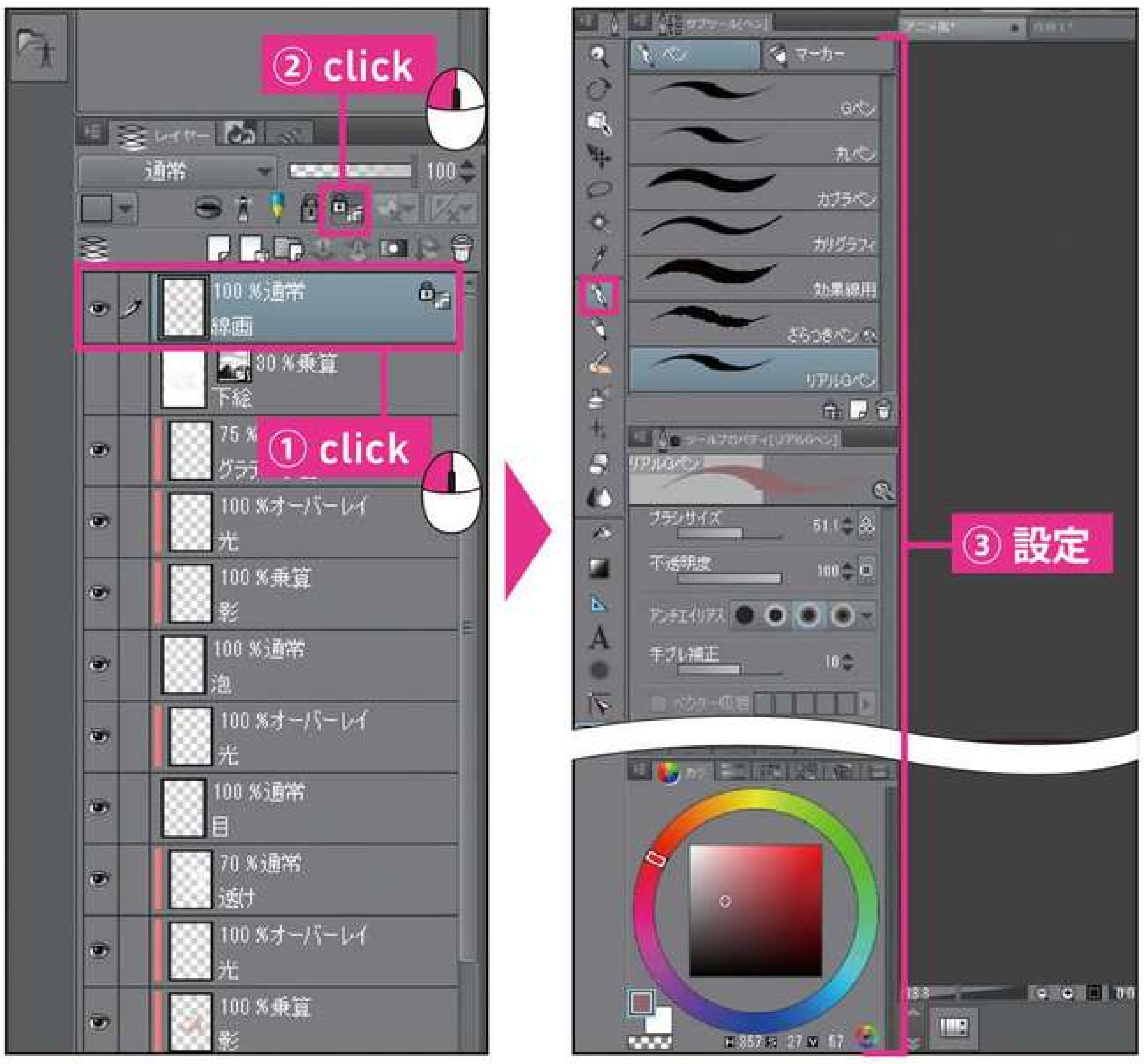
塗ったら、レイヤーの不透明度を調整します。
ここでは「75%」にしました。



Step 06 線の色を変更する

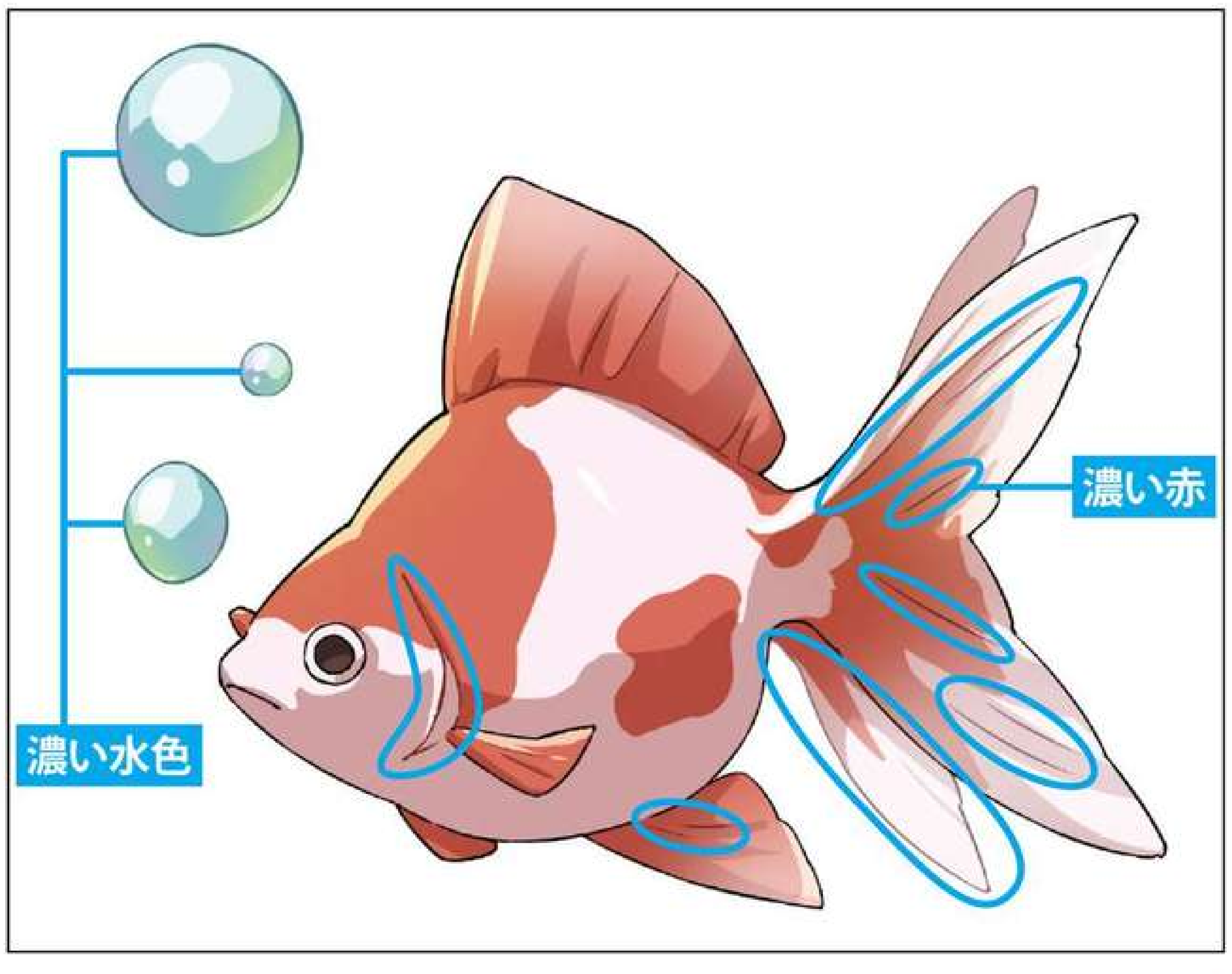
1

最後に線の色を調整します。
「線画」レイヤーを選択し、[透明ピクセルをロック]アイコンをクリックしてチェックを入れます。
[ペン]ツールで色を変えたい部分を塗っていきます。



2

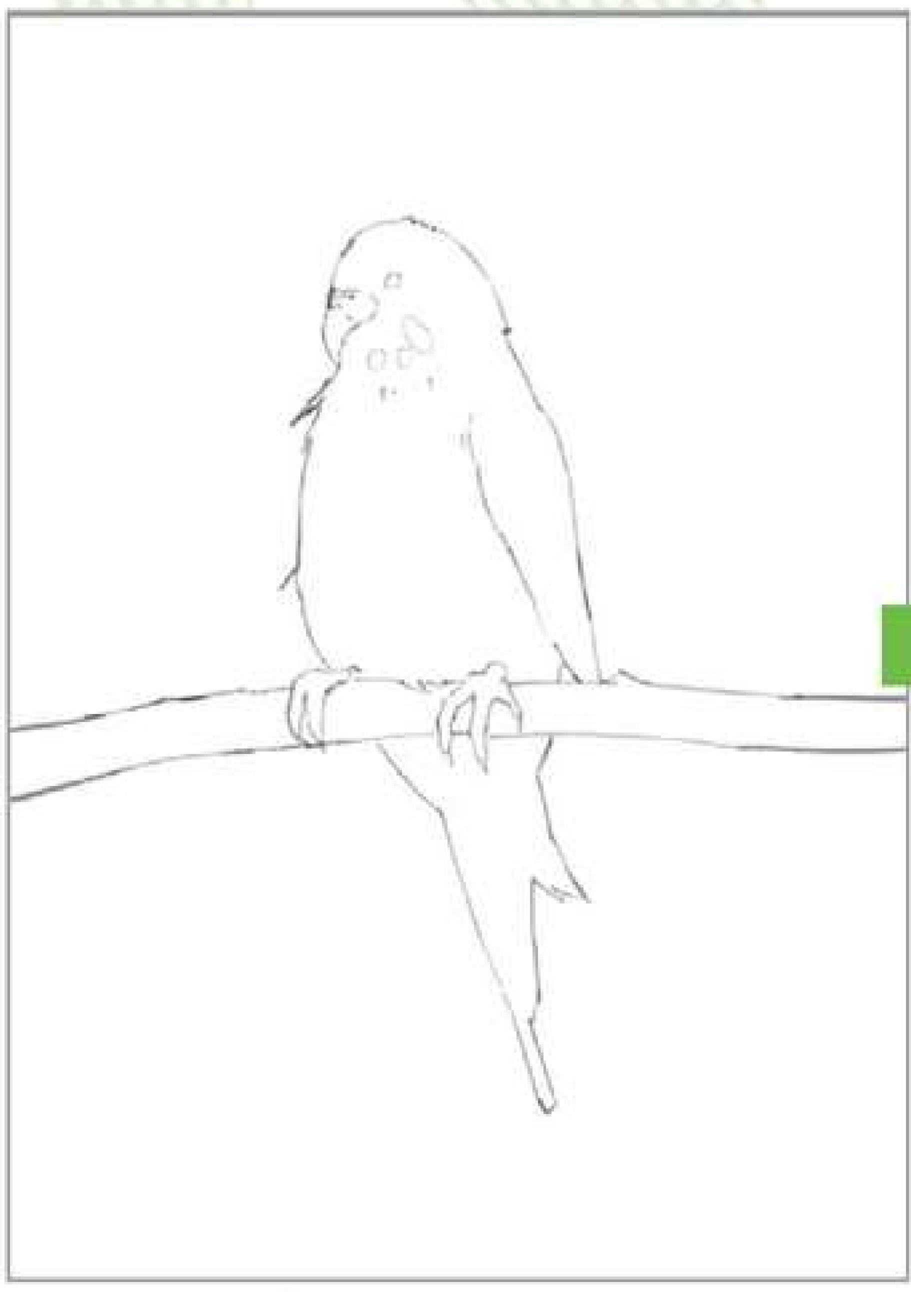
ここでは泡の線を濃い水色に、金魚のヒレの部分の線を濃い赤に変更しました。



Memo

黒色だと色が強すぎると感じた部分の色を変えています。
隣接する塗りの部分の色相の暗い色を使って塗ると違和感なく仕上がります。

水彩風に描いてみよう



Before 5-02.clip



After 5-02a.clip

水彩風のタッチで透明感のある絵を描いてみましょう。

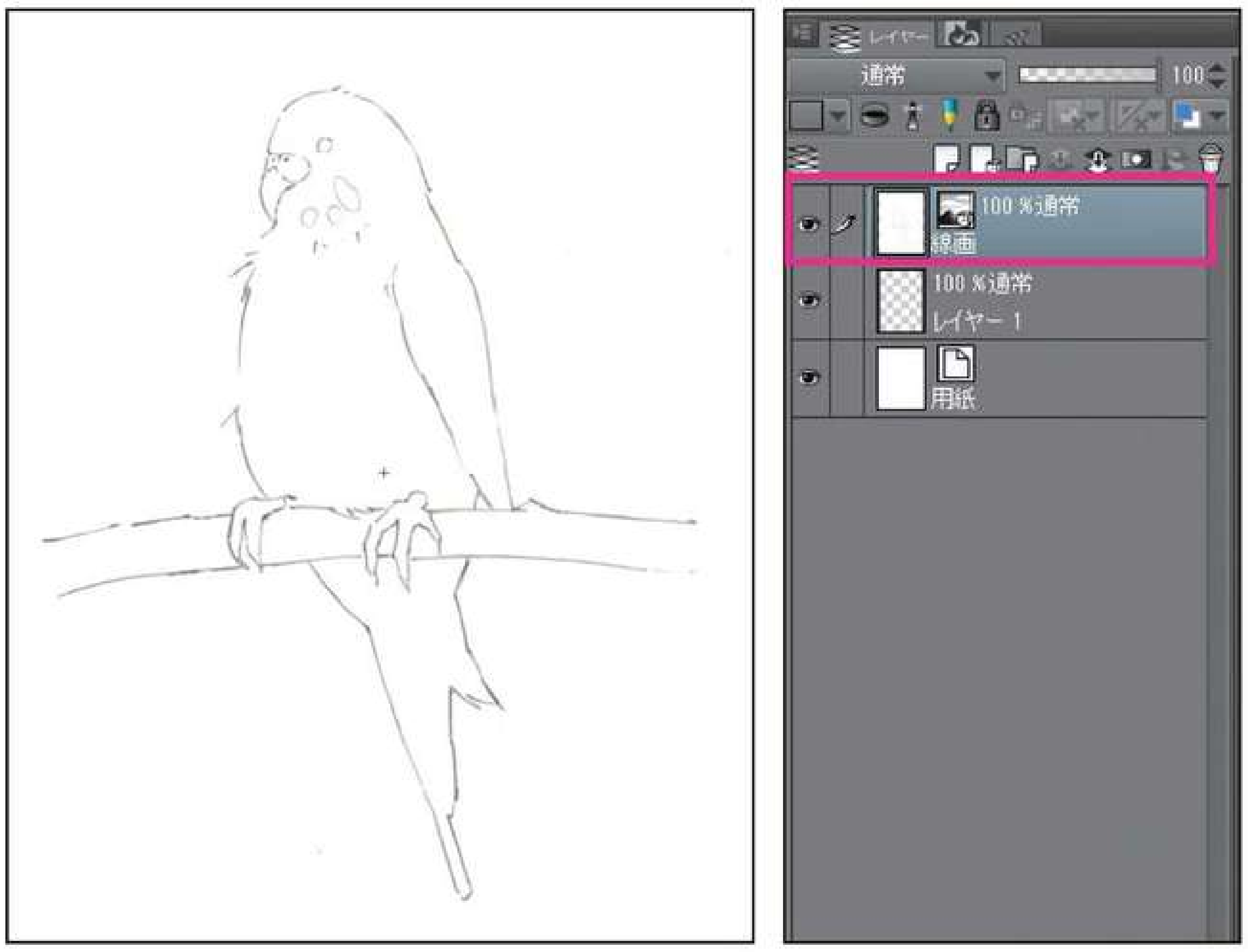
Step 01 線画をラスターレイヤーにする

1

新規キャンバスを用意し、下絵を配置します。

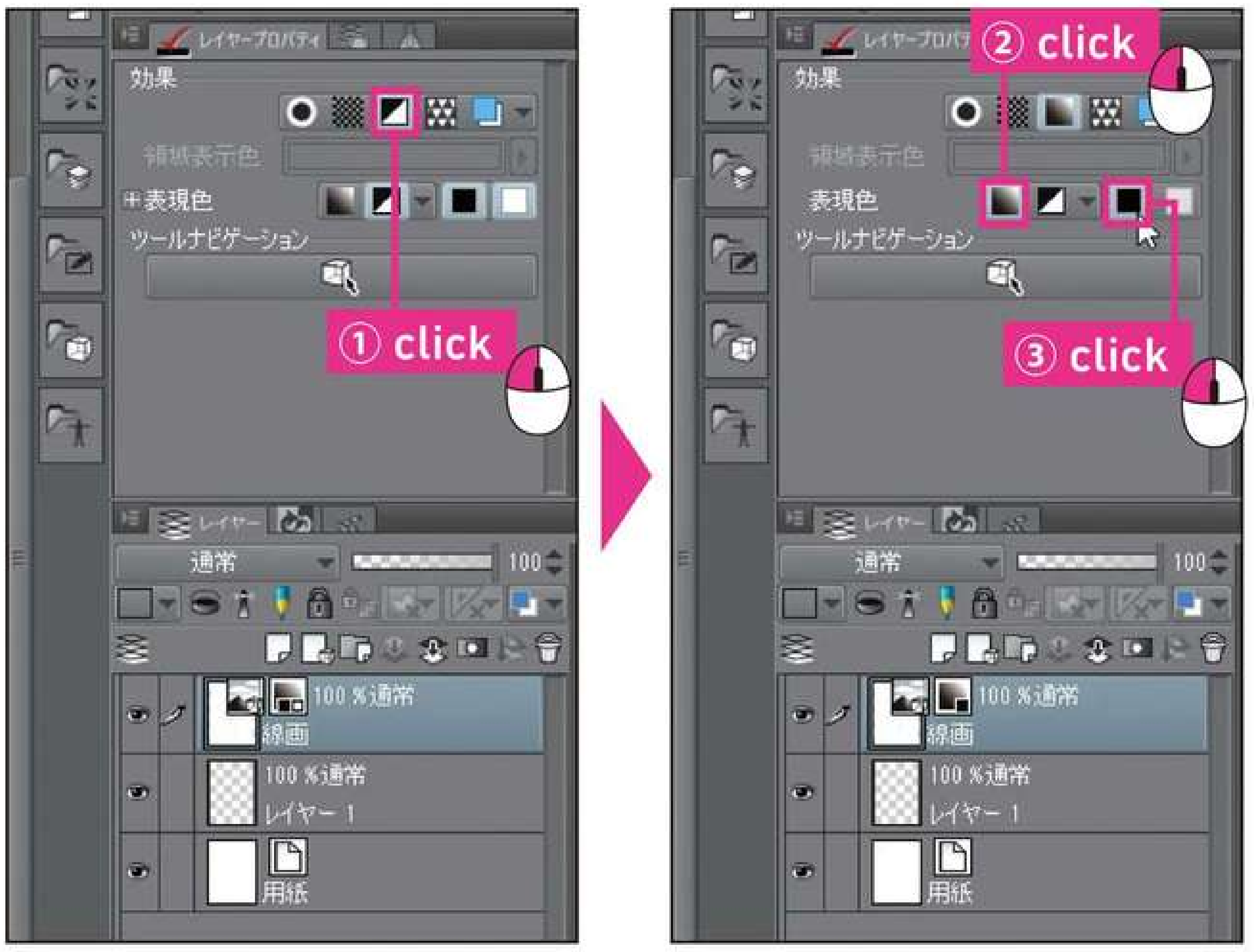
Memo

新規キャンバスの作成についてはp.28、下絵の配置方法はp.31を参照しましょう。



2

[レイヤープロパティ]パレットの[減色表示]◪をクリックします。
[表現色]を「グレー」■に設定し、[表現色を変更します]の黒色をクリックして白色のチェックを外します。

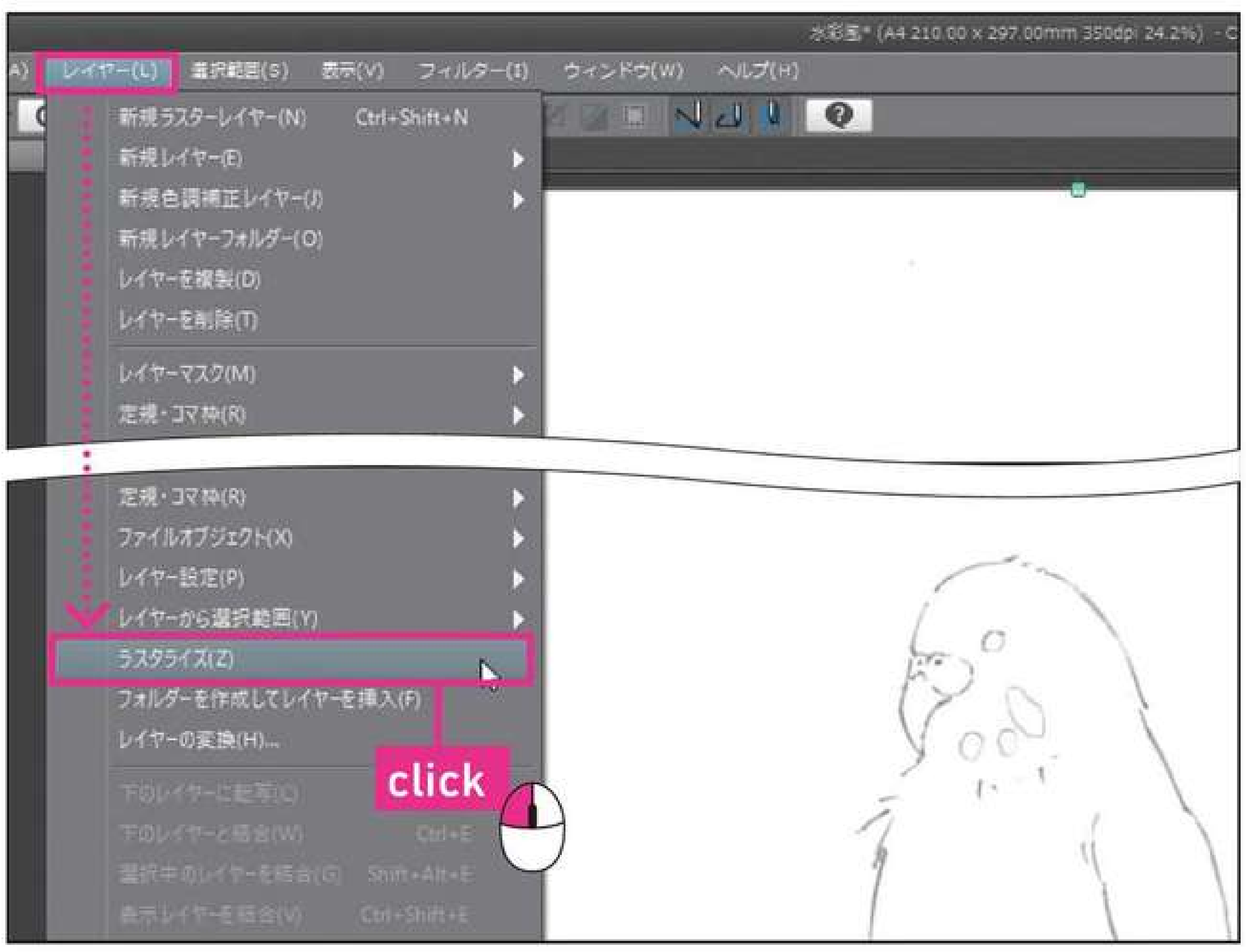


3

[レイヤー]メニュー→[ラスタライズ]の順にクリックし、オブジェクトをラスターレイヤーにします。

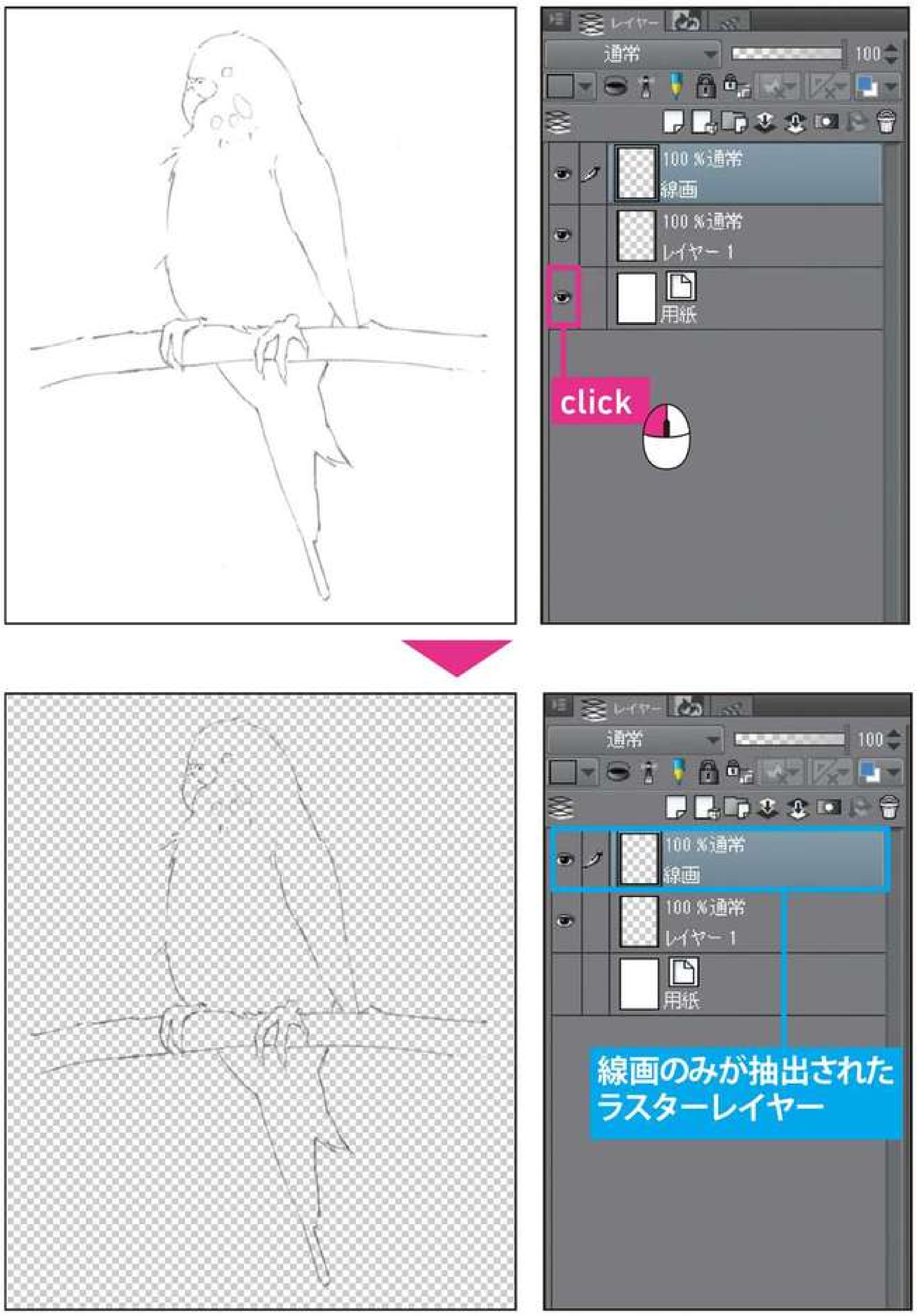
Memo

スキャンしただけではレイヤーの種類が[画像素材レイヤー]になっており、上から描いたり消したりの編集ができません。
[ラスターレイヤー]に変換してそういった編集ができるようにします。



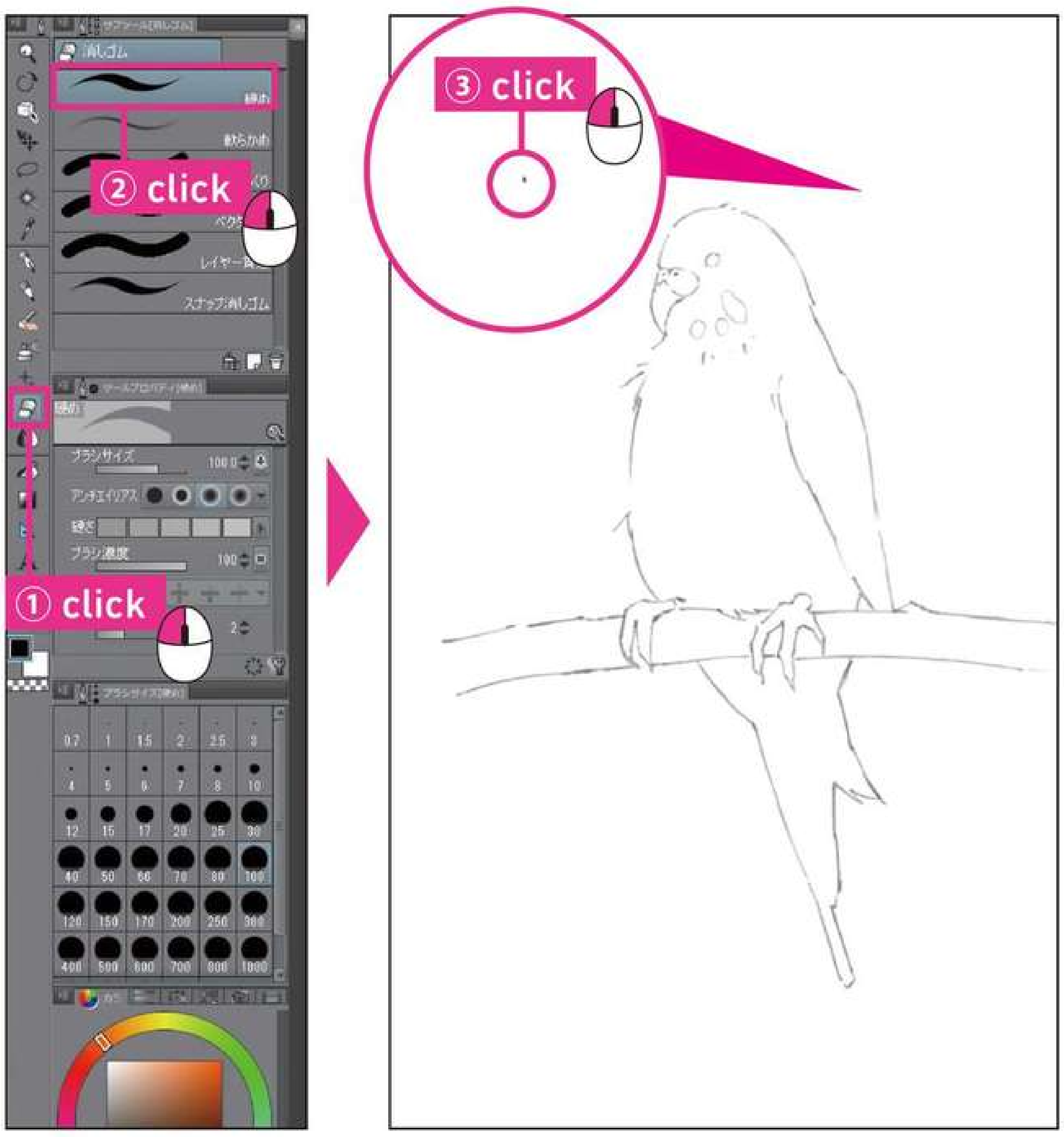
4

「用紙」レイヤーの目のアイコンをクリックして非表示にすると、線画のみが抽出されたレイヤーができています。



5

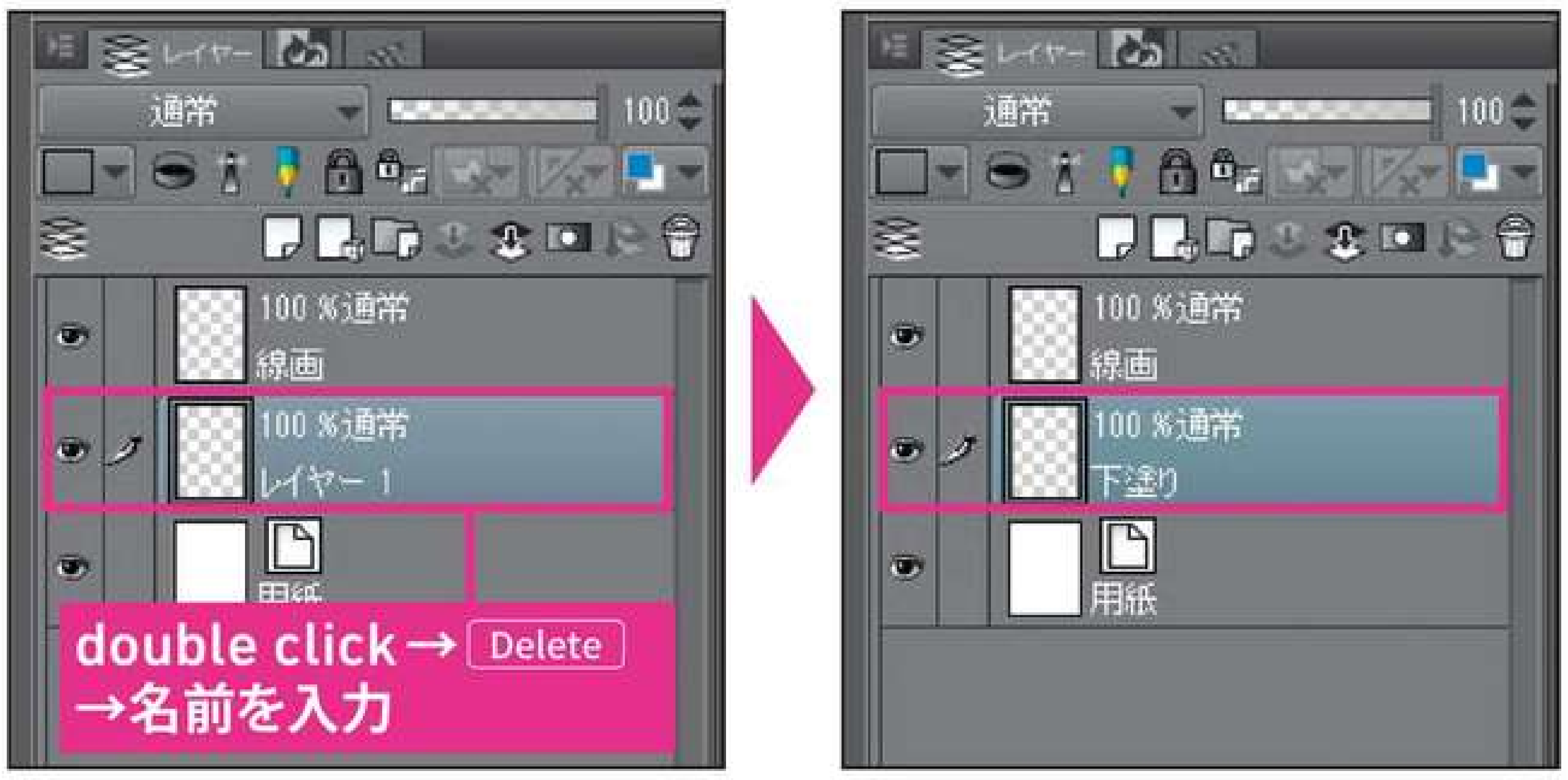
ゴミなどが気になるようなら［消しゴム］ツールで消します。



Step 02 下塗りをする

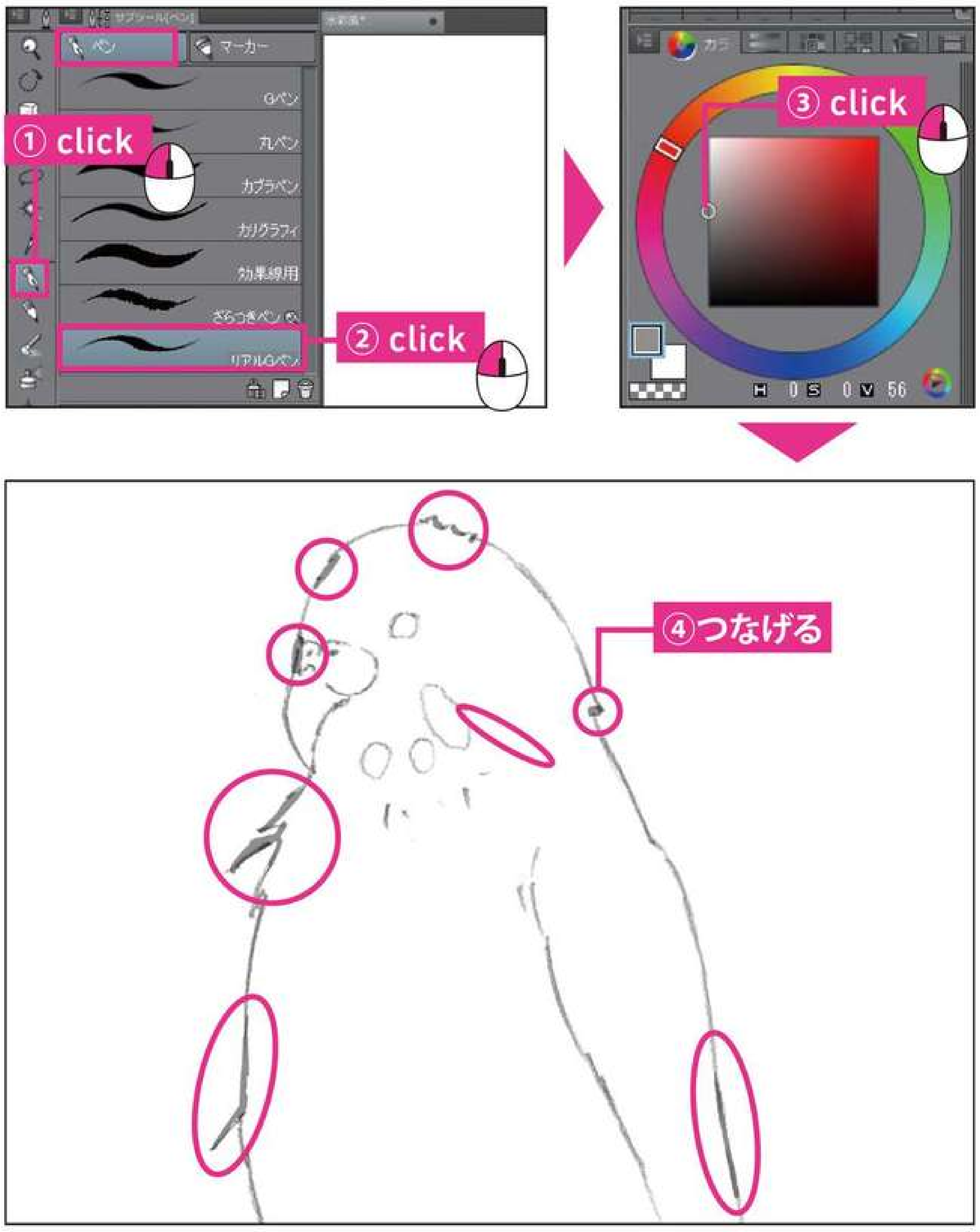
1

あらかじめ作成されているレイヤーを下塗り用のレイヤーにします。
ここではレイヤー名を「下塗り」にしました。



2

線のつながってない部分をあらかじめ[ペン]ツールで描いて、つなげておきます。
ここでは仮色でグレーを選択します。



Memo

ここでは[リアルGペン]を選択していますが、ほかのペンを選んでもかまいません。

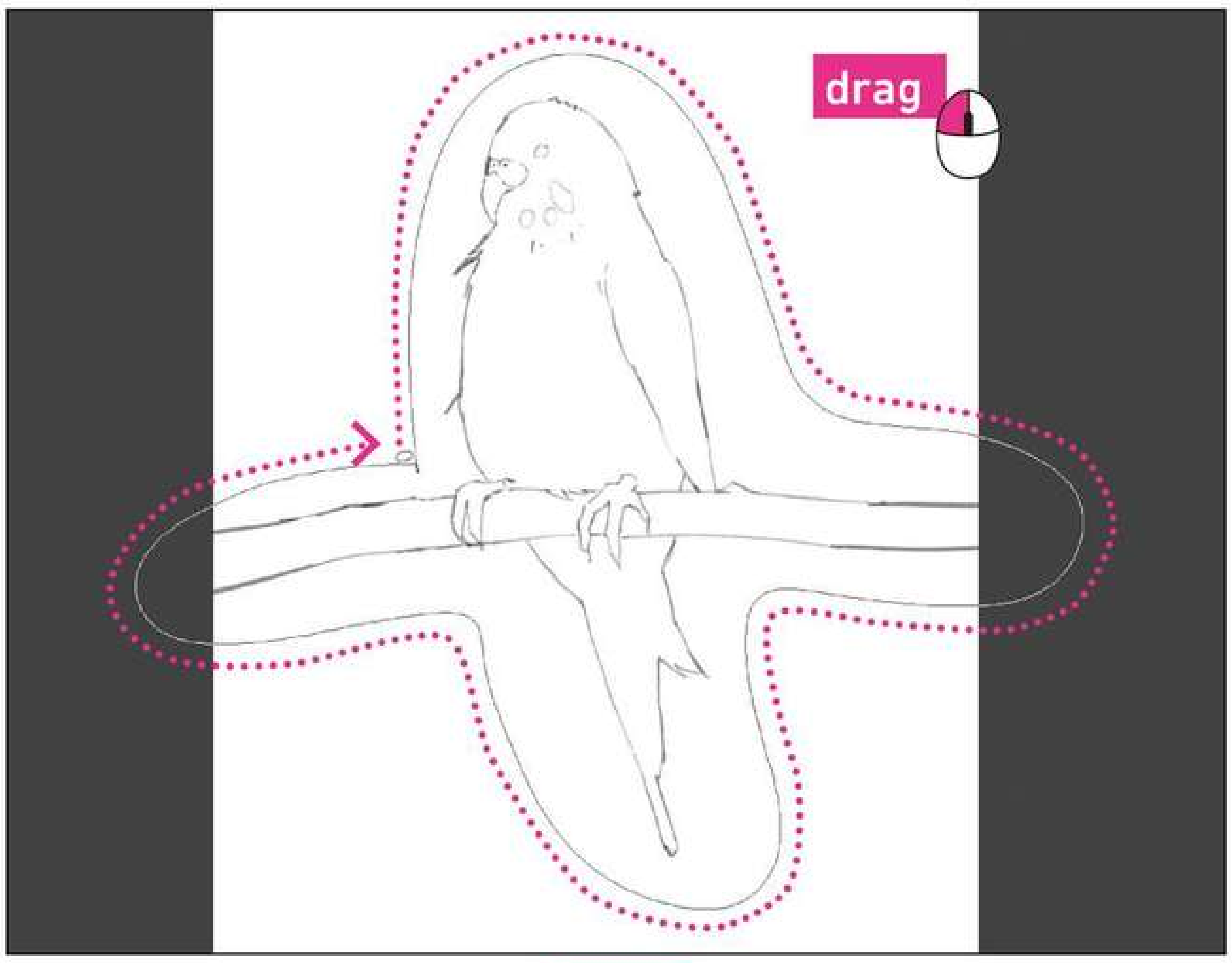
3

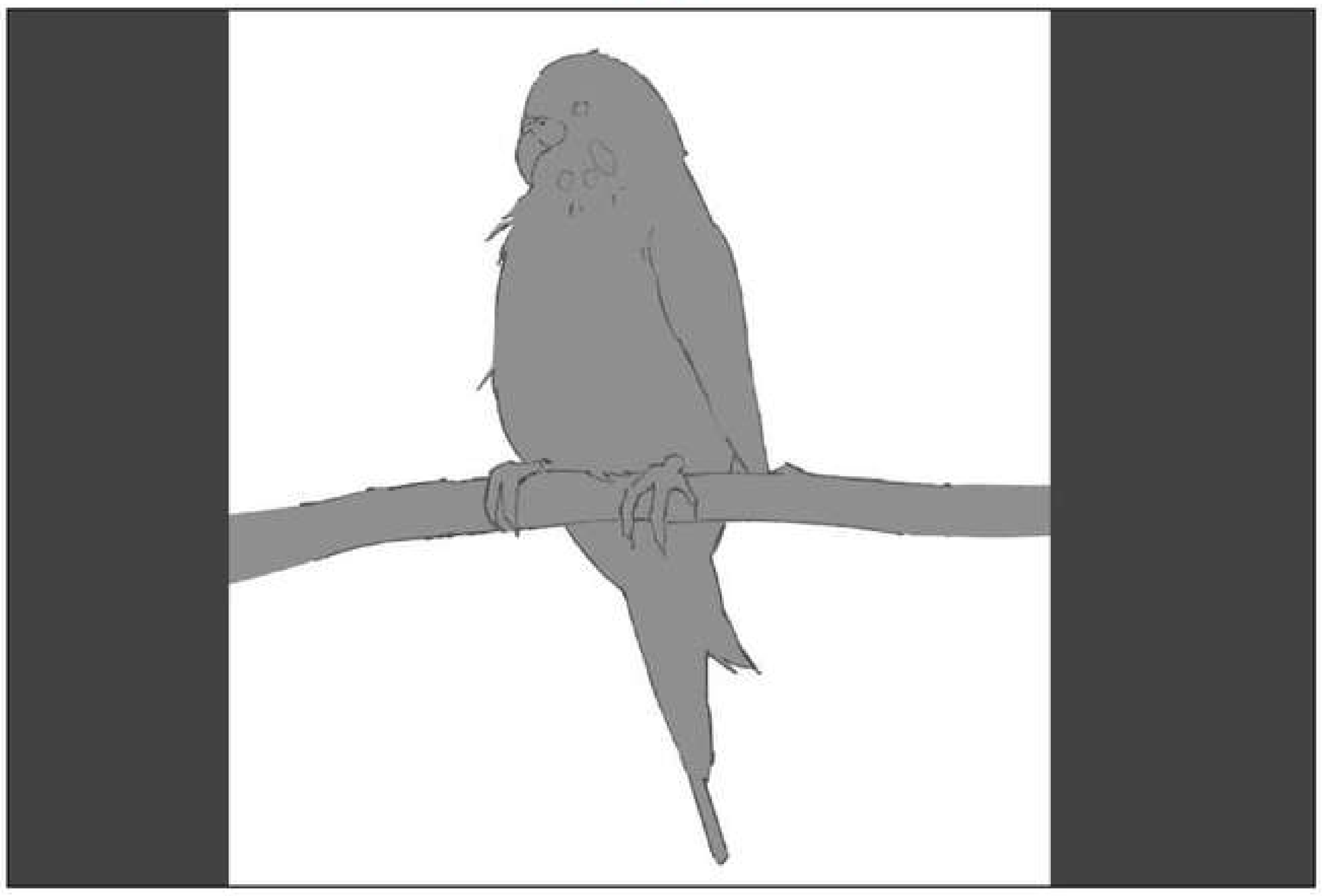
[塗りつぶし]ツールで全体を塗りつぶします。
[サブツール]パレットで[囲って塗る]を選択します。編集レイヤー以外も参照したいので、[ツールプロパティ]パレットの[複数参照]をチェックし、[すべてのレイヤー]を選択します。



4

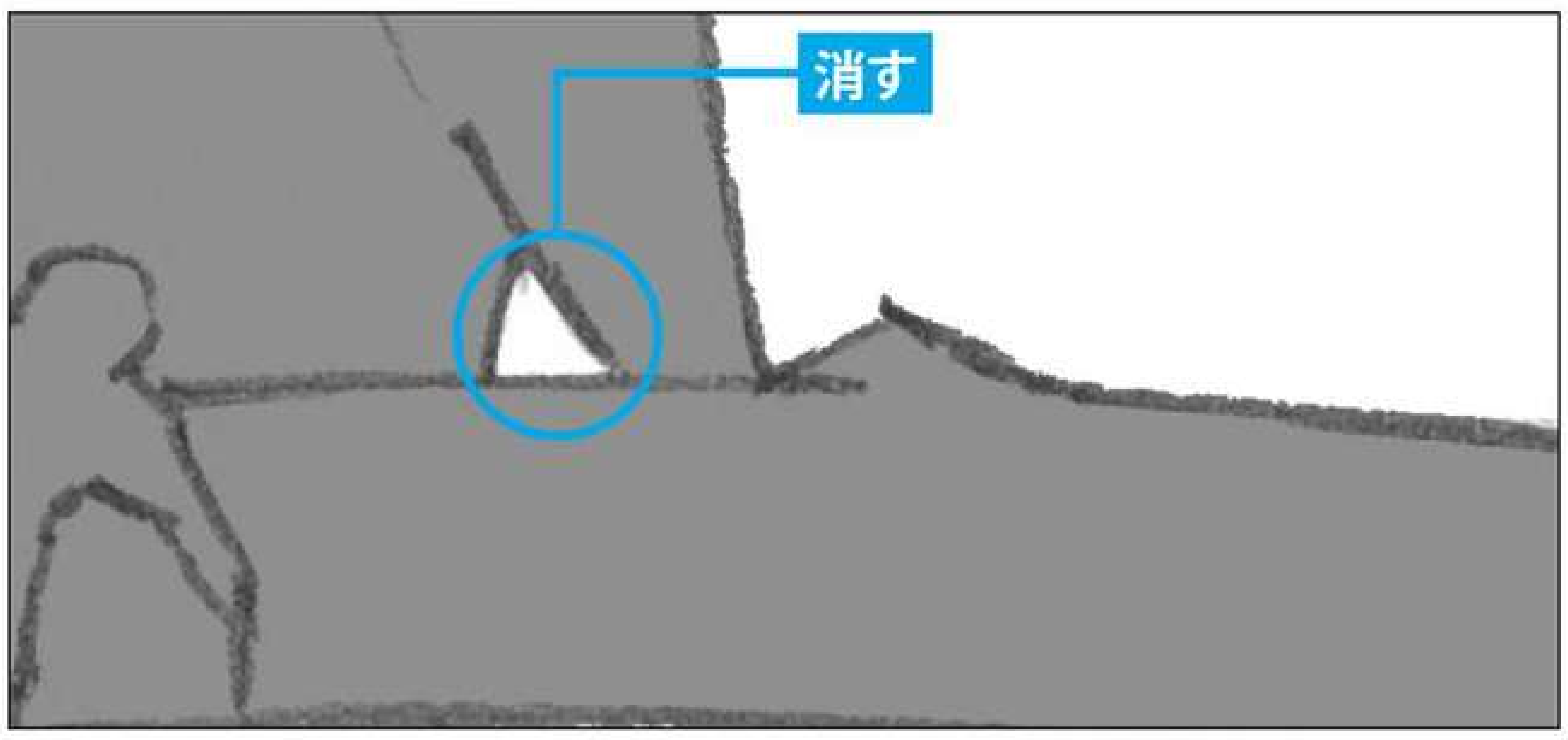
塗りつぶす部分をドラッグして囲みます。囲んだ部分が塗りつぶされます。





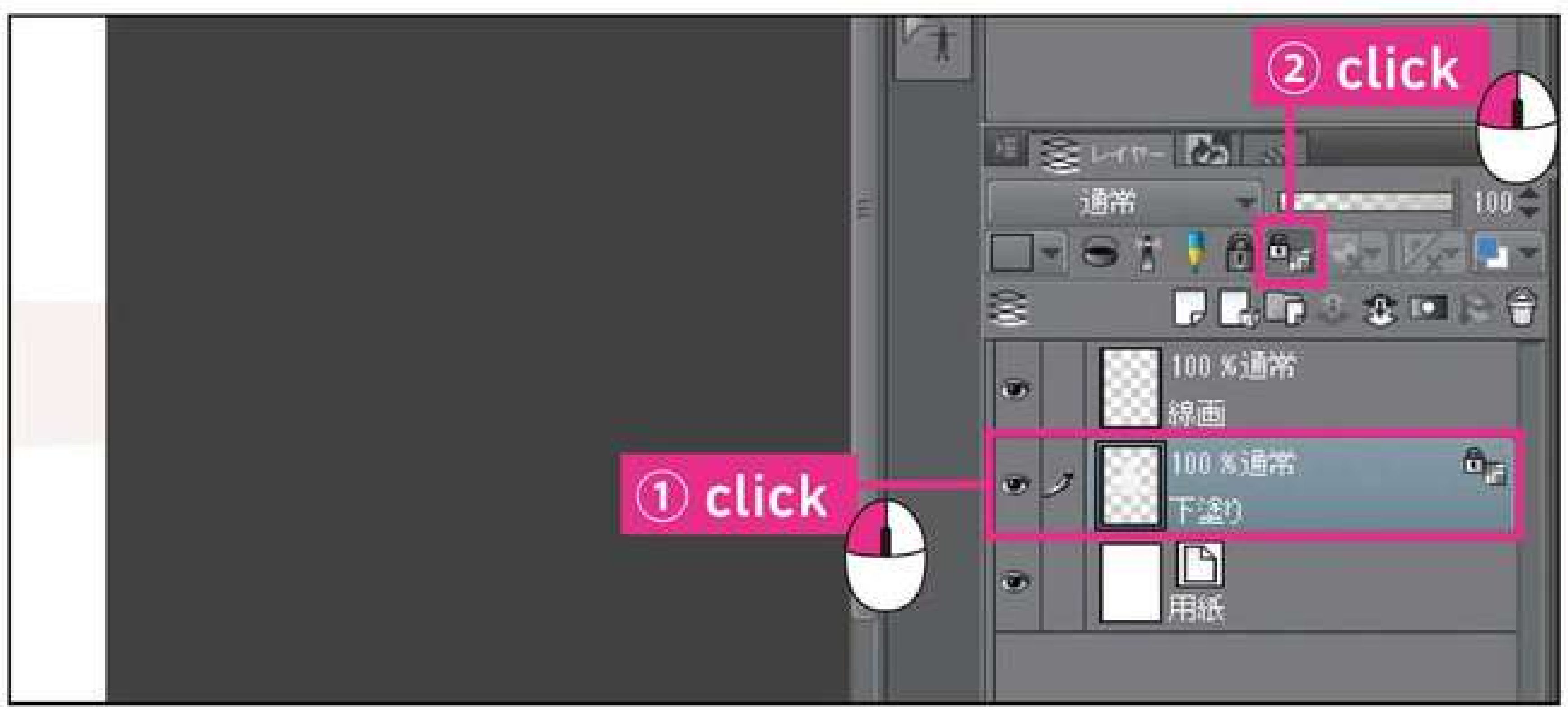
5

ここでは[囲って塗る]のあと、不必要な部分を[消しゴム]ツールで消しています。



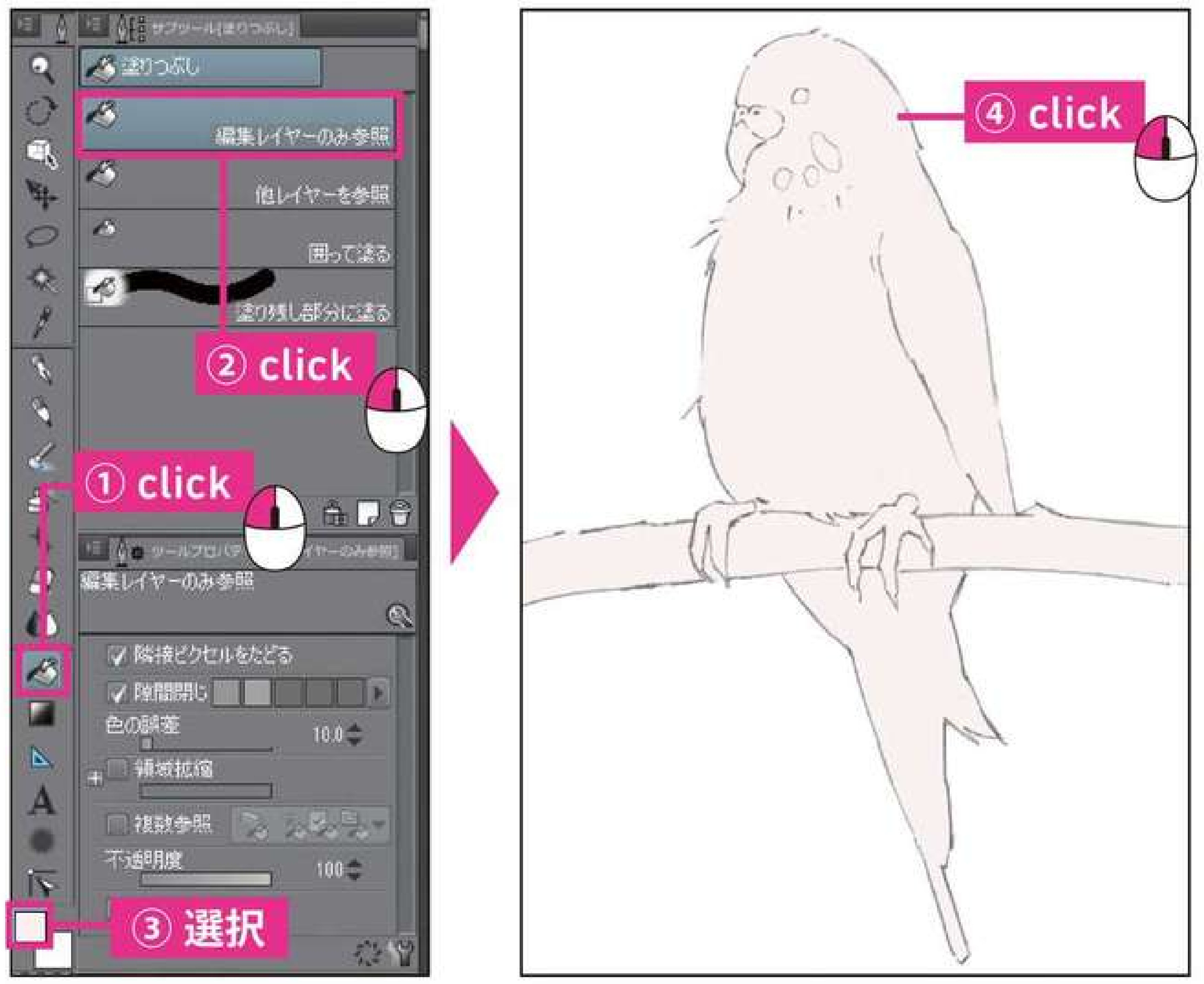
6

「下塗り」レイヤーを選択し、[透明ピクセルをロック]をクリックします。



7

グレーの仮色で塗った部分を、[塗りつぶし]ツールで白に近い色（真っ白でも可）で塗りつぶして下塗りにします。



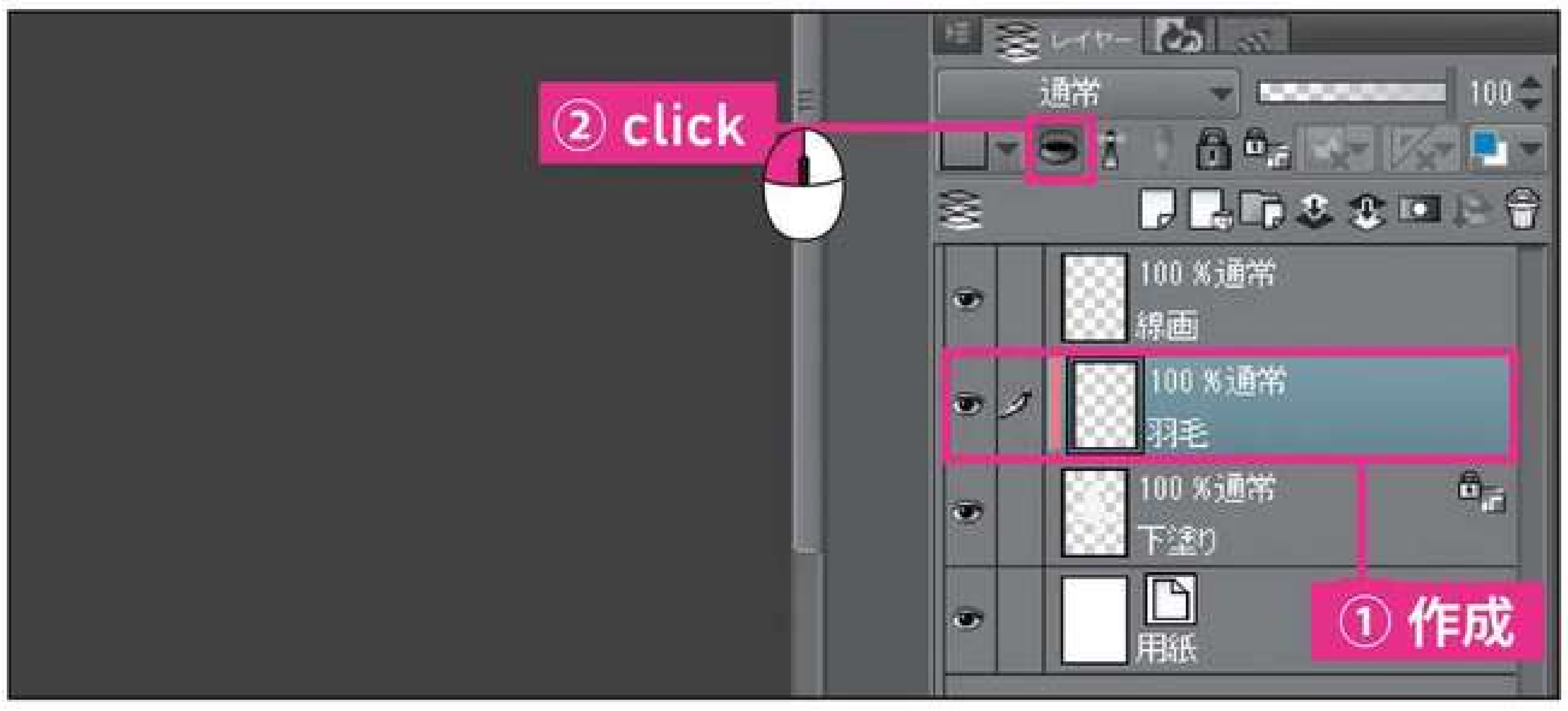
Memo

最初から白に近い色を使うと見にくくて作業しづらいので、あらかじめ濃い仮色で塗っています。

Step 03 色を塗る

1

まず体の部分から塗ります。
新規ラスターレイヤーを「下塗り」レイヤーの上に追加し（「羽毛」レイヤー）、「下塗り」レイヤーにクリッピングします。



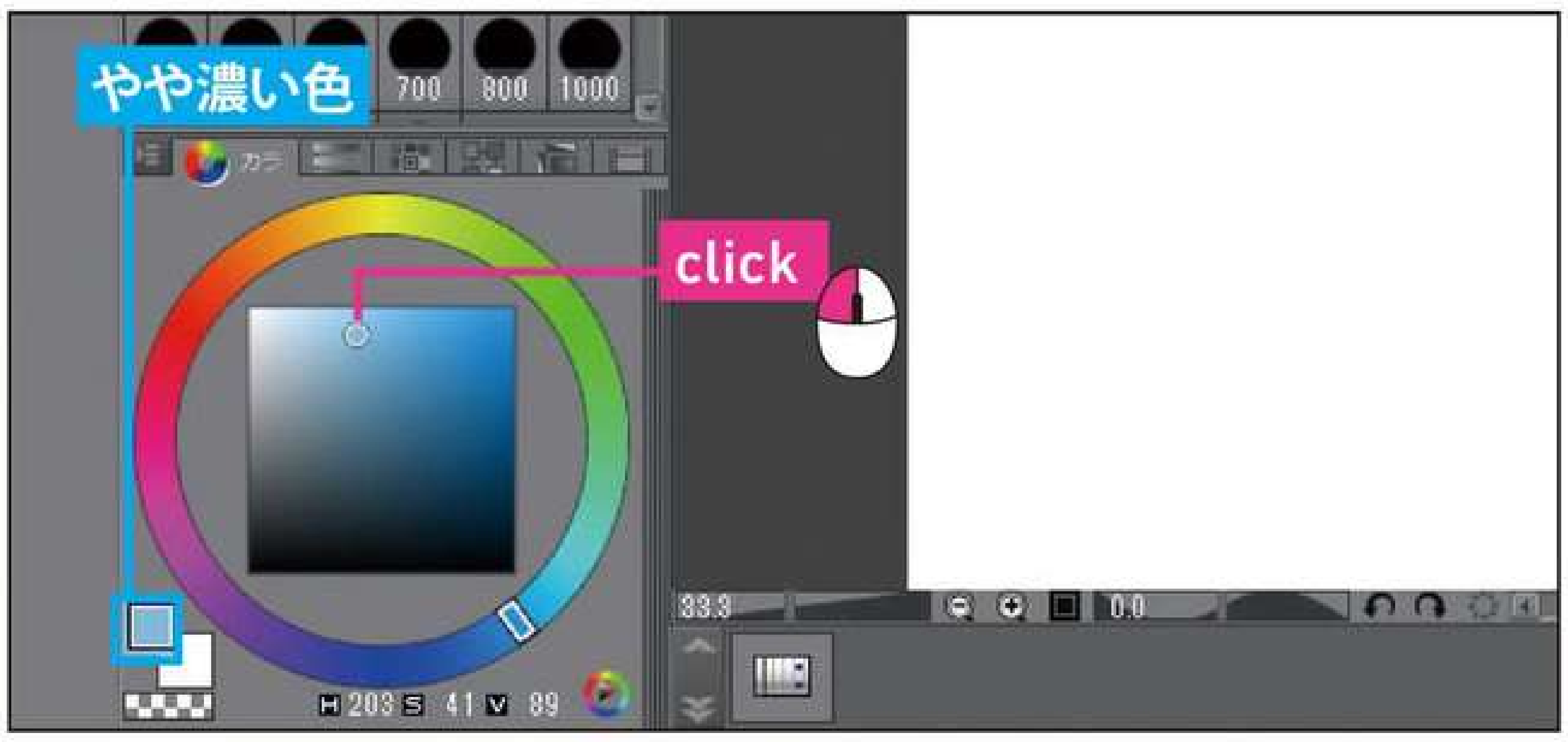
2

[筆]ツールの[水彩]の[水彩毛筆]で大ざっぱに色を乗せます。



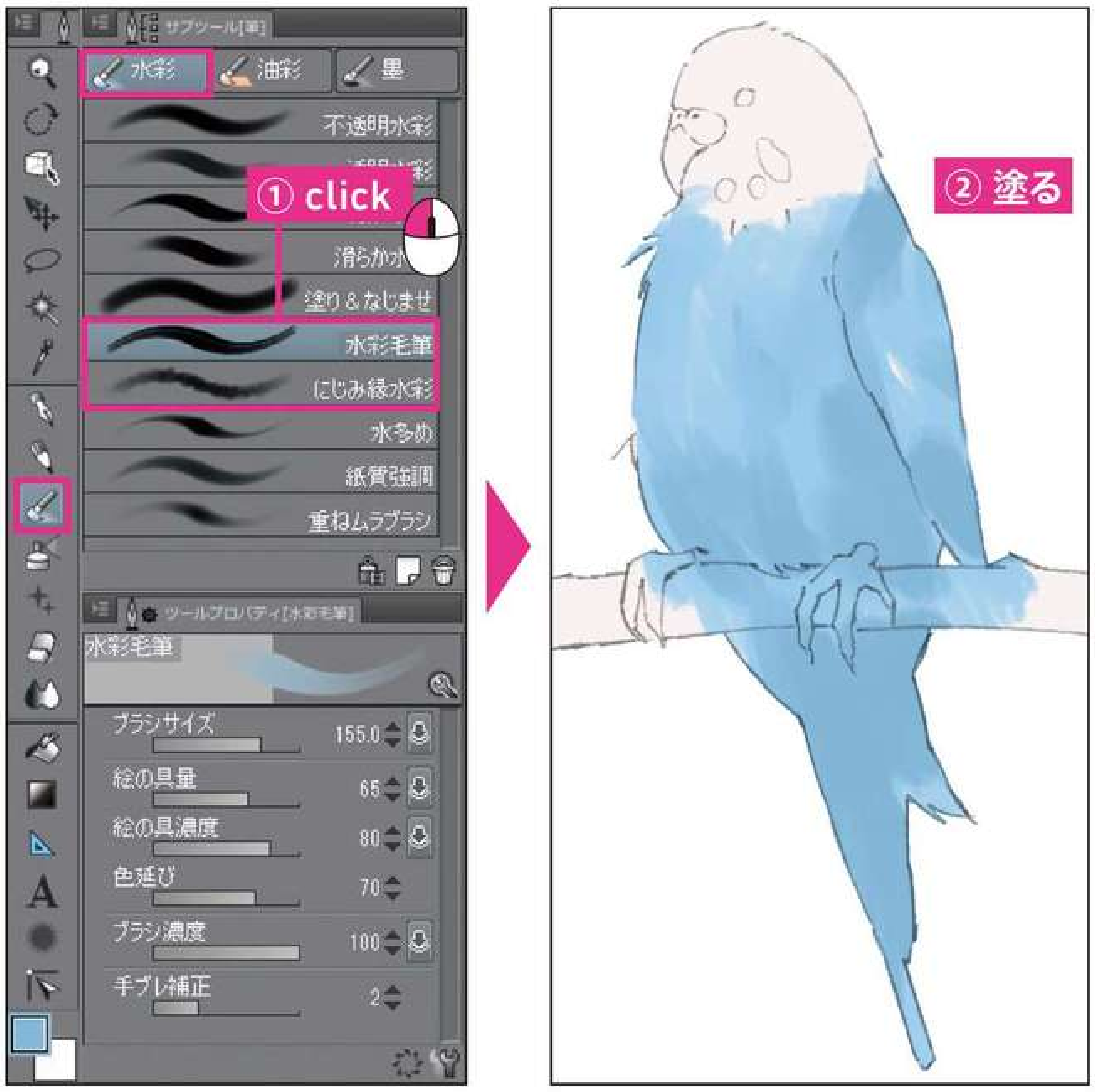
3

[カラーサークル]パレットから手順2よりやや濃い色を選択します。



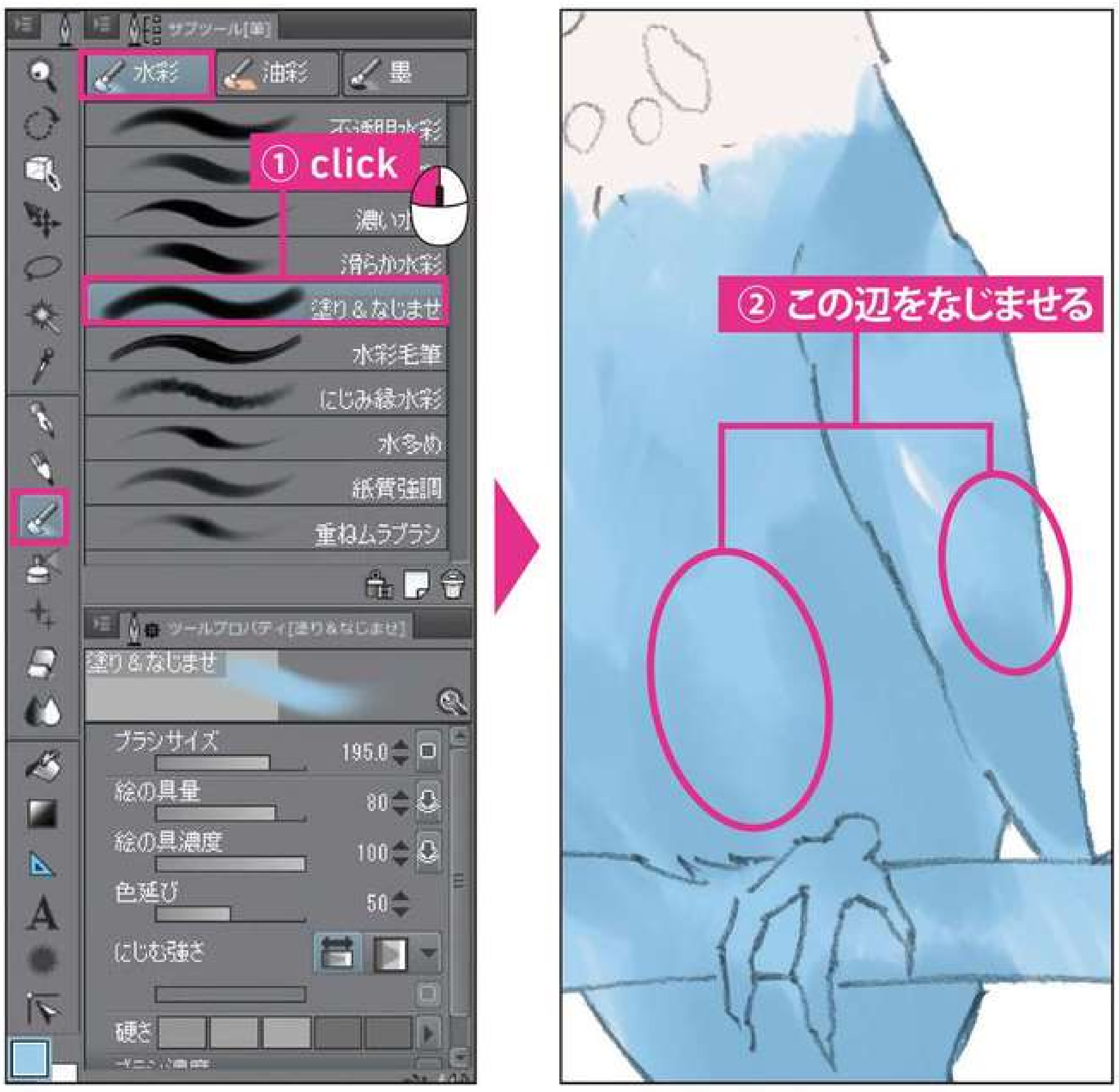
4

[筆]ツールの[水彩]の[水彩毛筆]と[にじみ縁水彩]を使ってタッチを残しながら塗っていきます。



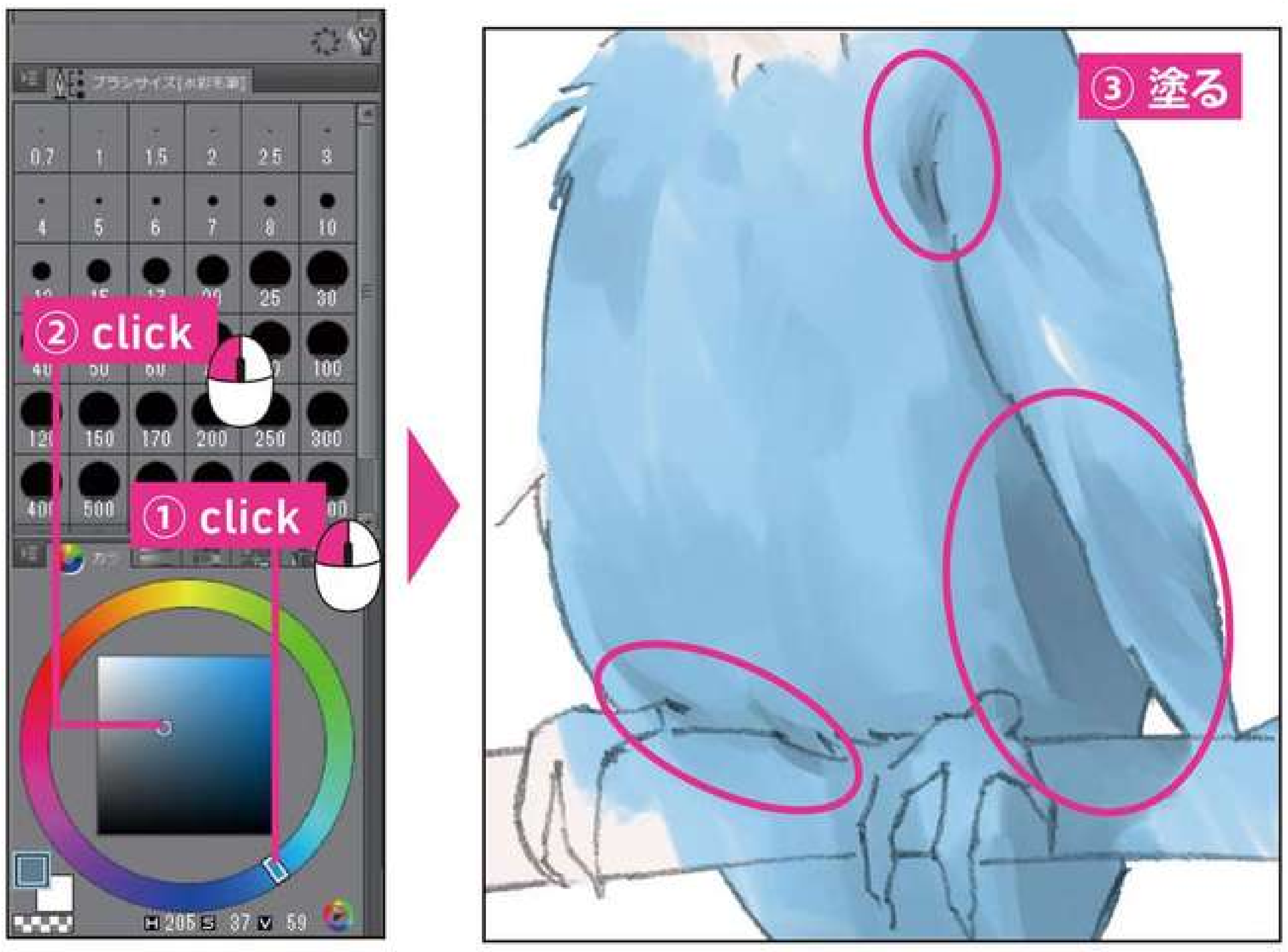
5

[筆]ツールの[水彩]の[塗り&なじませ]で部分的にタッチをなじませるとより水彩っぽくなります。



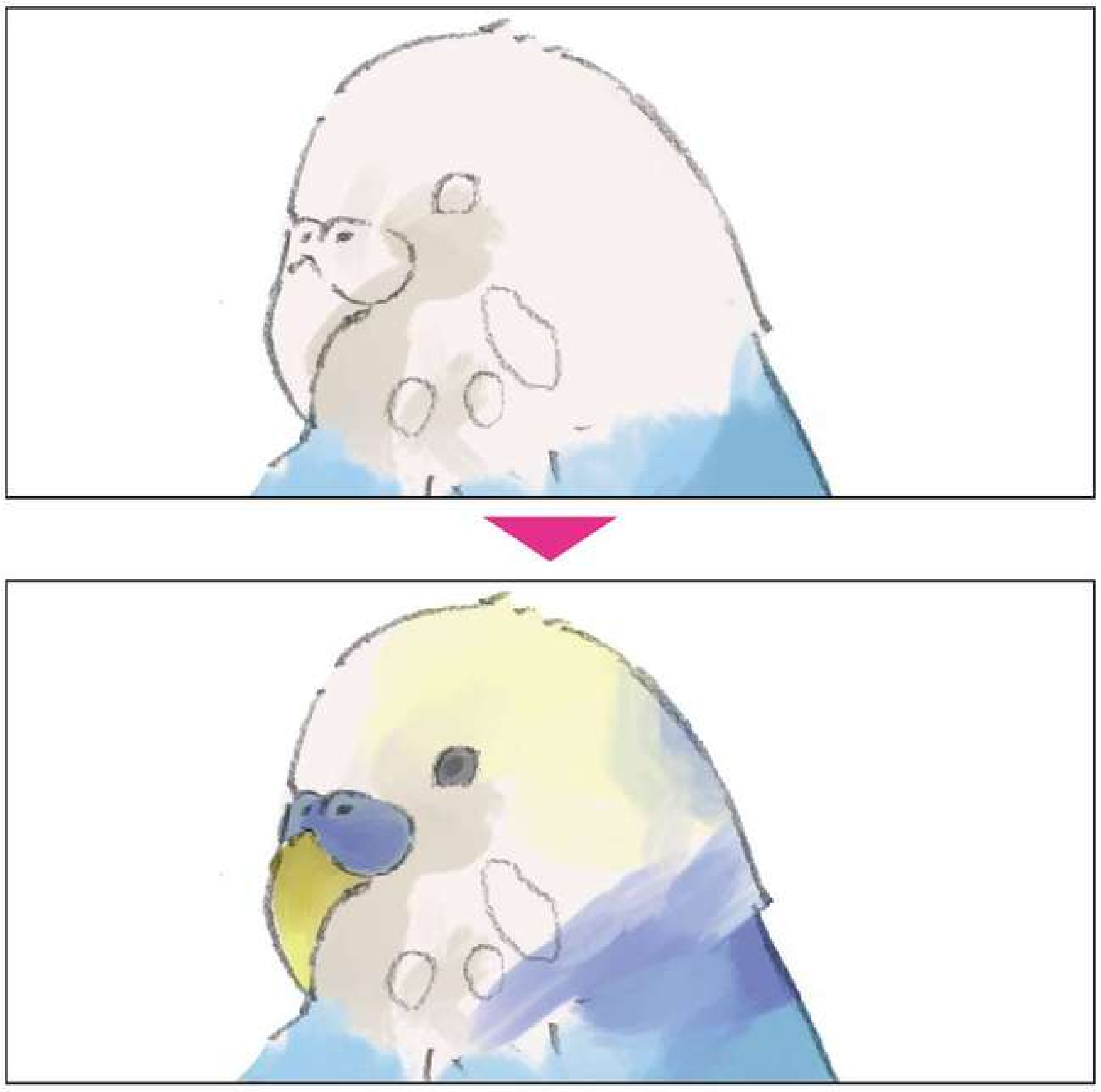
6

影になる部分は濃い色で塗っていきます。



7

白い毛の部分の影はベージュ系のグレーで塗ります。
顔の周りを色を変えながら、加筆していきます。



Memo

本書と同じにする必要はありません。
好きな色で塗っていきましょう。

Hint

筆の種類

塗る場所によって、ブラシの種類を替えながら塗ってみましょう。
ここでは、主に3つのブラシを使いながら塗っています。

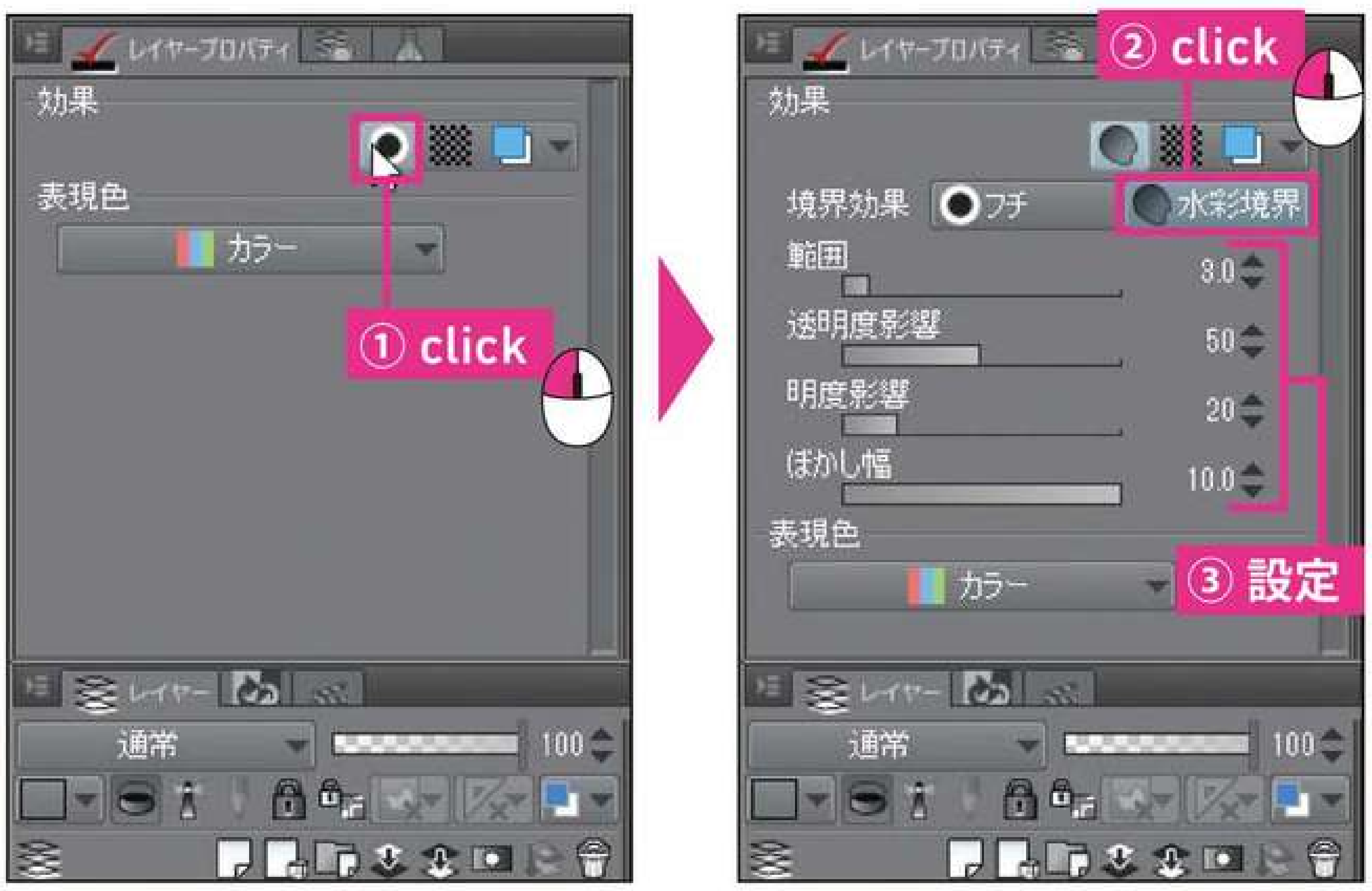


8

[レイヤープロパティ]パレットの[境界効果]をクリックし、[水彩境界]にチェックを入れます。[範囲][透明度影響][明度影響][ぼかし幅]を調整します。

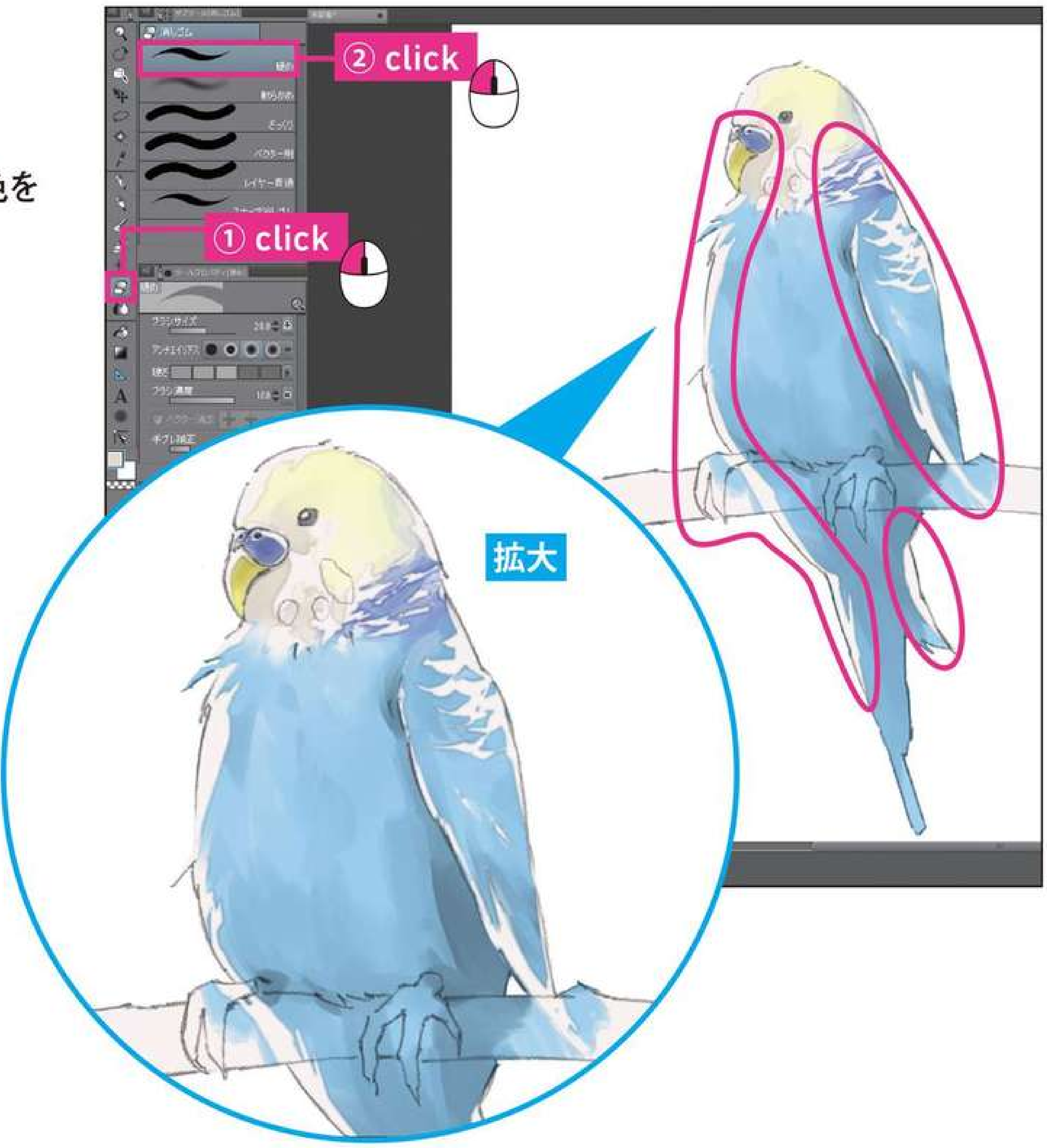
Memo

ここでは[範囲]の数値を小さくし、水彩境界を細くしています。



9

[消しゴム]ツールで部分的に消して色を塗っていない部分を作ります。



Hint

[消しゴム] ツールと水彩境界

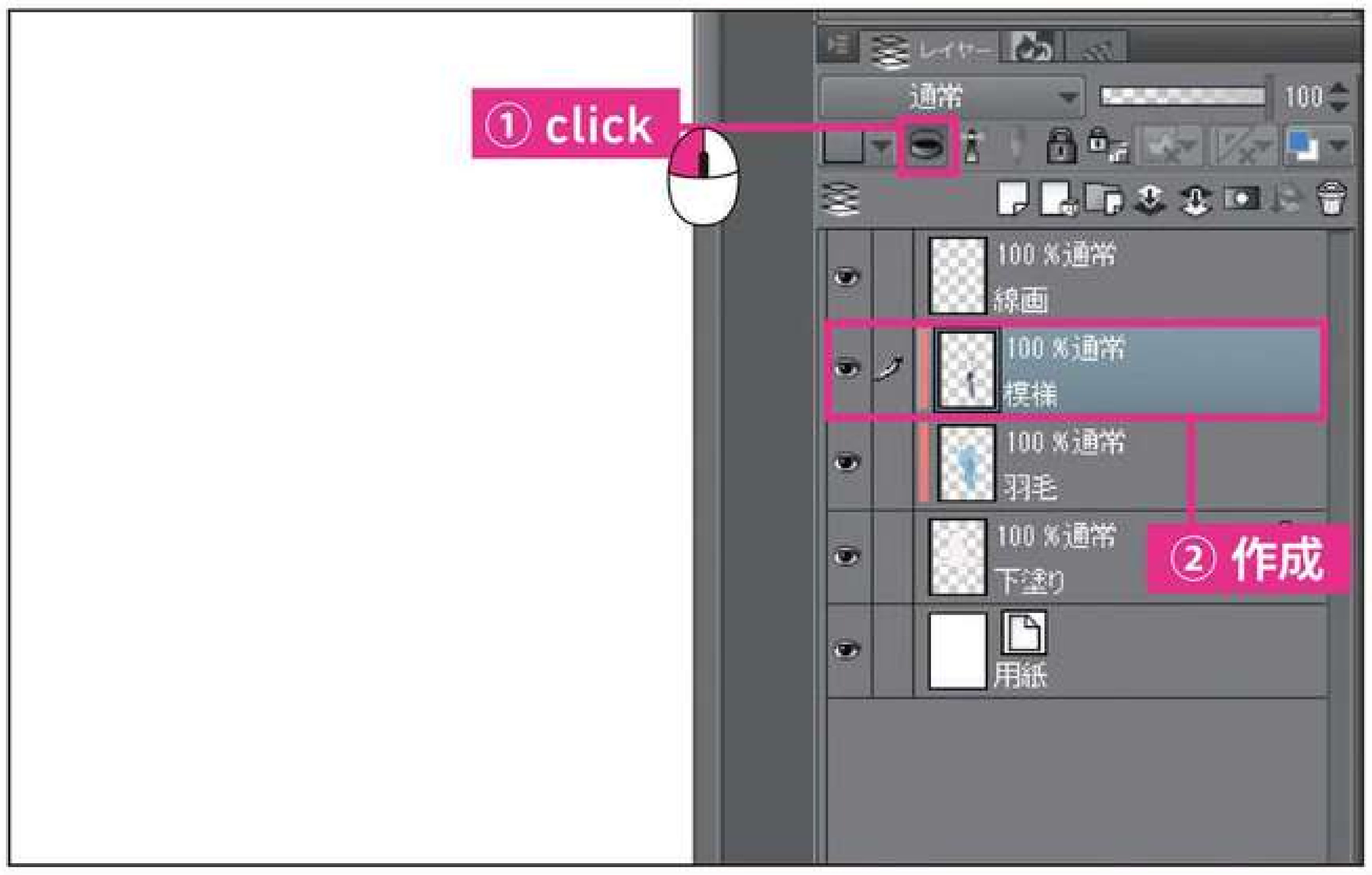
[消しゴム]ツールのブラシが硬く濃度が高いと水彩境界が濃く、ブラシが柔らかく濃度が低いと水彩境界が薄く現れます。



Step 04 模様を描く

1

新規ラスターレイヤーを「羽毛」レイヤーの上に追加し(「模様」レイヤー)、「下塗り」レイヤーにクリッピングします。



2

[筆]ツールの[水彩]の[水彩毛筆]で、濃い色を選択し、模様を描いていきます。下部分の模様と影はつなげて描いてしまいます。





3

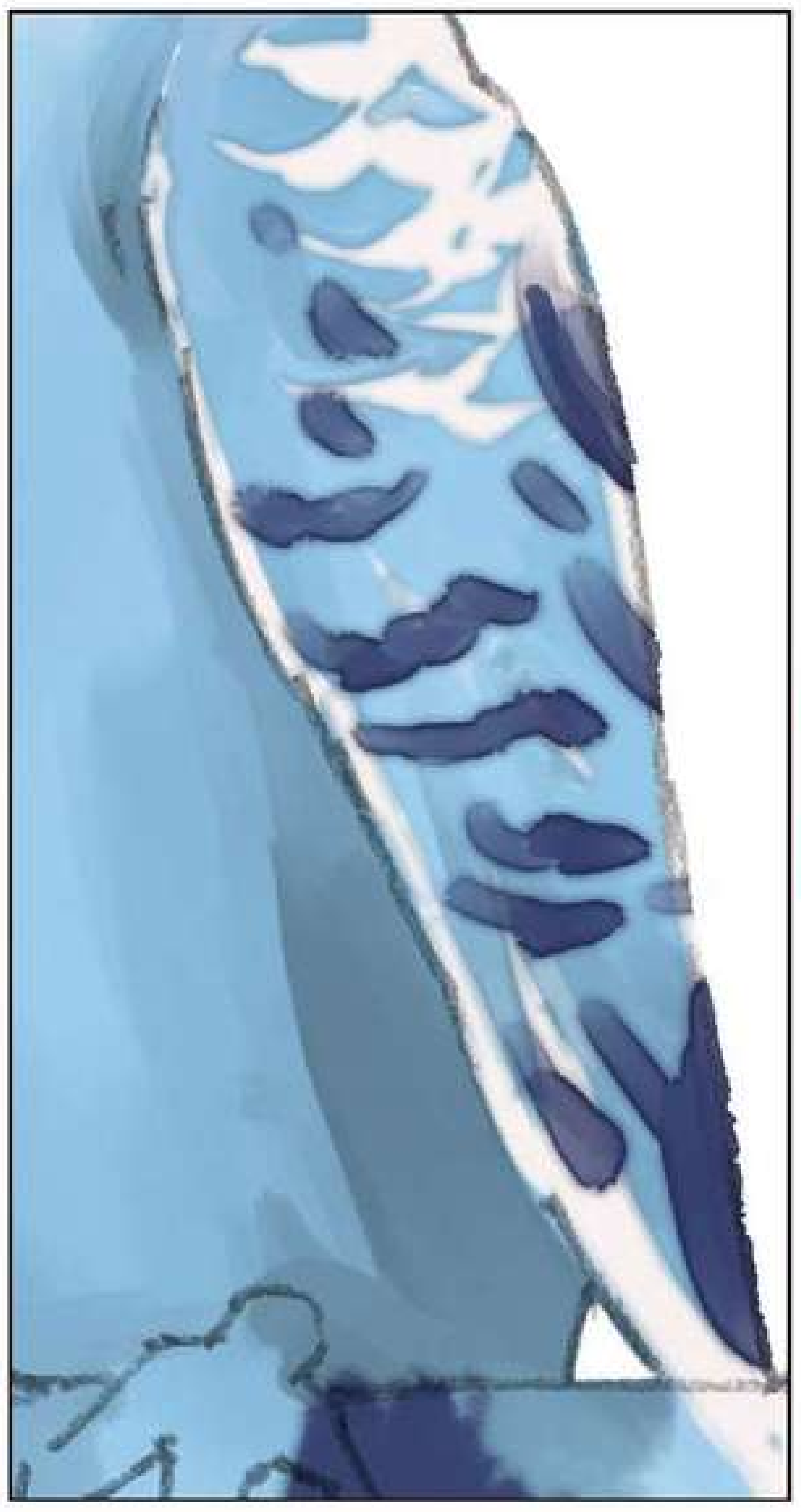
[レイヤープロパティ]パレットの[境界効果]をクリックし、[水彩境界]にチェックを入れます。[範囲][透明度影響][明度影響][ぼかし幅]を調整します。

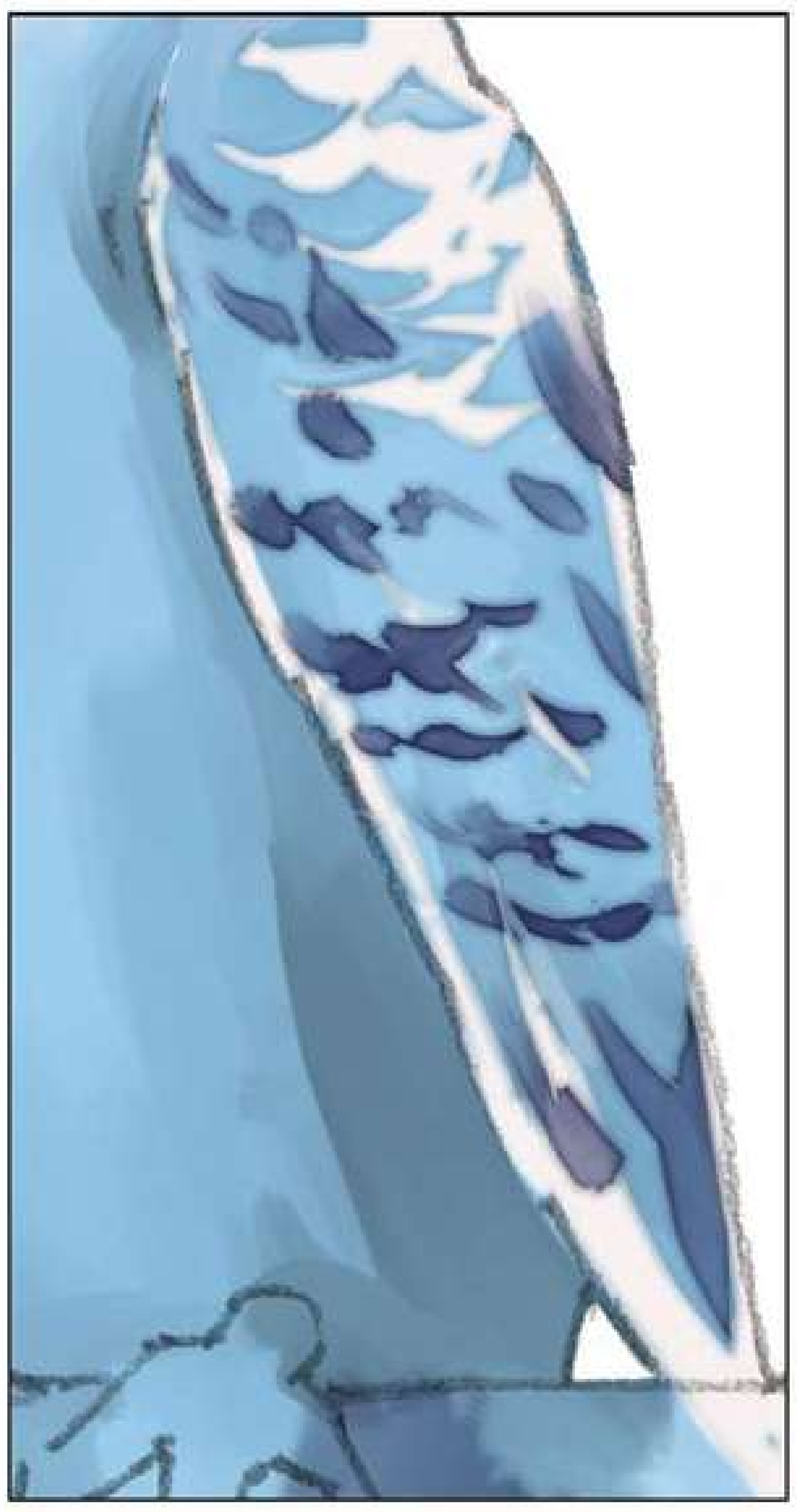




4

p.120の手順9と同様に［消しゴム］ツール で消しながら調整します。





5

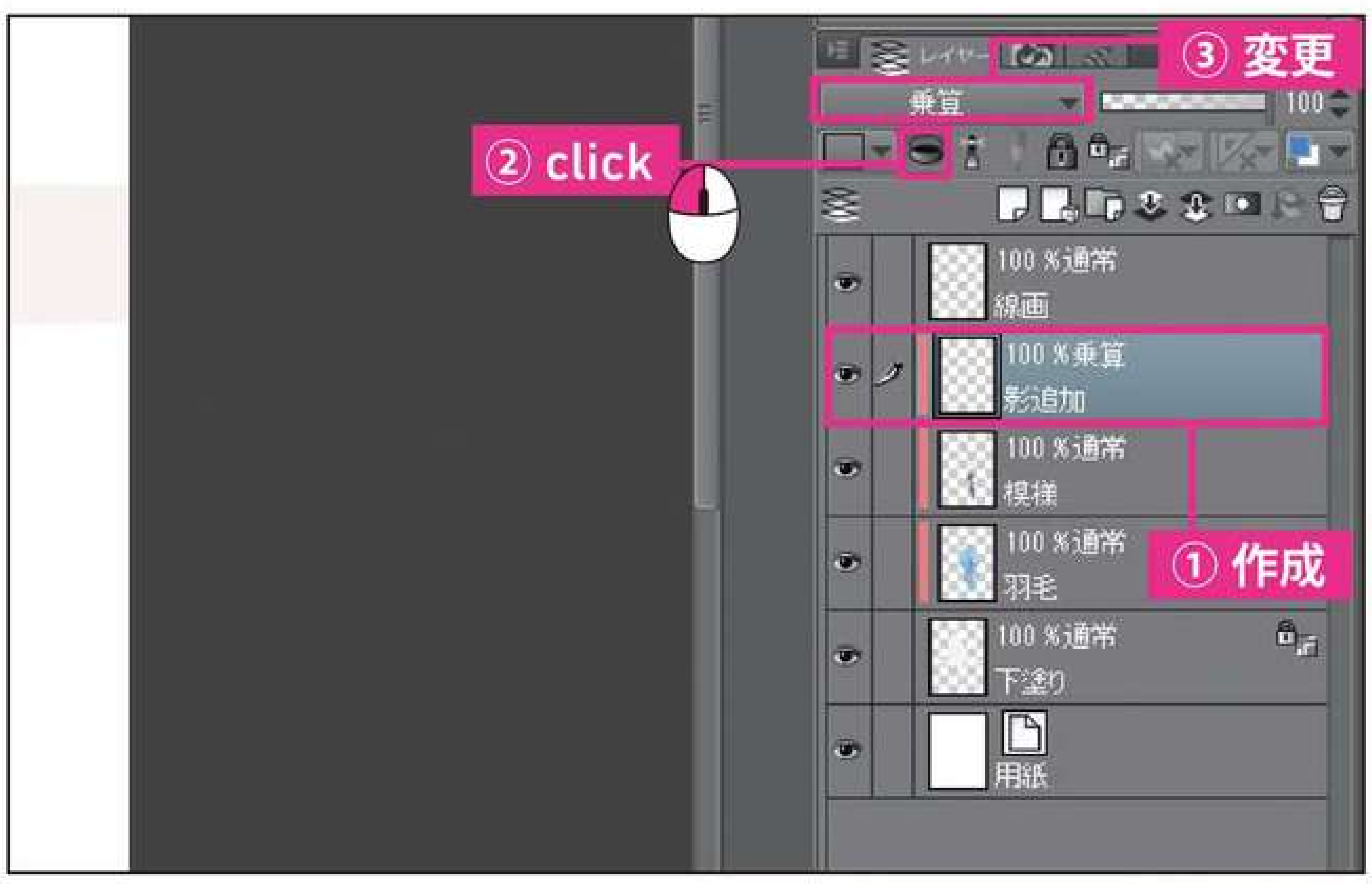
同様に顔周りも描いていきます。



Step 05 効果を追加・加筆する

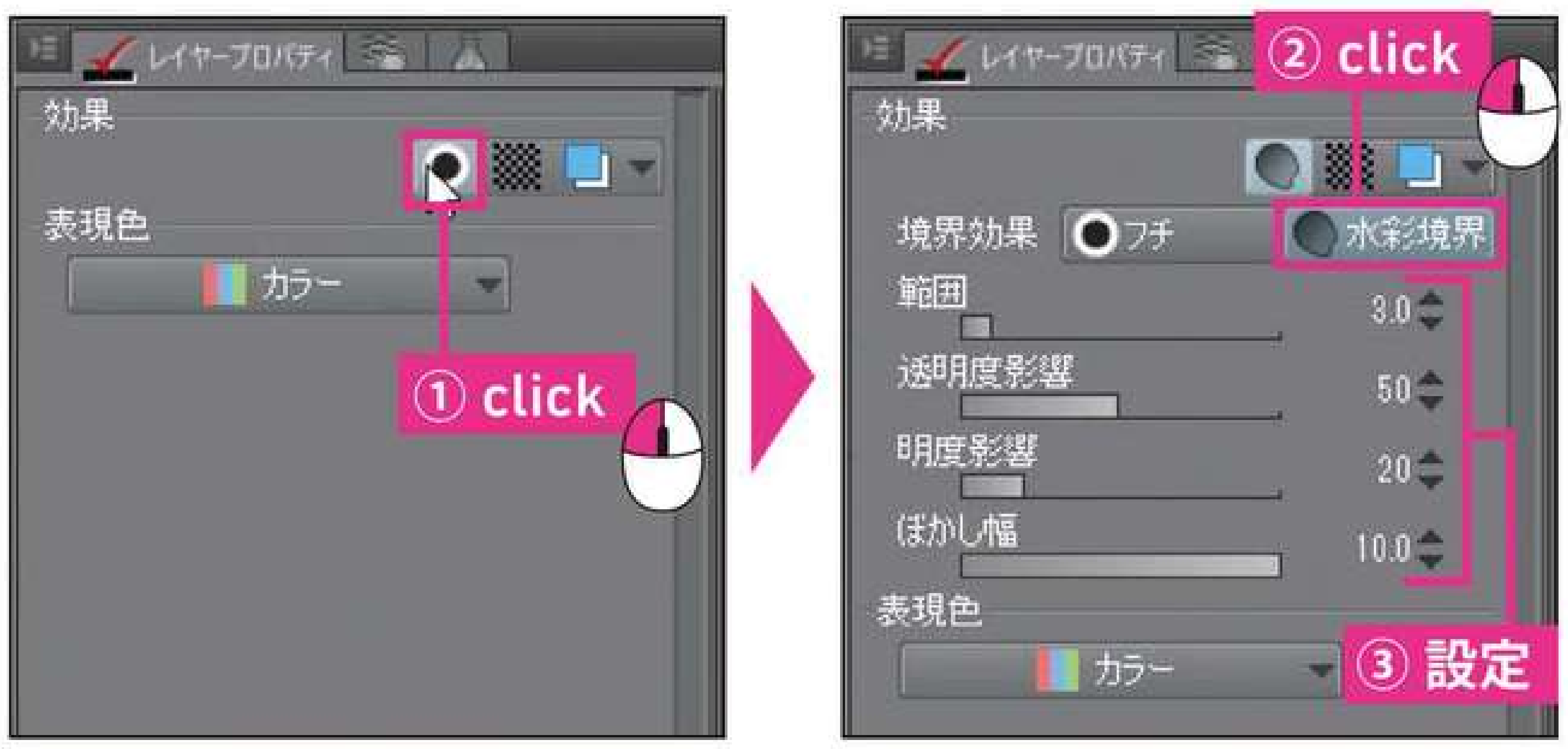
1

影が足りないと思ったので追加します。
新規ラスターレイヤーを「模様」レイヤーの上に追加し（「影追加」レイヤー）、「下塗り」レイヤーにクリッピングします。
合成モードを［乗算］にします。



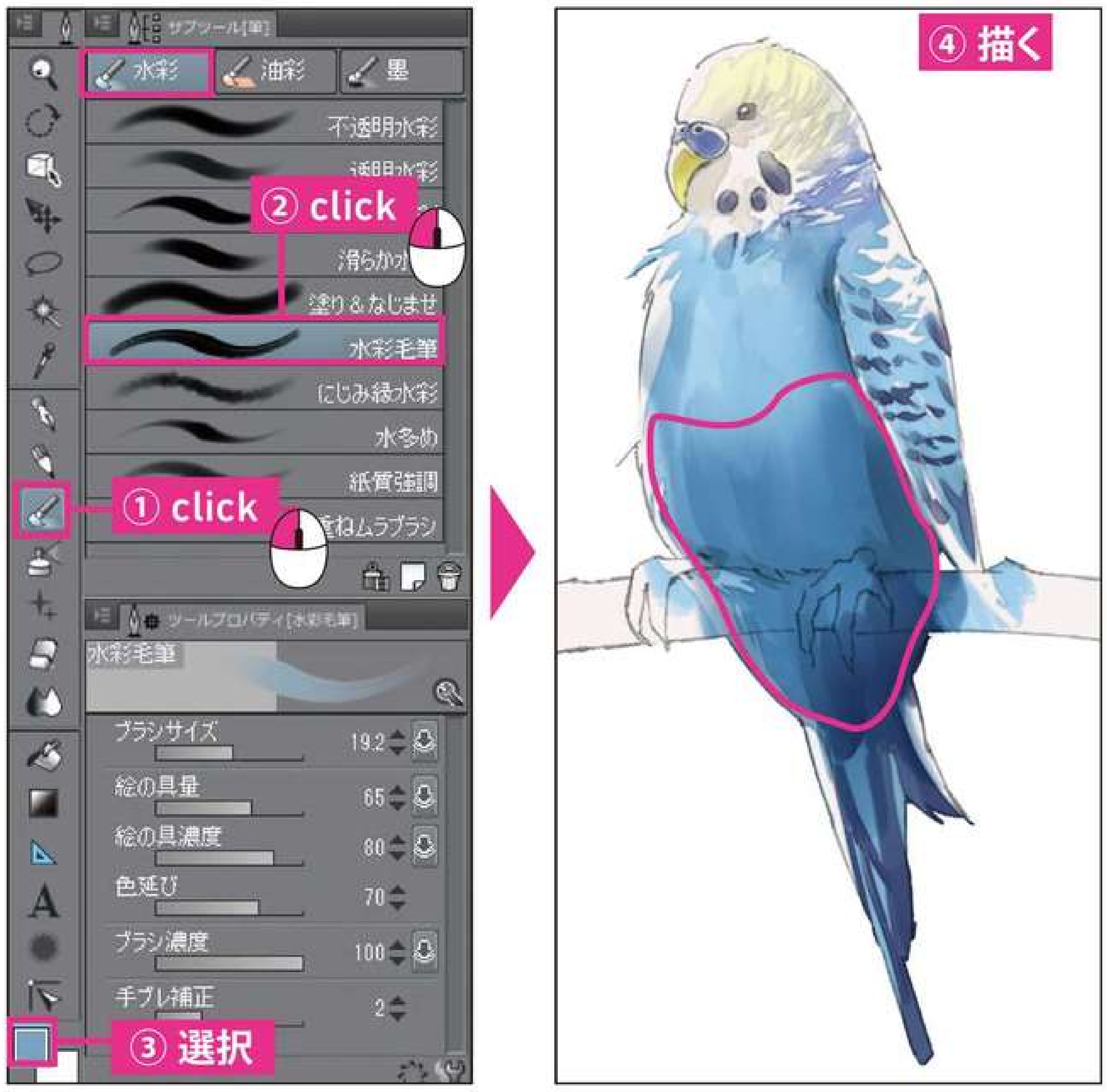
2

[レイヤープロパティ]パレットの[境界効果]をクリックし、[水彩境界]にチェックを入れます。[範囲][透明度影響][明度影響][ぼかし幅]を調整します。



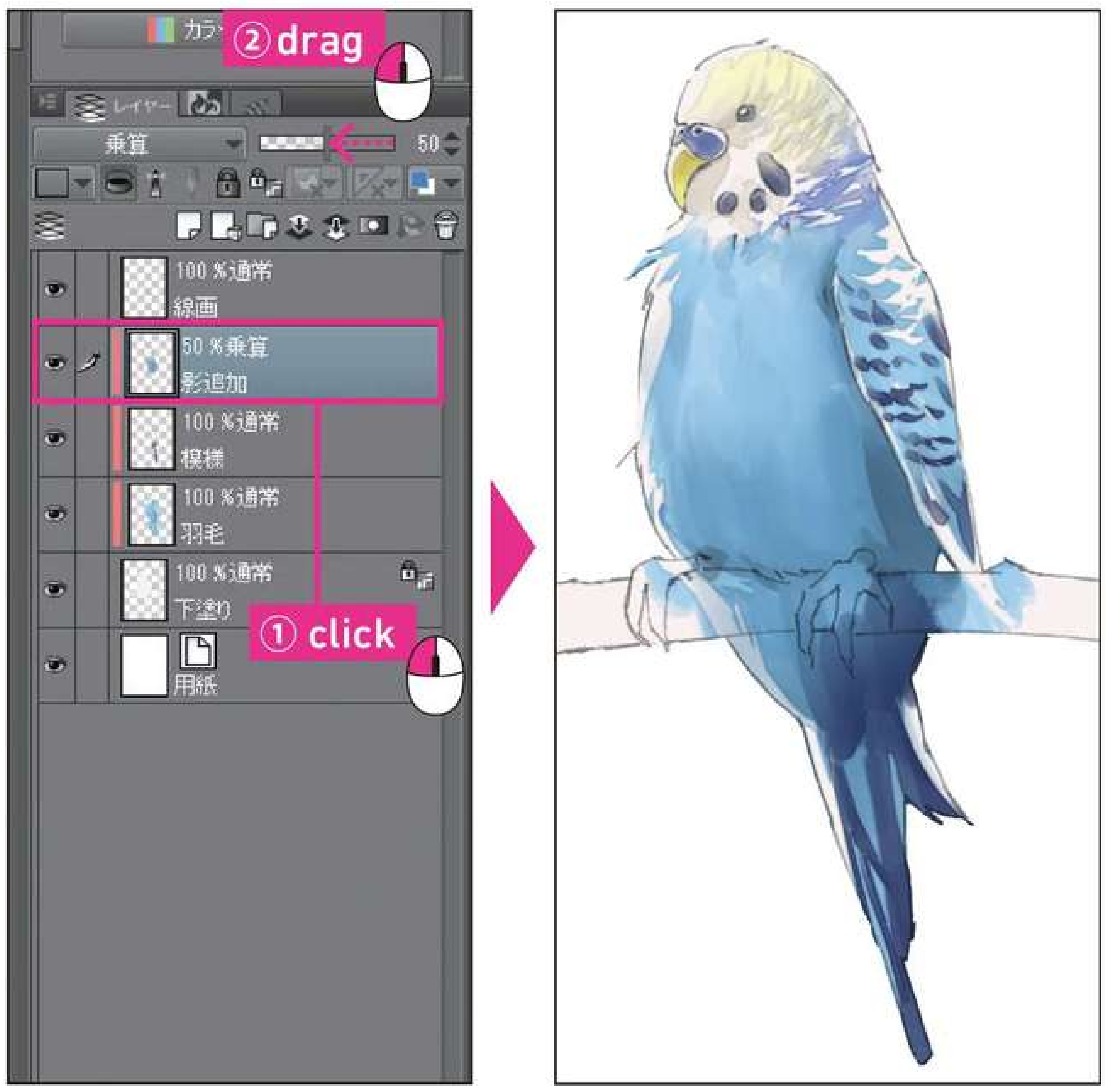
3

[筆]ツールの[水彩]の[水彩毛筆]で、模様より薄い色を選択し、影を描いていきます。



4

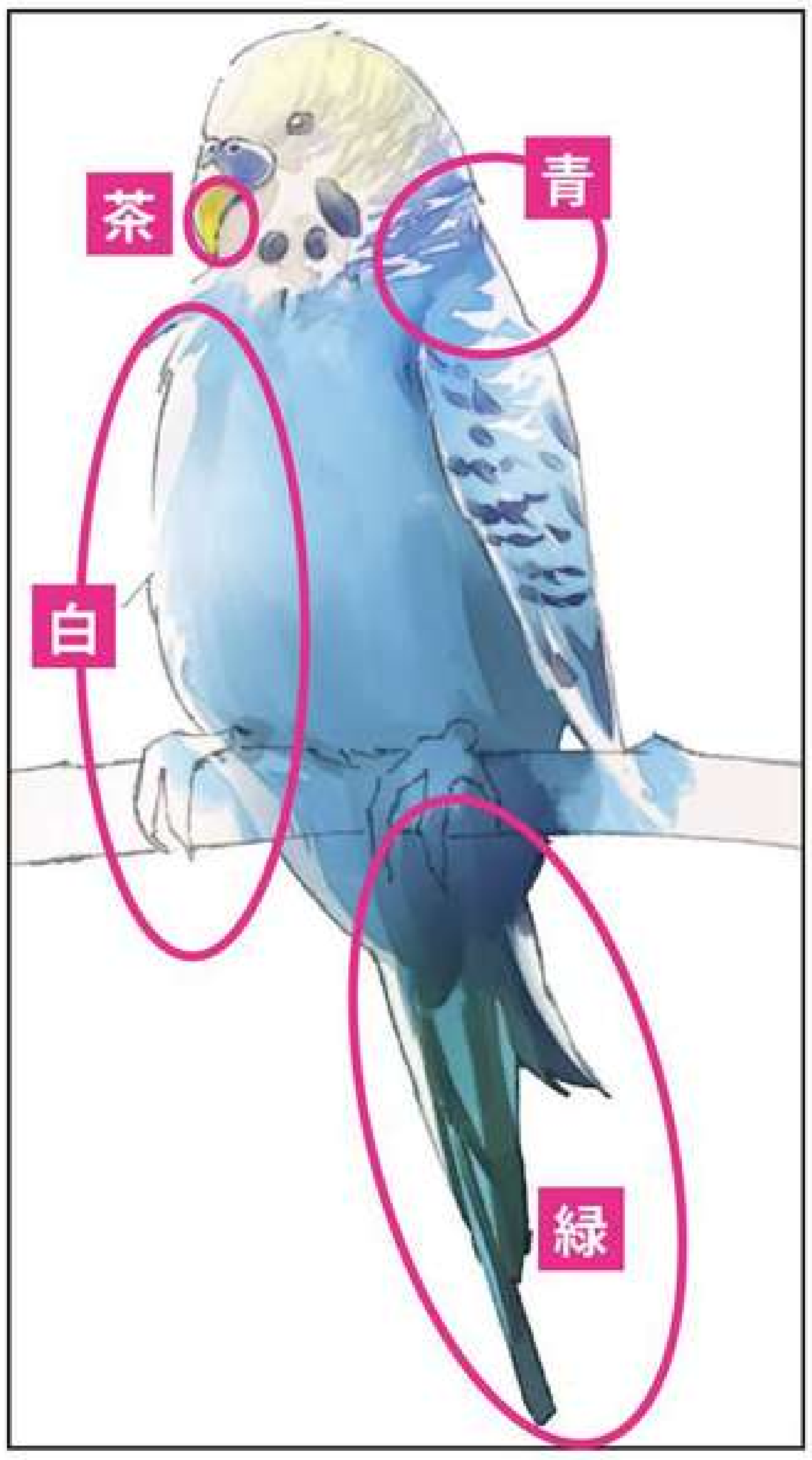
「影追加」レイヤーの不透明度を調整し、影の濃さを薄くします。
ここでは「50%」にしました。



5

部分的に色を鮮やかに調整します。
新規ラスターレイヤーを「影追加」レイヤーの上に追加し(「色調整」レイヤー)、「下塗り」レイヤーにクリッピングし、合成モードを[オーバーレイ]にします。
部分的に色を塗って、色合いを調整していきます。

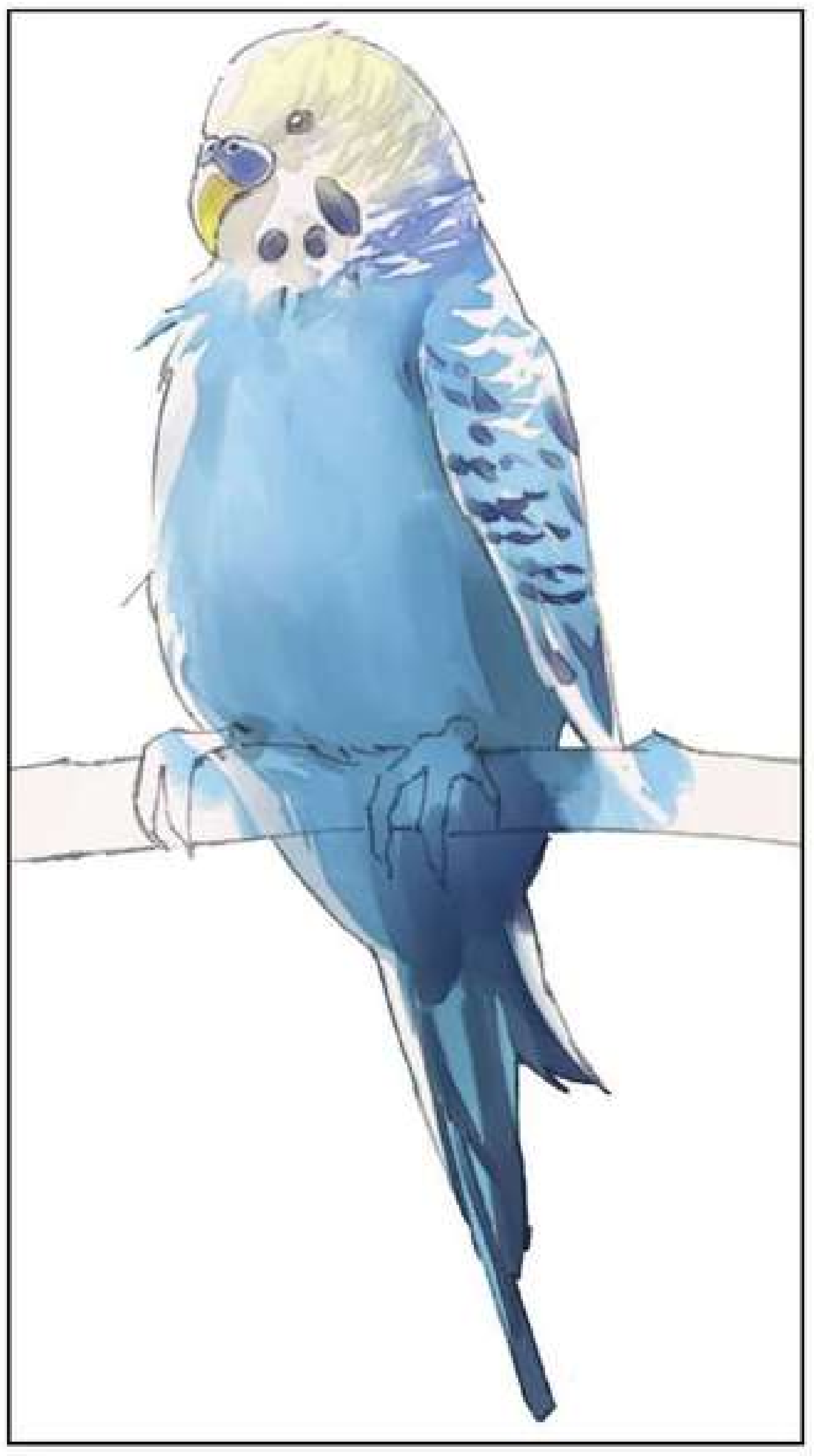




6

「色調整」レイヤーの不透明度を調整します。ここでは「35%」にしました。

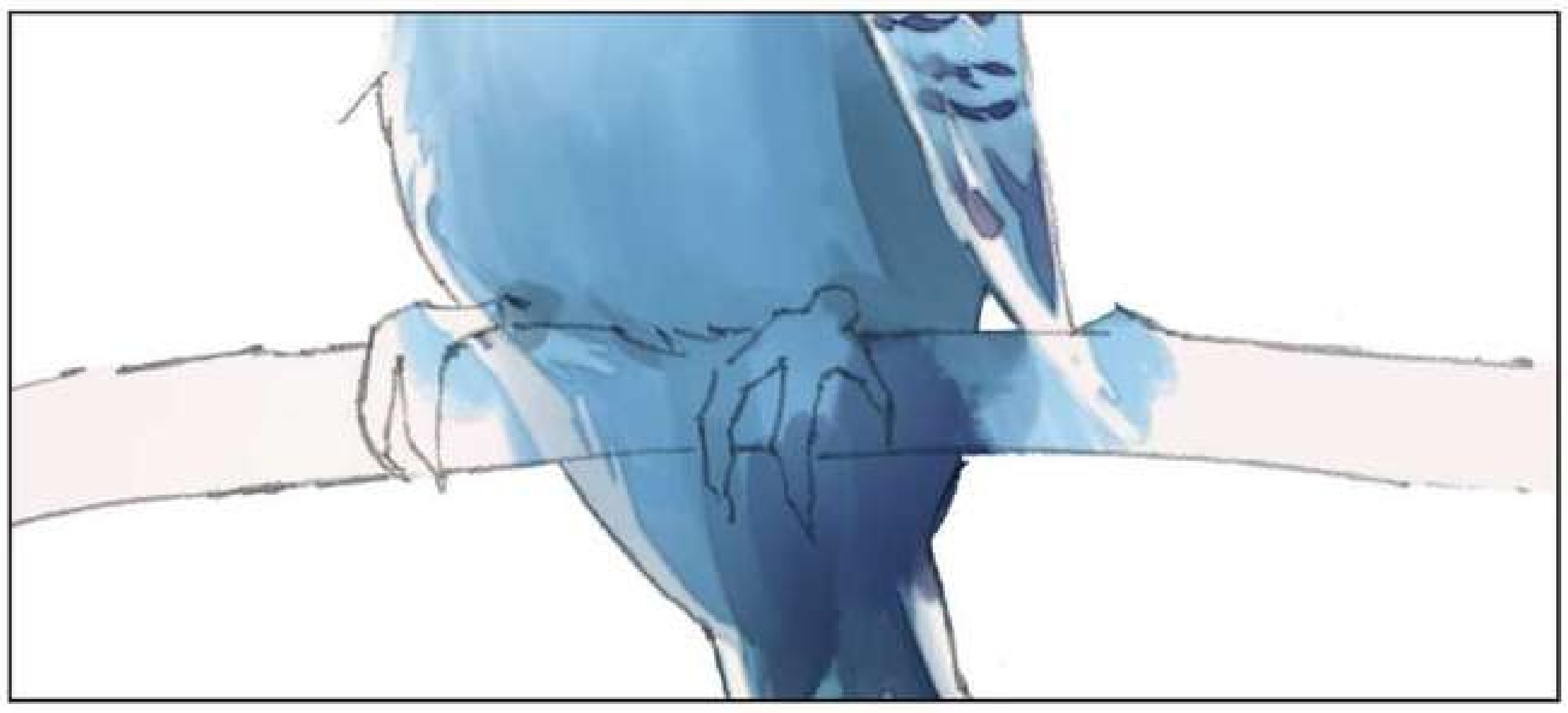




Step 06 枝・足の部分を塗る

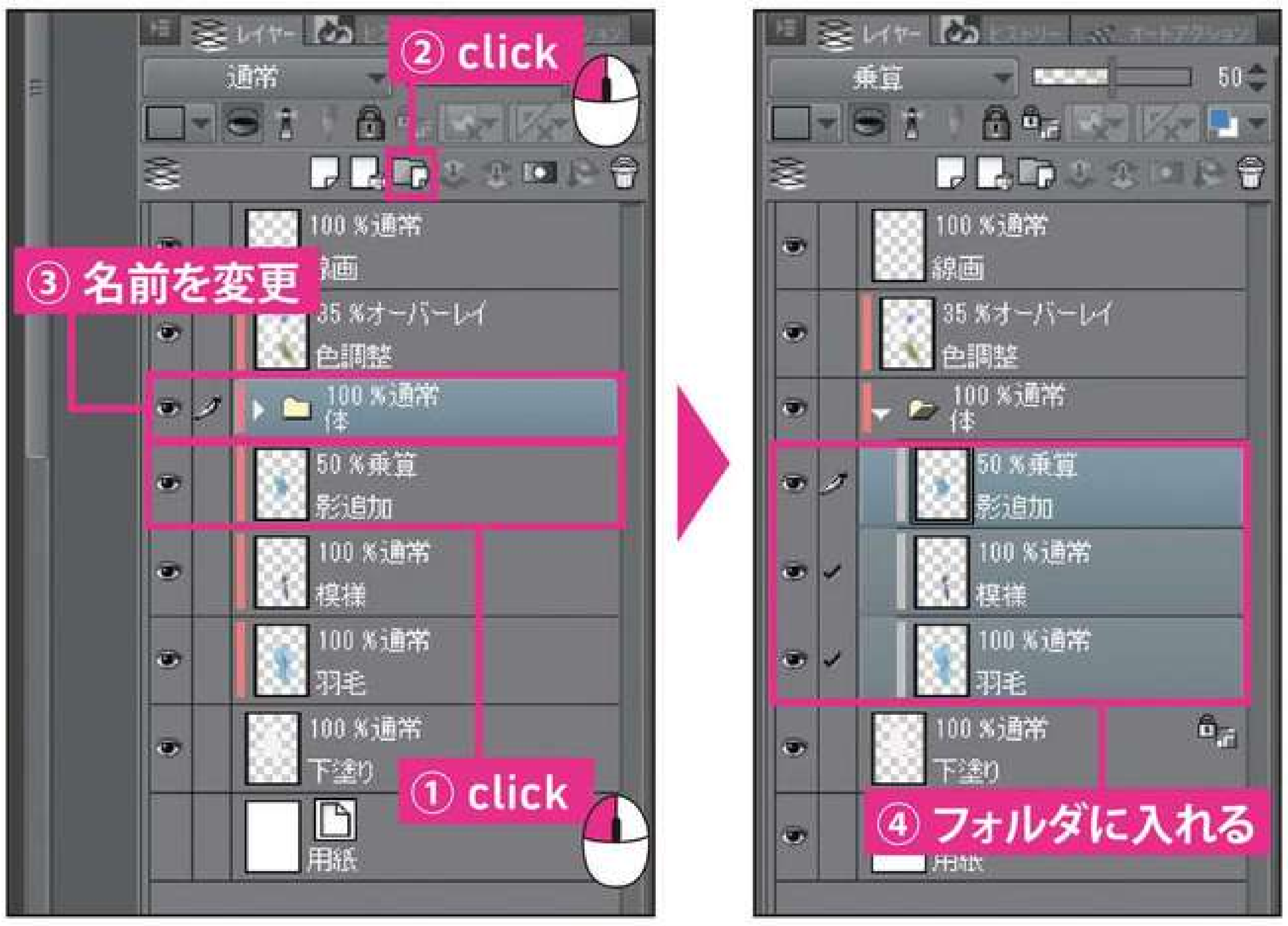
1

*Step05*までで塗った枝と足のはみ出している部分をまとめて消します。



2

「羽毛」「模様」「影追加」の3つのレイヤーを新規レイヤーフォルダーを作成し(「体」レイヤーフォルダー)、中に入れてクリッピングしなおします。

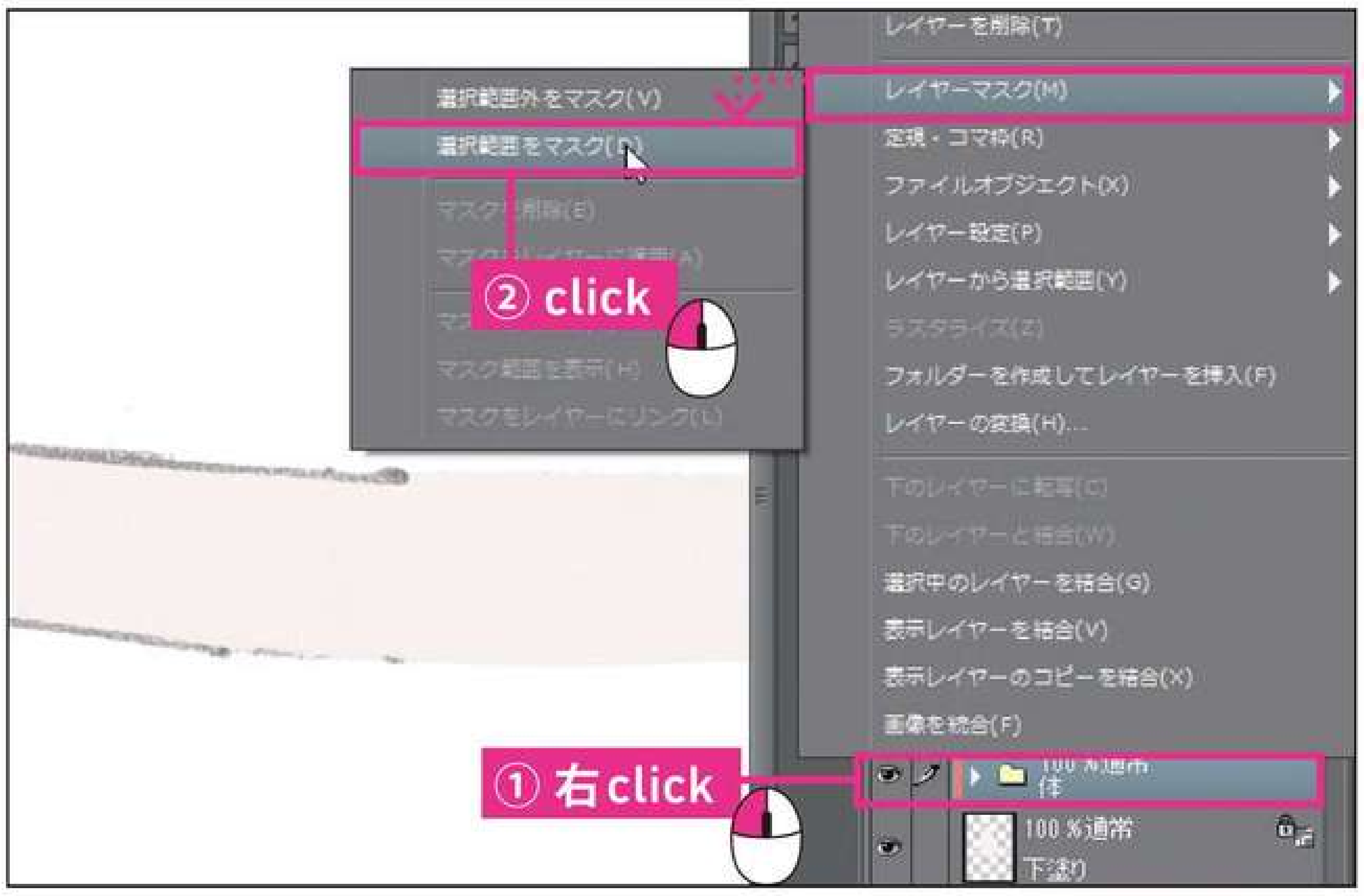


Memo

「影追加」レイヤーをクリックしてから、新規レイヤーフォルダーを作成すると、作成したレイヤーフォルダーが自動的にクリッピングされます。

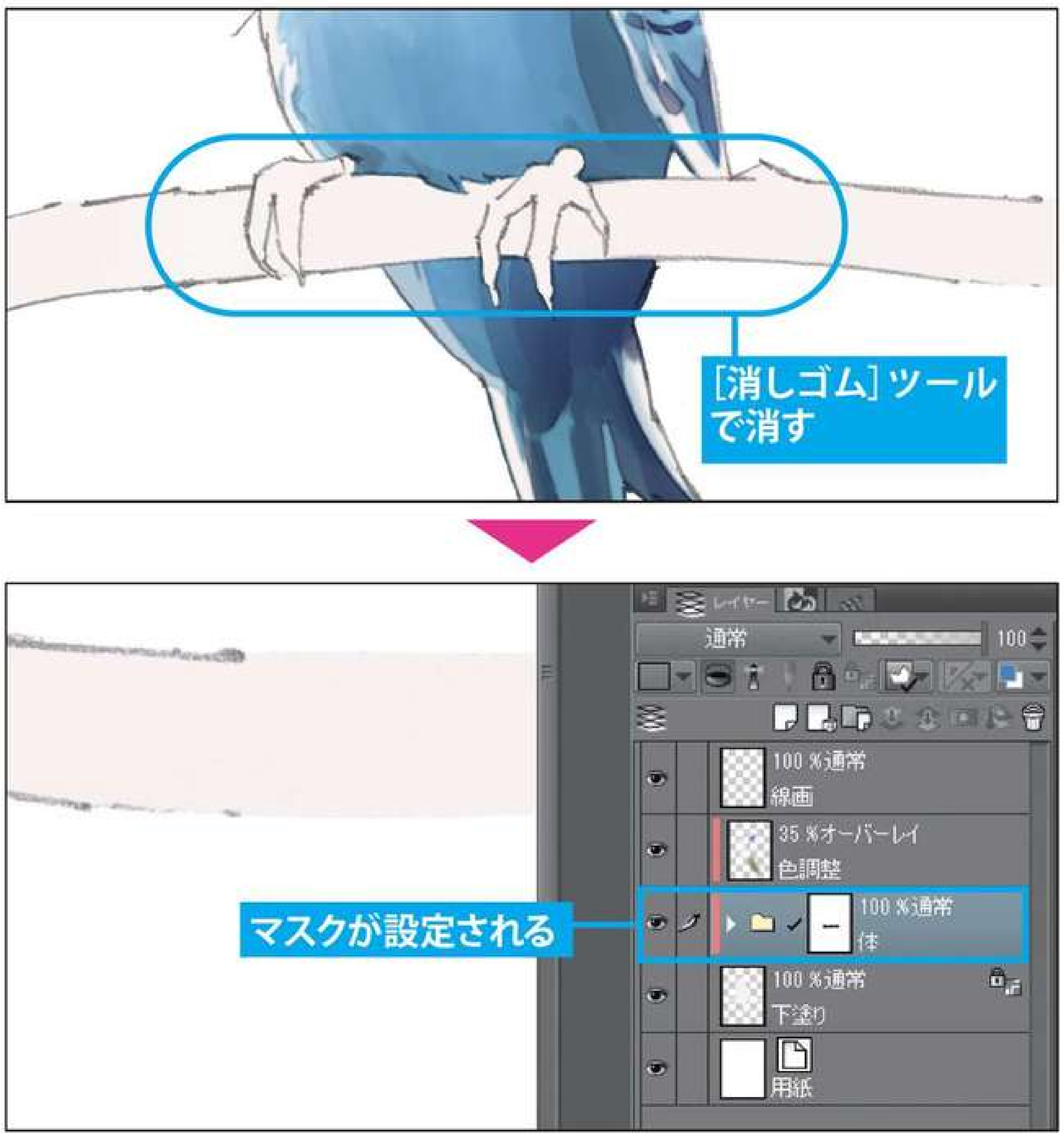
3

レイヤーマスクを使って、レイヤーフォルダに入っているレイヤーをまとめて消します。「体」レイヤーフォルダーを選択して右クリック(macOSは control +クリック)してポップアップメニューを表示し、「レイヤーマスク」→「選択範囲をマスク」の順にクリックします。



4

[消しゴム]ツールで消して、「体」レイヤーフォルダーに入っている複数のレイヤーを一気にマスクして消します。

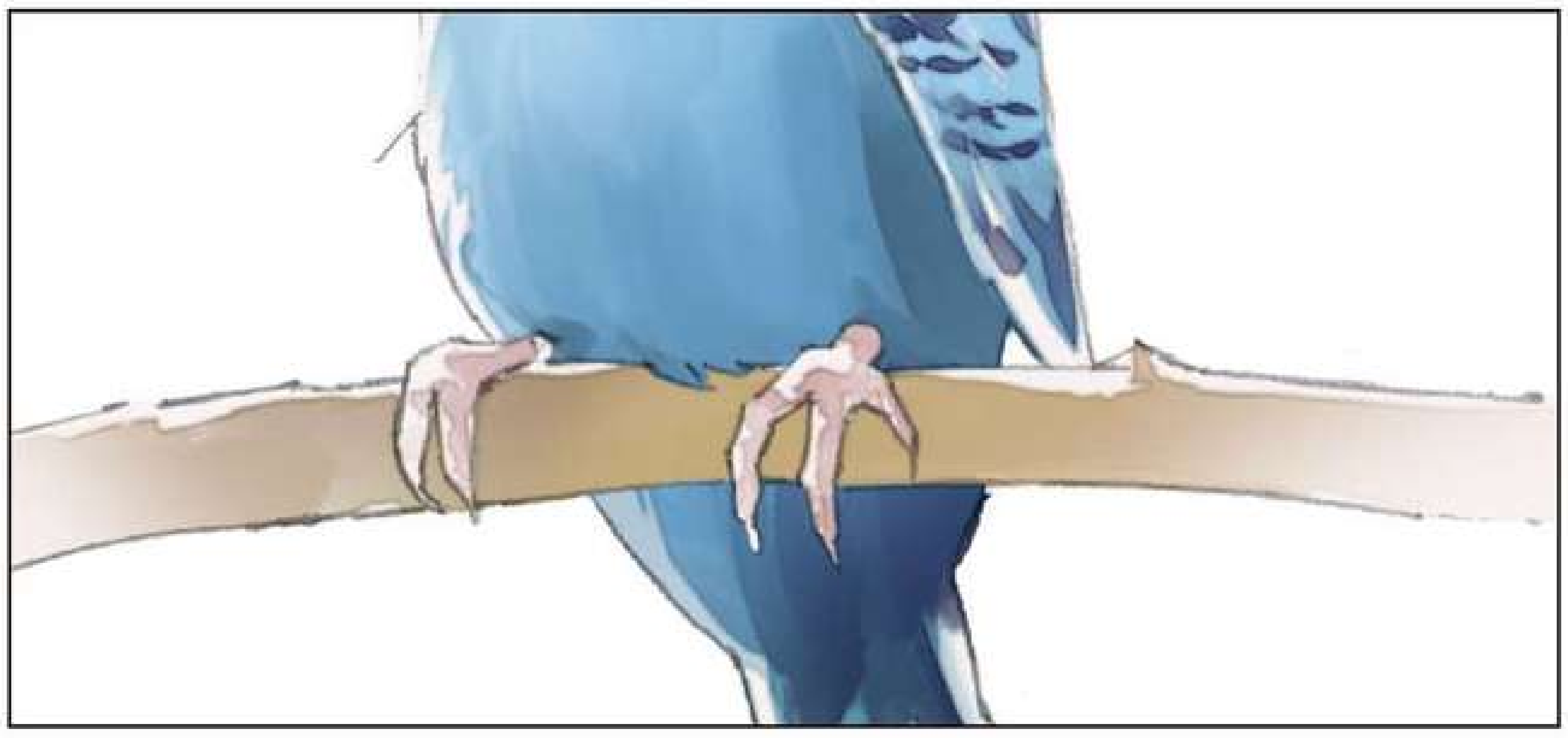


Memo

実際には、選択された範囲が隠れている状態です。
レイヤーマスクについては、p.88を参照しましょう。

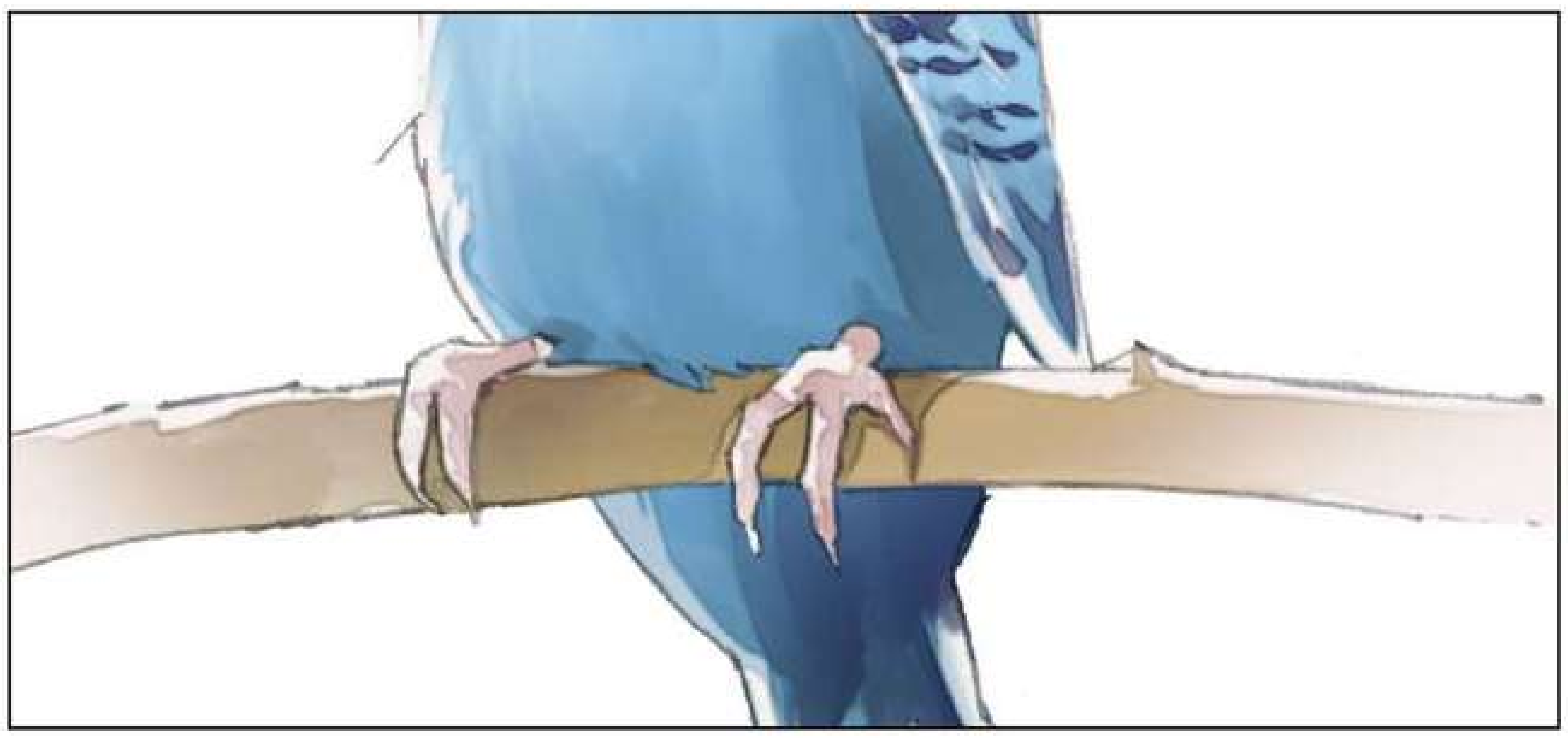
5

枝と足の部分を[筆]の[水彩]の[水彩毛筆]で塗っていきます。[消しゴム]ツールで消しながら調整します。



6

影も描き足しました。



Step 07 質感の素材を貼る

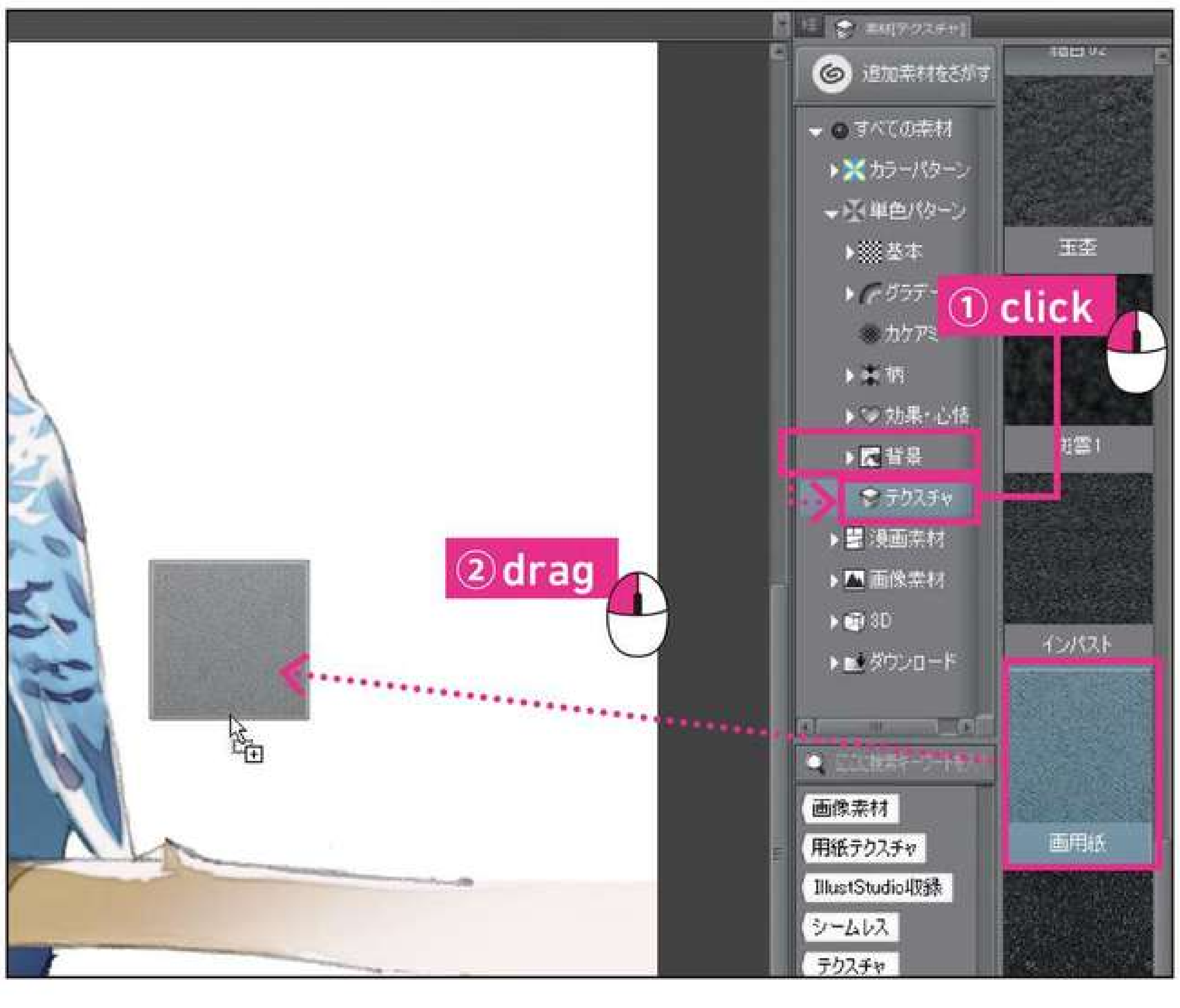
1

[素材]パレットの単色パターンの中に画用紙のテクスチャがあるので貼ってみます。パレットドックから[素材(単色パターン)]パレットを表示し、をクリックして一覧を表示します。



2

[背景]→[テクスチャ]の順にクリックし、右側の一覧から「画用紙」を選択し、キャンバス上にドラッグします。

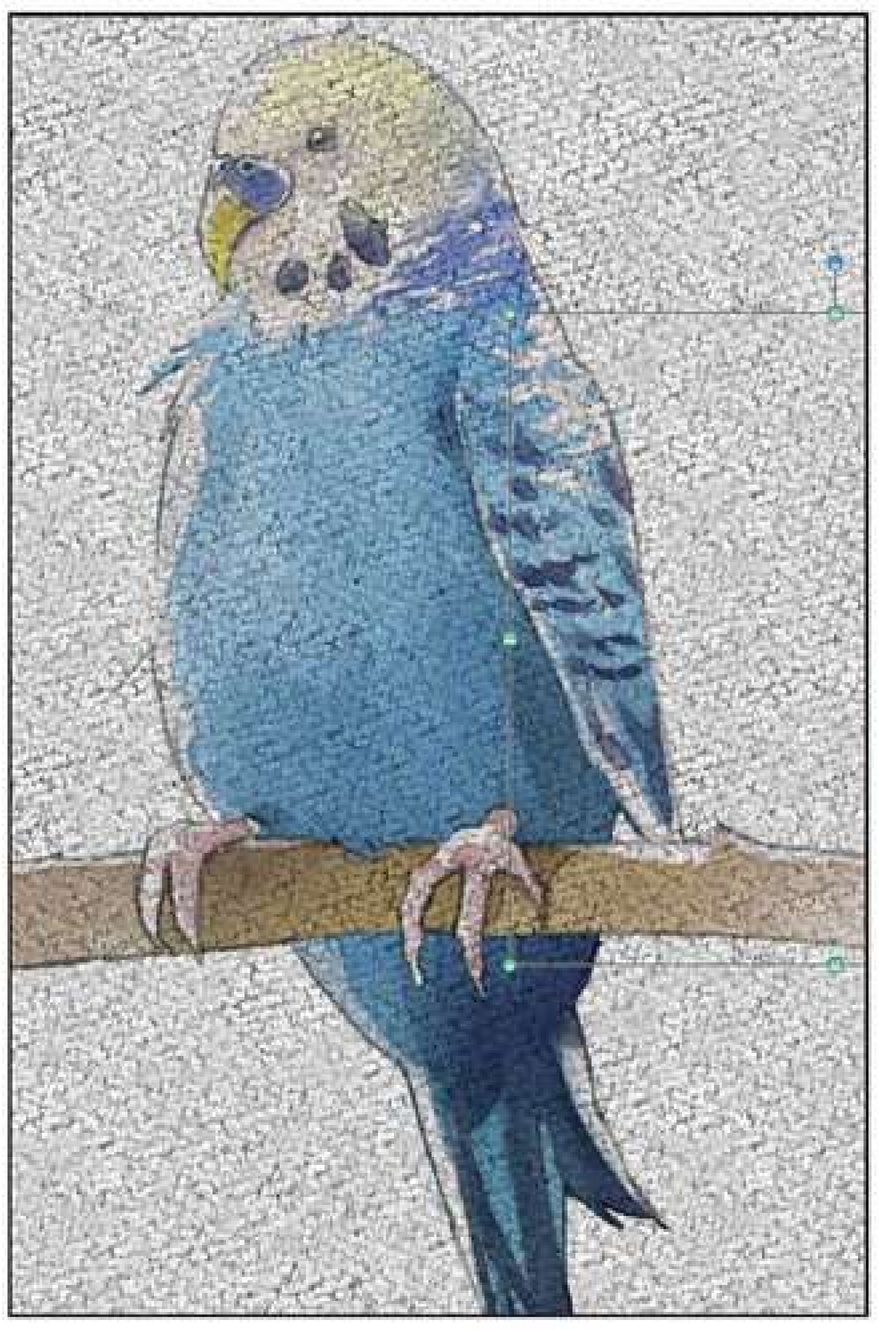


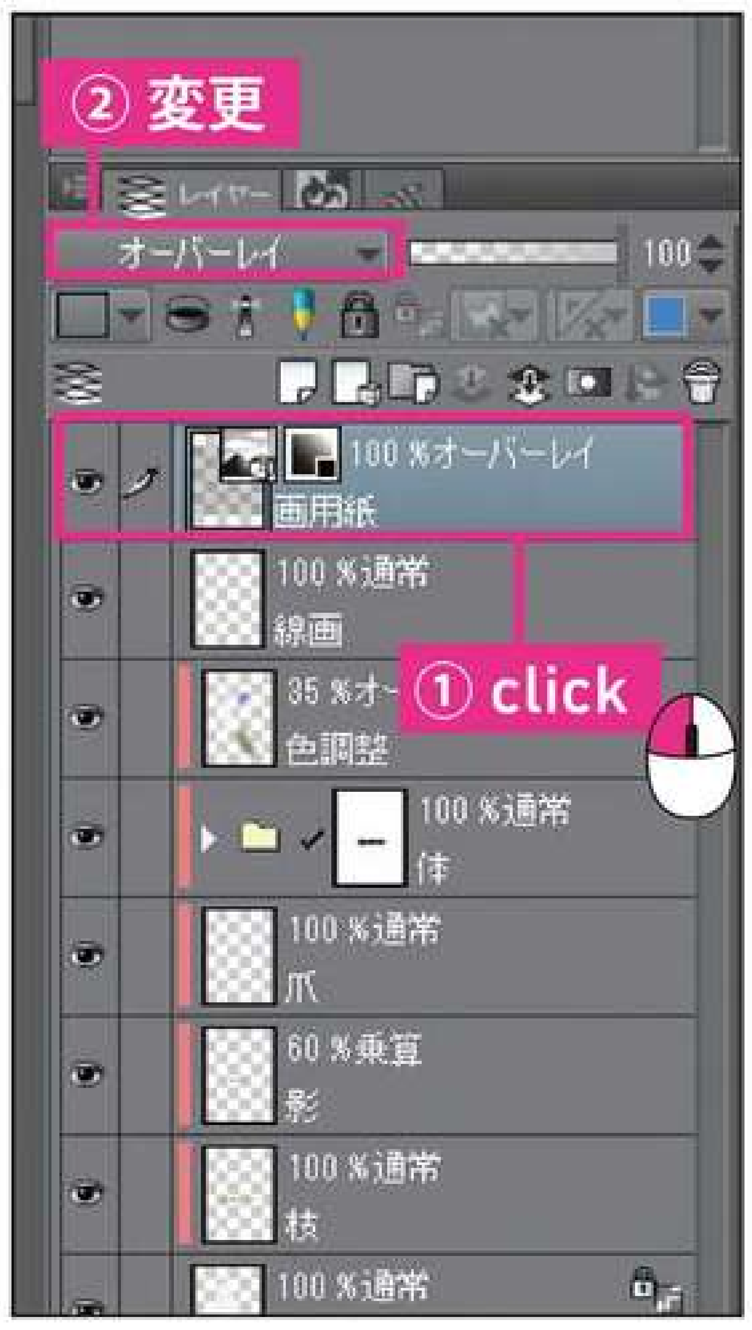
Memo

[素材]パレットに一覧が表示されない場合は、素材をダウンロードする必要があります。ダウンロード方法については、p.80を参照しましょう。

3

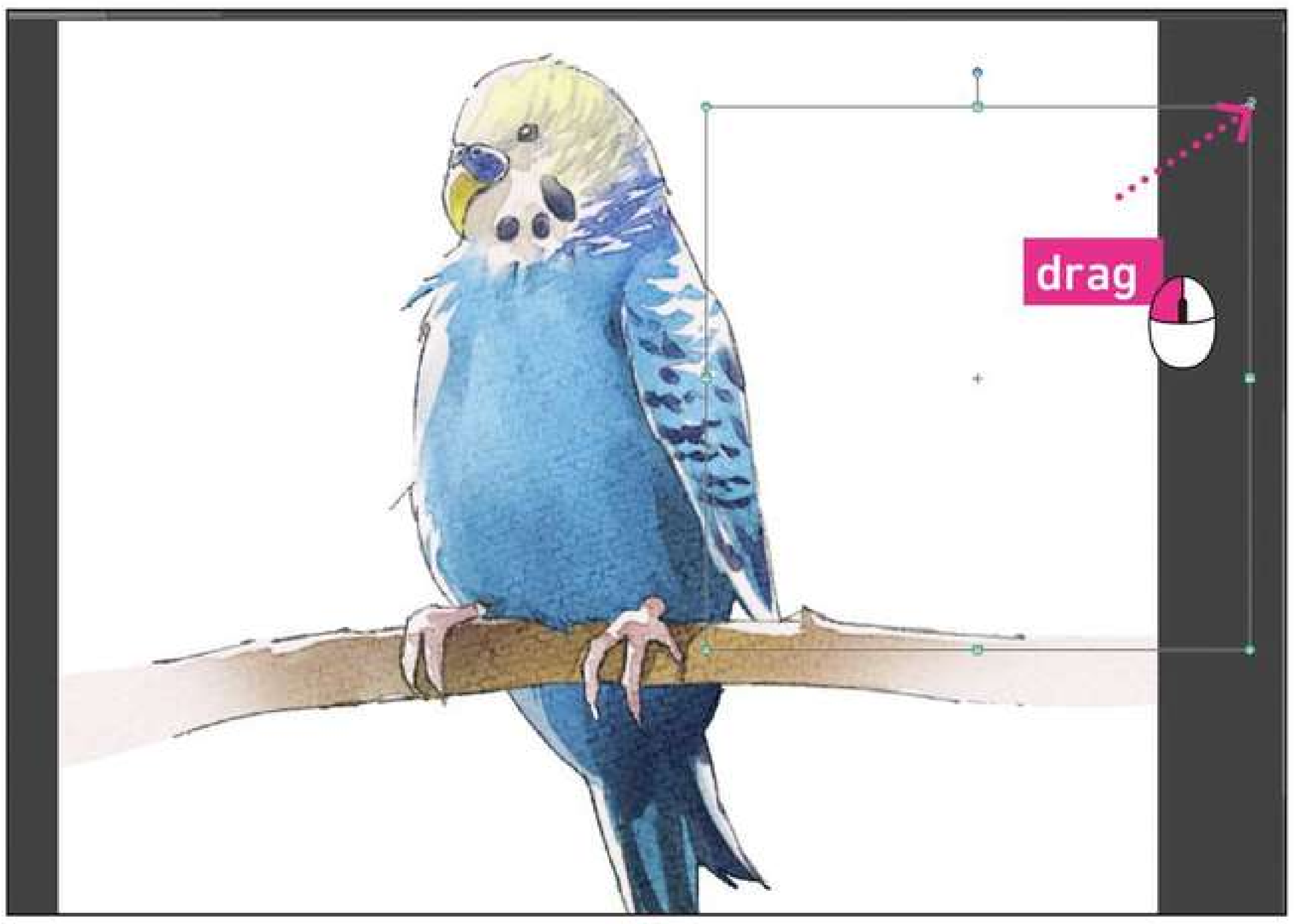
テクスチャがキャンバスに貼られます。
「画用紙」レイヤーの合成モードを[オーバーレイ]に変更します。





4

オブジェクトの拡大縮小で目の大きさが変えられるので調整します。
素材に表示されているボックスの角にマウスカーソルを合わせます。
ドラッグしてドキュメントウィンドウに合わせて調整します。
ここでは少し粗めにしたかったので拡大しました。



5

「画用紙」レイヤーと「線画」レイヤーの不透明度を調整して完成です。





色鉛筆風に描いてみよう



Before 5-03.clip



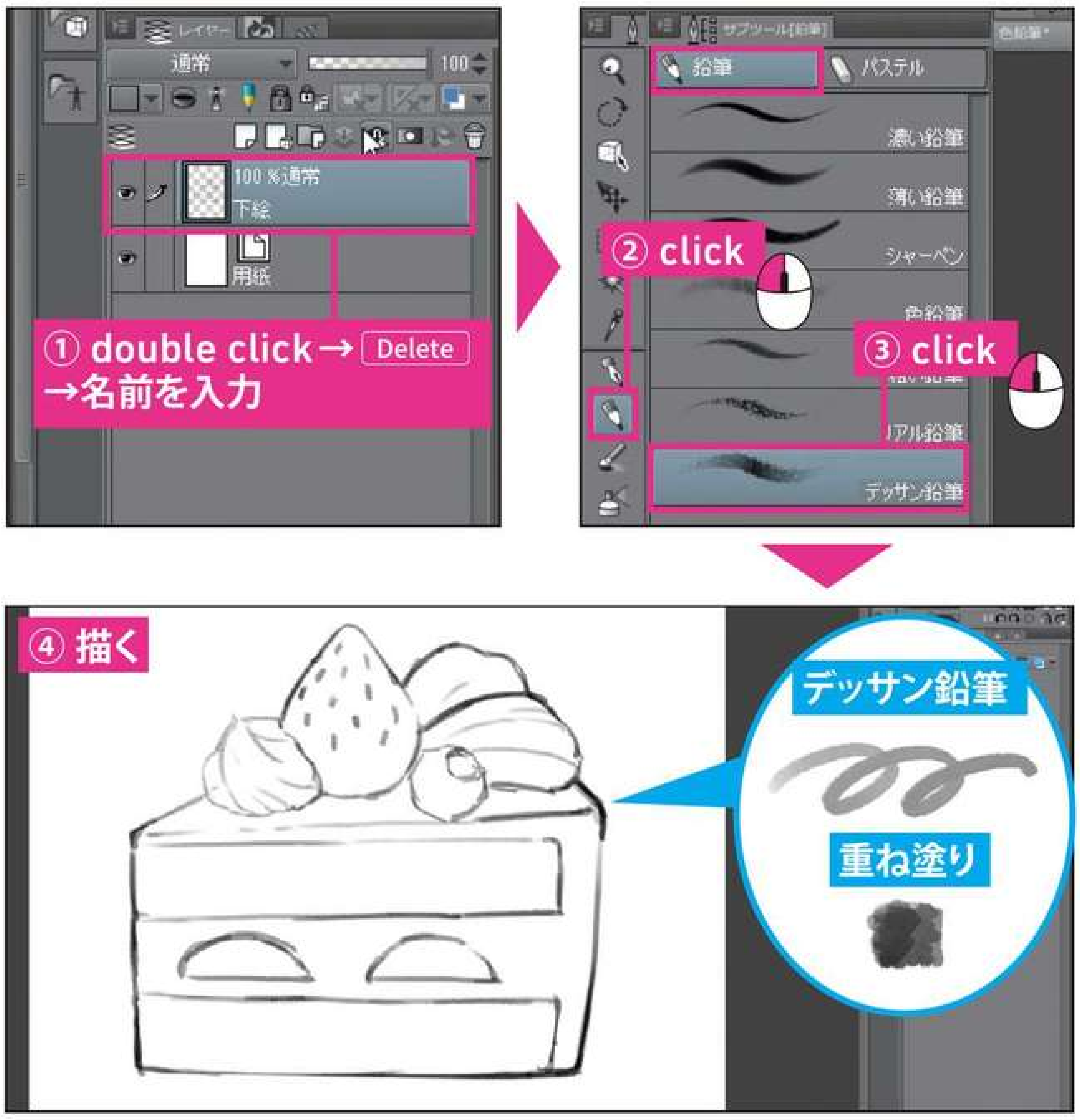
After 5-03a.clip

色鉛筆風のタッチでやわらかな雰囲気の絵を描いてみましょう。

Step 01 線画を描く

1

新規キャンバスを用意してレイヤー名を変更し（レイヤー名「下絵」）、下絵を描きます。
ここでは[鉛筆]ツールの[デッサン鉛筆]を選択していますが、最終的に非表示にするので描きやすいツールを使ってみましょう。

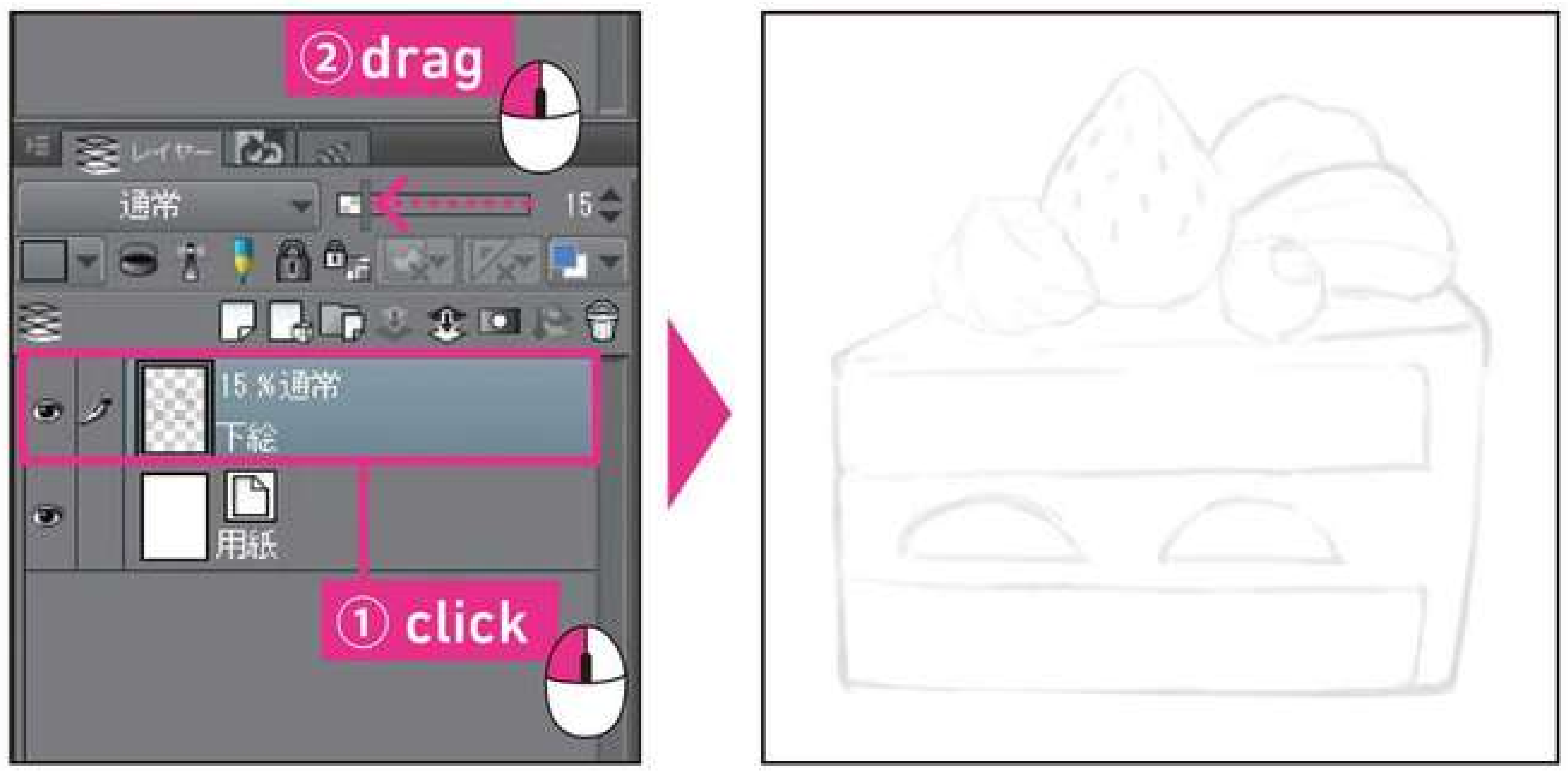


Memo

下絵が描けない場合は「5-03.clip」にも用意しています。
新規キャンバスの作成についてはp.28、下絵の配置方法はp.31を参照しましょう。

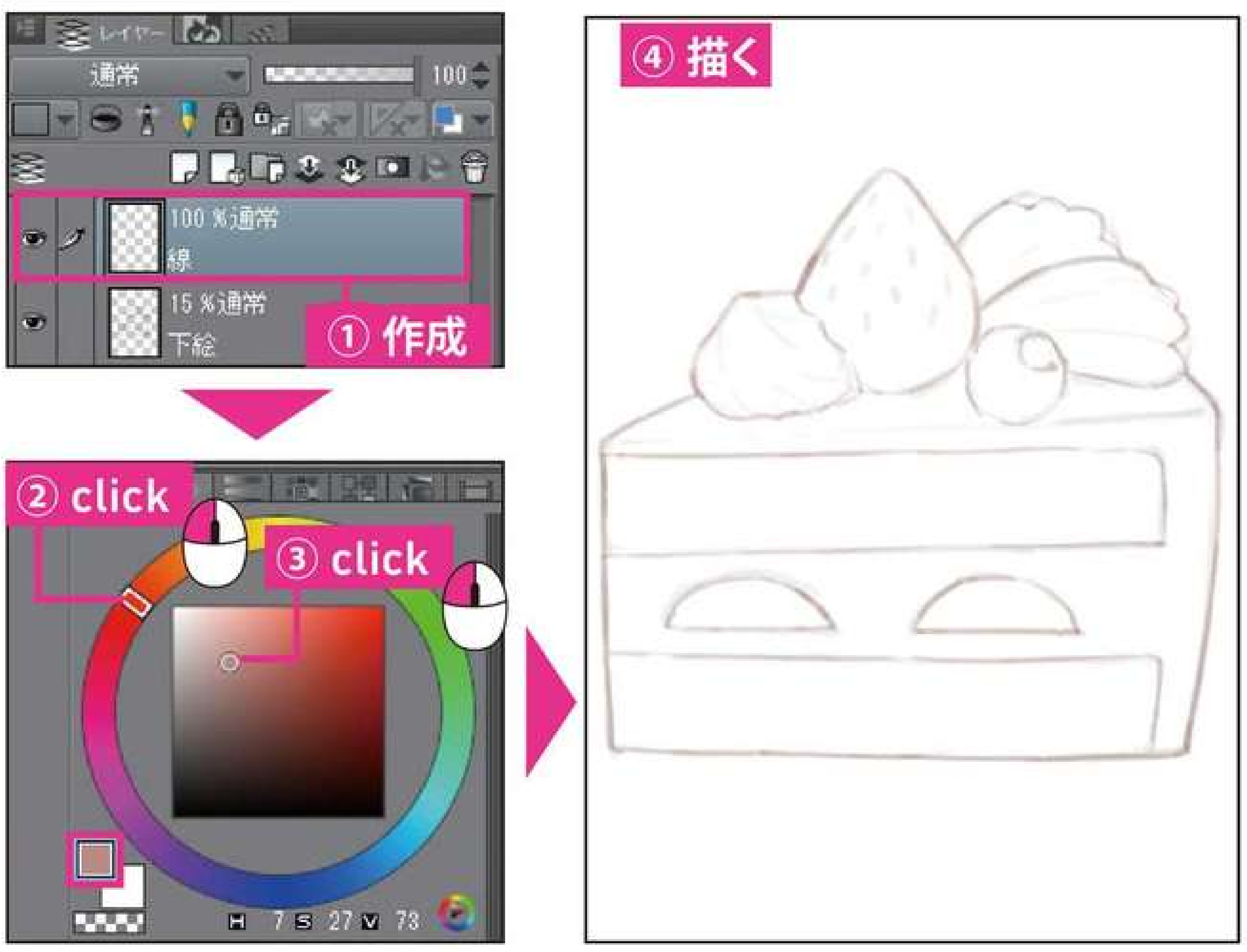
2

下絵ができたら線画を描きやすいようにレイヤーの不透明度を下げます。
ここでは「15%」に設定しました。



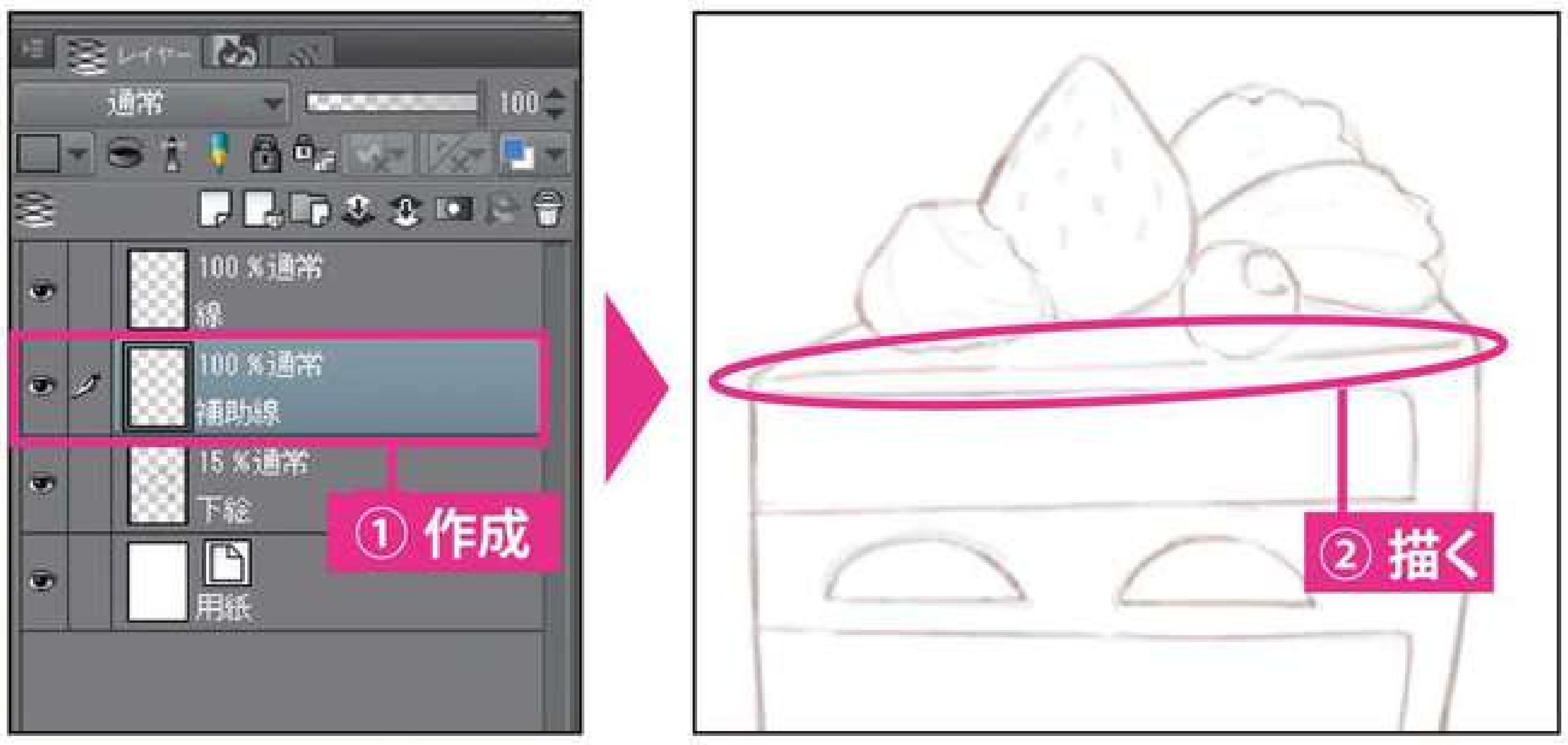
3

線画を描くレイヤーを「下絵」レイヤーの上に用意し（「線」レイヤー）、[鉛筆]ツールの[デッサン鉛筆]で下絵をなぞって線画を描いていきます。
[カラーサークル]パレットからやわらかい茶色を選びました。



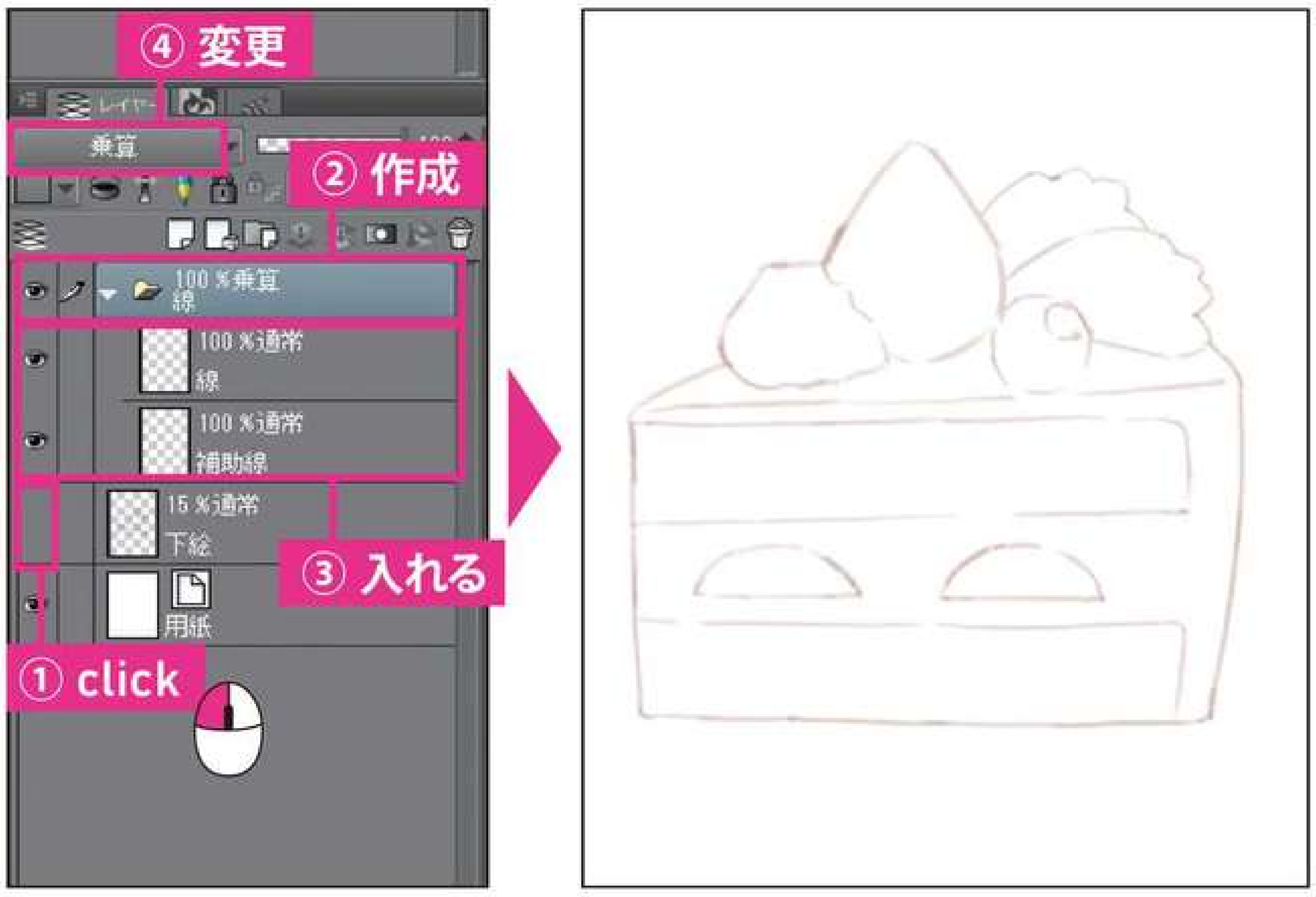
4

さらに新しいレイヤーを用意し（「補助線」レイヤー）、塗る際の目安になる線を描いておきます。
この「補助線」レイヤーは、最終的に非表示にします。



5

「下絵」レイヤーを非表示にし、「線」と「補助線」レイヤーをレイヤーフォルダーにまとめます。レイヤーフォルダーの合成モードを［乗算］にします。



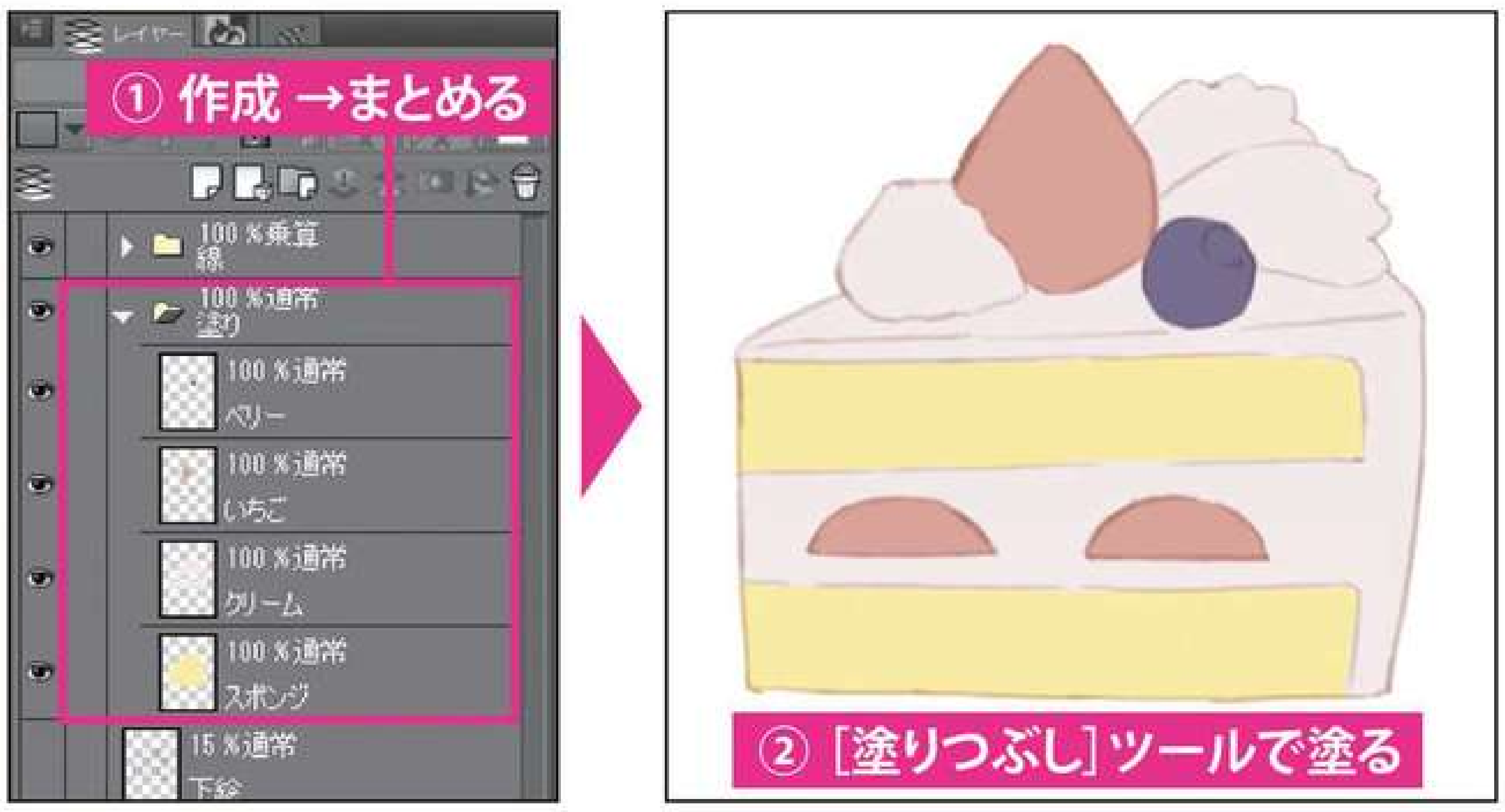
Memo

この新規レイヤーフォルダーの作成方法とレイヤーフォルダーにまとめる手順についれはp.91を参照しましょう。

Step 02 パーツごとに下塗りをする

1

「線画」レイヤーの下に色を塗るレイヤーを用意します。「スポンジ」「クリーム」「いちご」「ベリー」の4つに分けフォルダーレイヤーにまとめます。わかりやすい色で塗りつぶします。

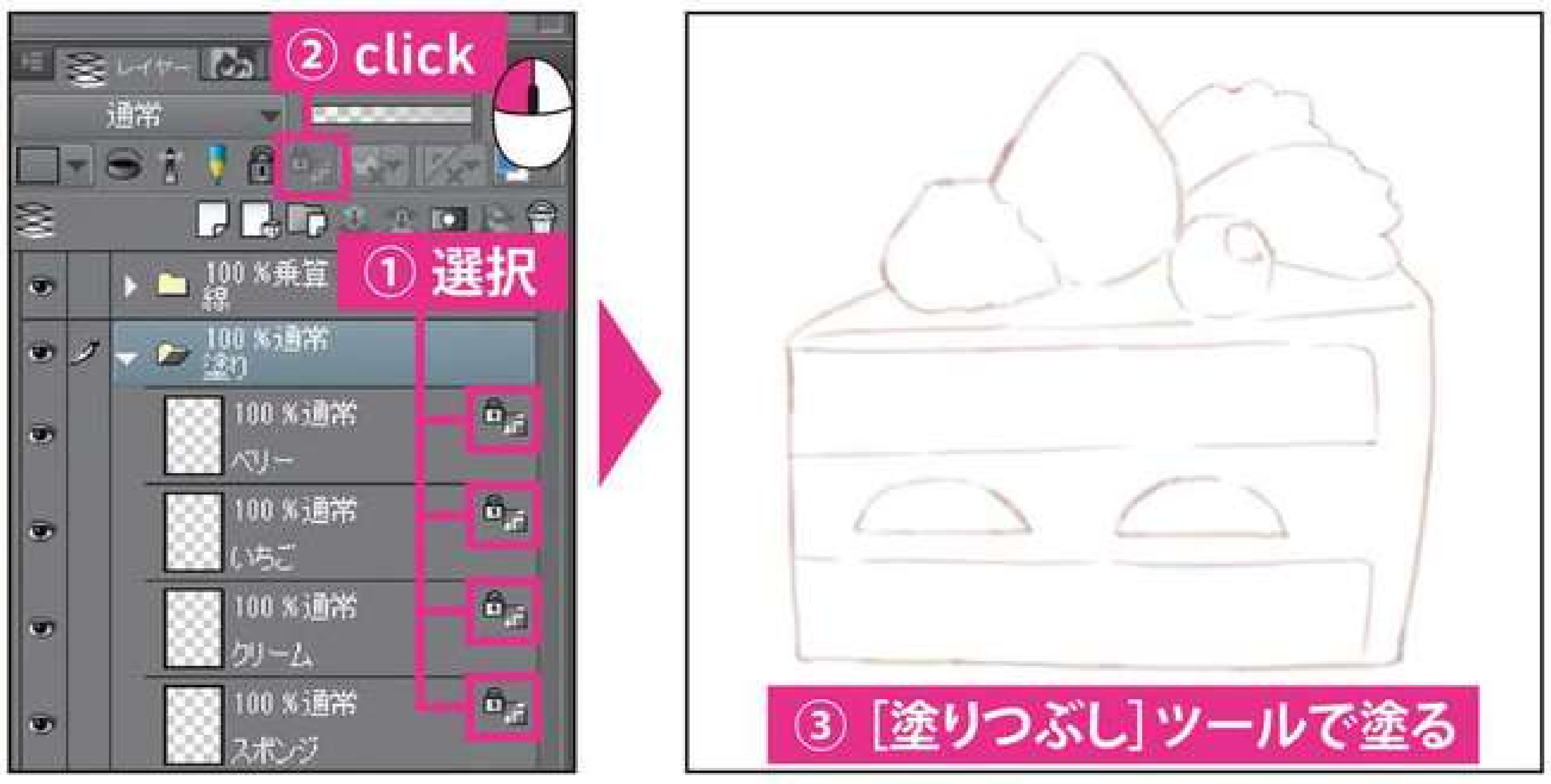


Memo

ここでは、ケーキ全体をまず塗って（スポンジレイヤー）からレイヤーを複製し（×3）、不必要な部分を消して各レイヤーを作っています。線がつながっていない場合は［ペン］や［消しゴム］などのツールでつなげます。

2

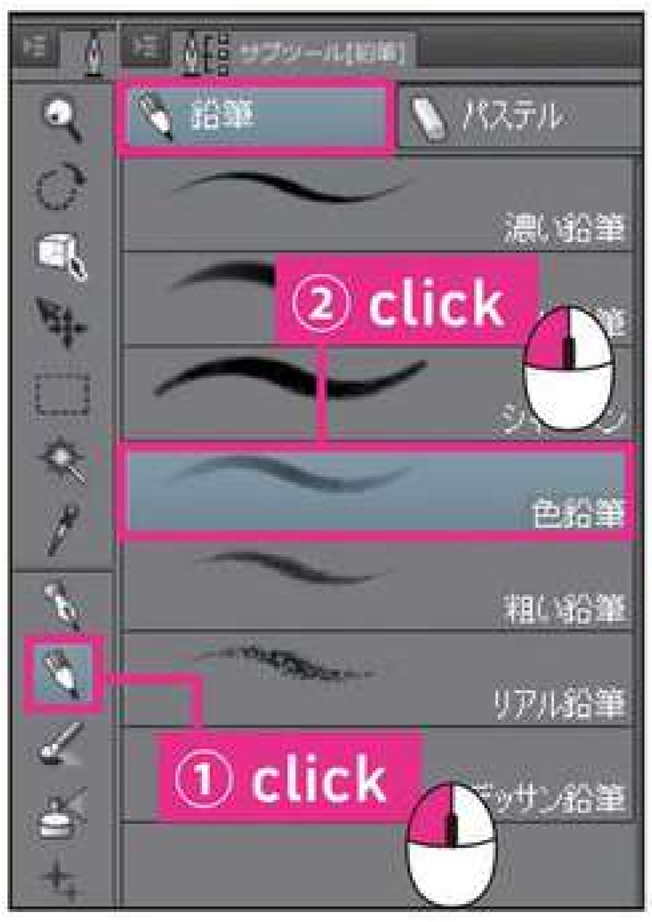
それぞれのレイヤーに［透明ピクセルをロック］を設定し、白色で塗りつぶします。



Step 03 ブラシの紙質を設定する

1

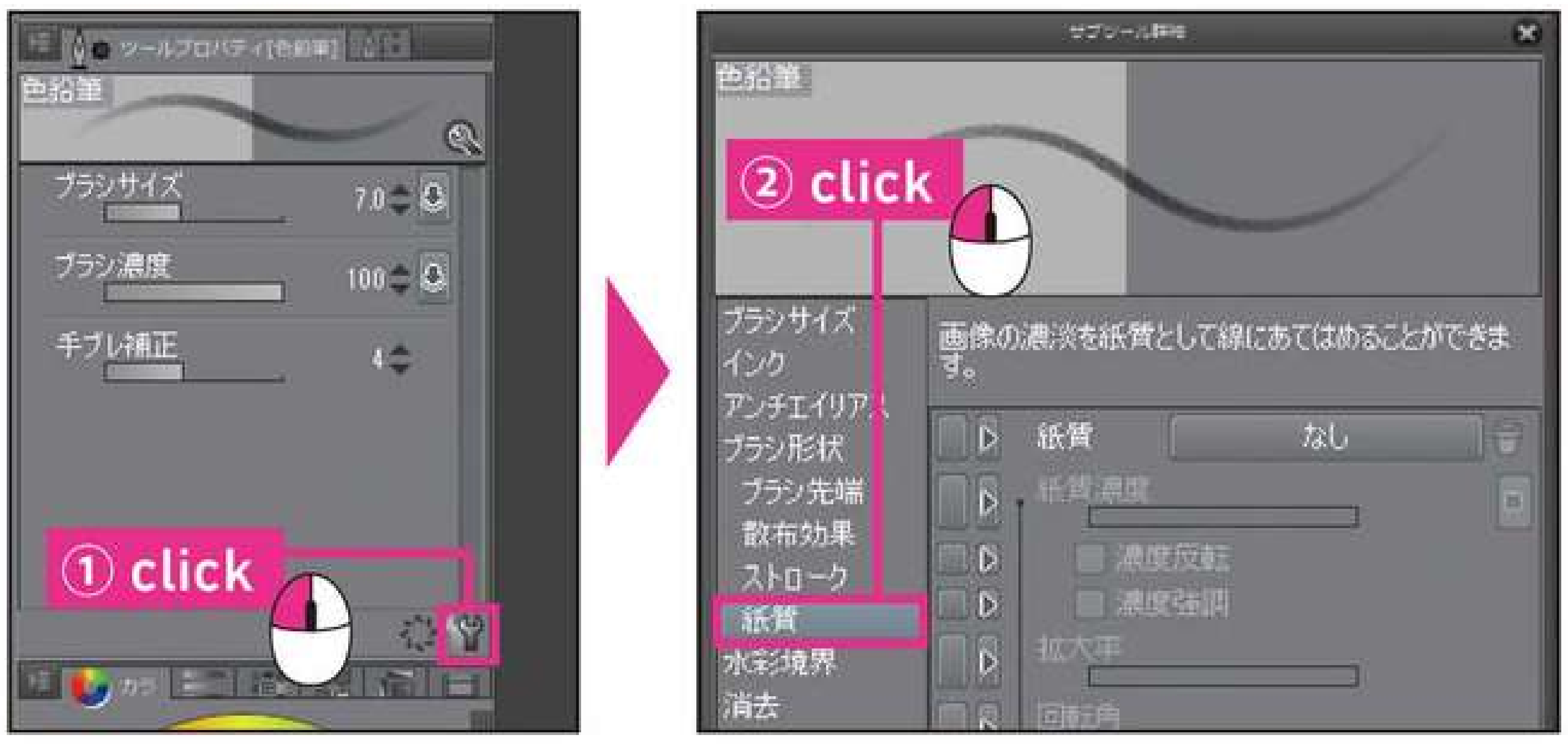
Step04以降の塗りは色鉛筆を使います。[ツール]パレットから[鉛筆]ツール、[サブツール]パレットから「色鉛筆」を選択します。





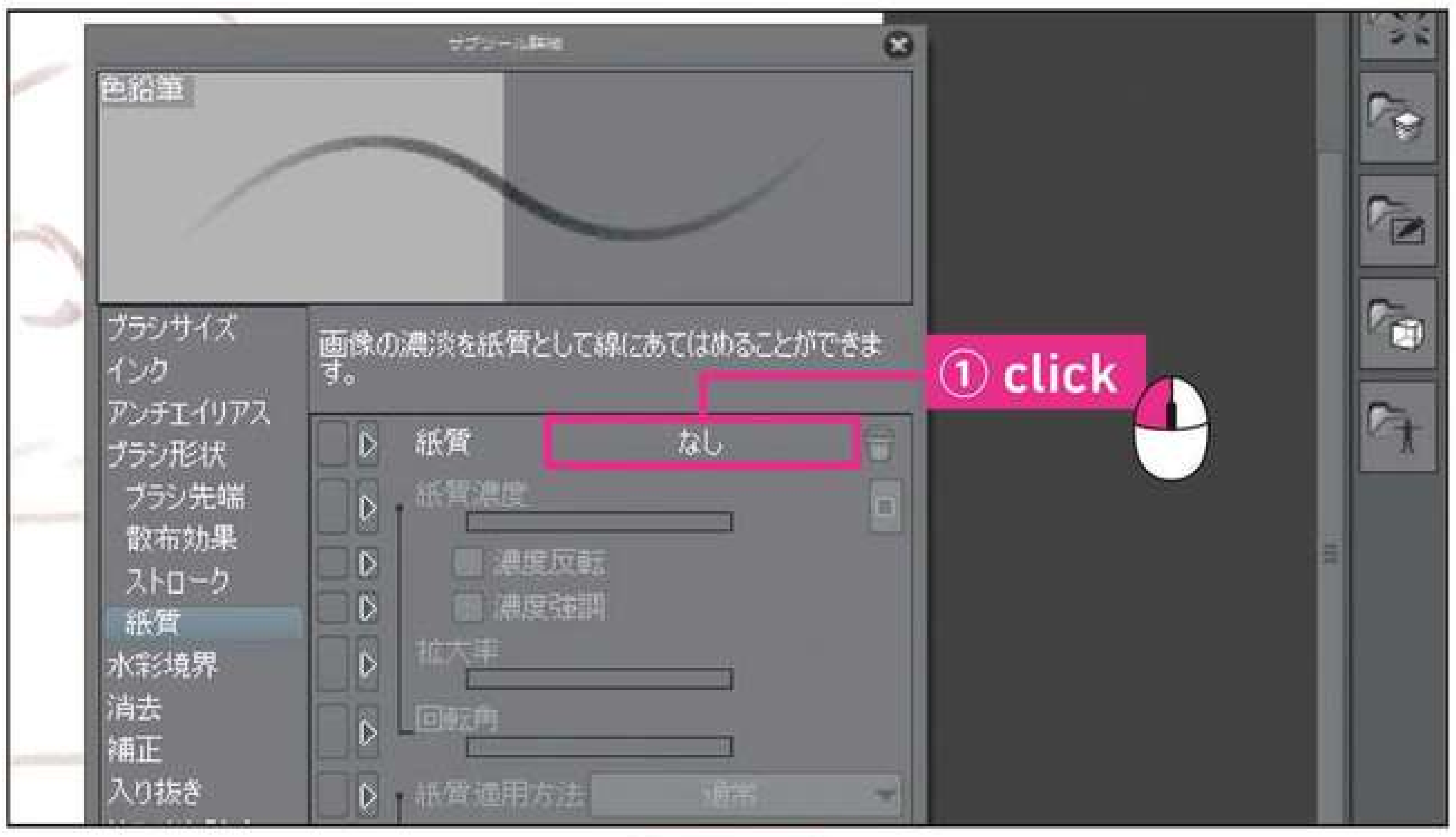
2

[サブツール]パレットの[サブツール詳細]アイコンをクリックし、パレットを表示します。
[サブツール詳細]パレットのカテゴリから「紙質」を選択します。



3

[紙質]の[なし]ボタンをクリックします。[用紙テクスチャ素材の選択]パレットが表示されるので、「画用紙」を選択し、[OK]ボタンをクリックします。





Memo
[紙質]は初期設定では、[なし]になっています。

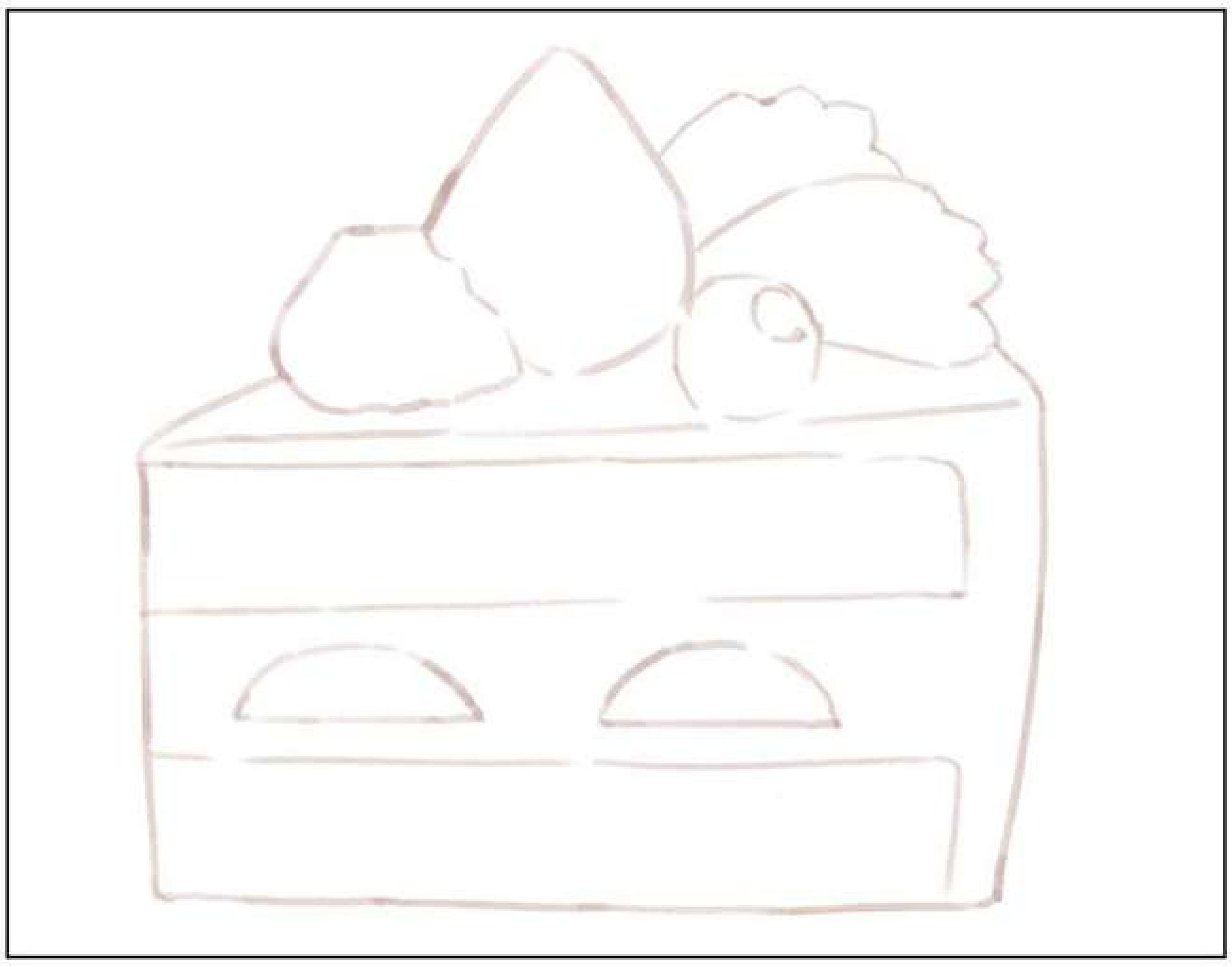
4

［サブツール詳細］パレットの［紙質］が「画用紙」に設定されました。
［紙質濃度］を「100%」に設定します。



5

画用紙の質感が入ることで紙に色鉛筆で描いている感じにより近くなります。

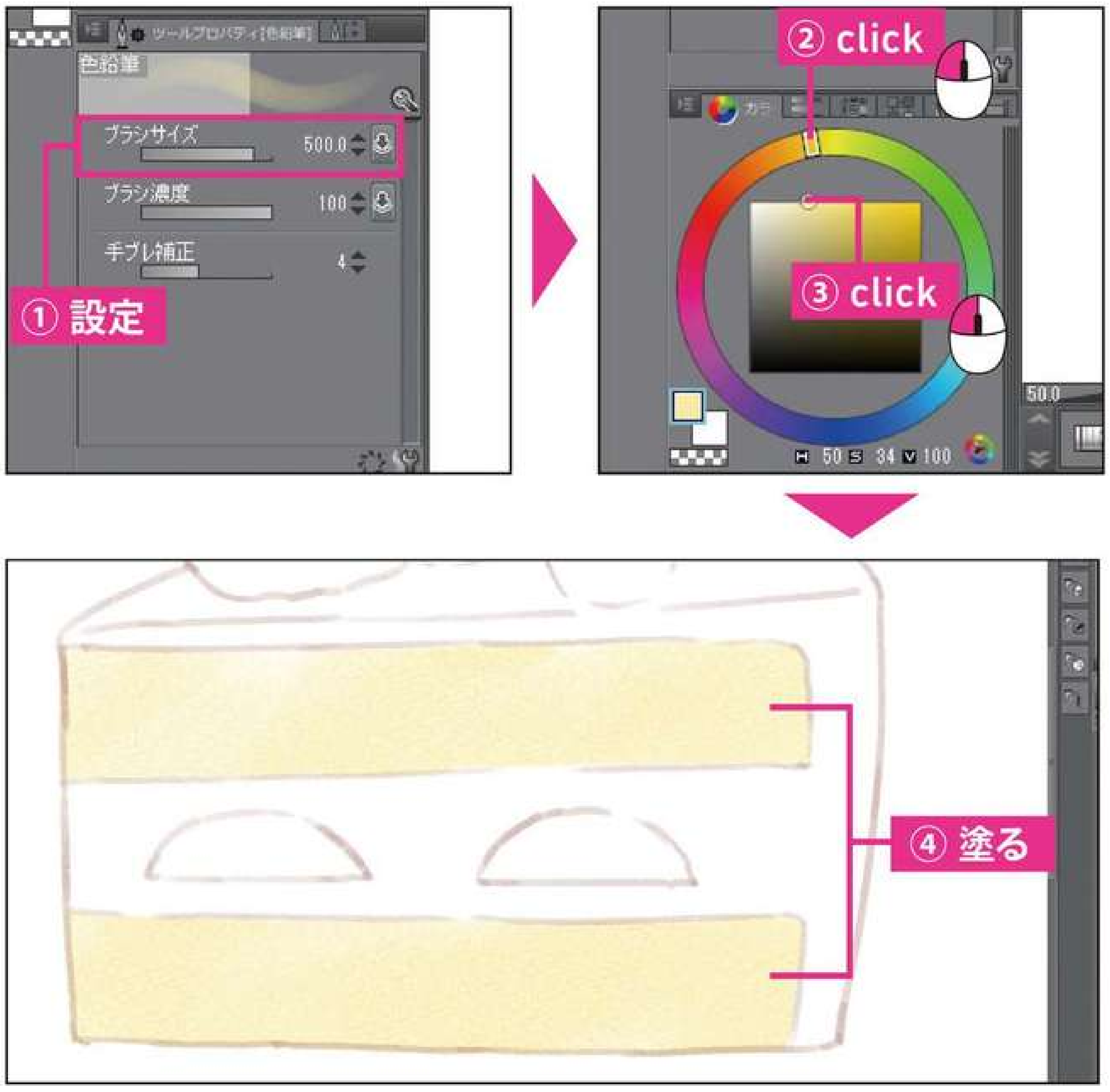




Step 04 スポンジの色を塗る

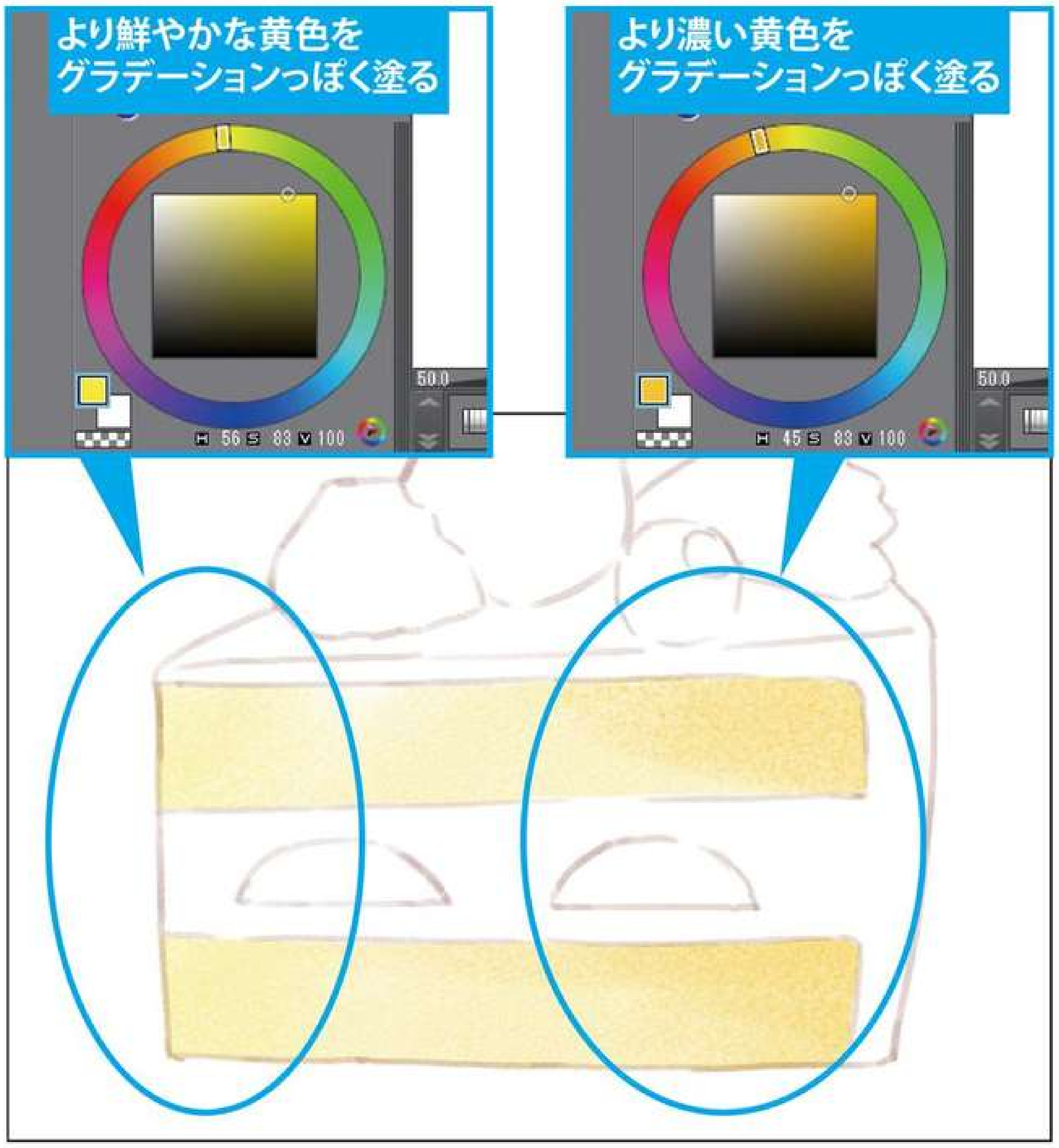
1

ここではスポンジの部分を塗っていきます。*Step03*で作った［鉛筆］ツールの「色鉛筆」のブラシサイズを大きめに設定し、薄黄色で全体を塗ります。



2

より鮮やかな黄色を選択してケーキの先端側（左側）を、やや濃い黄色を選択して厚みのある側（右側）に重ねて塗ります。



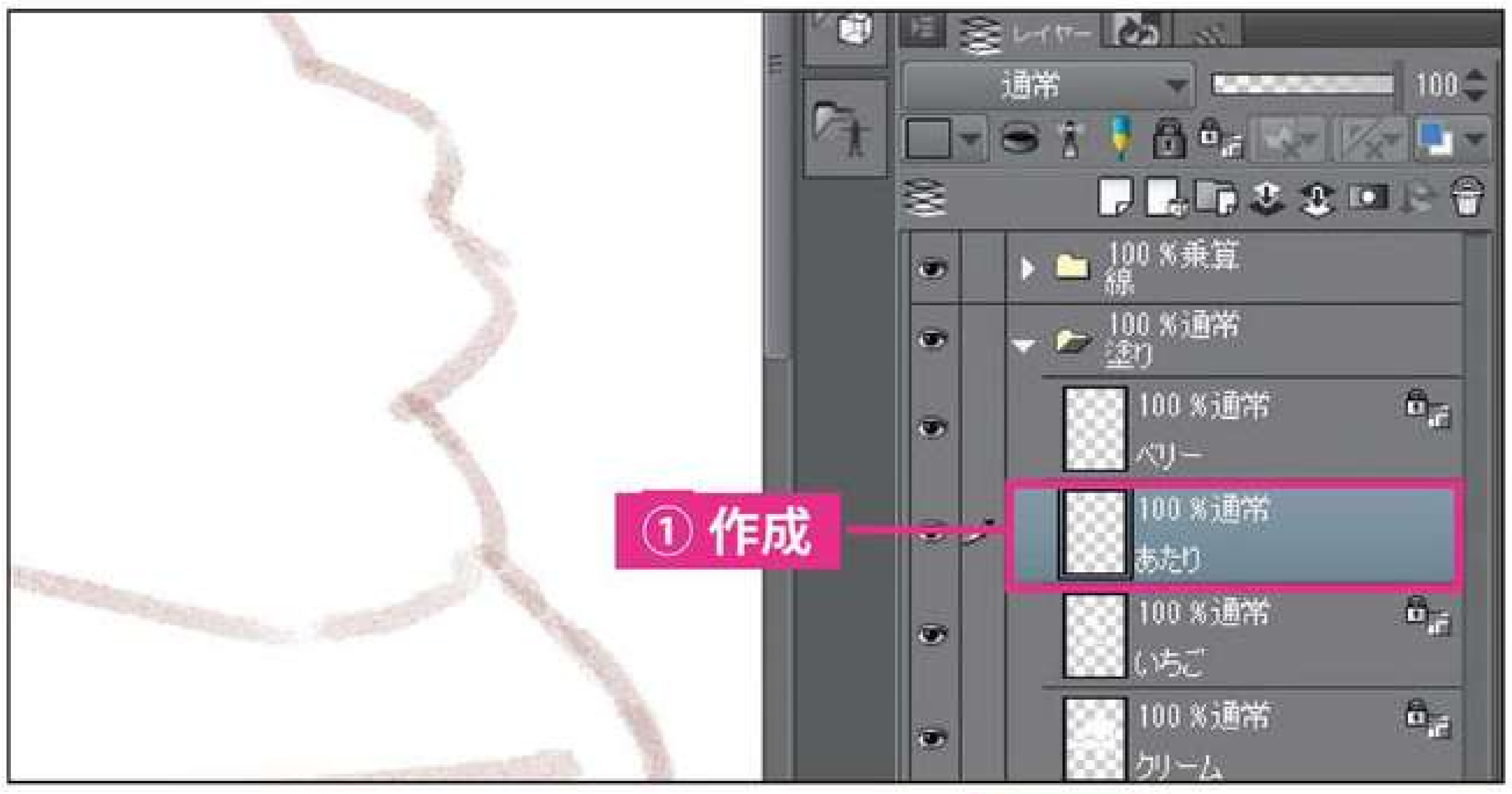
Memo

グラデーションっぽく塗り重ねて色鉛筆の感じを出します。

Step 05 いちご・クリーム・ベリーを塗る

1

白い部分は紙の白を残したようにしたいので、色を塗る前に新規ラスターレイヤーを作成し（「アタリ」レイヤー）、アタリの線を描きます。
光が当たっている部分を白く抜くイメージです。







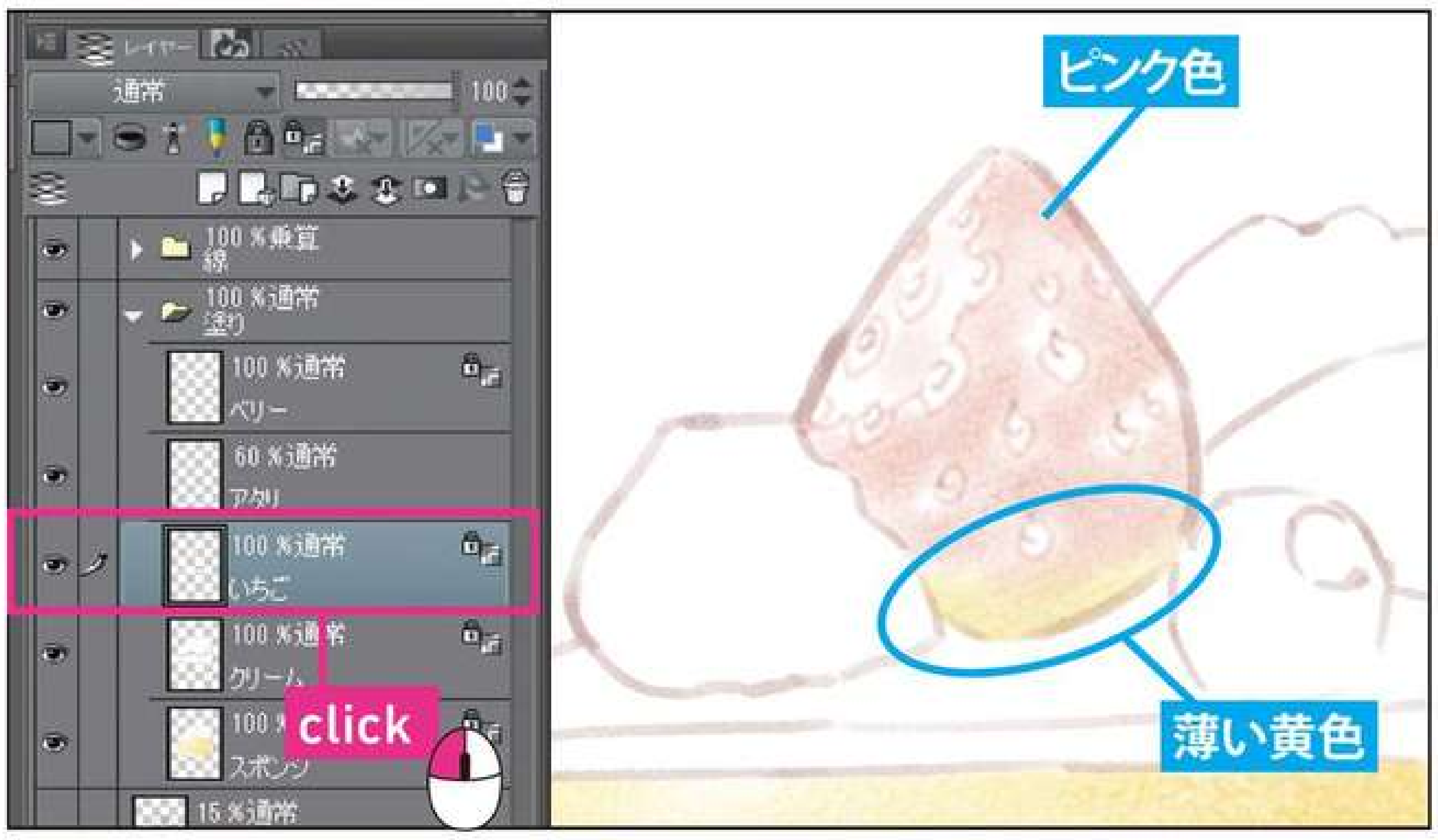
2

「アタリ」レイヤーの不透明度を下げておきます。



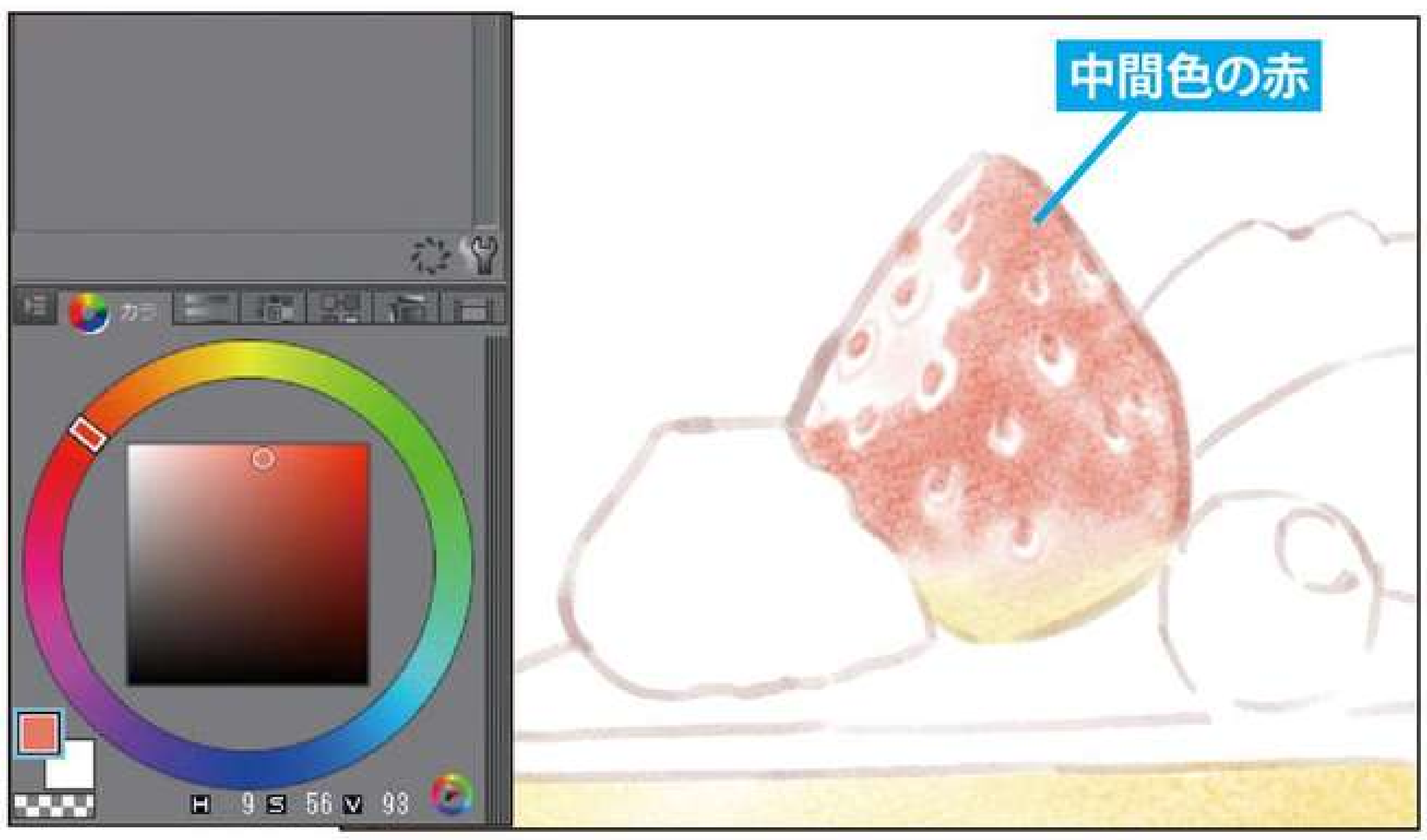
3

アタリの線を参考に薄い色から塗っていきます。
「いちご」レイヤーを選択し、いちごの下部分を薄黄色、全体をピンク色にしました。



4

中間の色の赤を塗っていきます。



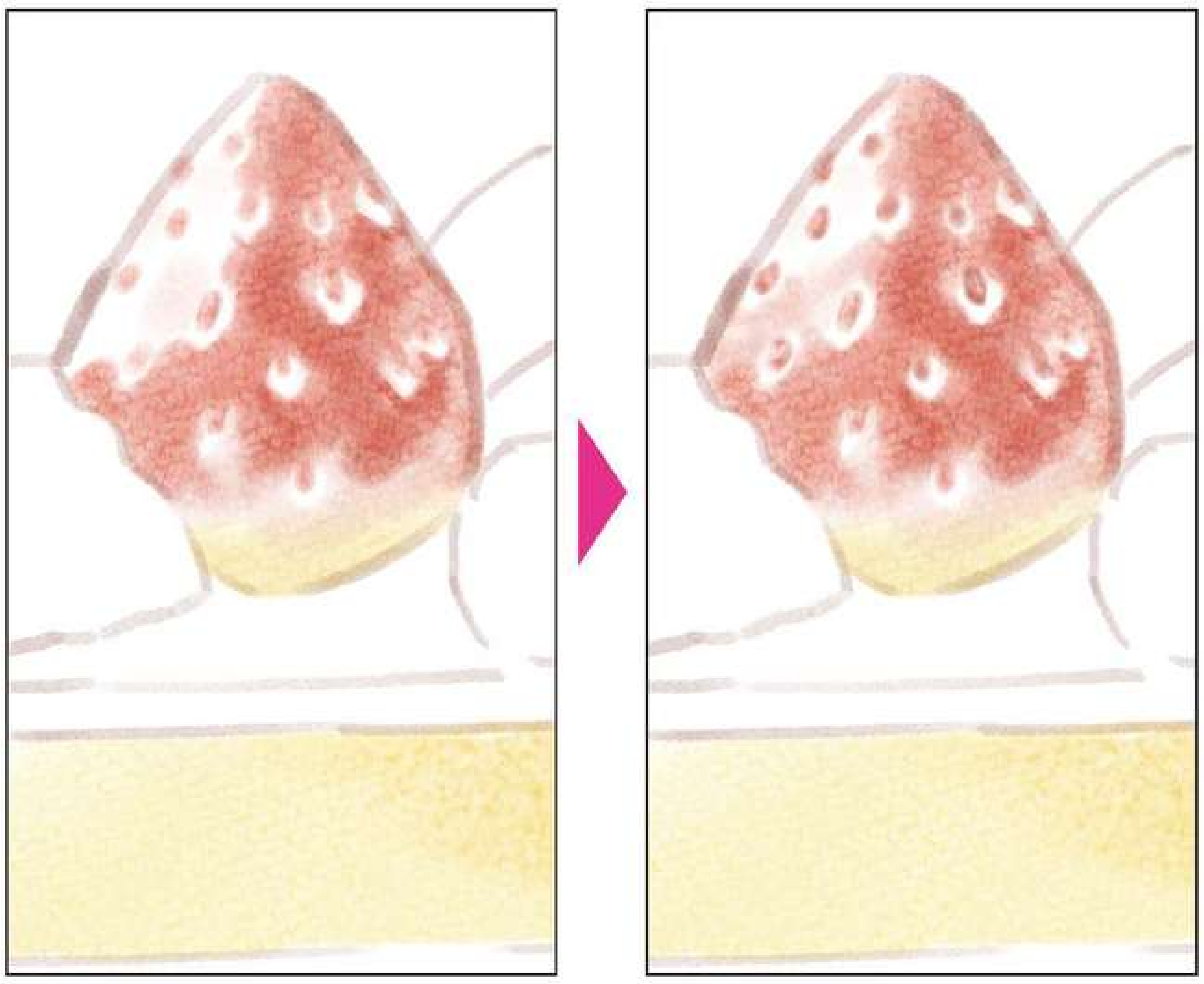
5

影の部分にやや濃く暗い赤を塗ります。種の部分も影として塗ります。



6

アタリの線を非表示にしても違和感がないように描き込んでいきます。



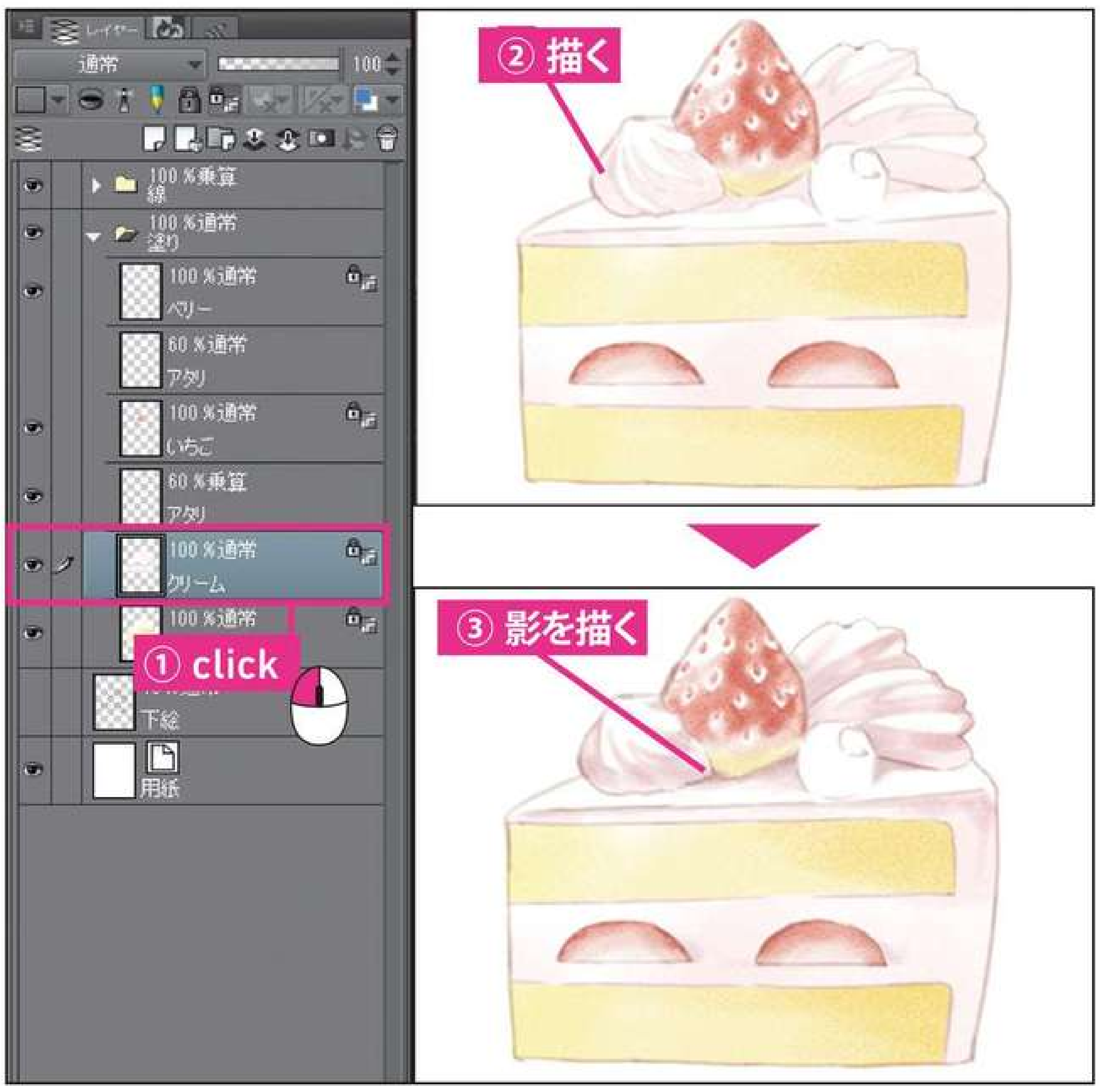
7

他のパーツも同じようにして塗っていきます。
「クリーム」レイヤーの上に新規ラスターレイヤーを追加し、クリームのアタリを描きます。



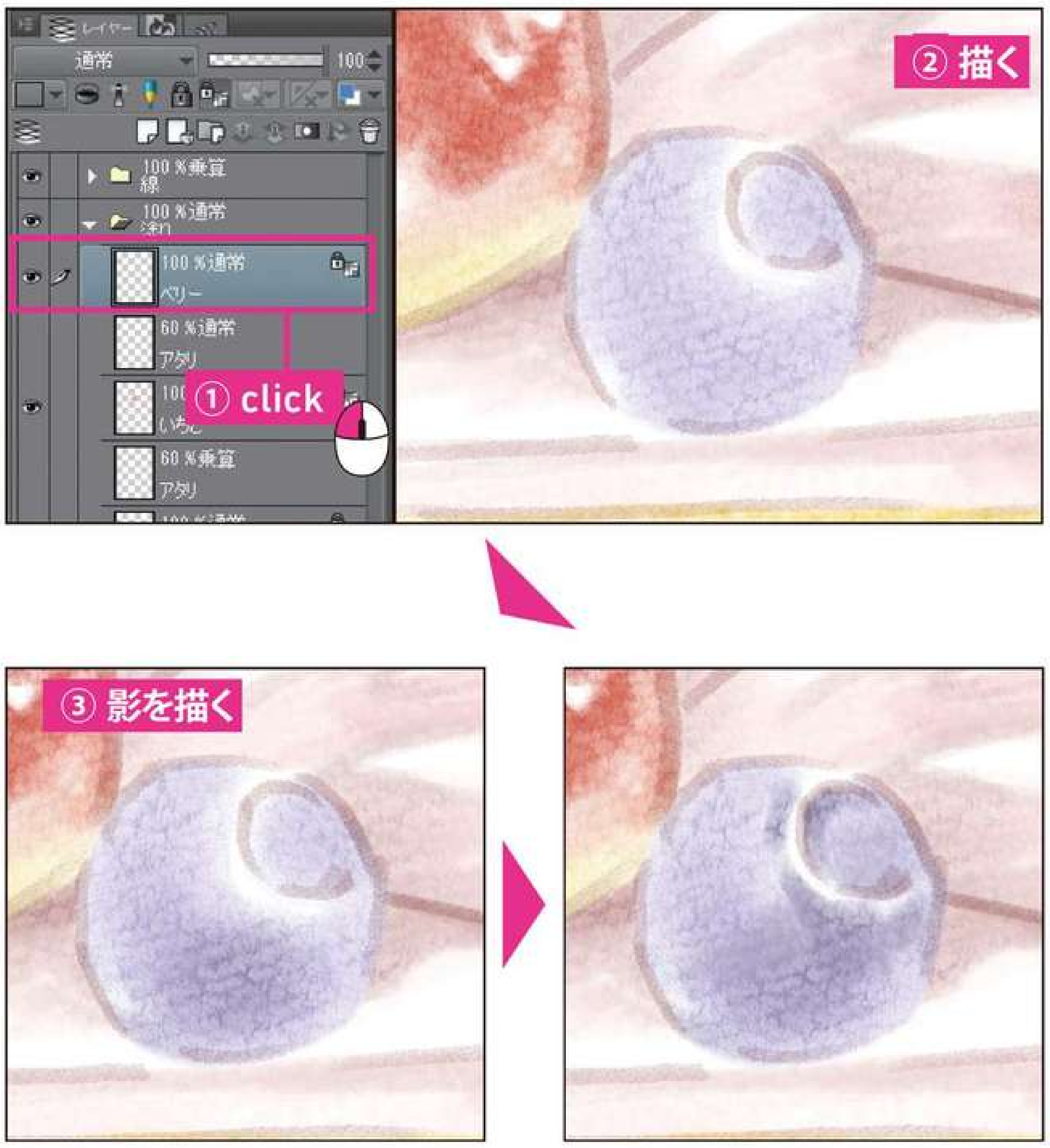
8

「クリーム」レイヤーを選択し、図のようにクリームを塗ります。
クリームの影の部分もやや暗い色を選択して塗ります。



9

ベリーも図を参考に塗ってみましょう。



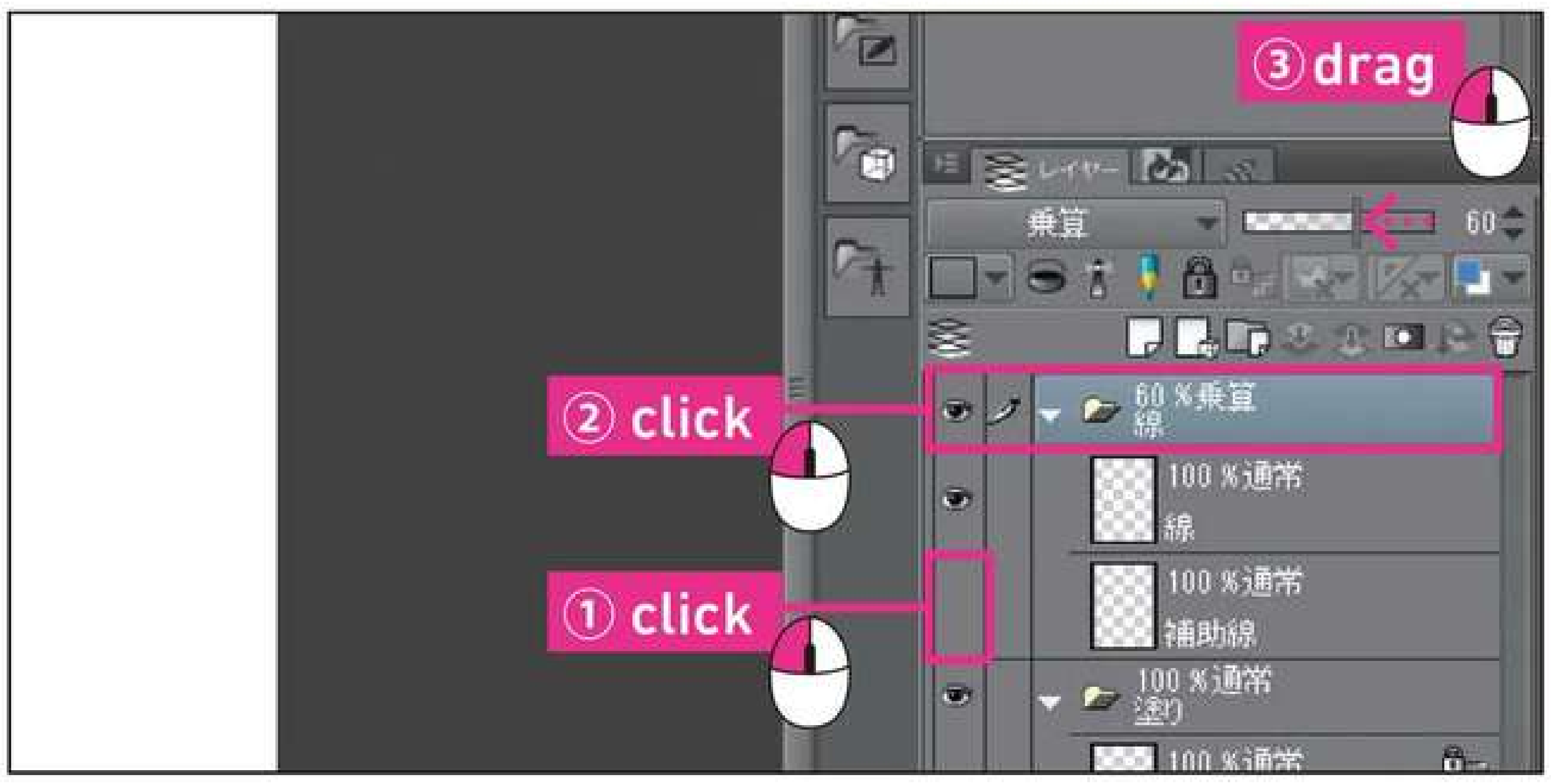
Memo

ベリーはアタリを描かず、そのまま塗っています。

Step 06 輪郭線を強調させる

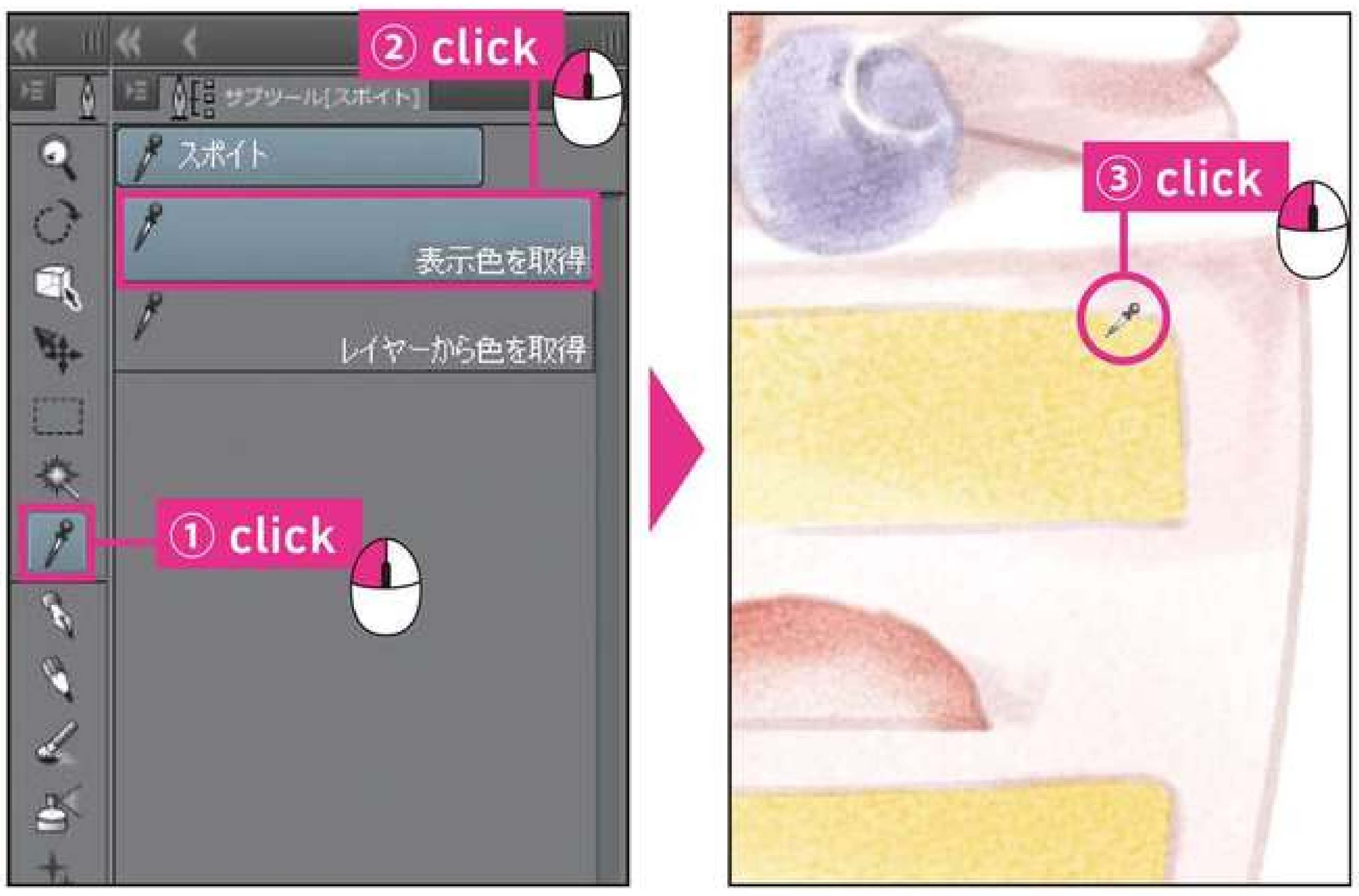
1

「補助線」レイヤーの目のアイコンをクリックして非表示にし、「線」レイヤーフォルダーの不透明度を下げます。
ここでは「60%」にしました。



2

線に隣接している色をスポイトで取ります。
[スポイト]ツールをクリックし、「表示色を取得」を選択します。
色を取りたい部分をクリックします。



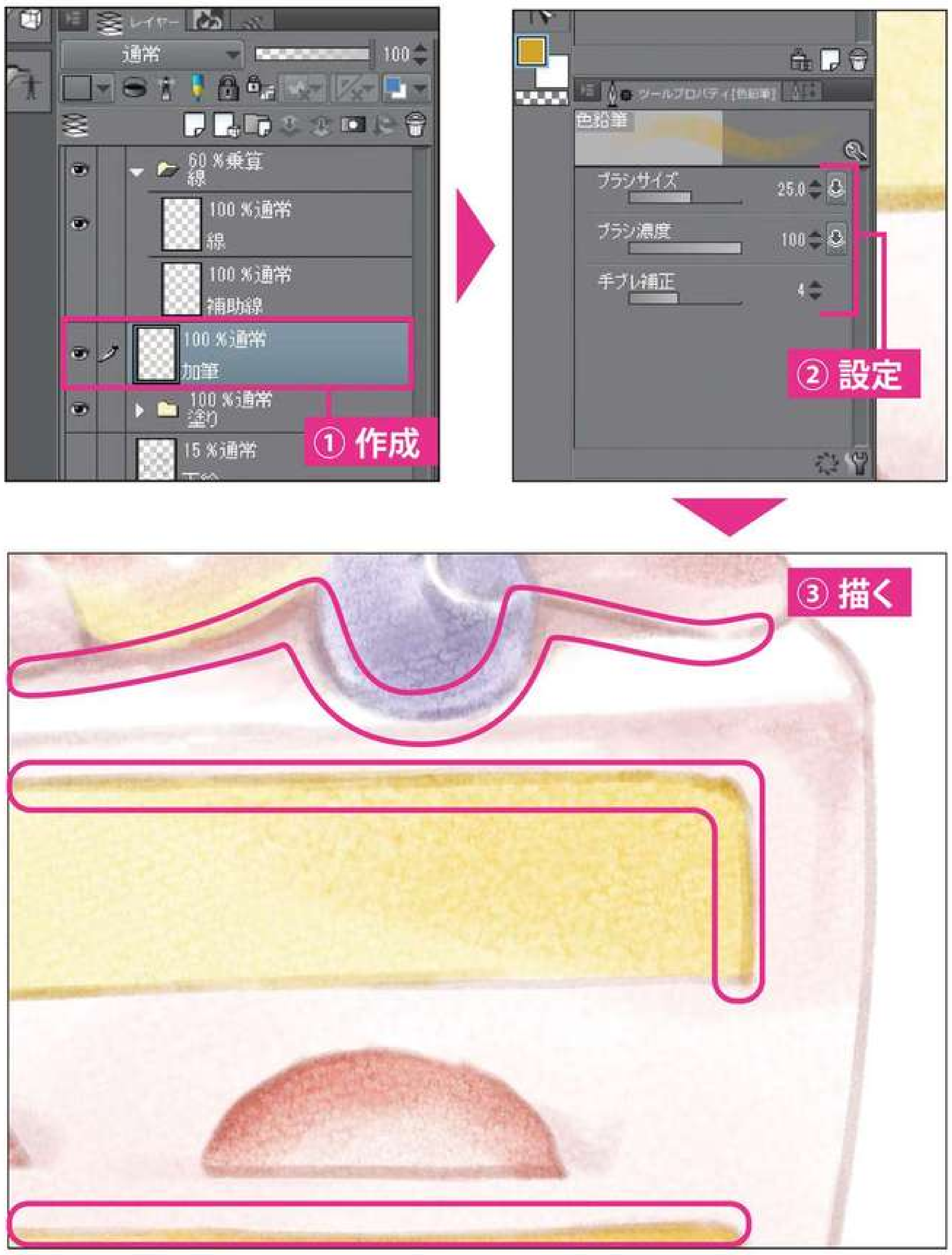
3

[カラーサークル]パレットで[スポイト]ツールで取得した色よりも濃い色を選択します。



4

新規ラスターレイヤーを用意し(「加筆」レイヤー)、線画に沿って濃い色を塗り、輪郭線を強調させていきます。



5

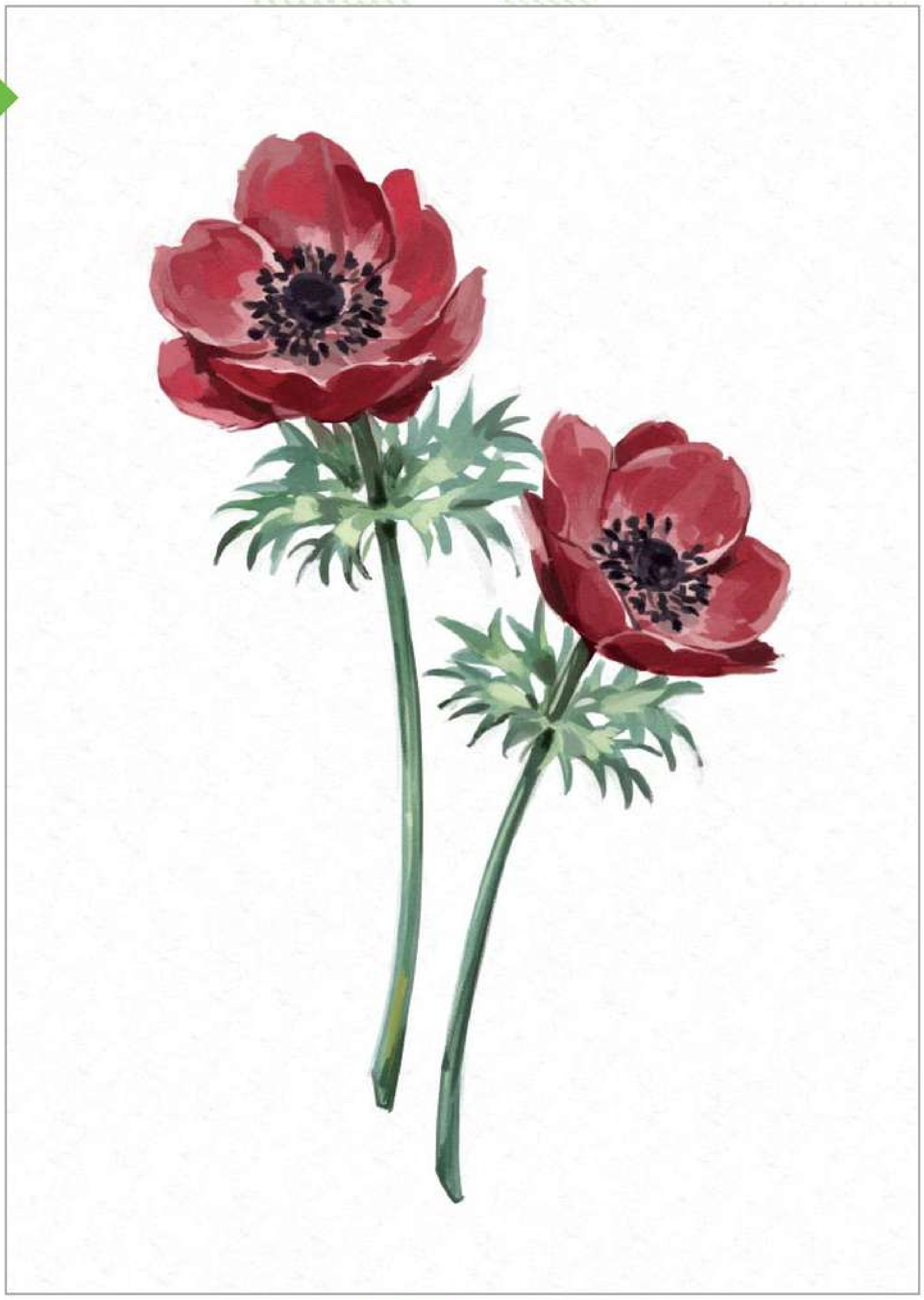
塗る場所ごとに色を作りながら塗っていきます。
影などが弱い部分もここで一緒に加筆して完成です。



油彩風に描いてみよう



Before 5-04.clip



After 5-04a.clip

油彩のタッチで厚みのあるイラストを描いてみましょう。

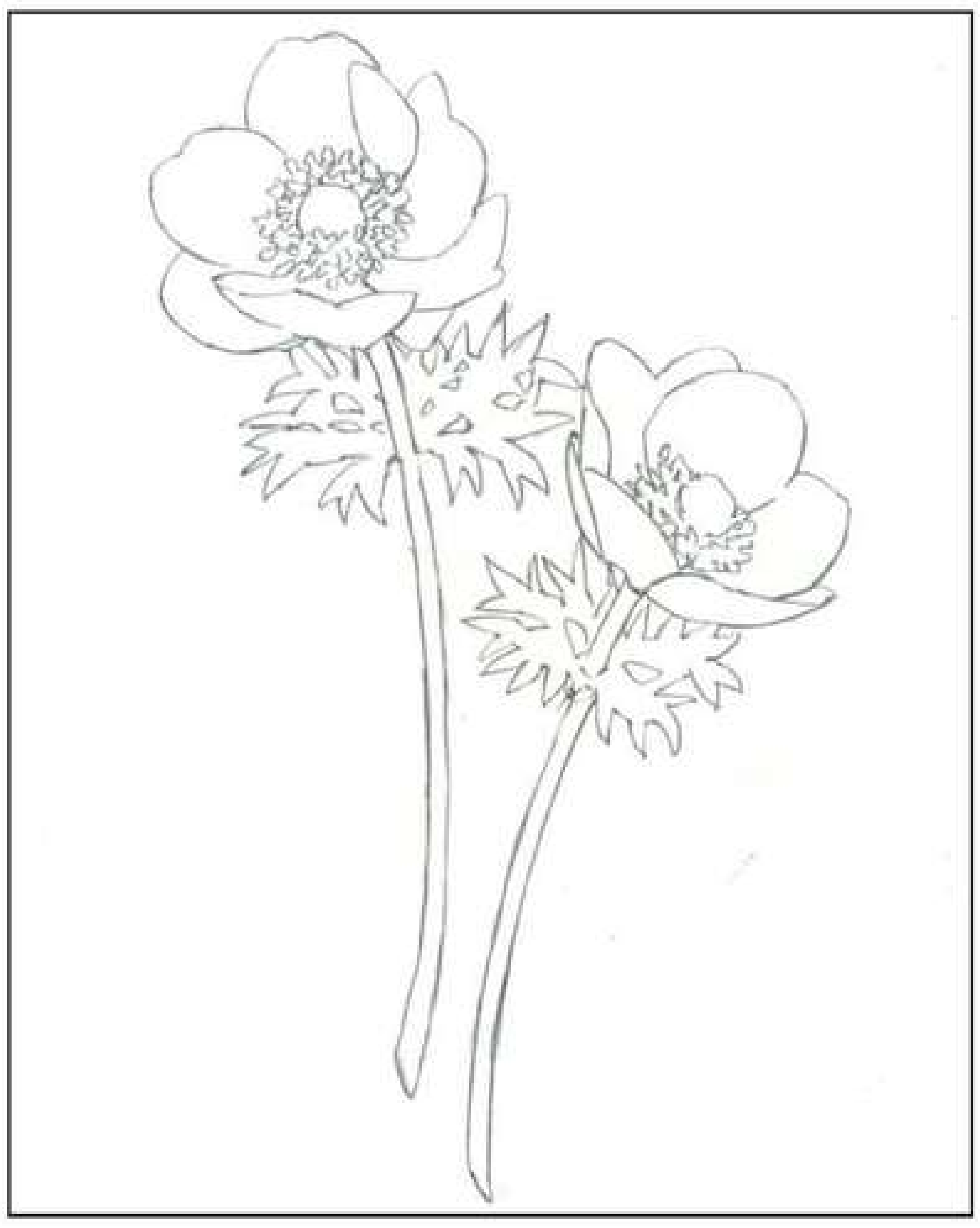
Step 01 下絵を配置する

1

新規キャンバスを用意し、下絵を配置します。

Memo

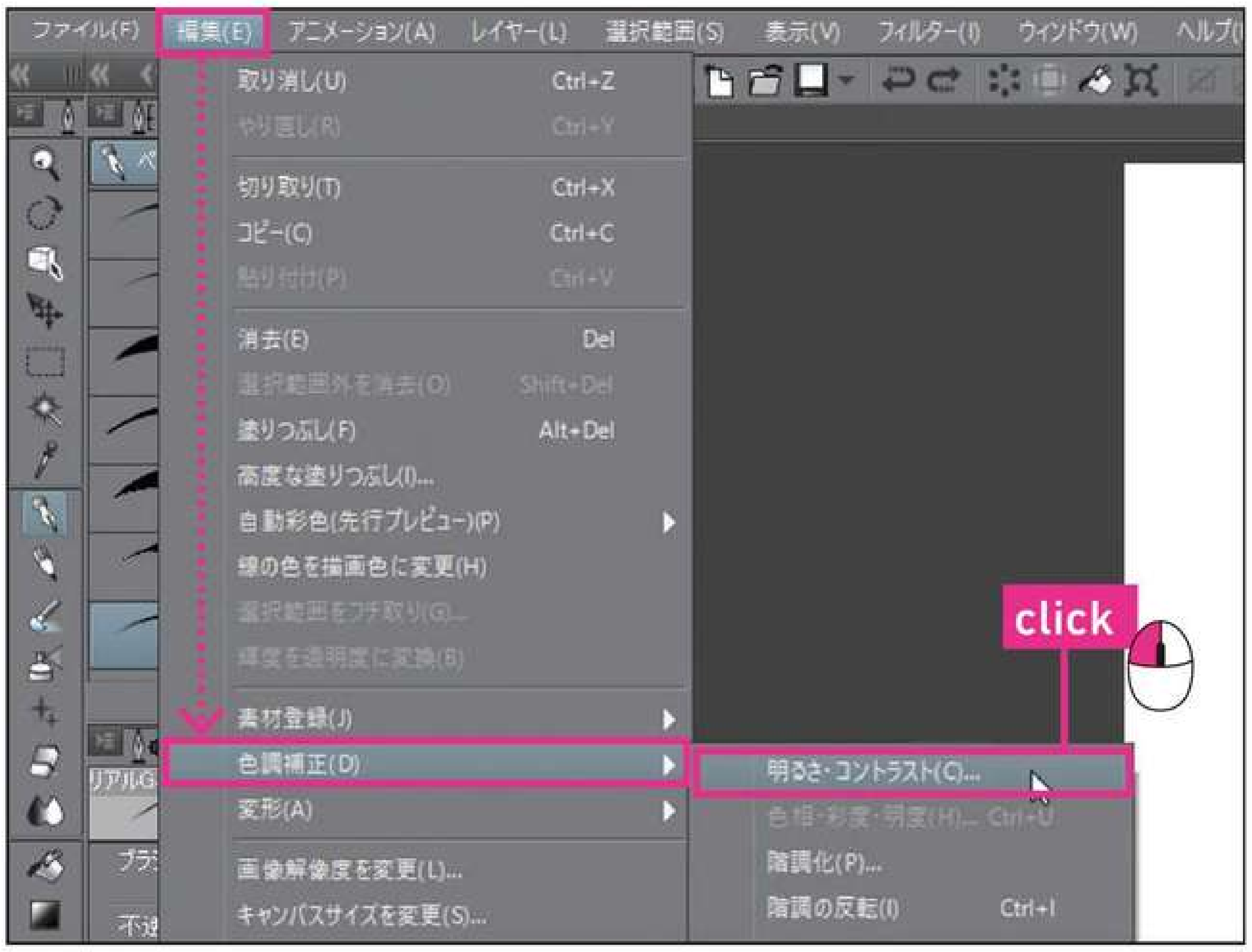
新規キャンバスの作成についてはp.28、下絵の配置方法はp.31を参照しましょう。





2

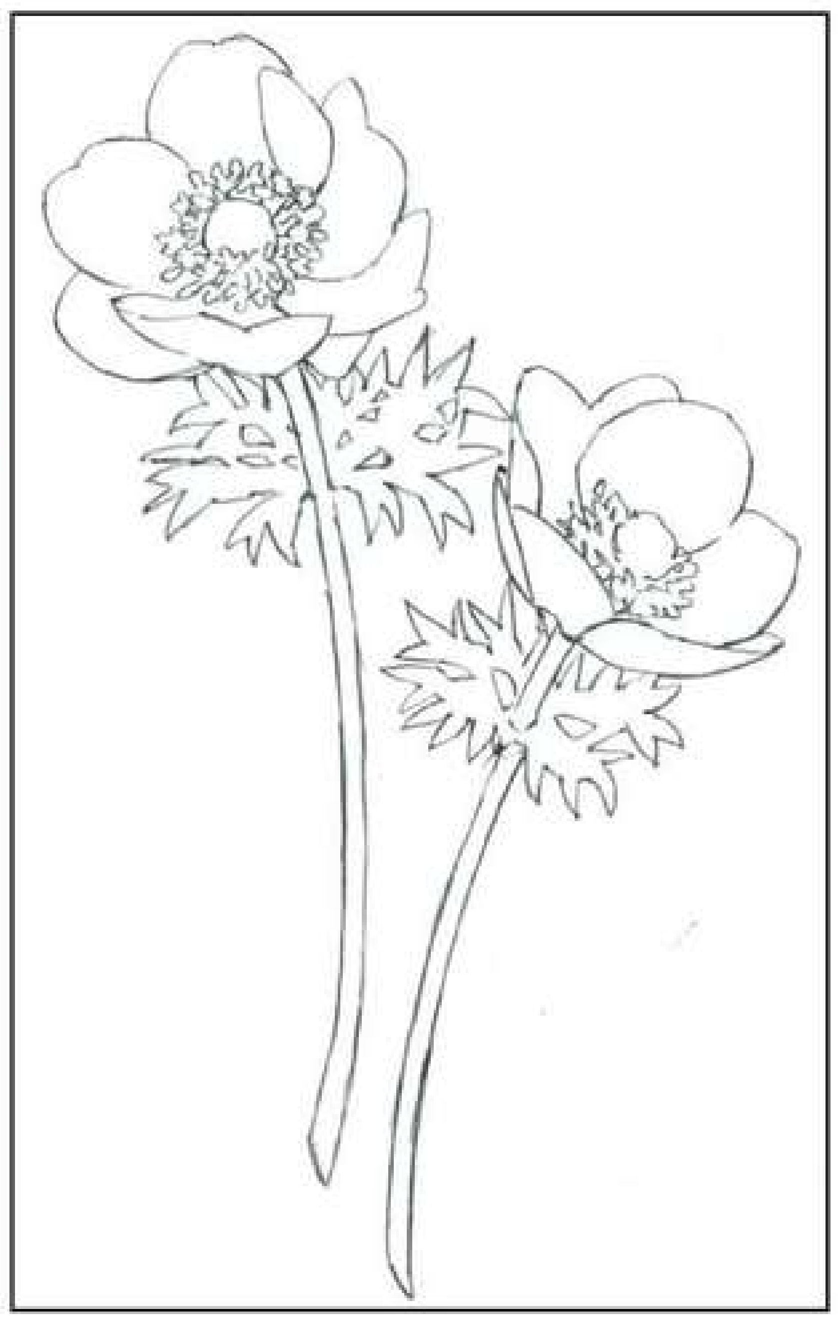
スキャンした下絵が薄くて見にくい場合には、明るさとコントラストを調整して見やすくします。
[編集]メニュー→[色調補正]→[明るさ・コントラスト]の順にクリックします。



3

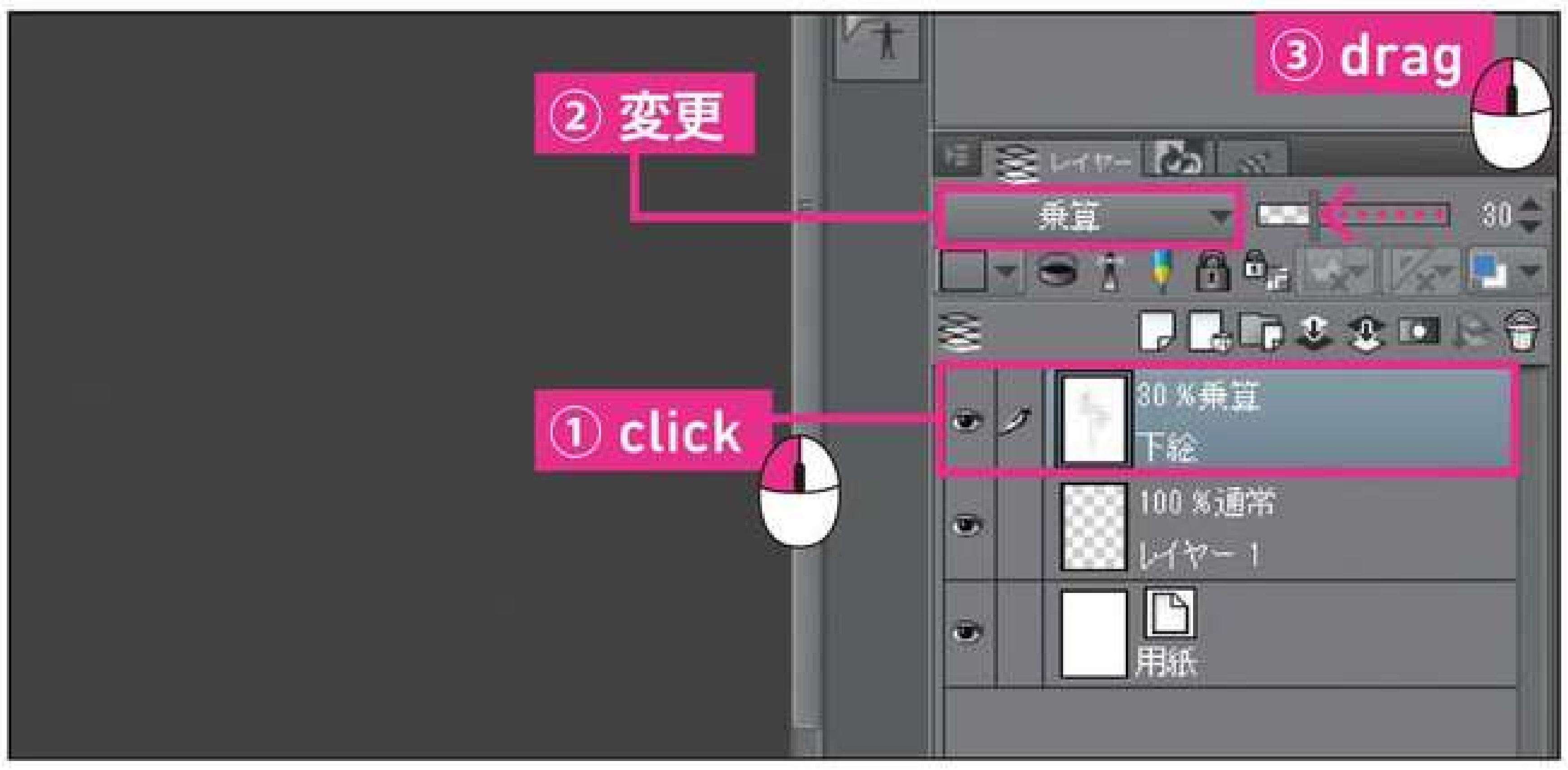
[明るさ・コントラスト]ダイアログが表示されるので、それぞれのバーを左右に動かして見やすいように調整します。
ここでは[明るさ]のバーを左側に、[コントラスト]のバーを右側に動かして、下絵の線が濃くはっきり見えるように調整しました。





4

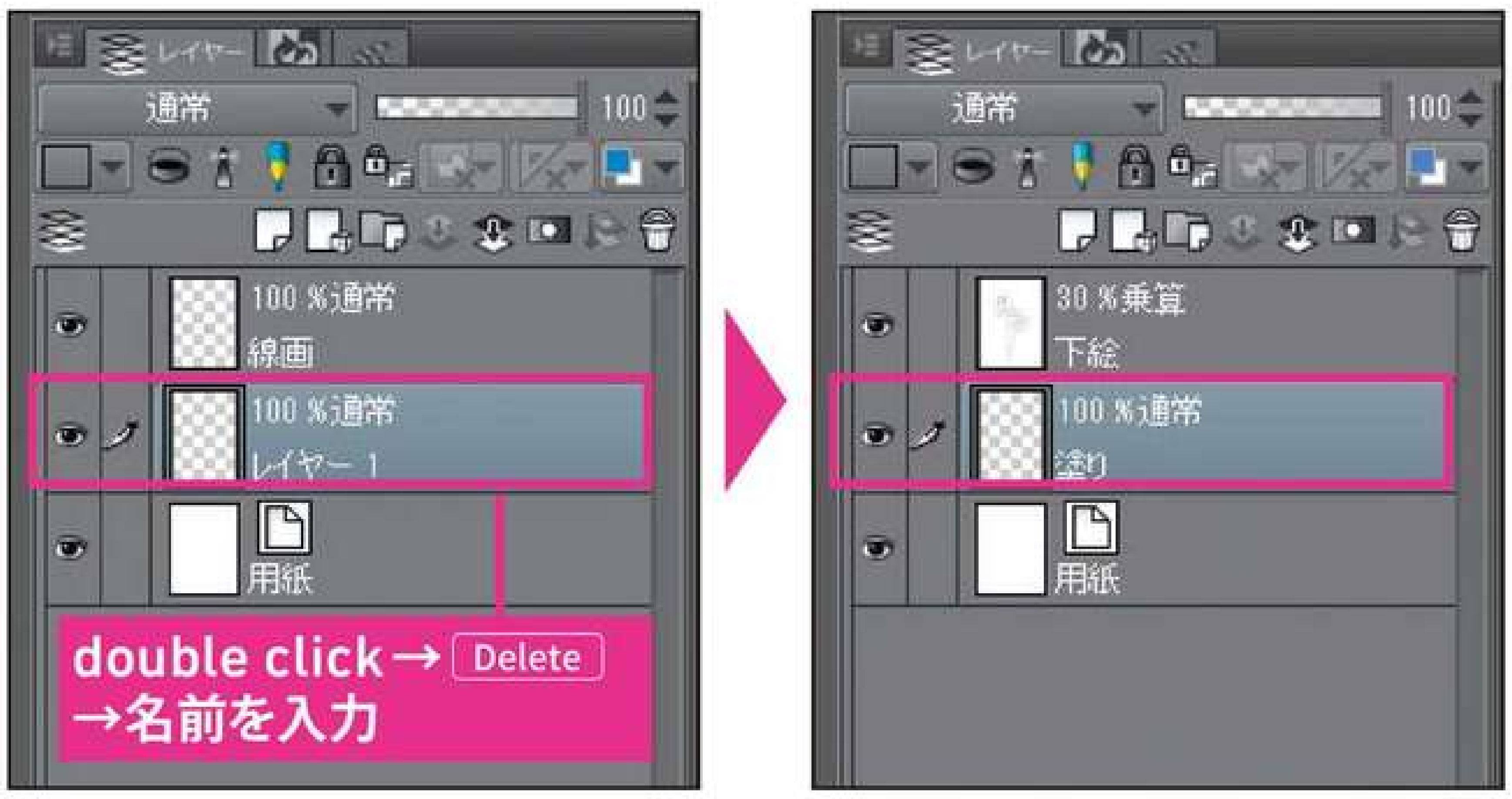
「下絵」レイヤーの合成モードを［乗算］に、不透明度を「30%」にします。



Step 02 大まかな下塗りとグラデーションを入れる

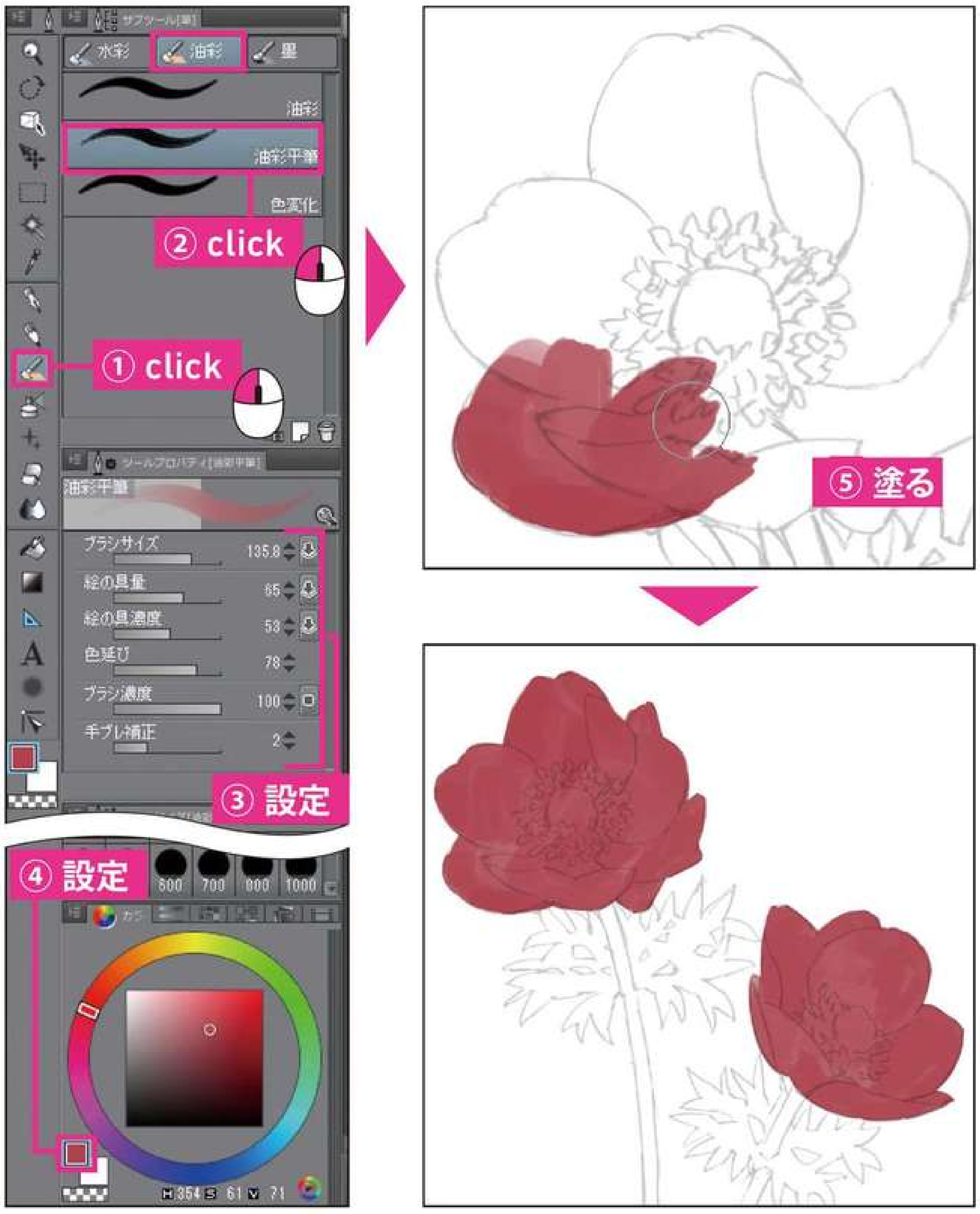
1

あらかじめ作成されているレイヤーを色を塗る用のレイヤーにします。
ここではレイヤー名を「塗り」にしました。



2

下絵をもとに、［筆］ツールをクリックし、［サブツール］パレットで［油彩］の［油彩平筆］を選択して下塗りをしていきます。
はみ出してもあまり気にしなくて大丈夫です。

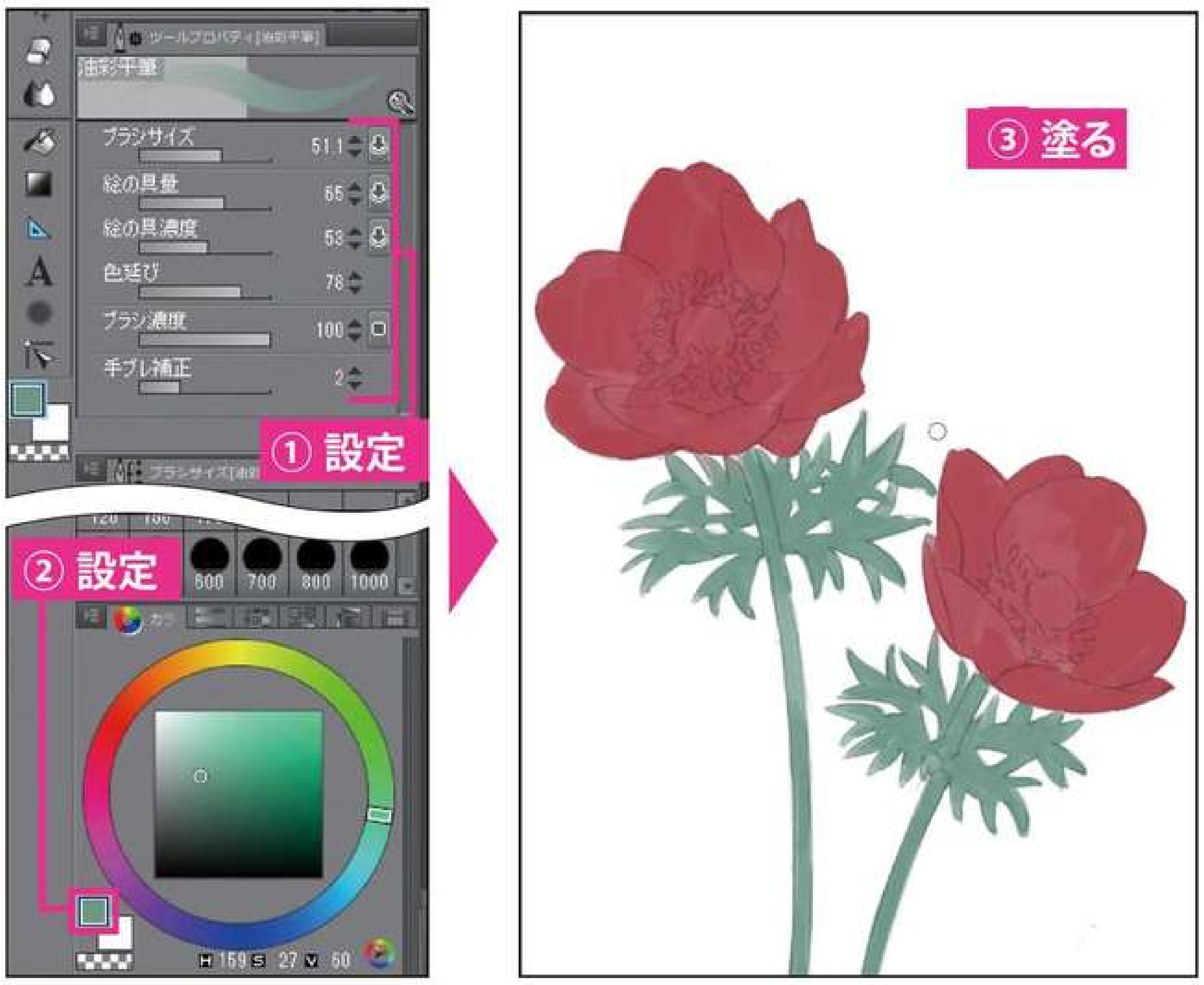


Memo

Ver.1.8.6では、［サブツール］パレットの［厚塗り］から［油彩平筆］を選択します。

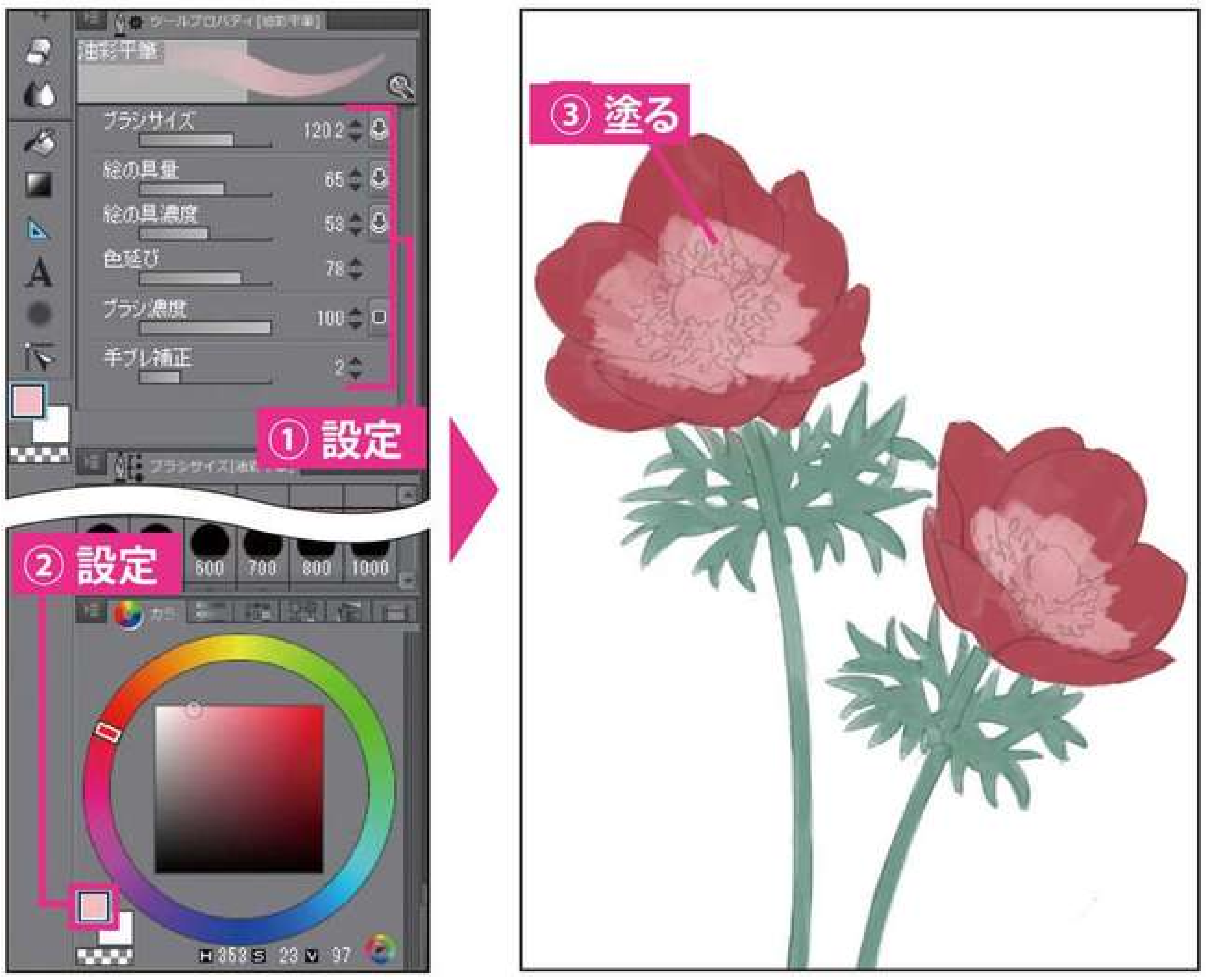
3

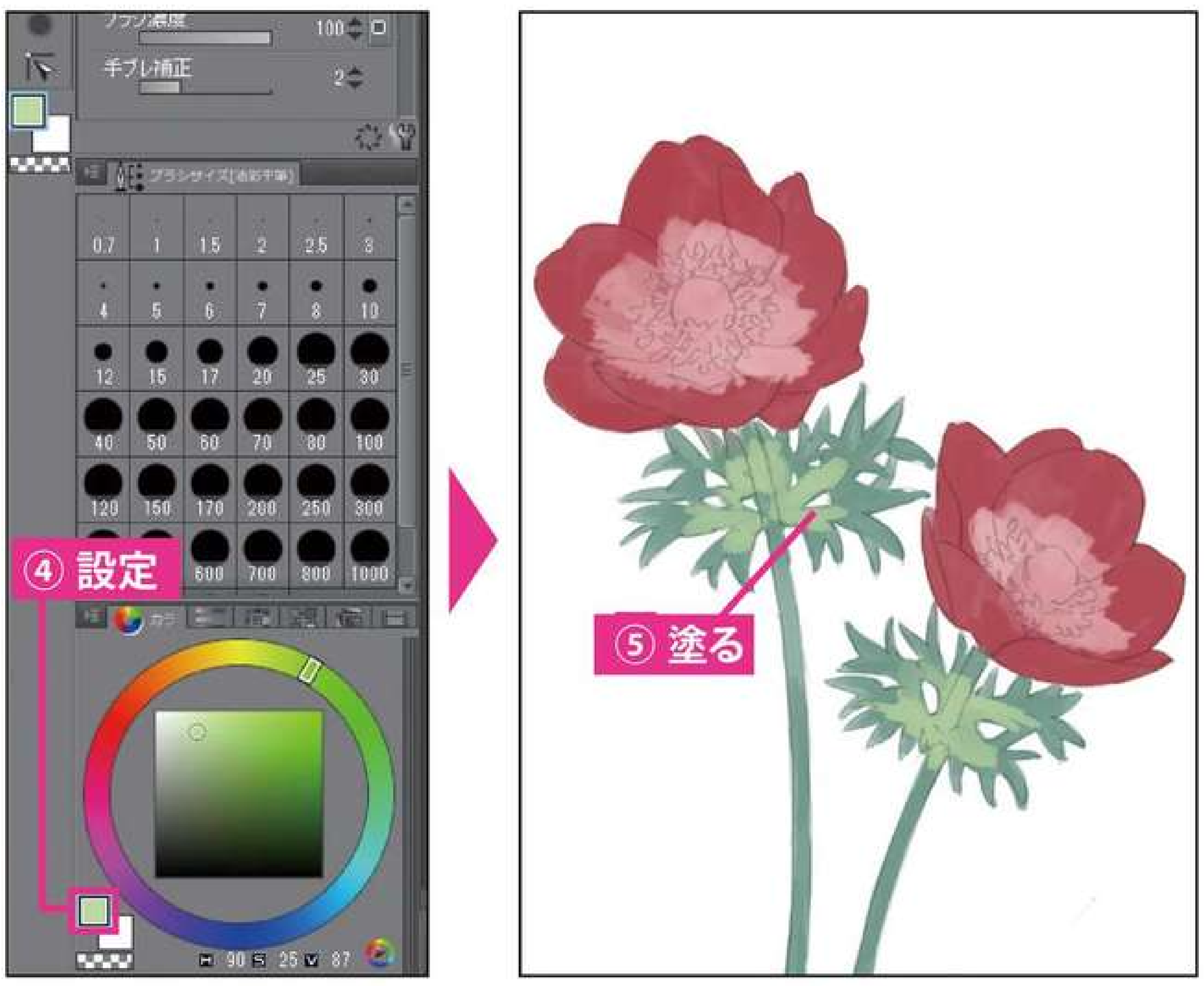
茎と葉も塗っていきます。



4

同様に、[油彩平筆]で花びらの中心部分に白色系の色（薄いピンク）、葉っぱの中心部分に黄緑色のグラデーションを入れていきます。

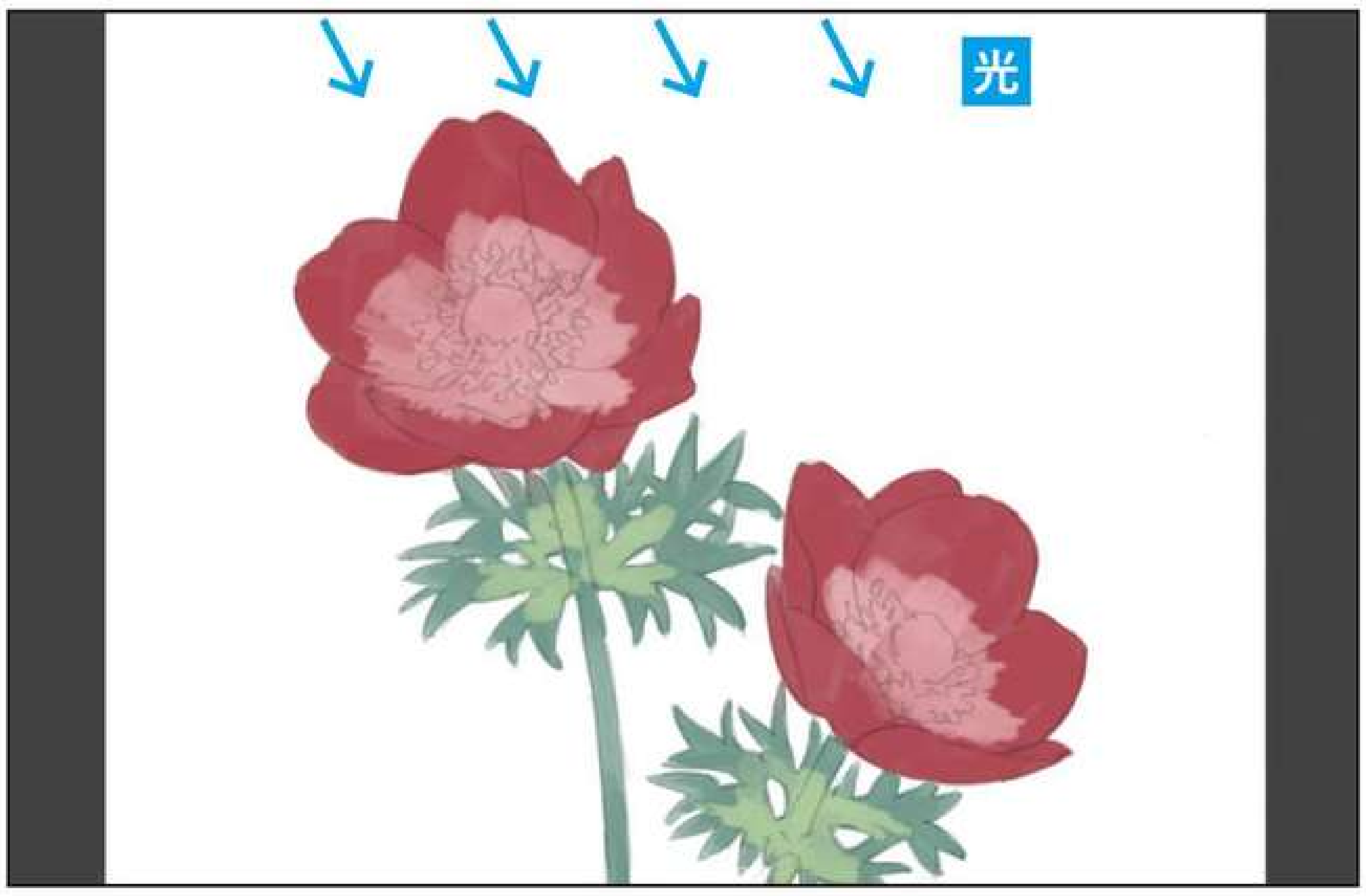




Step 03 光源を意識しながら描き込む

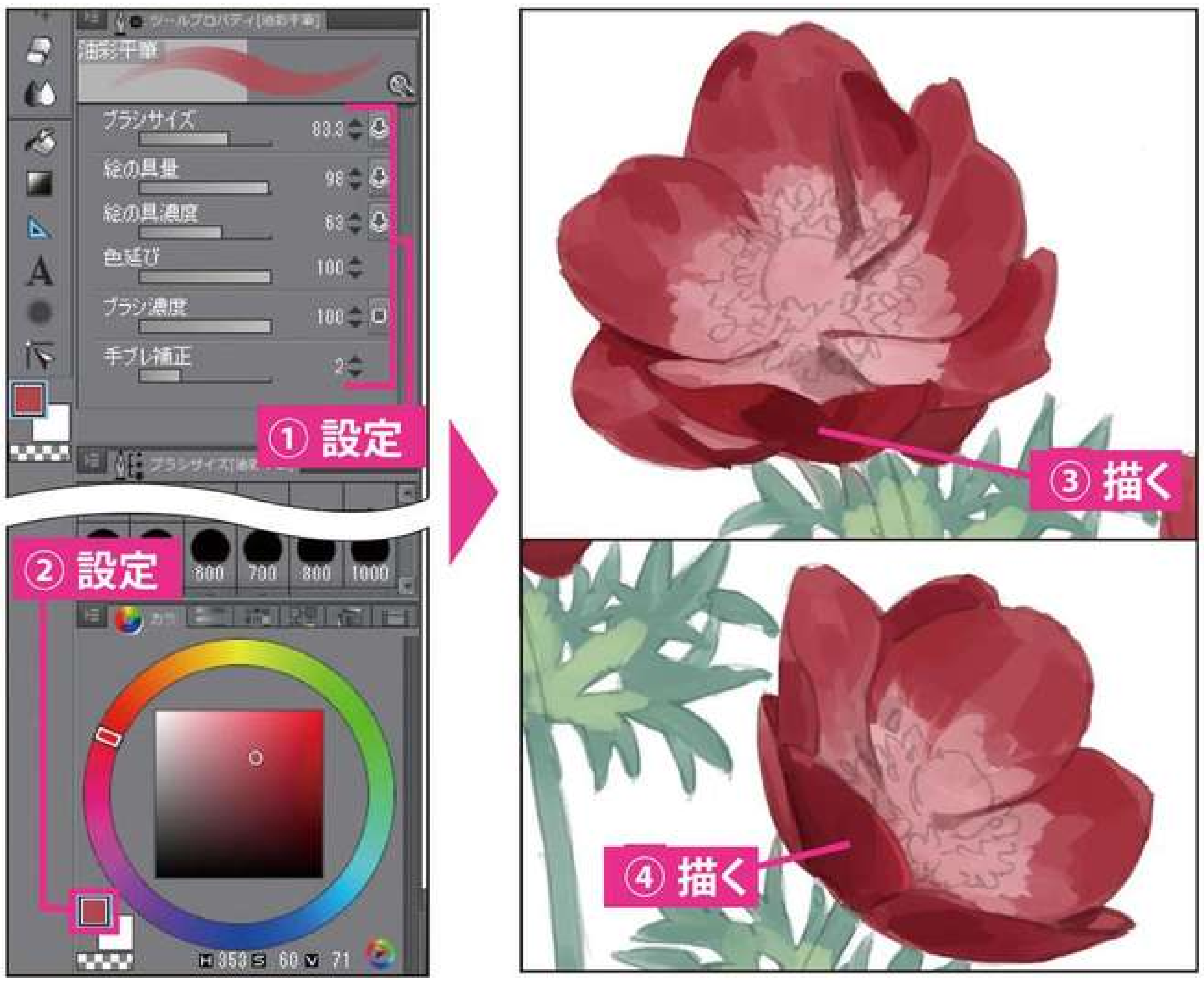
1

まず光源を考えます。
ここでは図のように光が当たっていることにします。



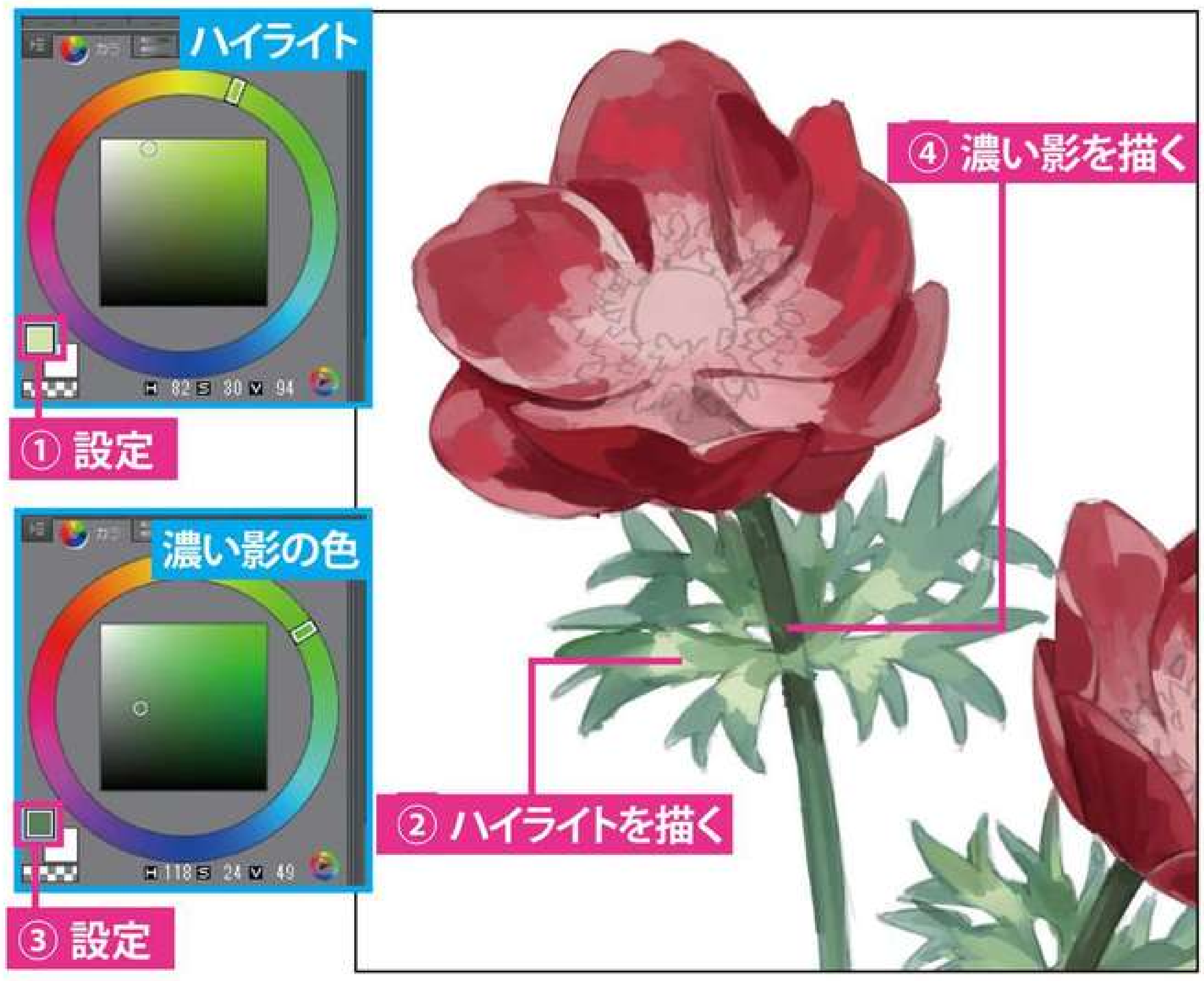
2

光源を意識しながら、影を描き込んでいきます。



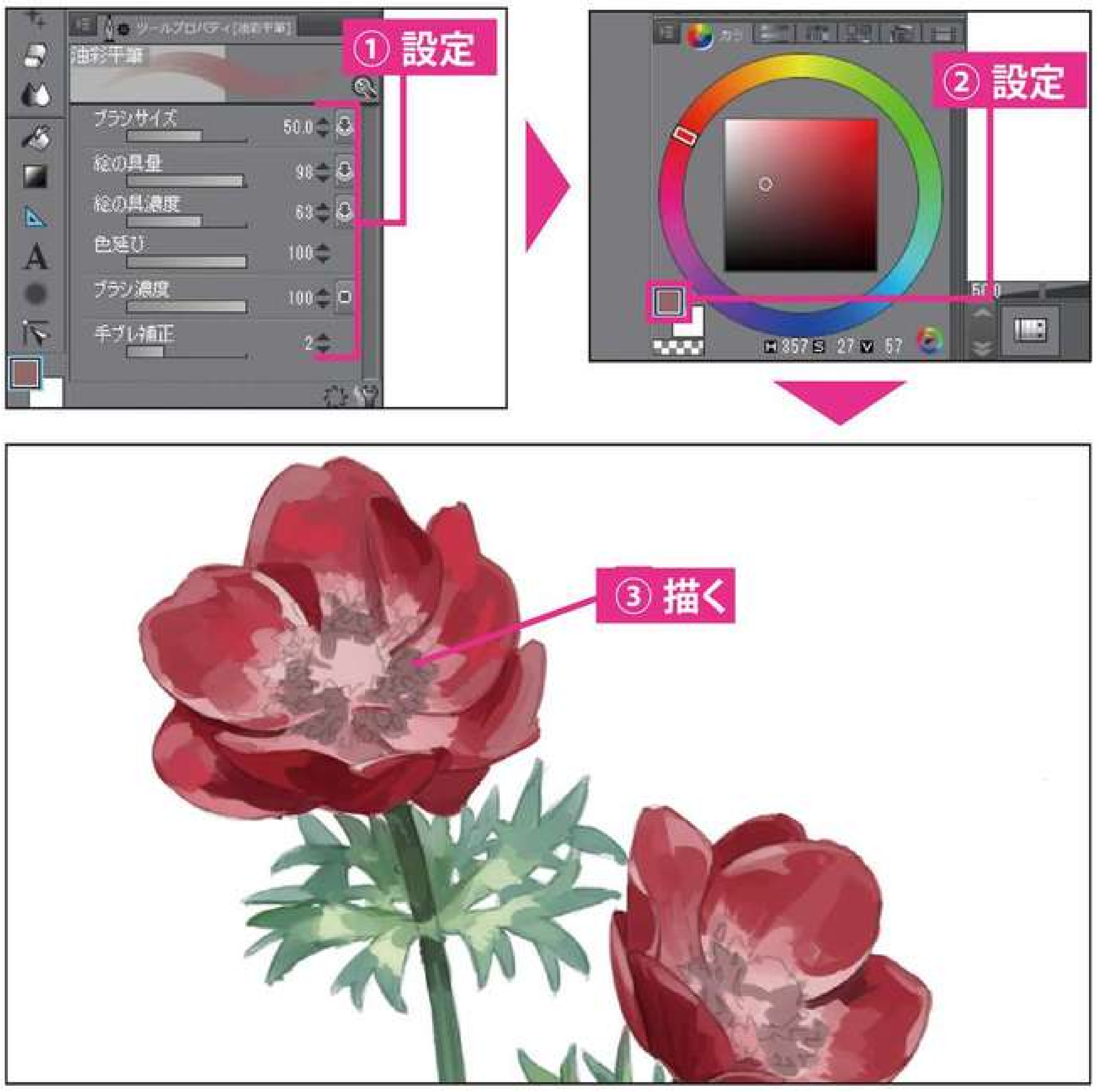
3

濃い影の部分やハイライト部分をしっかり入れると良い感じになります。



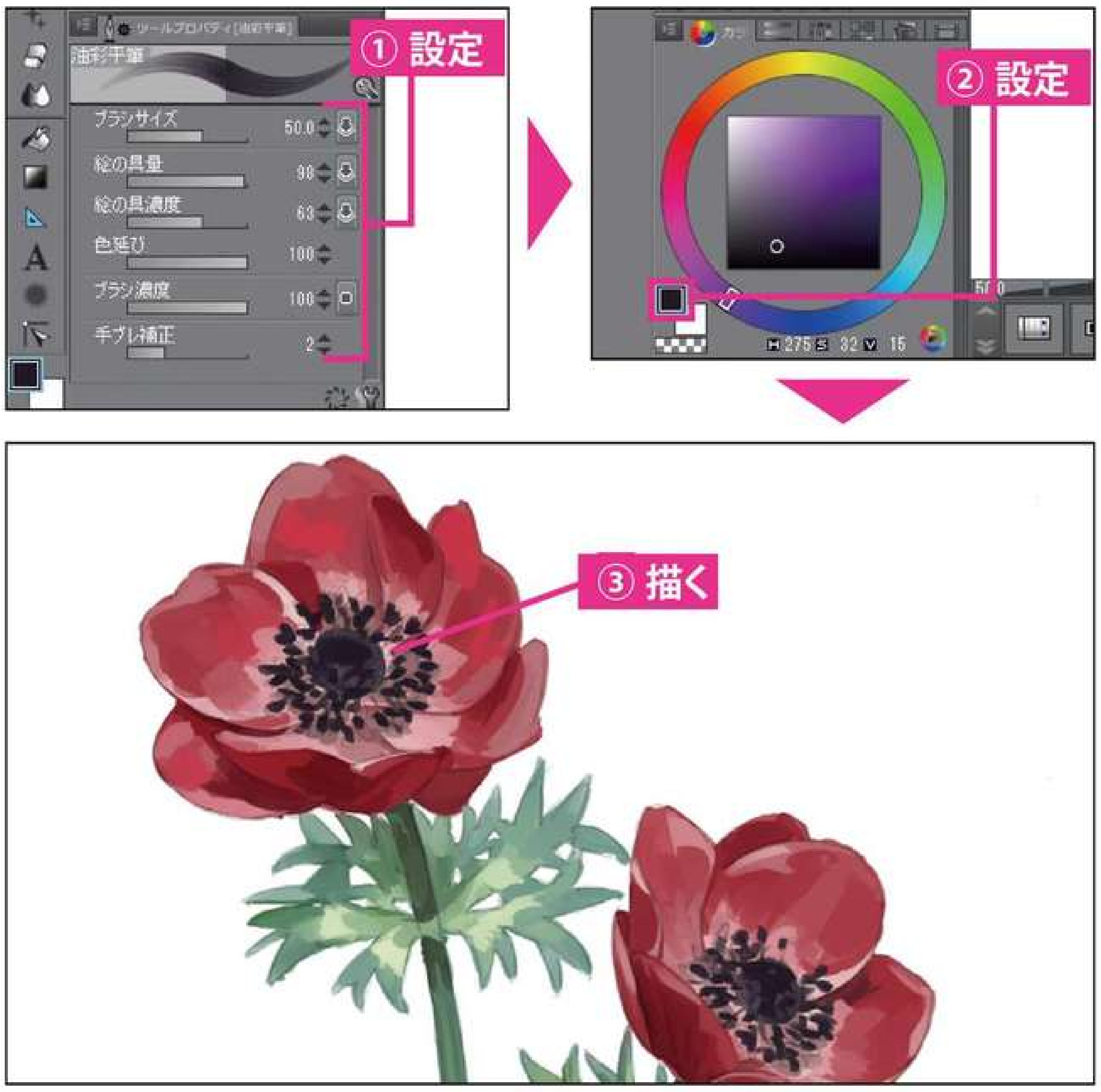
4

アネモネの中央部（おしべ、めしべの部分）を描き込む前に、その部分の影を大まかに描いておきます。



5

黒系の色でアネモネの中央部を描き込んでいきます。



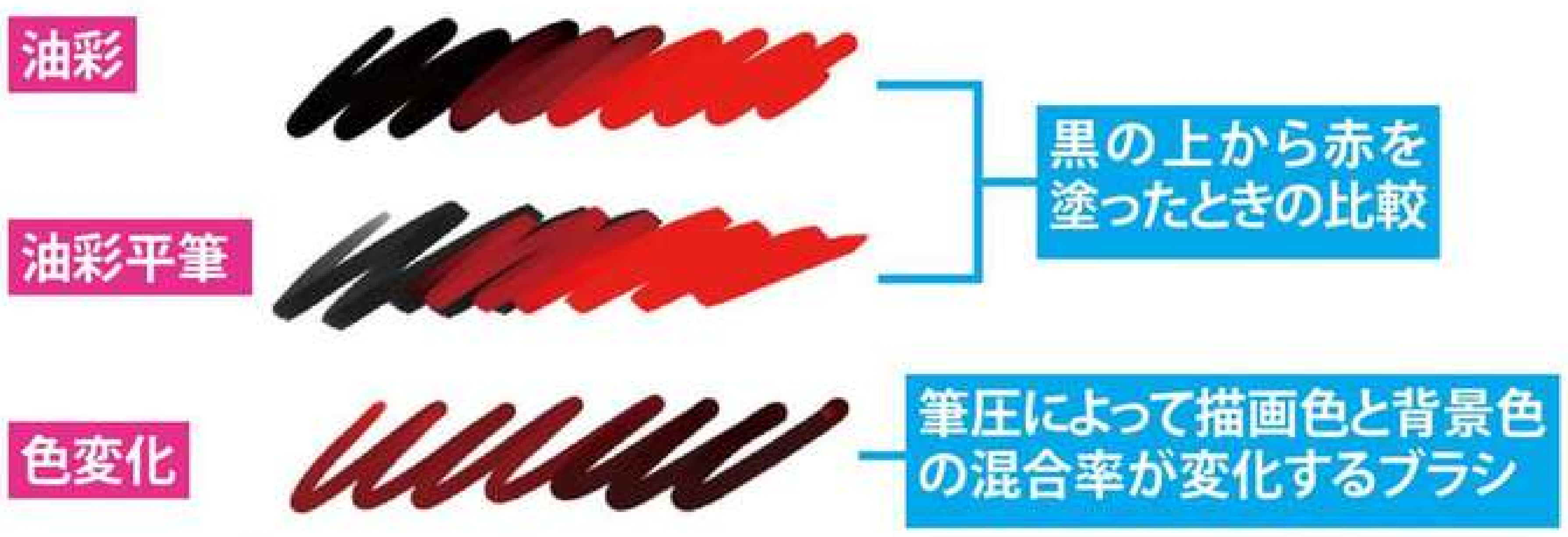
Memo

影や光の入れ方が難しい場合は、実際の花の写真を見ながら描くとよいでしょう。

Hint

目的に合わせて筆を選ぶ

油彩のタッチがよりわかりやすいので、描画には［油彩平筆］を使っています。
それぞれのタッチや色の混ざり方を比較してみましょう。

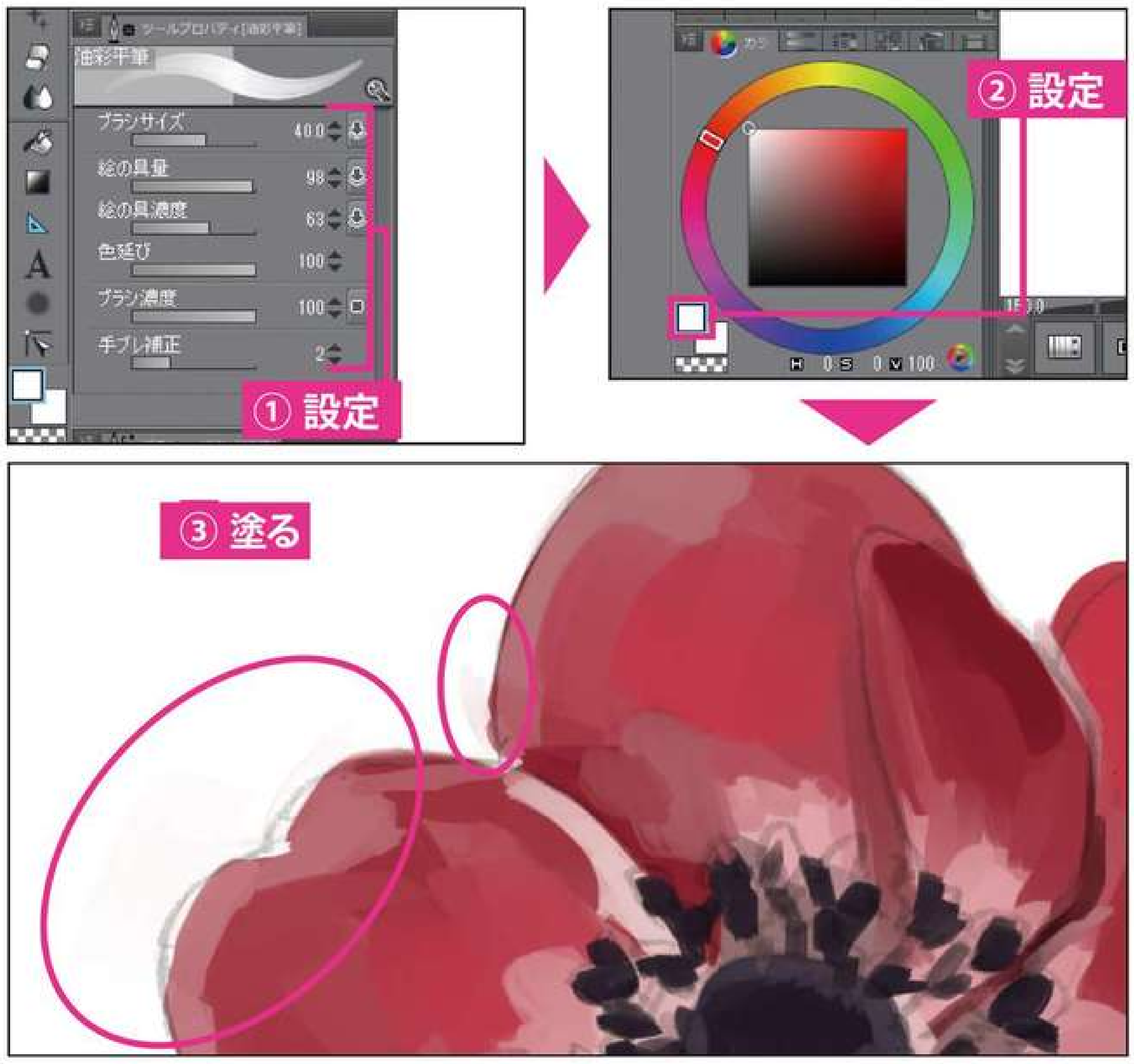


6

はみ出し部分などを白色で塗って消すと、
絵の具の厚塗りした感じが表現できます。

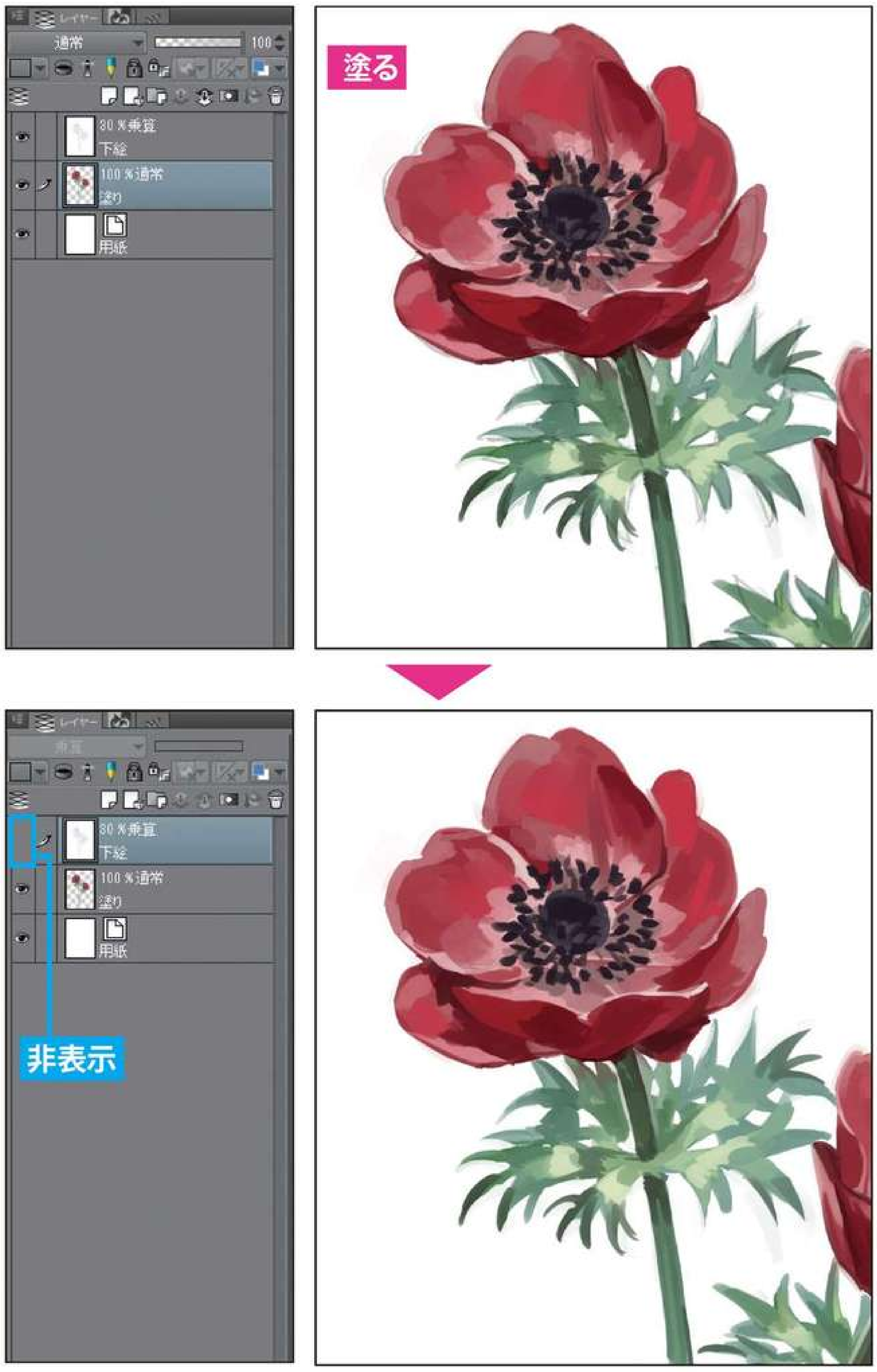
Memo

元の色が完全に消えずに残るので、白い絵の具を上から塗って消したみたいになります。



7

下絵を非表示にしても輪郭がわかるように、
さらに加筆していきます。



8

図を参考に全体を塗っていきます。





Step 04 質感の素材を貼る

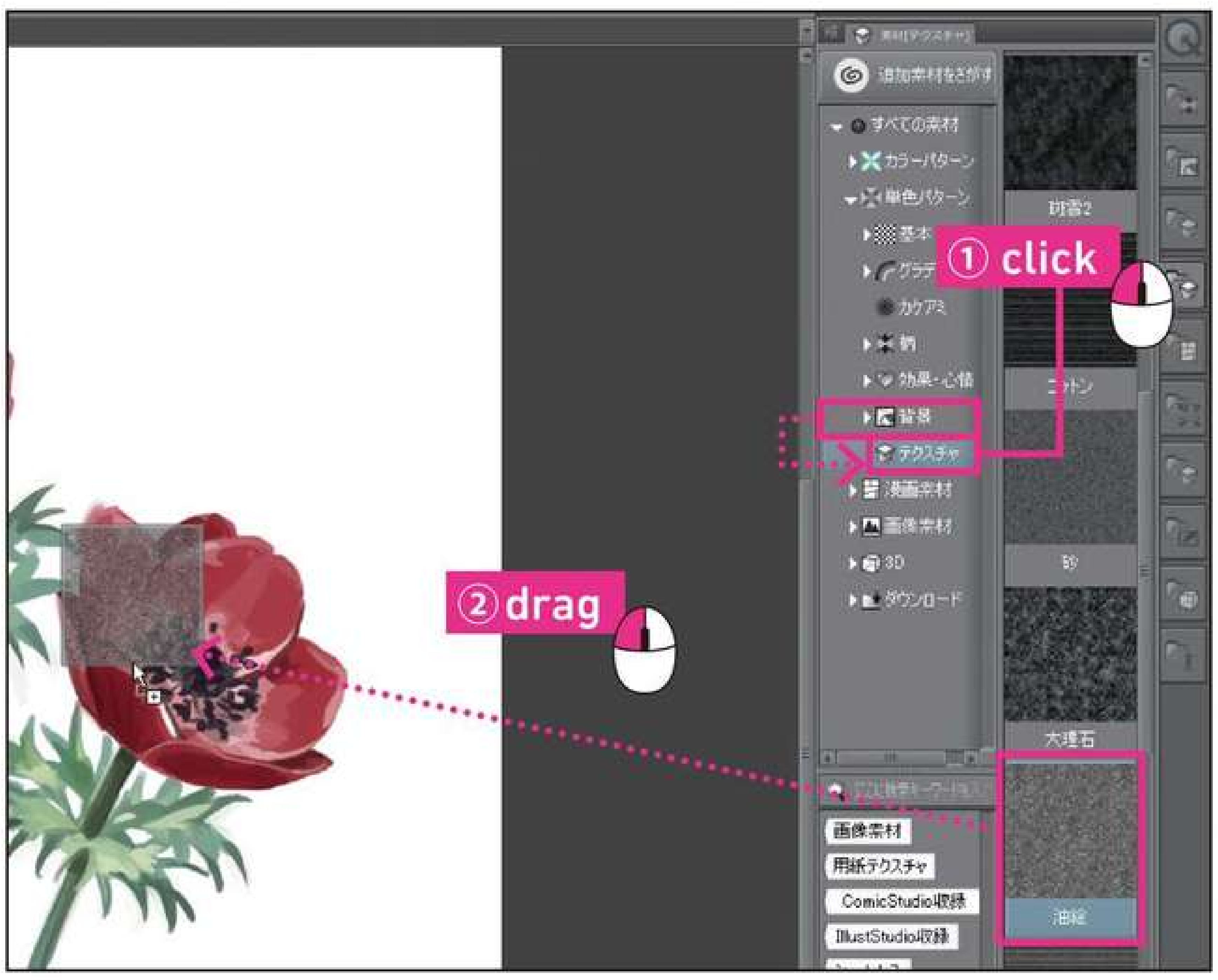
1

質感を出すために、素材を貼ります。パレットドックから[素材(単色パターン)]パレットを表示し、▶をクリックして一覧を表示します。



2

[背景]→[テクスチャ]の順にクリックし、右側の一覧から「油絵」を選択し、キャンバスウィンドウにドラッグします。

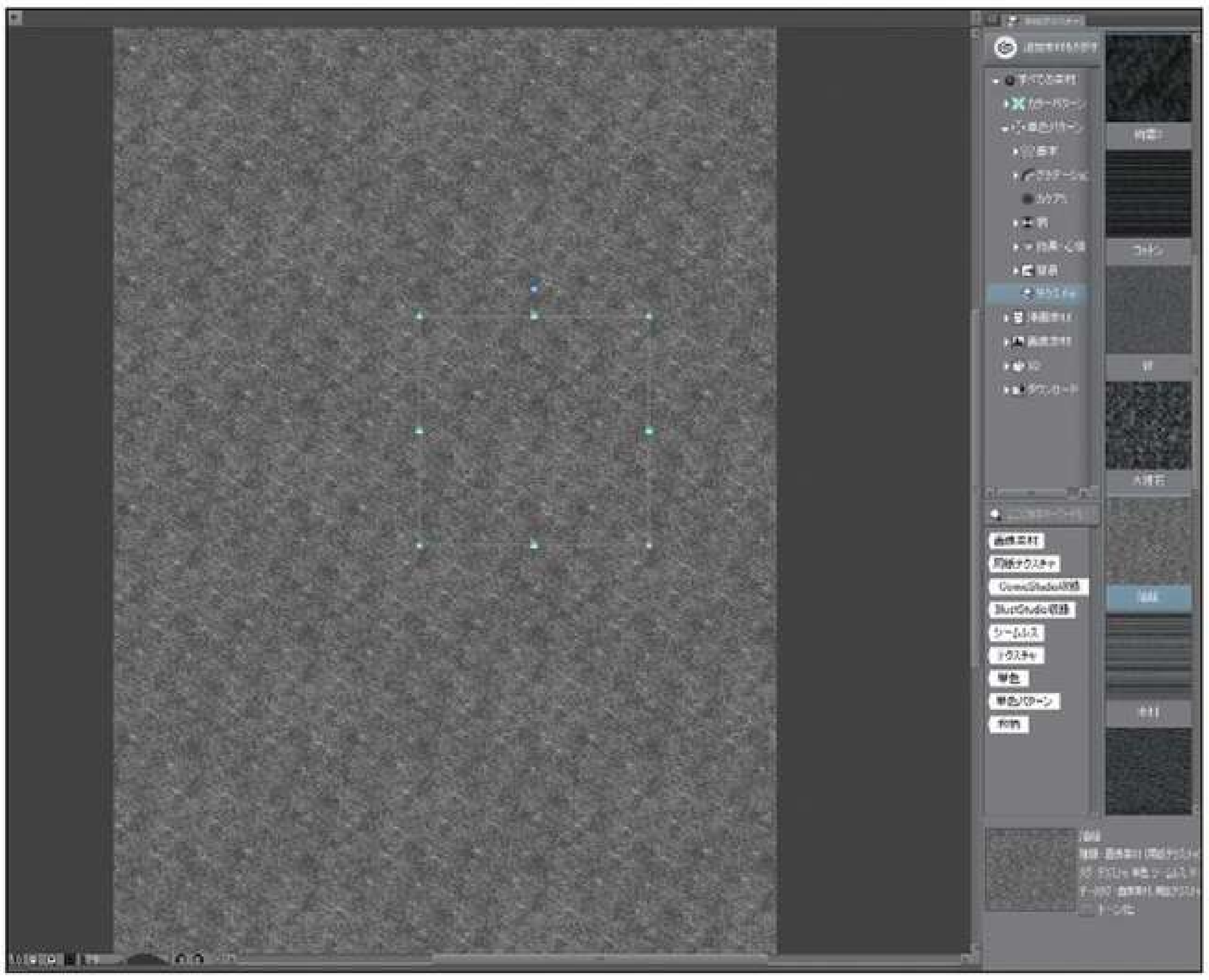


Memo

[素材]パレットに一覧が表示されない場合は、素材をダウンロードする必要があります。ダウンロード方法については、p.80を参照しましょう。

3

キャンバスウィンドウ全体に素材が貼られます。



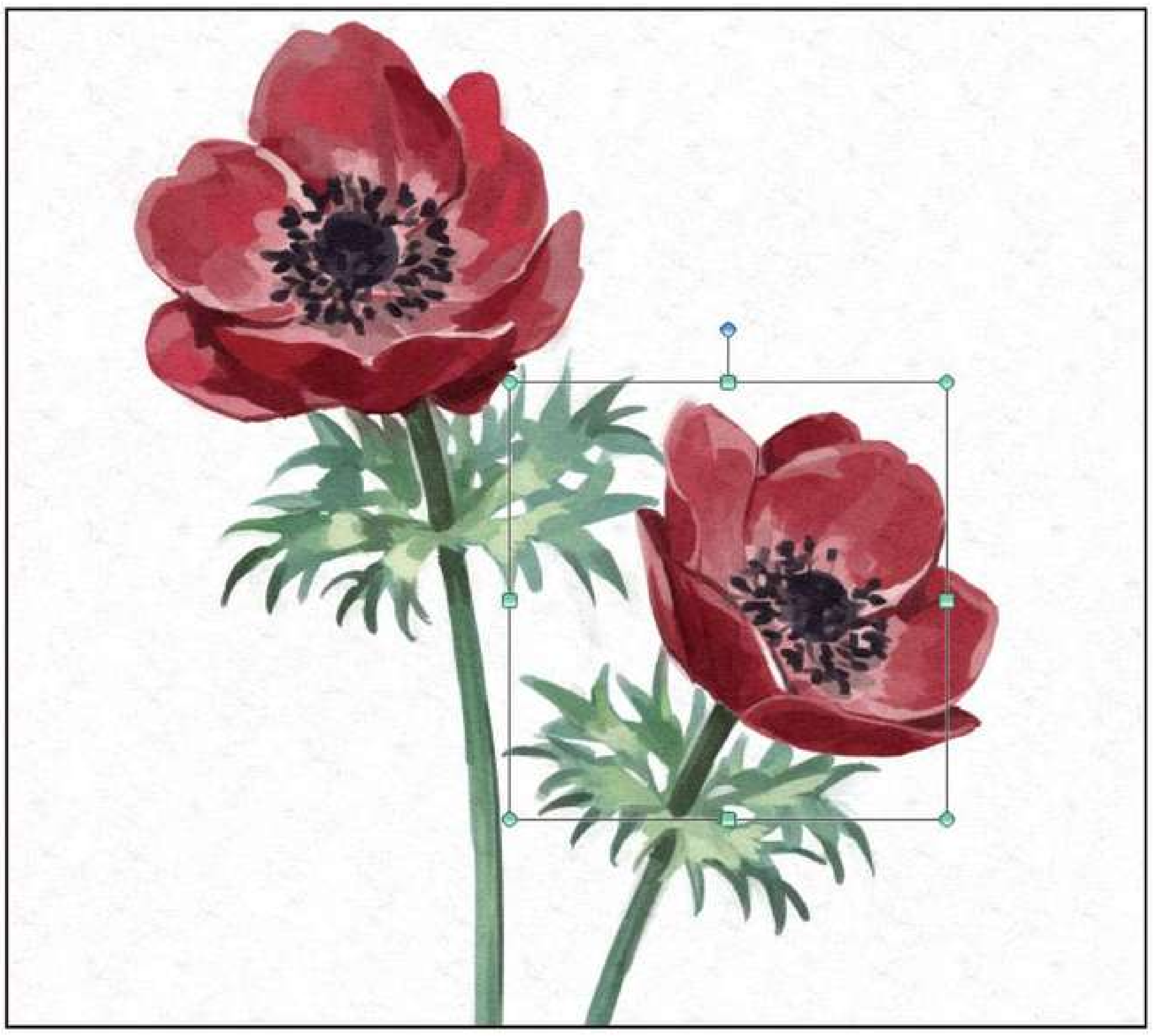
4

[レイヤープロパティ]パレットの[質感合成]をクリックします。



5

油絵の質感がキャンバス全体に合成されます。



6

[レイヤープロパティ]パレットの[質感合成]の強さを調整します。
ここでは[強さ]を「20」にしました。



7

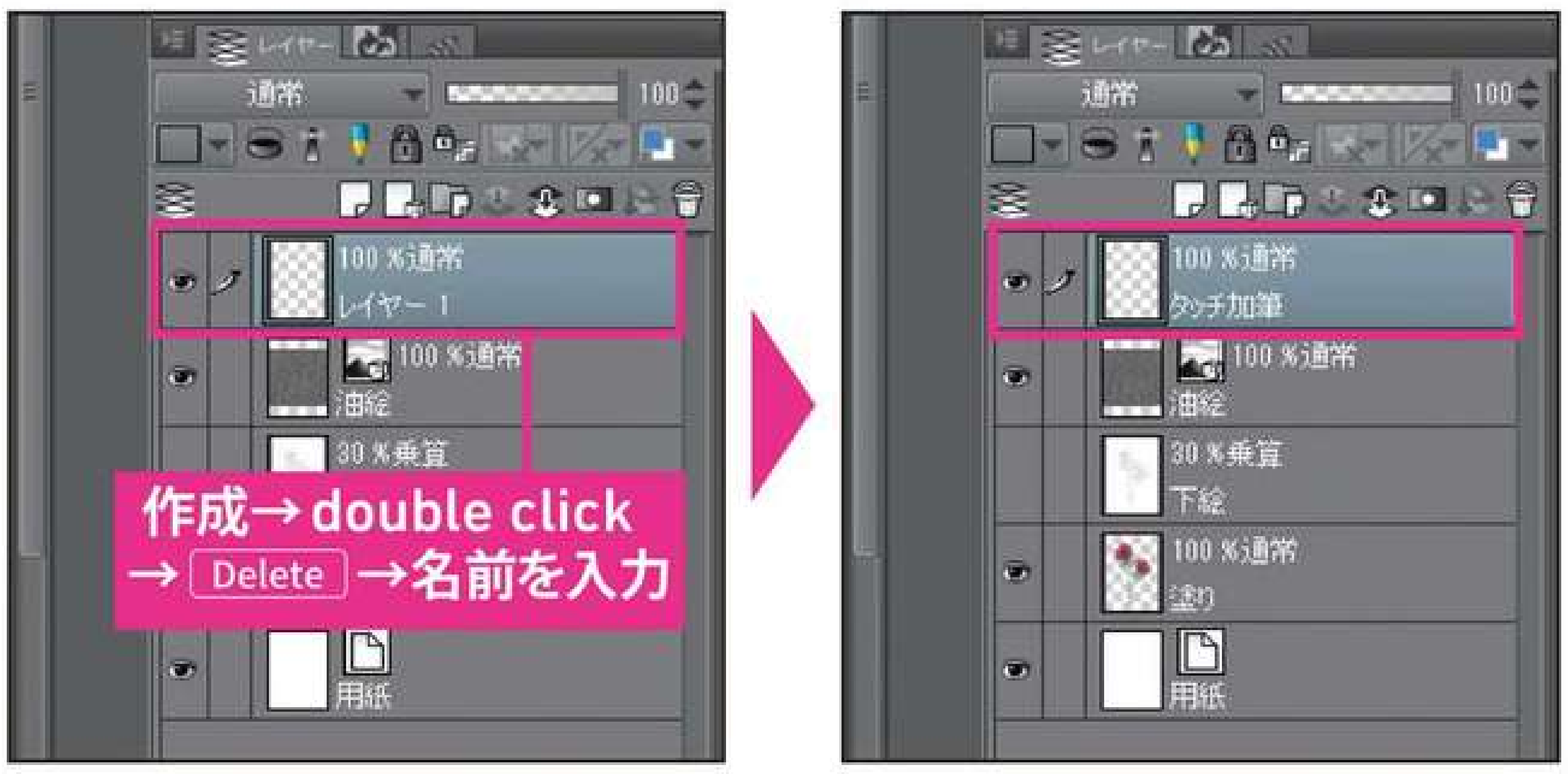
これで質感が合成されました。



Step 05 タッチを加筆して仕上げる

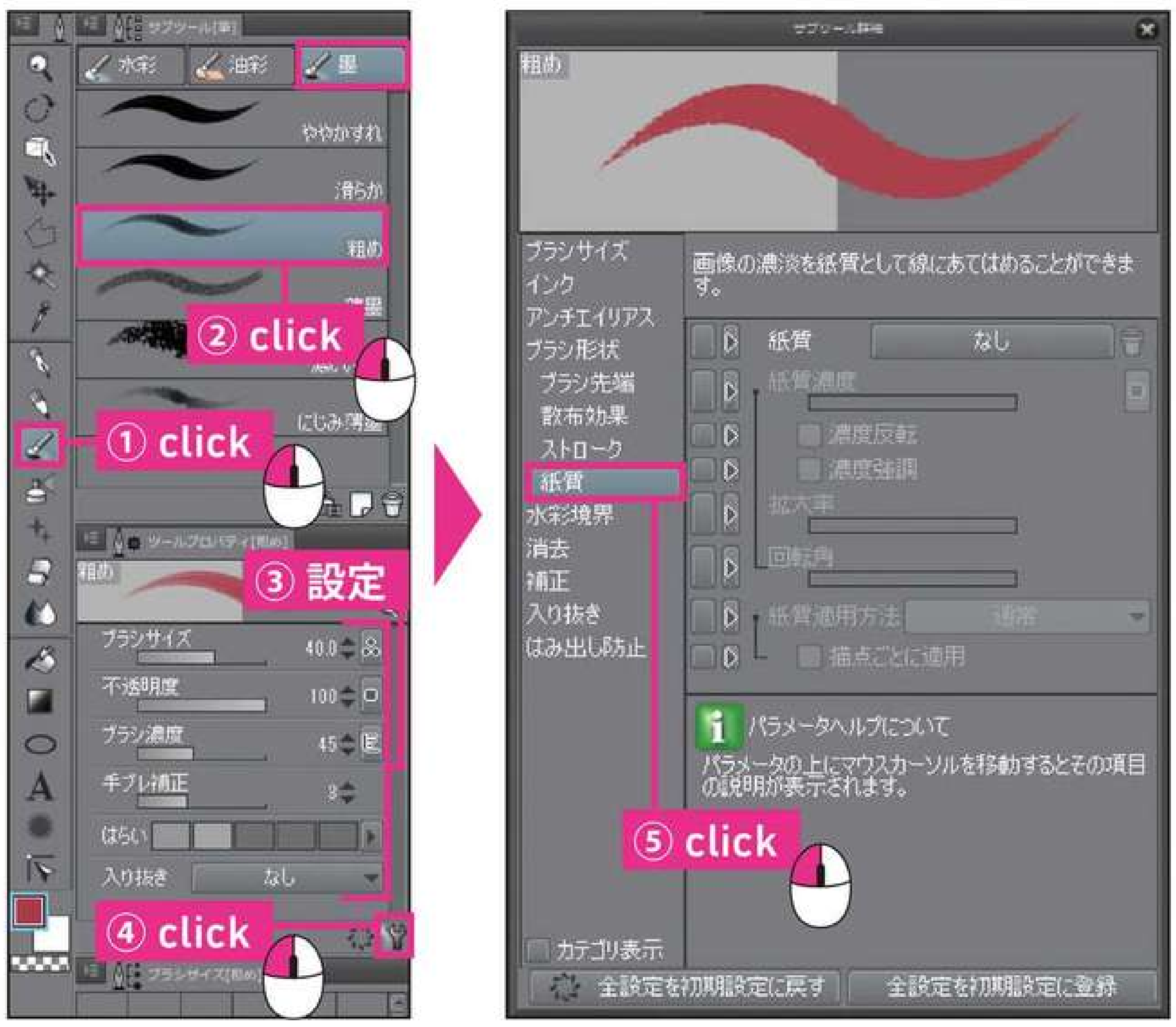
1

少しのっぺりしているので、タッチを残しながら加筆していきます。
加筆用に新規ラスターレイヤーを追加し、名前を変更します（レイヤー名「タッチ加筆」）。



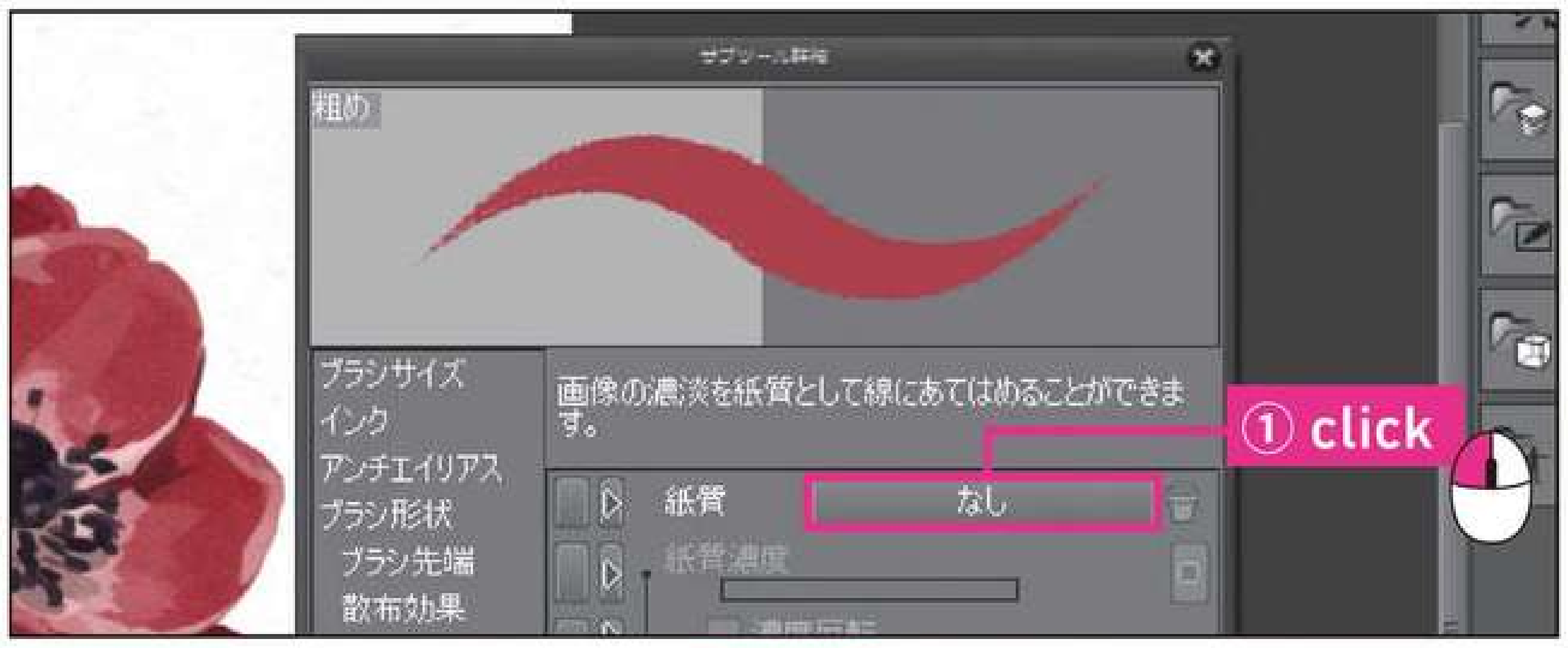
2

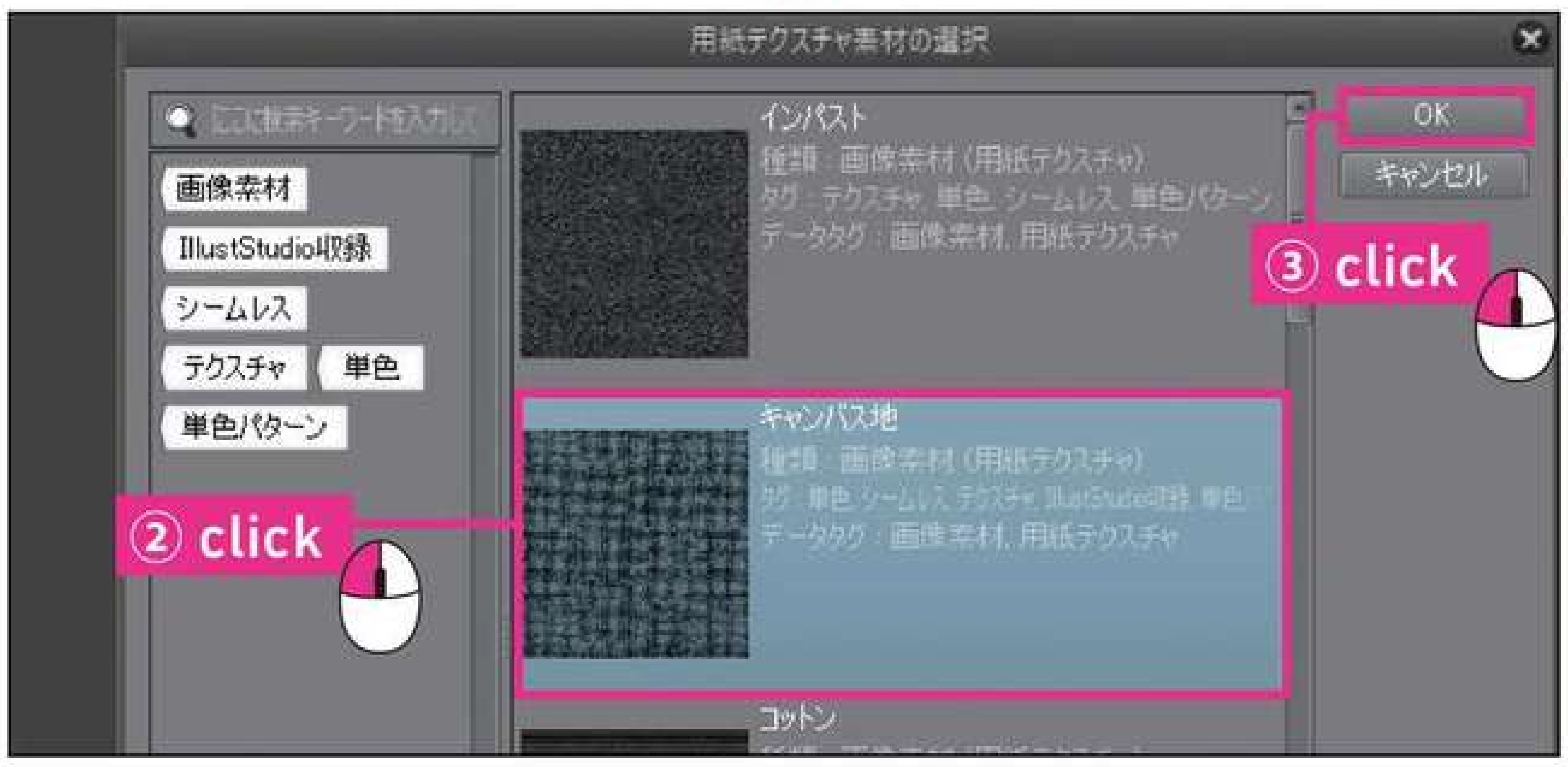
［ツール］パレットから［筆］をクリックし、［サブツール］パレットから［墨］の［粗め］を選択します。
［サブツール］パレットの［サブツール詳細］アイコンをクリックし、パレットを表示します。
［サブツール詳細］パレットのカテゴリから［紙質］を選択します。



3

[紙質]の[なし]ボタンをクリックします。[用紙テクスチャ素材の選択]パレットが表示されるので、「キャンバス地」を選択し、[OK]ボタンをクリックします。



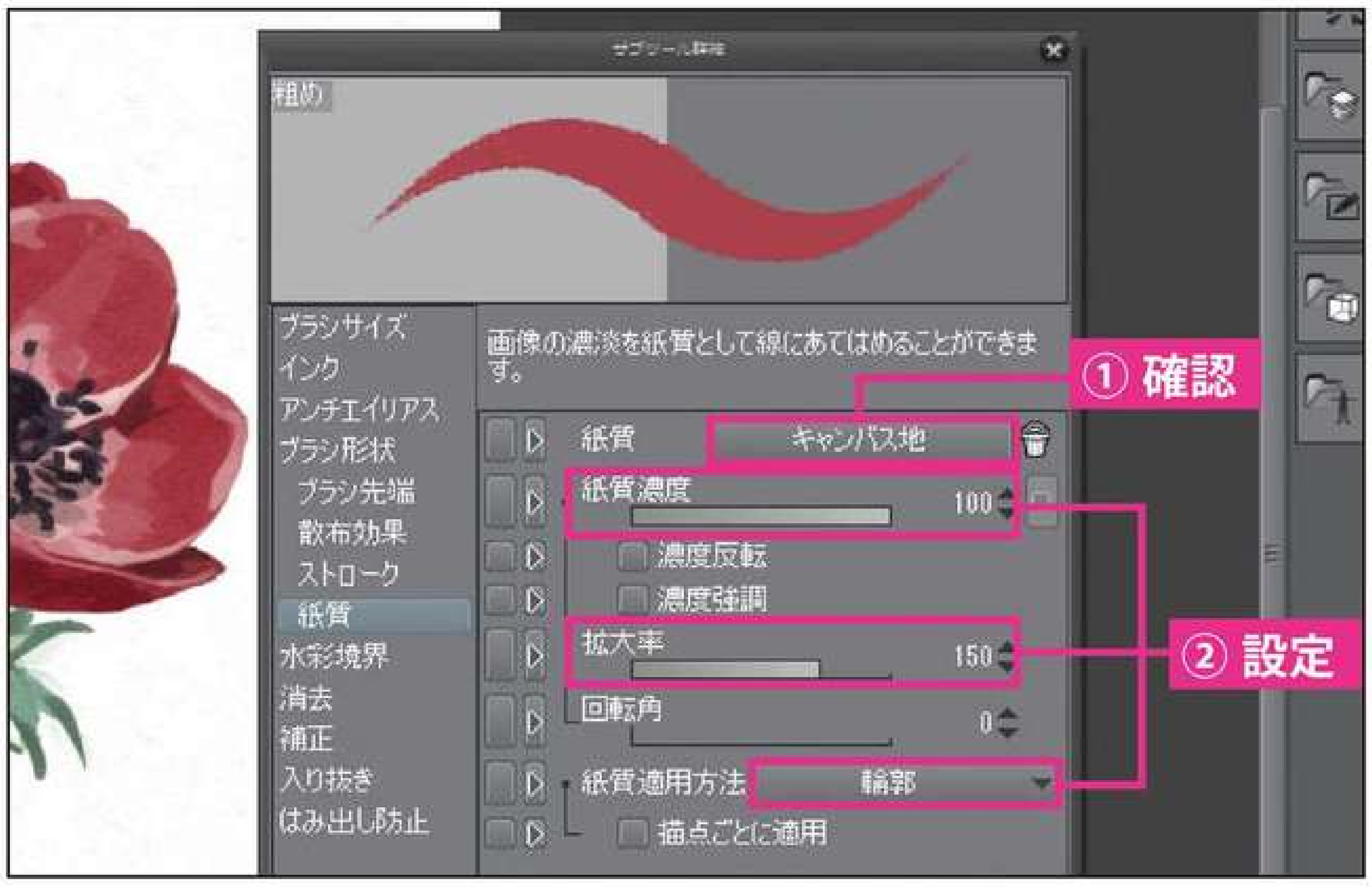


Memo

[紙質]は初期設定では、[なし]になっています。

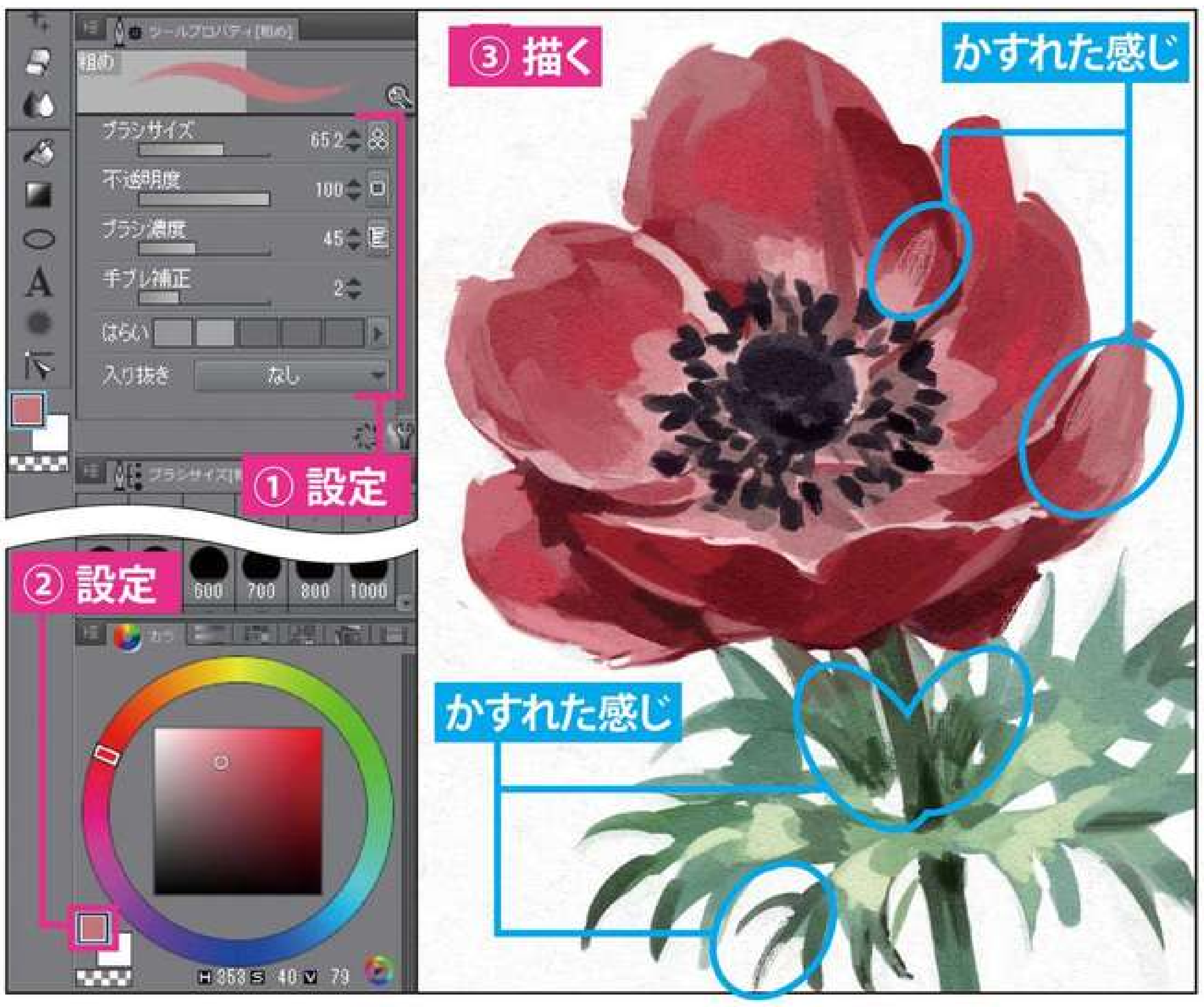
4

[紙質]が「キャンバス地」に設定されました。
質感がよりわかるように、[紙質濃度]を「100%」、[拡大率]を「150%」、[紙質適用方法]を「輪郭」に設定します。



5

筆のタッチを加筆していきます。
[ツールプロパティ]パレットで、[ブラシサイズ]、[不透明度]、[ブラシ濃度]を調整しながら描いていきます。

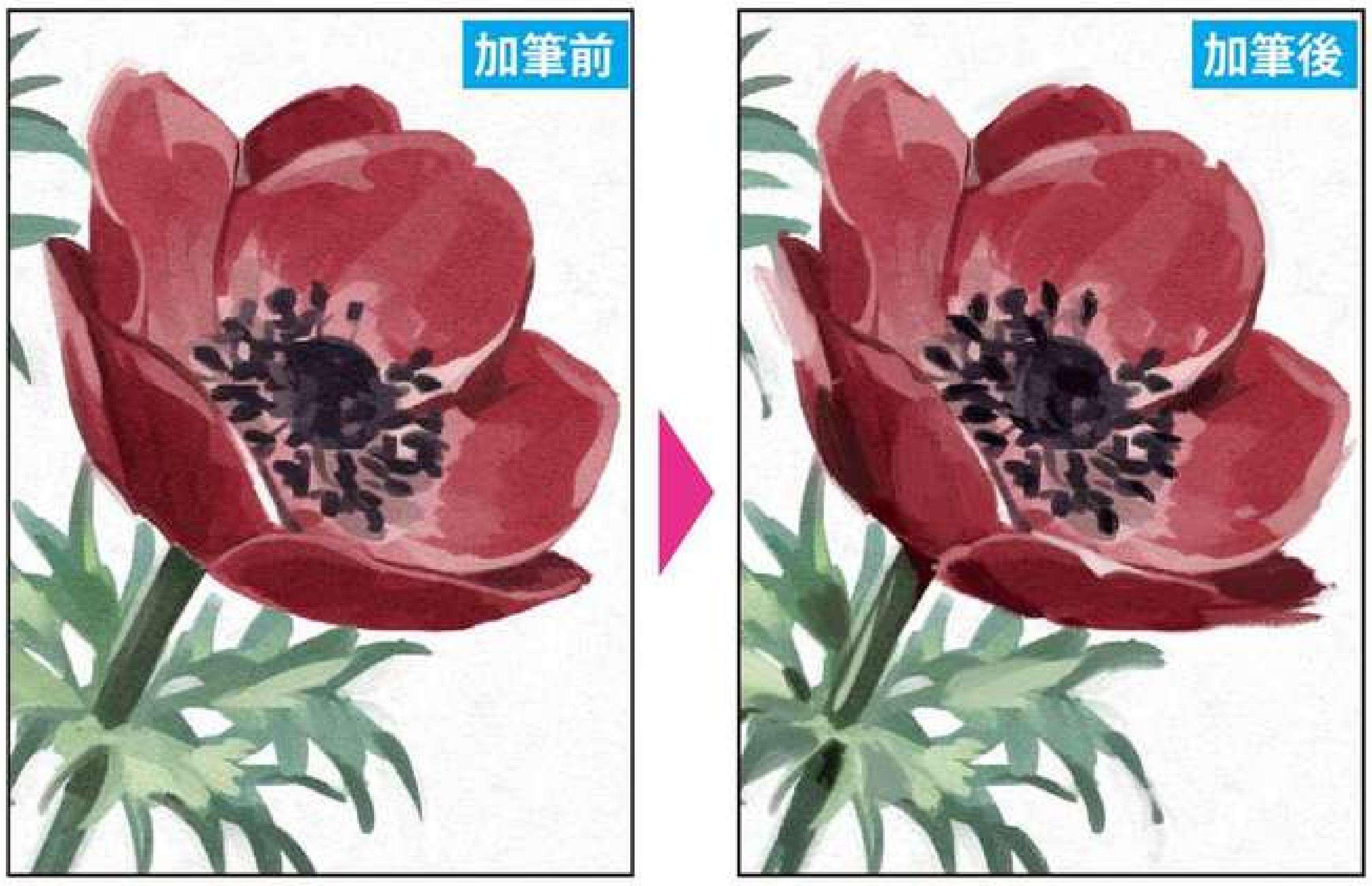


Memo

[ブラシ濃度]を低くすると、かすれたタッチが表現できます。
[ブラシ濃度]については、次ページのHintを参照しましょう。

6

花びらの輪郭もかすれたタッチを加筆します。



7

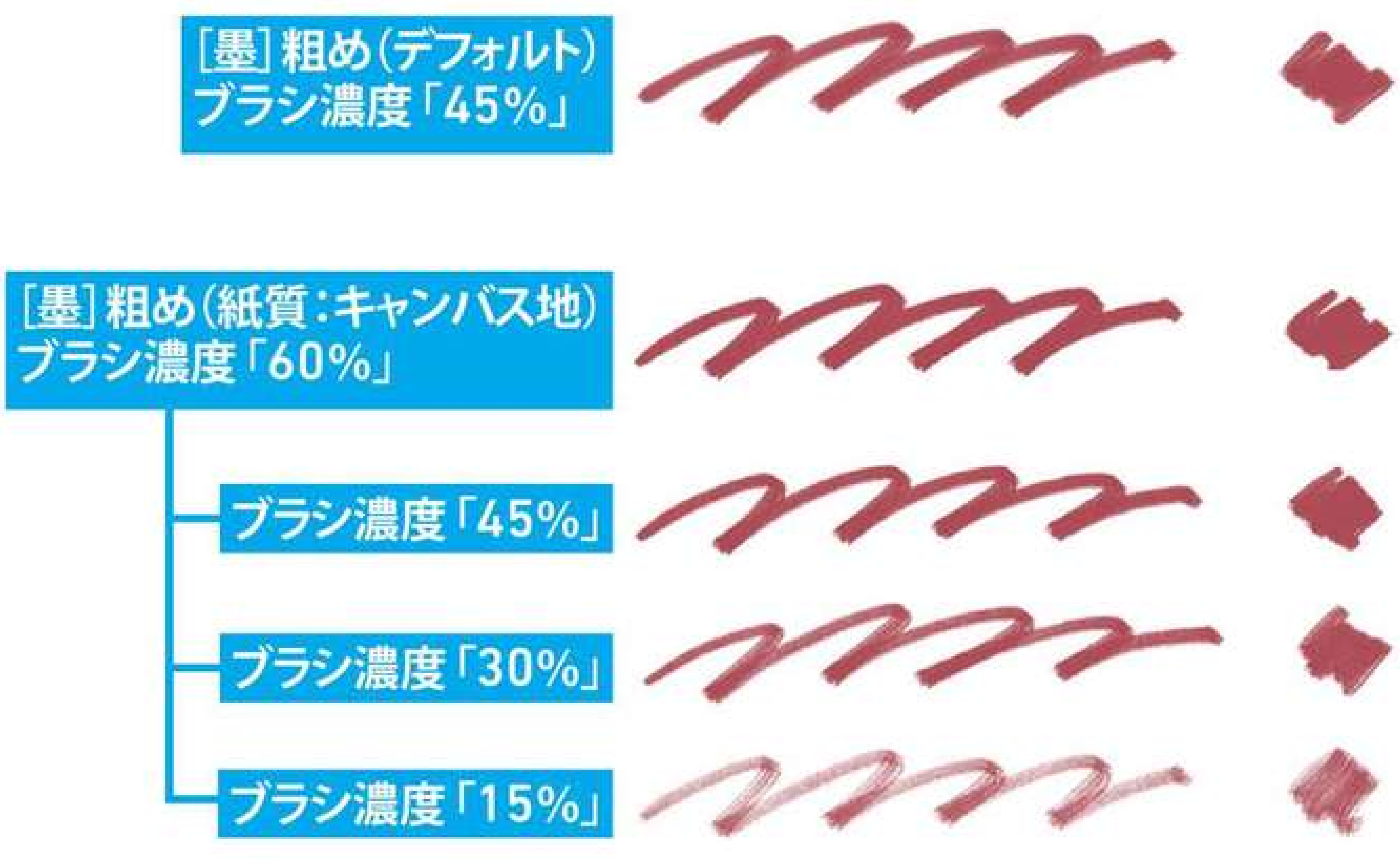
加筆できたら、完成です。



Hint

筆の比較

［ブラシ濃度］を低くすると、絵の具がかすれたような表現ができます。



作品を描く：メイキング



Before 5-05.clip



After 5-05a.clip

ここでは、これまで操作してきたツールや機能を活用し、1つの作品を仕上げる工程を解説します。

Step 01 ラフを描く

1

新規キャンバスを用意してレイヤー名を変更し（レイヤー名「ラフ」）、ラフを描きます。大まかな配置や構図をここで決めてしまいます。

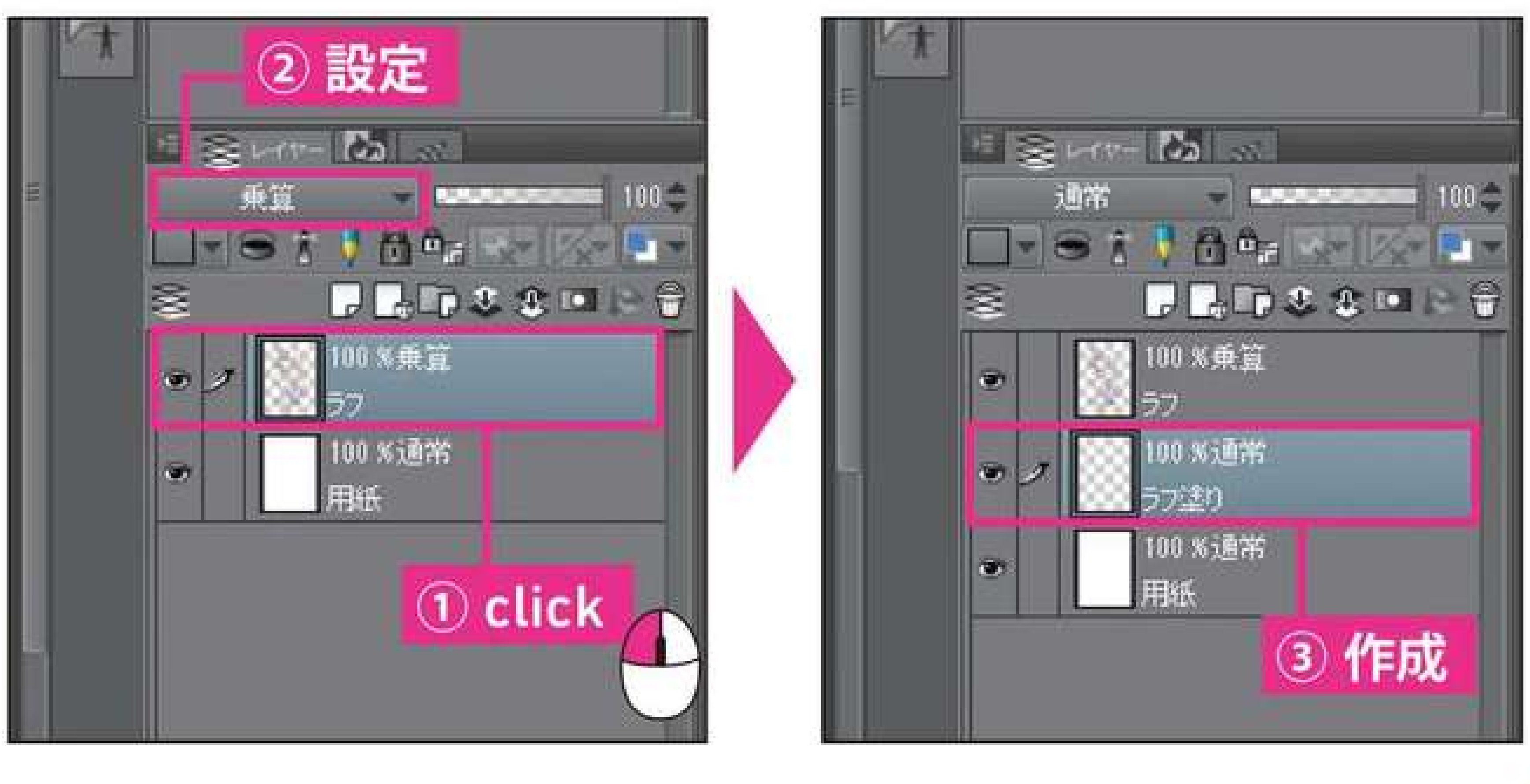
Memo

本書で描いたラフは「5-05.clip」にも用意しています。
新規キャンバスの作成についてはp.28、下絵の配置方法はp.31を参照しましょう。



2

描いた「ラフ」レイヤーの合成モードを［乗算］にします。
塗り用のレイヤー（レイヤー名「ラフ塗り」）を「ラフ」レイヤーの下に追加します。



Step 02 ラフに色を塗る

色を決めながら大雑把に塗っていきます。あとから加筆するのではみ出しは気にしなくて大丈夫です。
「ラフ塗り」レイヤーに[鉛筆]ツールや[筆]ツール、[エアブラシ]ツールを使って描いていきます。

全体



人物



鉱石



Hint

ブラシを変えながら描く

ここで使用したブラシです。
パーツによってブラシを替えながら描いてみましょう。

鉛筆（薄い鉛筆）



筆（なめらか）



エアブラシ（柔らか）



2

「ラフ」レイヤーの上に新規ラスターレイヤーを用意し（レイヤー名「加筆」）、加筆していきます。
木の部分は茶色で塗ってしまっていたので、ラフの上から塗って色を決めます。
ミミズクや人物の顔周りも、もう少し加筆していきます。





Memo

描き方については、Chapter2～4もあわせて参照し、試してみてください。

3

全体はこのように塗りました。





4

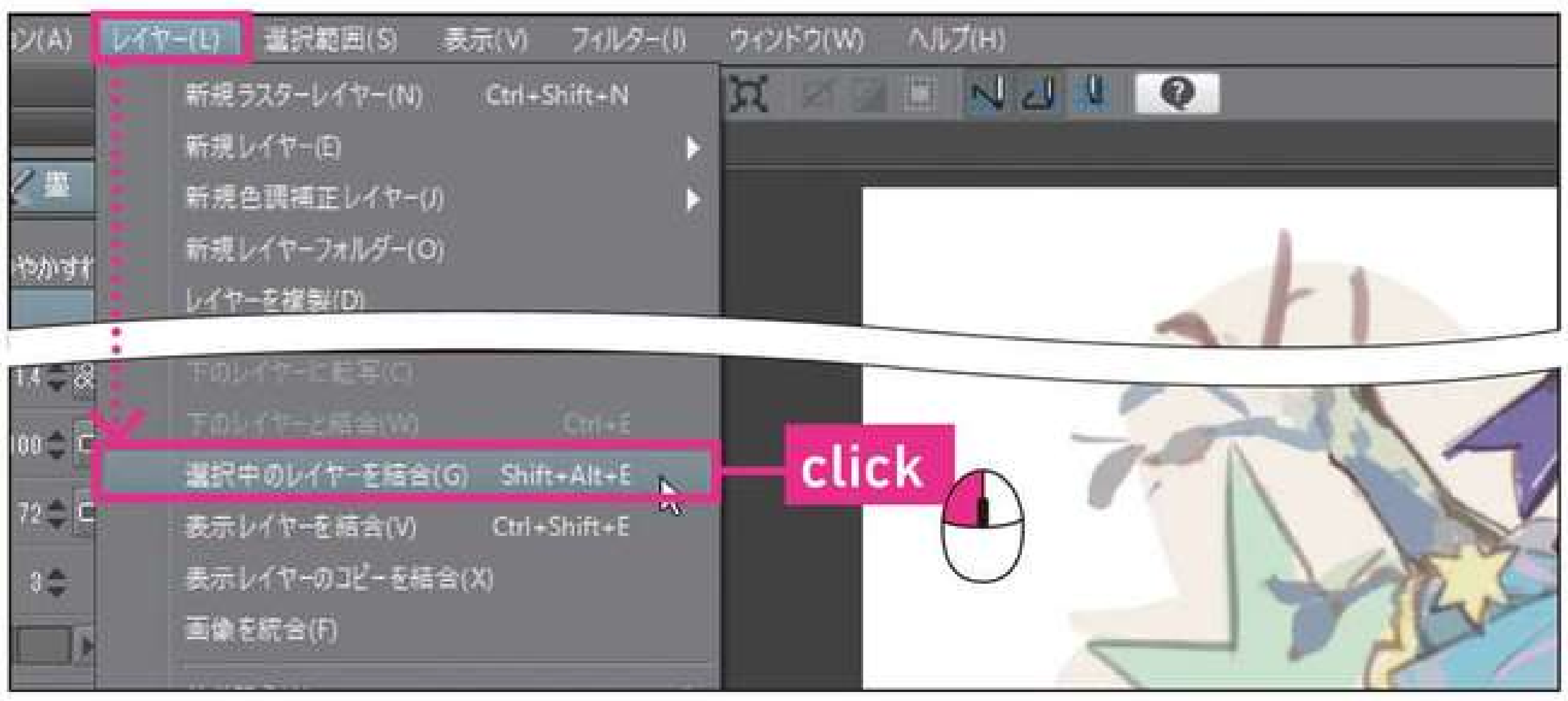
ラフの線の色が少し強かったので不透明度を調整したあと、3つのレイヤーを結合します。結合する3つのレイヤーを選択します。

> **Memo**
>
> Shift キーもしくは Ctrl（command）キーを押しながらクリックすると、複数のレイヤーを選択できます。



5

［レイヤー］メニュー→［選択中のレイヤーを結合］の順にクリックします。



6

3つのレイヤーが結合されるので、わかりやすいようにレイヤー名（ここでは「ラフ結合」）を変更します。



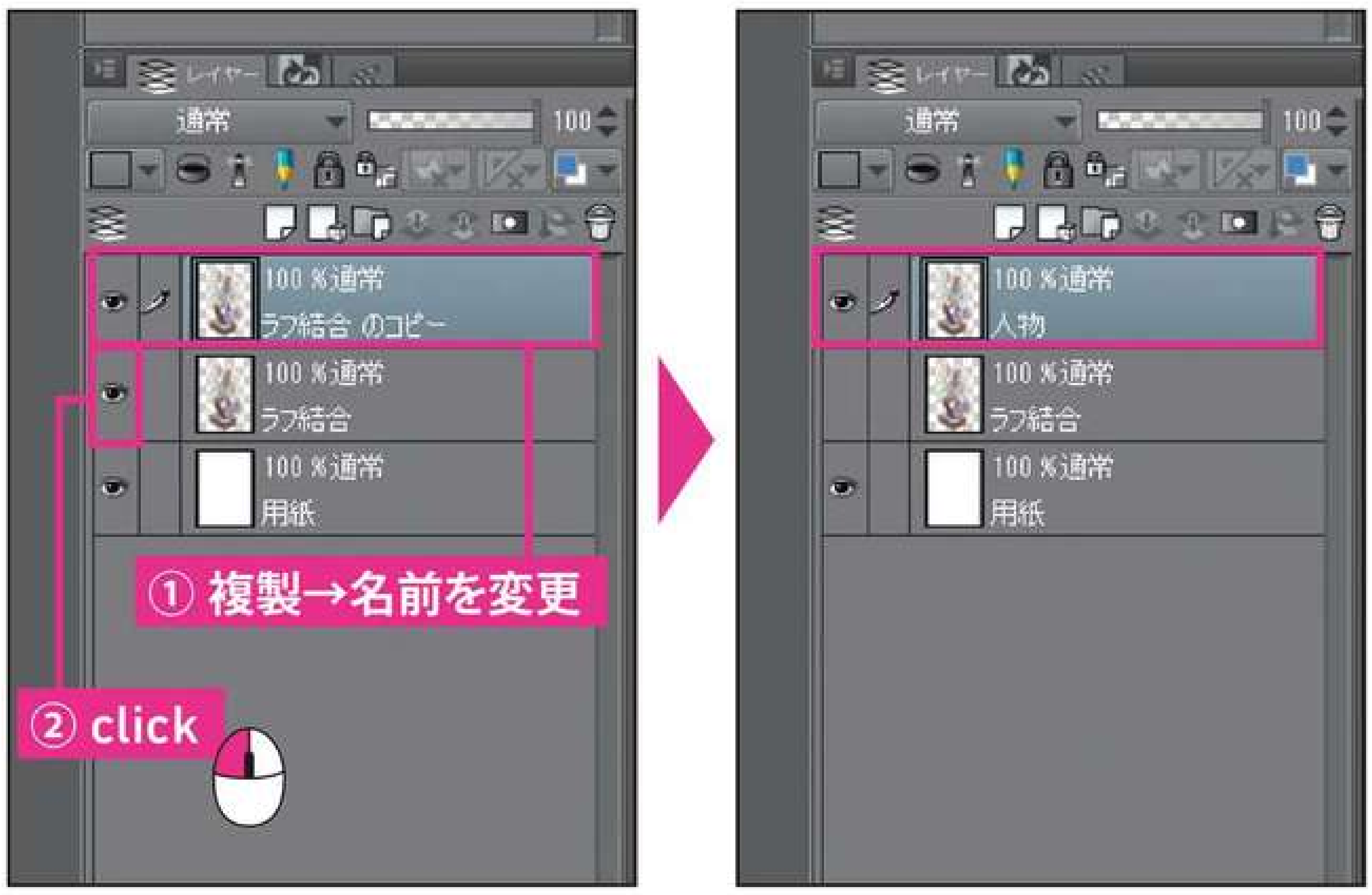
Step 03 人物を描く

1

「ラフ結合」レイヤーを上に複製します。複製したレイヤー名を変更し（ここでは「人物」）、「ラフ結合」レイヤーを非表示にしておきます。

Memo

複製するレイヤーを選択し、［レイヤー］メニュー→［レイヤーを複製］の順にクリックすると、複製されます。



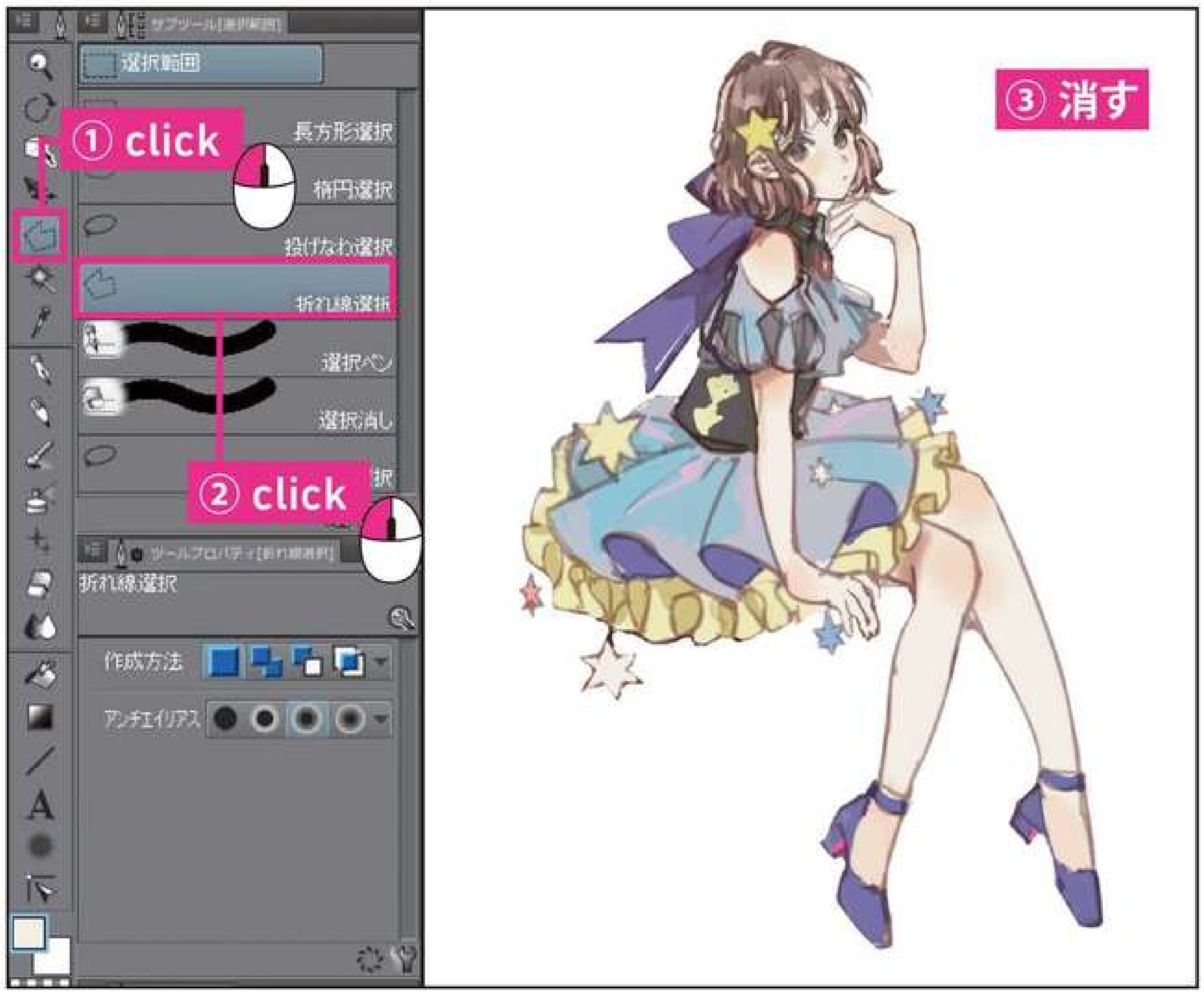
2

人物の部分だけ残して消します。アウトラインだけ［消しゴム］ツールを使います。



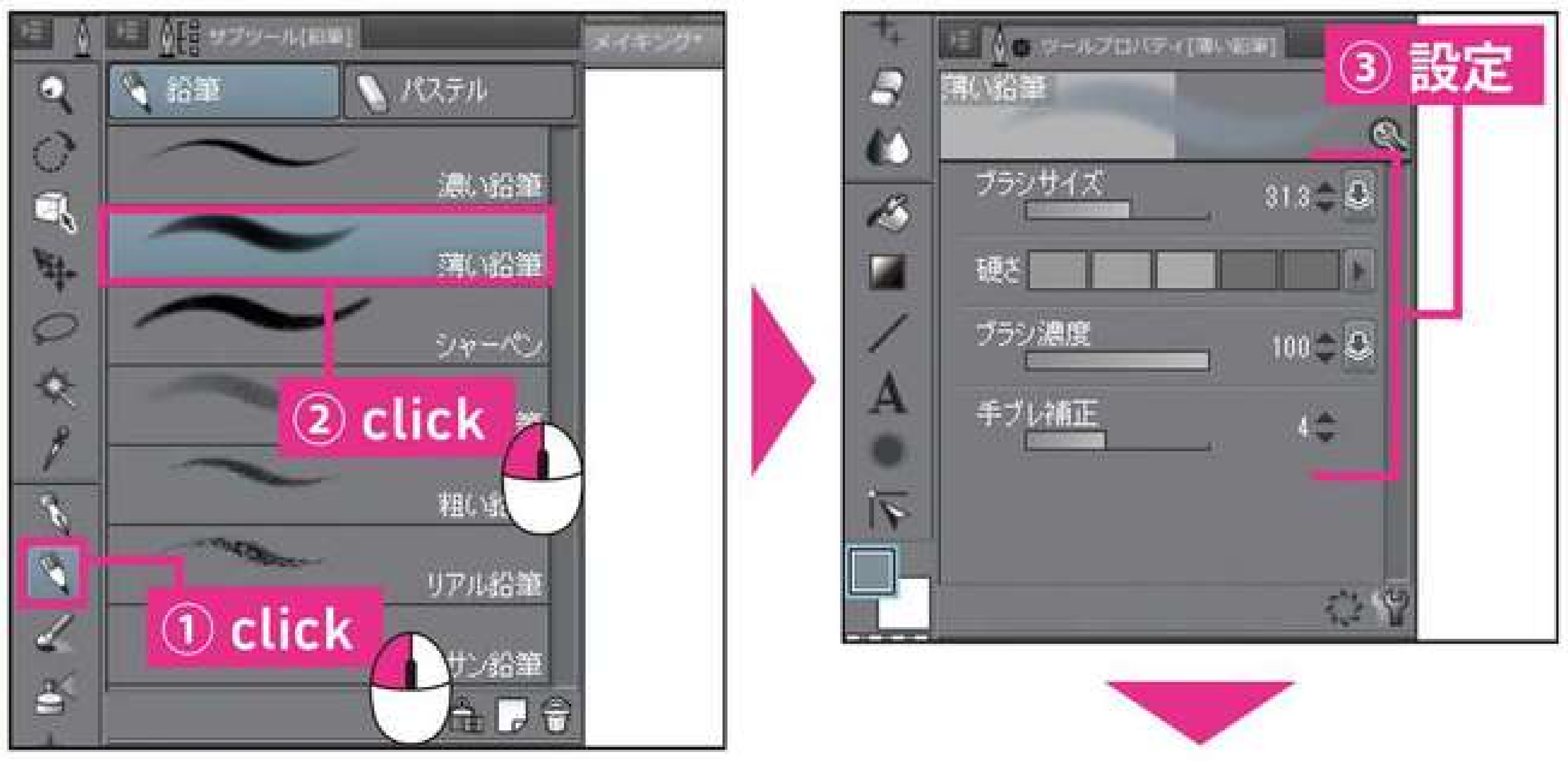
3

背景や消し残しは、［選択範囲］ツールの［折れ線選択］で囲って一気に消しています。
背景には「用紙」レイヤーの白色が表示されます。



4

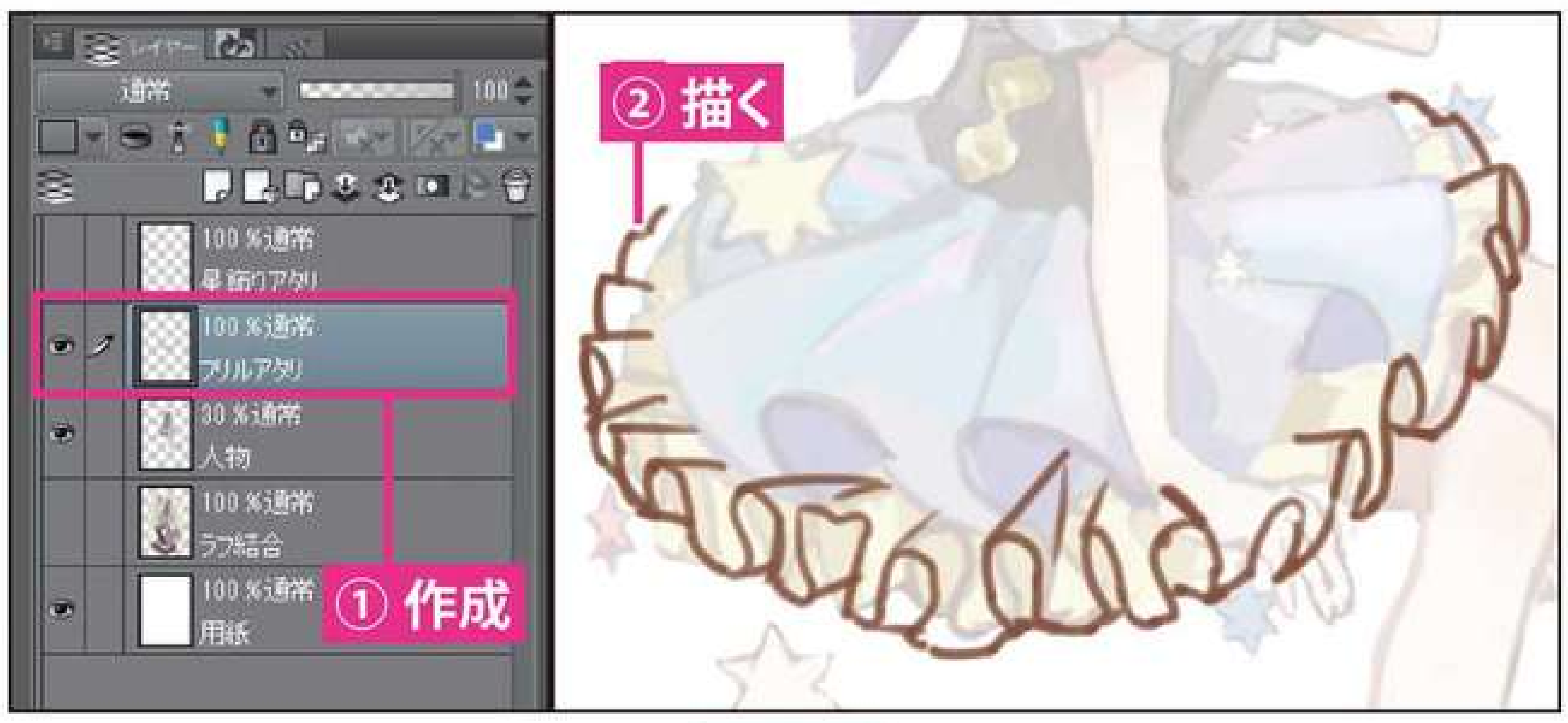
レイヤーを作らずに、上から直接「人物」レイヤーに加筆して整えていきます。
[鉛筆]ツールの[薄い鉛筆]を使って描いています。





5

フリルなど形がとりにくいものは別レイヤーにアタリを描いて、それを元に描きます。
ここでは「フリルアタリ」と「星飾りアタリ」レイヤーを作成して描いています。





Memo

アタリを描いてから描く手順については、p.133のStep05を参照しましょう。

6

アタリを描いたら、アタリレイヤーの下に新規ラスターレイヤーを追加し、描いていきます。



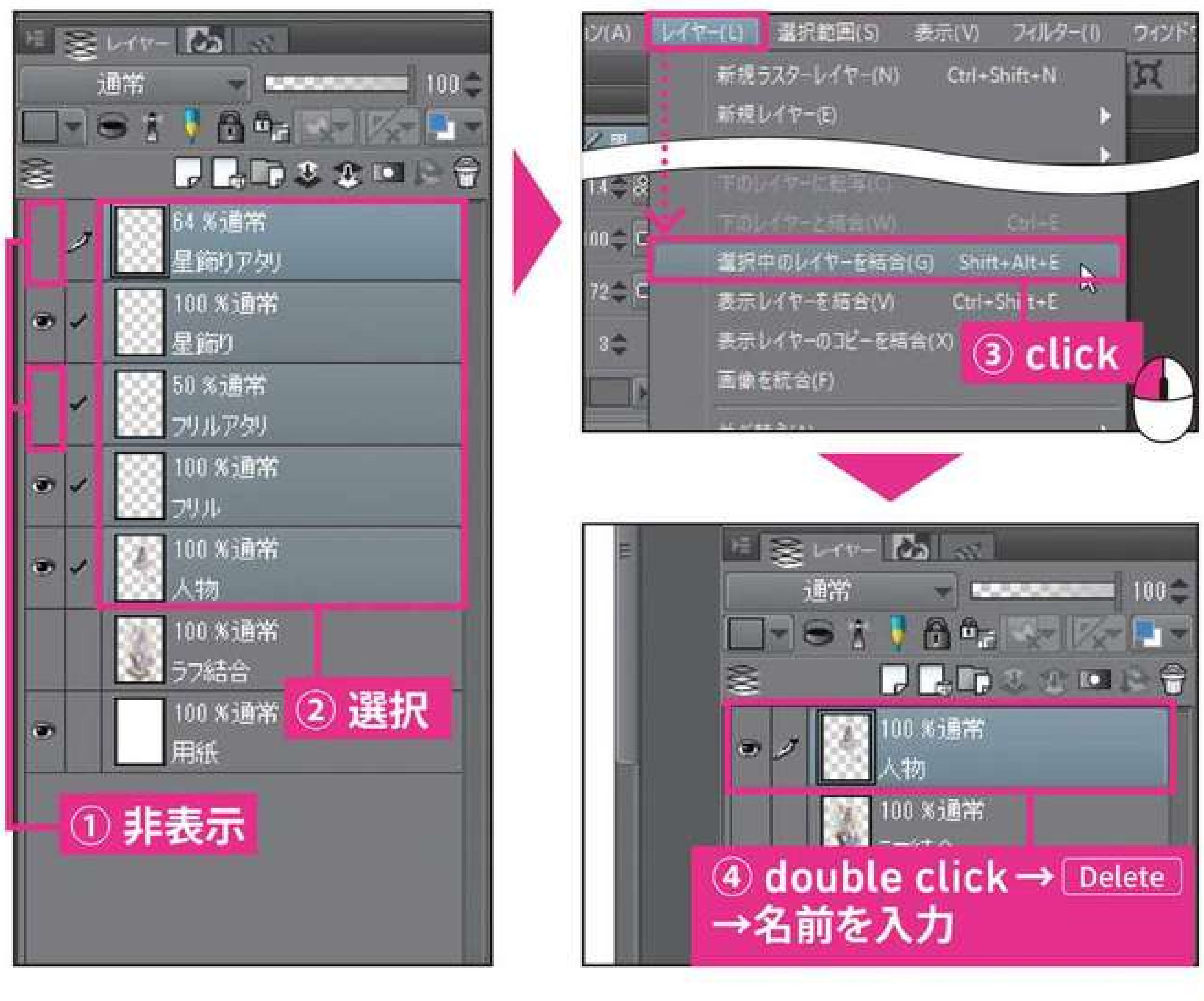
7

アウトラインは結構はっきりと描いています。



8

描いたレイヤーを結合します。アタリのレイヤーを非表示にしたあと、結合する5つのレイヤーを選択します。
[レイヤー]メニュー→[選択中のレイヤーを結合]の順にクリックします。
結合されたら、レイヤー名を変更しておきます(ここでは「人物」レイヤー)。



Memo

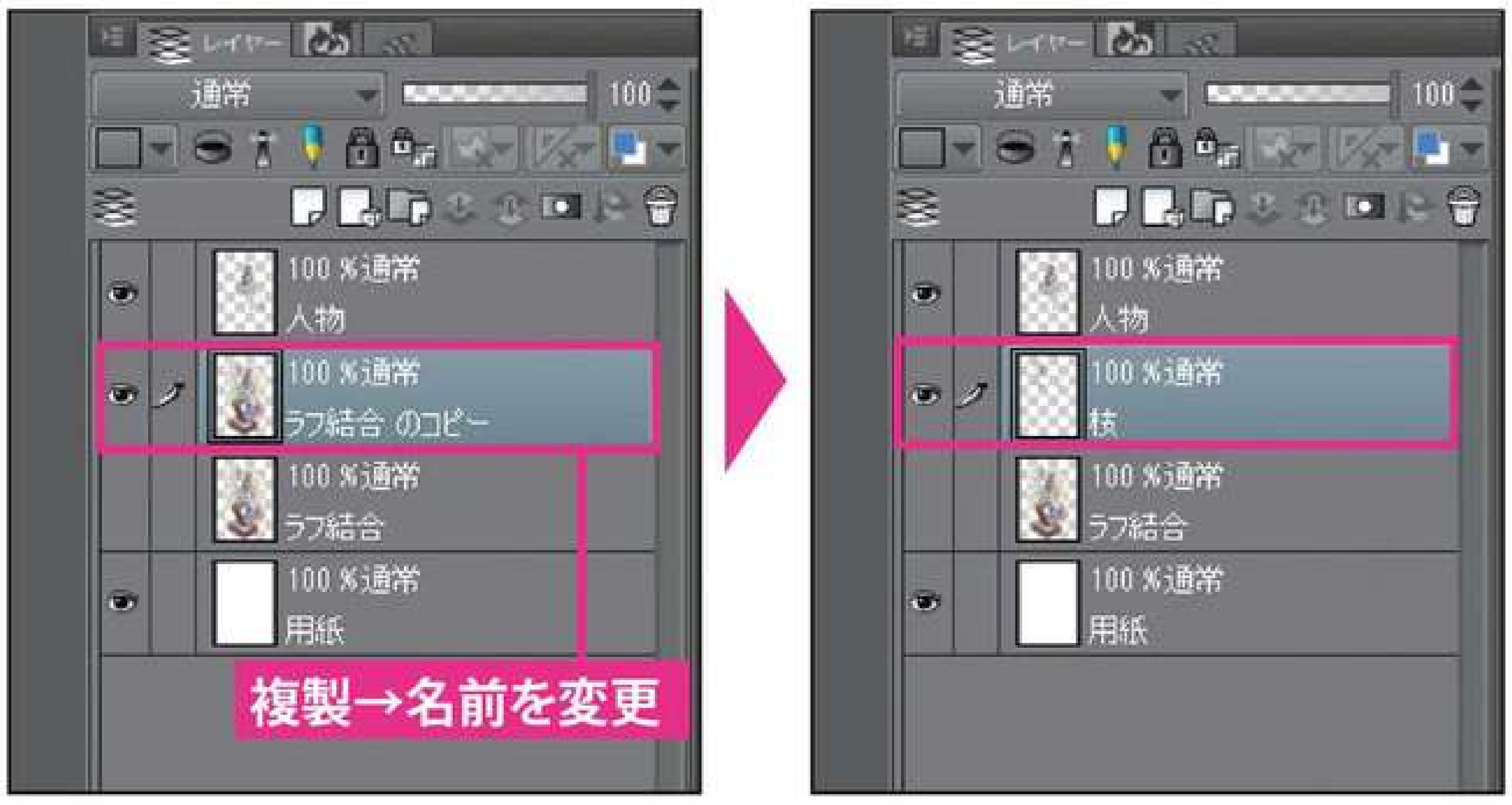
Shift キーもしくは Ctrl (command) キーを押しながらクリックすると、複数のレイヤーを選択できます。

Chapter 5 さまざまなタッチで描いてみよう

Step 04 植物や動物を描く

1

人物と同じように、そのほかの部分もパーツごとに切り抜いて描き込んでいきます。
Step03と同様に「ラフ結合」レイヤーを複製してレイヤー名を変更します（ここでは「枝」レイヤー）。
[消しゴム]ツール、[選択範囲]ツールを使いながら、周りを消します。



2

木は枝や葉っぱを調整しながら描いていきます。



3

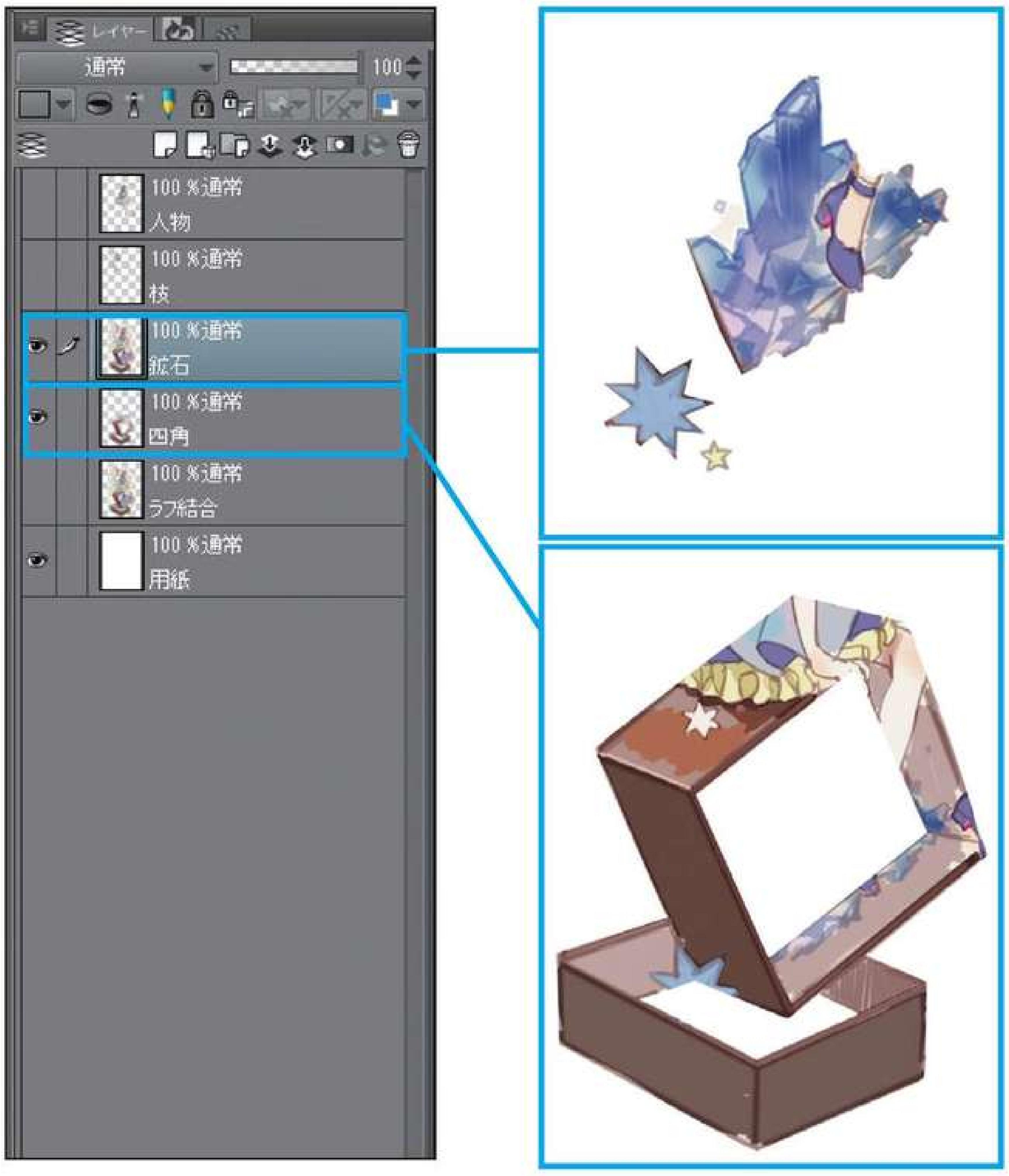
ミミズクも同じように描き込んでいきます。



Step 05 パーツを描く

1

人物が乗っている鉱石の箱部分を描きます。
Step03と同様に「ラフ結合」レイヤーを複製したあと、[消しゴム]ツール、[選択範囲]ツールを使いながら、周りを消します。鉱石の部分と箱の部分のレイヤーをそれぞれ分けて作ります（「鉱石」、「四角」レイヤー）。

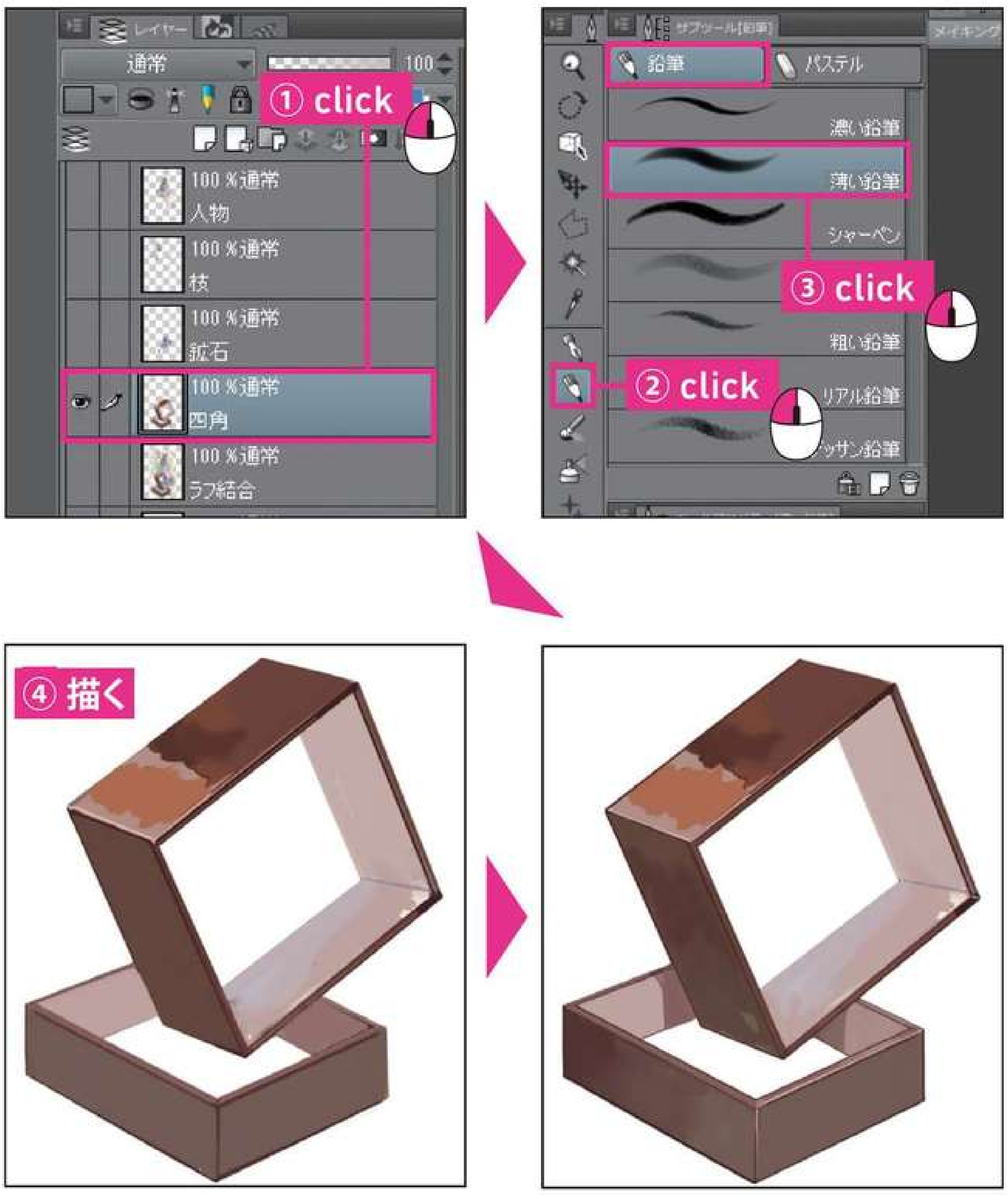


Memo

適宜、レイヤーを非表示にして描いていきます。
ここでは鉱石と箱のレイヤーを作ってからレイヤーを複製して不必要な部分を消し、箱の部分のレイヤーと鉱石のレイヤーを作っています。

2

まず箱の部分を描いています。
人物の下にある部分を塗りつぶして、影なども意識しながら描きます。
直線部分は、Shift キーを押しながら描きます。

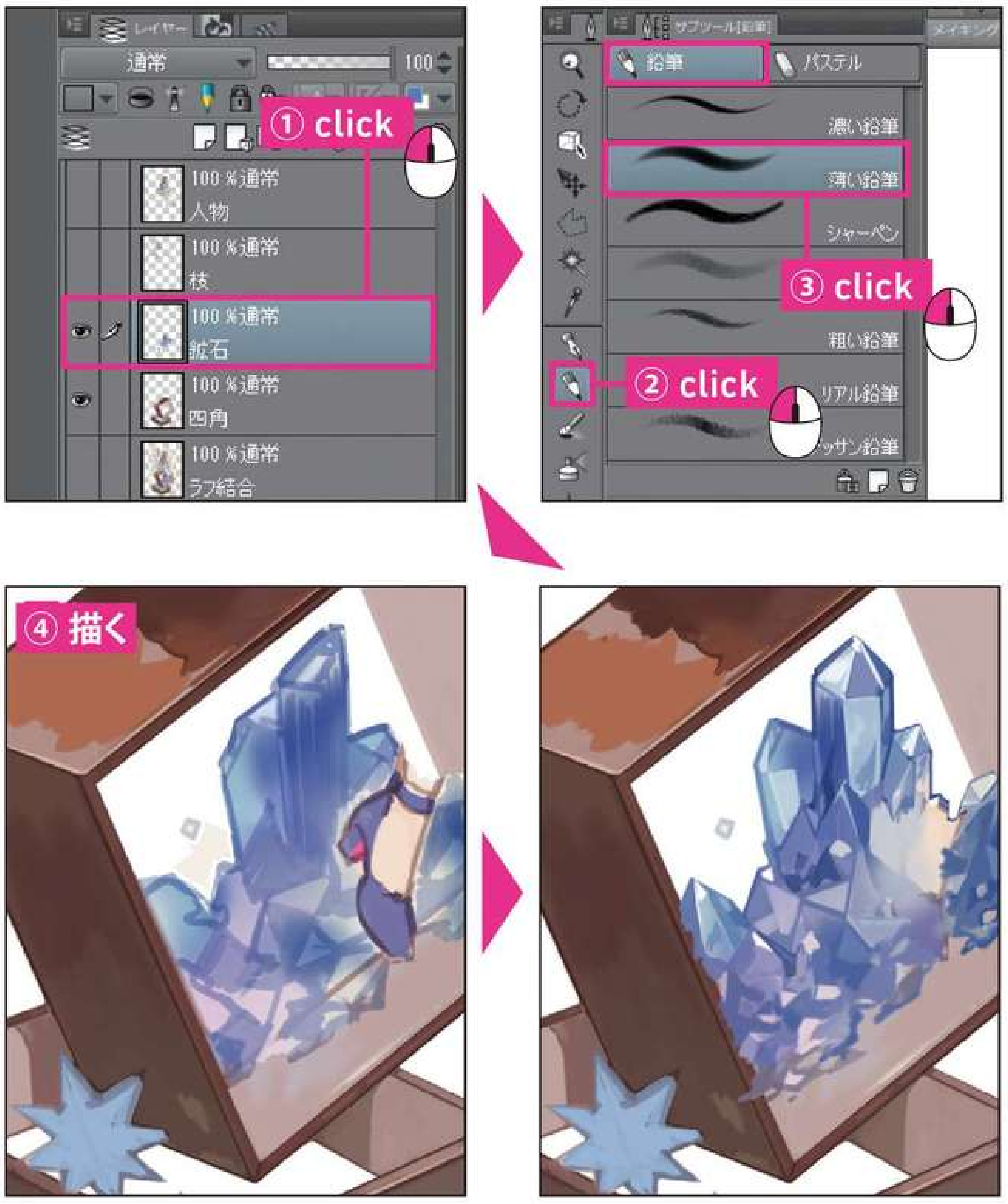


Memo

始点をクリックしたあと Shift キーを押し、終点をクリックすると直線が引けます。

3

[鉱石]レイヤーを選択します。
鉱石の部分は、キラキラした感じと硬さを意識して描き込んでいきます。



Memo

「人物」レイヤーが一番上に表示されるので、隠れる部分をしっかりと描く必要はありません。

4

配置なども調整しながらさらに加筆します。はみ出ている部分はレイヤーマスクで消します。
消すレイヤー(ここでは「鉱石」レイヤー)を選択し、[レイヤーマスクを作成]アイコンをクリックします。[消しゴム]ツールを使って、はみ出ている部分をドラッグします。



5

「鉱石」レイヤーにマスクが設定され、選択部分が消えます。

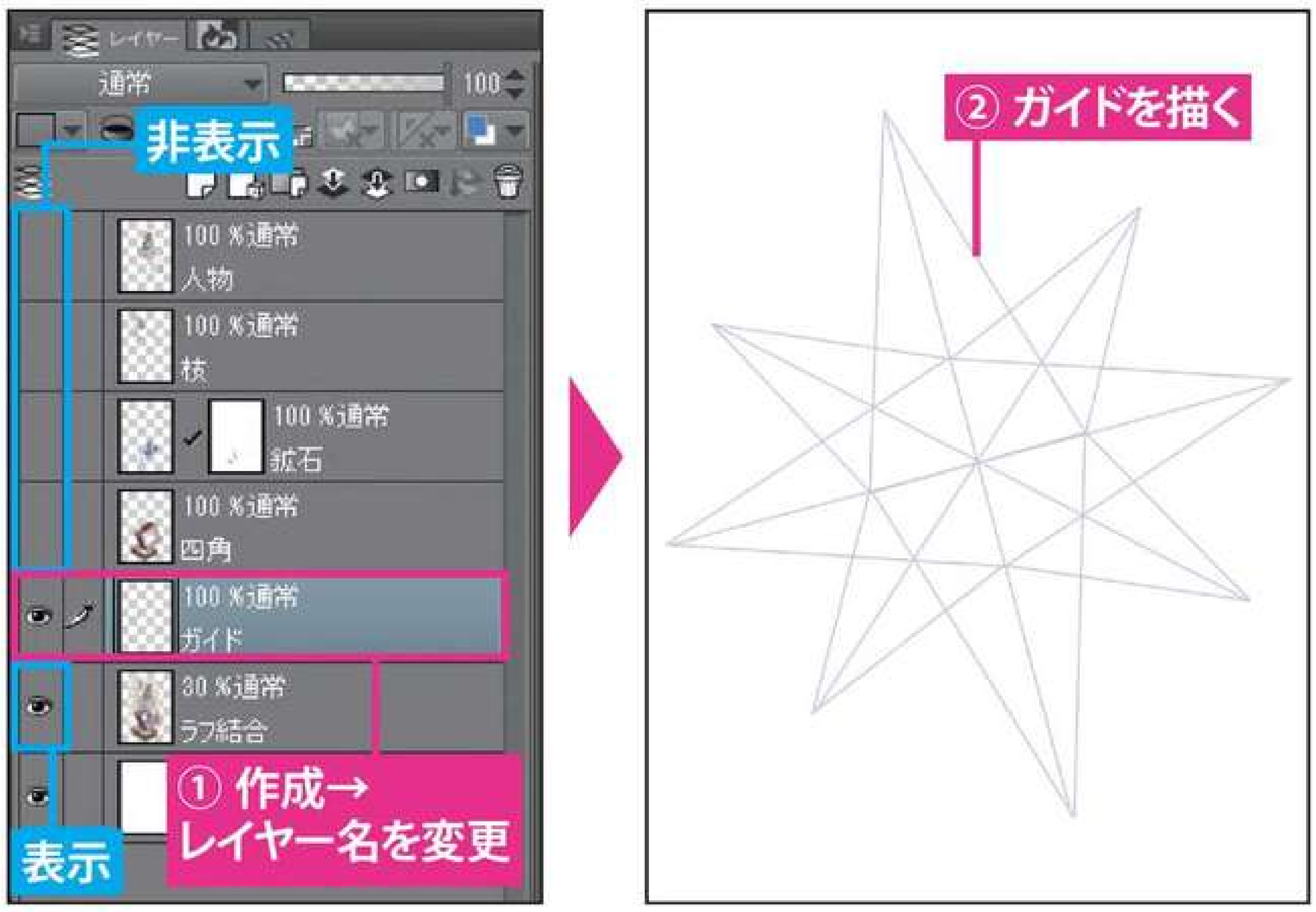


Memo

実際には、選択された範囲が隠れている状態です。レイヤーマスクについては、p.88を参照しましょう。

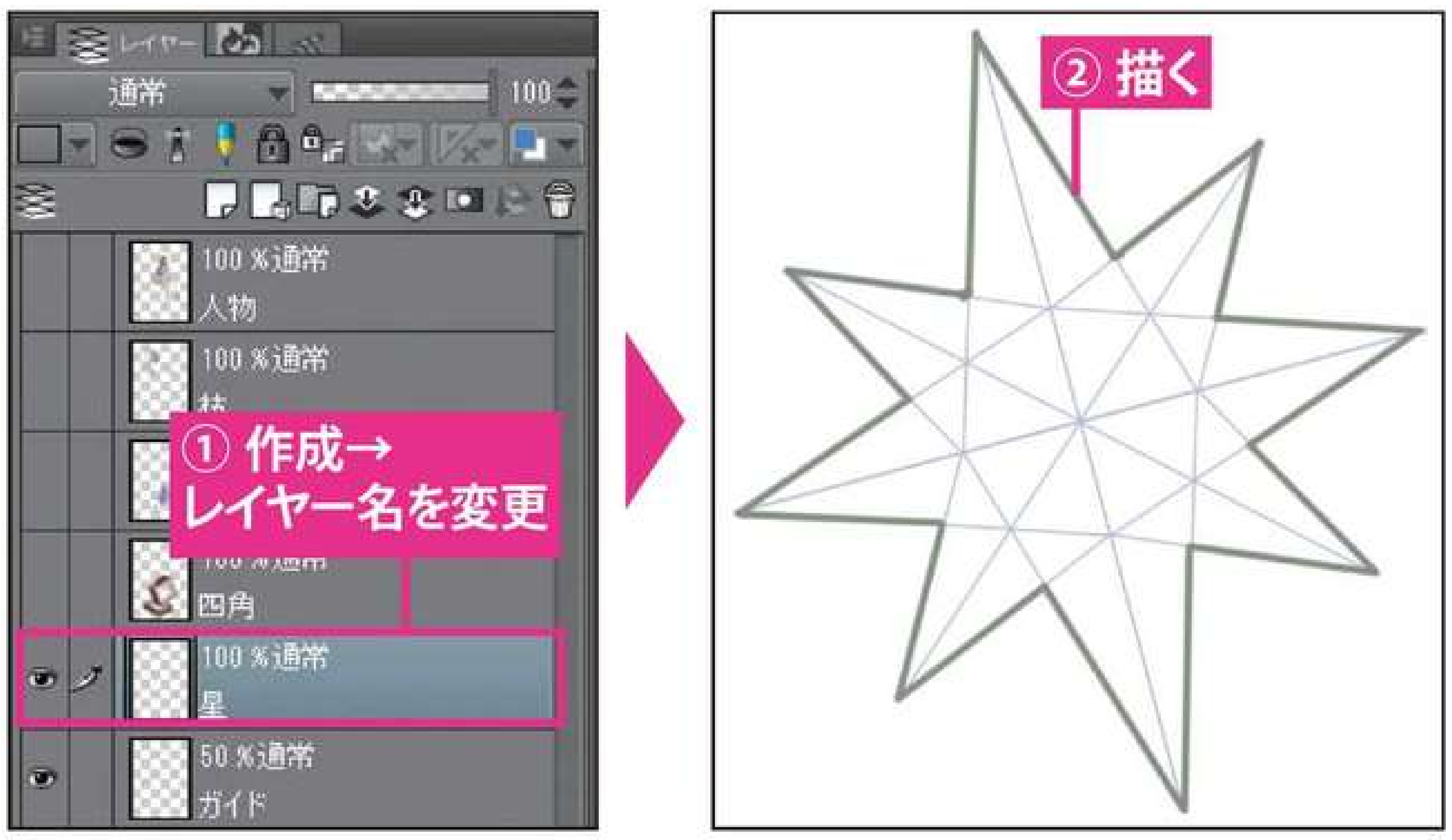
6

図形部分は大まかなアタリを描いてから線を描いて塗っていきます。
「ラフ結合」レイヤーを表示させ、それ以外は非表示にします。
新規ラスターレイヤーを追加し（レイヤー名「ガイド」）、図のように［図形］ツールの［直線］で星の形のガイドを描きます。



7

［鉛筆］ツールでなぞって線を描きます。



8

「ガイド」レイヤーの上に新規ラスターレイヤーを追加し（レイヤー名「星」）、描いた星に［塗りつぶし］ツールや［エアブラシ］ツールで色を塗ります。
線と塗りのレイヤー（「ガイド」、「星」レイヤー）を結合後、上から加筆していきます。



Step 06 背景を入れて仕上げる

1

気になる部分を加筆、修正していきます。「人物」レイヤーを選択し、袖のところに模様を加筆します。



2

四角の枠の縁部分なども少し気になったので、「加筆」レイヤーを選択し、加筆して整えます。



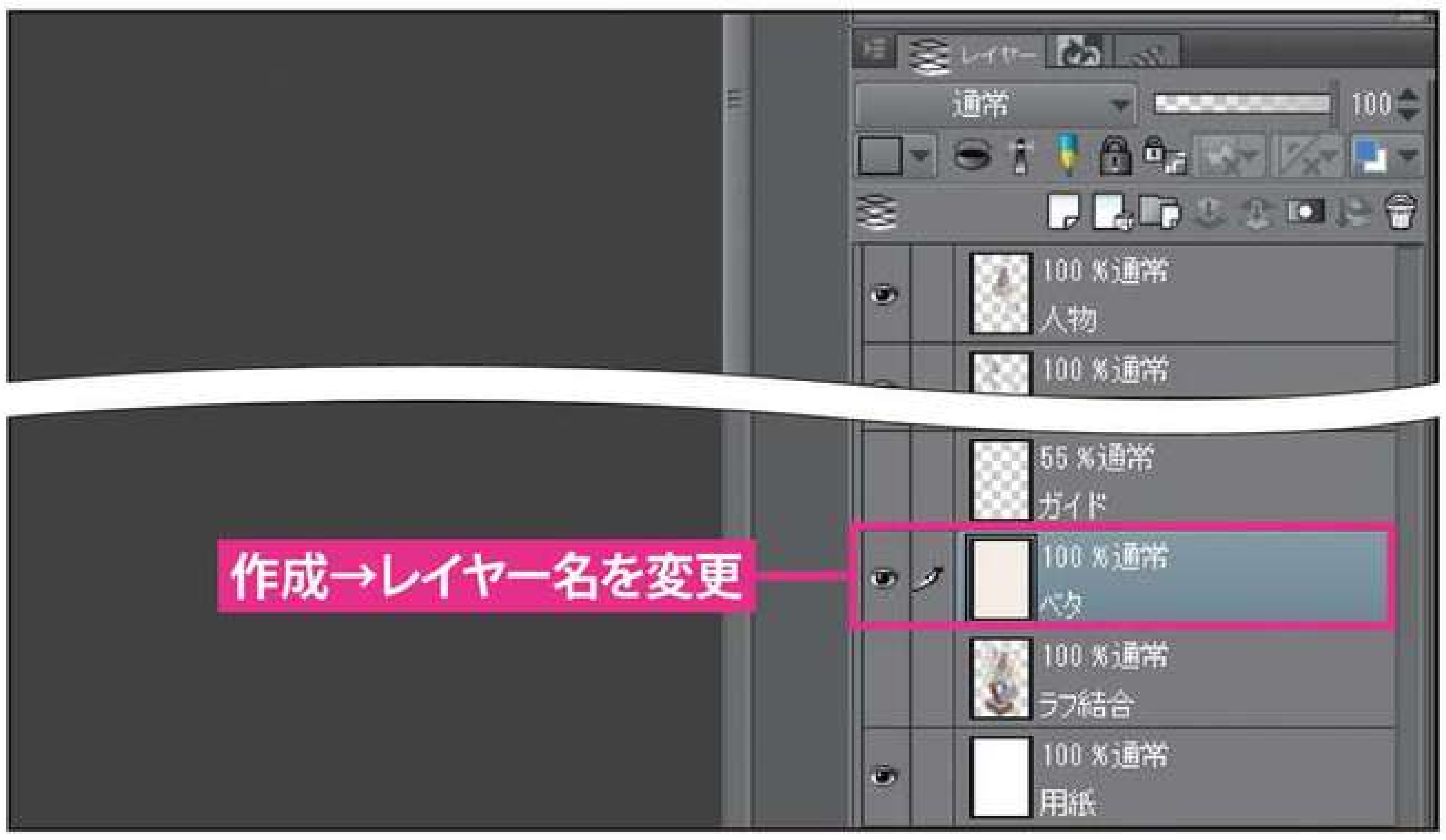
3

新規ラスターレイヤーを追加します（レイヤー名「ふんわり光」）。
合成モードを［オーバーレイ］にし、不透明度を「60%」にします。
鉱石のところにピンクや青などをふんわり入れます。



4

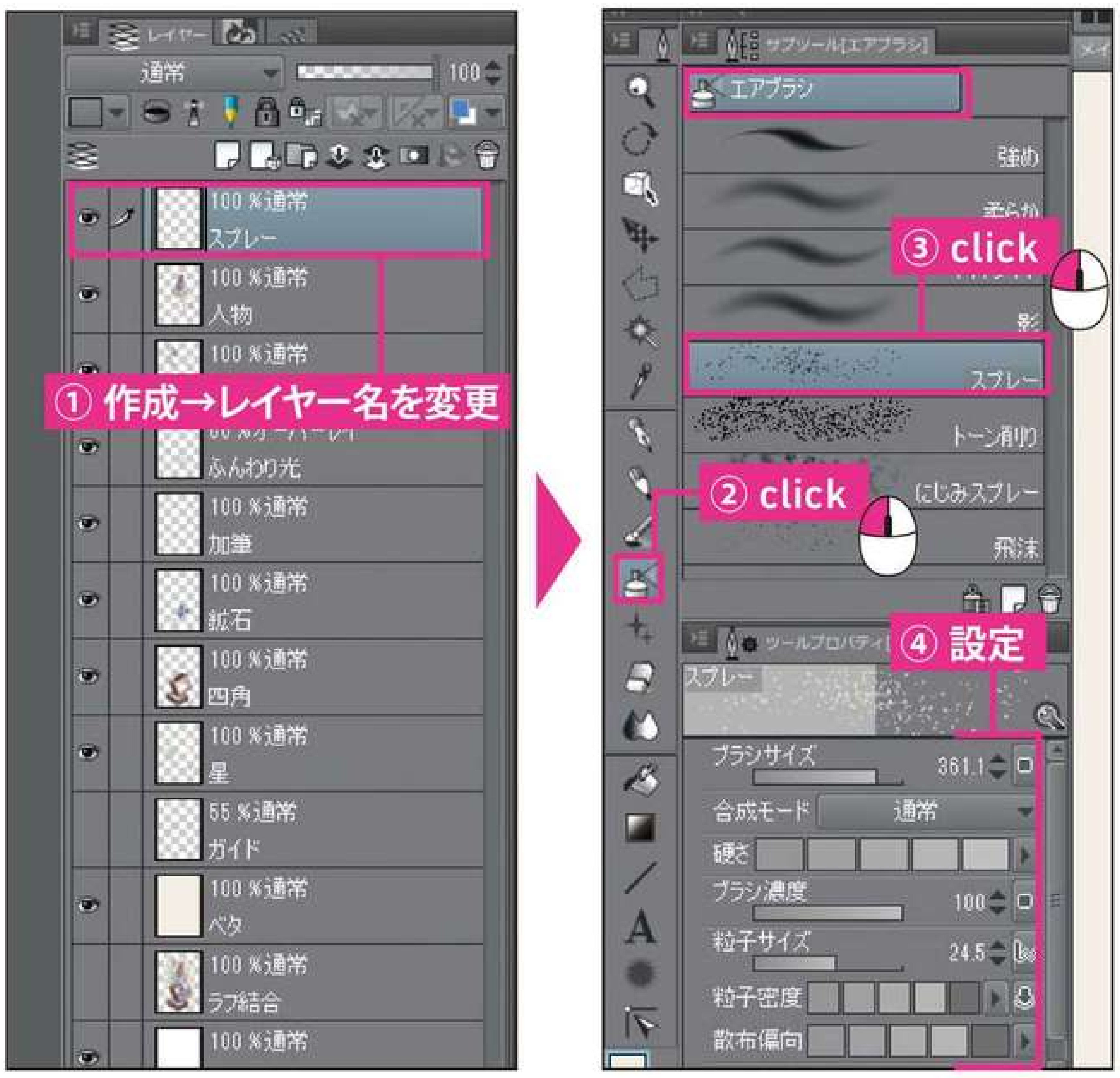
背景にべた塗りを入れます。
描いたイラストの一番下に新規ラスターレイヤーを追加します（レイヤー名「ベタ」）。





5

新規ラスターレイヤーを一番上に追加し、レイヤー名を変更します（「スプレー」）。[エアブラシ]ツールの[スプレー]を選択し、[ツールプロパティ]パレットで設定します。



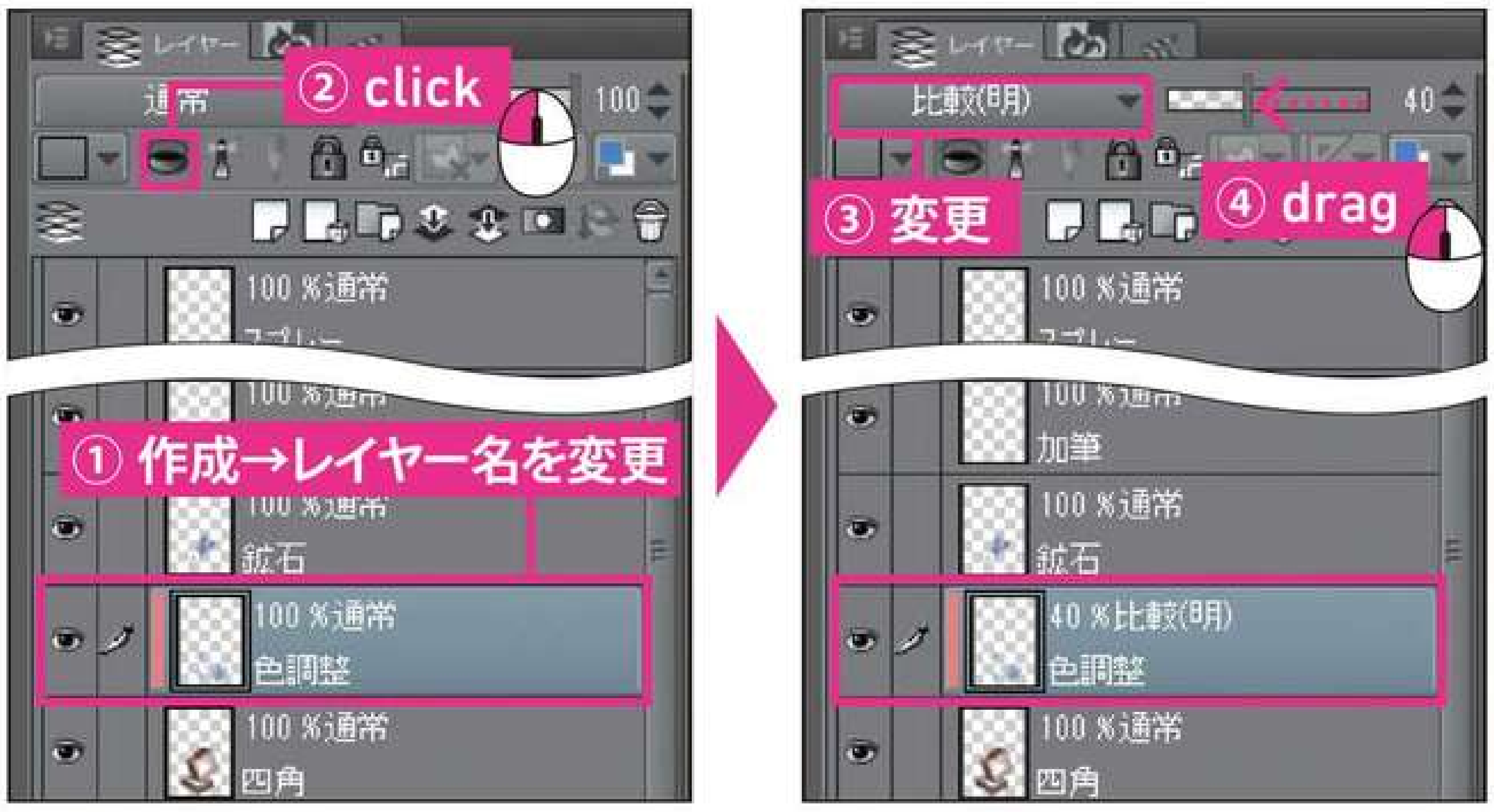
6

クリックして、白い点々を入れます。



7

気になる部分の色を少し調整して完成です。
新規ラスターレイヤーを用意し(「色調整」レイヤー)、鉱石の箱部分のレイヤー(「四角」レイヤー)にクリッピングします。
青っぽい色を塗ってレイヤーの合成モードを[比較(明)]にし、レイヤーの不透明度を調整します。





Memo

[比較(明)]は、下にあるレイヤーの色と設定中のレイヤーの色を比較し、明るい方を選んで合成します。

Chapter 6

iPad でイラストを描こう

Chapter6では、iPad版のCLIP STUDIO PAINTで
Chapter2、3と同じネコのイラストを描く方法を解説します。
クラウドにデータをアップしておくと、iPadとPCで同じイラストを
同期して編集することもできます。



Chapter 6 - 01

CLIP STUDIO PAINT をインストールしよう

ここでは、iPad版のCLIP STUDIO PAINTをお使いの端末にインストールする方法を解説します。

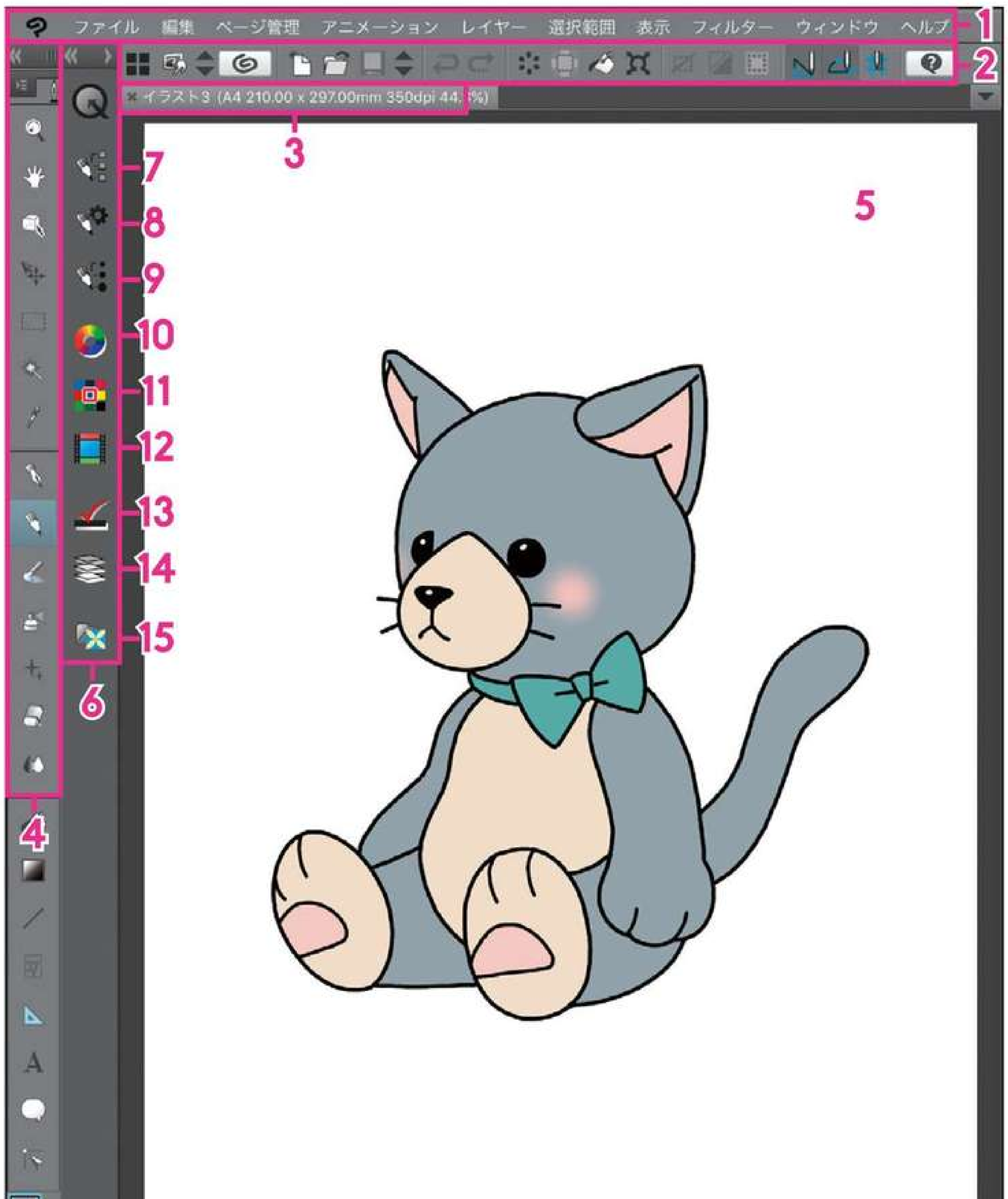
Before no file　After no file

Step 01 iPad 版　CLIP STUDIO PAINT の画面

下図はCLIP STUDIO PAINTをインストール後に、はじめて起動した初期設定の画面構成です。
CLIP STUDIO PAINTのバージョンによっては表示の仕方やパレットの配置が異なる場合があります。
※バージョンは予告なく変更されることがあります。インストール時のバージョン番号を確認してください（以下はVer 1.8.5の表示です）。

1 メニューバー
2 コマンドバー
3 （ファイル名）タブ
4 ［ツール］パレット
5 キャンバスウィンドウ
6 パレットドック
7 ［サブツール］パレット
8 ［ツールプロパティ］パレット
9 ［ブラシサイズ］パレット
10 ［カラーサークル］パレット（※）
11 ［カラーセット］パレット（※）
12 ［カラーヒストリー］パレット（※）
13 ［レイヤープロパティ］パレット
14 ［レイヤー］パレット
15 ［素材］パレット

（※）PC版では［カラー］パレットもしくは［ウィンドウ］メニューから選択する

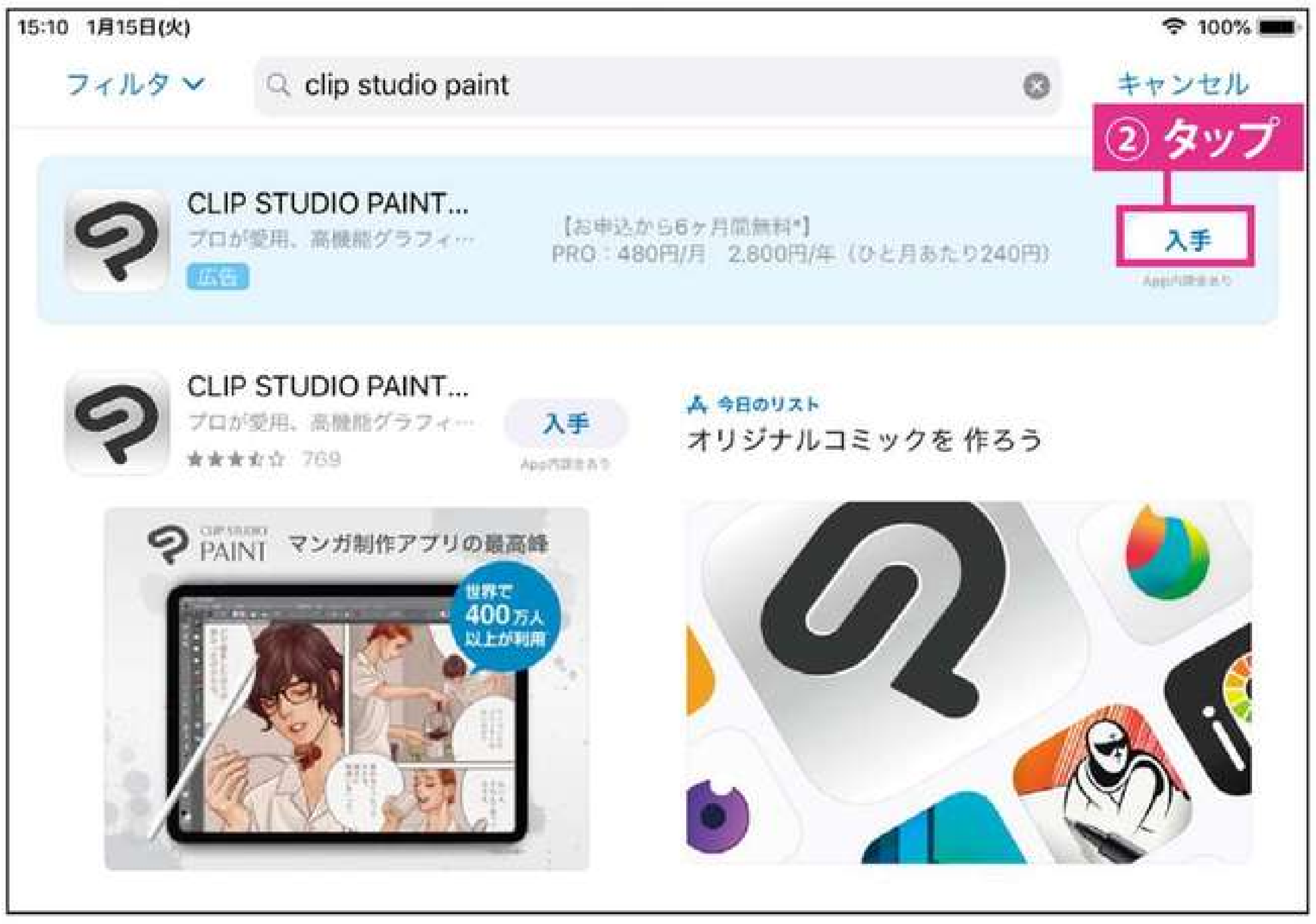


Step 02 CLIP STUDIO PAINT をインストールする

1

App Storeで「CLIP STUDIO PAINT」と入力して検索します。
表示された一覧から「CLIP STUDIO PAINT」の[入手]をタップします。





2

図のような画面が表示されるので、[インストール]をタップします。Apple IDのパスワードを求める画面が表示されたら、パスワードを入力して[サインイン]をタップします。





Memo

アプリの入手には、あらかじめApple IDを取得しておく必要があります。
Apple IDの取得方法については、お使いのiPadのマニュアルをご確認ください。

3

インストールがはじまります。インストールが完了するとアイコンの表示が変わるので、[開く]をタップします。



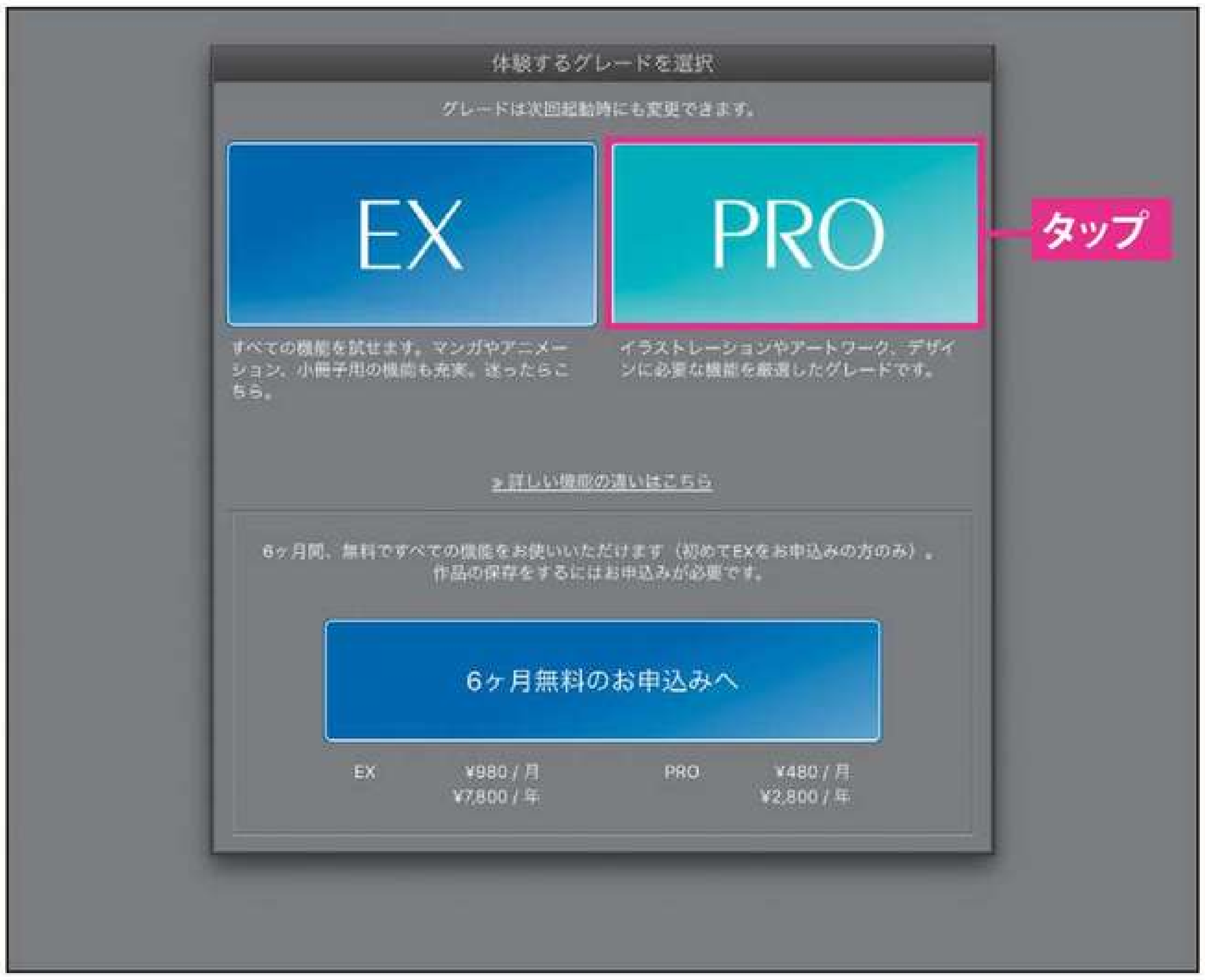


Memo

ホーム画面にアプリのアイコンが作成されます。
起動する場合はホーム画面のアイコンをタップします。

4

CLIP STUDIO PAINTの起動画面が表示されます。グレードを選択する画面が表示されたら、[PRO]をタップします。

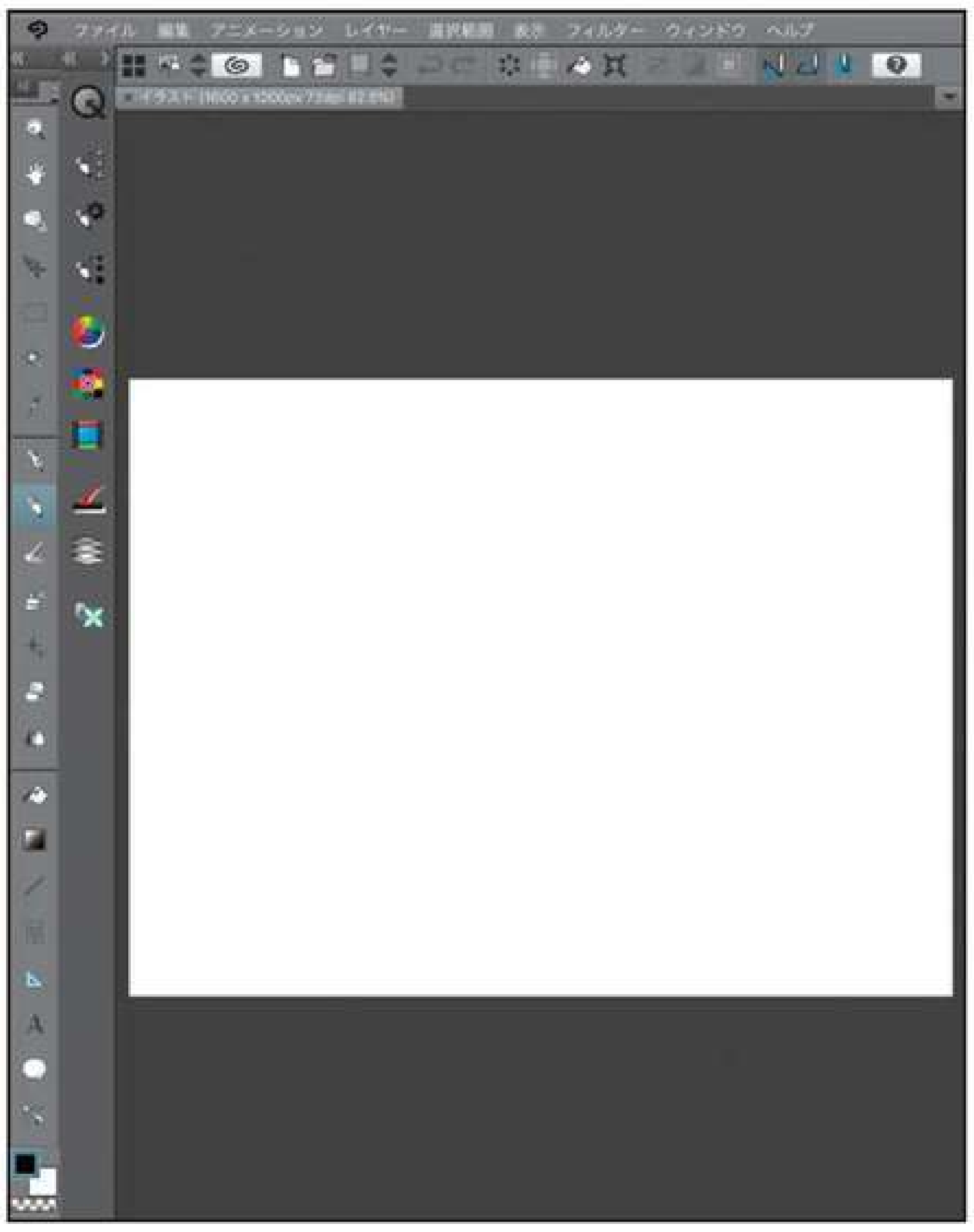


Memo

CLIP STUDIO PAINTで描いたイラストを保存するなど、すべての機能を使用するには、[6ヶ月無料のお申し込みへ]をタップし、登録する必要があります。
なお、すでにPC版でCLIP STUDIOアカウントに登録している場合は、同じアカウントを使用することができます。

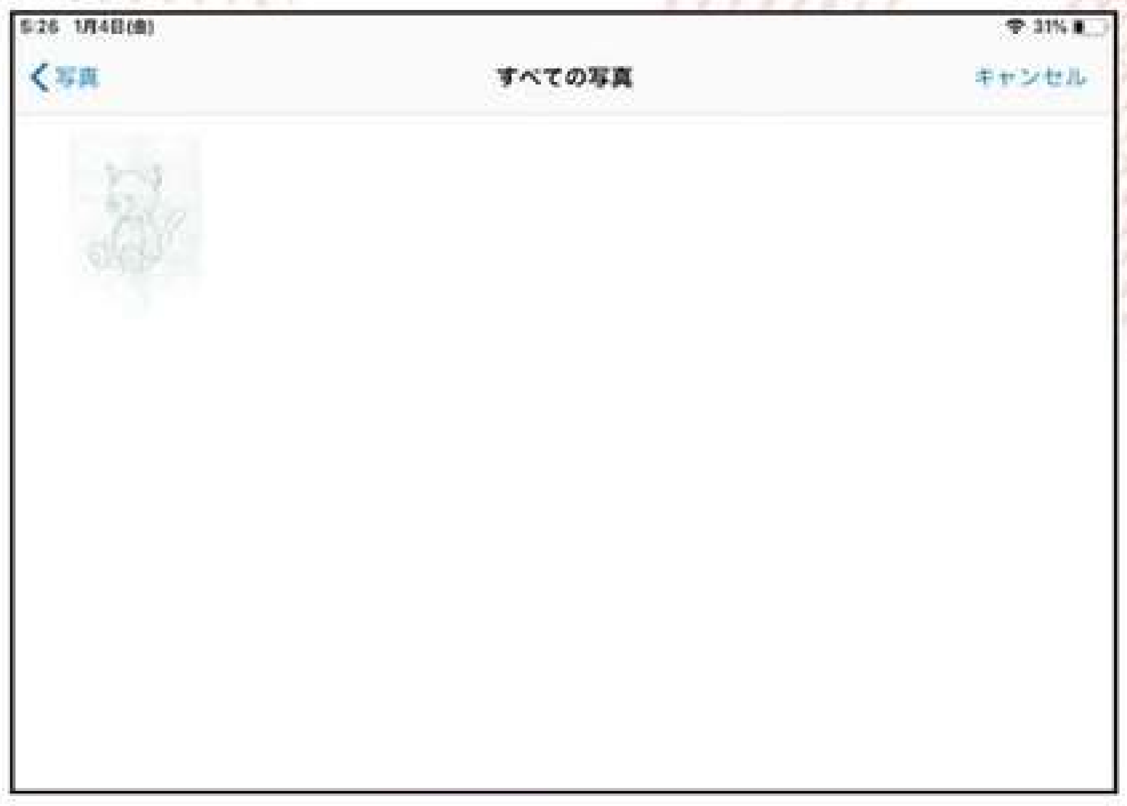
5

CLIP STUDIO PAINTの画面が表示されます。

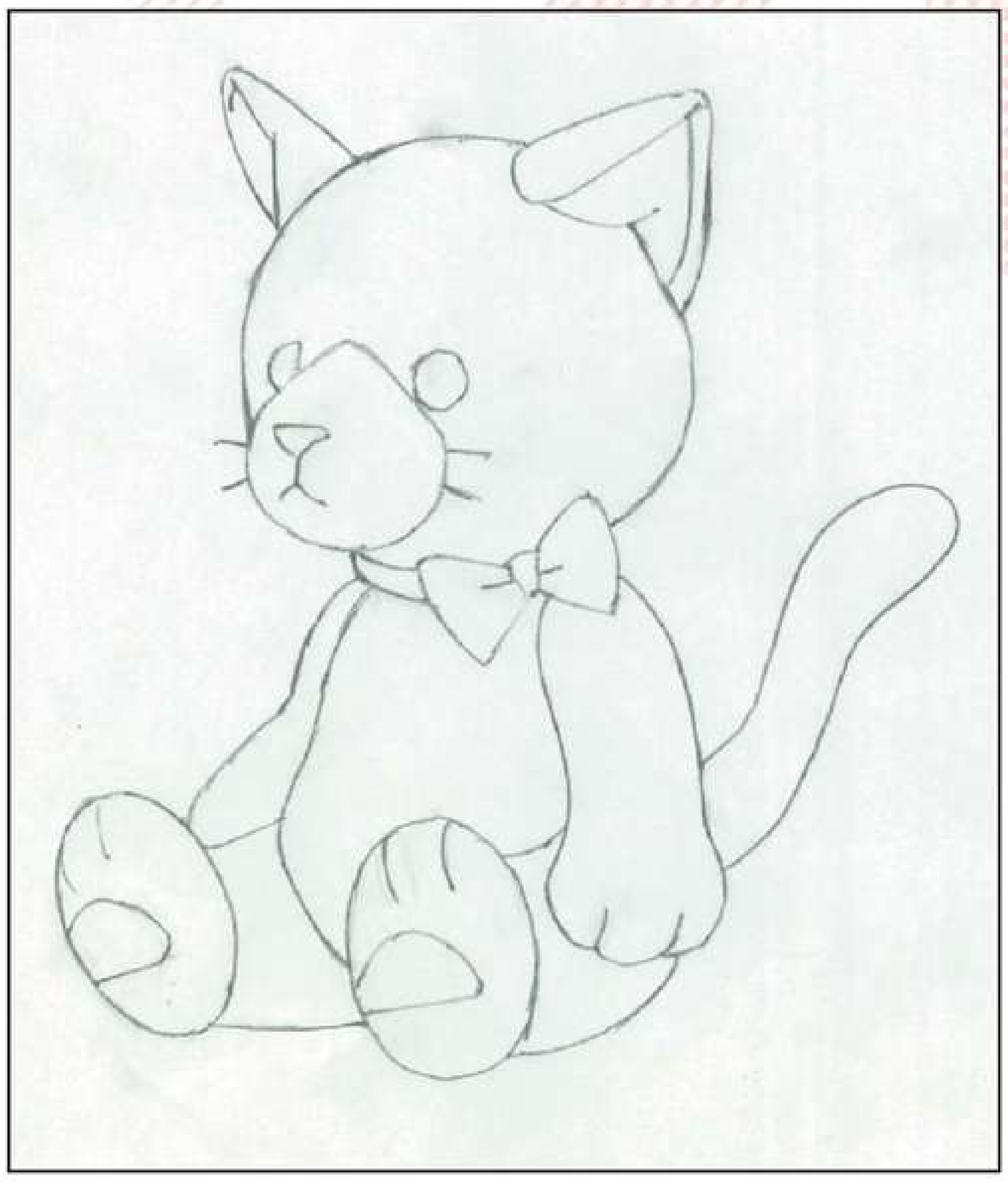


Chapter 6 - 02

下絵を取り込もう



Before 6-02.jpg

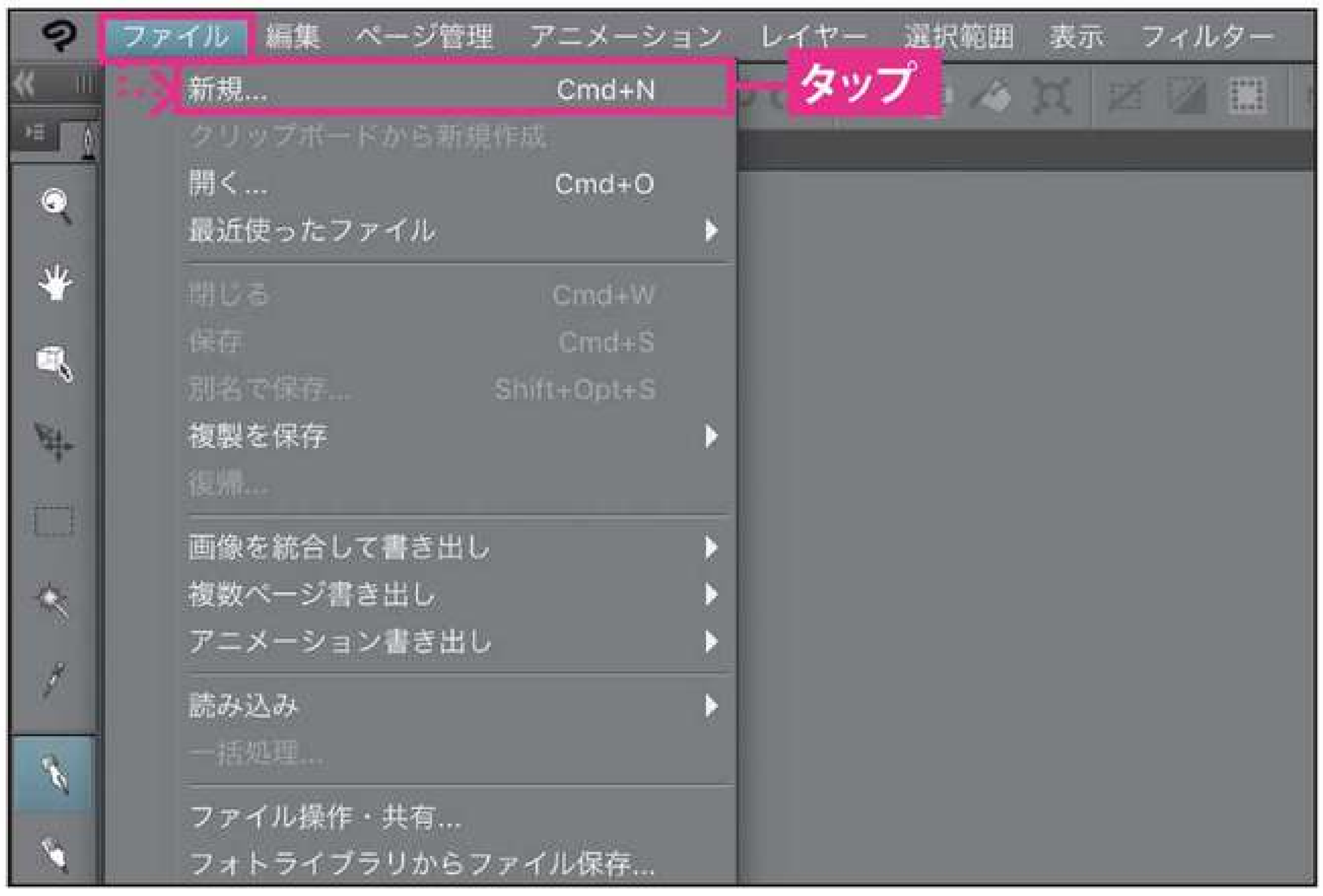


After 6-02a.clip

手描きのイラストを下絵として取り込む方法を解説します。あらかじめ、フォトライブラリに線画のファイルを取り込んでおく必要があります。

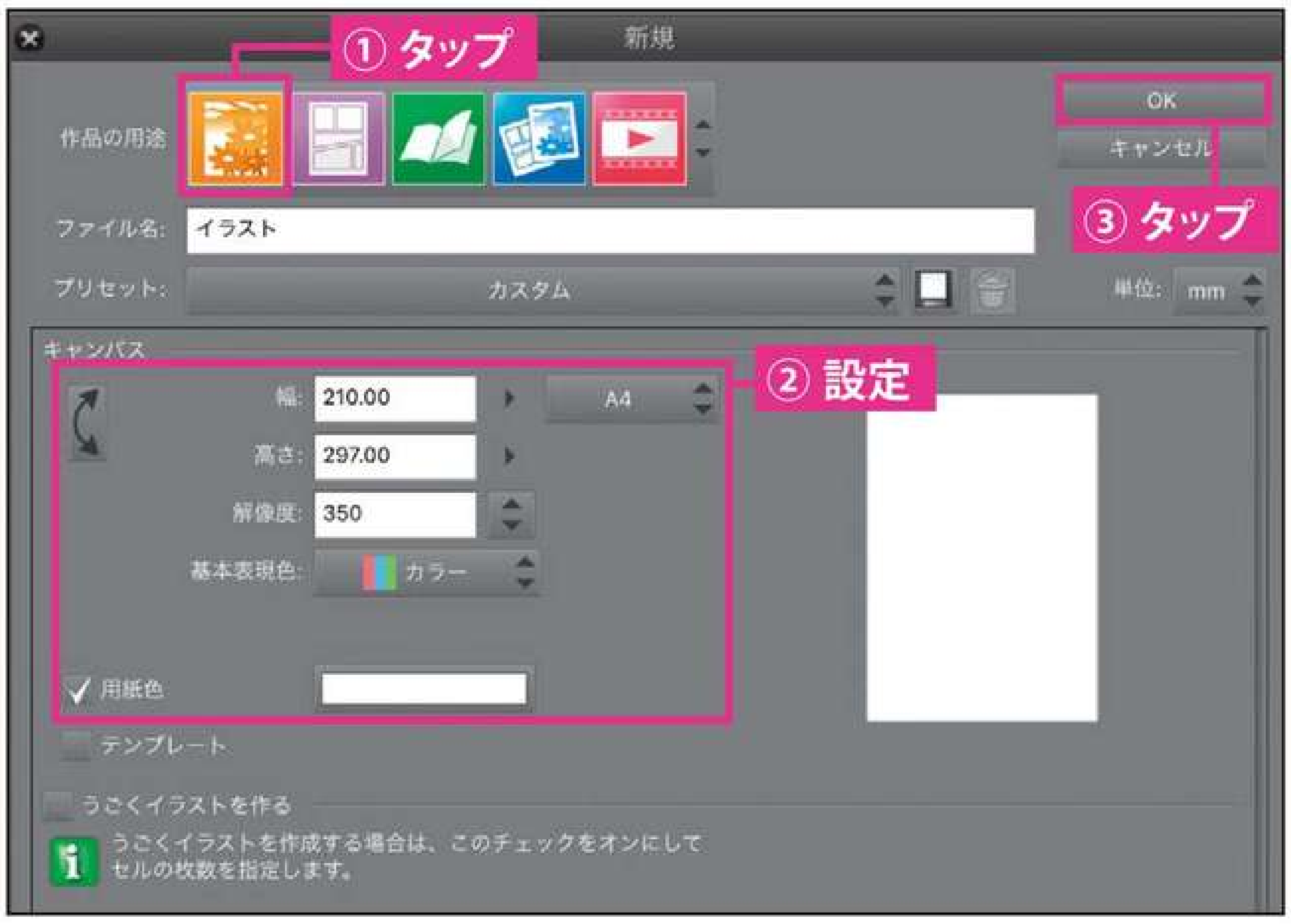
Step 01 新規キャンバス（用紙）を用意する

［ファイル］メニュー→［新規］の順にタップします。



2

[新規]ダイアログが表示されるので、作品の用途、用紙のサイズ（ここではA4）やカラーなどを変更し、[OK]をタップします。



3

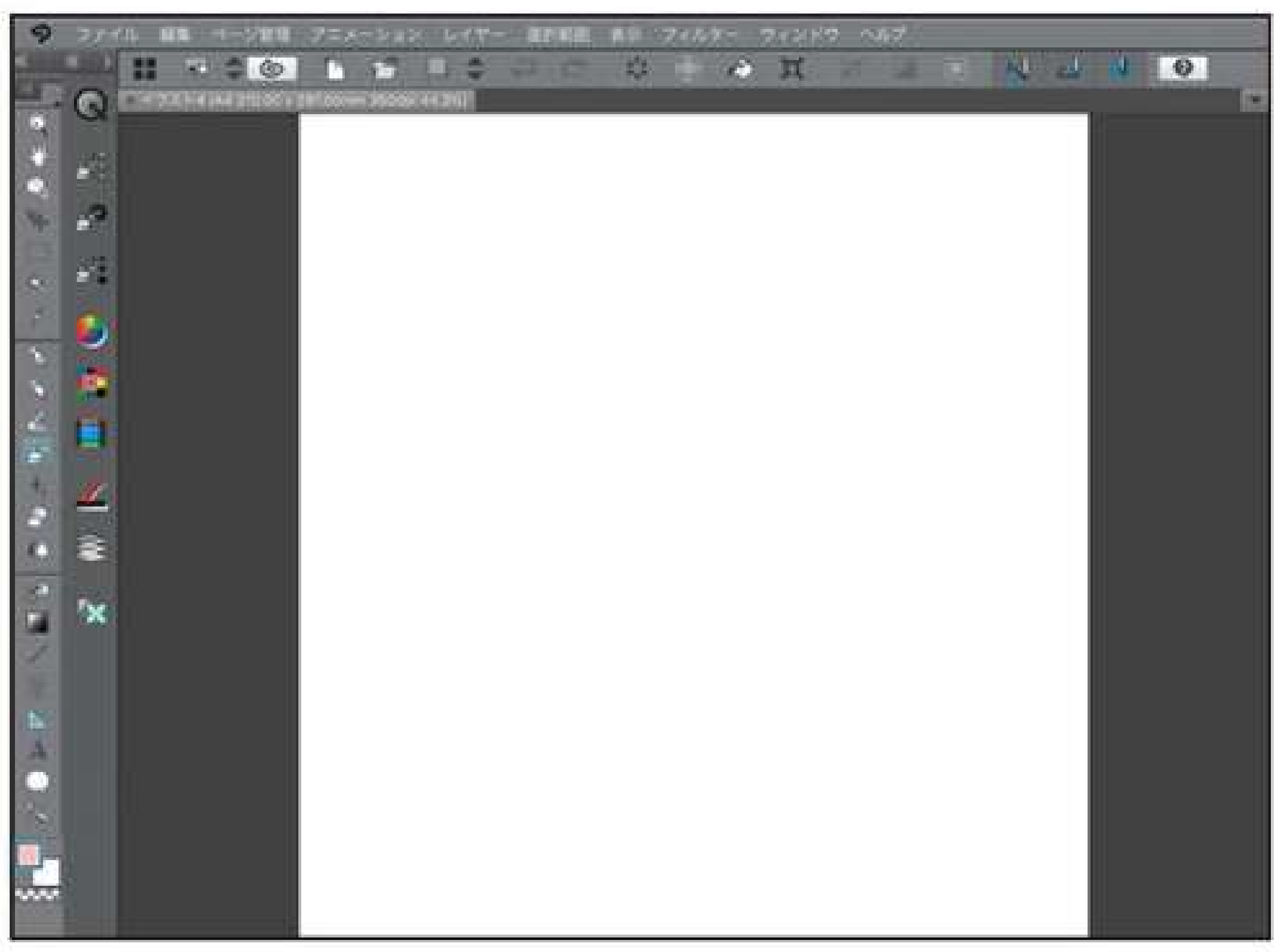
新規キャンバス（用紙）が作成できました。



Hint

画面の回転と拡大・縮小

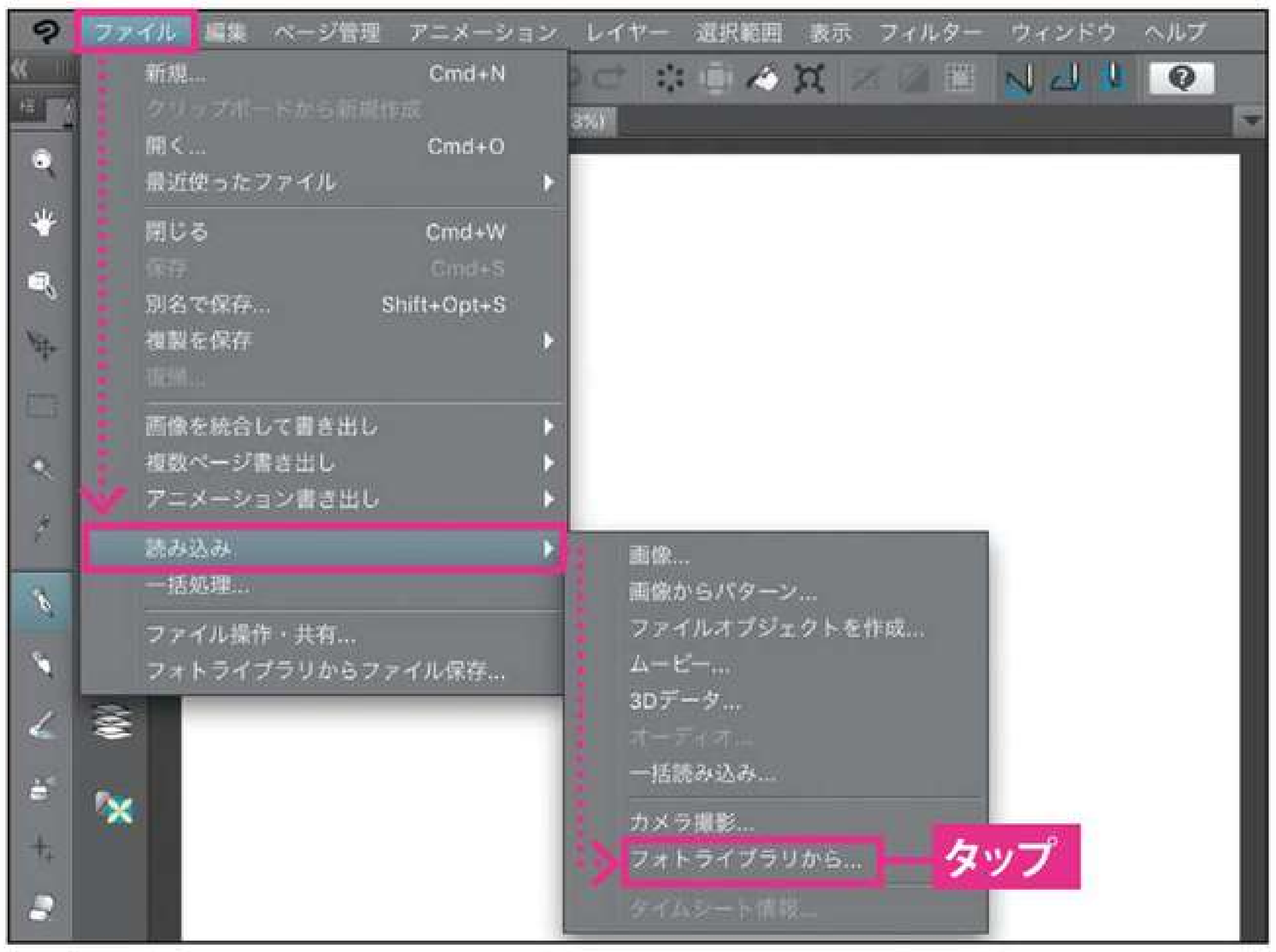
縦向きの画面が使いにくいときは、iPadを回転させて横向きの画面にして描いてみましょう。
また、キャンバスウィンドウをピンチアウトすると拡大表示になり、ピンチインすると縮小表示になります。



Step 02 下絵を開いて配置する

1

端末に保存してある下絵を読み込んで配置します。
[ファイル]メニュー→[読み込み]→[フォトライブラリから]の順にタップし、下絵に使用する画像ファイルを開きます。



2

フォトライブラリ(写真)の画面が開くので、読み込む画像をタップします。



Memo

フォトライブラリ(写真)へのファイルの読み込み方法やダウンロードについては、iPadの解説書をお読みください。

3

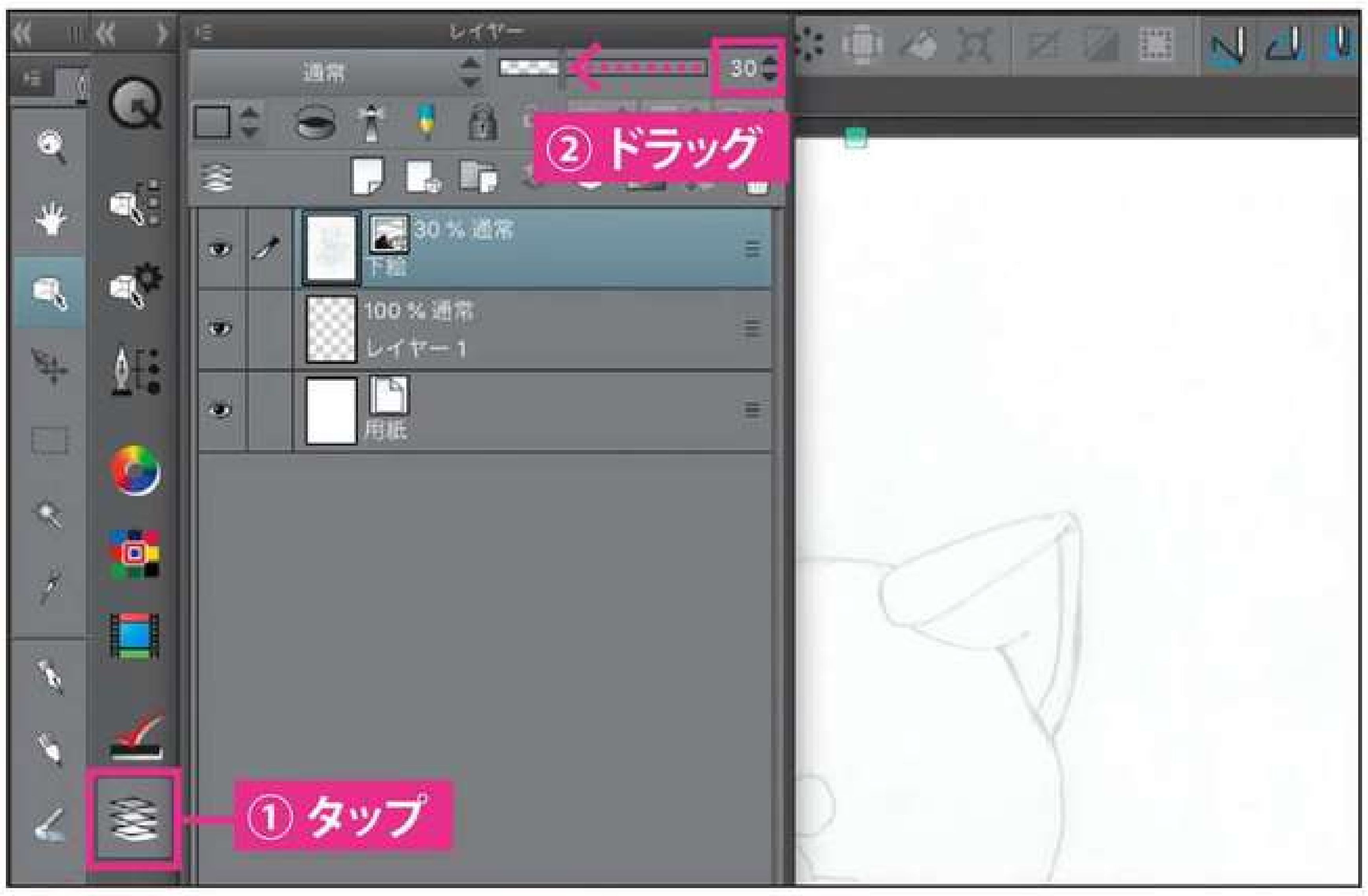
読み込んだ画像ファイルが表示されます。

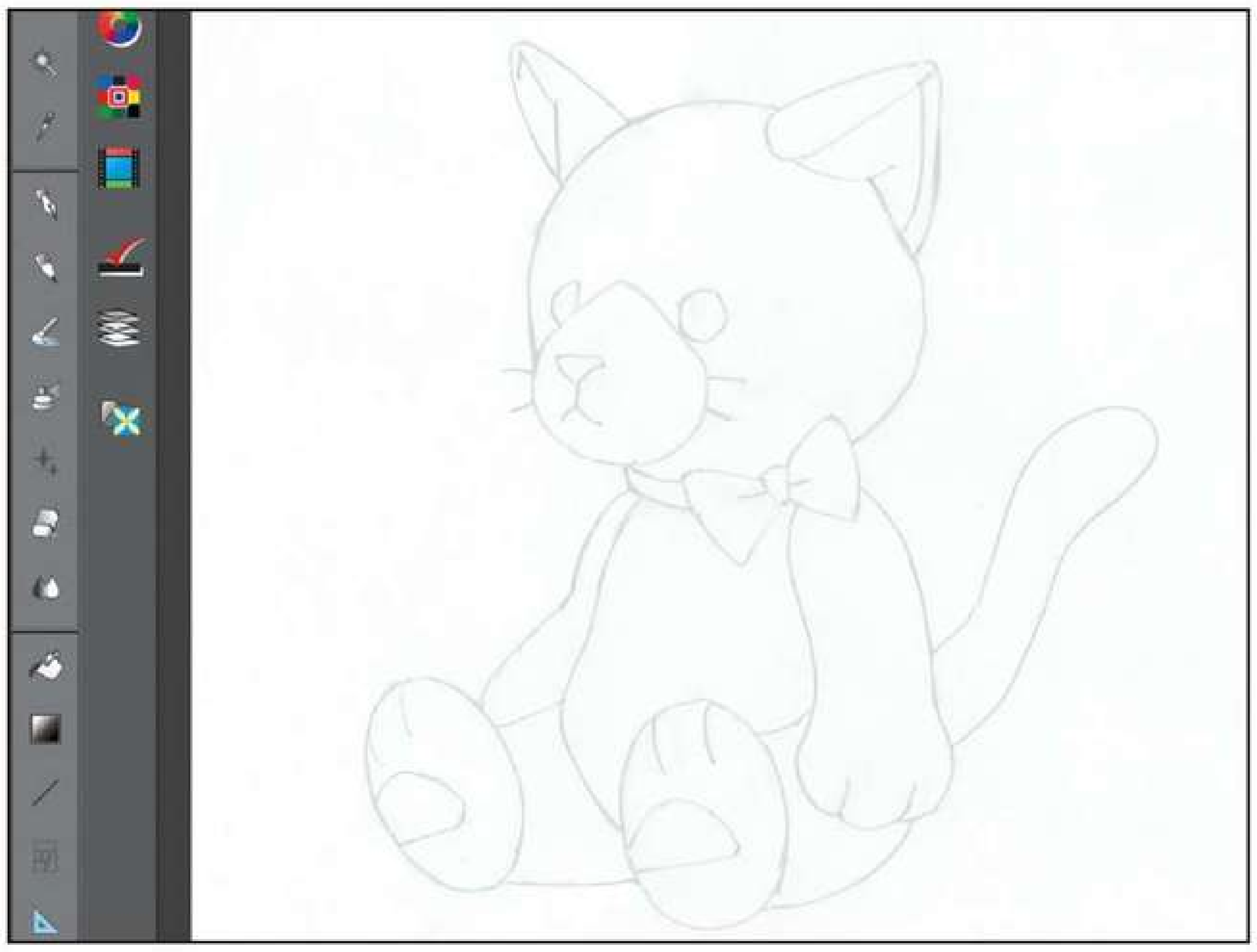


Step 03 線画用のレイヤーを用意する

1

左のパレットドックで［レイヤー］をタップし、隠れている［レイヤー］パレットを表示させます。
線画を描きやすいようにレイヤーの不透明度を下げておきます。ここでは不透明度「30%」に設定しました。





2

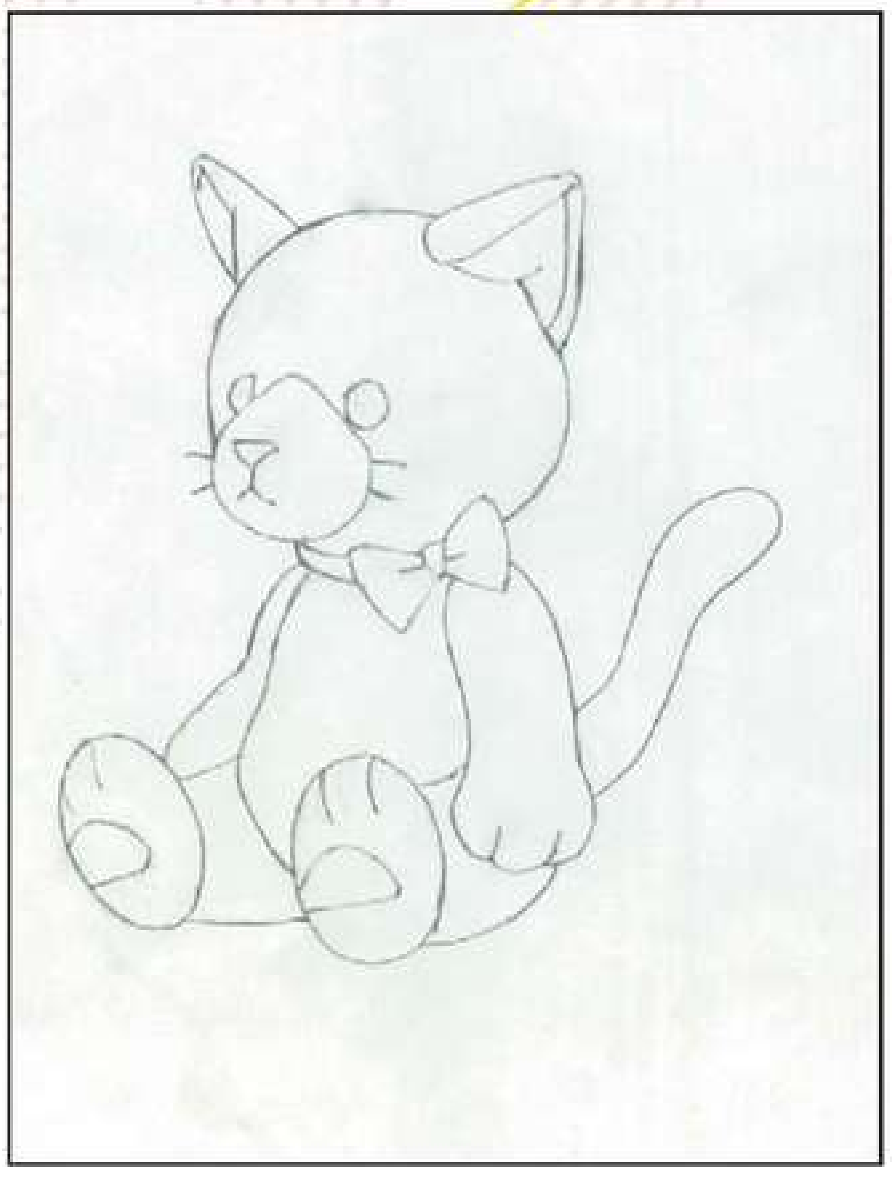
何も描いていないレイヤーを上に入れ替えて線画用にします（レイヤー名の右端の部分をドラッグします）。ここでは、レイヤー名を「線」とします。



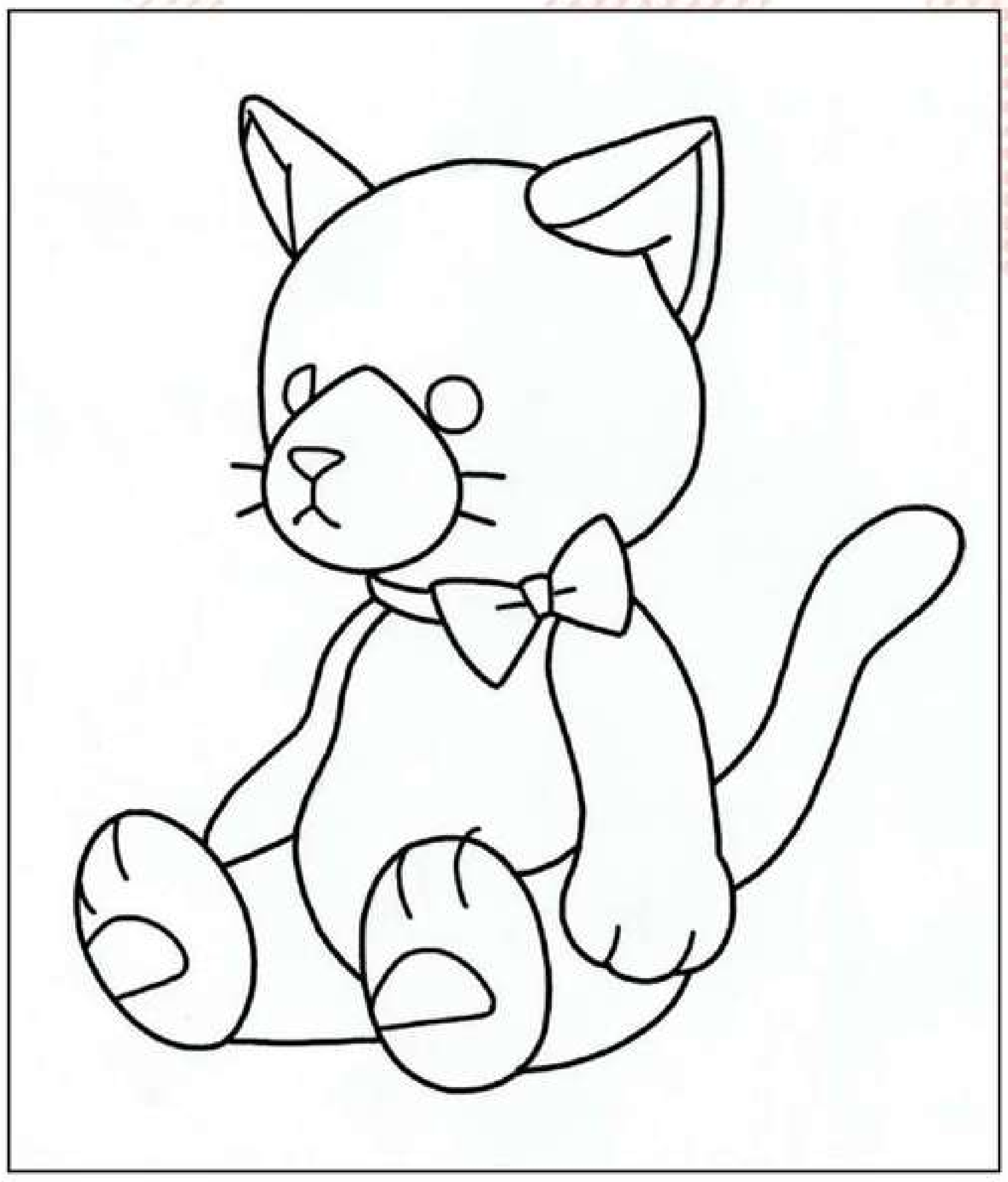


Chapter6 - 03

線画を描こう



Before 6-03.clip

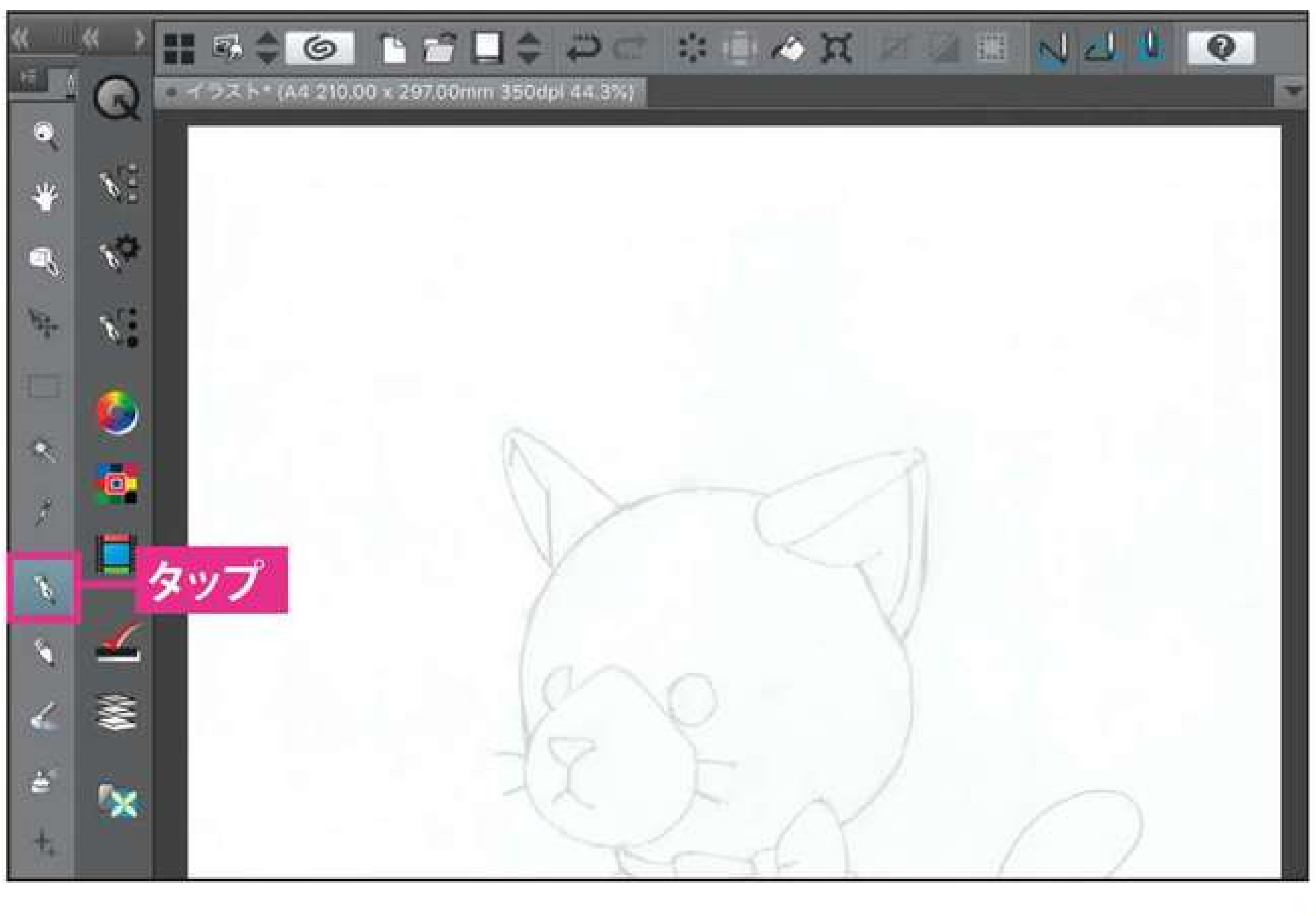


After 6-03a.clip

iPadで描画ツールを使って線画を描きます。はみ出した線の修正方法についても知っておきましょう。

Step 01 ペンツールで線を描く

[ツール]パレットから[ペン]ツールを選択します。



Memo

ツールの設定方法については、Chapter2～4も参照し、試してみてください。

2

［サブツール］パレットでペンの種類を選択します。ここでは［リアルＧペン］を選択しました。



3

［ツールプロパティ］パレットでサイズや濃度などの設定を変更できます。設定は図のようにしました。

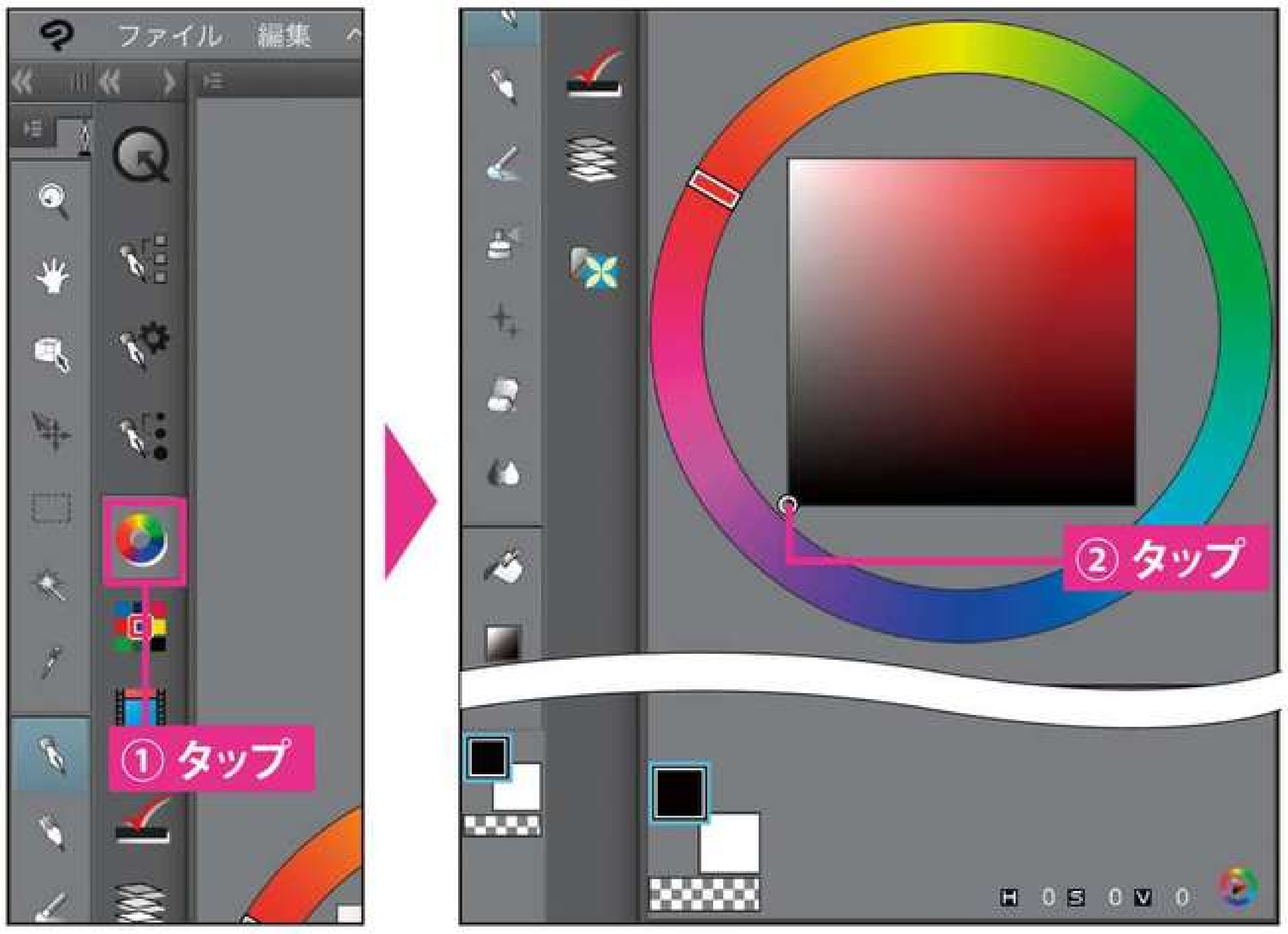


Memo

設定は、スライダーバーをドラッグするか、右端の数値をダブルタップして直接入力します。

4

［カラーサークル］パレットを表示させ、色を選択します。ここでは黒にしました。



Column

指とペンで異なるツールを使用する

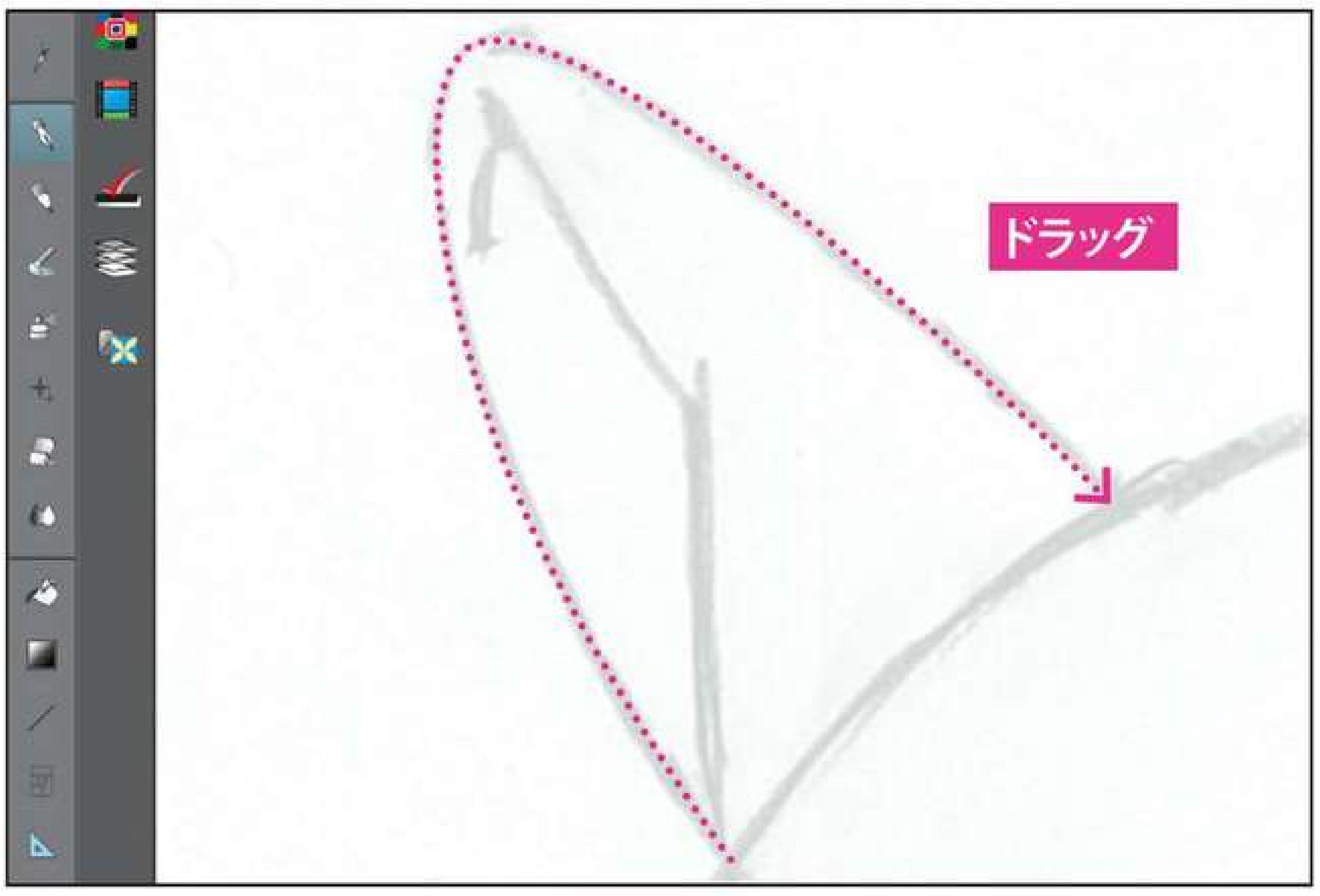
スタイラスペンを使って描画するときには［指とペンで異なるツールを使用］をオンにすると、手で触って誤描写してしまうのを防ぐことができます。

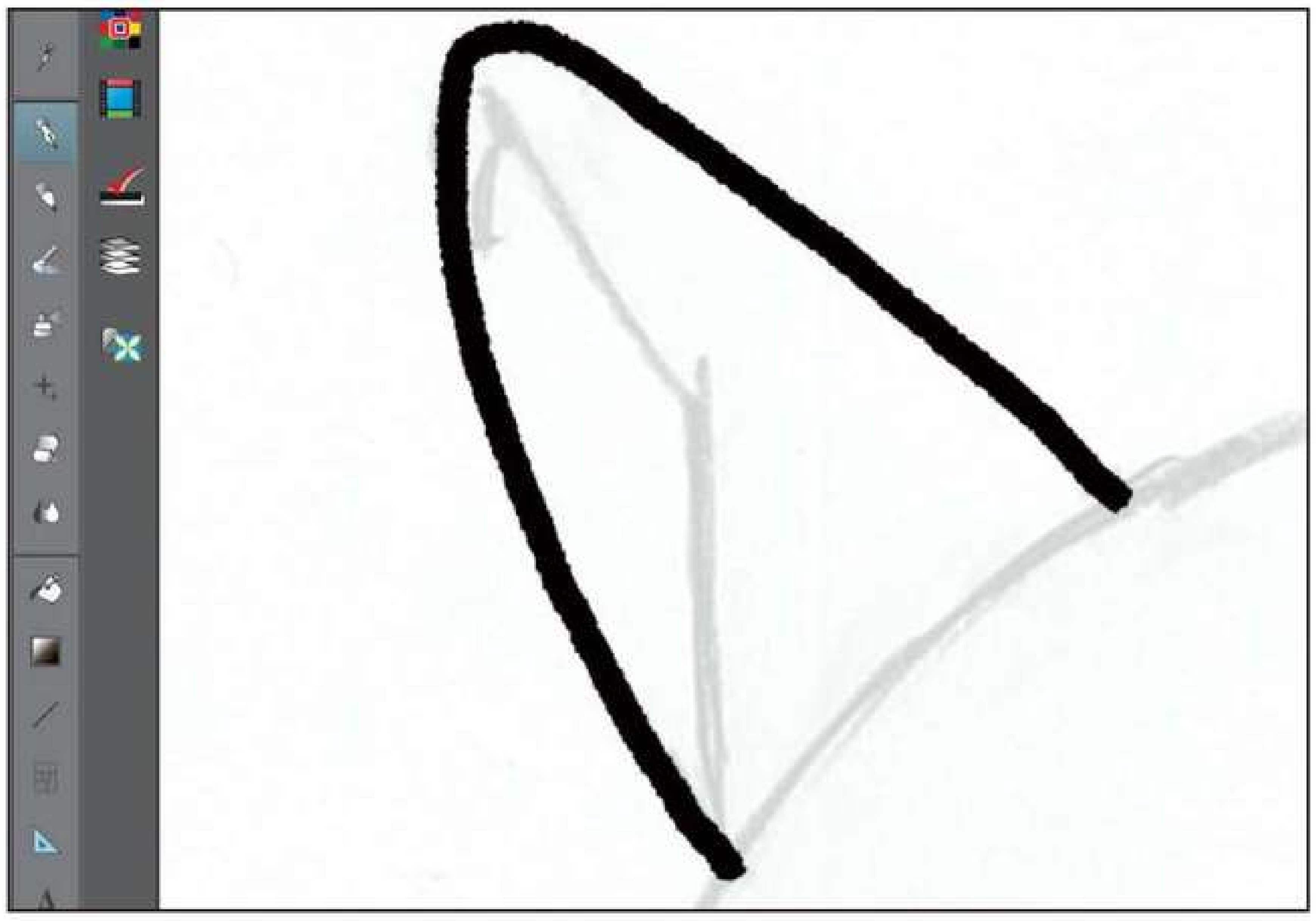
※オンにするのとしないので初期設定のタッチジェスチャーが異なる部分があるので注意。
【キャンバスを移動】1本指でスワイプ
【色を取得】1本指で長押し



5

p.172のStep03の手順2で作った「線」レイヤーに、下絵をなぞりながら線を描いていきます。





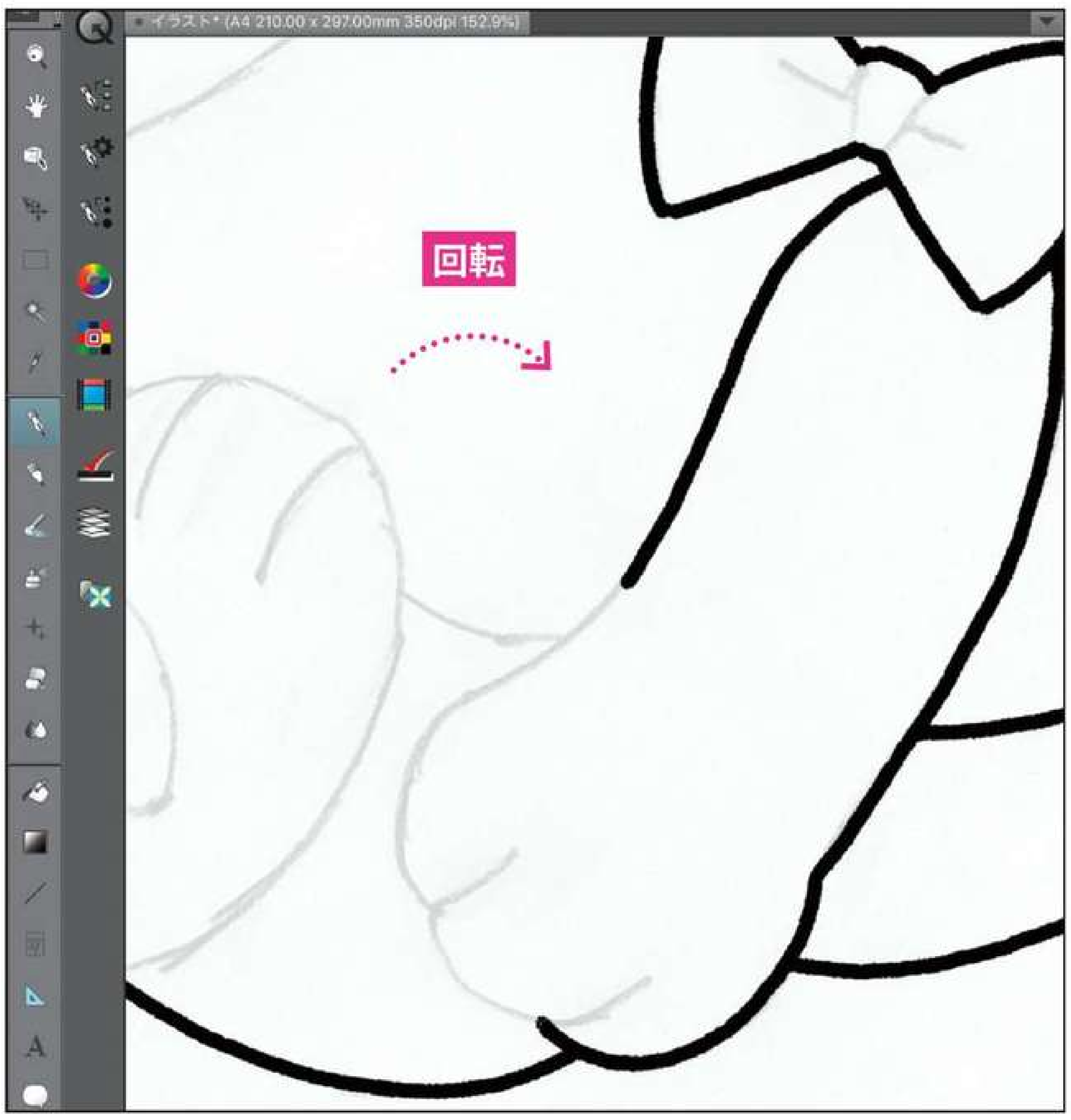
Memo

コマンドバーの[取り消し]アイコンをタップすると、1つ前の状態に戻すことができます。[やり直し]アイコンをタップすると、戻った操作を1つ進めることができます。
タッチジェスチャーは次の通りです。

取り消し:二本指でタップ
やり直し:三本指でタップ

6

描きにくい場合は、キャンバスを回転させながら描いてみましょう。



Memo

二本指のローテートでキャンバスを回転できます。
[表示]メニュー→[回転・反転]→[回転をリセット]で回転前の表示に戻すことができます。

7

はみ出してもかまわないので、残りの部分も描いて仕上げます。



Hint

エッジキーボードを利用する

よく使う機能のショートカットを割り当てると、より快適に操作できるようになります（隠れていますが画面右端をスワイプで表示できます）。



キーは「T1」～「T10」まで割り当てられる



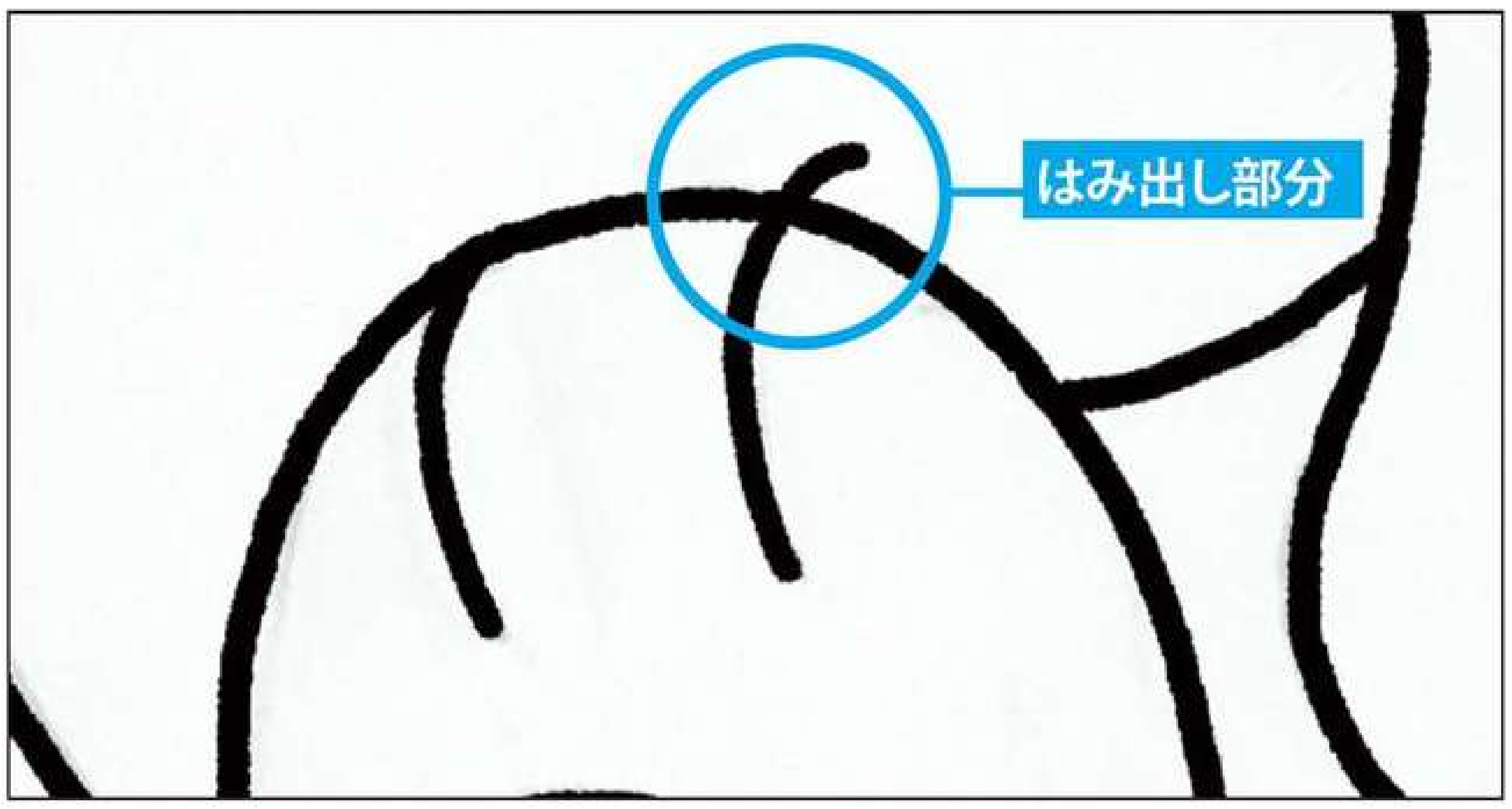


ショートカットキーの割り当ては、［CLIP STUDIO PAINT］メニュー→［ショートカット設定］の順にタップする。［ショートカット設定］ダイアログが表示されたら、割り当てたい機能を選択し（ここでは［リアルGペン］）、［ショートカットを編集］をタップする。項目の右側をタップし、割り当てたいキーをタップし（ここでは「T1」）、［OK］ボタンをタップすると使用できるようになる

Step 02 消しゴムツールを使う

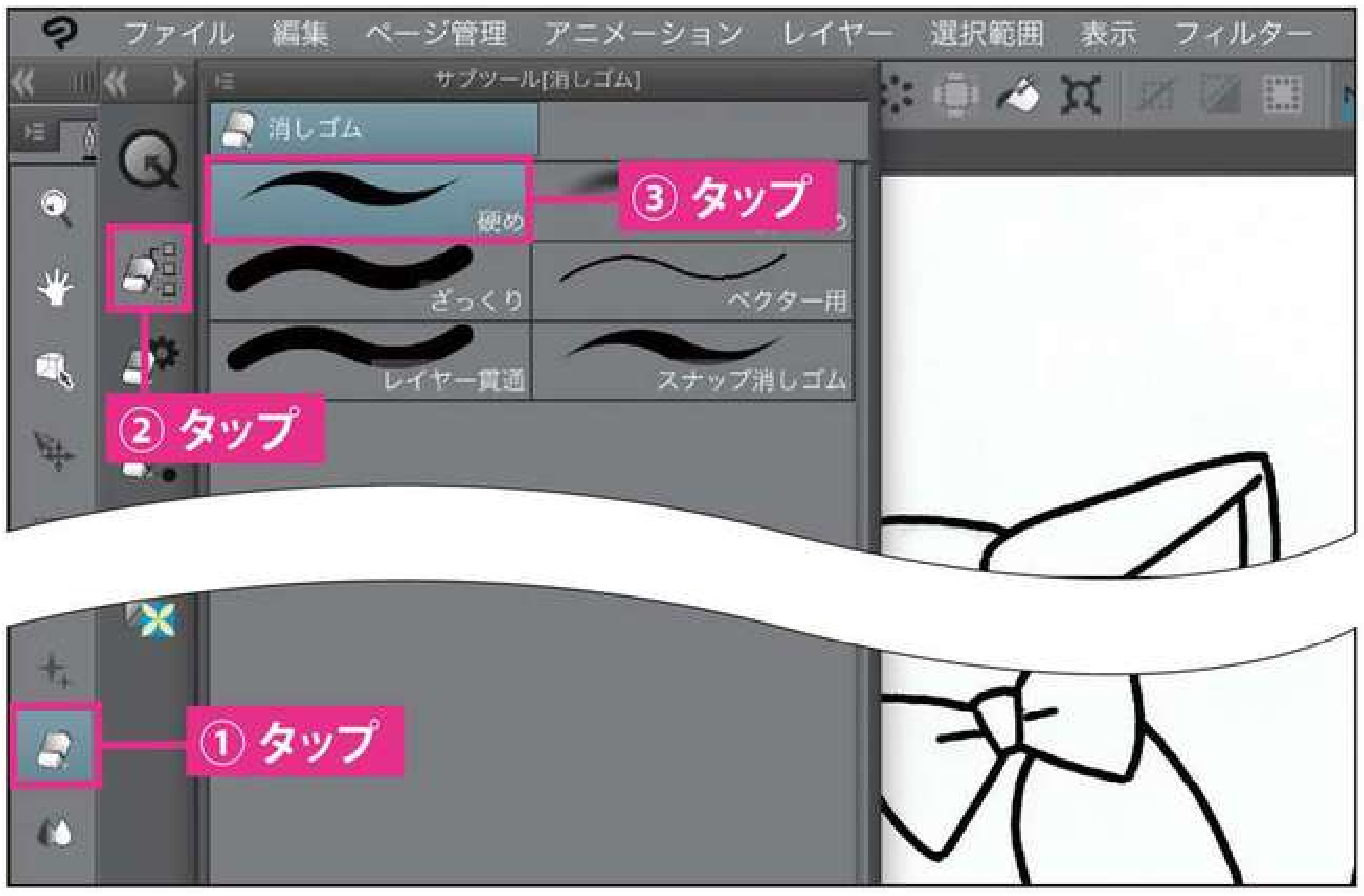
1

線のはみ出している部分を消します。



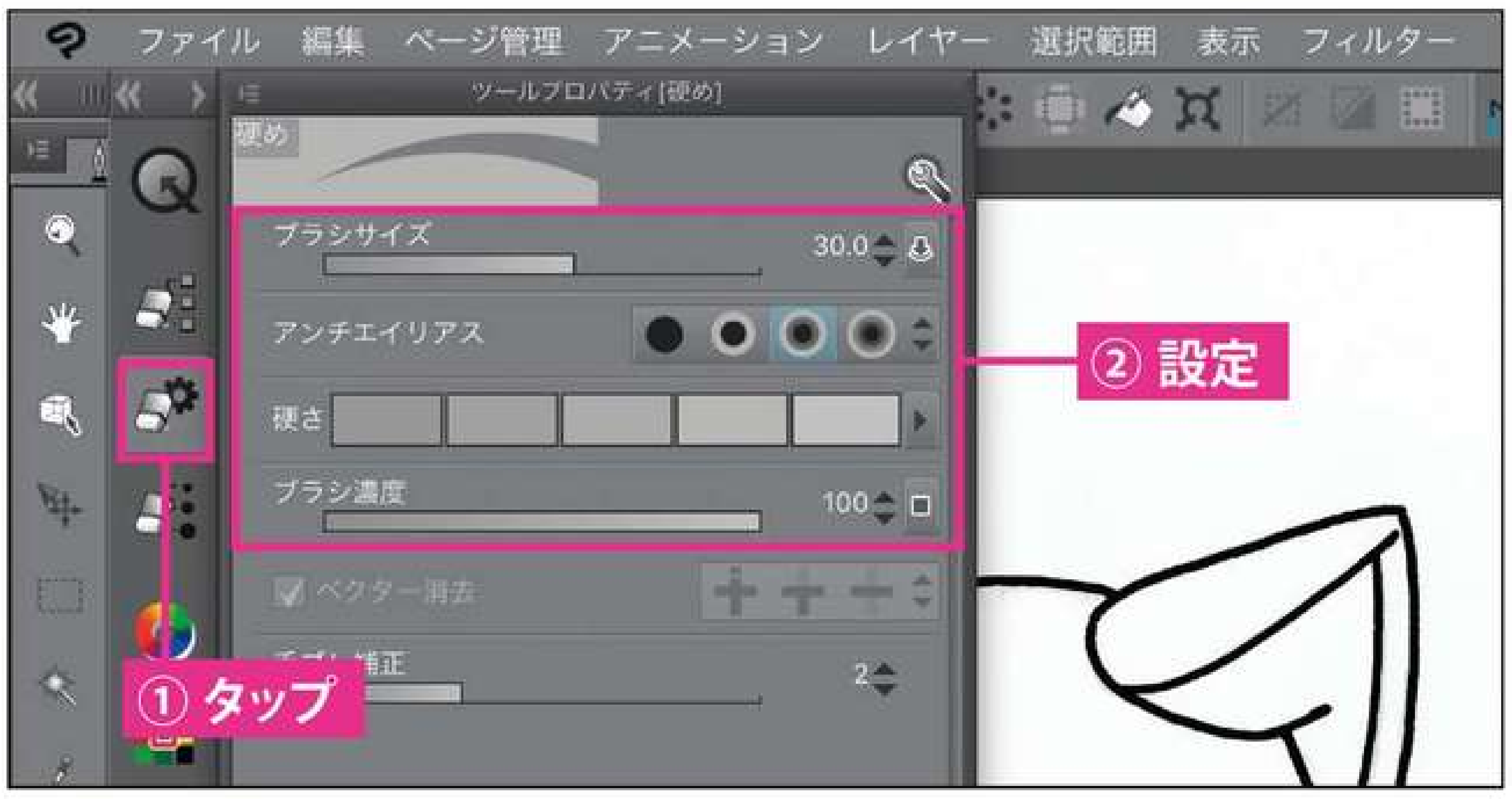
2

[ツール]パレットから[消しゴム]ツールを選択します。
[サブツール]パレットで消しゴムの種類を選択します。ここでは[硬め]を選択しました。



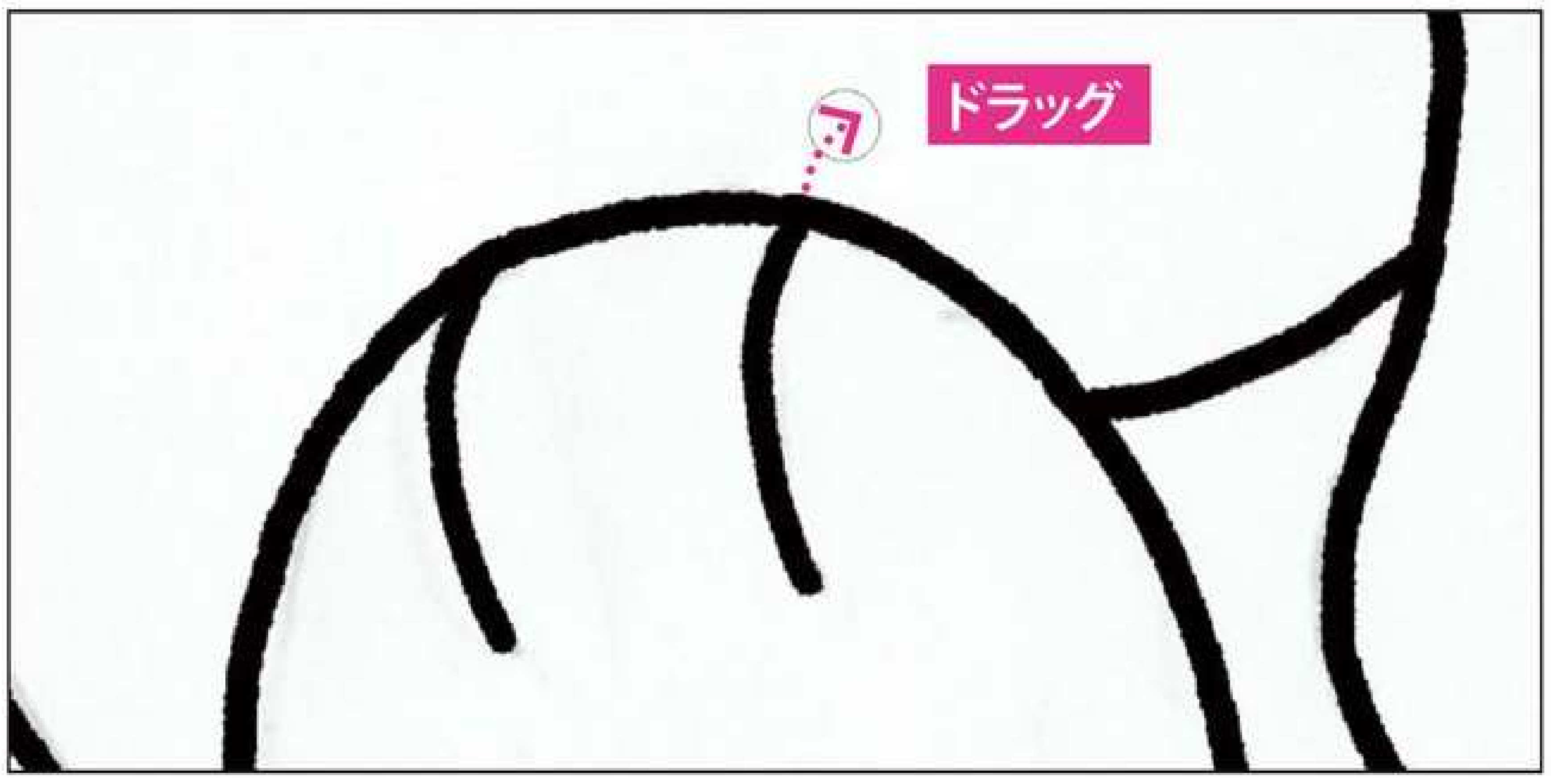
3

[ツールプロパティ]パレットでサイズや濃度などの設定を変更できます。設定は図のようにしました。



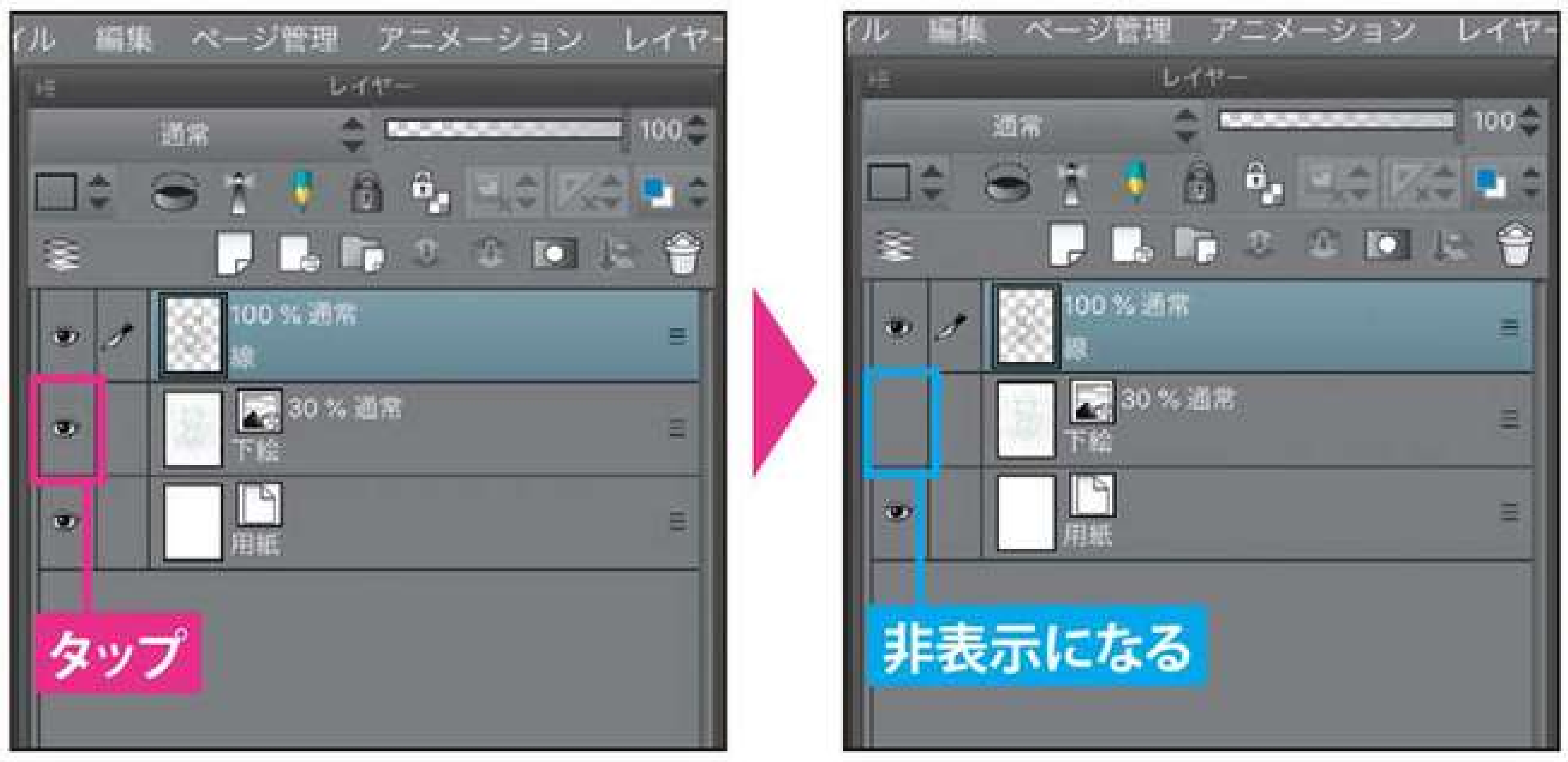
4

消したい部分をドラッグして消します。



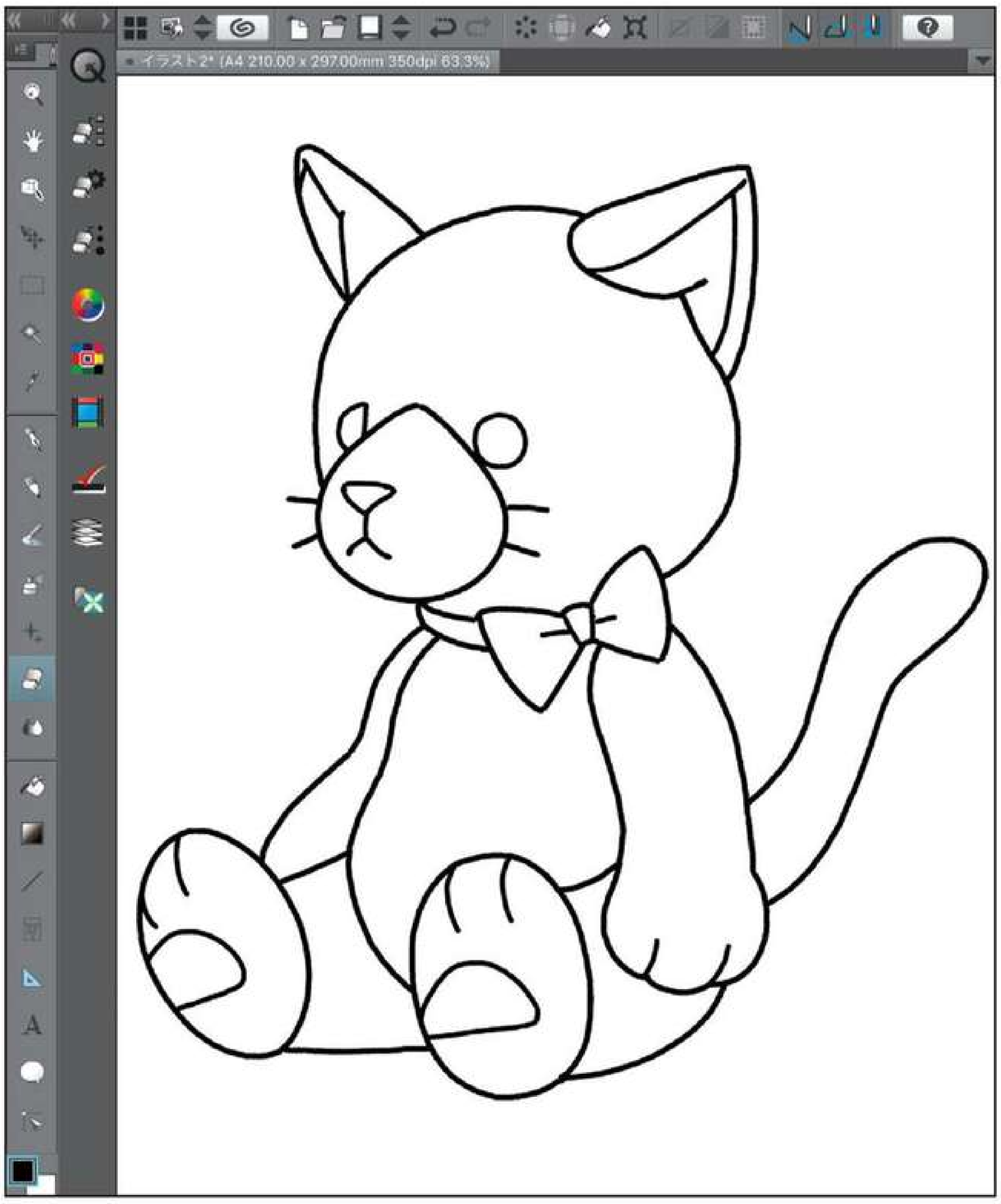
5

最後に「下絵」レイヤーの目のアイコンをタップして非表示にします。



6

線画の完成です。



Hint

タッチジェスチャーを変更する

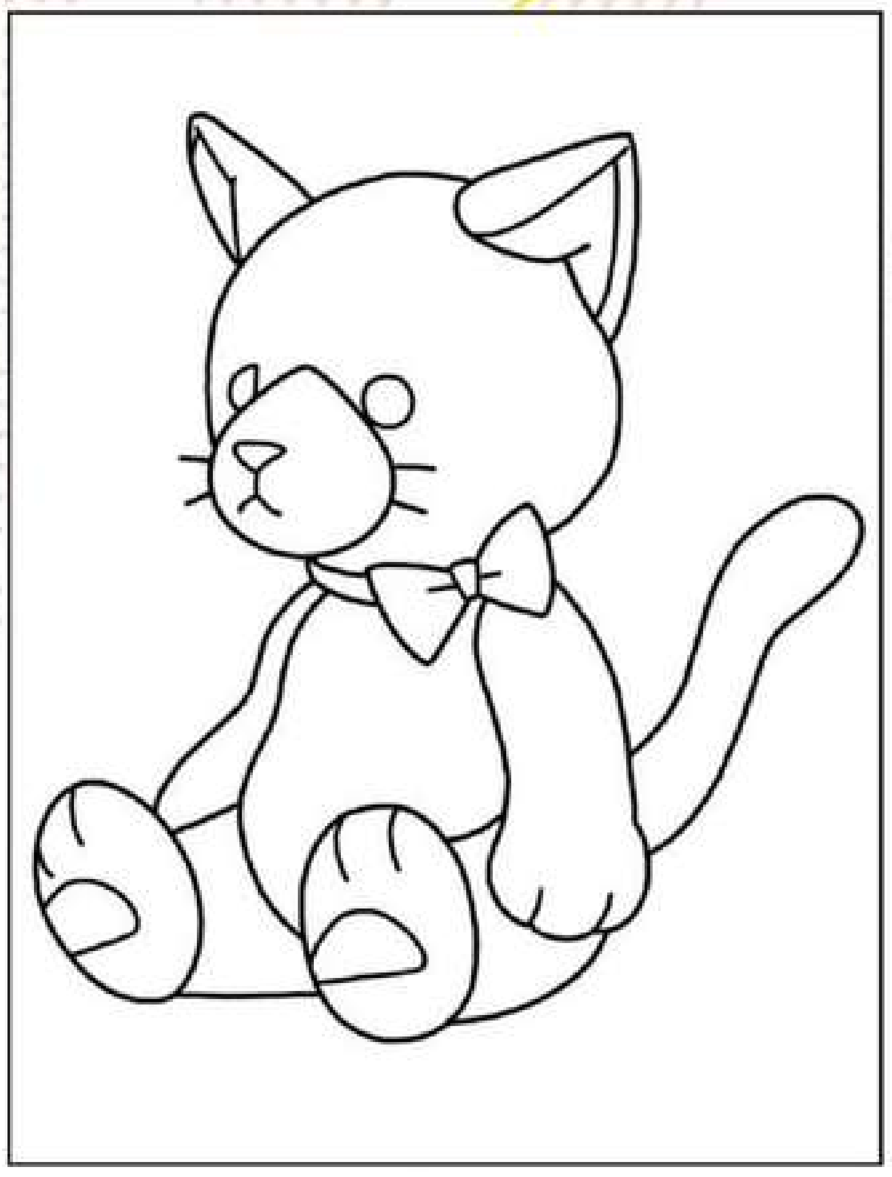
[CLIP STUDIO PAINT]メニュー→[環境設定]の順にタップし、表示された[環境設定]ダイアログの[タッチジェスチャー]でタッチでの操作を変更することができます。





Chapter 6 - 04

色を塗って完成させよう



Before 6-04.clip

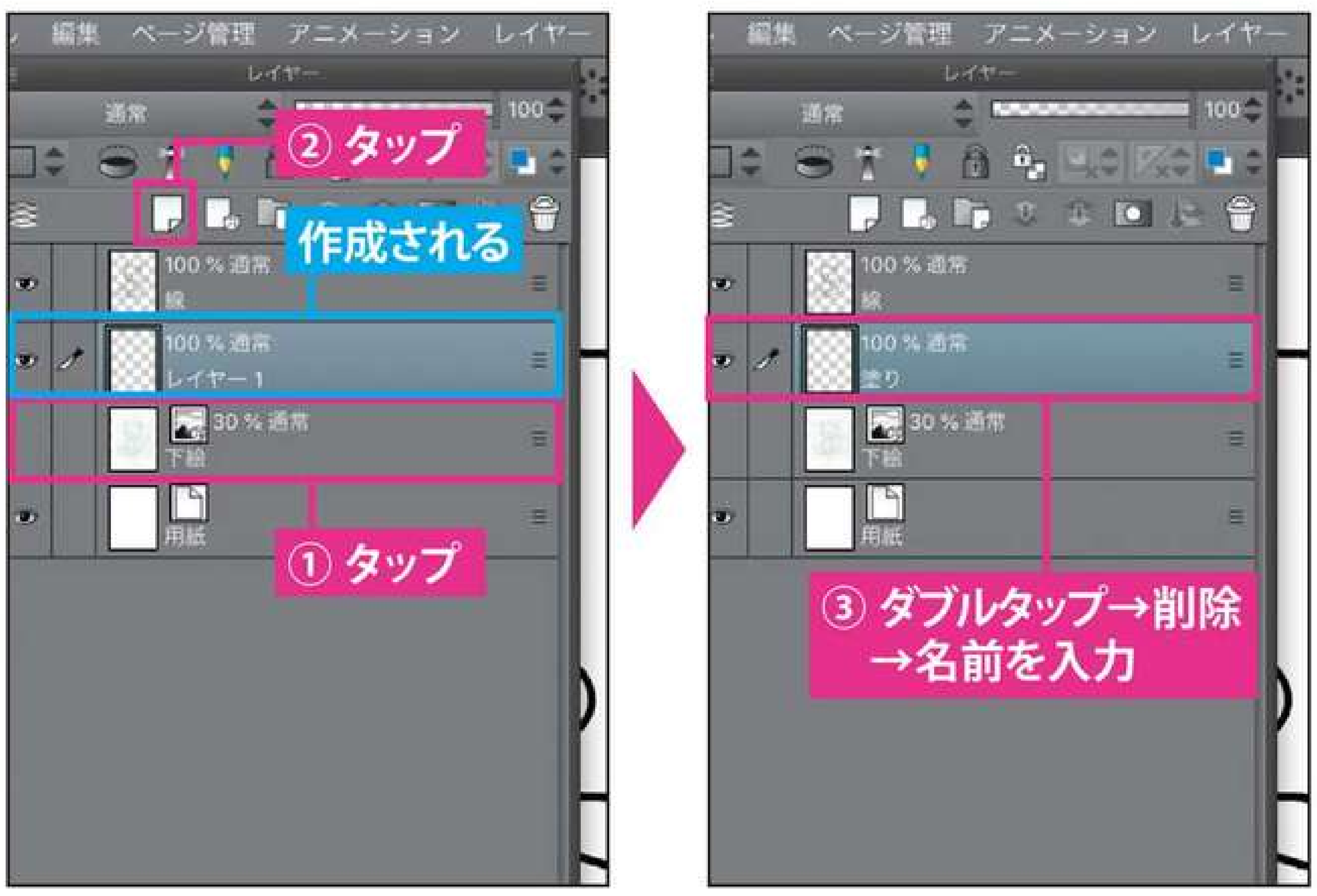


After 6-04a.clip

線画に色を塗りましょう。塗りつぶしの設定をすることで、効率的に色を塗ることができます。

Step 01 色を塗る

[レイヤー]パレットを表示し、「線」レイヤーの下に新規レイヤーを追加します。名前を「塗り」に変更します。

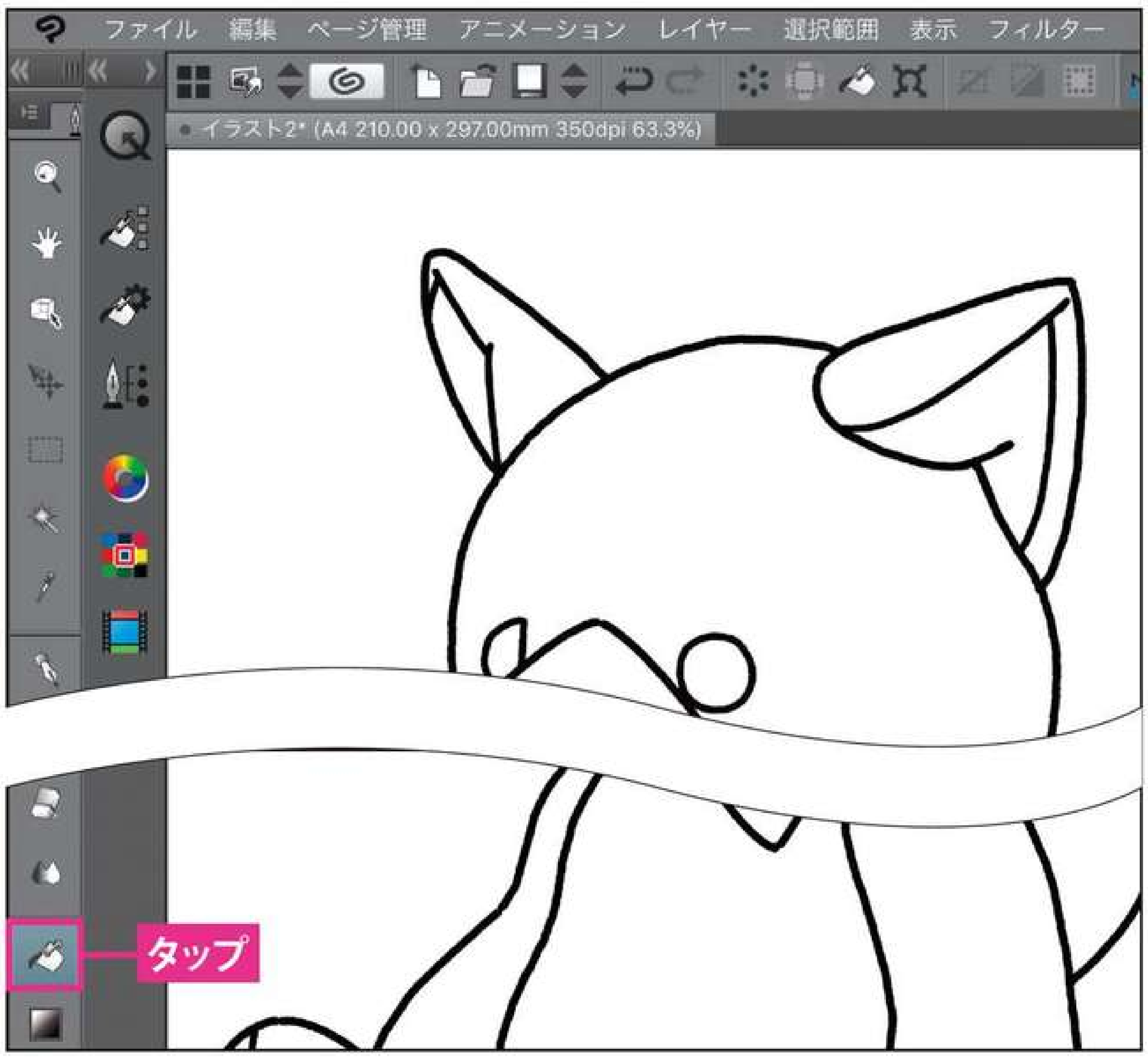


Memo

「下絵」レイヤーを選択してから[新規ラスターレイヤー]アイコンをタップすると、「線」レイヤーの下に作成されます。

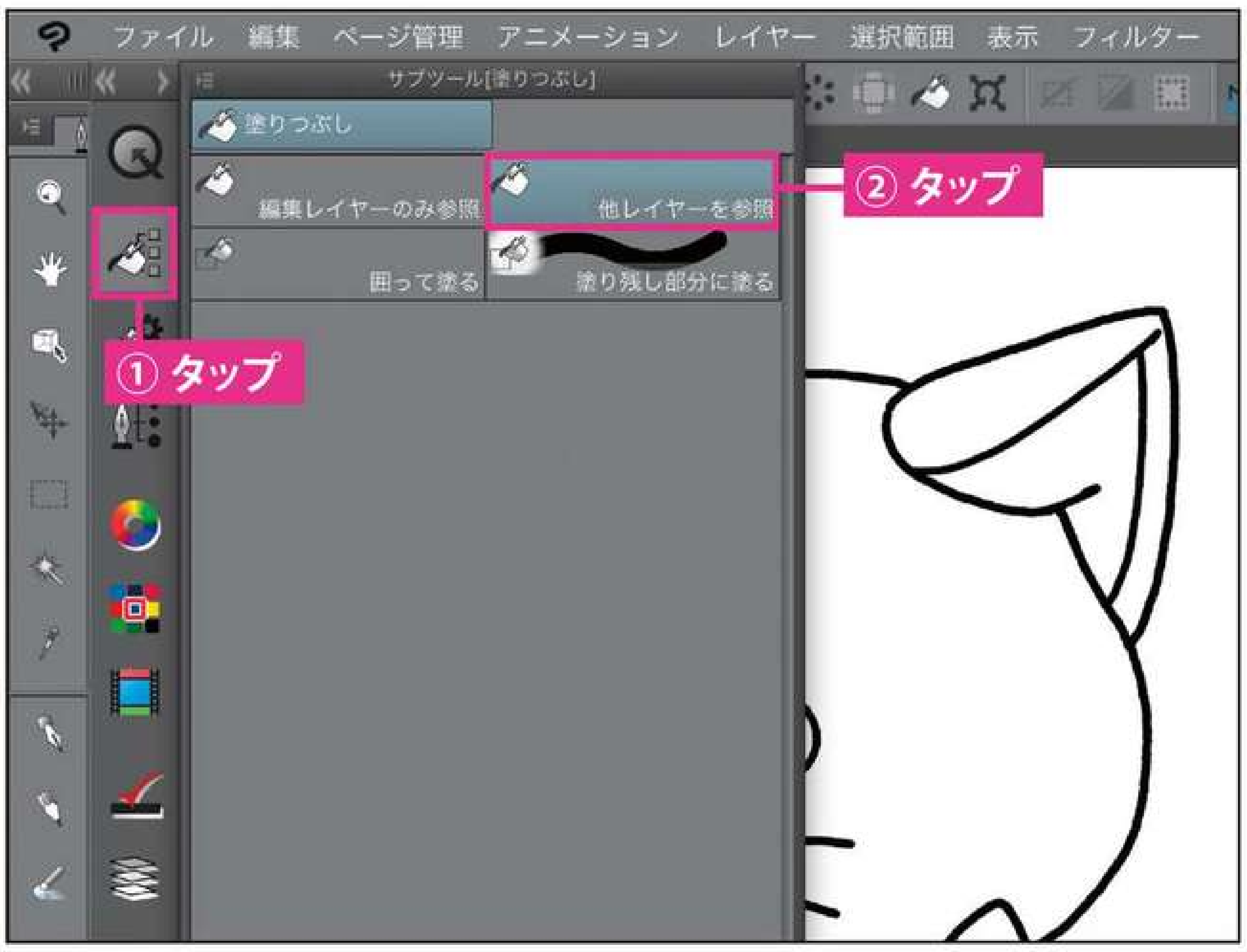
2

[ツール]パレットを表示させ、[塗りつぶし]ツールをタップします。



3

[サブツール]パレットを表示させ、[他レイヤーを参照]を選択します。
この操作で現在選択していないレイヤーの線で囲まれた部分を塗りつぶすことができます。



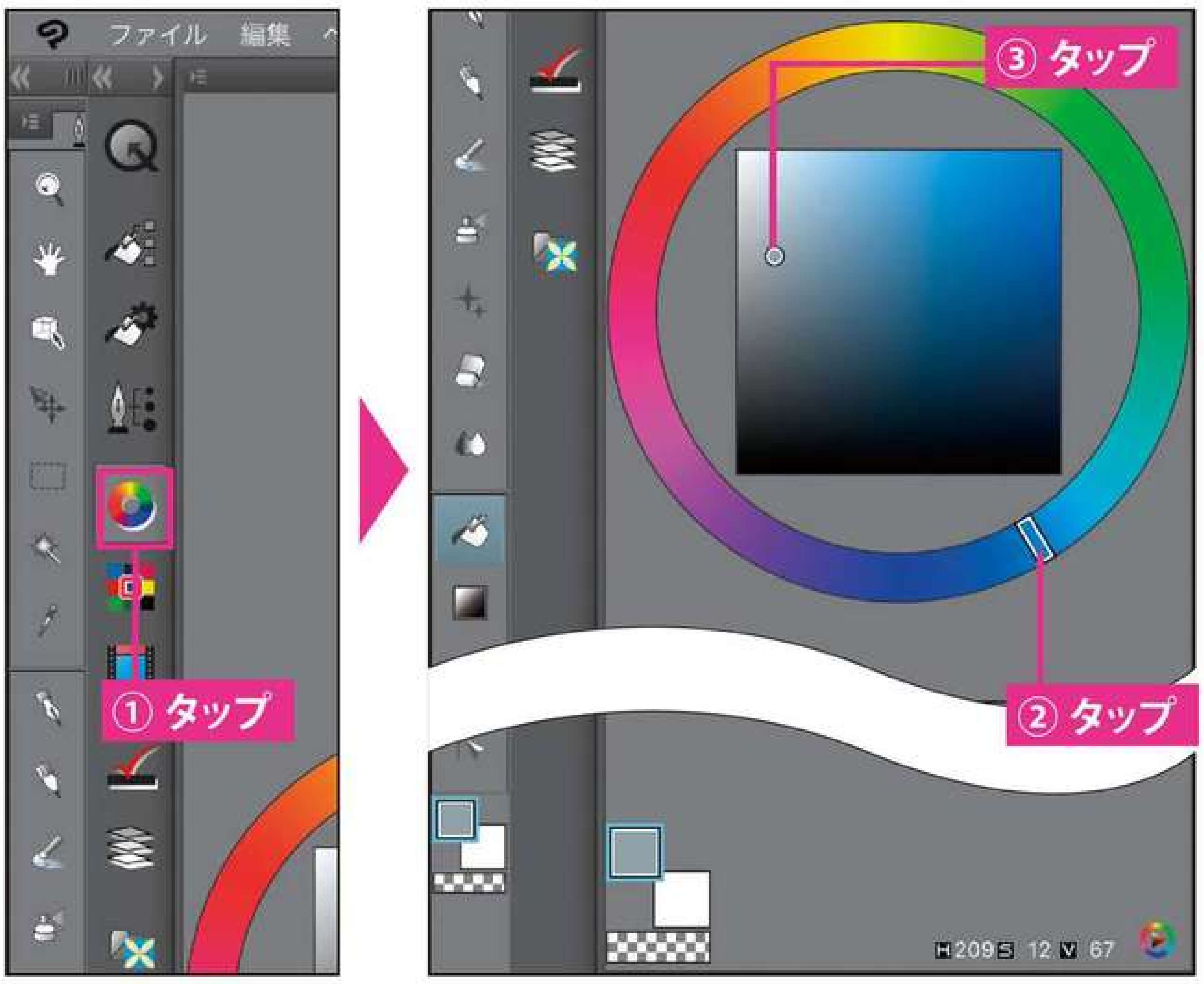
4

[ツールプロパティ]パレットで、[塗りつぶし]の設定を細かく変更できます。



5

［カラーサークル］パレットを表示させ、色を選択します。

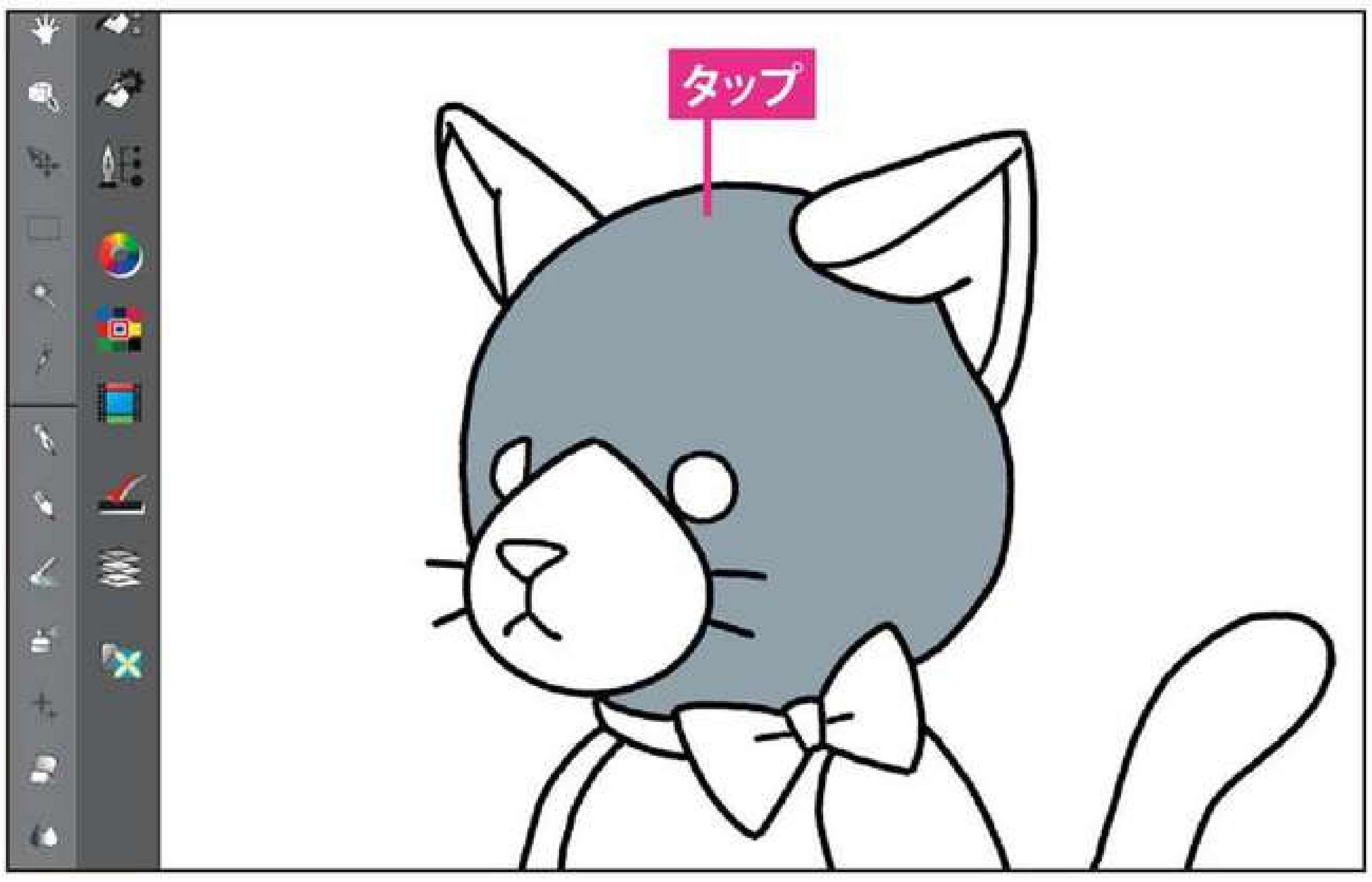


Memo

本書と同じ色にする必要はありません。好きな色を選択しましょう。

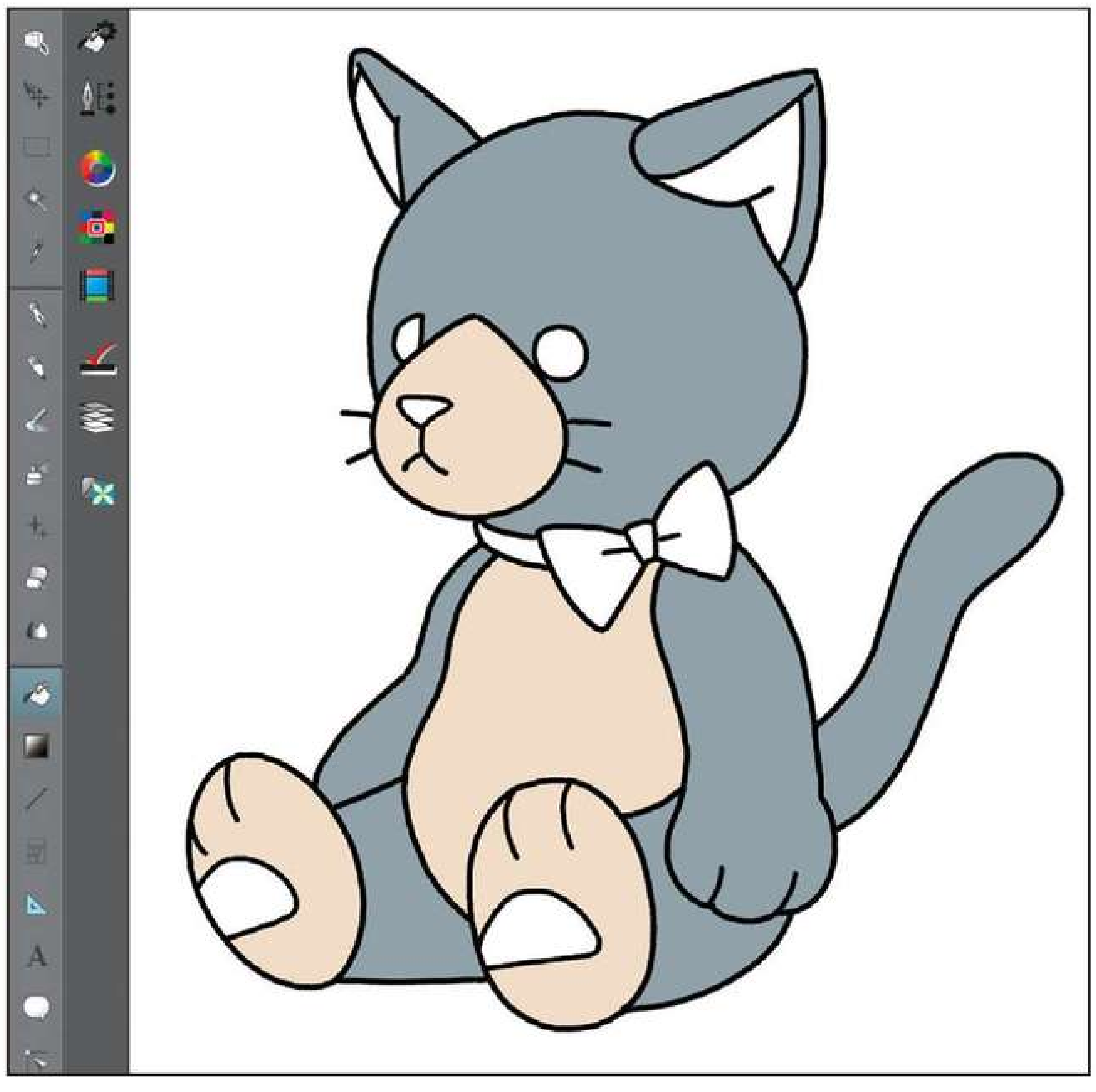
6

塗りたい部分をタップして色を塗っていきます。



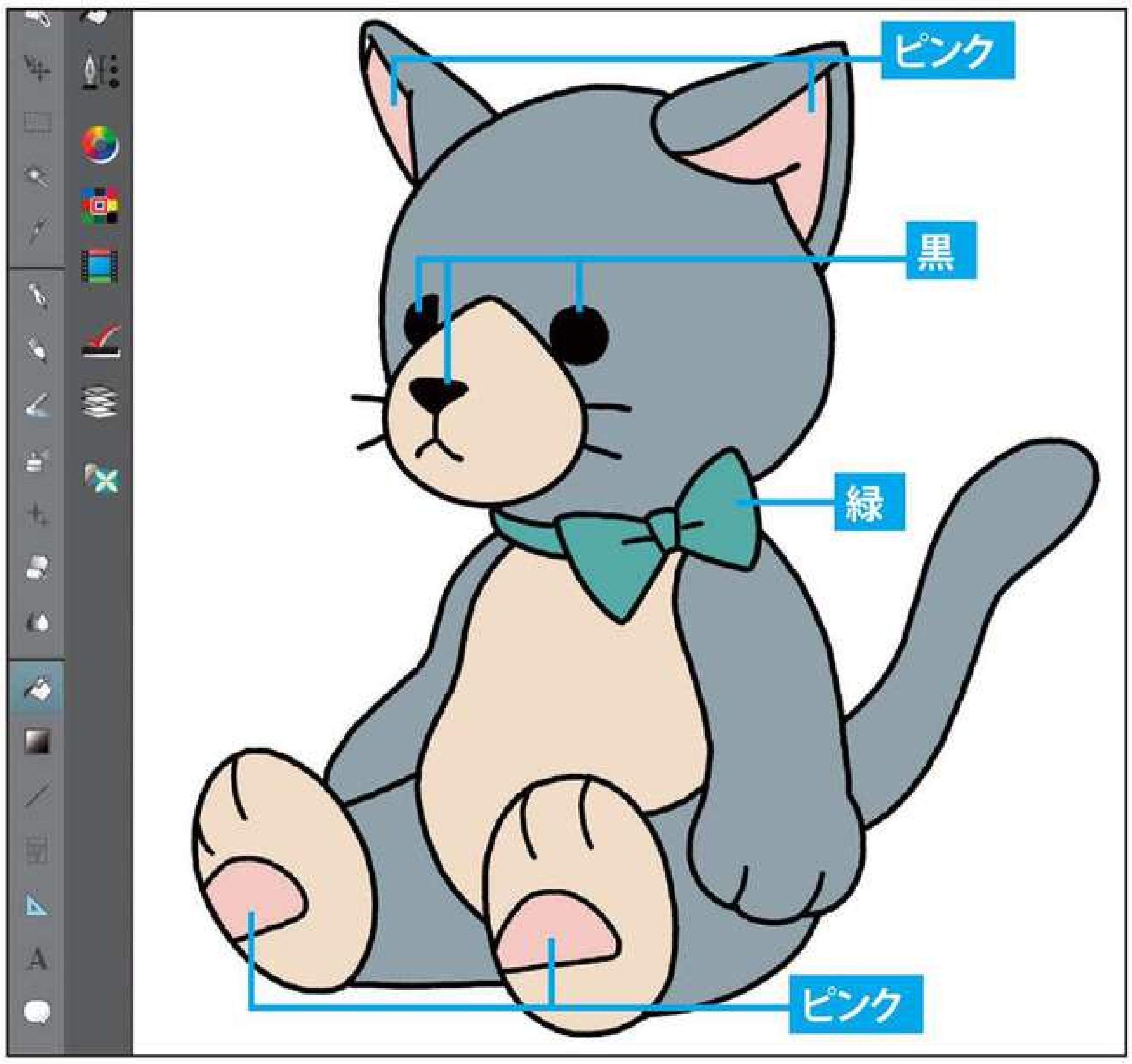
7

同様に他の色も塗っていきます。
口の周りやお腹、足の裏は図のような色にしました。

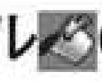


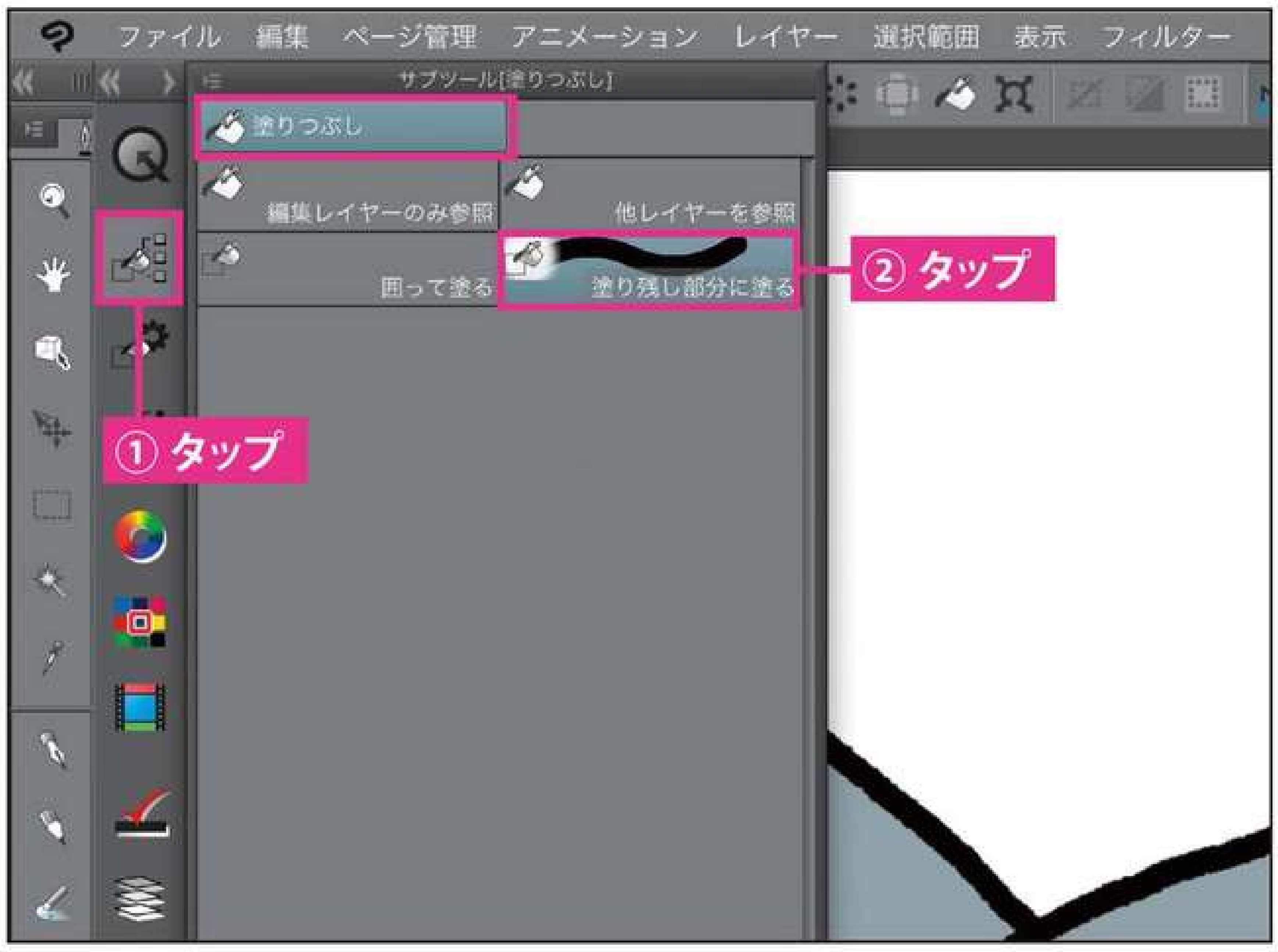
8

耳の内側、肉球を同じピンクで、リボンを緑にしました。
目と鼻を黒で塗りつぶします。



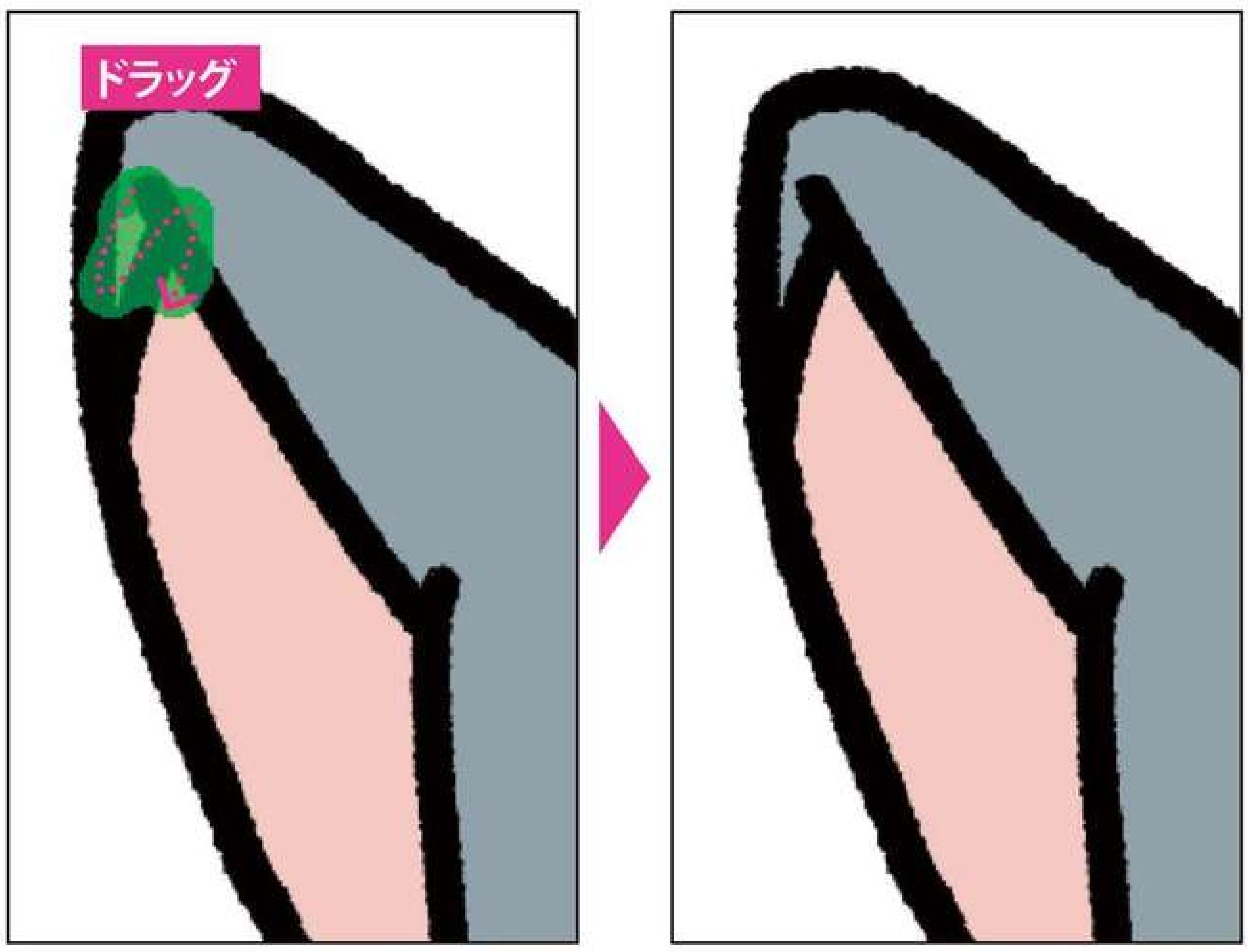
9

塗り残し部分は[塗りつぶし]ツールの[サブツール]パレットの[塗り残し部分に塗る]で塗りつぶします。



10

隙間を埋めるようにドラッグして塗りつぶします。



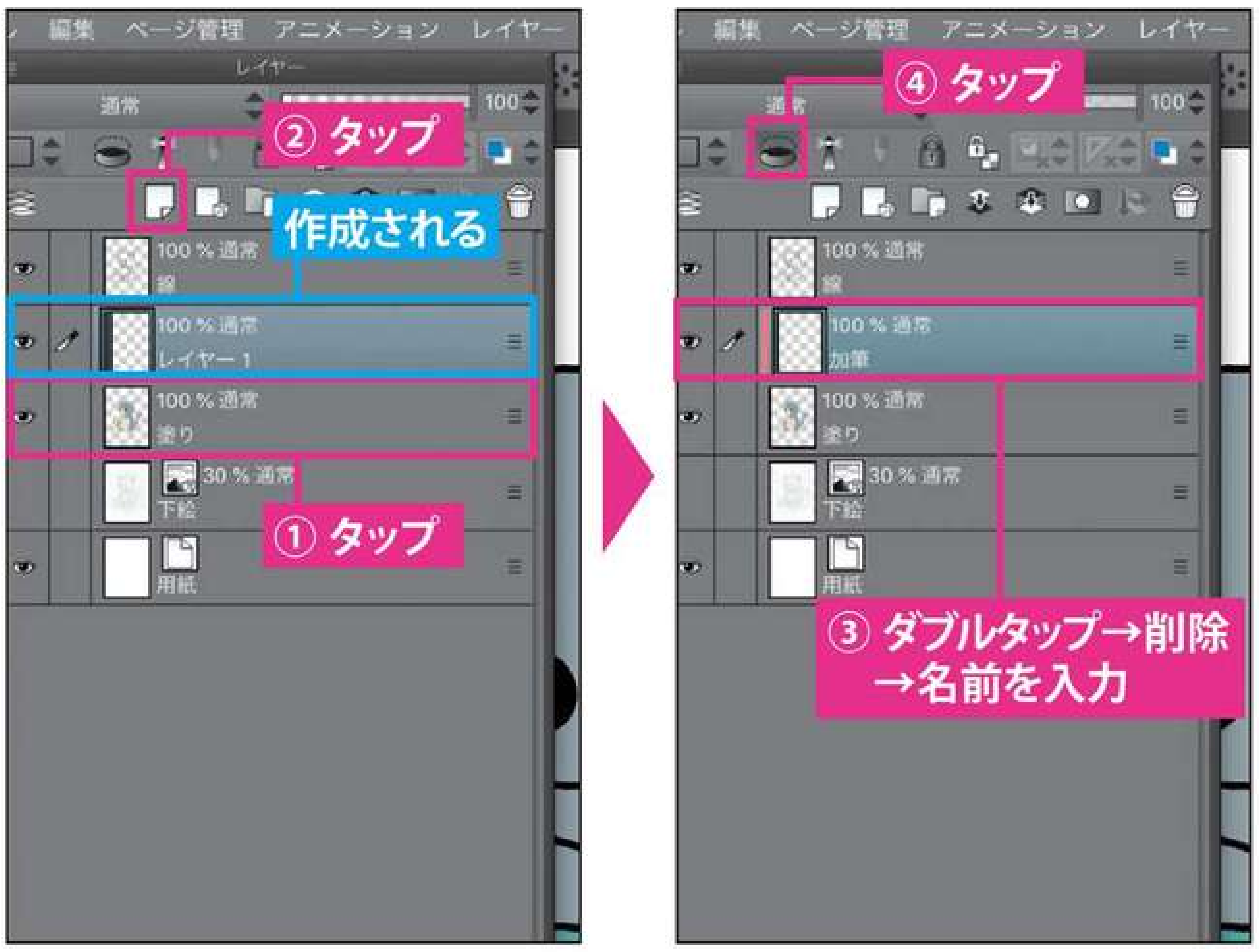
Memo
[スポイト]ツールであらかじめ塗りつぶす部分の周辺の色をタップして選択しておきます。

Step 02 レイヤーをクリッピングして加筆する

1

[レイヤー]パレットを表示し、「塗り」レイヤーの上に新規レイヤーを追加し、名前を「加筆」に変更します。
[下のレイヤーでクリッピング]アイコンをタップし、「塗り」レイヤーにクリッピングします。

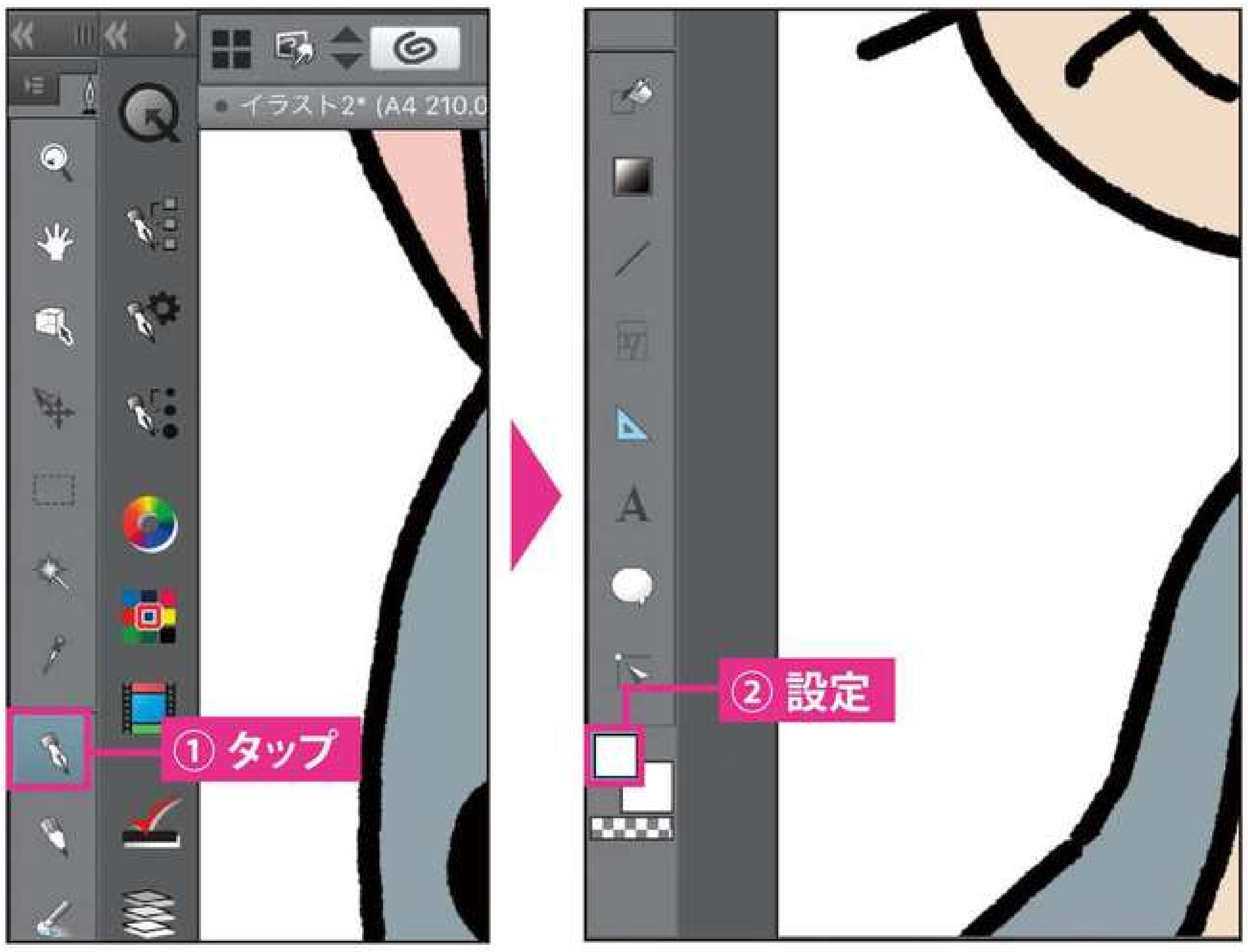
Memo
「塗り」レイヤーを選択してから[新規ラスターレイヤー]アイコンをタップすると、上に作成されます。



2

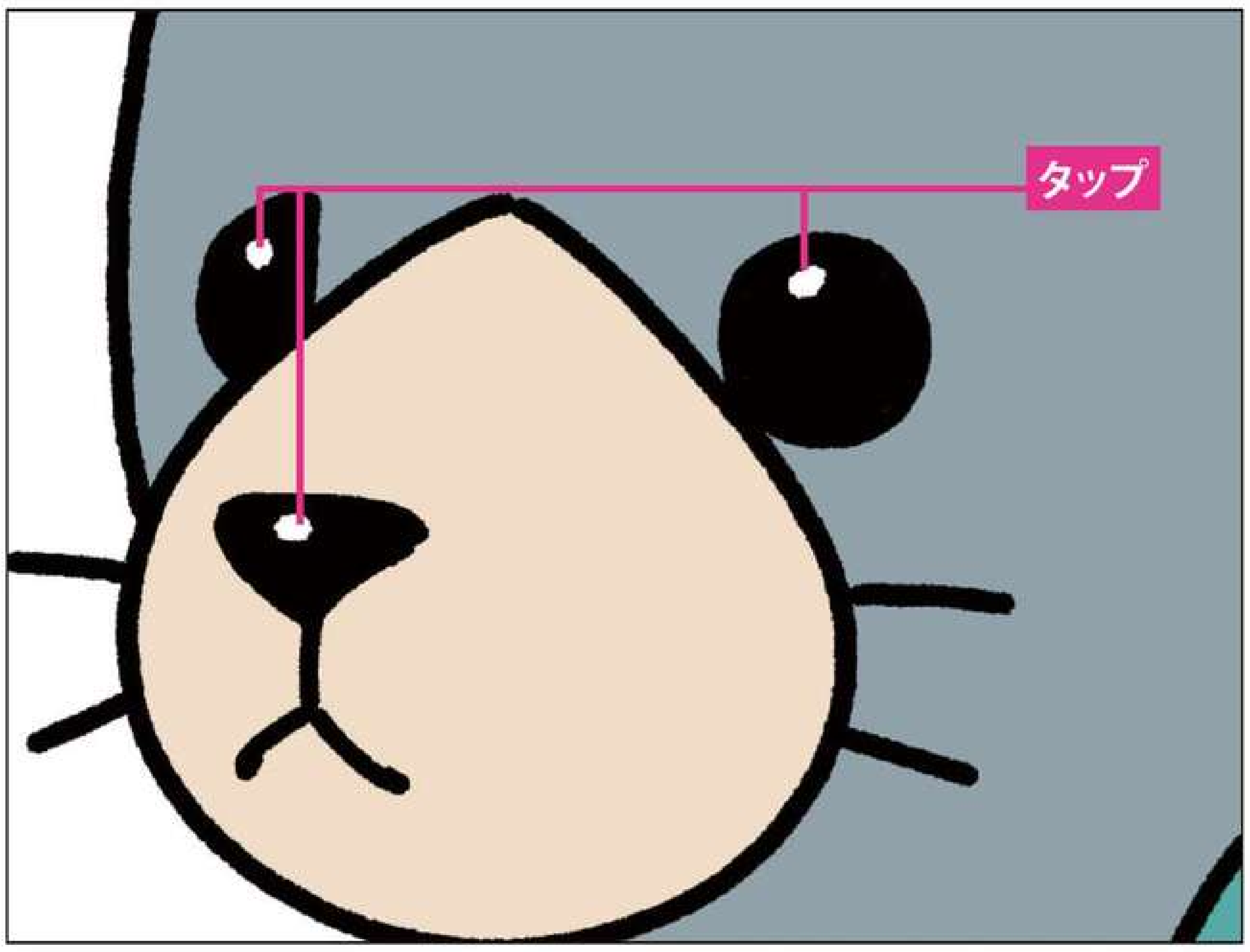
ハイライトを描き入れます。
[ペン]ツールを選択し、色は白にします。

Memo
ここでの[ペン]ツールの設定は、線画を描いたときの[リアルGペン]の設定のままにしています。



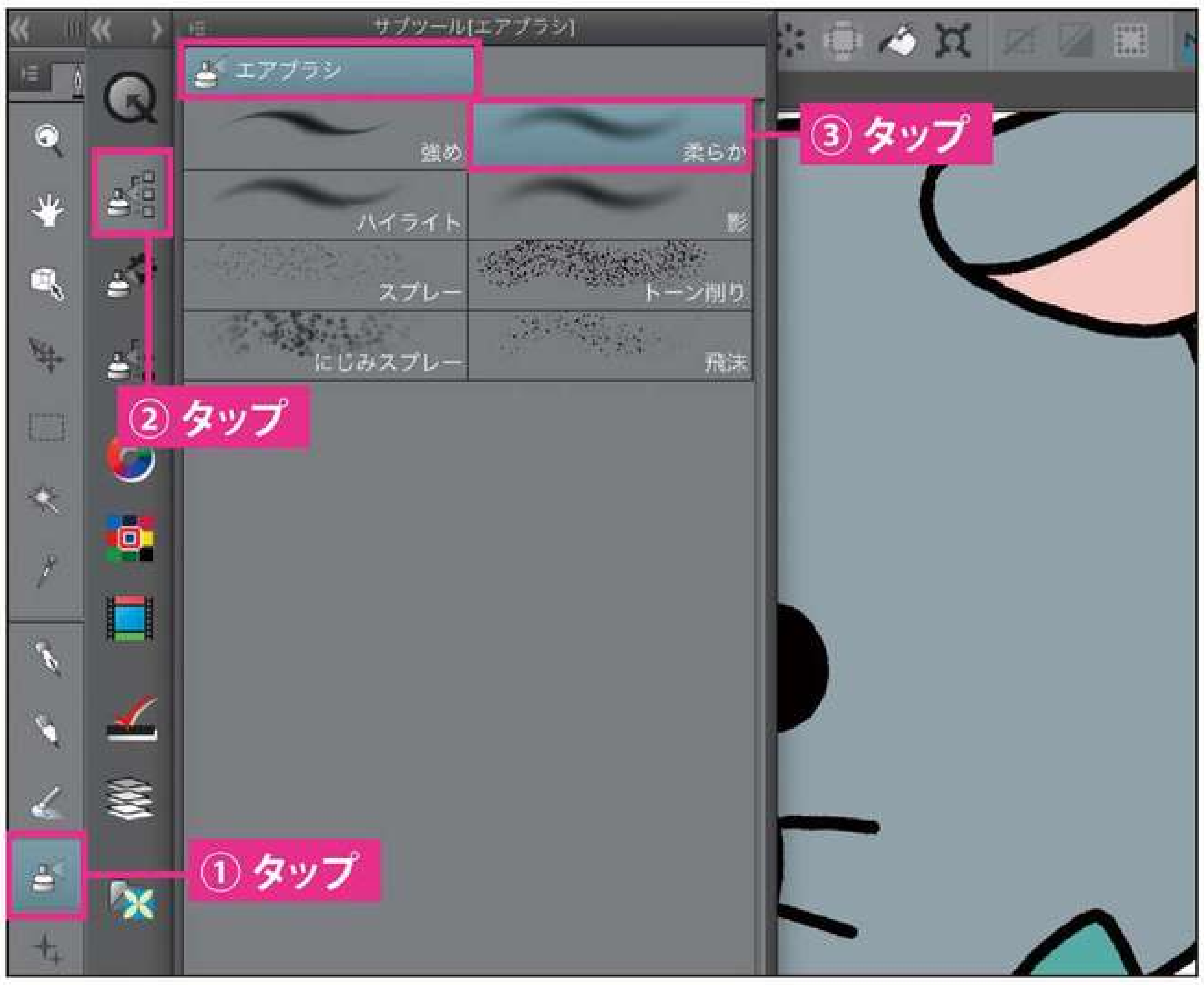
3

目と鼻のハイライトを描き入れます。



4

柔らかいエアブラシで頬をピンクに塗ります。
[エアブラシ]ツールをタップし、[サブツール]パレットの[柔らか]を選択します。



Memo

ここでは、耳の内側、肉球を塗ったピンクと同じ色にしています。

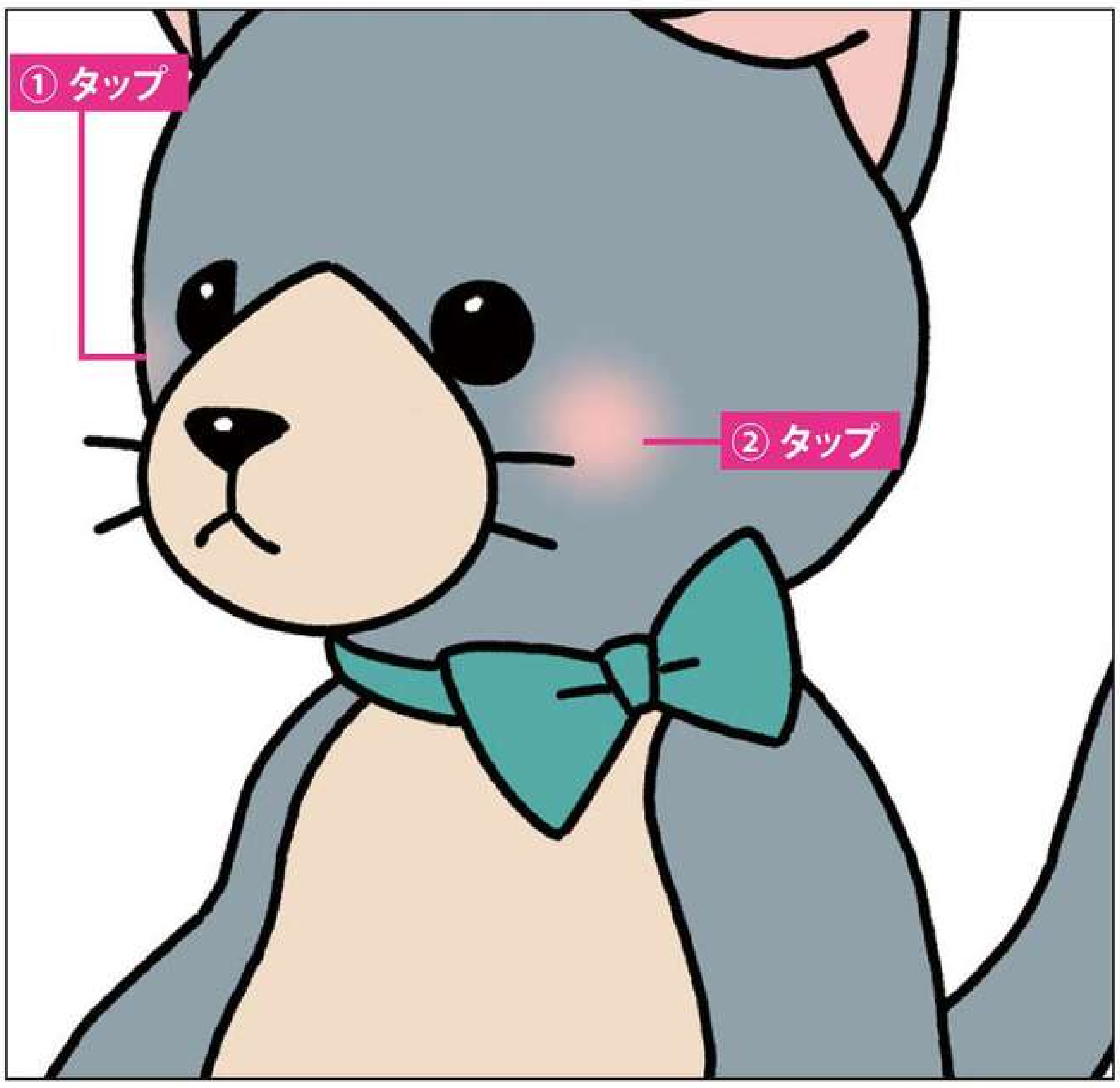
5

[ツールプロパティ]パレットで図のように設定します。



6

頬の部分を塗り終えたら完成です。



Chapter 6-05

ファイルを保存しよう

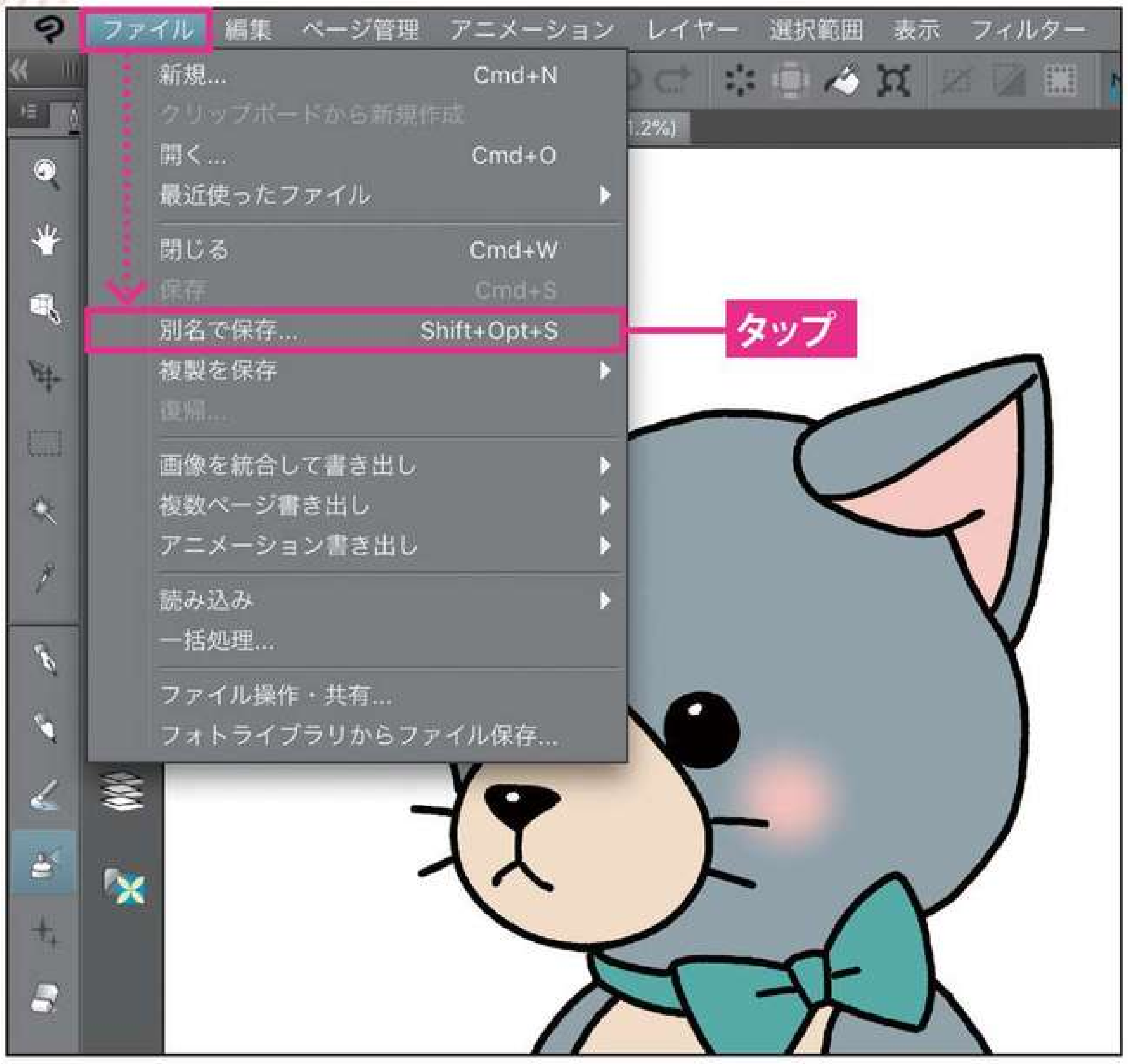
iPad版のCLIP STUDIO PAINTで作成したファイルの保存方法と、クラウドにアップしてPCでも共有できるようにする方法を解説します。

Before no file　After no file

Step 01 ファイルを保存する

1

[ファイル]メニュー→[別名で保存]の順にタップします。



2

[別名で保存]ダイアログが表示されます。ファイル名や種類(保存形式)を設定して保存をタップします。
使用している端末にファイルが保存されます。



Memo

保存したファイルは次回開く際に追加されます。

Step 02 保存したファイルを開く

1

［ファイル］メニュー→［開く］の順にタップします。



2

［開く］ダイアログが表示されます。
該当のファイルをタップして選択し、［開く］ボタンをタップします。



3

指定したファイルが開きます。



Hint

ファイルを管理する

保存したファイルの削除や複製をしたい場合は、［ファイル］メニュー→［ファイル操作・共有］の順にタップしてダイアログを表示します。
一覧から該当のファイルをタップして選択し、実行する操作のボタンをタップします。



Step 03 クラウドにアップして共有する

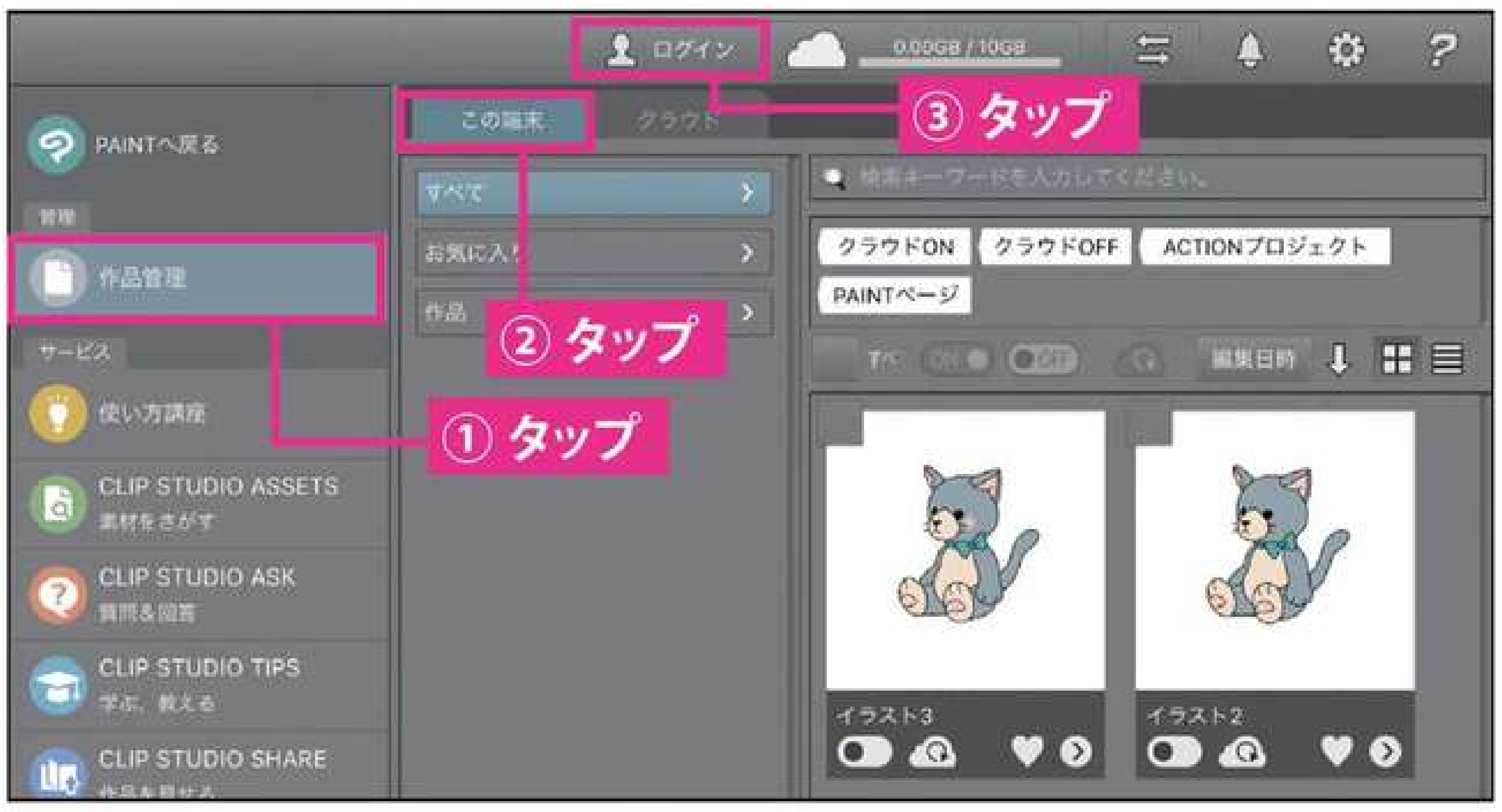
1

［CLIP STUDIO］アイコン をタップします。



2

画面が切り替わり、［作品管理］の［この端末］タブをタップすると、iPadに保存されているファイルが右側に表示されます。
クラウドにアップするために［ログイン］をタップします。



3

CLIP STUDIO アカウントに登録したときのメールアドレス、パスワードを入力し、［OK］ボタンをタップします。

> **Memo**
> アカウントを登録していない場合は、登録をしてから行いましょう（p.13参照）。
> PCでも同じファイルを使用する場合は、PCと同じアカウントでログインします。



4

ログインすると、アカウント名とデータの使用量が表示されます。
クラウドにアップしたいファイルをタップして選択し、［ON］をタップします。



5

同期を確認するダイアログが表示されるので、[OK]ボタンをタップします。



6

同期が完了すると、クラウドアイコンが青に変わります。



7

[クラウド]タブをタップすると、クラウドにアップしたファイルが表示されます。
これで、PCでも使用できるようになります。



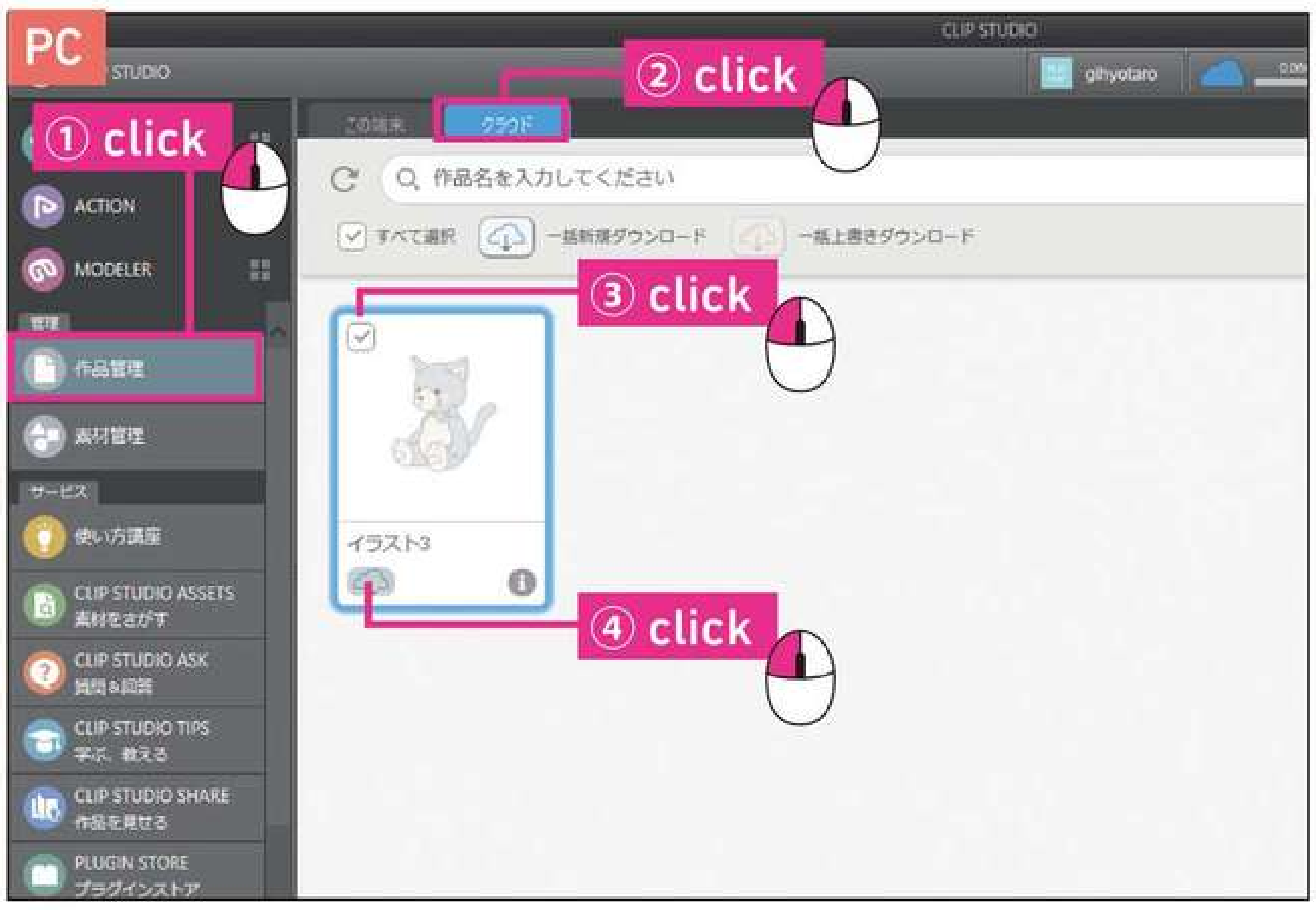
Memo

[PAINTへ戻る]をタップすると、[CLIP STUDIO PAINT]画面に戻ります。

Step 04 共有したファイルを利用する

1

PC版の[CLIP STUDIO]画面を開き、[作品管理]→[クラウド]の順にクリックします。iPad版でクラウドに同期したファイルを選択し、[ダウンロード]アイコン をクリックします。

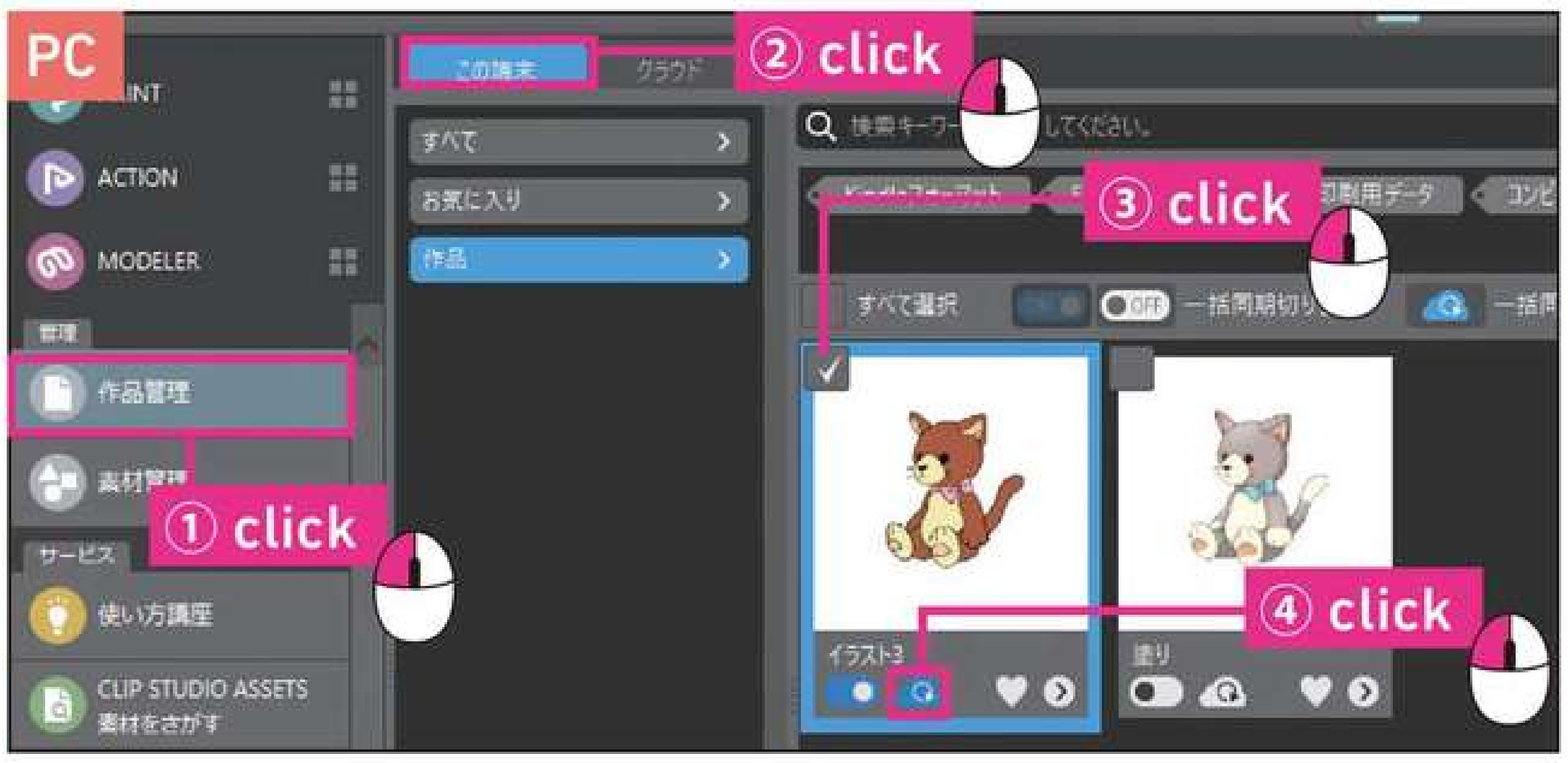


Memo

PCでも同じファイルを使用する場合は、同じアカウントでログインします。

2

PCで色を変えるなどの編集をしたら、[作品管理]→[この端末]タブでファイルを表示します。
該当のファイルを選択し、[いますぐ同期]アイコンをクリックします。



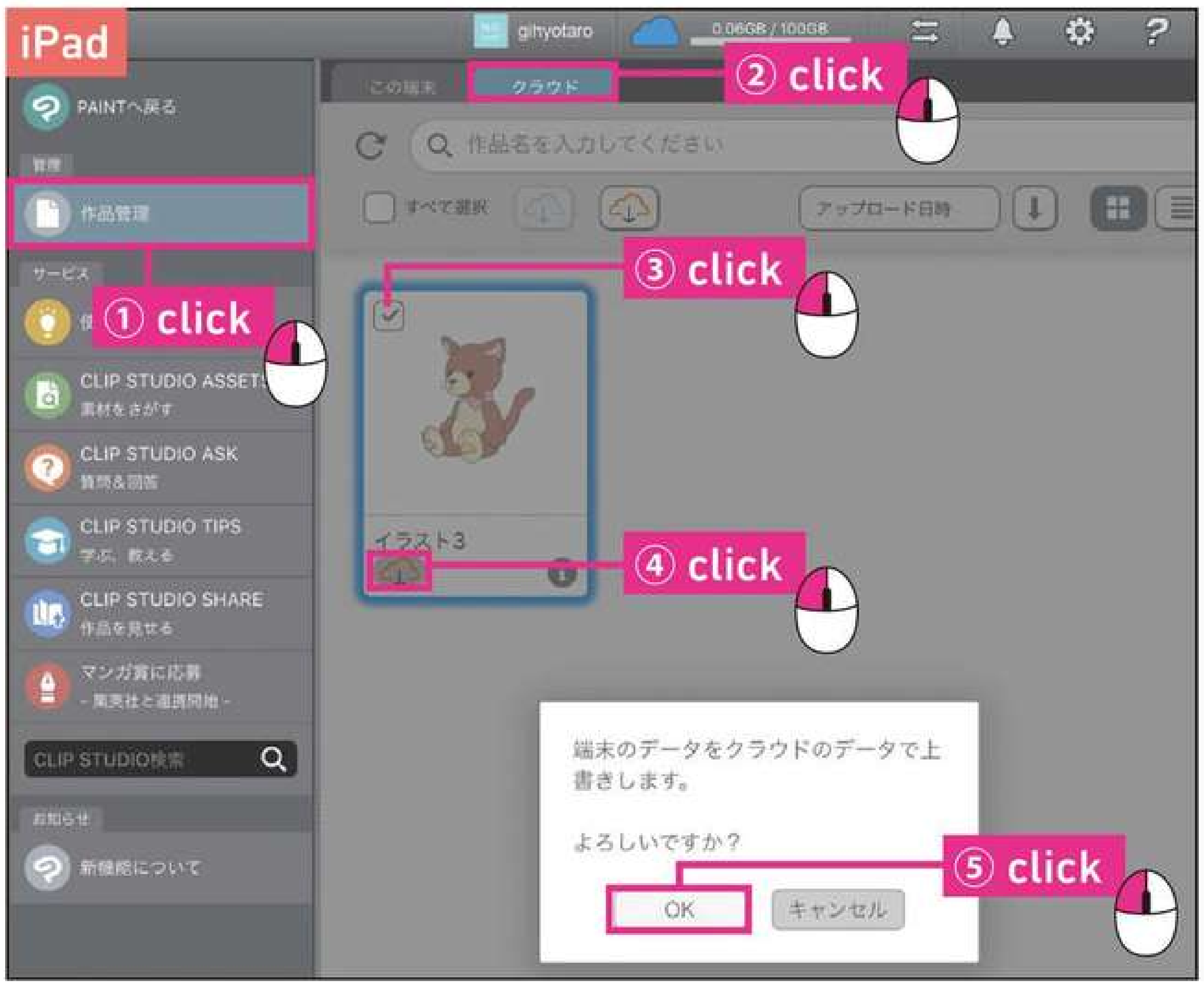
3

[クラウド]タブをクリックすると、同期されていることが確認できます。



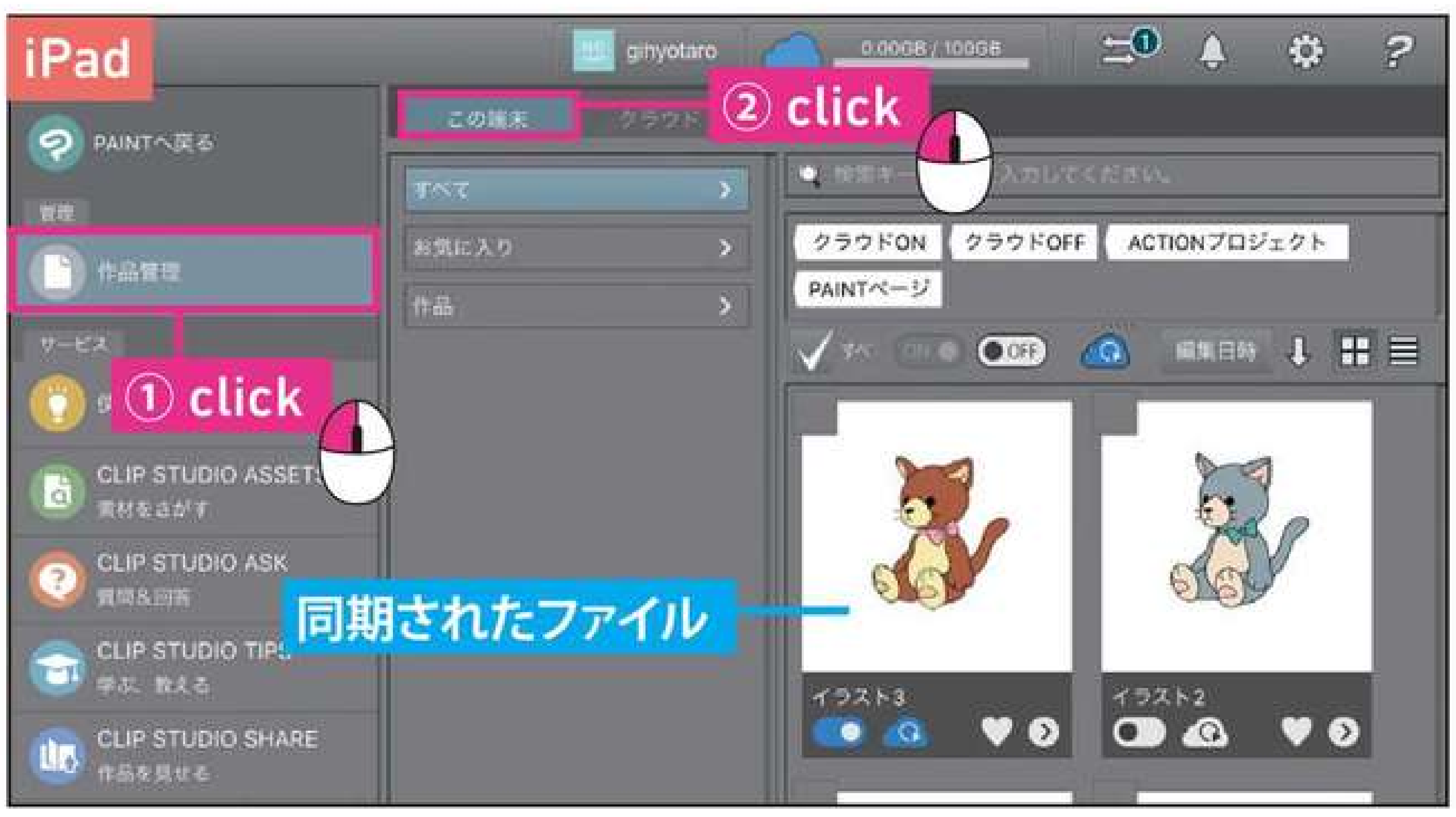
4

iPad版の[CLIP STUDIO]画面を開き、[作品管理]→[クラウド]タブの順にタップします。
該当のファイルを選択し、[ダウンロード]アイコン をタップします。
ファイルの上書きを確認するダイアログが表示されたら、[OK]ボタンをタップします。



5

[作品管理]→[この端末]タブの順にタップします。
PCで編集したファイルが同期されていることが確認できます。



索引

英字

あ行

か行

さ行

た・な行

は行

ま・や・ら行

Profile

24 にじゅうよん

徳島県出身、東京都在住のイラストレーター。
書籍の装画や挿絵、ソーシャルゲームのイラストなどのお仕事をしています。
女の子や可愛らしいモチーフを描くのが好きです。

COVER & BOOK DESIGN
神永愛子（primary inc.,）

LAYOUT
株式会社トップスタジオ

EDIT
最上谷栄美子

PRODUCTION COOPERATION
株式会社セルシス

＊お問い合わせについて＊

本書に関するご質問については、下記の宛先にFAX もしくは書面、本書Webページの「お問い合わせ」よりお送りください。
電話によるご質問および本書の内容と関係のないご質問につきましては、お答えできかねます。あらかじめ以上のことをご了承の上、お問い合わせください。
ご質問の際に記載いただいた個人情報は質問の返答以外の目的には使用いたしません。また、質問の返答後は速やかに削除させていただきます。

〒162-0846　東京都新宿区市谷左内町21-13
株式会社技術評論社　書籍編集部
「CLIP STUDIO PAINT PROからはじめよう！」質問係
FAX番号：03-3513-6183
本書Webページ：https://gihyo.jp/book/2019/978-4-297-10448-1/

技術評論社Webサイト　https://gihyo.jp/book

CLIP STUDIO PAINT PROからはじめよう！［Windows & Mac対応］

2019 年 3月 29日　初版　第1 刷発行

著　者／24（にじゅうよん）
発行者／片岡 巌
発行所／株式会社技術評論社
東京都新宿区市谷左内町21-13
電　話／03-3513-6150（販売促進部）　03-3513-6166（書籍編集部）
印刷・製本／大日本印刷株式会社

定価はカバーに表示してあります。

ISBN978-4-297-10448-1 C3055
Printed in Japan

Gihyo Digital Publishing
https://gihyo.jp/dp

本コンテンツは，Gihyo Digital Publishing において，
電子データとして再発行されたものです。

電子初版発行日　2019 年 03 月 15 日
最 新 版 発 行 日　2019 年 03 月 15 日
電子版ISBN 978-4-297-10449-8


CLIP STUDIO
PAINT PRO から
はじめよう!
24 著
CLIP STUDIO PAINT PROで楽しく描こう!
サンプル
ダウンロード